

- 知(ち・菱屋/鎌田) → 一窓(いっそう・鎌田かまた、心学者) D 1 1 7 8  
 知(ち;変名・三条西) → 季知(すえとも・三条西/西三条、廷臣/尊攘) B 2 3 2 9  
 致(ち・秦) → 致(いたす・秦はた、商家/国学) K 1 1 5 6  
 雉(ち・宮沢) → 雲山(うんざん・宮沢みやざわ、儒者/詩人) B 1 2 1 5  
 癡(ち・三宮/田能村) → 直入(ちよくにゅう・田能村、絵師) K 2 8 3 2  
 知愛(ちあい・岡見) → 知愛(ともなる・岡見おかみ、藩士/地誌) Q 3 1 1 0
- N2822 **千秋**(ちあき・長島ながしま、) 1710-1771 62 京の歌人;烏丸光栄門、大坂住、  
 [千秋(;名)の字/号]字;太沖、号;蘆隠
- 2801 **千秋**(ちあき・横井よこい/本姓;平、時諄男) 1738-1801 64 母;玉置直連女、尾張名古屋藩士、  
 1758早世の兄の継嗣;寄合、小姓/歩行頭/新番頭/書院番/用人;藩の重役/1792致仕、  
 国学:田中道麿門・1792本居宣長門、宣長の著作を刊行;本居学の普及、城南の古渡に隠棲、  
 1754潘山「しぐれの碑」入、1787「白真弓」89「古今神道類聚鈔」99「詩歌論」著、  
 「歌詩問答」「天真中詞」「木綿苑家集」著、本居大平「八十浦の玉」中巻;16首入、  
 [小垣内のさゆりの花の項傾うながし物思ふらし愛はしきつまのこ](八十浦;382/寄草)、  
 [千秋(;号)の幼名/名/通称/別号]幼名;金吾、名;時広/宏時/千麿/長秋、  
 通称;吉平/十郎左衛門/田守、別号;木綿苑ゆうぞの、法号;大得院
- M2858 **千秋**(ちあき・佐藤さとう、) ? - 1829 備前児島郡の生/歌人;香川景樹門、国学者、  
 京の近衛家に出仕、  
 [千秋(;名)の通称] 九八郎/主馬
- M2805 **千秋**(ちあき・泉いづみ) ? - 1837 越後蒲原郡の商家;円まど(米商/国学/歌人)の弟、  
 [千秋(;名)の通称] 新五兵衛
- M2810 **千秋**(ちあき・今泉いまいづみ、千春の長男) 1809-1900 長寿 92歳 肥前佐賀の歌人、郷土史家、  
 筑紫琴;父門、  
 [千秋(;名)の通称] 弥次郎
- B2801 **千秋**(ちあき・大石おおい) 1811- 1868 58歳 伊豆韮山の国学/歌;大石千引ちびき・足代弘訓門、  
 [楽しさはうなみはなりのむかしにもかはらで春のけふは来にけり]、  
 (甲寅の春たちける日よめる;短冊)、  
 [千秋(;名)の字/通称/号]字;順和、通称;清蔵、号;梅嶺/鶯巢園
- L2875 **千秋**(ちあき・阿部あべ、梅内祐訓2男) 1811-81 71 陸奥盛岡南部藩の奥医阿部蔵治家を継嗣、  
 御新番組頭/各地代官/御蔵奉行/勘定吟味役を歴任、1881(明治14)没、  
 国学;実父梅内祐訓門/歌・数学・篆刻;斎藤昌風(文平)門、俳諧;才馬門、  
 [千秋(;名)の別号/字/通称/号]別名;盈億、字;子恭、通称;大治郎、号;塞馬
- L2850 **千秋**(ちあき・太田おた) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [蚊遣火に折りたく頃は山里の門のむら杉もとつ葉もなし](大江戸倭歌;夏596)、  
 [山里は笥の水の一筋をわくるとなりもはるかなりけり](同;雑1730/山家隣)
- N2879 **千秋**(ちあき・吉永よしなが/本姓;藤原、直雄なおたけ[秀俊]男) 1818-1904 87 肥後熊本の神職、  
 藤崎八幡宮社司;13代神官;父を継嗣、国学・故実;長瀬真幸門/国学・歌;中島広足門、  
 神道;林有通(桜園)門、画人;福田太華門、維新後;権中講義、  
 歌;[大詢院五十回忌追悼五十首](熊本7代藩主細川治年追悼)入(父秀俊[直雄]と)、  
 [いつしかと秋もふけ野の村時雨ふりしむかしのしのぼるゝかな];  
 (大詢院五十回忌追悼/秀和名)、  
 [千秋(;名)の初名/通称/号]初名;秀和、通称;道麿/兵衛/紀伊/美濃守、  
 号;賢木園/春翁
- N2872 **千秋**(ちあき・山原やまはら、) 1824-1899 76 伊勢松坂の俳人;神風館15世為田只青しせい門、  
 国学に通ず/歌も能くす、初め朝熊岳野間家(万金丹本舗)の番頭/のち俳人、  
 [千秋(;名)の号]一葉庵/春曙亭/仁風廬/風外子/得水/千安芸

- M2824 **千秋**(あき・大伴おとも、旧姓;加藤/本姓;高師連)1834-1902<sup>69</sup> 三河八名郡賀茂村の大伴神社神官、  
 国学;平田鉄胤門、尾張一宮の真清田神社宮司、書家、  
 [千秋(;名)の別名/通称]別名;来目雄、通称;監物/鷹之助
- 2800 **千秋**(あき・田所たどころ、三輪みわ彦三郎男)1836-1911<sup>76</sup> 田所吉左衛門秋次の養子、姫路藩士、  
 国学;秋元安民門、歌;本居豊穎とよかい門、尊攘運動;1863勤王党河合総兵衛に付き上京、  
 1864藩内尊攘葉肅清の甲子の獄で蟄居謹慎/維新後は弾正吏/生田社宮司、  
 「垣内の小草」著、  
 [千秋(;名)の幼名/通称/号]幼名;常弥、通称;吉左衛門、  
 号;御年ぎよねん/鹿水ろくすい/日米道人/長峽山人/静巖舎/森陰舎
- 2833 **千秋**(あき・吉村よしむら、吉村千春ちはる男)1838-63<sup>早世26歳</sup> 福岡藩士、歌人;  
 6歳(1843)で和歌数百首を誦誦/7歳で歌作、国学者:1857諸国遊学/1859(22歳)家督を継嗣、  
 「古語拾遺考証」「座右漫録」/1861「安斎著述目録」著、  
 [千秋(;号)の幼名/通称]幼名;晋太郎/春雄、通称;茂一郎
- 2834 **千秋**(あき;号・松田まつだ、通称;幸之助)1838-62<sup>早世25</sup> 江後期歌人:橘冬照門、「耳順賀歌集」入、  
 1863「松田千秋家集」(;妹とせ子序)
- M2870 **千秋**(あき・菅野すがの、本姓;菅原)1847-94<sup>48</sup> 陸奥仙台藩士/国学・神道;平田鉄胤門、  
 維新後;教導職/陸奥名取郡の館腰たてし神社祠官、  
 [千秋(;名)の別名/通称]別名;道明、通称;省吾/清之丞
- 千秋(あき・吉田) → 謙斎(けんさい・吉田よしだ、藩士/詩文) I 1 8 9 0  
 千秋(あき・中山) → 素定(もとさだ・中山なかやま/阿刀、神職/国学) K 4 4 8 3  
 千秋(あき・浜田) → 千束(ちづか・浜田はまだ、大庄屋/国学) N 2 8 3 1  
 千秋(あき・玉田) → 永直(ながなお・玉田たまた、国学者) N 3 2 8 1
- 2835 **智庵**(ちあん・烏田からすだ/修姓;田でん、名;貫通、正通[智庵]男)1689-1768 萩藩医:父を継承、  
 儒;山県良斎門/医;父の高弟岡田氏門/上京し浅井周迪門、本草;松岡玄達門、薬園役、  
 玄珠と防長の物産調査、「周防産物名寄」「防州山口築山屋形盛衰記」1737「両国本草」著、  
 [智庵(;号)の通称/別号]通称;留之允とめのすけ、別号;智璞ちはく、法号;貫通軒大円智庵居士
- 2836 **雉庵**(ちあん) ? - ? 伯耆の雲水僧/俳;1781-2初懐紙入、83維駒「五車反古」入  
 [誰がためぞ築地ついでを垂るる花桜](五車反古;巻首149)
- 池庵(ちあん) → 守部(もりべ・橋、歌人) 4 4 2 8  
 池庵(ちあん) → 玄竜(げんりゅう・佐々木、書家/幕府儒官) M 1 8 8 7  
 知庵(ちあん) → 岌興(ききゅう・法諱、浄土僧) M 1 6 5 5  
 智庵(ちあん) → 築山(ちくざん・本間ほんま/土門、儒者) B 4 8 2 0  
 恥庵(ちあん) → 晋宝(しんぼう・菅かん/菅波、茶山弟/儒/詩) 2 2 7 9  
 恥庵(ちあん) → 研介(けんかい・岡おか、蘭医) E 1 8 2 3  
 茅庵(ちあん・永田) → 徳本(とくほん・永田/長田ながた、医者) L 3 1 4 5  
 置安斎惟精(ちあんさいせい) → 宗湛(そうたん・神屋/神谷/紙屋、商家/茶人) C 2 5 4 5  
 痴庵主人(ちあんしゅじん) → 月痴(げつち・松本、蔵書/窮民救済) H 1 8 2 5  
 知一(ちいち・荻野) → 荻野検校(おぎのけんぎょう、鍼医/平曲) 1 4 4 4  
 知一(ちいち・高橋) → 知一(ともかず・高橋たかはし/橋都、国学) V 3 1 6 4  
 知一郎(ちいちろう・伴) → 資養(すけやす・伴ばん、商家/歌人) J 2 3 0 1  
 致一(ちいつ) → 古竹(こちく・聴松庵2世、俳人) F 1 9 5 8  
 治胤(ちいん・根本) → 胤満(たねまる・根本/神服/平、国学者) G 2 6 4 8  
 ちう(・上田) → 重女(じゅうじょ・上田うえだ、大西/長沢、歌人) N 2 1 4 9  
 知雨亭(ちうてい) → 也右(やう・横井、藩士/俳人/詩歌) 4 5 1 7
- 2839 **千疇**(知宇禰/千有年ちうね・山田やまだ、山田信房男)1812-1876<sup>65</sup> 尾張名古屋の国学者、  
 歌;木村千斎門/国学;植松茂岳門、尾張藩士;用人支配/藩校明倫堂助教、開塾;門弟千余名、  
 「俗語弁」「椋園叢書」「椋園詠草」「椋園雑記」「いつまで草」「八重葎」「八千種」「祝詞集」、  
 「尾張神明帳集説」「尾張本国帳神社座地考」外著多数、友文ともぶみの師、直臣[直躬]の父、  
 [千疇(;名)の幼名/別名/通称/号]幼名;金次郎、別名;方守/温知/守人、  
 通称;鉄次郎/鉄五郎/数右衛門/数馬/右門/知宇禰/千有年、

号; 椋園むくぞの/荻垣内/樞園/好古関、諡号; 可美道広根眞直大人

- M2882 **千畝**(ちうね・玉椿たまかじ、象谷ぞうこく[敬造]男)?-1882没 讃岐高松の漆工; 父門/彫刻師、  
玉椿たまかじ斯行これゆき(拳石)・雪堂・籐樹とうしゃ(九江)の兄(兄弟すべて彫刻師)、  
[千畝(;名)の通称/号]通称; 理吉/敬造(;代々の称)、号; 槐庵/蔵黒
- M2879 **千畝**(ちうね・高島たかばたけ、号; 麦の舎[; 養母の号]) 1847?-1916 70or77 河内美江郡横枕村の生、  
京の高島式部の養子; 歌人、常陸水戸・阿波徳島住
- 2837 **ちうれ**(姓不詳) ? - ? 平安中期歌人、「拾遺抄」578入  
[年を経てはらふちりだにあるものをいまいくよとてたゆむなるらむ](拾遺抄; 十578)
- 2841 **痴雲**(ちうん・古森こもり、名; 厚保、厚信男) 1790-1858 69 伊勢山田の書家/山田羽書の取締役、  
画; 西岡邦教門/南画; 小俣蠮庵門、篆刻/俳諧、「米の由来」著、俳人省吾(古森厚光)の弟、  
[痴雲(;号)の字/通称/別号]字; 永言、通称; 保之丞/善右衛門/周蔵/収蔵/宜三郎/善佐、  
別号; 宜三小雲
- 智蘊(ちうん; 法諱・五岑; 道号) → 親当(ちかまさ・蜷川新右衛門、幕臣/連歌) 2 8 0 6  
智雲(ちうん; 号) → 光盛(こうせい; 法諱・啓巖坊、真言僧) K 1 9 0 5  
智運[雲]院(ちうんいん) → 日晴(にっせい; 法諱・春道、日蓮僧) E 3 3 6 7  
痴雲(ちうん・水野) → 忠徳(ただのり・水野みずの、幕臣/外交) Q 2 6 4 6  
痴雲(ちうん・生野) → 臨犀(りんさい・生野いくの、儒者/教育) K 4 9 3 0  
癡雲(ちうん; 字) → 照忍(しょうにん; 法諱、本願寺派僧/音韻) L 2 2 2 9  
千枝(ちえ・河内) → 荻子(おぎこ・河内かわうち、歌人) D 1 4 9 0  
千重(ちえ・齋藤) → 瘡(しげる・齋藤さいとう、国学者) O 2 1 6 0
- 2842 **知影**(ちえい; 法諱、号; 独覚/独鶴) 1762-1825 64 讃岐の生/真宗本願寺派京の光隆寺住職、  
梵唄; 西光寺賢従門、1789魚山に入; 理覚院知観門、声明帖「唄策」編纂、  
1824「独鶴詩集」、「魚山余響」著
- 2843 **智栄**(ちえい; 法諱) ? - ? 江中期曹洞僧; 江戸牛込竜門寺5世、権大僧正/法印、  
1752「江戸小石川牛天神略縁起」著
- 千穎(ちえい・別田わけだ) → 千穎(ちかひ・別田わけだ、歌人) 2 8 5 7  
地栄(ちえい・福島) → 地栄(つちひで・福島ふくしま、商家/歌人) G 2 9 2 4  
智英(ちえい; 字、智英院) → 日明(にちみょう; 法諱・玄修院、日蓮僧) D 3 3 2 5  
知栄(ちえい・桜井) → 知栄尼(ちえいに・桜井、歌人) L 2 8 4 3  
知栄(ちえい・森本) → 知栄(ともなが・森本もりもと、商家/歌人) W 3 1 7 3  
知永(ちえい・村上) → 旭山(ぎよくざん/きよくざん・村上、和算家) O 1 6 9 8  
知英(ちえい・安藝) → 文江(ぶんこう・安藝あき、材木商/俳人) F 3 8 1 8  
知恵伊豆(ちえいず; 綽名) → 信綱(のぶな・松平伊豆守、藩主、老中) C 3 5 1 0
- L2843 **知栄尼**(ちえいに; 法名・桜井、桜井要道としみち女) 1724-1813 90歳 父; 旗本近藤家の信濃伊那郡代官、  
知栄尼の幼名; 藤ふじ、歌人; 父門/依田正純・澄月・加藤千蔭・村田春海門、  
信濃飯田藩主堀親審ちかかげ夫人成子なりこの歌道の師、桜井要親としちかの母、  
「桜井知栄尼詠草」著
- 2844 **千枝子**(ちえこ・多田ただ、法号; 香習院阿実) 1743-1834? (92歳) (1830没説も) 江戸歌人; 加藤千蔭門、  
築地本願寺内眞光院住職多田賢珠の妻、浄立寺天華冷然の妹/善仁寺了蘊の母、  
村田春海らと隅田の新梅園に遊んだ折の歌で有名、出家号; 阿実尼、  
家集「気布梨けりの数恵すゑ」、「千枝子家集」著、旅日記「ひと夜の家つと」「相模へ」著
- N2857 **千重子**(ちえこ・松山まつやま、田中大秀おひで[1777-1847]女)?-1868頃没 飛騨高山の歌人; 父門、  
国学者の松山長年と結婚
- N2882 **千枝子**(ちえこ・脇坂わかさか、) 1825-91 67 信濃飯田の真宗大谷派眞光寺住職惠州えしゅう(1815-59)妻、  
歌人; 岩沢幸年ゆきとし門、国学; 本居内遠門(夫と同門)、  
[千枝子(;名)の通称/号]通称; ヨシ子、号; 秀芳しゅうほう
- 智慧光(ちえこう; 法名) → 良晡(りょうぎょう; 法諱、浄土僧; 白旗流祖) H 4 9 0 7
- 2845 **千枝**(ちえだ・青木あおき、宗茂男) 1820-97 78 近江彦根藩士/国学; 長野義言門/皇学; 山本昌蔭門、  
井伊直弼に近侍/1847家督; 54藩校弘道館国学方/維新の時は勤王論主張、

「蝦手舎集」「千代の古道」著、「正法眼蔵和語梯拾要」校、  
[千枝(；名)の幼名/別名/通称/号]幼名；定吉、別名；頼敬/頼方/真澄/千澄、  
通称；定吉/平輔、号；蝦手舎かえでのや

- N2815 **千族**(ちえだ・中里なかざと、)1831-1915<sup>85</sup> 下野宇都宮二荒山神社祠官、国学・歌；吉田敏成門、  
1868第1次宇都宮城攻城戦に新政府側の旧藩主戸田忠恕を身支度させる、のち社殿焼失、  
1877新政府により社殿再建、「初学和歌詠方手引(てにをはのしるべ)」著、  
[千族(；名)の別名/字/通称/号]別名；好福よしみ/好長、字；徳卿、通称；松三郎、  
号；有緑園/琳泉/抱古/ハツ花/天真堂/臼松斎一成  
千枝(ちえだ・猪熊) → 夏樹(なつき・猪熊いのかま、神職/国学/歌) P 3 2 1 4  
知恵第一の五郎左衛門(ちえだいちのごろうざえもん) → 恒隆(つねたか・望月もちづき、藩士/民政) C 2 9 3 5  
千枝惟久(ちえだこれひさ) → 惟久(これひさ・巨勢こせ、絵師) O 1 9 7 5
- L2804 **千枝有竹**(ちえのありたけ) ? - ? 狂歌：1785「後万載集」3首入；  
[鳴く声のほそうてながく聞ゆれば棹鹿とこそ人のいふらめ]
- 2802 **智恵内子**(ちえのないし・渡辺すめ、幾地内子いくぢのないし、元木網もとのもくあみの妻) 1745-1807<sup>63</sup> 閨秀狂歌師、  
スキヤ連、ひまの内子・世話内子と共に[三内子]と称される、  
1782橘州「若葉集」31首入/1783赤良「万載集」入・94元木網「新古今狂歌集」30首入、  
[通りますと岩戸の関のこなたより春へふみ出すけさの日の足](後万載集；春)  
(通りますは旅人が関所を通るときの挨拶)
- L2806 **千枝鼻元**(ちえのはなもと) ? - ? 上州の狂歌作者：1787「才蔵集」入；616
- N2899 **智縁**(ちえん；法諱/聖人) ? - ? 平安期僧；聖人、歌；1165清輔[続詞花集]入、  
[智縁聖人伯耆はきの大山に参りける いでなんとしけるあか月の夢にみえける歌、  
山深く年ふる我もあるものをいづちか月の出でてゆくらん](続詞花；釈教473)
- 2847 **智淵**(ちえん；法諱) ? - ? 江中期天台叡山僧；安楽院の慈泉(覚道)門、  
1744「浄土十要弥陀経要解随聞」、「智淵私記」著  
知円(ちえん；字) → 月性(げつしょう；法諱、真宗僧/海防論) E 1 8 7 9  
知焉(ちえん・久米) → 牡年(暮年ぼねん・久米くめ/高木、俳人) E 3 9 7 6  
知遠(ちえん・池内) → 蓬輔(ほうすけ・池内、医者/種痘啓蒙) B 3 9 9 6  
智円(智演ちえん) → 澄円(ちようえん、浄土僧) 2 8 4 6  
智円(ちえん；法諱・性天) → 性天(しょうてん；道号・智円、曹洞僧) L 2 2 0 7  
智遠(ちえん；字) → 敬長(けいちょう；法諱・智遠、天台僧) G 1 8 3 7  
茅園(ちえん・大塚) → 嘉樹(よしき・大塚おつか蒼梧、故実家) D 4 7 0 3  
致遠(ちえん) → 致遠(ちえん；法諱、真宗本願寺僧) 2 8 5 2  
致遠(ちえん・原) → 在中(ざいちゅう・原/平、絵師；原派祖) 2 0 9 5  
致遠(ちえん・山田) → 三川(さんせん・山田やまだ、儒者/詩人) G 2 0 1 7  
致遠(ちえん・巻) → 菱湖(りょうこ・巻まき/館、書家) H 4 9 4 2  
致遠(ちえん・奥村) → 六石(りくせき・奥村おくむら、藩士/儒者) 4 9 7 7  
致遠(ちえん/まさとお?・何) → 礼之(のりゆき・何[か]、洋学者) G 3 5 1 7  
致遠(ちえん・江幡) → 通静(みちきよ・江幡えぼた、儒国学/歌人) I 4 1 2 2  
致遠(ちえん・中山、) → 千鶴(ちづる・中山なかやま、商家/歌人/書) N 2 8 1 8  
致遠(ちえん・伊古田) → 檜陵(ゆりりょう・伊古田いこだ、産科医) E 4 6 0 2  
致遠斎(ちえんさい・杉山) → 復堂(ふくどう・杉山、儒者/藩政参画) B 3 8 6 1  
知園斎(ちえんさい) → 百洲(ひやくしゅう・江川えがわ、俳人) E 3 7 5 5  
致遠斎主人(ちえんさいしゅじん) → 海南(かいなん・藤野ふじの、儒/蘭学) H 1 5 7 6  
致遠堂(ちえんどう) → 逸斎(いっさい・小河おがわ、藩士/詩) H 1 1 1 9
- 2848 **遅桜**(ちおう) ? - ? 俳人；1690北枝「卯辰集」4句(49/123/395/423)入  
[何人なにひとぞもとゆい払ふ花の寺](卯辰集；上123、もとゆい払ふは出家する意)
- 2849 **智応**(ちおう；法諱・等空とうくう；字、関森せきもり文溪男) 1803-1857<sup>55</sup> 武州榛沢郡三本村の僧、  
1814江戸で真言律僧；湯島靈雲寺円海門/内典；智定門、1831靈雲寺蓮光院の住職、  
武州榛沢郡菅沼村慶宝寺を兼務、1846「本具三宝説」、ペリ-来航時に1853「護国策論」著、  
1853「武家必用童形用心」、「子孫繁昌心得艸」「天下泰平御祈禱護摩講趣意」著、

[智応等空の号] 二観堂/観々堂

- 2850 **知翁**(ちおう・阿部あべ、知栄男) 1807-72 66歳 陸中盛岡の和算家;叔父則敏門/盛岡藩士;算官、江戸勤番中に藤田貞升門、1832「綴術全解四条」41-44「撰題答術解」46「環円隔二円廉術」、1846「検見作法書」、62「直梯内側円適等集」67「側円適等新考集」、「初学入門」外著多数、[知翁(;)号]の通称/別号]通称;牛太郎/九兵衛、別号;数翁

智旺(ちおう;法諱・東嶺) → 東嶺(とうれい;道号・智旺、臨濟僧) I 3 1 4 3

痴翁(ちおう・田中) → 訥言(とつげん・田中、土佐派絵師/狂歌) O 3 1 4 6

痴翁(ちおう) → 竹洞(ちくどう・中林、絵師・詩歌) D 2 8 6 0

痴翁(ちおう・新渡戸) → 維民(これたみ・新渡戸にとべ、藩士/兵学) O 1 9 4 8

痴王(ちおう) → 玄妙(げんみょう;法諱、真宗本願寺派僧) M 1 8 4 5

智翹(ちおう・一韓;道号) → 知翹(ちこう・一韓、臨濟五山僧/詩) E 2 8 1 0

恥桜居士(ちおうじ) → 眞道(まみち・津田つだ、洋学者/法学) K 4 0 1 2

稚桜舎(ちおうしゃ) → 巖男(いざお/よしお・広瀬、商家/国学者) F 1 1 7 1

地黄坊樽次(ちおうぼうたるつぐ) → 樽次(たるつぐ・地黄坊、茨木春朔、医者/酒豪) T 2 6 0 2

- 2851 **池屋**(ちおく・大窪おおくぼ、名;光茂/子承) 1792-1854 63 常陸多珂郡大久保村の医者;南涯門、1841「待宵の記」、1847「弘化四年難船記」49「朔幣さつべい考」、「花の介川の長歌並調」、[池屋(;)号]の通称/別号]通称;正作、別号;天泉

- M2867 **乳緒子**(ちおこ・芝原しばはら、) 1816-1889 74 伊勢津の米問屋養嗣の芝原春道(1809-60)の妻、国学・歌人;富樫広蔭門(;)夫と同門)

- 2852 **致遠**(ちおん;法諱) 1696 - 1761 66歳 近江栗太郡大橋村の真宗本願寺派慶崇寺住職、宗乗;法霖門、1743安居の講師、性均と宗義上対立、1751「真宗教義綱要」、「真宗十義門」著

- 2853 **智穩**(ちおん;法諱・安竜あんりゅう;道号) ?- ? 1845存 曹洞僧、丹後周徳寺13世、1820-45「安竜智穩和尚語録」著

知音(ちおん・小槻) → 知音(ともおと・小槻おつき/壬生、廷臣/歌) P 3 1 2 7

智音院(ちおんいん) → 日濤(にっとう;法諱・海雄、日蓮僧) F 3 3 4 6

- N2826 **千賀**(親ちか・野口のぐち、漢方医松村[邨]春岱長女) 1847-1917 71 大坂難波の生、画;石垣東山門、1862(16歳)父と北陸に画修行巡遊;福井藩絵師島田雪谷門;途中父が客死、絵師・南画;貫名海屋派:角鹿東山・島田雪谷・日根對山門、山水画に長ず;小蘋の号、維新後;1871(明治4)東京麴町で画業、詩歌人、1877(明治10)近江蒲生郡桜川村の商家(酒造業;十一屋)野口正章と結婚(夫も対山門)、1879(明治11)一家で甲府に移住;商家大木家と親交;野口家の商売にも携わる、夫正章はビール醸造業に失敗;野口家から廃嫡;1882一家で東京に移住、小蘋の画才が日本画復興運動に認められ関東南画の代表となる、東北・上州遊歴、宮内省御用/1889華族女学校画学嘱託教授/1904帝室技芸員/1907文展審査員、奥原晴湖とともに明治の女流南画家の双璧、下平霞舟の師、「美人雅集図」「富貴百齡図」「春秋山水図屏風」「青緑萬松遷館図」「溪山清趣図」外画多数、歌;[鴉のうみ]入、南画家の野口小蕙の母、

[千賀(;)名]の別名/字/号]別名;ちか子/親、字;清婉、画号;小蘋(しょうひん)/玉山

ちか(・小宮山) → 嫁々(かか・節松ふしまつ・管江妻、狂歌) 1 5 0 3

ちか(ちか・福田) → ちか女(ちかじよ・福田ふくだ、歌人) L 2 8 6 0

親(千賀ちか・大西) → 重女(じゅうじよ・上田うねだ、大西/長沢、歌人) N 2 1 4 9

親(ちか・座光寺) → 久(ひさ・座光寺ざこうじ、為忠女/為明妻/歌) J 3 7 6 6

知家(ちか・六条/藤原) → 知家(ともいえ・六条/藤原、廷臣/歌人) 3 1 5 9

- 2854 **親顕**(ちかあき・北畠きたばたけ/本姓;源、中院通勝男) 1603-30 早世 28 左中将北畠具房の継嗣、廷臣、1622左中将/27参議/30従三位、1616「南朝記」、26「職原抄愚註」著

- 2855 **親顕**(ちかあき・今大路いまおおじ/曲直瀬まなせ、親俊[玄淵]男/本姓;橘) 1673-1737 65 医者;典薬頭、式部大輔/従五下、幕府の医者、1686家督相続/1723官庫の書籍を校合、詩歌を嗜む、「商山年譜」「胎厥誌」「溝断五策」、1732「曲水宴詩歌」「指南総論」、37「元文日録」著、[親顕(;)名]の号]号;商山、法名;道三/玄朔(・曲直瀬まなせ)、法号;玄耆げんき

- 2856 **知哲**(ちかあき・横山よこやま、知愛男)?-? 江後期幕臣;旗本寄合、江戸飯田町麴木坂下住、  
「系図書写」著  
[知哲(;名)の通称] 鏗三郎じゅんざぶろう
- M2837 **親厚**(ちかあつ・川上かわかみ、)?-?文政1818-30頃没 薩摩鹿兒島藩士、国学者/歌人、  
[親厚(;名)の通称/号]通称;甚左衛門、号;桜谷
- M2843 **親章**(ちかあき・喜多きた、旧姓;飯田)1774-1840<sup>67</sup> 伊勢度会郡の喜多維親(1745-90)の養子、  
国学者;本居宣長門  
[親章(;名)の通称] 加治馬/隼人・勝五郎(養家の称)  
親敦(ちかあつ・松平/杉浦)→ 比隈満(ひくまろ・杉浦、神職/国学) 3 7 4 9
- 2857 **千穎**(ちかい・ちえい・別田わけだ:すべて稲作に因む偽作名)?-? 平安期歌人、990「千穎集」(家集)
- 2858 **智海**(ちかい;法諱) ?-?1265前没 天台延暦寺僧/法印、鎌倉期歌人、  
「万代和歌集」入、続古今806、  
[むらさきの雲の迎へを待つはなほ心のつきのはれぬなりけり](続古今集;八806)
- 2859 **智海**(ちかい;法諱・心慧しんえ;字、号;道照)?-1306 真言・律宗僧/密教;宥祥・円祐・元瑜門、  
戒律;忍性・憲静門、1296北条貞時改創の覚園寺の開山、「十住心論問題」「都法瑜祇私記」、  
「大日経住心品疏玄談」「両部大経教主事」著
- M2803 **千穎**(ちかい・石田いしだ、) ?-1822 若狭小浜藩士、国学/歌;本居大平・藤井高尚門
- 2860 **千穎**(ちかい・燕栗園えんりつえん/さぐりえん初世、姓;西村/西邨/大江)1776-1837<sup>62</sup> 伊勢山田の狂歌作者、  
妻;鹿都部真顔の養女/江戸住;四方側判者、国学者、  
1816「蘆荻集」25「乙酉百首」29「新玉帖」編、1836「剪綵百人一首」/「狂歌葦垣集」(48刊)著、  
「狂歌竜虎集」「狂歌三十六歌仙集」「江之島詣之記」著、燕栗園2世は千壽ちほぎが継嗣、  
[燕栗園の通称/別号]通称;桃斎、別号;雑体喰社ぞつたいざんしゃ
- M2881 **千穎**(ちかい・武田たけだ、旧姓;三好)1795-1867<sup>73</sup> 伊予新谷の国学者;本居内遠・村田春門門、  
伊予大洲藩士武田家の養子;家督嗣、「萩屋集詠草」(1832-3詠歌)、歌;[ひなのてぶり]入、  
近田八束編[藤の花ふさ]12首入、  
[もの学ぶ窓のともし火影更けて夜ぶかく積る竹の雪折れ]、  
[千穎(;名)の別名/字/通称/号]別名;垂穂(足穂)たるほ、字;維張、通称;助右衛門、  
号;美稲/萩屋はぎのや
- M2869 **千穎**(ちかい・下里しもさと/本姓;藤原/中臣、旧姓;鎌田)?-?1897頃没 伊勢松坂の国学者、  
神道;神祇伯白川家入門、松坂領神社総取締役、  
[千穎(;名)の初名/通称/号]初名;用光、通称;上総/伝右衛門、号;淵魚/不耀/若水/藍水
- N2871 **千穎**(ちかい・安田やすだ、長徳2男)1827-71<sup>45</sup> 紀伊和歌山の商家/国学者・歌人;本居内遠門、  
穂並ほなみの弟/穂末ほぜえの兄、  
[千穎(;名)の通称/号]通称;楠吉、号;木水
- N2863 **千穎**(ちかい・宮本みやもと、池臣男)1833-81<sup>49</sup> 丹後与謝郡の諏訪神社祠官;父を継嗣、  
国学者;足代弘訓門、  
[千穎(;名)の通称] 采女(代々の称)
- 千穎(ちかい・井上) → 淑蔭((よしかげ・井上、国学/戯作/歌) 4 7 0 5  
千穎(ちかい・角田) → 信道(のぶゆき・角田つのだ、国学者) J 3 5 2 2  
千穎(ちかい・和田) → 茂寛(しげひろ・和田わだ、国学者) a 2 1 1 0  
智快(ちかい;法諱・曇秀)→ 曇秀(どんしゅう道号・智快、臨濟僧) S 3 1 2 7  
智海(ちかい;法諱) → 興然(こうぜん・こうねん;法諱、真言僧) K 1 9 2 2  
智海(ちかい;法号) → 長景(ながかげ・安達あだち、幕臣/歌人) D 3 2 3 5  
茅海(ちかい・相馬) → 九方(きゅうほう・相馬/片山、儒者/詩) I 1 6 7 7  
茅海(ちかい・日根野) → 対山(たいざん・日根野ひねの/中原、絵師) K 2 6 1 0
- 2861 **智涯**(ちがい;法諱・深広しんこう;別法諱、号;自在道人)?-? 江中期河内出口の真宗蓮生寺僧、  
1764「唱道規矩」87「真宗行者掟目辨」著
- 2862 **智外**(ちがい;道号・鉄忍てつにん;法諱)?-? 江中期三河の曹洞宗妙昌寺住持、  
1750豊後横手の泉福寺の輪番、1751「古本大補惣裏打略記」著

- 智外(ちがい・禅利;道号)→ 禅利(ぜんり・智外;法諱、曹洞僧) N 2 4 2 8
- N2836 周家(ちかいえ・平松ひらまつ/大中臣、旧姓;川端) 1701-73 73 越前敦賀の神職;気比神社大宮司、  
1755(宝暦5)大祝を兼任、気比社家人家(川端3家・平松・石塚・石倉・宮内・嶋)の1、  
1740(元文5)京の青蓮院一品尊祐親王の命で「気比宮社記」を編纂;  
1759(宝暦9)他家の誹謗で一時京に滞在;「気比宮社記」編纂を継続;1761(宝暦11)完成、  
[周家(;名)の通称/号]通称;長太郎/木工助もくのすけ(平松家代々の称)、号;歩齋  
親家(ちかいえ・藤原) → 俊忠(としただ・藤原、1073-1123、廷臣/歌人) M 3 1 6 8  
智海大珠禅師(ちかいたいしゅぜんじ)→ 周璽(しゅうがく・厳中、臨濟僧) H 2 1 0 0
- 2864 親氏(ちかうじ・藤原ふじわら、親実男)?-? 鎌倉期廷臣;左中将/正四下、  
歌;1232兄成実[催の石清水若宮歌合参加;左方(;右近権少将兼因幡守)  
[君が代を祈れば神もなびくらむけふ木綿垂ゆふしでにかくる心を](石清水若宮歌合:85)  
親氏(ちかうじ・甘露寺/水無瀬)→ 兼成(かねなり・水無瀬/藤原、廷臣/歌/将棋駒製作) C 1 5 9 2
- N2885 知雄(ちかお・藤原ふじわら、) ? - ? 江前期;廷臣?、歌人、  
1682河瀬菅雄[麓の塵]30首入、  
[雲はまだ雪げながらに立つ春の今朝しもかすむ空ぞ長閑き](麓の塵;春7)
- 2865 親臣(ちかおみ・大西おおいし/本姓;秦) 1735-1806 72 山城稻荷社中社神主/のち下社神主、  
1782「稻荷社神号伝并後附十五箇条口授伝之和解」著
- M2831 親臣(ちかおみ・鬼丸おにまる、初名;兢) 1838-76 自刃 39 肥後熊本の神職;藤崎宮神官、国学;林有道門、  
維新後;熊本県庁に出仕/庖刀令に反発致仕/神風連に参加;1876敗戦後小林らと自刃
- 2866 親馨(ちかか・三浦みうら、別名;常親/通称;友八、坂内親陽男) 1803-81 79 会津耶麻郡漆村の儒者、  
藤樹学;祖父坂内親懿門/会津藤樹学の復興に尽力、会津藩士、1836「会津藤樹学道統譜」、  
1836「会津外藤樹学道統譜」著、「藤樹学道統伝附藤門像賛」編
- 2867 親景(ちかかげ・安部あべ) ? - ? 鎌倉幕府蔵人所出納職、  
1298「永仁御即位調進記」著
- 2868 親和(ちかかず・蜷川にながわ、彦左衛門親熙男) 1671-1737 67 書家;父門;曾我流書法、  
下馬札書法;兄親英門、1693幕臣;表右筆/1704奥右筆/05小普請/10表右筆復帰/25同組頭、  
1734奥右筆組頭、「書礼法式」伝、  
[親和(;名)の通称/法号]通称;久米之助/兵四郎/八右衛門、法号;親和
- 近葛(ちかかず・狛) → 朝葛(ともかず・狛こま、楽人) P 3 1 3 4
- 2869 親方(ちかかた・藤原ふじわら/家名;葉室はむら、俊嗣男)?-1317 鎌倉期廷臣;左京大夫/治部卿/16従三位、  
歌;1315京極兼[詠法華経和歌]参加、勅撰3首;新後撰(988)玉葉(1321/1894)  
[かきくらす涙しなくはこぬ人のつらさにかへて月も見てまし](新後撰;恋988)
- 2870 親賢(ちかかた・宮増みやます、通称;弥左衛門・弥六やろく親次ちかつぐ、宮増孫?)?-? 室町期能楽師;  
「宮増弥左衛門鼓伝書」著
- 2871 近方(ちかかた・西郷さいごう、近房男/本姓;源) 1661-1716 56 会津藩士;藩家老;政務を掌握/1713致仕、  
神道;吉川家より義伝を受、「護忠霊社三備遺稿」著、  
[近方(;名)の通称/神号]通称;源蔵/吉十郎、神号;守從霊社
- N2846 親賢(ちかかた・堀ほり、旗本堀親興長男) 1684-1715 32 母;松雪院、江戸生、  
1697(元禄10)信濃飯田藩主堀親常没;養嗣となり信濃飯田藩4代藩主;藩主堀家5代、  
2万石、古典・俳諧;北村季吟門、1698(元禄11)側室と牛之助とが密通と誤解;  
牛之助を殺害;牛之助の母が恨みで狂死(;牛之助騒動)、1699家臣50名致仕、  
1707(宝永4)飯田の大地震(宝永地震);続いて富士宝永大噴火による地震と降灰、  
1715(正徳5)天竜川大洪水(正徳のひつじ満水);4割の田畑損壊/遂に藩財政破綻、  
その年大坂加番となるが中風で没;長男親庸が家督嗣、  
[親賢(;名)の通称]長吉/玄蕃/大和守/石見守
- I2801 親賢(ちかかた・舟橋ふなはし、号;清雲軒、尚賢男/本姓清原) 1721-68 48 母;舟橋弘賢女、廷臣;明経博士、  
「論語集解講義」著
- M2856 躬質(ちかかた・近藤こんどう/本姓;越智、通称;八之進) 1798-1831 34 伊予松山の国学者/歌人
- L2853 親賢(ちかかた・大林おおばやし/本姓;藤原)?-? 江後期;歌人、幕臣?、

- 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、鈴木重嶺翁追悼歌会供薦歌に参加、  
[荒かりし宵の野分に折れ伏してきのふに変わる庭の八千くさ](大江戸倭歌;912/野分)
- 親方(ちかかた・村上) → 宗占(そうせん;号・村上むらかみ、藩医) I 2 5 2 7  
親賢(ちかかた・高崎) → 親義(ちかよし・高崎、藩士/国学/歌) C 2 8 2 3
- 2872 親賢女(ちかかたのむすめ・源みなもと)?-? 南北期歌人、新後拾遺722/802、  
権中納言源親賢(1350没)の女か?
- 2873 親門(ちかかど・広瀬ひろせ) ?-? 江前期武芸者;森川香山門/大和流弓術、  
越後村上藩広瀬親英ちかひでの後を継承;大和流弓術広瀬派、  
「二将弓徳論」「弓術自他返問答」著  
務廉(ちかかど・福田) → 務廉(ながかど/ちかかど・福田/坂倉、国学・歌) D 3 2 4 7
- 2874 親兼(ちかかね・水無瀬みなせ、親信男/本姓;藤原) 1172-1246<sup>75</sup> 母;官女阿古丸、廷臣;1183阿波守、  
1187右兵衛佐/99右馬頭/1204従三位非参議/09右衛門督/11正三位参議;14権中納言/致仕、  
1214従二位/17正二位/21六波羅に拘留;出家、「水黄記」著
- 2875 親兼(ちかかね/ちかかぬ・源みなもと、右京権大夫長信男)?-? 南北期官人/蔵人?、  
連歌、1356成立「菟玖波集」1句入、長信男なら祖父は清兼で新後撰集以下の勅撰歌人  
親兼(ちかかね/ちかかぬ・中山) → 満親(みつちか・中山/藤原、廷臣/歌人) D 4 1 8 5
- 2876 親清(ちかきよ・平たいら、皇后宮大進信親男)?-? 鎌倉中期廷臣;正五下加賀守/歌人、親範の孫、  
妻;西園寺実材母、歌人の女あり、新統古今1199/1512、  
[見るからに人の心ぞくまれぬる浅きためしの山の井の水](新統古;恋1199/寄水恋)、  
妻 → 実材母(さねきのは・西園寺、初め平親清の妻、歌人) C 2 0 9 9  
娘 → 親清五女(ちかきよのごじよ・平、母:実材母) 2 8 7 9  
→ 親清四女(ちかきよのしじよ・平、母:実材母) 2 8 8 0  
→ 親清女(ちかきよのむすめ・平、母:実材母) 2 8 8 1  
→ 親清女妹(ちかきよのむすめのいもうと・平、母:実材母) 2 8 8 2
- 2877 周清(ちかきよ・伴とも/門真かどま、門真弾正、経清[寂身]男)?-1384 室町幕府奉行人/1348義満家臣、  
五位/権少外記/左衛門尉、歌:1364一万首作者入集/70-80義満催の各種歌会参加、  
勅撰5首;新拾遺(1092)新後拾(505/1073/1211)新統古今(1676)、  
[逢ふことにかへぬ命ぞよそながらなかなかながき契りなりける](新拾;恋1092)  
父 → 寂真(じやくしん、門真/伴経清、室町幕臣/歌) G 2 1 2 6
- 2878 親清(ちかきよ・杉原すぎはら、初名;清助、新国上総介男)?-? 江前期武将;酒井忠勝家臣;杉原に改姓、  
北越東奥で数十戦、石田三成に呼応の上杉景勝を会津に攻めた記録;1680「会津陣物語」、  
1680「東国太平記」、1624「杉原彦左衛門物語覚書条々」  
[親清(;名)の通称] 彦左衛門
- M2872 親清(ちかきよ・鈴木すずき、通称;要治) 1799-1852<sup>54</sup> 陸奥仙台の国学者/歌人、  
[かならずとたのめし人はつれなくてちぎらぬ袖にありあけの月](宮城百人一首;94)  
親清(ちかきよ・曲直瀬まなせ) → 玄鑑(げんかん・曲直瀬/今大路、医者) I 1 8 3 1
- 2879 親清五女(ちかきよのごじよ・平たいら、母:西園寺実材母)?-? 鎌倉後期歌人、1229花山院への追悼歌、  
家集「平親清五女集」
- 2880 親清四女(ちかきよのしじよ・平たいら、母:西園寺実材母)?-? 鎌倉後期歌人、「平親清四女集」、  
晩年出家して東山住、続現葉集入、続千載1055;  
[恋しともいはぬに落つる涙をば袖よりほかにしる人ぞなき]
- 2881 親清女(ちかきよのむすめ・平たいら、号;佐分/佐介、母:西園寺実材母)?-? 相模七郎の妻(:静嘉堂本)、  
文保百首入、勅撰13首;続古(1082/1626)続拾(80/950/964/1181)新後撰(3首)風雅以下、  
四女・五女・親清女妹との関係は不詳、  
[これやこのあはでのうらにやくしほのけぶりたえせぬ思ひなるらん](続古今;1082)、  
→ 親清四女(ちかきよのしじよ・平、母:実材母) 2 8 8 0  
→ 親清五女(ちかきよのごじよ・平、母:実材母) 2 8 7 9  
→ 親清女妹(ちかきよのむすめ・平、母:実材母) 2 8 8 2
- 2882 親清女妹(ちかきよのむすめのいもうと・平たいら、母:西園寺実材母)?-? 鎌倉後期歌人:「人家集」入集、  
1286-88頃洞院実泰と交渉(;新統古今集)、四・五女と親清女との関係は不詳、

勅撰9首;続拾遺(577/1034/1334)新後撰(3首)続後拾(788)新拾遺(1369)新続古(1419)

[何ゆゑにかかる露ぞと思ふにもそでさへつらき秋の夕暮れ](続拾遺:八577)、

→ 親清四女(ちかきよのしじよ) 2 8 8 0

→ 親清五女(ちかきよのごじよ) 2 8 7 9

→ 親清女(ちかきよのむすめ) 2 8 8 1

- 02801 知覚(ちかく;法諱) ? - ? 平安後期;僧/法師、歌人;1165清輔[続詞花集]入、  
[きたのみやかくれ給ひつるころ、  
世中はかくこそみゆれつくづくと思へば仮のやどりなりけり](続詞花;雑910)
- 2883 致画(ちかく) ? - ? 加賀小松俳人;1690北枝「卯辰集」入;46/178、  
[雪はぢく柳やいそぐ浅みどり](卯辰集;一46)
- 2884 智角(知角ちかく、渡辺雪信)?-1770 江戸の俳人:不角門/三河高棚に転居/東海を行脚、  
前句付点者お高(石原善兵衛)の師、絵師、1754京住、1730「木曾の麻衣」画、  
1747「誹諧心教之辨」著、54「はい諧水いらす」編、「不角伝書」「或問」著、「百人一句」画、  
[智角(;号)の別号] 燕角/間角げんかく/興柳堂/遊画堂/二南斎/有[勇]月堂/渡辺雪信房寛  
参考 → 善兵衛(ぜんべゑ・石原、お高、商家/俳人) N 2 4 0 9
- 2885 致鶴(ちかく・関屋せきや、名;栄)?-1830 岩代二本松藩医;代々筆頭を勤める、関屋家3代目、  
儒者;「論語古伝」「論語讃則」「論語従政」「大学説約」「孟子辨疑」著、  
[致鶴(;号)の通称/別号]通称;文白、別号;百千堂、法号;慧願院  
知覚(ちかく;字) → 玉善(ぎよくぜん;法諱・知覚、真言僧) P 1 6 2 2  
知覚(ちかく;法名) → 資茂(すけしげ・日野ひの/藤原、廷臣/歌) C 2 3 2 3  
智曜(ちかく;初法諱) → 疎石(そせき;法諱・夢窓;道号、臨濟僧/五山文学) 2 5 2 4
- 2886 癡学(ちがく;道号・大猊だいがい;法諱)?-? 1765存 江中期曹洞宗僧;王洲海琳門、  
1764「王洲海琳禪師語録」共編(即道大如・大珠らと)  
池岳(ちがく・吉田) → 高憲(たかのり・吉田よしだ、藩士/本草家) M 2 6 7 9  
智覚普明国師(ちかくふめいこくし)→妙葩(みょうは;法諱・春屋しゅんおく;道号、臨濟僧/五山文学) 4 1 4 3
- 2887 千景(千蔭ちかげ・藤原ふじわら、崇幹or淑幹男)?-929? 平安前期廷臣;五位大蔵丞/内蔵頭/筑前守、  
書画/歌;拾遺44(詞書;賀御屏風に)、  
[咲き初めて幾代経ぬらむ桜花色をば人にあかず見せつつ](拾遺集;春44)
- 2803 千蔭(ちかげ・加藤かとう、別名;佐芳、枝直えな男/本姓;橘)1735-1808 74歳 幕臣;江戸町奉行与力、  
1788致仕、国学・歌;賀茂真淵門/江戸派;村田春海と双璧、書;滝本松花堂門/能書;千蔭流、  
画;綾足門、自撰「うけら[戒]が花」(利和序/千古跋)、「万葉集楽解」「万葉集略解」著、  
「万葉分類」「筆のさが」「吾孀の花」「加藤千蔭日記」「千蔭筆叢」「千蔭文稿」「桜を見る日」著、  
「漢画指要」「四季の心を戯作の長歌」「芳宜園歌話」「俳聞録」著、  
「橘千蔭翁家集」「橘千蔭消息」外著多数、  
後妻;都筑本子もとこ、養子;加藤与一郎男の直蔭(1771-1814)、  
[隅田川堤の桜人ならば笠きせましを簀かさましを](うけらが花;春204、  
弥生六日雨いみじう降り花散ると聞き舟にて隅田河へゆきて詠む)、  
[千蔭(;名)の字/通称/号]字;徳与麿/常世麿、通称;常太郎/要人/又左衛門、  
号;芳宜園はぎぞの、芹園うけらぞの、耳梨山人/逸楽窩/優婆塞竺愷/江翁、  
狂歌号;橘八衢たちばなのやちまた、  
千影(ちかげ・笹木) → 祐行(すけゆき・笹木ささき、国学者) I 2 3 5 7
- M2899 千賀子(ちかこ・冢田つかた、)? - 1773 信濃松代藩士矢島家の生、  
信濃水内郡長野村の儒者冢田旭嶺(行宜/善光寺大勧進/侍医)と結婚、善光寺住、  
子常・大峯・慈延の母、歌人  
夫 → 旭嶺(ぎよくれい・冢田、儒者/医者) P 1 6 4 4  
息子 → 子常(しじょう・冢田、医者) T 2 1 7 9  
→ 大峯(たいほう・冢田/冢ちよう、儒者) C 2 6 1 8  
→ 慈延(じえん;法諱/天台僧/歌人) 2 1 0 5
- L2849 ちか子(ちかこ・神保じんぼ)? - ? 江後期歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[昔思ふ夢のなごりを慰めて枕にかをる軒の橘](大江戸倭歌;夏483/橘薫枕)

- L2862 **近子**(ちかこ・荒井あらい) ? - ? 江後期歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[鳥の音ねに起き別れけるおもかげの名残は袖に有明の月](大江戸倭歌;恋1454)
- M2801 **近子**(ちかこ・井上いのうえ) ? - 1879 江後期;筑後久留米の歌人、井上田鶴子(歌人)の母、  
国学;船曳鉄門かねと門/歌;宮崎信敦のぶあつ門、
- N2802 **親子**(ちかこ・戸田とだ親姫、島津重豪しげひで[1745-1833]女) 1814-1885<sup>72</sup> 母;側室の関金蔵有富女、  
父70歳の10女;江戸の生、美濃大垣藩主戸田氏正(1813-76)の正室、歌人、  
戸田氏彬(1831-65)・米(鑑子/池田政詮室)の母、  
[親子(;名)の別名/法号]別名;種しな姫/千歌子、法号;善親院
- M2844 **近子**(ちかこ・菊池きくち、菊池武恭と袖子の女) 1827-1880<sup>54</sup> 伊豆君沢郡熊坂村の歌人、  
国学・歌;母袖子門  
[近子(;名)の号] 菊園さくぞの(母の号を嗣)
- N2865 **近子**(ちかこ・村田むらた、旧姓;平井) 1840-1884<sup>45</sup> 伊予宇和郡の国学・歌人;二宮正禎まさただ門  
ちか子(ちかこ・野口) → 千賀(ちか・野口のぐち/松村、絵師) N 2 8 2 6  
睦子(ちかこ・万里小路までのこうじ) → 斉昭側室(なりあきのそくしつ・徳川とくがわ、秋/睦子、歌人) G 3 2 9 9  
親子(ちかこ・藤原、親国女) → 親子(しんし・藤三位) E 2 2 3 4  
親子(ちかこ・藤原) → 親子(しんし、ちかこ・藤原、光俊女/歌人) E 2 2 3 5  
親子(ちかこ・源) → 親子(しんし・源/北畠、歌人) E 2 2 3 6  
周子(ちかこ、源) → 周子(しゅうし、源唱女・近江御息所、歌) H 2 1 5 1  
親子内親王(ちかこないしんのう) → 親子内親王(しんしなしんのう、和宮、家茂妻) E 2 2 4 1
- L2826 **親定**(ちかさだ・大中臣おおなかとみ/本姓;藤原、輔経男)?-? 平安後期祭主;神祇伯/大祭主、  
美濃守/従三位、輔親(954-1038)の孫/伊勢大輔の甥、親仲・親広の父、  
女(親定が娘)は歌人、
- 2889 **親定**(ちかさだ・藤原ふじわら、権大納言定輔男) 1183-1238<sup>56</sup> 母;日吉神官女、鎌倉期廷臣;  
1199中務大輔、1201左馬頭/06内蔵頭/07正四下/09従三位非参議/11正三位/15左兵衛督/  
1220参議/25従二位、1227致仕、  
1201和歌所影供歌合(後鳥羽院の作名か?)/02仙洞影供歌合(後鳥羽院の作名)
- 2888 **近貞**(ちかさだ・松平まつだいら) 1730-1782<sup>53</sup>歳 出雲広瀬藩主、嘶本作者、1780南畝「万の宝」主催
- N2816 **親貞**(ちかさだ・中都なかと、) 1753-1822<sup>70</sup> 越後魚沼郡の歌人;外山とやま光実門  
親定(ちかさだ・藤原、元久詩歌/水無瀬殿恋15首歌合催;借名) → 後鳥羽天皇(ごばてんのう) 1 9 3 7  
親定(ちかさだ・藤井) → 近道(ちかみち・藤井ふじい、神職/国学) N 2 8 3 9
- L2827 **親定娘**(ちかさだがむすめ・大中臣おおなかとみ/本姓;藤原)?-? 平安後期歌人、神祇伯大中臣親定女、  
大伯母に伊勢大輔がいる、寂超「後葉ごよう集」1首入、  
[深くすむ千尋ちひろの底もみるべきにくらげに見ゆる海の月かな](後葉集;物名285、  
くらげを海の月といふよし人の申すを聞き詠)
- 2890 **親孚**(ちかさね・本田ほんだ、親存男) 1763-1816<sup>54</sup> 薩藩藩士;記録奉行・郡県巡行/1805-7大島代官、  
大島の統治に能力を発揮;学問・人望を得た、近思録崩れの大獄に連座;失脚、  
「薩藩名勝志」(:平山武毅刊)、1805「大島私考」14「称名墓志」、「藩翰譜島津氏篇誤之辨」著、  
[親孚(;名)の通称/号]通称;孫九郎/七右衛門、号;無庵、法号;古淡亭太虚円月居士
- 2891 **親実**(ちかさね、観実か?、阿闍梨、伊実男)?-? 1173三井寺新羅社歌合;右方参加  
[けふここに初音をぞきくほととぎす鳴きふるさとと人はいへども](新羅社歌合;22)  
平安朝歌合大成(萩谷説)では[観実]の誤字とする;観実なら天台園城寺の歌僧覚伊;  
→ 覚伊(かくい・阿闍梨、観実、藤原伊実男、1166-80頃山家歌合参) J 1 5 4 4
- 2892 **近真**(ちかさね・狛こま、興福寺五師聖順[狛光近の女婿]男/母:光近女) 1177-1242<sup>66</sup> 楽人、  
兄光眞の養子/狛則房の養子説あり?、1204左衛門少志/12左兵衛尉/18左近将監、  
1240楽所左方;「陵王荒序舞譜」作、従五上、1233「教訓抄」「打物案譜法」著、  
「舞楽府補任」「周伶金玉抄」著
- 2893 **親実**(ちかさね・平たいら、資盛男)?-? 織田氏の祖、織田親眞(親実)か?、連歌:菟玖波集入
- 2894 **親実**(ちかさね・堀河ほりかわ/本姓;藤原、初名;和光、裏松謙光男) 1777-1834<sup>58</sup> 1792堀河忠順の養子、  
廷臣;1809従三位/25参議/28従二位/31致仕、1796「侍従藤原親実歌稿」著
- N2852 **隣**(ちかし・松岡まつおか、) 1820-98<sup>79</sup> 備前邑久郡虫明邑主(岡山藩家老)伊木家の家臣、蘭学者、

兵学・洋学;児玉順蔵・手塚律蔵門、岡山藩兵学館で兵学・砲術・洋学を教授、  
維新後;東京で教部省・文部省出仕/兵庫県勤務、1898(明治31)没、  
[隣(;)名)の初名/字/通称]初名;高安、字;養徳、通称;麟次郎

- 2895 **親繁**(ちかしげ・由良ゆら、初名;貞房、貞長[忠繁]男)1626-7449 母;近藤縫殿助用可女、幕臣;旗本、  
1639家督嗣;千石/1643書院番士/61内裏造宮に從事/65奥高家/従五下/侍従/信濃守、  
1668「参宮紀行」著、1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、  
[梅が枝に春雨にほふ鶯の声もこぼるゝ花の下露](若むらさき;10)、  
[親繁(;)名)の幼名/通称/法号]幼名;天麻呂、通称;新六郎/信濃守、法号;良玄/良徹
- 2896 **周成**(ちかしげ・鷹取たかとり)1735-180773 福岡藩士、「筑前国続風土記附録」加藤一純と共編刊、  
1785一純没後青柳種信の助力を得て同書を完成、  
[周成(;)名)の通称/号]通称;正助/正蔵、号;菊潭
- 2897 **親重**(ちかしげ・安藤あんど)1757-183478 代々岩代の郡山八幡神社神官、  
1790藩主長貴の命で二本松鎮守永代兼帯の祠官/正六下、  
国学者・歌人;天明1781-89頃本居宣長門、故実家;「陸奥古実考」編、  
安藤重満げまろ・安積あさか良斎こんさいの父、1834(天保5)12月二本松に没、  
[親重(;)名)の通称/号]通称;求馬/薩摩守/兵庫/筑前、号;灌園
- 2898 **親審**(ちかしげ・堀ほり、藩主親長男)1786-184863 信州飯田藩主;1796兄親民の家督を継嗣、  
1814奏者番/26寺社奉行/28若年寄/41側用人/43老中格/44老中/侍従;水野忠邦の側近、  
天保の改革に参画/1845忠邦失脚で減封;逼塞、46逼塞解除/隠居、従四下大和守、  
歌/国学;北村季文門、1812「武備家訓」16「論卒俚言」著、室;成子なりこ(桂珠院/歌人)、  
妾(側室);豊浦とよら(若江、歌人);1839奥女中山口藤ふじによる豊浦殺傷事件、  
[親審(;)名)の幼名/号]幼名;鉄三郎/又三郎、号;其楽園まらくん、迪翁(剃髮号)、法号;含章院
- N2821 **親兄**(ちかしげ・永野ながの/本姓;源、)1794-184653 土佐幡多郡の大庄屋、国学修学、  
[親兄(;)名)の通称]源次/左近右衛門
- 親重(ちかしげ・藤原) → 勝命(しょうみょう;法諱、廷臣/出家/歌) B 2 2 6 5  
親重(ちかしげ・野々口) → 立圃(りゅうほ・野々口、細工師/俳人) 4 9 1 3  
親成(ちかしげ・祝部) → 親成(ちかなり・ちかしげ・祝部ほうりべ、神職) B 2 8 4 3  
親成(ちかしげ・藤原/水無瀬) → 親成(ちかなり・ちかしげ・水無瀬/藤原、廷臣) B 2 8 4 4  
親成(ちかしげ・安倍/藤原) → 親成(ちかなり・ちかしげ・安倍、大蔵大輔) B 2 8 4 5  
親成(ちかしげ・藤原) → 親成(ちかなり・紀、式部少丞) B 2 8 4 7  
親成(ちかしげ・山本) → 親成(ちかなり・山本やまもと、幕臣/歌人) O 2 8 0 8  
親成(ちかしげ・立花) → 宗茂(むねしげ・立花/高橋、藩主/家訓) B 4 2 3 9  
親成(ちかしげ・柴内/横沢) → 兵庫(ひょうご・横沢よこざわ、家老/画) F 3 7 2 3  
親茂(ちかしげorちかもち・中院) → 定基(さだもと・野宮/藤原/中院、廷臣/故実) 2 0 2 6
- L2860 **ちか女**(ちかじよ・福田ふくだ)? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[きぬぎぬの別れをいまだ知らぬ身もいであかりける冬の朝どこ]、  
(大江戸倭歌;冬1338/冬朝)
- 親白(ちかしろ・本田/白尾) → 国柱(くにしら・白尾しらお、藩士/国学) D 1 7 0 9
- 2899 **親季**(ちかすえ・藤原ふじわら、定季[資能]男)1201-? 鎌倉期廷臣;1230左少将/38参議/41権中納言、  
1252出家、歌;1232道家「名所月歌合」参加;3首、1253-4成立[雲葉集]入(前中納言名)、  
[みかさやま千代の光をさしそへて雲を照らす秋の夜の月](名所月歌合;15)、  
[たのめつつ忘れじとこそいひしかどあはばや人をうらみだにせん](雲葉;恋1005)
- 02800 **親佐**(ちかすけ・藤原ふじわら、駿河守行佐男)?-? 平安後期廷臣;八条院暲子(1137-1211)家の判官代、  
従五下、成佐(従五下式部権少輔1121-50)の弟/邦行・佐明の兄、  
歌人;1165清輔[続詞花集]入、  
[たのめずは今は命も絶えなましいけるや人のなさけなるらん](続詞花;恋545)
- F2872 **親輔**(ちかすけ・平たいら、平信季男/平信基の養子)?-? 平安末期廷臣;1177左近将監/1211左大弁、  
治部卿/蔵人頭、1215出家、「礼部記」著
- B2800 **親祐**(ちかすけ・速水はやみ/本姓;平)?-? 1525存 戦国期官人/武家;能登守/右京進、蜷川一族?、  
歌人;1498飛鳥井雅俊より「古今榮雅抄」伝受、「和歌秘伝抄」(飛鳥井流歌会の作法書)、

1503-5「武家歌合」左方参加;10首入、1522/23蜷川親孝家歌合参加、  
[うぢ河や岩こす波の花までもおなじ小島に匂ふ山ぶき](武家歌合;卅番左)、  
[親祐(;名)の通称/法名]通称;能登、法名;宗藤

- B2802 **近祐**(ちかすけ・曾我そが、古祐ひさすけ男/本姓;平)1605-6157 母;小笠原長房女、幕臣:1626西丸小姓組、御書院番/1643因幡鳥取藩に派遣;目付代、55先手頭/58父の代形で大阪西町奉行;家督、丹波守;町役の負担を軽減、代々の曾我流の書札札を伝承;「青令礼式略礼」著/1631書簡、  
[近祐(;名)の通称/法号]通称;権左衛門/又左衛門、法号;惟心、尚祐なおすけの孫
- B2803 **親輔**(ちかすけ・宮庄みやじょう、香川景明男)1703-8684 宮庄直凭の養子/周防岩国藩士;家老、儒;宇都宮圭齋門、1734職役;儉約令を発令/錦帯橋東に訴訟箱を設置/財政再建に尽力、政務は公平・人心安定、1764致仕剃髪、歌;二条派系、「巖邑誌」「静嘯野語」著、  
[親輔(;名)の通称/号]通称;太助/太郎/清人/図書、号;紫腕/静嘯軒
- B2804 **親輔**(ちかすけ・田内たのうち)? - ? 江後期磐城白河藩主松平定信の家臣、のち主家転封;桑名藩士、儒者、1793定信「宇下人言」付記、1830「よしの冊子」編、「守国公行状記」、1835「御行状記料」著、  
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(;田内月窓名)、  
[月花はかかる世にこそめづべけれ雲をさまりて風も音せず](大江戸倭歌;雑2016)、  
[親輔(;名)の通称/号]通称;主税ちから、号;月堂/月叟/月窓
- B2805 **允資**(ちかすけ・玉上たまがみ、書家玉上玉江男)?-? 江後期上野桐生の歌人;加藤千蔭門、1843「伊香保日記」著、  
[允資(;名)の通称] 通称;甚作/甚左衛門
- B2806 **親相**(親輔ちかすけ・国司くにし、高洲元忠男)1841or42-64切腹23-24 萩藩士;1847国司迪徳の養嗣子、萩藩家老、攘夷論;下関で外国船と戦闘、1864禁門変で澄泉寺に監禁;切腹、文武に通ず/歌を嗜む、歌集「高田のおしね」著、  
[親相(;名)の初名/通称/法号]初名:朝相、通称;徳蔵/丑之助/信濃、法号;積翠院  
親輔(ちかすけ・二条) → 定輔(さだすけ・二条/藤原、廷臣/音曲) I 2 0 2 8  
親輔(ちかすけ・高橋) → 三平(さんぺい・美玉みたま、高橋、尊攘派) M 2 0 7 4  
周祐(ちかすけ・有馬) → 定次郎(ていじろう・有馬、和算家) B 3 0 2 5  
親純(ちかすけ・曲直瀬まなせ) → 玄鑑(げんかん・曲直瀬/今大路、医者) I 1 8 3 1
- B2807 **千風**(ちかぜ・上田うたかた/本姓;紀きの、川上善兵衛男/上田家の継嗣)1804-6966 信州佐久の材木商、江戸城本丸材木用達方を勤める/1834十一か村取締、漢学;佐藤一斎・川路聖謨門、国学/歌;橋守部・木村定良・千種有功門、剣法/兵学;男谷信友門、茶;川上白門門、囲碁;安井算知門、謡曲;並木信粹門、数理;並木信行門、佐久間象山らと交流、1857「進国歌説」、「紀千風文集」「国文紀行」「清朝祖考」「長歌短歌集」著、  
[千風(;号)の字/通称/別号]字;子徳、通称;平右衛門、別号;金嶺
- M2861 **千風**(ちかぜ・佐野さの/本姓;藤原、)1823-6947 近江神崎郡神郷の乎加おか神社祠官、国学者、  
[千風(;名)の別号/通称/号]別号;秀元、通称;丹造/河内守、号;如意斎
- N2870 **千風**(ちかぜ・矢西やし、通称;菱屋甚兵衛)1832-7241 近江大津の商家/国学者、歌;[鳩のうみ]入
- B2808 **千方**(ちかた・安原やすはら)1805- 188379 武州賀美郡勅使河原村の和算家;斎藤宜長/宜義父子門、1860「数理神篇」編、「算法千題集」著、  
[千方(;名)の通称/号]通称;喜八郎、号;勅勝
- B2809 **親隆**(ちかたか・藤原ふじわら、家名;葉室はむろ、為房男)1099-116567 母;法橋隆尊女の讃岐宣旨、兄重隆の猶子、廷臣;1158従三位/正三位/61参議、63出家(;大覚);重家と交流(重家集入)、関白忠実・頼長父子の家司;鳥羽院別当として活躍、  
歌人;1121関白内大臣忠家家歌合/34頭輔家歌合参加、為忠家後度百首/1150久安百首入、自らも歌会主催、「親隆集」、後葉集・続詞花集・今撰集・月詣・玄玉・万代・和漢兼作集入集、勅撰16首:金葉(714/金解48/70)詞花(228)千載(9首)新古(539)新勅(12)続古(1131)以下、  
[恋死なで心づくしに今までも頼むればこそ生きの松原](金;補遺714/頼めて不逢恋、心づくしに筑紫・地名と生きを掛る/後葉ごう集;恋342)、  
[新院(崇徳院)人々に百首歌めしけるに、  
いそのかみふるから野辺の女郎花なほいにしへの姿なりけり](続詞花;秋224)、

- [親隆(；名)の通称/法名]通称；四条宰相、法名；大覚
- B2810 **親孝**(ちかたか・惟宗これむね) ? - ? 1359存 南北期官人、1359従五上、連歌：菟玖波集5句入  
[松紅葉いかで時雨のわけつらん](菟；444/前句；雲と霧とのひとつなる山)
- B2811 **親孝**(ちかたか・蝮川にながわ、親元男/本姓；宮道)?-1525 室町幕臣；足利義晴に出仕；政所代、  
大和守、左衛門尉、歌人：1503頃武家歌合入、23歌合主催、  
「蝮川親孝日記」「賦草案之引付」「賦引付」/1517「披露条々事」著、  
[月残る朝あしたの原の面影も春の名にのみ立つ霞かな](武家歌合；五番右)、  
[親孝(；名)の通称/法号]通称；新左衛門尉/新右衛門尉、法号；道玖、親順の父/智蘊の孫
- B2812 **親尊**(ちかたか・田でん) ? - ? 巖島神社社家、連歌；1551「宮島千句」興行；大内義隆発企
- L2846 **親孝**(ちかたか・生駒いま、丹羽長貴3男)1790-183647 旗本；1813交代寄合生駒親章の養子；娘婿、  
1817養父没；家督嗣、1830隠居、養子親愛が家督嗣、妻；すよ子は歌人  
[親孝(；名)の初名/通称]初名；丹羽貫邁、通称；修蔵/大内蔵おくら
- 親孝(ちかたか・中根) → 梅老(榎老ばいろう・中根なかね、俳人) C 3 6 3 8  
親孝(ちかたか・萩原/堀河) → 康親(やすちか・堀河/藤原/萩原、廷臣) C 4 5 0 3  
親孝(ちかたか・三井) → 之孝(ゆきたか・三井、書家/篆刻) E 4 6 6 2  
親貴(ちかたか・松平) → 親貴(ちかとう・松平まつだいら、藩主/歌人) L 2 8 5 7  
地形方丸(ちがたかたまる) → 堅丸(方丸かたまる・地形堂じぎょうどう、幕臣山崎春方/狂歌) N 1 5 0 9
- B2813 **親毅**(ちかたけ・安岡やすおか、字；元剛)1758-182871 伊勢古市の郷土史家、歌/俳諧/狂歌/画を嗜む、  
1786/89「故実郷談」著、伊勢国誌「勢陽五鈴遺響」(編纂途中没；1833妻八千代上梓)、  
[親毅(；名)の号] 栗廼舎くりのや/辺智摩川成へちまのかわなり  
絲瓜皮成と同一? → 絲瓜皮成(へちまのかわなり、後万載集/狂歌) B 2 7 4 0
- 02810 **懐忠**(ちかただ/かねただ・藤原ふじわら、大納言元方9男)935-102086 母；大納言道明女、藤原南家、  
廷臣；武官/958侍従/964左近少将/970右近少将、弁官；981左中弁/左大弁/988蔵人頭、  
989従三位参議/938正三位/995中納言/997権大納言/1001大納言/03従二位、寛仁4没、  
妻；藤原尹忠女、令尹・為尹・光尹・中尹・重尹・輔尹・中将御息所(円融天皇更衣)の父、  
袋草紙；965(康保2)五位少将陣として桜花の宴の小台盤を扱う(藤原為光・佐理と)
- B2814 **親忠**(ちかただ・坊門ほうもん、清忠男/本姓；藤原)?-? 1356存 南朝廷臣；侍従/左少弁/民部卿、  
大納言、歌人、新葉294・1414、1365[正平廿年三百六十首](住吉行宮)参加、  
[夜もすがらおのが涙にくもるともしらでや鹿の月になくらん](新葉集；四秋294)  
[春くればよそにもみえず葛城や雲もひとつに霞む山の端](正平廿歌；6坊門大納言名)
- J2828 **親忠**(ちかただ・藤原ふじわら、家名；法性寺ほうしょうじ、親長[1309-?]男)?-? 中将(法性寺中将)/良基側近、  
歌人、1366良基供奉の供/66良基第和歌会参加/67良基の供で義詮別業訪問、  
父 → 親長(ちかなが・藤原/法性寺、連歌；菟玖波入) B 2 8 3 9
- B2815 **親忠**(ちかただ・大中臣おおなかとみ、号；三条、定忠男)?-? 神職；1331-33伊勢神宮祭主、従二位/上野介、  
神祇大副/親世の父、大中臣家書写「古事記」所持、  
父 → 定忠(さだただ・大中臣、1272-1316/神職/歌) B 2 0 9 7
- B2816 **親忠**(ちかただ) ? - ? 室町期連歌、1445「文安雪千句」入
- B2817 **親忠**(ちかただ・平川ひらかわ、通称；金兵衛)?-? 備中川上郡布賀の郷土史家；1735「備中府志」編  
親忠(ちかただ；初名・藤原) → 頼輔(よりすけ・藤原、飛鳥井・難波家祖/歌人) I 4 7 7 6  
親忠(ちかただ・村井) → 親長(ちかなが・村井、藩士/儒者) B 2 8 4 1  
親忠(ちかただ・豊原) → 正安(まさやす・河本/川本、医者詩文) I 4 0 1 4  
親忠女(ちかただのむすめ・藤原) → 加賀(かが・美福門院、俊成妻、鎌期歌) E 1 5 5 5
- M2876 **親辰**(ちかたつ・田山たやま、通称；甫)1784-186077 筑後久留米藩蘭方医  
地形堂堅丸(ちがたどうかたまる) → 堅丸(方丸かたまる・地形堂じぎょうどう、山崎春方、幕臣/狂歌) N 1 5 0 9
- B2818 **愛種**(ちかたね・中園なかぞの/大蔵おおくら)1813-8775 京木屋町松原北の国学者/のち僧、  
1845「真曾美の鏡」、「あはをの玉」著、  
[愛種(；名)の通称/号]通称；左近/左門、号；眞瓊舎しんけいしゃ/一海
- L2852 **親民**(ちかたみ・安藤あんど) ? - ? 江後期；陸奥岩代郡山の王宮権現社祠官、  
歌；蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、郡山八幡社祠官の安藤親重の一族、  
1793王宮伊豆神社に葛城王の石碑を建立、

[露分けていざや聞かまし野末より月になる夜のすずむしの声](大江戸倭歌;789)

- N2883 **親民**(ちかたみ・渡辺わたんべ) ? - 1850 丹波の歌人;香川景樹門
- L2840 **親足**(ちかたり・津軽つがる、上総久留里藩主黒田直亨4男) 1780-1849 70歳 1805旗本津軽典暁の養嗣子、家督嗣;4千石の旗本;親足と改名/1809典暁の父弘前前藩主津軽寧親の計で6千石加増;弘前支藩の陸奥黒石藩1万石を立藩し大名となる;初代藩主、幕府は蝦夷警備のため公認、従五下/甲斐守、正室;松平資承女の歌子(清光院)、1825養子順徳(順承)に譲り隠居、歌;加藤千蔭・日野資枝門、歌を奨励し歌学所を設置、蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、[五月雨はいくか降るらん山川のみなわ逆巻き音まさり行く](大江戸倭歌;夏506)、[親足(;名)の初名/通称]初名;安彦、通称;三十郎/甲斐守、法号;大常院
- 親太郎(ちかたろう・児島) → 基隆(もとたか・児島こじま、絵師/神職/歌) J 4 4 9 6
- B2819 **親継**(ちかつぐ・藤原ふじわら、親資男/親重[勝命]の孫) ?-? 鎌倉前期廷臣;正五下/1199主殿助、大蔵権大輔/日向守/1226臨時祭で所作(明月記入)、歌人/勅撰4首;新勅撰(512)続後撰(444/1045)続後拾遺(1034)、[別れ行くかげもとまらず岩清水相坂山はなのみふりつつ](新勅;羈旅512)
- B2820 **近次**(ちかつぐ・松平まつだいら、武将近正[1547-1600]男) ?-? 旗本、1606禁裏女房と密通;改易、仮名草子「恨介」のモデル、正吉の兄
- B2821 **前次**(ちかつぐ・三浦みうら、幼名;文之助/法号;庸安院、明次男) 1757-1817 61 美作勝山藩主;兄矩次の養嗣/1780家督;襲封、87志摩守/1816隠居、1774「三浦系譜」著、1798広通「霞関集」入、[真榊も今一しごの色そひて春立ちぬらし天の香具山](霞関;7春/万彦稽古始に)
- L2866 **近韶**(ちかつぐ・松平まつだいら、徳之輔男) ?-? 江後期;幕臣/式部少輔しきぶのしょう、田安家家老、1859(安政6)勘定奉行;対馬守/長門守、1860(万延元)一橋家家老、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[末遠き鶴つるの齢よはひに契置きて君が千年に我は仕へん](大江戸倭歌;雑1784/鶴契齡)[近韶(;名)の通称]伝次郎/大学/縫殿頭ぬいのかみ/式部少輔/対馬守/長門守
- 親次(ちかつぐ・弥六やろく) → 親賢(ちかかた・宮増弥左衛門、能;鼓) 2 8 7 0
- 周嗣(ちかつぐ) → 周嗣(しゅうし・江湖、歌人) H 2 1 5 1
- B2822 **親綱**(ちかつな・中山、孝親男/本姓藤原) 1541/4-1598 55-58 廷臣;1578参議/81権中納言、1587権大納言、正二位、歌人;柳原資定・三条西実澄門、宮中歌会参加;「天正内裏歌会」参加、1592「尹豊九十賀歌」参加、「中山家記」「親綱卿記」「中山親綱消息」著、法号;常照院真月相空[想空]
- 親綱(ちかつな・冷泉) → 存覚(そんかく;号・光玄、真宗僧) E 2 5 7 1
- B2823 **親経**(ちかつね・藤原ふじわら、俊経男) 1151-1210 60 廷臣;文章博士/1200参議/06権中納言/従二位、母;平実親女、1208致仕/10熊野参詣途中の藤白宿に没、詩文;後鳥羽・土御門2代天皇侍読、1201元久詩歌合;詩参加、1205「新古今集真名序」執筆、「角黄記」「春秋暦」「親経卿記」著、[親経(;名)の通称]六角中納言/六角、親資・宗親(俊親)らの父
- B2824 **周経**(ちかつね・磯永いそなが、通称;孫四郎、周英男) ?-? 江後期薩摩藩士;天文方、「天文国略図」著
- 親常(ちかつね・木俣) → 周平(かねひら・木俣きまた/正木、国学/歌) U 1 5 4 5
- B2826 **近任**(ちかとう・狛こま/辻、近恒男) 1676-1757 82 楽人、1703豊前守/14従四下/21本家を相続、1732正四上/34大膳権大夫、1748「風俗舞倭舞大歌所舞妓等之事」著
- B2825 **親任**(ちかとう・安倍あべ、長坂泰治男) 1812-78 67 安倍親則の養子/庄内藩士;1842家督/兵員方中役、御用屋敷付役人/1860中川通代官;農政に関与/維新後県役人、郷土史家、歌・俳句を嗜む、「胡蝶の道草」「筆濃余理」「峯濃松風」「勸農固本録抄」「検見括要録抄」「参考安倍系譜」編、[親任(;名)の通称/号]通称;又五郎/九兵衛/甚兵衛、丸山源七、号;余香庵
- L2857 **親貴**(ちかとう/ちかたか・松平まつだいら、親良の長男) 1838-82 45 豊後杵築藩;1853(嘉永6)従五下/河内守、1868(慶応4)父隠居;家督継嗣;第10代(最後)の杵築藩主/杵築藩能見松平家13代、新政府派(父は佐幕派);戊辰戦争には新政府に与し会津出兵、1869藩知事/71免官;上京、1873権少教正/82父に先立ち没、正室;松平乗懿女、松平親信の父、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[ねぐらとふ鳥の羽ぶきにさそはれてもろくも今は散る木の葉かな]、

(大江戸倭歌;冬1090/落葉脆)、

[暁の鐘よりさきの別れ路は涙のみこそ先立ちにけれ](同;雑1824/別)、

[親貴(;名)の幼名/通称/法号]幼名;録之助、通称;但馬守/河内守、法号;泰岳院

知化堂(ちかどう) → 呼牛(こぎゅう・富沢とみさわ、華道;生花) M 1 9 0 6

茅花塘庵丸(ちかとういおまる) → 庵丸(いおまる・山口、狂歌) F 1 1 1 1

- 0803 **親時**(ちかとき・平たいら、初名;惟親/経望、経親男)1284?-1339<sup>56</sup> 廷臣;左大辨/蔵人頭/造東大寺長官、1315(正和4)参議/16従三位/17(文保元)権中納言;辞任/18正三位/19本座/21従二位、1330正二位/32(正慶元)権大納言;33詔命で職停止;正二位前権中納言に降格、1339(暦応2/延元元)出家;没、宗経の兄/親頭(正二位権中納言)の父、歌;1315京極為兼[詠法華経和歌]出詠、[いづくぞとたどられながらほととぎすよにもぞ遠く声はきこゆるる](詠法華経歌;22、神力品 聞虚空中声)

- N2878 **親辰**(ちかとき・吉田ちかとき、)1785-1860<sup>76</sup> 筑後三井郡の大庄屋、国学;中島広足門、[親辰(;名)の通称]斗吉/儀一郎

- B2827 **親俊**(ちかとし・大中臣、親康男)1111-1185<sup>75</sup> 平安後期伊勢神宮祭主、「神宝凶形神秘書」

- B2828 **親俊**(ちかとし・蜷川にながわ、別名;親世、親順男/本姓;宮道)?-1569 室町幕臣、1537改名;親世、幕府政所代;將軍義輝に出仕/大和守、1538百首詠/39連歌会主催、「親俊詠草」「親俊日記」、「纒拾集」、1560「蜷川親俊発句付句集」編/62「纒拾抄」、「賦引付」「徳政賦引付」外著多数、[親俊(;初名)の通称/法号]通称;三郎/新右衛門尉、法号;道哉どうさい、親長の父/親元の玄孫

- B2829 **近俊**(ちかとし・牧田まきた) ? - ? 江前期/地誌「若狭郡志」編(元禄6年[1693]頃)

- L2847 **見年**(ちかとし・稲垣いなぎ/本姓;源、敦見あつちか男)?-? 幕臣;1825(文政8)父跡継嗣;千石、御書院番、1846御使番;布衣/48鹿狩御番方追駈騎馬の世話/50駿府御目付代/54(嘉永7)御府内見廻、1860(万延元)罹病;御役御免;寄合/隠居剃髪;松山と号す、鉞之丞が家督嗣、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[吹きさそう風のまにまに散り行きて残り少なき山のもみぢば](大江戸倭歌;秋999)、

[見年(;名)の通称/号]通称;鉞之丞てつじょう/欣之丞/欽之丞、号;松山しょうざん

- M2863 **近登之**(ちかとし・西郷さいごう、)1799-1866<sup>68</sup> 陸奥会津藩士;新番頭、国学/歌;沢田名垂門、艶(山川尚江の妻)・文子(飯沼一正の妻)の父、

[近登之(;名)の通称/号]通称;十郎右衛門、号;春錦舎/萩の舎

近俊(ちかとし・横田) → 俊晴(としはる・横田よこた、藩士/儒者) N 3 1 4 1

親俊(ちかとし・曲直瀬まなせ) → 玄淵(げんえん・曲直瀬/今大路、医者) H 1 8 9 7

親年(ちかとし・松平) → 忠敏(ただとし・松平、幕臣/歌人) Q 2 6 0 8

親利(ちかとし・岩下) → 文兆(ぶんちよう・岩下いわした、俳人) G 3 8 2 1

親利(ちかとし・岩下) → 希言(きげん・岩下いわした、文兆の弟/商家/俳人) B 1 6 0 9

- B2830 **親朝**(ちかとも・塩谷・塩屋しおや/家名;宇都宮/本姓;藤原、朝業[信生]男)?-1250 鎌倉期の武家、従五下/1245周防守/出家、歌人;続拾遺710(;藤原親朝名/友の旅の勧誘を断る歌)、[けぶりなき室の八島とおもひせば君がしるべに我ぞたたまし](続拾遺;九710)、[親朝(;名)の別記] 朝親ともちか(;吾妻鏡)

- 02809 **近友**(ちかとも・姓不詳、兼武男)?-? 鎌倉期官人;近衛府舍人(武官)/馬術に通ず、堀河・鳥羽天皇頃の隨身/神楽舞にも通ず([富家語談][続古事談]入)、徒然草238段;隨身近友が自讃して馬芸[七箇条]を書く

- B2831 **親朝**(ちかとも・結城ゆうき) ? - 1347 吉野朝東国武将、1343「神皇正統記」の執筆動機?

- B2832 **親具**(ちかとも・水無瀬みなせ/堀川、高倉永家男)1549-1631<sup>83</sup> 水無瀬兼成養子/廷臣;1575左近衛中將、1580右兵衛督<sup>81</sup>正四下/養父に実子が誕生し継嗣問題から家人を誅し養家から義絶、徳川家康の庇護を受/1595出家(:号)、「東の紀行」著、豊臣秀次の命で将棋の銘を記す(のち代々駒の銘を書く)、[親具(;名)の号/法名]号;鉄斎/(出家号;)一斎、法名;親留

- B2833 **親倫**(ちかとも・杉井すぎい、通称;八百道やおみち)?-? 1701<sup>存</sup> 江前期江戸芝浜の神道家、「中臣祓解」「神道十種制記」著

- B2834 **近儔**(ちかとも・松平まつだいら、近形男)1754-1840<sup>87</sup> 豊後府内6代藩主;1770父隠居;家督襲封、1786-1801頃大凶作・災害大火などで藩財政窮迫、文武奨励、1804致仕隠居、1807後継の弟近義の急死で幼い藩主近訓の後見役;藩政に再参画、従五下長門守、俳人;蓼太門、「不鶯点俳諧帳」著、正妻;松平乗佑女/後妻;とき子(歌人)、  
[近儔(;)名]の幼名/通称/号]幼名;秀之助、通称;五左衛門、号;不鶯ふけん/太乙楼/雪登齋、  
法号;光沢院
- N2801 **近友**(ちかとも・辻つじ、通称;右近将曹、近徳男)1796-1833<sup>38</sup> 京の楽人、  
近信の弟/安倍季度(辻則貫)の兄
- B2835 **親知**(ちかとも・本堂ほんどう)1824-1909<sup>86歳</sup> 陸奥盛岡藩士;蔵奉行/勘定奉行、歌;井上文雄門、  
書;加藤千蔭風、囲碁を嗜む、「本堂親知稿本」「本堂親知自筆稿」著、  
[親知(;)名]の通称]時治/官治
- N2867 **近知**(ちかとも・持田もちだ/本姓;平、)1840-1914<sup>75</sup> 駿河駿東郡の国学者;平田鍊胤門、  
[近知(;)名]の初名/通称]初名;重長、通称;鋭二郎/穂平次  
親友(ちかとも・秋保) → 政右衛門(まさえもん・秋保あきは、藩士/軍学) B 4 0 3 6  
親倫(ちかとも・佐藤/福井) → 松山(しょうざん・福井/佐藤、儒者/兵法家) J 2 2 2 2  
近知(ちかとも・榊原) → 寄園(きえん・榊原さかきばら、絵師) J 1 6 7 3
- C2819 **親豊**(ちかとも・貴田きだ、通称;長太夫、親邦男)1707?-4741? 弘前の山鹿流兵法家;喜多村政方門、  
弘前藩兵学師範;以後代々踏襲、門弟多数、「初学或問」著、親建の父/惟邦の祖父、
- B2836 **周直**(ちかなお・竹下たけした)1704-1781<sup>78</sup> 筑後浮羽郡亀王村の庄屋;兄英直の後継、  
大庄屋役(1754-76)、勸農家;筑後特産の櫛の改良、「花綿集」「農人錦の囊」、家訓「家法」著、  
[周直(;)名]の通称]武平次、義直の祖父
- B2837 **周直**(ちかなお・恩田おんだ、直高なおたか男)?-? 尾張藩士;1686出仕/1713戸山御屋敷奉行、  
1721勘定奉行/馬廻奉行/材木奉行/43勘定奉行再任、1724-43「尾張藩勘定奉行覚集」著、  
[周直(;)名]の通称]藤助/藤蔵/彦右衛門
- M2871 **近直**(ちかなお・杉本すぎもと、)1766-1838<sup>73</sup> 備中足守の商家;足守藩の御用達、  
国学者;藤井高尚門、  
[近直(;)名]の通称/号]通称;吉郎右衛門/仙左衛門、号;良水
- N2829 **近直**(ちかなお・間人はしうど、通称;市郎左衛門)?-1824 撰津武庫郡の回漕業、  
国学・歌人;大江広海・村上円方まどかた(潔夫さやけお)門、近正(1812-1887)の父
- B2838 **親長**(ちかなが・源みなもと;醍醐流、兼康男)?-? 鎌倉期廷臣;土佐守/正五下or四位、  
邦長の兄/清兼の父、歌人;1275家経「撰政家月十首歌合」参加(邦長と)、拾遺風体集入集、  
勅撰14首;続拾遺(834/1272)新後撰(5首404/854/944/1024/1065)玉葉(2678)以下  
[いたづらにたつやけぶりのはてもなしあふを限りともゆる思ひは](続拾遺;恋834)
- B2839 **親長**(ちかなが・藤原ふじわら/家名;法性寺ほつしょうじ、親康男)1309-? 廷臣;1356従三位/57正三位、  
非参議/1365出家(57歳:観覚)、連歌:1355良基「文和ぶんな千句」参加(名;親)、  
「一万首作者」入、菟玖波5句入、  
[暁の月にも闕伽の水とるに](菟;釈教678/前句;露やころもの玉をみすらむ)  
[親長(;)名]の法名/号]法名;観覚、号;法性寺
- 2804 **親長**(ちかなが・甘露寺かんろじ、房長男/本姓;藤原)1424-1500<sup>77</sup> 廷臣;1452参議従三位/左大弁、  
1453権中納言/56按察使を兼任/69正二位/92権大納言/93出家、  
有職故実精通/詩歌;室町中期公家文壇の指導者、1450仙洞歌合参/自邸で月次会を催、  
「御直衣始記」「改元部類記」「古今序註」「御行始部類記」「任大臣記」「御讓位部類記」著、  
1470-98「親長卿記」「親長卿詠」「親長三十首」著、1475(文明7)「公武歌合」主催、  
連歌;「諸家月次連歌抄」入、新菟玖波9句入、  
[友千鳥いまや別れをすがのねの長居の浦の明け方の声](仙洞歌合;二十八番左、  
長居の浦;撰津の歌枕/[別れをす]と菅の根を掛る/根の長さから長居を導く)、  
[松のみと思ひし志賀の唐崎にすむてふ月やまたたぐひなき](公武歌合;三番左)、  
[親長(;)名]の法名]蓮空、三条西実隆の甥、女婿;中御門宣胤
- B2840 **近長**(ちかなが・狛こま/上、近継男)1467-1534<sup>68</sup> 楽人、1501越後守/17正五下、1497「竜笛相承次第」著
- B2841 **親長**(ちかなが・村井むらい、長朝男)1652-1711<sup>60</sup> 加賀金沢藩士/1708従五下/豊後守、

儒;牧野成美(羽黒養潜)門、講経を主とす、「村井家伝」「村井出雲書簡」「村井家家譜」著、  
[親長(;名)の別名/通称/号]別名;清長/長隆/親忠、通称;藤十郎/出雲、  
号;信齋、法号;選仏院

- M2816 **親長**(ちかなが・堀ほり、親蔵ちかただ男) 1739-180870 母;勅使河原直信の妹(慈眼院)、  
1746(延享3/8歳)父の死により家督継嗣;信濃飯田藩7代藩主/堀家8代、従五下/大和守、  
幼少のため柳田為美ら重臣が藩政、のち財政再建・災害対策の農業振興・築堤に尽力、  
1756大坂城加番/58駿府城加番、郡奉行の黒須楠右衛門の強引な政策に領民が反発;  
1762打毀しの千人講騒動が起こり黒須を罷免/1779隠居:忠親が家督嗣、  
正室は柳沢吉里の娘  
息子;親忠/有馬氏恕/親民/親審/土岐頼功、  
息女;信濃飯田藩主遠藤胤富正室/秋月種備正室(のち堀直起正室)  
[親長(;名)の幼名/通称]幼名:久太郎、通称;又七郎
- L2854 **近長**(ちかなが・朝日あさひ/本姓:源)?-? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[色深き梢にゑひ(酔)のさそはれて紅葉折りたく秋のやまびと](大江戸倭歌;秋982)  
親長(ちかなが・小島)→成斎(せいさい・小島こじま、藩士/書家) B 2 4 6 0
- B2842 **愛成**(ちかなり・よしなり・善淵よしぶち・本姓;六人部むとべ、姓かげね;朝臣)?-?890頃没 美濃厚見郡出身漢学者、  
廷臣;少外記/868従五下大外記/879「日本文徳実録」編纂参加、878従五上/886大学博士、  
878-881日本紀を講義;「元慶私記」の講義博士(但し著者は矢田部名実なぞ?)、  
888宇多天皇に周易を進講、878-882「日本紀私記」著
- B2843 **親成**(ちかなり・ちかしげ・祝部ほりべ/はふりべ/樹下、祝部玄成or成仲男) 1142-123089 平安末鎌倉期神職;  
正四下/筑前介/日吉社権禰宜;惣官、1220「日吉神社縁起」著、  
[親成(;名)の通称] 泉禰宜
- B2844 **親成**(ちかなり・ちかしげ・水無瀬みなせ、信成男/本姓;藤原) 1217?-? 母;藤原定経女、親兼の孫、  
鎌倉期廷臣;宰相中將、祖父の代より後鳥羽上皇の信任厚い;1236「遠島御歌合」左方入、  
上皇没後1240頃父と水無瀬離宮跡に御影堂建立、上皇の旧領出雲持田加賀荘を堂領とす、  
水無瀬を名乗る、1356「文和五年日記」著
- B2845 **親成**(ちかなり・ちかしげ・安倍あべ/本姓;藤原)?-? 室町期廷臣;蔵人所出納職/大蔵大輔、  
1414「応永二十一年御方違行幸記」「御即位方出納注進」「大蔵大輔安倍親成記」著
- 02808 **親成**(ちかなり・ちかしげ・山本やまもと、通称;小五郎/藤左衛門) 1675-174672 幕臣;西丸焼火間番、  
大番/新番、歌人;1739芥川寸艸[飛鳥山十二景詩歌]入(王子深樹わうじのしんじゆ)、  
[あふぎみる陰ぞ涼しき夏木立しげる青葉にかこふ宮みは](十二景歌/仰ぐと扇を掛る)、  
☆飛鳥山十二景 → 榴岡(りゅうこう・林はやし) D 4 9 7 8
- B2846 **親業**(ちかなり・大西おおにし/本姓;秦) 1749-181062 山城稻荷社下社神主/1807従三位、「便蒙秘記」、  
「稻荷社神主大西家伝」「稻荷社神主東大西家伝」「稻荷社事実考証記」「稻荷社雑記」著
- B2847 **親成**(ちかなり・紀き/家名;峯、紀親常の養子) 1804-5855 廷臣;右官掌の家、1821宮内少録/右官掌、  
1826土佐介/式部少丞、49正六上、「安政遷幸記」1855「万歳鶏龜詞」著、「安政禁秘図絵」編
- B2848 **千兼**(ちかね・藤原ふじわら、忠房男)?-? 965存 平安前期廷臣;従五下/肥後守(和歌色葉入)、  
琵琶の名手、としこ[俊子]の夫(:大和物語入)、歌;後撰集642、  
[流れてはゆく方たもなし涙河わが身のうらや限りなるらん](後撰;恋642、  
我が身の憂を浦に掛る/限りは流れの終着点;辛い思いの到達点)
- B2849 **千兼女**(千包女ちかねのむすめ/ちかねがむすめ・藤原、名;あやつこ、母;としこ[俊子]?)?-? 平安期歌人、  
大和物語の「あやつこ」?(千兼ととしこの子は多い;[あやつこ]が後撰の千兼女か)、  
後撰集;秋440[詞書;長月のつごもりの日紅葉に氷魚ひををつけておこせて侍ければ]  
[宇治山の紅葉を見ずは長月の過ぎゆくひをも知らずぞあらまし](後撰集;七秋440)
- B2850 **近嶺**(ちかね・ちかみね・沢さわ/谷沢/本姓;源、初名;宗房) 1788-183851 常陸取手宿の豪商油与の主人、  
俳;杉野翠兄・古田月船門、国学・歌;村田春卿門/歌;村田春海・清水浜臣・小林歌城門、  
国学;小山田与清門、1837「沢近嶺家集」(;穎則編)、37「春夢独談」著、  
[近嶺(;名)の字/通称/号]字;巖仙/子璵、通称;吉次郎/定次郎/与兵衛、  
号;時雨亭/古香/此石亭/吐嵐とらん/月の舎桂/香列/梧桐庵/近陞、屋号;油与
- N2810 **千金**(ちかね・名倉なくら、) 1798- 185053 江戸の国学者、

[千金(；名)の字/通称/号]字；竜溪、通称；弥次兵衛、号；忍斎/拙誠堂

- B2851 **親信**(ちかのぶ・平たいら、真材男)946-101772 母；藤原定高女、平安期廷臣；967円融帝東宮雑色、文章生/蔵人/檢非違使/1001従三位/07従二位/15参議/16致仕/17病氣出家、「親信卿記」著
- B2852 **親信**(ちかのぶ・中山なかやま) ? - ? 備後の俳人；立圃門/江戸住、1668?「巳己巳己にしき」共編、1683定親と福山良大明神・八幡宮に俳句奉納、種寛「俳諧作者名寄」入
- M2818 **近陳**(ちかのぶ・大給だいぎゅう、松平忠昭男)1638-171982 母；酒井忠正女、1676豊後府内藩2代藩主、従五下/筑前守/対馬守、幕府奏者番、歌人；茂睡[鳥之跡]入・了然尼撰[若むらさき]2首入、正室；阿部重次女/継室；板倉重矩女、近禎・近苗・梅休院の父、1705隠居；近禎が家督嗣、[谷ちかみ軒端の竹の起臥に聞きてもあかぬうぐひすの声](茂睡[鳥の迹]春44)、[雨夜あまよにもさはらぬ月とみし影の日数に曇る庭の卯の花](若むらさき；39)、[近陳(；名)の初名/通称/号]初名；昭重あきしげ、通称；虎之助/大蔵/主膳/筑前守/対馬守、号；如元、法号；証真院頓誉円意如元
- L2815 **周信**(ちかのぶ・狩野かのう、常信長男)1660-172869 狩野派絵師；父門、1679江戸城障壁画制作に参加、1717木挽町狩野家3世を継嗣/1719法眼/朝鮮への贈呈屏風を制作、「獣図」画、狩野岑信(みねのぶ；1662-1708/浜家の祖)の兄、[周信(；名)の通称/号]通称；右近、号；如川/泰寓斎
- B2853 **親信**(ちかのぶ・佐藤さとう、通称；七郎左衛門)1707-7771 仙台藩士；世子伊達重村の傳/小姓頭、物置締役；1757免職/のち復職；白番頭/和記番頭；奉行に列す/藩主侍読、儒；仙台藩儒遊佐木斎ゆさぼくさい門、「御曹司様御悦事日記」著
- B2854 **周信**(ちかのぶ・四王天しおうてん、政弘男)?-1756 四王天家5代目；代々福井藩船橋奉行；1702家督、故実家；福井藩の故実・制度の研究、「越前国主記」著、[周信(；名)の通称/法号]通称；又兵衛、法号；逢源院
- B2855 **親信**(ちかのぶ・川上かわかみ) ? - ? 江戸後期薩摩人、1825「北際源譚」、「漂海紀聞」著
- B2856 **近信**(ちかのぶ・賀島かしま) ? - ? 江戸後期尾張の本草家、1845異国の草本の展示会催、医史に通ず、1845「異国草木会目録」編/46「皇朝医史」、「動植名彙」著
- N2824 **慈誠**(ちかのぶ・西山にしやま、通称；金十郎)?-? 江後期；紀伊和歌山藩士、国学・歌；本居内遠(1792-1855)門
- 近信(ちかのぶ・狩野) → 正栄(しょうえい/まさひで・狩野かのう、絵師) H 2 2 1 5  
愛信(ちかのぶ・福田) → 峨山(がざん・福田、藩士/国学) L 1 5 7 2  
慎吾(ちかのぶ・北) → 静廬(せいろう・北きた/鈴木、屋根方棟梁/国学/狂歌) D 2 4 2 3  
知可之屋(ちかのや) → 講修(ときなが・江沢、名主/国学/詩歌) J 3 1 6 0
- B2857 **親範**(ちかのり・源みなもと、道濟or懐国男/母小槻忠臣女)?-1045 平安中期廷臣；従五下/大内記、歌；1038/41源大納言家師房歌合参加、後拾遺309、[秋の野は折るべき花もなかりけりこごれて消えむ露のをしさに](後拾遺；四秋309)
- B2858 **親範**(ちかのり・平たいら、範家男)1137-122084 母；藤原清隆女、廷臣；鳥羽院庁の判官代/1165参議、1171正三位民部卿/74大原極楽院で出家、没後贈正一位左大臣、愚管抄に逸話入、1185「尊重護法寺縁起」、歌人；言葉集・和漢兼作入集、千載475(剃髪後の閑中歳暮生活詠)、[みやこにて送り迎ふといそぎしを知らでや年のけふはくれなむ](千載集；六475)[親範(；名)法名]法名；円智、通称；毘沙門堂民部入道/想蓮房/出雲寺入道
- B2859 **親教**(ちかのり・源みなもと、初名；師教/師親、資平男)?-? 母；源重助女、廷臣；後宇多院近臣/左馬頭、左近衛中将/1321(元亨元)従三位/28出家、歌人；1302当座歌合・23亀山殿七百首(21首入)参加、勅撰5首；新後撰(1098)続千(1436/1573/1891)続後拾(677)、藤葉集入、頭資の弟、[思ひいでばまたおのづからとはるやとさすがにたえぬ契りをぞ待つ](新後撰；恋1098)
- B2860 **親範**(ちかのり・藤原ふじわら、厳島社神主親定男)?-? 鎌倉後期廷臣；五位/京住、(父親定ちかさは1258[正嘉2]安藝掃部かもん大夫/1274-94厳島神社神主)、老父親定の病氣平癒を厳島社に祈願；効験あり/願主となり神社の広い人脈で歌を収集；1292(正応5)父平癒報恩の「正応五年厳島社頭和歌」勸進(為世・源承・公雄・良覚らの歌)、厳島神社は当時の有力廷臣や歌道家に幅広い人脈を持っていたと考えられる、のち父を嗣ぎ1298(永仁6)-1303(乾元2)厳島神社の神主、1307以前周防守(吉川家文書)、

勅撰3首;新後撰1328/玉葉2119/続千載1751、  
[冬河のこほりのひまを行く水のまた淀むこそ木の葉なりけれ](新後撰;雑1328)  
[かげこほるうらわの月の有明に松風寒くたづも鳴くなり](巖島社頭歌;24)

- N2886 **親憲**(ちかひ・源みなもと、) ? - ? 鎌倉南北期廷臣/歌人;1345刊[藤葉集]入、  
[つれなくはさても心のこりもせでおもはぬ人をなにしたふらん](藤葉;恋586)
- B2861 **親通**(ちかひ・中山なかやま、初名;教親のりちか/敦親、定親男/本姓;藤原) 1426-62.37 室町期廷臣;蔵人頭、  
1447参議/49権中納言/50正三位/55権大納言/60正二位、1456「慈照院殿大将拝賀編目」著
- B2862 **親度**(ちかひ・蜷川にながわ、親寧男/本姓;宮道) ?-1495? 室町期の武士;政所執事伊勢貞親の被官、  
主計允/周防守、連歌、1451三代集作者百韻/60大原野花見連歌参加、68山何百韻に参加、  
草根集・親元日記入、新菟波1句入
- B2863 **親敬**(ちかひ・鈴木すずき) ? - ? 江中期仙台藩士/郷土史家;藩内の地歴を調査、  
歌人、1736「東藩私史」、「奥海和歌集」編/「会津討出陣詠百首和歌」著
- L2869 **近義**(ちかひ・小野おの、日向守一吉(よし男)?) -1816 旗本/幕臣;清水家家老、安藝守、  
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、  
[をりをりの筆のすさびもおもひあるみはまぐれなきてならひの跡]、  
(大江戸倭歌;雑1994/源氏物語の手習)
- N2800 **近徳**(ちかひ・辻つじ/本姓;狛、則宗男) 1759-1819.61 京の楽人、辻則武の跡を継嗣、  
1770(明和7)正六下右近将曹/常陸介、86従五上/99正五下/1800下野守/09従四下、  
1819(文政2)従四上;没、窪近満を養子;実子誕生で実家へ/近信・近友・則貫の父
- M2825 **親典**(ちかひ・大西おにし、旧姓;秦) 1789-1871.83 山城紀伊郡の伏見稻荷祠官;代々宿禰職、  
国学・歌;広橋光成みつげ門、有職故実精通、1856(安政3)従三位  
[親典(;名)の通称/号]通称;下総守、号;晩翠館
- B2864 **親義**(ちかひ・堀ほり、親審ちかかげ男) 1814-1880.67 信州飯田藩主;1845家督襲封/1853奏者番、  
1863寺社奉行/64大坂警護;長州征討/64水戸浪士の清内路関所の通過責任で問責減封逼塞、  
1865逼塞解除/大坂方面警護、従五下石見守/大和守、1868隠居、1858「安政5年12月日記」、  
「堀石見守殿上書」「堀大和守同石見守留書」著、  
[親義(;名)の幼名/号]幼名;鉄三郎、号;研山、法号;竜雲院
- N2866 **慎憲**(ちかひ・目加田/目加多めかた、) 1819-66.48 周防岩国藩士、国学者、  
[慎憲(;名)の初名/通称]初名;敬親、通称;仲雄/与左衛門/武兵衛
- M2811 **親教**(ちかひ・今中いまなか/本姓;秦、) 1822-82.61 伊賀上野藩士;藤堂高潔直臣/伊勢津住、国学者、  
[親教(;名)の字/通称/号]字;以礼、通称;修平、号;竹仙/眠雲 跂石みんうんきせき/草蘆
- B2865 **近恵**(ちかひ・保科ほしな、家老西郷さいごう近思ちかもと男) 1830-1903.74 会津藩士;1857家督/62家老、  
藩主松平容保京都守護職就任に反対し蟄居/戊辰戦で復職・非戦論主唱、箱館五稜郭参戦、  
維新後に保科に改姓、日光東照宮禰宜/福島霊山社宮司、合気道に長ず;大東流と称す、  
「晃山叢書」「帰る雁が音」/自伝「栖雲記」著、  
[近恵(;名)の字/通称/号]字;汝玉、通称;竜太郎/源蔵/頼母たのも、  
号;八握髯/酔月軒/栖雲、法号;栖雲院
- 親徳(ちかひ・床井) → 晩緑(ばんりよく・床井とこい、藩士/天狗党) 3 6 9 3
- B2866 **隣春**(ちかはる・福島ふくしま/本姓;藤原) 1811-82.72 江戸浅草花川戸の質商、画;土佐派風、破産、  
浅草寺地中で絵師、1839「卯の花かさね」53「硝石製煉法」65「心学孝行種」画、「昔男画語」、  
[隣春(;名)の字/通称/号]字;吉人、通称;伊勢屋左平、号;雨廼屋/花所、法号;花所斎
- N2837 **周玄**(ちかはる・平松ひらまつ、) 1829-1903.75 越前敦賀の神職;気比神社神職;権祝、  
国学・歌人;石塚資元すけもと(気比神社権宮司)門、  
[周玄(;名)の通称/号]通称;肇ちよう/はじめ、号;昌軒
- B2867 **親彦**(ちかひ・山田大路ようだおおじ/本姓;度会、飯高いだけ雄一郎男) 1815-69.55 伊勢飯高郡田原村生、  
山田大路三太夫の養子、伊勢神宮師職・勤王派;諸藩の志士と往来/1863幕府に捕縛/解放、  
維新後皇太神宮領増加・斎宮再興に尽力、1860「道の犬つな」、「雲図の正道」著、  
[親彦(;名)の通称]乾次郎/親吉/陸奥/三太夫
- B2868 **親尚**(ちかひ・藤原ふじわら、重季男) ?-? 南北・室町初期の官人、連歌;菟玖波集2句入、

- [憂きことをはなれし後は悟りにて](菟; 釈教692/前句; 心の馬は法にこそあれ)
- L2835 **親久**(ちかひさ・大友おおも/本姓; 藤原)?-1805**早世 30歳弱没** 出羽平鹿郡/秋田の神職、  
波宇志別神社の祠官、国学; 本居宣長・本居春庭門、本居大平「八十浦の玉」中巻; 1首入、  
[伊勢の海に二見の浦はありといへど君をふたたび見ぬぞかなしき]、  
(八十浦; 593/享和元[1801]八月出羽を発ち九月13日宣長に入門、  
松阪滞在中同月29日に師没; その悲しみを詠)、  
[親久(;名)の別名/通称]別名; 久磐ひさいわ、通称; 栄太/永太/八十尋  
親久(ちかひさ・田内) → 穂波(ほなみ・田内たのうち、藩士/随筆) G 3 9 2 5  
親寿(ちかひさ・都丸) → 董庵(とうあん・都丸とまる、藩士/儒者) 3 1 8 8
- B2869 **親秀**(ちかひで・藤原ふじわら、撰津守親致男/本姓; 中原)?-1341? 鎌倉南北期武家; 掃部頭/従五上、  
鎌倉幕府評定衆、1339夢窓疎石を迎え京の西芳寺再興、室町幕府とも関係、  
1341「撰津親秀讓状(置文条々)」著、連歌: 菟玖波集5句入、  
[朧月夜のあけのそほ舟](菟; 春58/前句; 山もとや霞みて遠くなりぬらむ)、  
[親秀(;名)の通称] 撰津親秀
- B2870 **親英**(ちかひで・広瀬ひろせ) ? - ? 江前期越後村上藩士/大和流弓術; 香山門、  
のち広瀬派を興す; 広瀬親門ちかかどが継承、詩歌を嗜む、1712「紅葉巻」、「重駆拾遺」、  
「弓道大系図」「射道大系図」「人之巻五者之伝」「犬追物秘伝抄」著/「村上寺社集覽」編、  
[親英(;名)の通称/号]通称; 左近右衛門、号: 千峯軒
- D2853 **親英**(ちかひで・布喜川ふきがわ/旧姓; 永井) 1831-1874**44** 伊予宇和島八幡浜双岩村の庄屋、  
歌人; 清家牧太門、歌; [ひなのてぶり]6首入、  
[親英(;名)の通称]幾太/撰津せつ/房橘/多門/伝右衛門  
親秀(ちかひで・甲斐) → 宗柳(そうりゅう; 法諱、左京入道、武家/連歌) J 2 5 1 2  
親仁(ちかひと・親王) → 後冷泉天皇(ごれいぜいてんのう、歌人) E 1 9 1 2  
親子(ちかひめ・戸田) → 親子(ちかこ・戸田とだ/島津、藩主室/歌) N 2 8 0 2
- 02802 **親平**(ちかひら・源みなもと、資平[1223-84]2男) 1255-? 母; 源親季女、廷臣; 少納言/1289左中將、  
右中將/1298東宮昇殿/1301新帝後二条天皇に昇殿/1303(嘉元元/49歳)従三位; 非参議、  
1304左兵衛督/09正三位/右衛門督/1312従二位/13(正和2)参議; 辞任、  
17(文保元)出家; 法名円聖、顕資・親教の異母兄弟、清并・国資・国賢明の父、  
歌人; 1293藤原親範勸進[巖島社頭和歌]参加、  
[うきてのみただよふ浪のうつせがひ心くだけてなほや恨みん](巖島社頭歌; 23)
- B2871 **親平**(ちかひら・幸田こうだ、親盈ちかみつ男) 1710-91**82** 幕臣; 1731小十人、勘定奉行/郡奉行、  
1783用人格/91致仕; 寄合、曆算家、千葉歳胤(父の門弟)の「皇和通曆蝕考続編」を校訂、  
[親平(;名)の通称/法号]通称: 主殿とも/友之助、法号; 勇猛、親由の父
- B2872 **近寛**(ちかひろ・狛こま/高元/辻、狛近完男) 1668-1720**53** 楽人、母; 進藤長房の妹、1694左近將監、  
1711江戸城で朝鮮使饗応舞楽、1714従四上、1711「左右舞楽装束」「近家抄」/16「狛氏新録」、  
「楽目録」編、「楽府雑録」「狛氏楽余」「舞曲家伝記」「雅楽管絃鼓類記」「左右舞番記」著
- M2877 **親広**(ちかひろ・高崎たかさき、通称; 九郎左衛門) 1819-77**59** 薩摩日置郡市来郷の薩摩藩郷士、  
藩校造士館に修学/国学・歌; 八田知紀門、市来郷で学舎開設; 子弟教育、高崎親章の父、  
1863薩英戦争に藩士として参戦、維新後; 薩摩に滞在/西南戦争では事態収拾に当る、  
西郷の私学校党に怒りを買って自宅を襲撃され投獄; 獄中で西郷軍兵士に殺害  
親熙(ちかひろ・田内) → 千町(ちまち・田内たのうち、藩士/国学/歌) L 2 8 4 2  
親孚(ちかふ→ちかさね・本田) → 親孚(ちかさね・本田、藩士/代官/地誌) 2 8 9 0
- B2874 **親房**(ちかふさ・源みなもと; 村上流、仲房男)?-?1149**存** 母; 藤原実宗女、平安後期廷臣; 従五上遠江権守、  
歌人; 1128住吉歌合参、49山路歌合参加、後葉集・続詞花集3首・夫木抄入集、  
勅撰5首; 金葉152/185/696・千載429・新統古2067、  
[たまくしげ二上山ふたかみやまの雲間より出づればあくる夏の夜の月](金葉; 夏152)
- 2805 **親房**(ちかふさ・北畠きたばたけ、師重男/本姓; 源) 1293-1354**62** 母; 隆重女中院一品、廷臣; 1308従三位、  
1316正二位/右衛門督/按察使/1324大納言/1330後醍醐帝皇子世良親王の死で出家、  
南朝重臣/従一位准三后、南朝の史学者、「神皇正統記」「職原抄」「伊賀記」「古今集序註」、  
「古今和歌集註」「東家秘伝」「北畠記」「本朝葬祭記」、1314「詩歌合」; 左方詩参加、「元元集」、

歌人/勅撰4首:続千載601/1415・続後拾321/793、新葉集28首

[君(天皇)は尊くましませど 一人を楽しませしめ万民を苦しむる事は

天も許さず神も幸ひせぬ](神皇正統記)

[過ぎやらで同じ尾上や時雨るらん雲吹きかへす松の嵐に](続千;冬601/権中納言名)

[親房(;名)の通称/法名]通称;中院一品、法名;宗玄/覚空、持房の兄/顕家の父

B2875 **近房**(ちかふさ・西郷さいごう/保科、西郷房成男)1637-1703<sup>67</sup> 母;保科正近女、美濃の生;保科正長養子、正長の実子成長により西郷に復姓/1684会津藩江戸家老/89大老/1701致仕、会津藩家老西郷頼母家の祖、「護忠霊社三備遺稿」著、近方ちかたの父、[近房(;名)の通称/神号]通称;吉十郎/頼母、神号;護彦霊社

B2876 **近房**(ちかふさ・山田やまだ、金子かねこ太郎兵衛家利男)1657-1740<sup>84</sup> 山田久兵衛の養子/羽前米沢藩士、1680家督/93小納戸頭/1724五十騎組物頭/34致仕、郷土史/方言研究、1724「米沢雑事記」34「山田多七近房翁古実之留」著、[近房(;名)の通称] 六左衛門/六右衛門/多七

N2812 **近房**(ちかふさ・小沢おざわ、通称;助五郎)?-1863 信濃筑摩郡の歌人;香川景樹門、中神近之ちかゆき(1801-42)の兄

近房(ちかふさ・小林/鶴屋2世)→ 鶴右衛門(つるえもん・小林、書肆) E 2 9 5 4

B2877 **親文**(ちかふみ・紀き、俊文男)?- ? 代々紀伊國造の家、初め南朝/從三位、のち北朝;1340從五下/紀伊國造を継嗣、のち四位左京大夫、歌人;新後拾遺682/818、新葉188、[いたづらに日数ふるなり明日香川かはらぬ淵や五月雨のころ](新後拾;雑春682)

B2878 **近文**(ちかふみ・高屋たかや・初姓;大宅)1681-1719<sup>39</sup> 土佐の商家/国学:京の出雲路信直・赤井正言門、神典に精通;子弟教育/歌人、1715「徒然草明汗稿」17「神代卷嗣義箋」、「徒然草奥儀抄」、「諸社伝」「神道啓蒙」「神拝次第」「総州文間両社大明神社記」著、[近文(;名)の通称/号]通称;源八、号;収駿窩/海南雲山人

B2879 **親政**(ちかまさ・藤原、親重男)?- ? 鎌倉前期の人、筑後守、中務丞、連歌:菟玖波集入

B2880 **親雅**(ちかまさ・中山なかやま/家名;堀河、定宗男/本姓;藤原)1353-1402<sup>50</sup> 足利義満側近/廷臣;侍從、1369(応安2/17歳)左近中将、78蔵人頭/79宮内卿・左中将/80(康暦2/28歳)参議/正四上、1381從三・正三位/83権中納言/右衛門督/從二位;87辞退/民部卿/本座/90還任/左衛門督、1392正二位/94(応永元/42歳)権大納言兼弾正尹/95(応永2);辞任/出家、初法名;宗雅、1402(応永9)没、歌人:1369[応安二年内裏和歌]/75宮廷歌会・77宮中御会始参加、1386後円融仙洞歌会参加、勅撰5首;新後拾(504/993)新続古今(702/1350/1684)、[浪よりもさきにと立ちて浦風の吹き越す磯に鳴く千鳥かな](新後拾;冬504)、[すみのぼる月はさはらぬ影ながらよそなる雲をいとふ夜半かな](応安二年和歌;45)、[親雅(;名)の法名] 祐元/祐雅/宗雅

2806 **親当**(ちかまさ・蜷川にながわ、別名;新右衛門、蜷川親俊男/本姓宮道)?-1448 足利義教の家臣;室町幕臣;政所に出仕、1429右衛門少尉/一休宗純に親炙/1434-42頃出家;岐陽門、歌・正徹門、堯孝・宗砌らと交流し歌会参加、1433北野社万句参加以後多くの連歌会参加、忍誓・宗砌らと交流、「親当ちかまさ句集」「親当独吟百韻」「蜷川親当独吟」「十一番自連歌合」、宗祇「竹林抄」の連歌7賢人の1、1340永享十二年三吟山何百韻(宗砌と)/47・48宗砌と百韻、新撰菟玖波集66句入(発句10句)、

[名も知らぬ小草花咲く河辺哉](文安四[1447]年八月十九日何人百韻の発句)、

(脇句;芝生がくれの秋の沢水/心敬)、

[親当(;名)の出家名] 道号;五岑ごん、法諱;智蘊ちうん

☆蜷川家の系譜 親俊-親当(智蘊)-親元(道寿)-親孝(道玖)-親順-親俊(親世/道哉)-親長

B2881 **親政**(ちかまさ・福富ふくとみ、別名;政親、隼人男)1576-1656<sup>81</sup> 土佐長岡田辺島領主福富親政の孫、土佐長曾我部元親家臣:元親渡韓に従軍;軍功/主家滅亡後1601伊予の加藤嘉明家臣、1604彦根の井伊直孝家臣;岡半右衛門と名乗る;大坂冬・夏の陣に軍功、1624尾張藩士(本名復帰)、「福富覚書」著、

[親政(;名)の通称/法名]通称;七郎兵衛/伝右衛門/岡お半右衛門、法名;浄安

B2882 **親昌**(ちかまさ・堀ほり、親良長男)1606-1673<sup>68</sup> 下野烏山藩2代藩主;1637(寛永14)父没で遺領襲封、烏山からすやま城の改修/藩政に尽力/大坂城加番/日光火消役/佐倉城番、

1672(寛文12)信州飯田に移封;飯田藩主、従五下美作守、翌延宝元年没;長男親貞が家督嗣、歌/和文;烏丸光広・飛鳥井雅章門、  
1648「熱海紀行」、「江戸烏山道行」「下野国東江寺御建立」「堀親昌家集」「堀親昌公和歌」著、歌;茂睡[鳥之跡]入/1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、  
[誰もしれすぐなる人の心よりまことあらはす神のちかひを](茂睡[鳥の迹]神祇816)、  
[浦風や蘆の八重ぶき降る雪になほ冬籠る難波江の里](若むらさき;93/雪)、  
[親昌(;名)の幼名/法号]幼名;吉千代/又七郎、法号;大玄院寂然宗外

- M2826 **親方**(ちかまさ・大西おおにし、)1704-1756<sup>53</sup> 山城紀伊郡の稻荷上社神主;兄大西親定の養子、正四位下、国学;荷田春鷹門
- B2883 **親応**(ちかまさ・中沢なかざわ、のちの名;信有)1714-70<sup>57</sup> 会津藩士/太子流兵法家;長坂光珍門、「長坂采軒事跡」「三清入道由跡伝」著、  
[親応(;名)の通称/法号]通称;源十郎、法号;槐陰紹安居士
- N2817 **親匡**(ちかまさ・中村なかむら/本姓;藤原、)1740-1804<sup>65</sup> 近江彦根藩士、歌人;[彦根歌人伝・鶴]入、  
[親匡(;名)の通称]介左衛門
- N2833 **親方**(ちかまさ・林はやし、通称;善右衛門)?-? 備中の歌人;澄月(1714-98)門
- M2842 **親正**(ちかまさ・来田きた、旧姓;中山)1774-1813<sup>40</sup> 伊勢度会郡の伊勢外宮権禰宜、  
国学;荒木田久老門
- N2830 **近正**(ちかまさ・間人はしうど、近直男)1812-87<sup>76</sup> 撰津武庫郡の回漕業、  
国学・歌人;大国隆正・野々口正武門、妻;たね子(歌人)  
[近正(;名)の通称/号]通称;市郎左衛門(父の称)、号;松風
- N2840 **近方**(ちかまさ・藤岡ふじおか、甚右衛門男)1823-97<sup>75</sup> 周防岩国藩士、国学/歌、  
大草おおくさ小雲しょううん(茶道家/1825-)の兄?、  
[近方(;名)の初名/通称/号]初名;長昌、通称;三喜介/甚右衛門、号;翠亭/魚楽  
長昌(ながまさ・藤岡) → **近方**(ちかまさ・藤岡ふじおか、藩士/国学) N 2 8 4 0
- N2838 **周政**(ちかまさ・武津ふかつ、)1826-1900<sup>75</sup> 紀伊和歌山藩士、紀州藩国学所出仕、国学者/歌人、  
国学;本居内遠門、国学・歌;加納諸平もろひら・長沢伴雄・伊達千広門、八千穂やちほ(神職)の父、  
[周政(;名)の通称/号]通称;喜七郎、号;山振舎  
親正(ちかまさ・松平) → **可正**(よしまさ・松平/鈴木、藩士/歌人) H 4 7 0 0  
周政(ちかまさ・古松こまつ) → **貞幹**(ていかん・古松こまつ、書家/歌) 3 0 4 9  
周政(ちかまさ・難波) → **周政**(かねまさ・難波なんば、陪臣/詩歌人) V 1 5 2 9  
近松源三郎(ちかまつげんざぶろう) → **源三郎**(げんざぶろう・村瀬、歌舞伎作者) B 1 8 9 1
- B2884 **親満**(ちかまる・松園まつその/本姓;中臣)?-? 江後期歌人;小山田与清門、1819「千鳥のあと」著  
親麿(ちかまる・本田/白尾) → **国柱**(くにはしら・白尾しらお、藩士/国学) D 1 7 0 9  
近麻呂(ちかまる・酒居) → **正足**(まさたり・酒居さかい、国学/歌人) Q 4 0 0 0
- B2885 **親覧**(ちかみ・むつみ・佐々木ささき)1791-1868<sup>78</sup> 陸奥一関藩士/国学・歌;佐瀬主計[大道]門、  
藩校教成館国学教授・学頭、「楽浪屋歌文集」「東山道の記」「安政教詠百卷」「湯倉道の記」著、  
[親覧(;名)の通称/号] 通称;才作、  
号;魯斎/魯実/楽浪屋さざなみのや/陸民/櫛園しよえん・かしぞの/歌新園/東歌垣鈍彦/鈍根  
高平眞藤・沢田穂国らの師
- B2886 **親通**(ちかみち・しんつう・大江おおえ、字;江栄)?-1151 平安後期文章家;はじめ大学寮の学生、  
1106奈良七大寺を巡礼、晩年出家、「七大寺日記」/1106「七大寺巡礼私記残巻」、「駄都抄」著、  
「本朝新修往生伝」に入、
- N2808 **親道**(ちかみち・鳥越とりごえ、)1727-1804<sup>78</sup> 近江蒲生郡大森の山形藩流交代寄合最上駿河守家老臣、  
歌人;[鴉のうみ]入
- N2839 **近道**(ちかみち・藤井ふじい、)1809-1869<sup>61</sup> 備中賀陽郡の吉備津神社祠官、  
国学者・歌;藤井高尚たかなお門、  
[近道(;名)の初名/通称/号]初名;親定、通称;左膳介、号;有玉
- L2867 **親道**(親通ちかみち・本堂ほんどう、親庸男)1810-79<sup>70</sup> 幕臣;交代寄合/常陸志筑の領主/内蔵助、  
源頼朝6百年忌の歌集編纂、1852(嘉永5)致仕;親久が家督嗣、  
妻;松平頼説女、息子;親久・佐橋佳致・高橋重清・森村瓢造・伊東祐護、

息女;千賀子(菅谷政憲室)・朝子(松平鎌蔵室)・松子(堀直倫室)、和喜子(遠山景彰室)・都子(吉野義卷室)

- B2887 **幾通**(ちかみち・稲葉いなば、雍通てらみち男) 1815-44早世 30 豊前臼杵13代藩主;兄尊通没/1821(7歳)襲封、從五下備中守/能登守、正室;奥平昌高女、1833/4「稲葉幾通公日記」著、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、  
[筑波峰つくばねのこのもかのもの雪とけて雫の田井に春風ぞ吹く]、  
(大江戸倭歌;36風光处处至)  
[幾通(;名)の幼名/法号]幼名;邦次郎/辰次郎、法号;本誠院
- M2875 **周道**(ちかみち・田中たなか、通称;甚八郎)?-? 江末明治期;因幡邑美郡の国学/歌人、1860年代に国学・歌;鳥取藩国学者小谷古蔭ふるかげ/ひさかげ(1821-82)門、  
親通(ちかみち・中山) → 親通(ちかみち・中山、廷臣) B 2 8 6 1  
親道(ちかみち・神保) → 雪居(せつきよ・神保じんぼう、国学者) K 2 4 8 3  
近道(ちかみち) → 抜裏近道(ぬけうらのちかみち、狂歌) 3 4 0 9
- B2888 **周光**(ちかみつ・藤原ふじわら、藤原頼長男、文章博士藤原淳基の養嗣) 1079?-? 平安後期廷臣/詩人;1111八条詩会講師、1124文章生(46歳頃)、左衛門尉/1142檢非違使/大監物/58従五上、関白忠通から恩顧/積蓮禅と親交、「本朝無題詩」105首入、「拾遺佳句」著、古今著聞集に逸話
- B2891 **親光**(ちかみつ・源みなもと、時国男)?-? 平安後期廷臣、親房・親康・親国・親朝の父、八条院暲子(鳥羽天皇皇女1137-1211)の蔵人、左近将監、  
(寂超「後葉集」496の一書に源親元ちかみとの歌を源ちかみつ作と誤写)
- B2892 **周光**(ちかみつ・源) ? - ? 辞書「世俗字類抄」改編(彰考館本には撰者)「世俗字類抄」は橘忠兼撰「色葉字類抄」(3巻本として1180年頃成立)の異本
- B2890 **親光**(ちかみつ・結城ゆうき/本姓;藤原)?-1336 鎌倉幕府御家人、早歌;1319「玉林苑;紅葉興/屏風徳」作詞
- B2889 **親光**(ちかみつ・中院なかのいん/本姓;源、初名;光房、光忠男) 1308-77 70 鎌倉・南北期廷臣;1326正四下、1328蔵人頭/29参議;左中将兼任/30従三位/31辞任/33正三位、1336尊氏入京時に後醍醐天皇に随従;比叡山に逃れる;のち帰京/37疑われ幕府に捕縛、1342従二位/51足利氏の敗北時南朝帰参;権中納言/のち北朝復活時に帰京;前参議、1363権中納言;辞任/64正二位/72(応安5;/65歳)権大納言;74辞任、歌人;新拾遺1406、連歌;1356成立「菟玖波集」6句入、准大臣具光の兄/権中納言光顕(光国)の父、  
[三代の跡に流をうけて石清水すめるを時となほぞつかふる](新拾;1406)  
[かげ見えし木の下水に花散りて](菟;165/前句;霞やくもるかがみなるらん)
- B2893 **親盈**(ちかみつ・幸田こうだ、中山親繁男) 1692-1758 67 幸田正信の養嗣子/1712家督/幕臣;小十人組頭、西丸広敷勤番、天文曆算;中根元圭門、「天文大成」「白山曆解義」、1732「八線表解義術意」著、門人;今井兼庭・千葉歳胤ら、幸田親平ちかひらの父、  
[親盈(;名)の通称/号]通称;孫右衛門/文之助/友之助/友之進、号;子泉、法号;止居院
- B2894 **近光**(ちかみつ・勘解由小路かでのこうじ、資望男/本姓;藤原) 1756-84 廷臣;左京権大夫/1779従四上、1776-81「勘解由小路近光記」著
- B2895 **親盈**(ちかみつ・堀越ほりごし、通称;兵馬)?-1810 陸奥仙台の歌人、「御判雪月花歌合」著、  
[山こゆるあらしのすゑのうき雲にひとつらなびく天つ雁がね](宮城百人一首)  
近嶺(ちかみね・沢・谷沢) → 近嶺(ちかみね・沢/谷沢、商家/歌人) B 2 8 5 0
- 2807 **茅上娘子**(ちかみのおとめ・狭野さの、弟上娘子おとがみのおとめ)?-? 万葉四期歌人、蔵部の女孀によじゆ、739頃配流の夫中臣宅守と相聞;63首(うち娘子の歌は23首)、万葉集十五;3723-26/3745-53/3767-74/3777-78、  
[君が行く道の長手を繰り畳ね焼き滅ぼさむ天あめの火もがも](万葉集;十五3724)、  
→ 宅守(ちかみね・中臣なかとみ、歌人) 4 5 0 3
- 2863 **親宗**(ちかむね・平たいら、時信男/母;藤原家範女) 1144-1199 56 平安後期廷臣、建春門院蔵人、1167後白河院判官代;承仁法親王養育、蔵人頭/右大弁/1169勘解由次官/70讃岐守、83参議、1184従三位/98大嘗会御禊装束司長官;興福寺大衆の訴ですぐ免官、99正二位中納言、詩歌人;平家文化圏の活動を担う、1168平経盛家歌合/70藤原実国歌合参加、

1174詩合を主催、95経房歌合参加、和漢兼作集入集、建礼門院右京大夫と交際、  
家集「中納言親宗集」、「参議平親宗書状」「親宗卿記」著、  
勅撰8首；千載(174/364/439)新古(212)新勅(829)玉(46/1058/2401)、  
[我が宿の花橘に吹く風を誰が里よりとなれながむらん](千載；夏174)

- B2899 **親宗**(ちかむね・高橋たかはし、宗恒男/本姓；紀)1673-1729<sup>57</sup> 廷臣；御厨子所預/1720若狭守/26従四下、  
故実家/庖丁技術に長ず、1709「御受禅大床子御膳」22「饌羞類考」「九条殿亭御幸御膳図」、  
「享保立坊別記」「八瀬かま湯の記」「諸陵雑事」「島付枝故実」「親宗朝臣記」外著多数、  
[親宗(；名)の別名/法号]別名；宗悖(；初名)/久仲、法号；梅嶺常香
- C2800 **周宗**(ちかむね・伊達だて、斉村男)1796-1812<sup>夭逝17歳</sup> 母；鷹司輔平女誠子、  
仙台藩主；1796(1歳)父没；襲封、1809疱瘡病む；12危篤/致仕、弟斉宗が継嗣、  
「運座句巻」、「紹山様御詠歌」著、  
[周宗(；名)の幼名/法号]幼名；政千代、法号；青竜院紹山隆公大居士
- C2801 **親元**(ちかもと・源みなもと、法名；阿法)1038-1105<sup>68</sup> 平安後期廷臣；後三条天皇東宮坊帯刀/五位、  
兵衛府衛門府の官人/1096安房守/園城寺で出家、後拾遺往生伝に往生人として入、  
歌；詞花354(後葉集では源ちかみつの作とする；誤写)、夫木抄入集、  
1056六条右大臣顯房家歌合瞿麦12など3首の[ちかもと]と同一か？  
[花薄はなすきまねかばこゝにとまりなむいづれの野辺もつひのすみかぞ](詞花；雑354、  
後葉集；雑496、秋の野を過ぎ尾花の風に靡くを見ての詠)
- C2802 **親基**(ちかもと・源みなもと、八条院藏人光親男)?-? 平安後期廷臣；七条院[1157-1228]の判官代、  
歌人、1178顕昭判「廿二番歌合」参加、  
[虫の声まちかくきけば草深き庭こそ秋のなさけなりけり](廿二番歌合；十一左21)
- C2803 **親基**(ちかもと・斎藤さいとう、初名；基雅、基恒男)1426-? 1467<sup>存</sup> 室町幕府奉公人、民部丞/民部大夫、  
1365-1467「斎藤親基日記」著
- C2804 **親元**(ちかもと・蜷川にながむ、親当ちかまさ[智蘊ちうん]男/本姓；宮道)1433-88<sup>56</sup> 武士/連歌作者、  
室町幕府政所執事伊勢貞宗の被官、1473政所代；政所文書を管掌、能書家、將軍義満臣、  
1480甘露寺親長亭歌会参加、「蜷川親元百首」「詠草」、「親元日記」/1465「遊佐日記」著、  
1480「法華廿八品倭歌」著、新撰菟玖波集；1句入  
[親元(；名)の通称/号]通称；新右衛門尉、号；不白/友石、法号；道寿、親孝の父
- C2805 **近思**(ちかもと・西郷さいごう、別名；憲彦、近光男)1805-60<sup>56</sup> 会津藩士；1819家督/27家老、  
1847幕命で江戸湾警備、1857致仕、儒；安部井帽山・高津淄川せいせん門、  
国学；沢田名垂/野矢常方門、「旅夜の燈」「梅墅遺稿」著、保科近恵ちかひの父、  
[近思(；名)の通称/号]通称；恒千代/吉十郎/頼母、号；梅墅ばいしょ、神号；憲彦靈社  
周翰(ちかもと；名) → 眞仁法親王(しんにん/まさひとほっしんのう、天台座主/日記)P 2 2 5 5
- C2806 **親盛**(ちかもり・藤原ふじわら、法名；見仏、親康男)?-? 平安後期鎌倉期廷臣；従五下左衛門尉大和守、  
後白河院北面；近侍/1192院の没後出家；源空(法然)門、歌・今様；後白河院門、  
1172東山尾坂歌合参加、1200石清水若宮歌合参(見仏；入道名)、  
院北面地下歌合を2度主催、歌林苑系歌会に参加、山家さんか歌合参加、  
「百題抄」撰(散佚)、家集「寿永百首」「藤原親盛集」著、  
勅撰9首；千載(5首220/296/599/769/1013)新勅(1250)続後撰(746)新後撰(1046)玉(2648)、  
[秋風は波とともにや越えぬらんまだき涼しきすゑの松山](千載；夏220)  
見仏上人同一説あり → 見仏(けんぶつ、?-1242、松島の聖、僧/歌人)C 1 8 9 8
- B2897 **親守**(ちかもり・大中臣おおなかとみ、初名；隆国、国親男)?-? 平安鎌倉期廷臣；従五下/神祇権少副、出家、  
大乘経書写(；古今著聞入)、千載540、  
[あられもる不破の関屋に旅寝して夢をもえこそ通さざりけれ](千載集；八540)
- C2808 **近守**(ちかもり・水野) ? - ? 三河国守、1520「宗長注釈」受(能順「愚句老葉」入)
- C2809 **親盛**(ちかもり・大西おおにし/本姓；秦)1703-1778<sup>76</sup> 山城乙訓郡稻荷下社惣官(神主)、非蔵人、  
1767従三位/78正三位、国学；荷田春満・賀茂真淵門、歌；冷泉家門、  
1732「稻荷谷響記」「稻荷社秦氏正統大系図」著、  
[親盛(；名)の号/通称]号；竹林亭、通称；相模守  
親盛(ちかもり・斎藤) → 如備子(にょいし、浪人/仮名草子作者)G 3 3 2 3

- M2898 **千萱**(ちかや・津野つ、文卿男)?-1866 飛騨高山の糸問屋;福島屋、  
国学者・歌;山崎弘泰門、  
1832(天保3)高山大火の火元となり半田村へ転居/のち帰郷し家業再開、  
[千萱(;号)の名/通称]名;義武、通称;五右衛門(父の称)、屋号;福島屋  
☆津野家;滄州一芳州一文卿一千萱ちかや一五三二(悟窓)、
- N2889 **親泰**(ちかやす・大中臣おおなかとみ、)?-? 平安鎌倉期;神職、歌:1237刊[檜葉集]2首入、  
[しのびてももの申しける女の 人のうたがふとていたくなげき侍りければいひなぐさめ、  
もの思ふそでのけしきはあやむともたれゆゑとだに人のしらずは](檜葉;恋372)
- C2810 **親康**(ちかやす・藤原ふじわら、通称;伊豆入道、致康男)?-? 鎌倉前期廷臣;1198従五下/佐渡守・伊豆守、  
九条家に出仕、歌人、摂政良経没に哀傷歌詠/1225以前に出家、慈円・明恵と親交、  
勅撰2首;新勅撰1065/1248、[明恵上人歌集の遣心和歌集]2首(高雄訪問時の詠)入、  
[身を捨てて住ばやと思ふ山の奥にあまりさびたる松の風かな](明恵歌集;4)  
[忘れては秋かとぞ思ふかたをかのならの葉わけていつる月影](新勅;1065/夏月)
- C2811 **親康**(ちかやす・丹波たんば、初名;知康/通称;丹三位、治康男)?-?1520存 医者;1491施薬院使;父継承、  
1492典薬頭/1513従三位/20出家、口中治療;1501「口歯集要」31「口中秘伝」、「口科集要」、
- C2812 **親恭**(ちかやす・松平まつだいら、松平親芳の養子)1738?-? 三河加茂郡土呂の儒者/松平君山と交流、  
宝暦1751-64頃漢詩文集編纂、1802「孤童集初篇」-03「三河吟稿」編、挙母藩士永田知章の甥、  
[親恭(;名)の字/通称/号]字;龔、通称;清左衛門、号;公偃こう
- M2820 **躬置**(ちかやす・小原おはら、旧姓;横内)?-? 江後期;信濃松本の手習の師匠、  
歌人;香川景樹(1768-1843)門、  
[躬置(;名)の通称]通称;金左衛門、屋号;升屋
- M2835 **庶康**(ちかやす・笠原かさばら、貞康男)1777-184468 陸奥仙台藩士;小姓組、国学者;父門、  
[庶康(;名)の通称/号]通称;五郎七郎、号;梅庵
- N2834 **近安**(ちかやす・春木はるき、)1838-189861 伊勢度会郡の伊勢神宮祠官、  
国学;小林真中門/二宮巖疆門  
[近安(;名)の初名/通称]初名;重明、通称;八太郎/源兵衛  
親安(ちかやす・佐藤) → 竜谷(りゅうこく・佐藤さとう/辛島、儒者) D 4 9 9 3
- 2808 **親行**(ちかゆき・源みなもと、法名;覚因、光行男)1188?-1277?90? 鎌倉期廷臣;従五下/1205左馬頭、  
式部大夫/河内守/鎌倉幕府和歌所奉行、和学者/古典研究;1255河内本源氏物語校勘、  
光行「水原抄」編、「源中最秘抄」(孫行阿の編)、「仮名文字遣」「仮名文字遣口伝」著、  
歌人;新和歌集・東撰六帖・拾遺風体集入、  
勅撰6首;続後撰(1102)続古(1607)続拾遺(552/580/835)新千載(1336)、  
季行・義行の父/知行(行阿)の祖父、  
[いたづらにゆきてはかへる年月のつもるうき身にもものぞかなしき](続後撰;雑1102)
- C2813 **親行**(ちかゆき・楊梅やまもも、親盛男/本姓;藤原)?-? 1377存 廷臣;左近中将;持明院統近臣、  
1373従三位/77出家、京極派歌人;1342持明院殿歌合(両度)参/43五四番歌合参加、  
1342-50頃花園・光厳院仙洞歌壇の和歌行事に参加、風雅集3首;850/1308/1696、  
[吹きかくるすだれもしろくなりにはけり風によこぎる夕暮れの雪](風;冬850)
- C2853 **親之**(ちかゆき・小川) ? - ? 江前期広島俳人;貞門系、1670種寛「俳諧詞友集」入、  
1674安静「如意宝珠」/76維舟「武蔵野」季吟「続連珠」/79宗臣「詞林金玉集」81似船「安楽音」入
- L2810 **親之**(ちかゆき・川副かわぞえ) ? - ? 撰津住人/狂歌;1666行風「古今夷曲集」1首入、  
[数おほふ江鮒えぬのうろこ福島の人には仕馴しなれてよい雀鮒すずめずし]、  
(夷曲集;152/撰津福島の雀鮒という名物を詠む/拭ふくと福島を掛る)
- C2814 **近之**(ちかゆき) ? - ? 俳人、1781土芳の蓑虫庵にて「雪の五節句」詠
- N2813 **近之**(ちかゆき・中神なかがみ、旧姓;小沢)1801-4242 信濃洗馬の歌人;桃沢夢宅・香川景樹門、  
小沢近房ちかふさの弟、  
[近之(;名)の通称]四郎兵衛  
近行(ちかゆき・南条) → 近行(きんこう・南条なんじょう、幕臣/儒者) H 1 6 8 5  
愛諸(ちかゆき・高橋) → 多一郎(たいちろう・高橋、藩士/尊王派) K 2 6 6 5
- C2816 **親世**(ちかよ・平たいら、親継男)?-? 鎌倉中期廷臣;正五下齋宮頭/兵部少輔、二条為氏と交流、

歌人;勅撰6首:新後撰(510/1236/1523[1272後嵯峨院追悼の詠])玉葉(2首)続千(1759)  
[墨染にさかぬもつらし山桜花はなげきの外のものかは](新後撰集;十九1523)

親世(ちかよ・蜷川) → 親俊(ちかよし・蜷川、1537改名、連歌) B 2 8 2 8

- N2819 千歌代子(ちかよこ・永井ながい、)?-? 江戸の生/国学・歌人;賀茂真淵門、  
撰津高槻藩主永井直珍(およし)(1742-70)の夫人(側室)、  
(☆直珍の正室は牧野忠周女[or本多康桓女]豊姫;登与子(とよこ)/逸姫/茂姫:歌人)
- C2817 親吉(ちかよし・平岩ひらいわ、親重男/本姓;弓削) 1542-1611 70 母;天野清右衛門女、三河坂崎の武将、  
幼少の徳川家康を助け馬廻衆/家康長男信康の傅;信康自害後幽居、家康の要請で再出仕、  
側近武将として活躍;1590上野厩橋城主/1601甲斐転封/1603家康9男義直の付家老、  
義直の尾張転封;尾張藩家老として犬山城主、従五下/主計頭、1609「山本帯刀軍法物語」、  
1610「三河後風土記」編?、「勢尾軍林風土記」「太刀吉凶見分口伝」著、  
[親吉(;名)の通称/法号] 通称;七之助、法号;平田院
- L2809 近吉(ちかよし・松江まつえ、通称;亀屋小左衛門、重頼[維舟1602-80]の弟)?-? 大坂俳人;兄門、  
1647重頼「毛吹草追加」入、狂歌;1666行風「古今夷曲集」11首入  
[茂りたる庭の柳もかゝりよしと立ちどまりける沓懸(くつかけ)の茶や](古今夷曲集;六羈旅)  
(東海道沓掛村の茶屋に蹴鞠の沓をきかせる)
- C2818 近義(ちかよし・今枝いまえだ、初名;直治/直賢/直友、直恒男) 1614-79 66 加賀藩士;家督/家老、  
前田綱紀に出仕/1675致仕、能順に源氏物語を学ぶ、別荘盧直亭で没、  
1646「今枝民部書翰写」、「今枝民部等書翰」「微妙院[利常]様御遺物之覚」著、  
[近義(;名)の字/通称/号]字;阿万/阿満/弥平次、通称;民部、号;信齋、養嗣子;直方、
- N2884 近禎(ちかよし・松平まつだいら/大給松平家、近陳2男) 1665-1725 66 母;阿部重次女、歌人、  
1705(宝永2)父の隠居;家督嗣;豊後府内藩3代藩主/親清流大給松平家7代当主、  
従五下/筑前守/相模守/阿波守/右近将監/対馬守、幕府の奏者番/寺社奉行、  
藩内の新川新港の建設・城下の火事に備えての防水路拡大建設に尽力、  
妻;松平典信女(信庸の妹)、1725(享保10)没;婿養子の近貞(1689-1757)が家督嗣、  
[まぢまちてふかくそめてんふり初むる籬は雪のよし浅くとも]、  
(1700茂睡[鳥の迹]冬471;初雪/松平将監昭貞名)、  
[近禎(;名)の別名/通称/]別名;巳之助(幼名)/昭貞/昭因/近治、  
通称;将監/筑前守/阿波守/対馬守、戒名;大智院
- C2820 近義(ちかよし・鶴沢うさむ、通称;幸七郎、容齋男) 1720-91 72 上総山辺郡清名幸谷の儒者・稲葉迂斎門、  
闇齋学を修得、「蠡笈秘録」編
- M2821 親善(ちかよし・大久保おおくぼ、親次男) 1726-83 58 常陸土浦藩士、国学者/歌人、歌約1千首;  
「淡水府君自詠和歌集稿」に入(;息大久保親脩[修]編)、[常陸国土浦大久保家文書]入
- C2821 親懿(ちかよし・北川きたがわ/初姓;坂内) 1738-1818 81 岩代会津小沼組の郷頭、医/儒;藤樹学/神道/歌、  
中野義都に修学し吉川神道と藤樹学との結合を図る、  
「寝飽草」「茶香葉奈志」著、「岡山こうざん先生示教録」編、「二見直養芳翰別録」著、  
[親懿(;名)の通称] 助三郎/助十郎/恕三/幸助、坂内親陽の父
- M2839 近宜(ちかよし・木代きしろ/本姓;藤原、) 1777-1818 42 近江彦根藩士、歌人;[彦根歌人伝・亀]入、  
[近宜(;名)の通称] 又右衛門
- L2839 親良(ちかよし・松平まつだいら、親明の長男) 1810-91 82 能美松平家12代、1825(文政8)家督を継嗣、  
豊後杵築藩9代藩主(松平市正いちのかみ家)、1826従五下/河内守/のち対馬守/大隅守、  
1842(天保13)奏者番/62中務大輔/63奏者番再任、1864(元治元)寺社奉行、従四下、  
妻;松平乗全女の成子(みなこ)、1868隠居;長男親貴が家督嗣、  
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(妻成子と共に入)、  
[山高み霞のおくに行く月の朧に残るしのめの空](大江戸倭歌;春193)、  
[親良(;名)の幼名/法号]幼名;滝之助、法号;清陵院  
親良室 → 成子(みなこ・松平まつだいら、乗全のりやす女/歌) H 4 1 6 5
- M2814 就賢(ちかよし・上野うえの、) 1812-97 86 筑前福岡藩士/歌人;渡忠秋門
- C2822 親賀(ちかよし・堀河ほりかわ/本姓;藤原、康親男) 1822-83 62 一説;親実男/康親の養嗣子、廷臣;  
母;勸修寺経逸女、1857従三位/59公家有志88卿に参加:日米条約勅諭案改刪を要請、

1861正三位/維新後は皇后宮亮/宮中勤番、「堀河親賀等書状」著

- L2876 **親愛**(ちかよし・秋保あきは、政右衛門親友の長男) 1823-1902 80 出羽鶴岡家中新町の生、  
国学;1844鈴木重胤門/1868家督嗣;出羽庄内藩士;番頭、  
禁治流馬術に長ず;1866藩主より称誉、戊辰戦争に出陣/1879隠居、  
歌人;池田玄斎門/晩年まで門人多数育成、画;川内養真斎門/琴も嗜む、服部正樹と交流、  
「日本変新録」(10冊)/「大泉五山考」「竹廼舎歌集」著、  
[親愛(;)名)の通称/号]通称;権太郎/与五郎/与右衛門、号;竹廼舎/景川斎
- C2823 **親義**(ちかよし・高崎たかさき、字;正風まさかぜ) 1836-1912 77 薩摩藩士、国学/歌・若松則文・八田知紀門、  
維新後;宮内省御歌掛/1888御歌所初代所長/國學院院長、1855「しのぶ草」序、  
[親義(;)名)の別号/通称/号]別号;豊麿/親賢、通称;左太郎/伊勢/左京、  
号;薺あさがおの舎/鶴園/鶴廼舎/鶴寿山/恩波閣/宝義堂主人/星岡
- M2830 **近義**(ちかよし・別府べつぷ、) ? - ? 江後期;伊予今治の歌人(藩士?)、  
歌;半井忠見(梧庵/1813-89)門/歌:忠見「ひなのてぶり」に21首入集、  
[かなしさは紅葉ふみわけ鳴く鹿と声聞くわれといづれまされり](鄙のてぶり)
- 親義(ちかよし・堀) → 親義(ちかひり・堀、藩主/日記) B 2 8 6 4  
親芳(ちかよし・大野) → 傘狂(さんきょう・大野おの、俳人) E 2 0 2 1  
近義(ちかよし・清水) → 浜臣(はまおみ・清水しみず、国学者/歌人) 3 6 2 4  
近義(ちかよし・仲野) → 安雄(やすお・仲野なかの、庄屋/儒・神道) B 4 5 0 1  
近義(ちかよし・小野) → 近義(ちかひり・小野おの、安藝守/旗本) L 2 8 6 9
- M2852 **親頼**(ちかよし・小山こやま、安延やすのぶ男) 1839-88 50 備前津高郡の神職;父は吉備津彦神社社家、  
一宮殿守脇番、古学・歌;平賀元義門(;)父と同門)、  
[親頼(;)名)の別号/通称]初名;隆、通称;佐総(すけふさ?) /伊豆
- C2824 **主税**(ちから・大石おおい、名;良金よしかね、良雄男) 1688-1703 切腹 16歳 赤穂生/母;りく/幼名;松之丞、  
1701播磨赤穂藩改易後;母・弟妹を連れて豊岡のち山科に転住、  
1702江戸日本橋に潜入;吉良邸討入、1703切腹;浪士最年少16歳、  
梅雨「見聞談叢」評伝入、吉之進・大三郎・くう・るりの兄
- C2825 **主税**(ちから・渡部わたなべ、名;吉賢)?- ? 江中期大阪の好事家、1741「山城めぐり」、  
1756「五参宮道之記」65「山王祭図」、「四種雑記」「社記雑集」著、  
[主税(;)通称)の号] 無棄斎/影馴(いじゆん)亭/花鈴
- L2816 **主税**(ちから・中田なかた、竹翁軒)?-? 1772(:70歳) 存 和漢学者/儒;加藤空山門、  
1769随筆「雑交苦口記まぜこぜにがぐちき」著(3巻)
- C2826 **主税**(ちから・塩屋しおや) 1717 - ? 江中期陸奥五所川原の和算家;独学、「諸算清伝記」著
- N2851 **主税**(ちから・正岡まさおか、本姓;越智)?-1783 伊予風早郡正岡村の神官、歌人、  
[主税(;)通称)の名/別通称]名;重克(しげかつ、別通称;丹後守/甲斐守/若松
- C2827 **主税**(ちから・渡辺わたなべ) ? - ? 江後期大坂天満宮の神主、  
1790著書「五百介図并辨」を紀州藩主に献上
- C2828 **知可良**(ちから・吉川きつかわ) 1779-1855 越後南魚沼郡六日市の修験者/幼時両親に死別、  
祖母に養育される/海運に句点を学習/のち京住;俳諧を修得、原沢李朗・高橋古棠の師、  
嘉永1848-54頃米艦渡来時に道衆数百人と葛城嶺上で天下泰平武運長久を祈祷、  
囲碁・插花を嗜む、「俳諧摘要」「附合略式」著、  
[知可良(;)号)の別号] 松民/栗の本/雪巢(せつそう)
- C2829 **主税**(ちから・中村なかむら) ? - ? 秋田藩士/代々勘定奉行、関流和算;馬場錦江門/1839免許、  
のち関流和算皆伝、1841「関流皆伝証状」受/43「関流算術伝書入記」
- C2830 **主税**(ちから・鈴木すずき、名;重栄、海福かいふく正敬男) 1814-56 43 鈴木長恒の養嗣;1837家督;福井藩士、  
町奉行/寺社奉行/側締役、藩政刷新に功績;町民から世直明神と称され祀られる、  
儒;前田梅洞・清田丹蔵門、「小桜軒詠草」、1847「弘化四年御用日記」著、  
[主税(;)通称)の幼名/字/号]幼名;小三郎、字;叔華、号;純淵/鑾城(らんじょう)、法号;純淵斎  
力(主税ちから・城所/成瀬) → 正観(まさみ・成瀬/城所、藩士/儒者) H 4 0 3 7  
主税(ちから・保科) → 正静(まさやす・保科ほしな、幕臣/記録) I 4 0 0 3  
主税(ちから・松本) → 尚綱(なおあや・松本、家老/儒者) 3 2 6 8

主税(ちから・安藤) → 重博(しげひろ・安藤あんど、藩主/連歌) S 2 1 4 4  
 主税(ちから・狩野) → 岑信(みねのぶ・狩野かのう、幕府奥絵師) F 4 1 5 2  
 主税(ちから・柳沢) → 吉保(よしやす・柳沢/源/松平、藩主/歌) H 4 7 7 5  
 主税(ちから・玉井) → 貞衛(さだもり・玉井たまのい、藩家老/日記) J 2 0 9 8  
 主税(ちから・斎藤) → 定易(さだやす・斎藤/大坪、馬術家) K 2 0 0 4  
 主税(ちから・中田) → 主税(しゅぜい・中田、随筆) I 2 1 8 2  
 主税(ちから・檜垣) → 常典(つねのり・檜垣/度会わたらい、神職) D 2 9 1 4  
 主税(ちから・鹿島) → 則峰(のりみね・鹿島かしま/中臣/富田、神職) F 3 5 9 1  
 主税(ちから・井上) → 正長(まさなが・井上いのうえ、藩主/記録) F 4 0 2 4  
 主税(ちから・松本) → 龍沢(りゅうたく・松本まつもと、書家) F 4 9 1 4  
 主税(ちから・井上) → 蘆洲(ろしゅう・井上いのうえ、儒者/易学) B 5 2 7 2  
 主税(ちから・細川) → 宣紀(のぶのり・細川ほそかわ、藩主/詩人) C 3 5 7 2  
 主税(ちから・松平) → 頼寛(よりひろ・松平まつだいら、藩主/儒家) J 4 7 6 5  
 主税(ちから・山澄) → 英貞(ひでさだ・山澄やまざみ、藩士/故実) D 3 7 0 4  
 主税(ちから・池田) → 継政(つぐまさ・池田いけだ、藩主/歌人) 2 9 8 5  
 主税(ちから・西川) → 祐尹(すけただ・西川にしかわ、絵師/絵本) G 2 3 4 0  
 主税(ちから・中嶋) → 信敬(のぶのり・中嶋、幕臣/文筆) C 3 5 7 6  
 主税(ちから・芝崎) → 好高(よしたか・芝崎しばさき/平、神職/国学) N 4 7 3 3  
 主税(ちから・芝崎) → 好寛(よしひろ・芝崎しばさき、好高男/神職/国学) N 4 7 3 2  
 主税(ちから・橋村) → 正冬(まさふゆ・橋村/度会、神職/歌人) R 4 0 7 3  
 主税(ちから・橋村/荒木田) → 久老(ひさおゆ・荒木田/度会、神職/国学) 3 7 0 5  
 主税(ちから・土井) → 利往(としゆき・土井どい、幕臣/故実家) O 3 1 1 2  
 主税(ちから・土屋) → 英直(ひでなお・土屋つちや、藩主/歌人) D 3 7 3 9  
 主税(ちから・永岡) → 久宜(ひさよし・永岡ながおか、神職/歌人) C 3 7 1 8  
 主税(ちから・福田) → 明(あきら・福田ふくだ、数学者) E 1 0 2 4  
 主税(ちから・前田/藤波) → 氏守(うじもり、藤波/荒木田、神職/歌) B 1 2 3 5  
 主税(ちから・鷹羽) → 雲涼(うんそう・鷹羽たかは、藩士/詩人) B 1 2 8 6  
 主税(ちから・鎌原) → 桐山(とうざん・鎌原かんばら、藩士/儒者) E 3 1 6 2  
 主税(ちから・岩出) → 信綿(のぶつら・岩出いわで/源、幕臣/歌) G 3 5 6 0  
 主税(ちから・林) → 罔雄(国雄くにお・林、国学者/狂歌) C 1 7 6 5  
 主税(ちから・林) → 毛川(もうせん・林はやし、藩士/藩政改革) 4 4 5 9  
 主税(ちから・林) → 春郷(はるさと・林はやし/児玉、藩士/歌) K 3 6 6 6  
 主税(ちから・鈴木) → 新蔵(しんぞう・鈴木、医者) P 2 2 2 1  
 主税(ちから・田内) → 親輔(ちかすけ・田内たのうち、藩士/儒者) B 2 8 0 4  
 主税(ちから・杉本) → 祐憲(すけのり・杉本/平、儒詩/歌人) G 2 3 9 4  
 主税(ちから・小沢) → 郷助(ごうすけ・小沢おざわ、儒/兵学者) K 1 9 0 3  
 主税(ちから・岡崎) → 良梁(りょうりょう・岡崎おがさき、兵法家) J 4 9 6 5  
 主税(ちから・広瀬) → 宗栄(むねよし・広瀬/内海、藩士/心学) C 4 2 8 9  
 主税(ちから・戸田/岡部) → 豊常(とよつね・岡部/戸田、幕臣) R 3 1 3 2  
 主税(ちから・森本) → 菅彦(すがひこ・森本/紀、国学者/歌) F 2 3 8 7  
 主税(ちから・高屋) → 種彦(初世たねひこ・柳亭、高屋知久、旗本/戯作) 2 6 4 3  
 主税(ちから・細井) → 中台(ちゅうだい・細井/宇野、儒者) G 2 8 6 1  
 主税(ちから・池田) → 光重(みつげ・池田いけだ、藩士/詩歌) L 4 1 1 9  
 主税(ちから・成瀬) → 正敦(まさあつ・成瀬なるせ、藩士/記録) B 4 0 1 8  
 主税(ちから・成瀬) → 正居(まさやす・成瀬、正敦男/藩士/記録) B 4 0 2 3  
 主税(ちから・鎮西) → 榎の屋(もみのや、鎮西ちんせい清宣、神職/国学) E 4 4 9 6  
 主税(ちから・石塚) → 資梁(すけやな・石塚いしづか、神職/歌人) L 2 3 4 0  
 主税(ちから・上平) → 長矩(ながのり・上平うへひら、神職/歌) L 3 2 2 8  
 主税(ちから・占部) → 長世(ながよ・占部うちべ/和泉、神職) L 3 2 3 3  
 主税(ちから・榎倉) → 石根(いわね・榎倉えのくら、神職/国学/歌) K 1 1 0 1

主税(ちから・近藤) → 弘記(ひろぶみ・近藤こんどう、神職/国学) J 3 7 6 2  
 主税(ちから・前川) → 磐夫(いわお・前川/藤原、神職/国学) K 1 1 6 6  
 主税(ちから・竹村) → 景久(かげひさ・竹村たけむら/橘、藩士/国学) U 1 5 9 7  
 主税(ちから・志自岐) → 小楯(おたて・志自岐じじき/鎌奥、藩士/歌) D 1 4 9 5  
 主税(ちから・田内) → 穂波(ほなみ・田内たのうち、藩士/随筆) G 3 9 2 5  
 主税(ちから・土岐) → 光秋(みつあき・土岐とき、藩士/国学者) J 4 1 8 1  
 主税(ちから・中山) → 英成(ひでなり・中山なかやま、神職) K 3 7 4 0  
 主税(ちから・久松) → 貞居(さだおき・久松ひさまつ、藩重臣/歌人) P 2 0 1 9  
 主税(ちから・松尾) → 宗甫(むねとし・松尾まつお、藩医/国学/歌) E 4 2 2 6  
 主税(ちから・内藤) → 信起(のぶおき・内藤ないとう/藤原、神道家) J 3 5 3 1  
 主税(ちから・宮崎) → 元胤(もとたね・宮崎みやざき/安曇、神職/国学) L 4 4 5 6  
 千賀良(ちから・青井) → 水雄(みずお・青井あおい、神職) H 4 1 9 8  
 主税介(ちからのすけ・稲葉) → 正倚(まさより・稲葉いなば、幕臣/歌人) I 4 0 8 1  
 主税助(ちからのすけ・庵原) → 朝成(ともなり・庵原/廬原いおはら、史学者) P 3 1 5 5  
 主税助(ちからのすけ・庵原) → 朝明(ともあき・庵原いほら/:源、家老/歌) U 3 1 1 4  
 主税助(ちからのすけ・松室) → 眞雄(まさお・松室まつむろ/秦、国学/歌) L 4 0 8 9  
 主税之助(ちからのすけ・松平) → 忠敏(ただとし・松平、幕臣/歌人) Q 2 6 0 8

M2878 千川(ちかわ・高橋たかはし、清義すがよし男) 1827-1902 76 出雲出雲郡国富の国学者/神学者、  
 1838(12歳)父(国学者/出雲楯縫郡美談村美談神社神職)没;母が育成;初め国学を独学、  
 のち国学;1856千家尊澄門、大社教の普及に尽力;三神講を創設、  
 1869(明治2)都武自つむじ神社祠官/1890(明治13)教会講社創設、敬神尊王愛国を主唱、  
 1万余の信徒を結集;社会教育に尽力、奇抜な学説で奇行逸話も多い、  
 姉;登起とき(宍道幸雄の妻)、門弟の伊支夫(1850-1922/妻は幸雄女)を養子とす、  
 歌;1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入、  
 [千川(;号)の名/通称/号]名;義武よしたけ(:遠江藤原義武と称す)、通称;左丸/遠江、  
 号;美田美(;維新後)/のち千川

C2834 智侃(ちかん;法諱・直翁ちよくおう/じきおう;道号、俗姓;源) 1245-1322 78 上州の僧;幼時に出家、  
 初め天台真言を修学/臨濟僧;建長寺蘭溪道隆門、2度入宋、東福寺の円爾門;法嗣、  
 1306豊後万寿寺開山/10東福寺10世;11退隱、晩年は万寿寺住;没、  
 「仏印禪師直翁和尚語録」著、「仏印禪師直翁和尚塔銘」(椿庭海寿編)、  
 [直翁智侃の号/諡号]号;正智坊、諡号;仏印禪師

C2831 知鑑(ちかん;法諱、俗姓;奥津) 1606-78 73 駿河の浄土僧;知童門、関東諸檀林で修学、  
 1651川越の蓮馨寺住職、飯沼弘経寺/鎌倉光明寺住職/63知恩院37世、  
 1674退隱;伊勢山田清雲院住、「十八通講録」「西方両訳略註」/1678「十八通抄事理縦横鈔」著、  
 [知鑑(;法諱)の法名]信蓮社玄譽/忠阿/寂照

C2832 智寛(ちかん;法諱) ? - ? 江中期天台僧、1730江戸東叡山勸学校院に修学、  
 「法華玄義釈籤示処」著

C2833 智観(ちかん;法諱、号;行光房) 1710-? 1761[52歳]存 天台僧;叡山西谷相住坊住/のち行光坊住、  
 1748「三王正遷宮日次記」52「有徳院殿小祥御忌正日胎曼供法則」61「両会三百帖問答」著、

M2886 智観(ちかん;法諱、号;竜津) 1752-1832 81 紀伊日高郡の真宗本願寺派源行寺住職、西阿門

M2887 智観(ちかん;法諱、) 1777 - 1801 早世 25 近江浅井郡源照寺住職9世、

知寛(ちかん・長坂/犬甘) → 知寛(ともひろ・犬甘いぬかい/長坂、家老) Q 3 1 4 5

智観(ちかん・儀善房) → 孝道(たかみち・藤原ふじむら、廷臣/楽人) D 2 6 8 0

智寛(ちかん;字) → 日宣(にっせん;法諱・英智院、日蓮僧) E 3 3 8 0

智寛(ちかん・市岡) → 智寛(ともひろ・市岡、役所手代/博物学) Q 3 1 4 4

智閑(ちかん;法名) → 貞秀(さだひで・蒲生/藤原/和田、豪族/歌・連歌) G 2 0 1 1

智閑(ちかん;字) → 日達(にちだつ;法諱・本昌院、日蓮僧) C 3 3 8 6

智観(ちかん;字、智観院) → 日顕(にちけん;法諱・智観院、日蓮僧) B 3 3 5 9

知還(ちかん・川口) → 信友(のぶとも・川口/都筑、幕臣) C 3 5 4 0

C2835 智巖(ちがん) ? - ? 1797 存 曹洞宗僧、量外寛江門、1797「寛江和尚語録」編

- 知丸(ちがん・鈴鹿) → 荃石(せんせき・鈴鹿すずか、俳人) M 2 4 7 6  
 智岸(ちがん;法諱・律宗僧) → 日灯(にっとう;法諱・慧明、日蓮僧) F 3 3 4 0  
 智顔白逢(ちがんはくほう) → 白逢(はくほう;法諱・智顔;道号、曹洞僧) D 3 6 9 1  
 智還老人(ちかんにろうじん) → 政行(まさゆき・三島、幕臣/地誌) I 4 0 3 0
- C2836 知幾(ちぎ) ? - ? 江中期俳人、  
 1711素堂「とくとくの句合」両吟五十韻入
- C2837 智暉(ちぎ;法諱・大幻[大玄]だいげん;字、号;空々庵) 1717-8468 播州三草村の真言僧、  
 明石宝蔵寺で出家;瑜伽を学習/京智積院で顕密を・西明寺で毘尼蔵を修学、  
 顕密の奥旨;蓮華寺曇寂門、山城春日寺・播磨小山寺を開山、播州の法楽寺で典籍校訂、  
 「大幻録」「大日経疏同異」/1756「大日経疏玄談」著
- 治紀(ちぎ・徳川) → 治紀(はるとし・徳川、藩主/歌人) G 3 6 5 8  
 知幾(ちぎ・駒沢) → 義治(よしはる・駒沢こまさわ、歌人) K 4 7 6 8  
 知機(ちぎ・藤塚) → 函書(ずしょ・藤塚ふじつか/源、神職) D 2 3 7 8  
 知義(ちぎ)すべて → 知義(ともよし)  
 知宜(ちぎ・酒井) → 知宜(ともよし・酒井さかい、文筆家) Q 3 1 9 6  
 智義(ちぎ・金田) → 智義(ともよし・金田かねた、国学者/地誌) Q 3 1 9 5  
 知幾軒(ちぎけん・大田) → 友悦(ゆうえつ・大田おおた、医者/俳人) 4 6 7 3  
 池岐山子(ちぎさんし) → 岐山(きざん・昇亭/池、読本作者) K 1 6 6 3  
 痴客(ちぎやく・谷頭) → 溟南(めいなん・谷頭やがしら、藩士、儒者) 4 3 3 2
- C2838 知及(ちぎゆう) ? - ? 俳、1690不角「二葉之松」入  
 [胸の火に君かよひぢの雪解けよ](二葉之松;449・前句;あまり淋しく文の徒書むだがき)
- 智鳩(ちぎゆう;字) → 日達(にちたつ;法諱・了義院、日蓮僧) C 3 3 8 4  
 致休(ちぎゆう・保科) → 政経(まさつね・保科ほしな、藩主/能書家) E 4 0 0 7
- C2839 知牛(ちぎゆう) ? - ? 伊丹俳、1699鬼貫「仏の兄さとのえ」入、  
 1702母没;鬼貫が追悼句(仏兄七久留万入)、02轍士「花見車」名入
- 地球先生(ちぎゆうせんせい) → 迂堂(うどう・眞山まやま、儒者/地理) D 1 2 2 0  
 知居(ちぎよ・大塚) → 山楽(さんらく・隣柳庵りんりゅうあん、盆景師) E 2 0 7 9
- C2840 智経(ちぎよう;法諱) ? - ? 平安後期僧;大法師/歌人;  
 1170住吉社歌合/72広田社歌合参加、  
 [すみよしの浜松が枝えを越す波に月のしらゆふかけそへてけり]、  
 (住吉歌合;十六番右32/判者;俊成)
- C2841 智教(ちぎよう;法諱・恵照えしょう;字) 1715-179177 越後蒲原郡国上の真宗仏光寺派清伝寺の生、  
 宗学:江戸下谷別院に修学/京で修業;講師・学頭・法橋・権僧都、大阪別院輪番、清伝寺住職、  
 1772「浄土和讃精義」81「一向専修答問記」、「讃仏偈講録」著、  
 [智教(;法諱)の別法諱/号]別法諱;智敬/慧教えきよう/智照/赫照かくしょう、  
 号;蒲原、諡号;法光院
- C2842 致郷(ちぎよう) ? - ? 俳人;1777蕪村「夜半楽」入(1777安永丁酉春歌仙参加)、  
 [着つゝなれて犬もとがめぬ裘かほごも](夜半楽;安永歌仙13)  
 (前句;門をたゝけば隣家に声す 帯川)
- C2843 智鏡(ちぎよう) ? - ? 近江伊香郡の真宗大谷派覚勝寺住職、  
 「学窓随筆」「十二礼纂要」著
- L2856 智匡(ちぎよう・鈴木すずき、名;ともたか?・ともただ?・ともまさ?) ?-? 江後期;歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [松に残る峰の嵐の音絶えてしぐれ跡なく晴るる空かな](大江戸倭歌;冬1068/時雨晴)
- 智鏡(ちぎよう;剃髪号) → 園女(そのめ/そのじよ・斯波/秦、俳人/歌) 2 5 2 7  
 智教(ちぎよう;字) → 日随(にちずい;法諱・大乘院、日蓮僧) C 3 3 5 6  
 知教(ちぎよう・茂木) → 知教(ともり・茂木もてき、藩士/歌人) Q 3 1 2 5  
 知郷(ちぎよう・志野) → 知郷(ともさと・志野しの、藩士/和算家) P 3 1 5 1  
 知郷(ちぎよう/ともさと・堀内) → 匡平(まさひら・堀内、庄屋/国学/勤王) G 4 0 8 5  
 致恭(ちぎよう・天野) → 致恭(むねたか・天野あまの/藤原、旗本/歌) 4 2 5 1

致恭(ちきょう・岩本) → 正謙(まさかた・岩本いわもと、藩士/歌人) N 4 0 8 6  
 致矯(ちきょう・羽生) → 凌雲(りょううん・羽生はにゅう、医者) G 4 9 3 9  
 稚教(ちきょう・木村) → 晴好(はるよし・木村きむら、藩士/国学) K 3 6 0 7  
 知堯(ちぎょう・佐野) → 監物(けんもつ・佐野、真言僧/郷土史家) M 1 8 4 9  
 地形方丸(ちぎょう→ちがたのかたまる) → 堅丸(方丸かたまる・地形堂ちがたどう、狂歌) N 1 5 0 9  
 智京房(ちきょうぼう) → 覚為(かくい;法諱、天台僧/歌人) B 1 5 3 4  
 知仰楼(ちぎょうろう・北本) → 栗(りつ・北本きたもと/石黒、和算家) B 4 9 5 4  
 智旭(ちきよく;法諱) → 道応(どうおう;法諱・義霊;字、真言僧) B 3 1 6 3  
 致曲庵(ちきよくあん) → 逸志(いっし・木村、俳人) B 1 1 4 3  
 ちきり屋三左衛門(ちきりやさんざえもん) → 三枝(さんし・猪飼、華道家) M 2 0 2 6  
 遅吟(ちぎん・片桐) → 源一(げんいち・片桐かたぎり、歌人) H 1 8 7 0  
 竹(ちく・鮎川) → 昌行(まさゆき・鮎川あゆかわ、兵法家) I 4 0 2 1  
 畜(ちく・矢部) → 畜(おさむ・矢部やべ、歌人) D 1 4 0 8

C2845 **竹阿**(ちくあ・小林) 1710 - 1790 81歳 常陸の俳人/江戸で:葛飾派2世馬光門、一茶の師、  
 1751「続五色墨」共編;宗家素丸2世を支援、51西国行脚;73大阪近郊東高津村に結庵、  
 二柳らと浪花俳壇再興に尽力/87江戸に帰る、1750「ことふく」編/51馬光追善「松の答」編、  
 1757「古衾ふるぶすま」編/68「明和後年歳旦集」編、「俳諧還暦集」編/「蕉門修行篇」、  
 「其日ぐさ」(遺文集)、一茶筆録「花見の記」附録に遺吟75章所収、  
 [埋火や臍々おぼろおぼろと老ごごろ](杖の華)

[竹阿(;号)の通称/別号]通称;楽斎、別号;初世二六庵/北窓庵/北窓人/竹零ちくだ

C2846 **竹庵**(ちくあん;道号・大縁だいえん;法諱) 1362-1439 78 臨濟僧;登山法廉門;法嗣、東福寺114世、  
 建仁寺129世/天竜寺73世/南禅寺119世/1433東福寺護福庵に退去/36備中願心寺に隠棲、  
 1432「南山和尚行実」33「広智国師行状」著、横川景三編「百人一首」に詩入

C2847 **竹庵**(ちくあん) ? - ? 俳人、乗邨[しょうそん1766-1846]の師

C2848 **竹庵**(ちくあん・広瀬ひろせ、名;可行よしゆき)?-? 江後期蘭学者;高松藩校講道館洋学教授/詩文、  
 1854「亜米利加総記」訳、

[竹庵(;号)の字/別号]字;達、別号;雲竹小居

竹庵(ちくあん) → 昌琢(しょうたく・里村;南家、連歌師) 2 2 8 6  
 竹庵(ちくあん) → 務廉(ながかど・福田/坂倉、幕臣/国学) D 3 2 4 7  
 竹庵(ちくあん) → 什安(じゅうあん・大田おた、医者) G 2 1 7 2  
 竹庵(ちくあん) → 栄濟(えいさい・今枝いまえだ、本草家) C 1 3 7 6  
 竹庵(ちくあん・細川) → 昌庵(しょうあん・細川ほそかわ、医者/俳人) V 2 2 2 1  
 竹庵(ちくあん) → 堅(かたし・源みなもと、歌人) M 1 5 9 3  
 竹庵(ちくあん) → 高尚(たかなお・藤井/大中臣、神職/歌学) 2 6 1 3  
 竹庵(ちくあん) → 晴斎(せいさい・大田おた、儒者) I 2 4 3 6  
 竹庵(ちくあん) → 敬重(たかしげ・平岡ひらおか、歌人) Z 2 6 2 4  
 竹庵(ちくあん・西川) → 吉輔(吉介よしすけ・西川ししかわ、国学者) D 4 7 8 0  
 竹庵院(竹菴院ちくあんいん) → 日可(にっか・宜翁、日蓮僧) D 3 3 7 3  
 竹意庵(ちくいあん) → 黄山(こうざん・吉原よしはら、藩士/俳人) B 1 9 2 1  
 竹意庵(ちくいあん) → 東海(はるみ・吉原、黄山男/俳人/書家) K 3 6 9 6  
 竹逸(ちくいっ・武田) → 行忠(ぎょうちゅう;法諱、真宗僧/詩歌) O 1 6 3 1  
 竹渭堂(ちくいどう) → 何中(かちゅう・十河、俳人) F 1 5 3 5

C2849 **竹隠**(竹蔭ちくいん・轟とどろき/初姓;外山/本姓;穂積、名;道機)?-1730 医者;1693尾張藩医、  
 1703命により轟に改姓/1711致仕、1708「医家秘韞いかにん」、「鶴林医綱」「無名医書」著、  
 [竹隠(;通称)の法号] 竹隠海量道涵

C2850 **竹陰**(ちくいん・藪内やぶのうち、名;宗堅) 1727-1800 74 京の茶人;安富常通門/藪内流5世竹心の養子、  
 藪内流6世襲名/禅茶一味論主唱、歌・作陶・書画を嗜む、1790利休2百回忌催、  
 1787「潔茶」、「茶法口義」著、息子3男珍牛斎は江戸藪内流を開く、  
 [竹陰(;号)の字/別号]字;子冰、別号;紹智6世/比老斎/雲脚子/雲疇道人  
 養父 → 竹心(ちくしん・藪内やぶのうち、茶人) D 2 8 2 3

- C2851 **筑陰**(ちくいん・松下まつた、名;夷、源助男)1764-1810<sup>47</sup> 松下元丈の養嗣子、医者/儒;久留米藩士、久留米藩講談所出仕/1789五人扶持/90出奔;豊後日田で開塾/94招聘され豊後佐伯藩儒、「窈窕編」「梅祥送稿」著、広瀬淡窓・僧雲華らの師、  
[筑陰(;)の字/通称/別号]字;世民、通称;勇馬/文之進/震左衛門/佐右衛門、別号;西洋
- C2852 **竹陰**(ちくいん・篠崎しのぎ/初姓;加藤、名;槩がい、篠崎小竹養嗣子)?-1858:50<sup>余歳</sup> 江戸の儒者;古賀侗庵門/のち大阪の篠崎小竹門;女婿となり家学継承、「篠崎竹陰詩稿」「竹陰文稿」著、「訥堂文稿」「小竹先生行状記」「小竹竹陰書簡」、「綱鑑易知録」校訂/1854「小竹斎和文章」書、  
[竹陰(;)の字/通称/別号]字;公槩、通称;、別号;訥堂/武江
- 竹陰(ちくいん・菅/久松) → 風陽(ふうよう・久松/菅原、幕臣/尺八) B 3 8 0 7  
 竹陰(ちくいん・鳥谷) → 美教(よしのり・鳥谷からすや、神職/歌人) M 4 7 3 1  
 竹蔭(ちくいん・黒沢) → 道形(みちかた・黒沢/二階堂、郷土史家) B 4 1 3 4  
 竹蔭(ちくいん・蜂谷) → 光泰(みつやす・蜂谷はちや、藩士/歌人) K 4 1 0 8  
 竹隠(竹陰ちくいん・上田) → 宗箇(そうこ・上田うさだ、家老/茶人) H 2 5 2 0  
 竹隠(ちくいん・宇佐美) → 良永(よしなが・宇佐美うさみ/大関、兵学者) F 4 7 2 8  
 竹隠(ちくいん;号) → 眞淳(しんじゅん;法諱、真宗高田派僧) O 2 2 7 9  
 竹隠(ちくいん) → 祇徳(初世ぎとく・仲、札差/俳人) B 1 6 6 0  
 竹隠(竹陰ちくいん) → 堅(かたし・源みなもと、歌人) M 1 5 9 3  
 竹隠(ちくいん・竜たつ/たつの) → 公美(きんえ・龍りゅう・たつ、詩歌) E 1 6 8 7  
 竹隠(ちくいん・畠山) → 泰全(たいぜん・畠山、実録/軍記作者) B 2 6 7 7  
 竹隠(ちくいん・榎田) → 北岸(ほくがん・榎田/平、儒医/詩人/花) C 3 9 9 8  
 竹隠(ちくいん・山部) → 懋徳(よしのり・山部やまべ、国学者) P 4 7 9 2  
 竹院(ちくいん・長川ながかわ) → 東洲(とうしゅう・長川、儒者) E 3 1 9 8  
 竹隠斎(ちくいんさい) → 泰全(たいぜん・畠山、軍記作者) B 2 6 7 7  
 竹隠斎(ちくいんさい) → 敬輔(けいほ・高田、商人/絵師) G 1 8 1 7  
 竹隠主人(ちくいんしゅじん) → 八水(はつすい・梨守庵、俳人) F 3 6 2 5  
 竹陰亭(ちくいんてい) → 芳麿(よしまる・福居ふくい/藤原/膝、幕臣/蝦夷探検) H 4 7 2 3  
 竹陰亭草人(ちくいんていそうじん) → 栄雄(ひでお・辺見へんみ、国学者) K 3 7 9 2
- C2854 **竹宇**(ちくう;号) ? - ? 江中期京の俳人;好春・仙鶴門、其角・嵐雪・沾徳・沾洲らと交流;上方と江戸との俳壇連携に尽力、1706「並松」07「花すゝき」編、26「東武紀行」著
- C2855 **知空**(ちくう;法諱・唯称/覚雲;字、俗姓;仲村)1617-80<sup>64</sup> 京の律宗僧;1630(14歳)出家、1634法華玄義を講ず、俱舎天台;西教寺良澄門/戒律;法隆寺了性門/法華經;同観音院高栄門、高野山で秘密灌頂法を受、法隆寺勸学院で俱舎を講ず、1658壬生寺に安養庵を結庵、律師、「諫母草」「自警集」「念死念年集」著
- C2856 **知空**(ちくう;法諱・性応;字、俗姓;渡辺、真覚寺明性男)1634-1718<sup>85</sup> 京栗田口真宗本願寺派学僧、1648(15歳)得度/宗乗;西吟門/鎮西義;露道門/西山義;談笈門、学頭として学林再興、1660京六条に光隆寺を開き住職/1663西吟没後能化2代;能化職50年間、講学興隆に尽力、異安心邪説の糾明に努力、1664「鷲森含毫」66「金鑰記」1713「南窓塵壺」14「蓮窓塵壺」、「北海紀行」「往生論註翼解」「和讃思齊記」「三帖和讃思齊記」「真宗伝燈録」外著多数、  
[知空の号] 大可/大可子/臥雲閣/臥雲叟、諡号;演慈院
- C2857 **知空**(ちくう;法諱) ? - ? 江後期真言僧、紀伊法福寺住職、「老人案録」1825「取要決」
- C2858 **智空**(ちくう;法諱) ? - ? 1741<sup>存</sup> 叡山西谷行光房の天台僧、「寛保元年御修法記」
- C2859 **癡空**(ちくう;法諱、俗姓;高橋)1780-1862<sup>83</sup> 近江滋賀郡仰木村の天台僧;1789出家;叡山安楽律院覚忍門、大雲の法嗣、諸師より八斎戒両部灌頂を受/俱舎論;性脱門、安楽律院仁海により形同沙弥、1812-17(6年間)江戸東叡山浄名律院で法華玄義を講義、1818叡山大阿闍梨、紀州粉河の十禅院の開山、浄名律院還住/輪王寺法親王の侍読、「義学接要」「義学接要後篇」「受戒法要」、1855「得魚忘筌録」61「法華玄義記講義」外著多数、  
[癡空の字/号]字;慧澄えちよう、号;愚谷ぐく
- M2804 **知空**(ちくう・石橋いばし、弥兵衛2男)1814-1900<sup>87</sup> 江戸の豪商の生/国学;前田夏蔭門、

歌;小山田与清・橘守部・本間游清・井上文雄門、尾張名古屋中市場に移住、  
 国学;植松茂岳門、高野山に行脚/出家修行:法印、  
 1834(21歳)尾張末森の入舟山に通世;終生この地で修行、狂歌作者;「俳諧歌十哲集」編  
 [知空(;名)の別名/通称/号]別名;伊三郎(幼名)/年和としかず/年古/友数/寿、通称;榮藏、  
 号;慈舟/蘿窓らそう/松園/蝠翼ふくよく/如醉軒、狂歌号;寿庵ことぶきあん広貞ひろさだ、  
 法号;良照院慈雲知空居士/墓碑銘;蘿城乃奥城

知空(ちくう;号) → 臥雲(がうん;法諱、浄土宗西山派僧) J 1 5 2 0  
 知空(智空ちくう;号) → 甫叔(ほしゅく;法諱、浄土宗西山派僧) E 3 9 2 4  
 智空(ちくう;号) → 白菴(はくりゅう;法諱、浄土僧/歌人) L 3 6 1 4  
 竹有(ちくう) → 塊翁(かいおう、竹内、俳人) 1 5 9 0  
 竹雨(ちくう) → 巴人(はじん・早野、宗阿、俳人) 3 6 1 8  
 竹雨(ちくう・箕作) → 阮甫(げんぼ・箕作みつくり、蘭学者/幕臣) D 1 8 0 3  
 竹塙(ちくう・佐藤/藤) → 竹塙(ちくお/ちくう・佐藤、儒者) C 2 8 6 2  
 竹塙(ちくう、俳人) → 竹塙(ちくお、雑俳点者) C 2 8 6 3  
 竹塙(ちくう・服部) → 竹塙(ちくお・服部/勝田、儒者/詩人) C 2 8 6 5  
 竹塙(ちくう・下条) → 竹塙(ちくお・下条/千村、医者) C 2 8 6 6  
 竹塙(ちくう/ちくお・岡島) → 安斎(あんさい・岡島、儒者) D 1 0 1 1  
 竹塙(ちくう・築山) → 築山(らくざん・築山つきやま、絵師) B 4 8 1 5  
 竹塙(ちくう/ちくお・賀藤) → 景林(かげしげ・賀藤かとう、藩士/詩人) K 1 5 8 9  
 竹塙(ちくう/ちくお・小川) → 汶庵(ぶんあん・小川、幕府医者) E 3 8 7 6  
 竹雨斎(ちくうさい) → 東庵(とうあん・青木/本姓;余、儒者/詩) 3 1 7 6  
 竹雨主人(ちくうしゅじん) → 嘯台(しょうだい・宮田/田、酒造業/詩人) K 2 2 7 2

C2860 **竹雲**(ちくうん・山本やまもと、名;戈/勇)1820-8869 備前児島郡味岡生/高松遊学;篆刻家;細川林谷門、  
 上京/儒;篠崎小竹門/茶人;煎茶に通じ茶器鑑定にも精通、福井に遊歴;門弟多数指導;  
 足羽山に門流文房流の記念碑あり、「消夏偶興」著、  
 [竹雲(;号)の字/堂号]字;中立、堂号;深竹軒/夢硯堂むげんどう

竹雲(ちくうん・依田) → 誠廬(せいりょ・依田よだ、儒者) D 2 4 2 1

C2861 **竹烟**(ちくえん・坂上さかがみ)1795-186268 上州草津の俳人;京の鳳朗門、諸国行脚、  
 竹烟社を創立;海野孤峰・土屋寄堂らの師、1841「水鶏笛集」著、  
 [竹烟(;号)の通称/別号]通称;治左衛門、別号;一夏庵

竹園(ちくえん・森) → 為泰(ためひろ・森、千竹園、国学/歌人) H 2 6 3 8  
 竹園(ちくえん・市川) → 眞風(まかぜ・市川/藤原、幕臣/国学) 4 0 5 0  
 竹園(ちくえん・小川) → 眞澄(ますみ・小川おがわ、里正/歌人/茶) O 4 0 0 6  
 竹園(ちくえん・小川地) → 喜広(きひろ・小川地おがわち、神職) G 4 7 6 5  
 竹園(ちくえん・大堀) → 正輔(まさすけ・大堀おおほり/源、藩士/歌) O 4 0 4 5  
 竹園(ちくえん・木内) → 千尋(ちひろ・木内きうち、理髪/歌人) M 2 8 3 8  
 竹園(ちくえん・高見) → 祖厚(そこう・高見たかみ、藩士/国学/書) L 2 5 0 4  
 竹園(ちくえん・深川) → 水貫(みづら・深川おがわち、国学/詩歌) K 4 1 3 0  
 竹園(ちくえん・水内) → 千尋(ちひろ・水内みづうち、国学者) N 2 8 6 1  
 竹円房(ちくえんぼう;号) → 宗淵(しゅうえん;法諱、天台僧/声明) G 2 1 8 6

C2862 **竹塙**(ちくお/ちくう・佐藤さとう/修姓;藤、名;筠いん/直方)1647-170862 越後の浪人/儒;江戸で林家門、  
 1671熊本藩主細川綱利の侍講;禄3百石/新組定御供、剃髪/還俗、94物頭列/1707致仕隠居、  
 「竹塙文稿」「続竹塙文稿」「竹塙先生行余漫吟前集」著、  
 福山藩儒佐藤直方[1650-1719]は別人、  
 [竹塙(;号)の字/通称/別号]字;之有/之有甫、通称;春竹(;剃髪時)/半七(;還俗後)、  
 別号;兼山/北海、安節(;隠居号)、直房の父

C2863 **竹塙**(ちくお) ? - ? 俳人;雑俳点者、1690不角「二葉之松」入、  
 [とてもわが命や時とじにへりぬらん](二葉之松;65)、  
 (前句;灯を吹き消せば目に欲くのなき)

C2865 **竹塙**(ちくお・服部はっとり/初姓;勝田、名;耕/通称;文稼)1790-185667 伊賀上野の生れの儒者、

- 服部道白の養嗣子、経史;伊勢津藩儒猪飼敬所門、上京/詩:頼山陽門、詩/書に通ず、  
1818頃伊賀上野藩校崇広堂の講官/51病氣;致仕、1831「竹塢隨筆」、「晩香筆記」著
- C2866 **竹塢**(ちくお/ちくう・下条しじょう、名;言志こゆき、千村重基男)1804-8077 信濃木曾贅川の生;  
1820松本藩典医の下条敬義たかよし<sup>たかよし</sup>の養子、松本住;1821敬義女と結婚、  
医者;敬義門/松本藩御典医;養父を継承、外科に精通、歌;香川景恒門、のち江戸住、  
「探方捷徑」「適要方」編、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[聞く度に思ひはちぢになる滝の玉とくだくる我が心かな](大江戸倭歌;恋1389/聞恋)、  
[竹塢(;号)の通称] 内蔵助くらのすけ/行蔵/通仙
- C2807 **竹塢**(ちくお) ? - ? 安藝吉田の俳人、[散てから跡のものうき萩の庭](短冊)  
竹塢(ちくお/ちくう・岡島) → 安斎(あんさい・岡島、儒者) D 1 0 1 1  
竹塢(ちくお・賀藤) → 景林(かげしげ・賀藤かとう、藩士/詩人) K 1 5 8 9  
竹塢(ちくお・小川) → 汶庵(ぶんあん・小川、幕府医者) E 3 8 7 6  
竹塢館(ちくおかん) → 安斎(あんさい・岡島、儒者) D 1 0 1 1  
竹塢(ちくお/ちくう・賀藤) → 景林(かげしげ・賀藤かとう、文筆) K 1 5 8 9
- C2867 **竹翁**(ちくおう・勝田かつた、兵左衛門男)?-? 1660存 三河の郷土の家/少年時土井利勝に出仕;御側衆、  
絵師;狩野休伯門/1630徳川家光に出仕;將軍家御用達の絵師、「曾我物語図」画、  
[竹翁(;号)の名/通称/別号]名;士貞/定則/貞則/貞信/重則、通称;伊之助/沖之丞/隠岐丞、  
別号;陽溪/養溪/東浜/翠竹庵/秋友斎
- C2868 **竹翁**(ちくおう・橋部はしべ、別号;耕斎/桃林子)1647-170862 京雜俳点者・元隣[玄水]門、前句付興行、  
林鴻「京羽二重」入、「五月晦日切」評、[赤土のくづれて暑し山のはら](京羽二重)
- L2812 **竹翁**(ちくおう) ? - ? 江前期元禄1688-頃の江戸の雜俳点者、  
1702松淵・喜至撰「冠独歩行かんむりひとりあるき」に笠付句入
- C2869 **竹翁**(ちくおう・西村にしむら) ? - ? 江前期延宝・天和1673-84頃;肥後熊本の国学者、  
俳人;松永貞徳・高瀬梅盛門、  
「肥後名所」「肥後名所拾遺」「筑紫古城考」著、「空嘯集」編、集「松華集」著、  
1678西鶴「物種集」入の西村竹鶯と同一?、  
[竹翁(;号)の名/通称/別号]名;良安よやす、通称;良庵、別号;瑞竹軒/一隅軒
- C2870 **竹翁**(ちくおう) ? - ?1751? 大阪の俳人・淡々門/のち江戸日暮里住、  
1741「蕉風鴈木伝」著、1754雜俳撰集「俳諧童の的わらわのまと」編(遺編)
- C2871 **竹翁**(ちくおう・佐羽さば、清右衛門道純男、淡斎の兄)?-1812 上州桐生の絹仲買業;佐羽本家7代目、  
豪商、「関東諸家興亡実記」著、1812弟淡斎は兄の死を悼み「花濺涙帖」編纂、  
[竹翁(;号)の通称]孫右衛門/清右衛門(;父を継承)  
参考 弟 → 淡斎(たんさい・佐羽、商家/詩人) I 2 6 1 6
- C2872 **竹鶯**(ちくおう・中瀬なかせ、通称;馬三郎)1834?-8855? 伊勢宇治の俳人:為田只青門、「竹鶯隨筆」著  
竹桜(ちくおう・立野) → 良道(よしみち・立野たつ、代官/国学者) H 4 7 4 5  
竹翁[居士](ちくおう[こじ]) → 禅竹(ぜんちく・金春こんばる、能役作者) 2 4 3 4  
竹翁(ちくおう・津軽) → 信寿(のぶひさ・津軽つがる、藩主/詩歌) C 3 5 9 5  
竹翁(ちくおう・山内) → 俊温(としあつ・山内やまのうち、藩士/学制改革) M 3 1 0 4  
竹翁(ちくおう;法名) → 光行(みつゆき・戸田とだ/松平、藩主) F 4 1 0 6  
竹翁(ちくおう・野間) → 成式(せいしき・野間のみ、幕臣/医者) I 2 4 5 7  
竹翁(ちくおう・森) → 共之(ともゆき・森、医者/漢学) Q 3 1 7 9  
竹翁(ちくおう・竹川) → 政壽(まさほぎ・竹川たけがわ、商家/国学) H 4 0 3 1  
竹翁(ちくおう・河竹) → 新七(にいしち・河竹、歌舞伎・浄瑠璃作者) U 2 2 0 2  
竹翁(ちくおう・日比野) → 白圭(はっけい・日比野ひびの/間瀬、絵師) F 3 6 1 8  
竹翁(ちくおう・津村) → 信正(のぶまさ・津村つむら/藤原/長野、藩士/歌) J 3 5 1 3  
竹翁(ちくおう・高橋) → 盛之(もりゆき・高橋たかはし、庄屋/歌人) K 4 4 4 1  
竹翁(ちくおう・内田) → 長麿(ながまる・内田うちだ、国学/歌人) L 3 2 3 1  
竹翁(ちくおう・林出) → 良辰(よしたつ・林出はやしで、国学者) O 4 7 6 3  
竹翁居士(ちくおうこじ) → 直入(ちよくにゅう・田能村、絵師) K 2 8 3 2  
竹奥舎其音(ちくおうしきおん) → 寛(ひろし・羽仁はに、藩士/俳人) L 3 7 5 4

- 竹屋(ちくおく・佐分) → 政壽(まさひさ・佐分さぶり/佐分利、藩士/歌) G 4 0 6 3  
 竹屋(ちくおく・木村) → 松石(しょうせき・木村/梅田、医者/詩人) K 2 2 3 1  
 竹屋(ちくおく・片山) → 尚彦(ひさひこ・片山かたやま貫道、絵師/神職) J 3 7 0 5  
 竹屋(ちくおく・伊原) → 富寿(とみひさ・伊原いはら、国学者) U 3 1 1 3  
 竹屋(ちくおく・北村) → 令尹(よしただ・北村きたむら、国学/歌人) M 4 7 4 9  
 竹屋(ちくおく・檜崎) → 誠美(のぶよし・檜崎ならさき/磯部、歌人) J 3 5 4 4  
 竹屋(ちくおく・能勢) → 春臣(はるおみ・能勢のせ/源、磋工/歌人) K 3 6 5 4
- C2873 竹夏(ちくか・多々良たたら) ? - ? 江中期大阪俳人; 雑俳、1757律中「耳勝手」入、  
 1754潘山(百子)「しぐれの碑」(; 貞因25回忌・貞峨[紀海音]13回忌追善集)入、  
 [杉筆の跡をたがはじ時雨哉](しぐれの碑/貞峨に在世にまみえざれど捻香)
- C2874 竹下(ちくか・橋本はしもと/初姓; 川口、名; 施/徳聡) 1790-1862 73 備後三原の儒者、尾道橋本家の養子、  
 儒/詩: 菅茶山・頼山陽門、1841「竹下詩鈔」、「爽籟軒そうらいげん詩抄」(爽籟軒は橋本家の別荘)著、  
 [竹下(;号)の字/通称]字; 元吉、通称; 吉兵衛/荘右衛門、静娛の父
- 竹窠(ちくか;号) → 承章(しょうしょう;法諱・鳳林ほうりん;道号、臨濟僧) T 2 2 3 1  
 竹雅(ちくが・山中/森) → 玄黄斎(げんおうさい・森、商家/画工) I 1 8 0 0  
 竹雅(ちくが・森) → 玄黄斎(げんこうさい・森もり/山中、画工/詩歌) I 1 8 0 0  
 竹下庵(ちくかあん) → 眞澄(ますみ・小川おがわ、里正/歌人/茶) O 4 0 0 6
- C2875 筑海(ちくかい・郡司ぐんじ、名; 貞一) 1797-1846 50 常陸の儒者: 吉田愚谷・立原東里門、水戸彰考館入、  
 水戸藩士/1818病氣致仕、1844藩主斉昭謹慎の際に連座投獄、「歧斎遺稿」
- 竹介(ちくかい・高橋) → 竹之介(竹之助たけのすけ・高橋、勤王派) T 2 6 8 8
- C2876 竹外(ちくがい・深沢ふさざわ、名; 信義、富沢小兵衛利成男) ?-? 深沢信行の養嗣子/幕臣: 1780家督、  
 1784表御右筆/86奥御右筆/93表御右筆組頭、俳人・柳居門、1766「いとどの末葉」編  
 [竹外(;号)の通称/別号]通称; 甚五郎/伊兵衛、別号; 二六庵/世味庵、
- C2877 竹厓(ちくがい・石川いしかわ、之褻しけい/これかげ、之喬男) 1793-1843 51 近江膳所の儒者; 村瀬栲亭門  
 1809伊勢津住; 継続して栲亭門/20津藩校有造館の講官/督学/用人格で侍読、考証学/書、  
 1819栲亭「芸苑日渉」校版、21「有造館諸記」22「崇広堂記」、36「資治通鑑」校、「論語説約」、  
 「論語講録」「竹厓詩文集」「果育精舎詩存」「果育精舎文存」「列国学政略」「善隣徴古録」、  
 [竹厓(;号)の字/通称/諡号]字; 士尚、通称; 貞一郎、諡号; 文貞先生、石川丈山の末裔
- C2878 竹外(ちくがい・藤井、啓ひらき、貞綱男) 1807-66 60 摂津高槻藩士/藩校菁莪堂で修学、鉄砲名手、  
 1824鶴之間番/1853まで部屋住/61致仕、京住/詩: 頼山陽門、七言絶句が得意、  
 雲如「玉池吟社詩」入、1845「竹外亭百絶」54「竹外二十八字詩」著、  
 「芳野」「竹外詩鈔」「竹外詩集稿本」「藤井竹外詩文稿」著、  
 [竹外(;号)の字/通称/別号]字; 士開/強哉、通称; 吉郎/啓治郎、  
 別号; 雨香/雨香外史/小広寒宮主人
- C2879 竹外(ちくがい・杉山すぎやま/杉、名; 魁、維敬男) 1811-77 67 山形の儒者; 父没後1824江戸の古畑玉函門、  
 昌平黌で修学、1853米艦来航時房総の巡視に随従/54露国使節を下田に迎える、  
 1869館林藩に招聘; 学政参画、憂国の志、「杉竹外文稿」「周易象義」「論語私窺」「名画類聚」著、  
 [竹外(;号)の字/通称]字; 春郷/大魁、通称; 四郎
- C2880 竹厓(ちくがい・中尾なかお、名; 正緝まさつぐ) 1825-81 57 代々大阪花街の役吏/儒者、  
 田結たゆいのしょう千里(守約もりやく)と交流、1866「歴代名家文鈔」編、  
 [竹厓(;号)の字/通称]字; 子熙、通称; 与三郎
- 竹外(ちくがい・寺村) → 百池(ひやくち・寺村てらむら、商家/俳人) E 3 7 6 6  
 竹外(ちくがい・岡) → 安賢(やすかた・岡おか、商家/国学) F 4 5 5 5  
 竹外書窓(ちくがいしよそう) → 守約(もりちか・真野まの/佐藤、商家/歌) L 4 4 2 7  
 竹華仙(ちくかせん) → 信我(しんが・野村のむら/源、俳人) N 2 2 5 7  
 竹瓦楼(ちくがろう) → 蜂房(はちぶさ・坂上、俳人) E 3 6 9 3  
 竹瓦楼2世(ちくがろう) → 蜂友(はちとも・坂上/蜂房男、俳人) E 3 6 9 2  
 竹貫(ちくかん・森) → 玄黄斎(げんこうさい・森もり/山中、画工/詩歌) I 1 8 0 0  
 竹閑(ちくかん・岡本) → 元朝(もととも・岡本、藩士/日記) D 4 4 3 3

- 竹澗(竹間ちくかん・山田)→ 道貞(みちさだ・山田やまだ、文筆家) B 4 1 5 4  
 竹澗(ちくかん・深川) → 水貫(みつら・深川ふかがわ、国学/詩歌) K 4 1 3 0  
 竹間齋(ちくかんさい;号) → 昇道(しょうどう;法諱、枕雲、真宗僧/歌人) R 2 2 6 1
- C2881 **竹暉**(ちくき・佐治さじ、名;毘) 1677-1718 42 紀伊新宮の儒者:李一陽・木下順庵門、  
 1700徳川光圀に招聘され水戸彰考館入/1711総裁、「竹暉集」著、  
 [竹暉(;号)の字/通称/別号]字;希辛、通称;理平次、別号;鶯巢子りょうそうし
- C2882 **竹妓**(ちくぎ・高木たかぎ、) 1786-1828 43歳 江戸俳人・蓼松門、1803「職人つくし」編、  
 1816「鎌倉染」17「うめさうし」19「繩結び集」25「はいかい賀女さうし」30「俳諧花双昏」編、  
 [竹妓(;号)の名/通称/別号]名;康将、通称;重右衛門、  
 別号;群人(;初号)/閑月庵2世/竹心齋
- 竹義(ちくぎ・吉田) → 竹嶺(ちくれい・吉田よしだ、医者/儒/詩歌) D 2 8 9 6  
 竹晷亭(ちくきてい) → 壮山(そうざん・道山みちやま、俳人) H 2 5 5 1  
 竹居(ちくきよ、臨濟僧) → 慧鳳(えほう・鞆之こうし;道号) 1 3 8 4  
 竹居(ちくきよ) → 惺齋(せいさ・藤原、儒者) 2 4 0 3  
 竹居(ちくきよ) → 丹志(たんし、別号;竹居、俳人) I 2 6 2 4  
 竹居(ちくきよ) → 大雅(たいが・池/池野、絵;文人画) B 2 6 1 2  
 竹居(ちくきよ・沢渡) → 広繁(ひろしげ・沢渡さわたり/紀、絵師) G 3 7 0 3  
 知久況堂(ちくきょうどう) → 春江(しゅんこう・為永ためなが、人情本作者) 2 1 5 6  
 竹旭廬(ちくぎよくろ) → 其兆(きちょう・大谷、俳人) L 1 6 3 5  
 竹居万仙(ちくきよばんせん) → 午寂(ごじやく・人見ひとみ、幕臣/俳人) C 1 9 8 0
- C2883 **竹溪**(ちくけい・野や、本姓;上野) ?-?1736前没 詩人、笠原雲溪の詩集撰定途中に病没;  
 1736雲溪詩文集「桐葉編」(書肆梅村秀信刊)に「竹溪遺稿」入
- C2884 **竹溪**(ちくけい・三浦みづら、名;義質よしきた/良能、重政男/本姓;平) 1689-1756 江戸の儒者:荻生徂徠門、  
 1703-19柳沢吉保に出仕、徂徠に再入門;経済・律学に精通、1733遠州浜松藩儒;世子教育、  
 藩主移封で三河吉田藩に;藩校時習館教授、「竹溪文集」「経子史要覧」「詳説明律訳義」著、  
 [竹溪(;号)の字/通称]字;子彬しひん、通称;小五郎/平太夫
- C2885 **竹溪**(ちくけい・大沼おおぬま、鷲津わしう幽林男) 1762-1827 66 尾張の生/少年時に江戸で修学、  
 幕臣大沼又吉の養嗣子;1811幕臣:西丸御広敷添番衆・御衣番衆、詩人;柴野栗山らと交流、  
 大沼沈山の父、「竹溪先生遺稿」、  
 [竹溪(;号)の名/字/通称/法号]名;典/守諸もりつら、字;伯経、通称;次右衛門、法号;仁讓院
- C2886 **竹溪**(ちくけい・高尾たかお、名;氏養うじもり、氏矩[椿溪]男) ?-1848 讃岐高松藩儒、「竹溪文集」著、  
 1812「香泉遺稿」(弟香泉の遺稿集)編、1819公子道之助・廉之助を教導、  
 [竹溪(;号)の字/通称]字;子皓/子賢、通称;善三郎/七太郎
- C2887 **竹溪**(ちくけい・元田もとた、名;彝/字;伯倫/通称;百平、長敏男) 1800-80 81 豊後杵築藩士、  
 儒者:1816帆足万里門/万里十哲の1、1818江戸の佐藤一斎門、1833藩校学習館句読師、  
 1844中小姓/50学習館教授、66藩主へ建白書;閉門処分/68赦免、門人と学館の振興に尽力、  
 「詩文集」「攘夷私論」「尚書集解」「中庸集解」「大学標注」「十七帖略解」著
- C2888 **竹溪**(ちくけい・沼田ぬまた、名;信、喜三男) 1815-76 62 備後三原の儒者:1825郷校明善堂で修学、  
 石井豊洲・都築虚堂・都築鷲洲/のち篠崎小竹門、郷校明善堂教授、  
 致仕後甲奴郡本郷・豊田郡米山・三原に私塾を開く、「桂園詩集」著、「竹溪遺稿」、  
 [竹溪(;号)の字/通称/別号]字;好古、通称;郁太郎、別号;桂園
- C2889 **竹溪**(ちくけい・中林なかばやし、名;成業、竹洞男) 1816-67 52 尾張の絵師:父門/山本梅逸門、  
 上京し四条烏丸東に家門を開く、「中林竹溪先生四季十二景」著、  
 [竹溪(;号)の字/通称/別号]字;紹父、通称;金吾、別号;臥河居士
- C2890 **竹逕**(ちくけい・海保かいぼ、名;元起、海保漁村養子) 1823-72 50 江戸下谷の儒者;養父門、家督;  
 幕府医学館儒学教授、「論語解題」「論語解講義」著、「詩経記聞」「周易記聞」編、  
 「養拙亭文集」著、  
 [竹逕(;号)の通称/法号]通称;弁之助、法号;泝源院そげんいん
- C2891 **竹溪**(ちくけい・河村かわむら、名;禎) 1830-1914 85 周防都濃郡中須村の儒者;天竜寺環中・黒神雪峯門、

詩人、医；青木周弼・研蔵門、日田の咸宜かんぎ園で修学、「西海吟稿」著、

[竹溪(；号)の字/通称]字；君祥、通称；鹿之祐しかのすけ

- 竹溪(ちくけい・細川) → 和氏(かずうじ・細川、武将・歌人) C 1 5 1 5  
竹溪(ちくけい、竹溪軒) → 道祐(どうゆう・福住、伝記作者) H 3 1 6 3  
竹溪(ちくけい・野田) → 知彰(ともあき・野田のだ、藩士/天文/儒) P 3 1 1 2  
竹溪(ちくけい・友安) → 三冬(みふゆ・友安ともやす、儒者/国学/歌) F 4 1 7 8  
竹溪(ちくけい・奥村) → 忠順(ただのぶ・奥村おくむら、藩士/歌人) W 2 6 3 5  
竹溪(ちくけい・柳/柳沢) → 淇園(きえん・柳沢やなぎさわ、儒詩/画) 1 6 0 3  
竹溪(ちくけい) → 周休(しゅうきゅう；法諱・無学、天台僧/詩) W 2 1 8 9  
竹径(ちくけい) → 蝮局(へんきよく・竹径、俳人) B 1 8 5 9  
竹径(ちくけい・中村) → 実敬(さねたか・中村なかむら、陪臣/歌人) O 2 0 9 6  
竹径(ちくけい・前田) → 利啓(としか・前田まんだ、藩主/歌人) W 3 1 4 0  
竹溪隠人(ちくけいじん、後崇光院百番入) → 治仁王(はるひとおう・伏見宮、歌) G 3 6 8 0  
竹溪老人(ちくけいろうじん) → 正安(まさやす・奥平おくだいら、藩士/儒者) I 4 0 0 4  
竹月庵(ちくげつあん) → 孝正(たかまさ・浦野うらの、国学/歌人) V 2 6 8 8

C2892 **竹犬**(ちくけん) ? - ? 伊勢山田の俳人、1667桂葉「誹諧小相撲」入、  
1676西鶴「古今誹諧師手鑑」入、  
[押板おしたの花にも馴るる御影みえいかな](手鑑/押板；造り付けでない棚；硯や花など置く台、  
御影；真言宗で三月21日弘法大師御影供を営む)

C2893 **竹軒**(ちくけん・酒泉さかいずみ、徳左衛門正直男) 1654-1718 65 福岡の儒者；6歳で孤児/長崎に遊学、  
語学/医学/書を学習、1691水戸藩に出仕/1699彰考館総裁；国史編纂、1688「言志集」、  
「犬吠集」「江戸聞見録」「切磋集」「明語要録」「象奎知源録」「達而和名」「竹軒外集」外著多数、  
[竹軒(；号)の名/字/通称/別号]名；弘、字；道甫/恵迪、通称；彦左衛門/彦太夫、  
別号；東山/小魯庵/何憂園

- 竹軒(ちくけん・木下) → 菊潭(きくたん・木下さのした、藩士/儒者) F 1 6 2 1  
竹軒(ちくけん・永阪) → 或斎(わくさい・永阪/永坂/菅野、儒者) 5 3 1 7  
竹軒(ちくけん・成田) → 行明(ゆきあき・成田なりた、藩士/国学者) H 4 6 1 0  
竹原(ちくげん・佐野) → 宏(ひろし・佐野さの、医者/詩人) F 3 7 8 9  
竹巖(ちくげん；字) → 聖臯(しょうこう；法諱、真言律僧) I 2 2 7 2  
竹犬子(ちくけんし) → 信徳(しんとく・伊藤、商家/俳人) 2 2 4 2

C2895 **竹戸**(ちくこ、名；清里) ? - ? 美濃大垣の鍛冶工、俳人・如行門、1691猿蓑・98続猿入、  
1689如行亭で芭蕉のため按摩し奥の細道形見の紙衾に「紙衾の記」を添えて受け取った  
[首出して初雪見ばや此の衾ふすま](猿蓑：巻一/芭蕉行脚の紙衾を得て；「紙衾の記」入)

- 竹壺(ちくこ・佐々木) → 了綱(りょうこう・佐々木ささき、真宗僧/歌) M 4 9 1 6

C2896 **竹語**(ちくご・林) ? - ? 1776蓼太「蓮華会集」序；長崎から劍南の五絶を持ち帰る

- 竹護(ちくご、竹護窓) → 嵐山(らんざん・蘭山らんざん、俳人) C 4 8 2 7  
筑後(ちくご・彦坂) → 常征(つねゆき・彦坂ひこさか/藤原、神職) E 2 9 1 3  
筑後(ちくご・栗田) → 直政(なおまさ・栗田くりた、藩士/国学/歌) C 3 2 4 6  
筑後(ちくご・中条) → 備資(まさすけ・中条ちゅうじょう、藩史編纂) C 4 0 9 4  
筑後(ちくご・横山) → 正房(まさふさ・横山よこやま、藩家老/記録) H 4 0 0 7  
筑後(ちくご・松浦) → 琴鶴(きんかく・松浦まつうら、易占家) Q 1 6 7 5  
筑後(ちくご・千家) → 豊広(とよひろ・千家せんげ/出雲臣、国学/歌) C 3 1 4 2  
筑後(ちくご・稲田) → 鳳棲(ほうせい・稲田いなだ、藩士/俳人) C 3 9 0 0  
筑後(ちくご・梅谷) → 光邦(みつくに・梅谷うめたに/荒木田、国学) D 4 1 3 4  
筑後(ちくご・浅野) → 忠敬(ただひろ・浅野あさの/藤堂、藩家老) V 2 6 1 9  
筑後(ちくご・井伊) → 中頭(なかあき・井伊い/中野/藤原、藩士/歌) L 3 2 0 2  
筑後(ちくご・貫名) → 徹(とおる・貫名ぬきな/井伊中頭男、家老/歌) W 3 1 0 3  
筑後(ちくご・広田) → 正方(まさかた・広田ひろた/度会/有江、神職/国学) S 4 0 1 9  
筑後(ちくご・広田) → 正陽(まさはる・広田ひろた/度会/中須、正方養嗣/神職/絵師) S 4 0 2 1

- 筑後(ちくご・大森) → 宗竜(そうりゅう・大森おおもり、茶人) J 2 5 1 5  
筑後(ちくご・千家) → 長通長道(ながみち・千家せんげ、和学/茶/歌) N 3 2 5 6  
筑後(ちくご・内藤) → 正臣(まさおみ・内藤ないとう/藤原、国学) R 4 0 1 2  
筑後(ちくご・青井) → 水雄(みずお・青井あおい、神職) H 4 1 9 8  
C2897 竹江(ちくこう) ? - ? 出羽の俳人、1730支考「三日月日記」を一時保持  
C2898 竹香(ちくこう・金子かねこ、名;晋/通称;玖右衛門)?-? 江後期儒者、「外夷奇事編」著、  
「竹香山異聞記」「扶桑揚光録」著  
竹光(ちくこう・長谷川) → 素丸(そまる・長谷川、馬光、幕臣/俳人) 2 5 2 9  
竹光(ちくこう・溝口) → 素丸(2世そまる・溝口/吉田、幕臣/俳人) E 2 5 3 6  
竹岡(ちくこう・村上) → 正雄(まさお・村上むらかみ、藩士/国学者) T 4 0 0 8  
竹崗(ちくこう・彦部) → 周信(かねのぶ・彦部ひこべ、国学/歌人) V 1 5 4 8  
竹郷子(ちくこうし) → 周鳳(しゅうほう;法諱・瑞溪;道号、臨濟僧) 2 1 4 9  
竹光庵(ちくこうあん) → 政明(まさあき・鹿兒島かごしま、国学・歌) 4 0 9 5  
竹香園(ちくこうえん) → 重厚(しげあつ・鈴木すずき、藩士/国学者) Z 2 1 0 5  
C2899 竹香齋(ちくこうさい・中村なかむら、名;勝弘、滄浪亭男)1797-1841<sup>45</sup> 近江彦根藩士、儒;父門、家督250石、  
藩校稽古館の素読方/鷹餌割役兼鳥札奉行/納戸役、「竹香齋詩稿」「竹香齋文稿」著、  
[竹香齋(;号)の字/通称]字;伯毅、通称;繁太郎/小十郎/清八、不能齋の父  
竹香山人(ちくこうざんじん) → 正雄(まさお・淵井ふらい、歌人/狂歌) S 4 0 3 5  
竹谷(ちくこ;号) → 大叔(だいしゆく;法諱・季弘、臨濟僧) B 2 6 5 6  
竹谷(ちくこ;号・牧野) → 大周(だいしゅう;法諱・牧野まさの、真宗僧) K 2 6 2 4  
竹谷(ちくこ・猪熊) → 秋彦(あきひこ・猪熊いのくま/卜部、国学者) G 1 0 9 5  
竹谷(ちくこ) → 竹林(ちくりん;法諱・結庵/詩歌) M 2 8 9 1  
竹谷道人(ちくこどうじん) → 大叔(だいしゆく;法諱・季弘、臨濟僧) B 2 6 5 6  
D2800 筑後守(ちくごのかみ・鈴木すずき)?-? 江後期文政1818-30頃常陸那珂郡湊村の樞原明神祠官、  
1827「樞原大明神御造営并御奉納之次第」「湊村神職鈴木筑後守書上」著  
筑後守(ちくごのかみ・児玉) → 利昌(としまさ・児玉こだま、藩士/兵法家) V 3 1 1 8  
筑後守(ちくごのかみ・荷田) → 信資(のぶもと・荷田かだ/羽倉、神職) D 3 5 5 2  
筑後守(ちくごのかみ・青木) → 永古(ながひさ・青木あおき、神職/歌人) K 3 2 7 2  
筑後守(ちくごのかみ・木下) → 秀時(ひでとき・木下きのした、官人/歌人) J 3 7 1 7  
筑後守(ちくごのかみ・原田) → 重方(しげかた・原田はらだ、神職/勤王家) Q 2 1 7 6  
筑後守(ちくごのかみ・結城) → 秀雅(ひでまさ・結城ゆうき、廷臣/文筆/書) M 3 7 2 6  
筑後守(ちくごのかみ・結城) → 秀伴(ひでとも・結城、秀雅男/廷臣/国学) M 3 7 2 7  
筑後守(ちくごのかみ・山田) → 時亮(ときすけ・山田やまだ、陪臣/歌人) W 3 1 8 7  
筑後正(ちくごのしょう・小町谷) → 常宣(つねよし・小町谷こまちや、神職/国学) F 2 9 6 8  
筑後掾(ちくごのじょう・竹本) → 義太夫(ぎだゆう・竹本、浄瑠璃太夫) 1 6 1 8  
筑後介(ちくごのすけ・森) → 盈久(みつひさ・森もり/伊関/賀茂、神職) E 4 1 5 6  
筑後入道(ちくごのにゅうどう) → 眞存(しんそん;法諱、僧/連歌作者) P 2 2 3 1  
D2801 筑後弁(ちくごのべん) ? - ? 平安後期裸子ばい内親王[1039-96]家の女房、  
歌人;1049六条齋院[裸子]歌合;左方参加(宮の小弁こべんらと)、  
[あまのとのあくる空かとみえつるはつもれる雪の光なりけり](六条齋院歌合;左)  
筑後坊(ちくごぼう) → 日朗(にちろう;法諱・正法院、日蓮僧) D 3 3 7 2  
竹巖(ちくごん;字) → 聖臯(しょうこう;法諱、真言律僧) I 2 2 7 2  
竹巖院(ちくごんいん;法号) → 忠義(ただよし・山内やまのうち、藩主/日記) R 2 6 2 3  
D2802 竹紗(ちくさ・五十嵐いがらし/修姓;呉、名;主膳、元誠男)1774-1844<sup>71</sup> 新潟の絵師;父門、山水画、  
のち江戸下谷聖天町住、1813「竹紗小品」著、祖父俊明[穆翁]・叔父元敬も絵師、  
[竹紗(;号)の字/別号]字;巨宝、別号;達齋/静所/逸齋、法号;竹紗院  
千種(ちぐさ) → 通相(みちすけ・中院/久我/源、歌) B 4 1 6 5  
千草(ちぐさ・菅沼) → 直槌(なおつち・菅沼すがぬま、庄屋/歌人) N 3 2 5 0  
D2803 千種庵(三世ちぐさあん、磐樹、姓;梅沢)1811-60<sup>50</sup> 江後期江戸本所の青物商/狂歌師;

燕栗園千寿さぐりえんちほぎ門、

[3世千種庵磐樹(；号)の通称/別号]通称；林太郎、別号；菅原磐樹/琇吟社しゅうぎんしゃ

D2804 **千種庵**(四世ちくさあん、春告、姓；佐野/名；恒七)1838-9962 江戸北品川の仕出商/狂歌師；

鶏告亭夜宴門/のち燕栗園千寿さぐりえんちほぎ門、

[4世千種庵春告(；号)の別号] 鶏田舎けいでんしゃ秋吉/稲垣秋吉

千種庵(初世ちくさあん・霜解)→ 霜解(しもとけ・初世千種庵、狂歌) F 2 1 9 5

千種庵(二世ちくさあん・諸持もろもち)→ 紫文斎(しぶんさい・宇治、狂歌/一中節) F 2 1 6 0

D2805 **竹斎**(ちくさい・芦陰舎いんしゃ)?- ? 大阪の俳人、1810「句安奇禹くあきうど」編；曾良旅日記の記事あり

D2806 **竹斎**(ちくさい・竹川たけがわ、名；政胖まさやす、政信男/母；管子)1809-8274 伊勢飯野郡射和の両替商；

豪商；江戸大阪に支店、江戸大阪で家業修得/測量術・土木技術も習得、

帰郷後；水利新田開発、村民教育、歌；叔父荒木田久守門/竹村良臣門、

書籍蒐集；射和文庫を開設、屢々幕府/新政府に殖産を進言、田中美喜(；歌人)の父、

「吉葛集」「卯月道の記」「川船の記」「吉葛集」「護国論」「和銅の昔話」「吉葛集竹斎歌集」、

1864「猷漢問答」66「射和文庫射陽書院略目録」、「蝦夷鎮静論」「竹川竹斎翁歌集」外著多数、

[竹斎(；号)の幼名/字/通称/別号]幼名；馬之助、字；子広、通称；彦三郎/彦左衛門/新兵衛、

別号；緑磨/吉葛園/積徳園

竹斎(ちくさい・田辺) → 百堂(ひやくどう・田辺、蘆陰舎2世、俳人) E 3 7 6 9

竹斎(ちくさい・有馬) → 誉純(なすみ・有馬、藩主/文筆) G 3 2 6 3

竹斎(ちくさい・伊東) → 見龍(けんりゅう・伊東いとう、藩医者) M 1 8 8 1

竹斎(ちくさい・小出) → 松斎(しょうさい・小出こいで、藩士/国学者) J 2 2 0 2

竹斎(ちくさい・竹川) → 政信(まさのぶ・竹川たけがわ、商家/国学者) F 4 0 7 5

竹斎(ちくさい・田辺) → 百堂(ひやくどう・田辺たなべ、商家/俳人) E 3 7 6 9

竹斎(ちくさい・塩川) → 文麟(ぶんりん・塩川、絵師) G 3 8 7 9

竹斎(ちくさい・大藪；変名)→ 通禱(みちとみ・東久世ひがしくぜ、廷臣/尊攘) C 4 1 0 1

竹斎(ちくさい・柏) → 安之(やすゆき・柏かしわ、史家) D 4 5 4 4

竹斎(ちくさい・出島) → 明雅(あきまさ・出島でじま、名主/国学) H 1 0 9 9

竹斎(ちくさい・矢野) → 昭徳(あきのり・矢野やの、藩士/国学者) I 1 0 5 9

竹斎竜子(ちくさいりゅうし) → 龍子(りゅうし・竹斎/歌川、絵師) E 4 9 4 9

千種園(ちくさぞの) → 大秀(おおひで・田中、国学) 1 4 0 6

千種園(ちくさぞの) → 章(あきら・市村いちむら、国学/歌人) H 1 0 0 0

千種園(ちくさぞの) → 有年(ありとし・近藤こんどう、大里正/国学) H 1 0 6 0

千種殿(ちくさどの) → 具平親王(ともひらしんのう、詩歌) Q 3 1 3 9

千種入道前太政大臣(ちくさにゅうどうさきのだいじょうだいじん)→ 通相(みちすけ・中院/久我/源) B 4 1 6 5

千種太政大臣(ちくさのだいじょうだいじん)→ 通相(みちまさ・久我こが/源、太政大臣/歌) B 4 1 6 5

千種廼舎(ちくさのや) → 種正(たねまさ・長野、歌人) S 2 6 0 6

千種屋新右衛門(ちくさやしんえもん)→ 徹斎(てっさい・平瀬、書肆) C 3 0 3 0

2809 **竹山**(ちくさん・中井なかい、名；積善、整庵男)1730-180475 大阪の儒者；1743五井蘭洲門、54父没、

懷徳堂預入/1782三宅春楼の後継承し懷徳堂4世学主/92火災焼失の懷徳堂を96再建、

1797家督を息子蕉園に譲渡し隠居、詩文、「竹山文集」「詩律兆」「奠陰集」「奠陰詩話」、

「竹山襍説ざつせつ」「逸史問答」「大坂風俗志」「懷徳堂纂録」「近思録断」「西岡集」「西上記」、

「天明盛事」「東游録誌」「武彙」「報姦録」「芳原物語」/1789「草茅危言」外著多数、

履軒の兄/蕉園・碩果の父、

[竹山(；号)の字/通称/別号]字；子慶、通称；善太、別号；雪翁/溈翁せつおう/同関子/竹山居士

D2807 **筑山**(ちくさん・成島なるしま/本姓源、奥医杉本宗春男)1803-5452 成島司直[東岳]の養子、

江戸幕臣；幕府奥儒者/1843養父東岳と共に御役御免/奥儒者に再任、幕命で「後鑑」編纂、

1841「嶽降賀艸」「峰乃櫟」「藻塩草」歌「哀傷歌集」、「南山史」「翠香叢志」編、「海警録」外多数、

歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(；息成島柳北と共に入集)、

[一ふしもまだ成し得ぬにくれ竹のよそぢの春はいつかきぬらん]、

(大江戸倭；13四十の年始)、

[筑山(；号)の名/字/通称/別号]名；良讓よしまさ/讓、字；儉卿、通称；桓吉/桓之助、

別号;稼堂/秋樹しゅうしゃ

- D2808 **竹山**(ちくざん・松井まつい/本姓;亙理わたり、岩間乙二おつに男)1804-6259 仙台医:松井梅屋門、梅屋(姉溶々の夫)の養子、仙台藩伊達斉邦の侍医、詩;1738から毎年「鷗盟詩選」編、1740「澄心堂遺稿」編/41「歳寒堂詠物詩」、十竹じゅちくの弟、  
[竹山(;号)の名/字/通称/別号]名;千年ちとせ、字;鶴齡、通称;玄鶴、別号;歳寒堂、  
竹山(ちくざん・人見) → 璣岳(きゆう・人見ひとみ、藩士/随筆/歌) G 1 6 3 0  
竹山(ちくざん;号) → 日祐(にちゆう;法諱・寿考、日蓮僧) D 3 3 3 8  
筑山(ちくざん・疋田) → 棟隆(むねたか・疋田、藩士/史家) B 4 2 5 2  
竹山居士(ちくざんこじ) → 竹山(ちくざん・中井、儒者/詩文) 2 8 0 9
- D2809 **竹子**(ちくし) ? - ? 俳人、1690不角「二葉之松」入、  
[元日は色香の欲のはしら立て](二葉之松;208)  
(前句;ほんのりと夜は明けはなれけり)
- D2810 **竹止**(ちくし) ? - ? 江戸の俳人、1733嗣子竹枝による追善集「春の蓮はちす」あり
- D2811 **竹枝**(ちくし、竹止男) ? - ? 江戸の俳人、1733父竹止の追善集「春の蓮」編
- D2812 **竹司**(ちくし) ? - ? 越後の俳人、1716「鰯俵(ぶりたわら)」編:石菖蒲賛の文あり
- D2813 **竹之**(ちくし・太田おね、芳竹男)?- ? 江後期日向江平の俳人;  
1820父芳竹追善「けしのなごり」編
- G2830 **竹子**(ちくし・多田ただ、名;公林/通称;惣平)1762-182665 安藝御手洗の俳人;  
[九日も十日も菊の盛哉](墓碑銘)
- D2814 **竹子**(ちくし) ? - ? 江後期近江の雑俳点者・川柳作者、  
1851[柳風群燕会狂句合]主催5人の1;のち「柳風群燕」刊(5世川柳撰)、  
京の川柳風狂句のさきがけ、「奉納愛染堂五千句集」編  
竹子(ちくし・森) → 約之(のりゆき・森、医者/本草学) G 3 5 1 5  
竹子(ちくし)訓はすべて → 竹子(たけこ)  
竹次(竹児ちくじ・人見) → 鶴山(かくざん・人見ひとみ、幕臣/儒詩) B 1 5 4 9  
竹子万仙(ちくしばんせん) → 午寂(ごじゃく、俳人) C 1 9 8 0
- D2815 **竹之坊**(ちくしぼう) ? - ? 俳人、1790「ちから杖」(俳論)編(自序/眉山跋)
- D2816 **竹二坊**(ちくじぼう・権田/光谷/本姓;藤原、名;周之)1760-183576 武州福田村の医者、江戸で修学、伊勢津藩主藤堂家の侍医/1811致仕帰郷、俳人;美濃派/歌も嗜む、藤堂家資料で芭蕉伝記刊、1808[四十番歌合]を主催/16武州大里郡能満寺に芭蕉翁塚建立、1798「芭蕉翁正伝」編、「芭蕉其角正伝」編、追善「雪わかれ集」、  
[竹二坊(;号)の通称/別号]通称;玄宅/自得、別号;五道庵/泊船居、法号;弄花院  
筑州(ちくしゅう) → 有安(ありやす・中原、楽人/歌人) C 1 0 0 1  
竺洲(ちくしゅう・梵丁;道号) → 梵丁(ぼんちよう・竺洲・曹洞僧) F 3 9 5 4  
築洲(ちくしゅう・和田) → 信定(のぶさだ・和田、故実家) B 3 5 5 0  
竹潤(ちくじゆん・桜井) → 春樹(はるき・桜井さくらい、歌人) K 3 6 0 4
- D2817 **竹所**(ちくしよ) ? - ? 俳人; 1776樗良「誹諧月の夜」入、  
[衣張きぬばりのきぬに影さす柳哉](月の夜;103)
- D2818 **竹所**(ちくしよ・牧野まきの、名;成文)?-1837 幕臣;江戸本所相生町住、使番/火事場見廻、駿府町奉行/山田奉行を歴任、1830長崎奉行/36西丸留守居、  
詩人:谷麓谷・中田祭堂・蠣崎波響らと屢々詩会、菊池五山と親交、「梅花十詠」著、  
[竹所(;号)の字/通称]字;夢筆、通称;式部/采女
- D2819 **竹嶼**(ちくしよ・神岡かみおか、名;彝)1797-188387 武蔵本庄の医者/詩人、  
「酔竹二妙」編/1838「清風集」著、  
[竹嶼(;号)の字/通称/別号]字;得一、通称;玄俊、別号;竹嶼道人  
竹嶼(ちくしよ・横田) → 樗園(ちよえん・横田、詩文/紀行) K 2 8 1 8  
竹処(ちくしよ;号) → 桃源(とうげん;道号・瑞仙、臨濟僧/詩) D 3 1 3 8  
竹処(ちくしよ・稻次) → 正礼(せいらい・稲次いなづぐ/稻、藩士/暦算) J 2 4 8 6  
竹処(ちくしよ・安達) → 清風(せいふう・安達あだち、藩士/砲術家) E 2 4 4 3  
竹所(ちくしよ・早川) → 種徳(たねのり・早川、藩士/兵学者) R 2 6 9 5

- 竹所(ちくしょ・田中) → 従吾軒(じゅうごけん・田中、藩儒) X 2 1 2 6  
竹所(ちくしょ・劉) → 石秋(せきしゅう・劉りゅう/合谷ごうや、儒者) D 2 4 5 2  
竹処(ちくしょ) → 惺齋(せいさ・藤原、儒者) 2 4 0 3  
竹女(ちくじょ) → 竹女(たけじょ、俳人) O 2 6 4 0
- L2817 **竹条**(ちくじょう) ? - ? 京の俳人;1702轍士「花見車」1句入、  
[月花つきはなの手にさはる也なり水の肌](花見車:147/視覚を触覚に置換)
- D2820 **竹丈**(ちくじょう) ? - ? 江中期享保1716-36頃江戸青物町の雑俳点者、  
関八州で活動、1702「あかゑぼし」冠付点入、1704「江戸雀」09「つづら笠」に前句付点入、  
1720(享保5)撰集「俳諧ちゑぶくろ」点句入(蝶々子・紫川・文考らと)、  
1730「誹諧宝の山」「誹諧雪の梅」「誹諧浜の真砂」判入
- D2821 **筑丈**(ちくじょう) ? - ? 江中期江戸の雑俳点者:竹丈の後継者、  
前句付点者:奉納専門、「春興集」/1747・48「筑丈評万句合」編
- D2822 **竹城**(ちくじょう・太田おた、名;資達、資魯男)?-? 1906存 遠江掛川藩士/国学;1831石川依平よりひら門、  
1866家老;父の遺跡、68藩主転封で上総柴山に移住/69家老職/71廃藩;掛川に帰郷、  
經書に通ず/隸書;小島成斎門、「懿齋漫録」編/「昼誦夜写書屋雜纂」編  
[竹城(;号)の通称] 隼人はやと/主殿とも、
- 竹丞(ちくじょう・臼井) → 接伝(しょうでん、臼井うすい/平、神職) L 2 2 1 0  
竹杖翁(ちくじょうおう、狂歌) → 中良(ちゅうりょう・森島、浄・戯作) 2 8 1 9  
竹丈子(竹杖子ちくじょうし) → 信徳(しんとく・伊藤いとう、商家/俳人) 2 2 4 2  
竹如亭(ちくじよてい) → 耳風(じふう・深江ふかえ、俳人) V 2 1 5 5  
竹所堂(ちくしどう) → 惺齋(せいさ・藤原、儒者) 2 4 0 3  
竹嶼道人(ちくしどうじん) → 竹嶼(ちくしょ・神岡かみおか、医者/詩人) D 2 8 1 9
- D2823 **竹心**(ちくしん・藪内やぶのうち、名;宗直) 1678-1745 68 茶人:藪内流4世剣溪の女婿、藪内流5世襲名、  
出生は諸説(美濃大垣の儒者or京の医家等)、利休の侘茶を再確認する茶書著述、  
画を嗜む;「利休像画賛」、「茶道霧の海」「茶道竹廼雲」「茶道法言」「茶之湯秘伝奥義集」、  
「茶之絶交論」「朱紫」「源流茶話」「尾籠犬」「問目錄」「目さまし草」「南針篇」「数奇の記」著、  
[竹心(;号)の字/別号]字;仲正、別号;紹智5世/不住斎/而空
- B2873 **逐塵**(ちくじん) ? - ? 江前期俳人;1692不角「千代見草」入、  
[業平もねよげとまではかこつ歌](千代見草/前句;横に車は押されざりけり)、  
(伊勢物語49段若草の「うら若み」の歌/根を寝に掛ける)
- D2824 **竹人**(ちくじん・川口かわぐち、名;維言、辻つ景路男) 1693-1764 72 川口家の養子/伊賀上野藩士、  
伊賀城代藤堂元甫の家臣、俳人;服部土芳門;師より芭蕉遺愛の水鶏笛・木魚を移譲、史学、  
1758鳥酔を案内「冬扇一路」入、62「芭蕉翁全伝」編、「竹人発句集」、元甫「三国地志」共編、  
[竹人(;号)の通称/別号]通称;庄太夫、別号;寓窩子/寓子、景賢[荻子てき]の弟
- 竹人(ちくじん・石附) → 苧茂(まさしげ・石附いじつき、商家/歌/能) N 4 0 6 0  
竹心斎(ちくしんさい・高木) → 竹妓(ちくぎ・高木、俳人) C 2 8 8 2
- D2855 **竹水**(ちくすい) ? - ? 江前期俳人;1693不角「二息」入、  
[から咄はなし雷木れんぎの音は帳の糊](二息/から咄はむなしい話/雷木はすりこぎ)  
(空咄とは;馳走かと思わせてぬか喜びさせる新しい帳面の糊のごときもの)
- L2823 **竹翠**(ちくすい) ? - ? 江中期俳人、  
1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因25回忌・貞峨[紀海音]13回忌追善集)入、  
[弔とふ度たびに咲くや其の名のかへり花](しぐれの碑/貞峨13回忌)
- D2825 **筑水**(ちくすい・久保くぼ、名;愛) 1759-1835 77 信濃(or安芸)の儒者:江戸の片山兼山門、  
漢学の講説業;松代藩江戸藩邸等で講義、のち一橋家儒員、1782「学庸精義」、  
「老荘合解」「国語発音考正」「淮南子注考」「老子考註」、1815「論語集義」20「荀子増注」著、  
[筑水(;号)の字/通称]字;君節、通称;荘左衛門
- D2826 **竹水**(ちくすい・佐田さだ、名;直温なおほる、蘭蔵男) 1798-1865 68 久留米藩士/儒者:藩校で樺島石梁門、  
昌平黌入学、史学/詩に精通、蝦夷・山陰陽・北陸遊歴、1830久留米藩校明善堂講師/侍読、  
「北地芥談」「佐嘉聞書」著、「竹水遺稿」、白茅の父、  
[竹水(;号)の通称/別号]通称;修平、別号;大道/直道

- 竹水(ちくすい・浅石) → 長安(ながやす・浅石、軍学) G 3 2 2 0  
 竹水(ちくすい・栃内) → 与兵衛(よへえ・栃内とちない、藩士/兵法) I 4 7 2 7  
 竹翠(ちくすい・志賀) → 延年(のぶとし・志賀しが、藩士/国学者) I 3 5 6 6  
 竹酔(ちくすい・小谷) → 廉泉(れんせん・小谷こだに、藩儒) B 5 1 2 4  
 筑水(ちくすい・加藤) → 俊丈(俊常しゅんじょう・加藤、医者) L 2 1 0 6
- D2827 **竹瑞**(ちくすい・大野おおの、名;董喜、豊後岡藩医大野道海男)?-?(60歳) 豊後竹田の人/儒医;父門、致仕した父と遊歴;下総で父没、上京し勉学/江戸で儒医の業、のち富山藩儒医、「庚金文集」「鎮西民賊志」「易学啓蒙解」「近思録啓蒙」「赤城義臣伝補遺」「燔蛤新話」著、[竹瑞(;号)の字/別号]字;玄格、別号;庚金/保精庵
- 竹酔子(ちくすい・山岡) → 恭安(きょうあん・山岡やまおか、医者) G 1 6 5 3
- L2898 **竹声**(ちくせい・有田ありた、通称;専四郎/孫八) 1746-1829<sup>84</sup> 丹波水上郡の歌人;賀茂季鷹門
- 竹西(ちくせい・田中) → 照(しょう・田中たなか、藩士/参政) V 2 2 1 1  
 竹砌(ちくせい・初世) → 布門(ふもん・桑原・井上、俳人) E 3 8 1 7  
 竹砌(ちくせい・2世) → 樊川(はんせん・林、布門門俳人) I 3 6 3 0  
 竹青堂(ちくせいどう) → 正秀(まさひで/せいしゅう・水田、商家/俳人) 4 0 1 7
- D2828 **竹石**(ちくせき・長町ながまち) 1757-1806<sup>50</sup> 江後期絵師、亀井東谿と京・長崎に遊学、1794玉堂「玉堂琴士集」刊(:[蕉石弾琴図]入)
- 竹石(ちくせき・武蔵) → 石寿(せきじゅ・武蔵むさし、幕臣/博物) K 2 4 1 5  
 竹石(ちくせき) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7  
 竹石居(ちくせききよ) → 華堂(かどう・喜田きだ、絵師) O 1 5 1 9  
 竹舌(ちくせつ・国島) → 筈斎(かっさい・国島、藩士/儒者) N 1 5 3 0  
 竹雪山房(ちくせつさんぼう) → 竜山(りゅうざん・宇都宮/原田、儒者/教育) E 4 9 2 3  
 竹節堂(ちくせつどう) → 正秀(まさひで/せいしゅう・水田、商家/俳人) 4 0 1 7  
 竹雪廬(ちくせつろ) → 赤水(せきすい・矢橋やばし、詩人) K 2 4 3 0
- D2829 **竹泉**(ちくせん・関せき) ? - ? 江後期1789-1804頃の京の呉服商布屋の主人、茶人;藪内流安富清陰齋門、茶道逸話出版の魁;1802「竹泉茶話」03-1805「茶話真向翁」著、[竹泉(;号)の通称/別号]通称;布屋弥五郎、別号;不言亭/市隠/笠遷
- D2830 **竹僊**(ちくせん・相沢あいざわ、大味だいの孫)?-1815 越後糸魚川の代々の医者;山脇東洋門、藩主侍医格、「竹僊遺稿」、[竹僊(;号)の通称/別号]通称;玄伯、別号;竹亭
- 竹僊(ちくせん・本多) → 忠升(忠敬ただたか・本多、藩主/儒詩) F 2 6 2 3  
 竹僊(ちくせん・本多) → 助実(助籍すけざね・本多ほんだ、藩主/歌) H 2 3 8 8  
 竹仙(ちくせん・今中) → 親教(ちかのり・今中いまなか/秦、藩士/国学者) M 2 8 1 1  
 竹泉(ちくせん・河東田) → 直正(なおまさ・河東田かとうだ、天文家) C 3 2 4 5  
 竹泉(ちくせん・福田) → 理軒(りけん・福田ふくだ、和/洋算) 4 9 9 4  
 竹泉(ちくせん・池上) → 隼之助(じゅんのすけ・池上いけがみ、藩士) L 2 1 7 3  
 筑川(ちくせん・河本) → 正安(まさやす・河本/川本、医者詩文) I 4 0 1 4
- D2831 **筑前**(ちくぜん・後二条関白家ごにじょうかんぱくけ、筑前守高階成順女/母:伊勢大輔)?-? 平安後期女房歌人、後二条関白師通に出仕、:1104俊忠家歌合参、金葉117・千載644、「四条宮筑前(康資王母やすすけおうのはは)」orその妹「筑前乳母ちくぜんのみ」と同一か? [後二条関白家筑前の別女房名] 二条関白家筑前
- 筑前(ちくぜん・四条宮) → 康資王母(やすすけおうのはは、伯母、歌人) 4 5 2 2  
 筑前(ちくぜん・安藤) → 親重(ちかしげ・安藤、神職/国学者/故実) 2 8 9 7  
 筑前(ちくぜん・大藪) → 文雄(あやお・大藪おおやぶ、神職/詩歌) H 1 0 3 0  
 竹泉亭(ちくせんでい・正宗) → 直胤(なおたね・正宗まさむね、国学者/俳/狂歌) B 3 2 6 2  
 竹前入道(ちくぜんにゅうどう) → 蓮禅(れんぜん、藤原資基、漢詩) B 5 1 2 5  
 筑前守(ちくぜんのかみ) → 直虎(なおとら・青山、神道家) B 3 2 8 9  
 筑前守(ちくぜんのかみ) → 信郷(のぶさと・荷田/羽倉、神職/国学者) B 3 5 5 4  
 筑前守(ちくぜんのかみ) → 連胤(つらたね・鈴鹿/中臣/卜部、神職/国学者) E 2 9 4 1  
 筑前守(ちくぜんのかみ) → 継高(つぐたか・黒田くろだ、藩主/芸能) F 2 9 6 6

- 筑前守(ちくぜんのかみ) → 秀雄(ひでお・飯田いいた、神職/歌人) C 3 7 8 3  
筑前守(ちくぜんのかみ) → 行保(ゆきやす・菌田そのだ、神職) F 4 6 8 8  
筑前守(ちくぜんのかみ・笠因) → 直麿(なおまる・笠因かさより、神職/国学) K 3 2 1 7  
筑前守(ちくぜんのかみ・大給) → 近陳(ちかのぶ・大給だいきゅう/松平、藩主) M 2 8 1 8  
筑前守(ちくぜんのかみ・馬場) → 仲達(ちゅうたつ・馬場ばば、幕臣/本草家) G 2 8 6 3  
筑前守(ちくぜんのかみ・大庭) → 惟香(これか・大庭おおば、国学/歌人) Q 1 9 5 5  
筑前守(ちくぜんのかみ・橋本) → 正恒(まさつね・橋本はしもと/藤原、神職) R 4 0 7 6  
筑前守(ちくぜんのかみ・河村) → 季興(すえおき・河村かわむら、諸大夫/尊攘) I 2 3 3 1  
筑前守(ちくぜんのかみ・山本) → 季栄(すえひで・賀茂かも/山本、神職) F 2 3 5 8  
筑前守(ちくぜんのかみ・半谷) → 政忠(まさただ・半谷はんだに、神職/国学) S 4 0 0 3  
筑前守(ちくぜんのかみ・林) → 広守(ひろもり・林はやし、楽人/作曲) K 3 7 6 8  
筑前守(ちくぜんのかみ・近藤) → 古達(ふるみち・近藤こんどう、神職・国学) I 3 8 2 6  
筑前君(ちくぜんのかみ・二条殿) → 康資王母(やすすけおうのは、歌人) 4 5 2 2  
筑前掾(ちくぜんのかみ・富本) → 豊前掾(初世ぶぜんのかみ・富本、浄瑠璃太夫) 3 8 1 0  
筑前入道(ちくぜんのかみ・ゆうどう) → 蓮禅(れんぜん; 法諱、藤原資基/僧/歌詩人) B 5 1 2 5
- D2832 筑前乳母(ちくぜんのかみ・めと、前斎宮さきのさいぐうの乳母、筑前守高階成順女) ?-? 母:伊勢大輔、平安後期歌人、俊子内親王[後三条天皇皇女、伊勢斎宮、1056-1132]の乳母、和歌色葉で名誉歌仙に選出、勅撰2首;後拾300・金葉I53(III52)、康資王母(四条宮筑前・伯母)の妹、藤原通宗・通俊の母?  
[白露も心おきてや思ふらんぬしもたづねぬ宿の秋萩](後拾遺集;四秋300)
- 筑前律師(ちくぜんのかみ・りっし) → 実巖(じつがん/じつげん; 法諱、真言権僧正) U 2 1 6 8
- D2833 竹叟(ちくそう・永良ながら/本姓; 赤松、別号; 一翠軒) ?-? 安桃期1573-92頃播磨永良の故実家/歌、1577「竹叟夜話」著
- D2834 竹窓(ちくそう・久保木くぼぎ、名; 清淵、清英男) 1762-1829or68 下総香取郡津宮村の名主、儒:秀堅/松永北溟・清宮棠陰門、程朱学/能筆; 草書・大字、旗本小笠原政恒に出仕、水戸の小宮山楓軒の郷校で教授/伊能忠敬の輿図制作に助言、1793「西遊記程・西遊記」、「竹窓文稿」「巷談偶記」「竹窓漫記」「香取私記」、1815「温泉紀行」28「香取参詣記」外著多数、[竹窓(;号)の字/通称/別号]字; 仲黙、通称; 新四郎/太郎右衛門、別号; 蟠竜、清常の父
- D2835 竹窓(ちくそう・森川もりかわ) 1763-1829or30or67or68 大和鳥屋村の人; 1780(17歳)江戸で秋田藩出仕、数年後致仕; 大阪井池住; 書; 岳玉淵門/篆書・隸書に秀でる、古注帖を臨摸/上代仮名研究、南宋画修得; 竹の絵に長ず、松平定信の「集古十種」編輯参画、1786「猿山消息集」書、1799「欵藪」1809「大和日記」/19「集古浪華帖」編、「文華帖」編、「柏堂余事」「浪花家都東」著、[竹窓(;号)の名/字/通称/別号]名; 世黄、字; 離吉、通称; 曹吾、別号; 良翁/柏堂/習忘斎、屋号; 森川屋
- D2836 竹窓(ちくそう・吉田よしだ、名; 泰、紋治男) 1794-1849or56 上総久留里藩士/1804(11歳)父没、家中の反町与左衛門(初世梅暮里谷峨)に養育された、儒:昌平覺で修学、1815久留里藩の学問師範/27用人/29罷免久留里に帰る/36江戸詰に復帰; 上野広小路住、経書を講義、1840藩主黒田直静の大坂加番に用人として随従/41帰府; 権門方を兼務、1827「読書論」、「笠森紀行」「夢遊録」著、[竹窓(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名; 甚之助、字; 子亨、通称; 禎蔵、別号; 梅軒/清音塾、法号; 義全院
- D2837 竹窓(ちくそう・加藤かとう、名; 良) 1826-52or早世27 富山の儒者: 大野介堂門、1842上京; 貫名海屋門、1845豊後の帆足万里門、帰郷; 富山藩校訓導、「竹窓詩集」「訳崎人伝」「雑文」著、[竹窓(;号)の字/別号]字; 良吉、別号; 静処/香業
- D2838 竹窓(ちくそう・城じょう、名; 重教/重淵、景正男) 1828-1900or73 日向高鍋藩士/儒; 1838藩校明倫堂修学、1846明倫堂助教/51江戸の昌平覺入学; 古賀茶溪門/佐藤一斎・安井息軒門、帰藩/高鍋藩儒: 切偲楼の都講; 藩政参画/1863藩校明倫堂教授/64総奉行兼寺社奉行、1866「秋月藩史備考」67「藩官擬典」、「水産図説」著、[竹窓(;号)の字/通称/別号]字; 伯義/子潜、通称; 勇雄/勲いさお、別号; 牧山/半白溪/天則庵人/立花八重淵

- D2839 **竹操**(ちくそう・大高おたか、名;幸一郎/幸、家老大高喬度男)?-1881 美濃大垣藩士/家老;父を継嗣、藩校致道館総督、兵学武芸に通ず、幕末動乱期に藩政に尽力、「竹操詩稿」著、  
[竹操(;)の字/別号]字;直卿、別号;竜齋
- 竹巢(ちくそう) → 月居(げつきよ・江森、俳人) 1 8 0 7  
 竹巢(ちくそう・中島) → 秋挙(しゅうきよ・中島なかじま、藩士/俳人) H 2 1 0 8  
 竹窓(ちくそう・竹内) → 玄々一(げんげんいち、勾当/俳人) B 1 8 6 9  
 竹窓(ちくそう) → 一洲(いっしゅう、俳人) H 1 1 3 0  
 竹窓(ちくそう・智巖ちごん) → 智巖(ちごん・竹窓;道号、曹洞僧) E 2 8 2 2  
 竹窓(ちくそう・下里) → 延平(のぶひら・下里しもさと、国学者/歌) D 3 5 0 6  
 竹窓(ちくそう・藤木) → 実斎(じつさい・藤木ふじのき、儒者/詩人) U 2 1 7 0  
 竹窓(ちくそう・檜垣) → 貞董(さだのぶ・檜垣/度会/松本、神職) J 2 0 2 0  
 竹窓(ちくそう) → 蘆笛(ろてき・雄崎おさき、雑俳点者) C 5 2 2 1  
 竹窓(ちくそう) → 棲霞(せいか;法諱、真宗学僧) H 2 4 5 7  
 竹窓(ちくそう・青木) → 存久(ながひさ・青木あおき、歌人) K 3 2 7 3  
 竹窓(ちくそう・小川) → 清臣(きよおみ・小川おがわ、真澄男/歌人) T 1 6 6 9  
 竹窓(ちくそう・大野) → 幸英(ゆきひで・大野おおの、医者/国学) G 4 6 6 8  
 竹叟(ちくそう・三浦) → 迂斎(うさい・三浦みうら、商家/文筆) B 1 2 0 0  
 竹叟(ちくそう・中西) → 耕石(こうせき・中西なかにし、絵師) K 1 9 1 0  
 竹叟(ちくそう・柚木) → 玉洲(ぎよくしゅう・柚木ゆきの、藩士/絵師) U 1 6 2 0  
 竹荘(ちくそう・富田) → 畦臣(うねおみ・富田とみた、軍学者/歌) D 1 2 2 3  
 竹相(ちくそう・堤) → 信足(のぶたり・堤つみ、陪臣/国学/歌人) J 3 5 2 1  
 竹叢(ちくそう・前田) → 葉庵(ようあん・前田、藩儒/医者) 4 7 5 5  
 竹叢(ちくそう・小野) → 高尚(たかひさ・小野、幕臣/国学) D 2 6 5 6  
 竹叢(ちくそう・小野) → 高潔(たかきよ・小野、高尚男/幕臣/国学者) C 2 6 6 9  
 竹叢(竹叟ちくそう・中村) → 観濤(かんとう・中村なかむら、藩士/詩文) R 1 5 5 1  
 竹巢(ちくそう) → 棲霞(せいか・東林舎、真言僧、詩人) H 2 4 5 7  
 竹窓庵(ちくそうあん) → 宝馬(ほうば・吉成/小菅、蒼狐門俳人) C 3 9 4 7  
 竹窓軒(ちくそうけん) → 広足(ひろたり・山本、神道家/詩人) G 3 7 3 3  
 竹窓主人(ちくそうしゅじん) → 枳園(きえん・森もり立之、医者/国学) F 1 6 0 3
- D2840 **竹窓樸齋老人**(ちくそうれきさいろうじん)?-? 随筆:1788「平賀実記」(鳩溪実記)  
 竹素園(ちくそえん) → 白也(はくや・寺島てらしま、代官/俳人) D 3 6 9 8
- D2841 **竹村**(ちくそん・富永とみなが裕、明男)1801-5151 越後神田の眼科医/儒:鵬斎/彦磨門/和漢学修得、歌:「鯨玉ふくぎよ集」入、「竹村詩話」「諸国郡郷考」著、歌学「撰集考異」著;孫孝太郎補訂刊、  
[竹村の字/通称/別号]字;好尚、通称;大五郎/春部はるべ/仙八、別号;日春
- D2842 **築村**(ちくそん・肥田野ひたの、名;徹)1801-7474 越後蒲原郡築地村の人;医者松田本庵門、1811(11歳)越後來訪の亀田鵬斎の感化を受け儒者を志す;江戸で朝川善庵・亀田綾瀬門、池守秋水門、帰郷;家塾;門弟多数、「築村詩文集」「東遊記」「鎌倉紀行」「烏栢うきゅう樹考」著、  
[築村(;)の字/通称]字;士朗、通称;徹太郎
- 竹邨(ちくそん・平野) → 五岳(ごがく・平野ひらの、真宗僧/儒/詩) C 1 9 2 5  
 竹孫(ちくそん・保永堂/竹内) → 眉山(びざん・竹内たけのうち、地本問屋/絵師) C 3 7 2 8  
 竹尊者(ちくそんじゃ) → 祇空(ぎくう・稲津、俳人) 1 6 9 4  
 竹尊者(ちくそんじゃ) → 紀逸(きいつ・慶、俳人) 1 6 0 1  
 竹尊者(ちくそんじゃ) → 李坡(りは・中村なかむら、俳人) C 4 9 3 5  
 竹雫(ちくだ) → 竹阿(ちくあ・小林/二六庵、俳人) C 2 8 4 5  
 竹坨閑人(ちくたかんじん) → 鶴亭(かくてい・根岸ねざし、藩士/儒者) K 1 5 2 4
- D2843 **竹潭**(ちくたん・北条ほうじょう/伊勢、北条氏輔男)1831-8353 萩藩士、蘭学を修得/江戸長崎を往来、長崎伝習所で勝海舟と知友/1860遣米使節に随行/62藩の汽船購入;任戌丸の船長、1866伊勢に改姓/鉄砲鑄造・火薬精煉の二局長、1853「浦賀日記」60「米行詩記」著、「航西詩稿」「亞行航海詩」「還地記録」著、  
[竹潭(;)の名/字/通称]名;煥、字;章候、通称;源蔵、北条小湊しょうすうの弟

- 竹潭(ちくたん・岸田) → 茂篤(しげあつ・岸田/由良、医者/歌人) Q 2 1 5 5  
 竹旦(ちくたん;号) → 伝四郎(でんしろう・早川、歌舞伎役/作者) D 3 0 8 4
- D2844 **地口有武**(ぢぐちのありたけ・星野瀬兵衛、文筆)?-? 旗本/天明狂歌・三圍稻荷団扇会、1787才蔵集入  
 「落葉かくかけども尽きぬ目出度さはみどり筆よしすみよしの松」(才蔵集)
- D2845 **竹中**(ちくちゆう・高橋たかはし、名;克俊)?-? 江戸後期上州の漢学者、市河寛斎父子門、  
 「瀟水晩歩七絶」著、  
 [竹中(;号)の字/通称]字;庶傑、通称;小四郎
- D2846 **竹亭**(ちくてい・溝口みぞぐち) 1658-1692<sup>35</sup> 京醒井綾小路下ルの俳人;常矩・和及門、  
 1688歳旦三つ物興行(和及らと)、91和及「ひこばえ」跋、91賀子「蓮実」9句/幸佐「大湊」入、  
 1693和及追善句会参加、97俳諧作法書「をだ巻綱目」編、1702轍士「花見車」入、  
 [編笠の中に似合はぬ早苗哉](蓮実;241)
- D2847 **竹亭**(ちくてい、溝口竹亭男)?- ? 江中期京の俳人;隆志門、1729隆志「俳諧草結」2句入、  
 [四方の雪越こしに北なきながめかな](俳諧草結;242/越に腰・北なきに汚きの掛詞)
- D2848 **竹亭**(ちくてい、別号;清風園/松巖)?-? 江末期信濃川中島大塚の俳人、天翁と交流、  
 1854/61「別世界」編
- D2849 **竹禎**(ちくてい・木代きしろ、名;建達)?-1757 岩代二本松藩儒、和漢学に精通/能書家、  
 「霞城便覧」「奥陽仙道表鑑」「安達絹」「小松軍志奥書」「東野俗読義」著、  
 [竹禎(;号)の通称/別号]通称;定右衛門/定左衛門、別号;虎嘯堂こしょうどう
- D2850 **竹亭**(ちくてい・加藤かとう/初姓;春日かすが、名;翼よく) 1715-90<sup>76</sup> 甲府の富商、儒;五味釜川門・  
 国学;加賀美光章(桜塙)門、講説業/書;持明院家で修得;能書家、  
 「晋代草府」著、加藤昌融まさひら・昌齡・春日(山本)昌預まさやす・加藤昌標の父、  
 [竹亭(;号)の字/通称]字;函南、通称;平八郎
- D2851 **竹亭**(ちくてい・片岡かたおか、名;承行) 1742-1789<sup>48</sup> 伊勢津の儒者/医者、儒;奥田三角門、医;鈴木門、  
 明和1764-72頃上京し学問研究/帰郷後開塾;講説、1767「絃歌余韻」著、「竹亭遺稿」、  
 [竹亭(;号)の字] 子順/順伯
- D2852 **竹亭**(ちくてい、佐野さの、名;孝成、西山男) 1768-1849<sup>82</sup> 伊勢久居藩儒、儒;家学:父門/古義堂入門、  
 伊藤東所・東里門、帰郷後講官;父西山山ゆざんと輪番で藩主藤堂高允に進講/1807家督、  
 1823文武類役・組頭;藩士子弟の教育/1840致仕、村瀬栲亭・津阪東陽・斎藤拙堂と交流  
 「竹亭詩集」「竹亭文集」「竹亭夜話」「竹亭雜詠」「大和記行」「二冠通記」「和漢鬘鑠かくしゃく録」、  
 [竹亭(;号)の幼名/字/別号]幼名;金八/金平、字;子紹、別号;間翁
- 竹庭(ちくてい) → 錦江(きんこう・馬場、俳人) D 1 6 9 7  
 竹堤(ちくてい) → 北山(ほくざん・山本、儒者) 3 9 6 4  
 竹亭(ちくてい) → 蒙庵(もうあん・渡辺わたなべ、藩医/漢学) 4 4 4 0  
 竹亭(ちくてい) → 頼恭(よりたか・真野、儒者/歌/狂歌) I 4 7 9 1  
 竹亭(ちくてい) → 竹僊(ちくせん・相沢、医者) D 2 8 3 0  
 竹亭(てくてい) → 宗澄(そうちよう・石井いひ、名主/歌人) C 2 5 5 5  
 竹亭(ちくてい) → 古松軒(こしょうけん・古河/古川、医/地誌) 1 9 3 3  
 竹亭(ちくてい) → 頼恭(よりたか・真野まの、藩士/儒/狂歌) I 4 7 9 1  
 竹亭(ちくてい) → 昌融(まさひら・加藤かとう、竹亭[翼]男/国学) O 4 0 7 0  
 竹亭(ちくてい) → 太輔(たいゆう・柚木ゆのき、医者) L 2 6 1 1  
 竹亭(ちくてい) → 通禧(みちとみ・東久世ひがしぐせ、廷臣/尊攘) C 4 1 0 1  
 竹亭(ちくてい) → 基足(もとたり・大藪おおやぶ、神職/国学) J 4 4 5 6  
 竹亭(ちくてい) → 眞年(まとし・鈴木すずき、商家/国学者) J 4 0 9 4  
 竹亭(ちくてい) → 俊章(としあき・松木まつき/大神、神職/国学) W 3 1 0 7  
 竹堤隠逸(ちくていひんいつ) → 北山(ほくざん・山本、儒者/詩人) 3 9 6 4  
 竹煙齋(ちくていさい) → 青谷(せいこく・宮崎/宮、藩士/儒者/画) I 2 4 1 4  
 竹亭緑水(ちくていりよくすい) → 金鷲(きんが・梅亭、吉田/瓜生、幕臣/戯作) D 1 6 8 3  
 筑鼎(ちくてい・成島) → 和鼎(かずかね・成島・秦、幕臣/儒/歌) C 1 5 1 7  
 竹柢軒(ちくていけん) → 広満(ひろみつ・山本やまもと、国学者) H 3 7 3 9  
 竹柢之舎(ちくていのや) → 広満(ひろみつ・山本やまもと、国学者) H 3 7 3 9

- D2854 **竹田** (ちくでん・田能村たのむら、碩庵男) 1777-1835<sup>59</sup> 豊後竹田の儒者;1787藩校由学館入学、  
医;藩医父門、儒;古屋昔陽・唐橋君山門、詩;村瀬栲亭門、絵師:淵野眞斎・谷文晁門、  
1798岡藩校由学館儒員;「豊後国志」編纂係/詩文総裁、1803兄病没;家督継嗣、  
1813藩政改革の要望書建言;採用されず隠居、  
幼少時眼病を患い以後治療のため京阪江戸を往復;その間多くの文人と交流、  
詩・書・画・歌・音楽・香道・茶・花を嗜み文人画を大成、1806「填詞図譜」「填詞国字総論」、  
1816「百活矣」、「清麗集」「竹田集」「竹田文集」「竹田詩集」「竹田歌集」「逸詩文鈔」「花瓶論」、  
1819「竹田荘泡茶訣」20「陪駕日記」24「随縁沙弥語録」30「豊府紀游」35画論「山中人饒舌」著、  
画;「松巒古寺図」「亦復一楽帖」「船窓小戯帖」「清溪煎茗図」、外著作・画多数、  
[画を観るは画を作るより難し](山中人饒舌)、  
[竹田(;)号]の幼名/名/字/通称/別号]幼名;磯吉、名;孝憲<sup>たかのり</sup>、字;君彝、通称;玄乗/行蔵、  
別号;雪月書堂/雪月楼/九疊仙史/花竹幽窓主人/紅荳詞人/随縁居士/秋声、  
補拙廬/三我主人/藍溪釣徒/九峰衲子/六止草堂/藍水狂客/緑苔窩/田舎児  
竹戸(ちくど) → 竹戸(ちくこ、鍛冶工/俳人) C 2 8 9 5  
竹塘(ちくどう・山本) → 帯刀(たてわき・山本、藩家老/兵法) R 2 6 7 4  
竹塘(ちくどう・武田) → 成章(しげあや・武田<sup>たけだ</sup>、幕臣/兵学者) Q 2 1 5 7
- D2856 **竹童** (ちくどう・土田つちだ) ?-1751 出羽田川郡藤島の人;1685肝煎/1705大堰守、  
俳人;美濃派、1716-36「呂丸聞書七日草」編、  
[竹童(;)号]の通称/別号]通称;四郎右衛門、別号;白文庫、法号;寿譽願心信士
- D2857 **竹堂** (ちくどう・熊谷くまがい) 1677-1748<sup>72</sup> 京の儒者/詩人:江戸で林鳳岡門、熊本藩の侍講、  
藪慎庵・秋山玉山等と交流、「杜律弁疑」、林確軒「退省詩集」入、  
[竹堂(;)号]の名/字/通称/別号]名;直平/維、字;斯文/子孺、通称;伝兵衛、  
別号;藍田、法号;兼得院
- D2858 **竹堂** (ちくどう・篠本さきもと/本姓;佐治、名;廉/氏廉) 1746-1809<sup>64</sup> 会津の儒者;井上金峨門、  
幕臣;1772出仕/大番隊寄騎/1793勘定格奥右筆所詰、書を嗜む、1777「京遊紀述」、  
1793「北槎異聞」、「竹堂文抄」「阪役記述」「天明間記」「朝野聞見録」「江戸春遊記」著、  
「聴幸若歌曲記」「竹堂先生文叢」著、「玄猪記録」「匡正録」校訂、「竹堂遺稿」、彦次郎の父、  
[竹堂(;)号]の字/通称/別号]字;子温、通称;久二郎/久兵衛、別号;新斎、法号;本来院
- D2859 **竹堂** (ちくどう・今村いまむら、義知男) 1763-1805<sup>43</sup> 筑後府中の儒者:高山畏斎門、  
上京;西依成斎門、帰郷;上妻郡新庄村に家塾会輔堂を設立;教授/子弟教育、  
「追感紀行」「済美亭紀」著  
[竹堂(;)号]の名]名;忠次郎/温知/脩立/義勝/直内
- D2860 **竹洞** (ちくどう・中林なかばやし、名;成昌/昌盛、産科医中林玄棟男/角倉) 1776-1853<sup>78</sup> 尾張の文人絵師、  
画法;山田宮常門/書画墨竹;筠圃(いんぼ)門、京住;墨絵を描く、歌;蘆庵門、儒;経学/詩を嗜む、  
1801「竹洞画稿」/02「竹洞画論」「画道金剛杵」/29「知命記」36「学範」45家集「清白集」、  
1845「心のしがらみ」49「三才図説」43「本源論」52「閑中画題」、「梅雨記」「竹洞詩稿」外著多、  
[竹洞(;)号]の字/通称/別号]字;伯明、通称;大助/泰蔵、  
別号;痴翁/草堂/仲澹/沖澹(ちゅうたん)/太原庵/東山隠士
- D2861 **竹堂** (ちくどう・紀き、名;寧/字;清夫) ?-? 江戸後期絵師、1790「竹堂画譜」
- D2862 **竹道** (ちくどう・中島なかじま、別号;白兔園6世) 1779-1828<sup>50</sup> 江後期幕臣、俳人、  
1822「俳諧四季発句集」編
- D2863 **竹堂** (ちくどう・宮沢みやざわ、名;胖広/胖) ?-? 江後期磐城白河の詩人/江戸青山/千駄ヶ谷住、  
天保1830-44頃播磨三草藩に出仕、1848「房州雑詠」著、  
[竹堂(;)号]の字/通称/別号]字;広甫(ひろけ)、通称;左仲、別号;晚晴堂
- 2810 **竹堂** (ちくどう・斎藤さいとう、名;馨、総左衛門男) 1815-52<sup>38</sup> 仙台の儒者;藩校の大槻平泉門、  
江戸で増島蘭園門/昌平鬻入;古賀侗庵門、昌平鬻舎長、1844父病気のため帰郷;  
涌谷邑月将館の学頭、1850江戸神田相生町で私塾、仙台藩儒員に抜擢直前に病没、  
「竹堂文集」「竹堂文鈔」「続竹堂文鈔」「諸家詩鈔」「尽忠録」「鴉片始末」「竹堂日録」外著多数、  
[竹堂(;)号]の字/通称]字;子徳、通称;順治
- D2864 **竹堂** (ちくどう・古賀こが、名;千斯) ?-1888 肥前佐賀藩士/儒者;井内南涯門、

藩校弘道館句読師/訓導、のち開塾;子弟教育、「竹堂漫筆」著、  
[竹堂(;)号)の字/通称/別号]字;鶴年、通称;精蔵、別号;虎范

- 竹洞(ちくどう・人見) → 鶴山(かくざん・人見、儒・詩、俳) B 1 5 4 9  
竹堂(ちくどう・根本) → 一峨(いちが・根本ねもと、俳人) G 1 1 1 0  
竹堂(ちくどう・杉) → 孫七郎(まごしちろう・杉/植木、藩士/日記) 4 0 7 2  
竹堂(ちくどう・堀内) → 千堂(せんがい・堀内ほりうち、名主役/俳人) L 2 4 9 0  
竹堂(ちくどう・広岡) → 宗瑞(2世そうざい・広岡/菅、藩士/俳人) I 2 5 1 2  
竹堂(ちくどう・頼) → 養堂(ようどう・頼らい、儒者/詩文) 4 7 0 7  
竹堂(ちくどう・安達) → 清風(せいふう・安達あだち、藩士/砲術家) E 2 4 4 3  
竹堂(ちくどう・竹川) → 政恕(まさひろ・竹川たけがわ、国学/歌人) M 4 0 5 3  
竹堂(ちくどう・津田) → 宋路(そうろ・津田つた、印刻業/俳人) K 2 5 6 1  
竹堂(ちくどう・太田) → 之信(ゆきのぶ・太田おた、藩医/歌人) G 4 6 6 9  
竹堂(ちくどう・神田) → 孝澄(たかずみ・神田かんだ、鑑識/国学) W 2 6 6 5  
竹堂(ちくどう・真野) → 守貞(もりさだ・真野まの、商家/詩歌人) L 4 4 2 8  
竹堂(ちくどう・豊島) → 泰盛(やすもり・豊島とよしま/平、勤王家) D 4 5 3 3  
竹堂(ちくどう・鈴木) → 義準(ぎじゅん・鈴木すずき、浄土僧/国学) U 1 6 5 3  
竹堂(ちくどう・尾崎) → 義正(よしまさ・尾崎おさき、和漢学/教育) L 4 7 9 0  
竹堂(ちくどう・森下) → 景端(かげまさ・森下もりした/紀、藩士/宗教活動) V 1 5 9 8  
竹道(ちくどう・松井) → 宗瑞(3世そうざい・松井まつい、俳人) I 2 5 1 3  
竹堂清流(ちくどうせいりゅう) → 祇空(ぎくう、稲津、俳人) 1 6 9 4  
竹徳(ちくどく・富本) → 竹徳(たけのり・富本とみもと/杉野、神職/歌) Y 2 6 4 3  
竹墩(ちくどん・人見) → 懋斎(ぼうさい・人見/小野/野/藤田、儒者/藩士) 3 9 8 9  
竹墩(ちくどん・河合) → 道臣(ひろおみ・河合、家老/殖産/詩歌) F 3 7 6 1  
竹墩陳人(ちくどんちんじん) → 茂任(もにん・しげとう・宮本みやもと、藩士/漢学) L 4 4 6 1  
D2865 千国(ちくに・刑部直おさかへのあたい)?-? 755防人/上総国市原郡上丁:万葉廿4357  
[葦垣の隈処くまに立ちて我妹子が袖もしほほに泣きしそ思もはゆ](万葉集;廿4357)  
M2823 千邦(ちくに・熊谷くまがい、)1825-188763 周防岩国藩医、国学・歌;岩政信比古さねひに門、  
[千邦(;)名)の号]号;有隣/春陶/菁園、大塚磯名の師  
竹之坊(ちくのぼう) → 竹之坊(ちくしぼう、俳人) D 2 8 1 5  
D2866 竹波(ちくは) ?-? 俳人;1783維駒「五車反古ごしゃほうぐ」入;  
[人目なき宿は炬燵こたつに子日ねのひかな](五車反古;巻首81/正月初子日に寝るを掛ける)  
D2867 竹坡(ちくは・鈴木) ?-? 詩人、1820柏木如亭「海内才子詩」校刊  
D2868 竹坡(ちくは・伊藤いとう、名;弘亨ひろみち?、蘭腕男)1760-1828 祖父梅宇家の後嗣;4代目、福山藩儒、  
藩校弘道館教授、伊藤東所の遺言で1805宗家の学業を補佐、「日唐官配当」著、  
[竹坡(;)号)の幼名/字/諡号]幼名;貞吉、字;貞蔵、諡号;巖恭先生  
D2869 竹坡(ちくは・馬場ばば、名;文安/字;上恭)1783-185977 美濃書家/江戸麹町/四谷天竜寺門前に住、  
「書法摘要」編  
D2870 竹坡(ちくは・川村かわむら、名;尚迪、嘉平治[次]男)1797-187579 伊勢の儒者;津阪東陽・猪飼敬所門、  
1820津藩校有造館養正寮書師副手、21家督;伊勢藩士/28藩校講官兼典籍/59藩校督学、  
1860銃頭/69致仕、「竹坡詩文集」「竹坡隨筆」、「有造館会課文稿」編、「川村貞蔵先生詩」著、  
[竹坡(;)号)の字/通称/別号]字;毅甫、通称;貞蔵、別号;依水園/耕堂窩/愛吾廬  
D2871 竹坡(ちくは・馬場ばば、名;哲/字;明卿)?-1878 江戸の儒者;西島城山門、「雨窓間話」著  
竹坡(ちくは・大井) → 漁愿(ぎょいん・大井おおい/平、藩士/文筆) N 1 6 1 0  
竹坡(ちくは・武笠) → 宣予(のぶやす・武笠たけがさ、藩士/歌人) J 3 5 0 4  
L2828 竹馬(ちくば・浅井あさい) ?-? 江前期上方の俳人、  
1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、  
[引くやいかに天狗の内裏子ねの日の相すぎ](難波色紙;91/内裏で子の日に小松を引く、  
天狗の内裏[鞍馬山の奥]では杉を引くや)  
D2872 竹馬(ちくば・遠藤えんどう、通称;卯左衛門)?-1843 岩代須賀川の俳人、1830年頃「萩日記」編

- 竹馬(ちくば・松亭しょうてい) → 藤兵衛(とうべえ・山口屋、書肆/合巻) H 3 1 0 8  
竹馬(ちくば・近藤) → 篤山(とくざん・近藤、儒者) K 3 1 7 7  
竹馬(ちくば・久米) → 習齋(しゅうさい・久米くめ、詩人) X 2 1 3 4  
竹馬(ちくば・永井/宮内) → 嘉長(よしなが・宮内/清原/永井、神職/和漢学) F 4 7 3 1  
竹馬(ちくば・宮地) → 巖雄(いわお・宮地みやぢ/手島、神職/故実) K 1 1 7 1  
竹柏園(ちくはくえん/なぎぞの) → 弘綱(ひろつな・佐々木、国学/歌人) G 3 7 4 2  
竹馬童子(ちくばどうじ) → 惟中(いちゅう・松永・岡西、俳人) 1 1 1 9
- D2873 竹比(ちくひ・松本まつもと/都賀つが、初名:可笑) ?-? 摂津摩耶山下生/都賀村住の俳人;五流斎布門門、  
雑俳点者;灘連、1747「ちゑの箭」編、  
1747雑俳撰集「兎の目」(一葉編)の須磨寺外10寺社奉納の願主灘連中の1(:林水・五仙と)
- D2874 竹夫(ちくふ、別号;何傷堂/駕雲散人) ?-? 江戸中期大阪の俳人、1704「頭陀袋」06「蓬壺集」編
- D2875 竹布(ちくふ) ? - ? 三河矢矧の人、  
1762「古池や」の蛙塚建立(暁台「蛙啼集」にあり)
- 竹風(ちくふう) → 顕(あきら・高橋、藩士/歌) E 1 0 2 1  
竹風(ちくふう・後藤) → 芝山(しざん・後藤ごとう、藩儒/詩人) 2 1 2 0  
竹婦人(ちくふじん、河東節作者) → 正朔(せいさく・竹島春延、俳人) B 2 4 6 9
- 2811 竹平(ちくへい・神崎かんざき、与五郎よごろう則休のりやす、光則の長男) 1666?-1703切腹38? 美作津山藩士、  
浪人;1693(元禄6)頃播磨赤穂藩に出仕徒目付5両3人扶持、妻;河野九郎左衛門女のおかつ、  
俳人;大高忠雄・萱野重実と浅野家中三羽鳥と称される・歌人、酒豪、  
1701沾徳「文蓬萊」/子葉「二ツ乃竹」入、「神崎則休詩歌」著、  
1701(元禄14)赤穂開城後は那波住;「那波十景」を詠、義士/討入に参加、水野家で切腹、  
辞世[梓弓春近ければ小手の上の雪をも花のふぶきとや見ん]、  
[竹平(;俳号)の名/通称/号]名;則休、通称;与五郎、号;耕牛舎竹平、法名;刃利教劍信士
- M2813 筑兵衛(ちくべえ・新垣あらがき、琉球名;仁也) ?-? 琉球渡嘉敷島出身、進貢船船員として清国に渡る、  
3度福州に渡り最秘密の唐紙からかみの製造法習得;琉球王府に奏上/讒言により国賊視;  
1776薩摩に逃れ製造技術を伝える/藩主島津重豪しげひでより重用され藩士となる;  
筑兵衛と改名;納戸方与力、薩摩における唐紙の創始者と称される
- D2876 竹圃(ちくほ・岡田おかだ/修姓;田、名;文) ?-? 祖父は文禄の役で連行され日本に定住/武蔵の生、  
儒者;木下順庵門/688-1704頃和歌山藩儒員、詩;「竹圃詩集」著、  
[竹圃(;号)の字/通称]字;信威、通称;文蔵
- 竹圃(ちくほ・前田) → 利民(としもと・前田、藩士/画/花道) N 3 1 9 5  
竹圃(ちくほ・大堀) → 正輔(まさすけ・大堀おぼり/源、藩士/歌) O 4 0 4 5  
竹輔(ちくほ/たけすけ・仁木) → 桐栖(とうせい・仁木にき、俳人/茶道) F 3 1 9 3  
竹浦(ちくほ・草鹿) → 玄菴(げんりゅう・草鹿、医/詩人) M 1 8 9 2
- D2877 竹母(ちくぼ・清水しみず、通称;久六、別号;鳳仙居) 1722-9574 飛騨高山商家打保屋、  
俳人;歩簫の雲橋社結成を援助、1782「つくしみやげ」「俳諧道の記」著
- D2878 竹苞(ちくほう・小倉おぐら、名;殷/正殷、字;三蔵) ?-? 武蔵の儒者、1730「竹苞随筆」著
- 竹鳳(ちくほう・後藤) → 芝山(しざん・後藤ごとう、藩儒/詩人) 2 1 2 0  
竹房(ちくぼう) → 惺齋(せいさ・藤原、儒者) 2 4 0 3  
竹苞斎(ちくほうさい) → 逸史(いっし・西にし・藩士/系譜制作) J 1 1 5 7  
千熊(ちぐま・松平) → 忠国(ただくに・松平まつだいら、藩主/歌人) Z 2 6 5 9  
千曲園(ちくまえん) → 泷信(ひろのぶ・越こし、国学者/歌人) J 3 7 5 8  
竹茗堂(ちくめいどう) → 忠実(たださね・西村にしむら、茶商/歌人) Y 2 6 8 5  
竹茗堂(ちくめいどう) → 謹筋(のりとき・西村、忠実男/茶商/歌) J 3 5 5 1
- D2879 竹茂(ちくも・荒巻あらまき、名;興勝) ?-1767 豊後杵築の豪商、俳人;蝶夢門/美濃派俳諧、  
雲蝶らと交流、1767刊「一日記」著、追善7回忌「竹のむかし」、  
[竹茂(;号)の通称/別号]通称;三郎助、別号;若屋わかのや
- 竹門(ちくもん・藤井/吉田/吉) → 篁墩(こうどん・吉田/藤井、医/儒者) 1 9 1 8
- D2880 竹也(ちくや) ? - ? 京の俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」8句入

[けしきばかり老の句ひのさし扇](万国燕;689/さし扇は能舞台での舞の手)

- D2881 **竹也**(ちくや・山本、別号;前後亭)?-? 三河岡崎の俳人、1770暁台「二篇しをり萩」序文、1773几董「明烏あけがらす」入、76樗良「誹諧月の夜」入、  
[艸くさの露あまり白さに身に入しみぬ](月の夜;85)
- 竹有(ちくゆう・竹内) → 塊翁(かいおう・竹内、俳人) 1 5 9 0  
竹牖(ちくゆう) → 春勝(はるかつ・林、鶯峰、羅山男/儒者) 3 6 3 0  
竹有軒(ちくゆうけん) → 政武(まさたけ・百瀬ももせ、薬商/歌人) T 4 0 1 8  
竹雄亭(ちくゆうてい・佐藤) → 方達(まさみち・佐藤さとう、藩士/歌人) P 4 0 8 5  
竹天(ちくよう;和尚) → 長虹(ちようこう・竹葉軒、俳人) I 2 8 2 4  
竹葉(ちくよう・奈河) → 七五三助(2世しめすけ・奈河、歌舞伎作者) F 2 1 8 8  
竹葉軒(ちくようけん) → 長虹(ちようこう・竹葉軒、俳人) I 2 8 2 4  
竹葉軒(ちくようけん) → 主税(ちから・中田、随筆作者) L 2 8 1 6  
竹葉軒(ちくようけん) → 風子(ふうし・竹葉軒、俳人) 3 8 7 2  
竹葉軒才人(ちくようけんさいじん) → 才蔵(さいぞう・可児かた、武将) G 2 0 8 9  
竹葉斎(ちくようさい・中尾) → 長秋(ながあき・中尾なかお、国学/歌人) O 3 2 0 2  
竹葉山(ちくようさん) → 草夫(そうふ・竹葉山、連歌) C 2 5 8 3
- D2883 **竹葉舎金瓶**(ちくようしゃきんべい)?-? 江末期戯作者;金水門、人情本作者、梅亭金鷲と親交、1845・57「勸善飯」55「二十四孝伝」56「怪談春雨夜話」/60「三人吉三廓初買」著、1860「八幡祭小望月賑」「加賀見山再岩藤」/61「鶴春土佐画鞆当」著、「花鳥風月」「沓冠都々一」著、  
[竹葉舎金瓶(;号)の別号]竹葉亭/一瓢
- 竹葉城(ちくようじょう) → 露十(ろじゅう・志村しむら、俳人) B 5 2 7 6  
竹葉亭一瓢(ちくようていいつびょう) → 竹葉舎金瓶(ちくようしゃきんべい、戯作者) D 2 8 8 3
- D2884 **千倉**(ちくら・猪熊いのくま/本姓;卜部、名;兼古)?-? 寛文1661-73頃の神職;代々京の平野神社預;千倉の代に解任される、1664讃岐高松白鳥神社祠官/65藩主松平頼重より祀田2百石受領、国学に精通、水戸光圀に大日本史編纂材料を提供、猪熊兼魚かほの父、「讃岐藩役所帳紙寺社法令」著
- D2885 **筑良**(ちくら・早書はやがき) ? - ? 狂歌;江戸本丁連、1783釣方「狂歌知足振しつたりぶり」入
- M2819 **千座**(ちくら・小原おはら/旧姓;立石、) 1794-1868 75 美作津山徳守神社祠官小原丹波守正真の養子、養家を嗣;徳守神社神主/神道・歌;藤井隆尚門;国典修学/歌人;美作歌壇形成、1817従五下甲斐守/近江守、  
[千座(;名)の別名/通称/号]初名;正統、通称;民江/甲斐守/近江守、号;瓊廼舎たまのや
- N2847 **千座**(ちくら・堀池ほりけ、通称;英三郎/茂喬しげたか) 1828-1903 76 近江膳所の篠津神社神職、国学者、歌人;[鴉のうみ]入
- 竹籟庵(ちくらいあん) → 桃溪(とうけい・青木、藩士/俳人) D 3 1 0 9
- D2886 **竹羅漢**(ちくらかん) ? - ? 1724俳論「蓮の葉風」松尊者と共著;ともに支考の匿名か?  
→ 支考(しこう・各務かみ、俳人) 2 1 1 9
- 筑羅館(ちくらかん) → 元貫(もとつら・津田つだ、医者/狂歌) D 4 4 2 0  
竹羅山人(ちくらさんじん) → 南畝(なんぼ・大田おた、幕臣/狂歌詩) 3 2 3 3
- D2887 **竹里**(ちくり・伊藤いとう、仁斎4男) 1692-1756 65 1705(14歳)父没、儒;異母兄東涯門、家学修学/史学に通ず、1723湯川東軒(父の門人)の推薦で久留米藩藩儒;江戸赤羽藩邸詰、世子有馬頼僮よりゆきの侍読、「赤羽漫筆」「書画帖」「枕干小録」、「竹里詩文稿」著、「竹里遺稿」  
[竹里(;号)の名/字]名;長準、字;平蔵
- L822 **竹裏**(ちくり) ? - ? 江中期;大和吉野の俳人、1754潘山(百子)「しぐれの碑」(貞因[貞柳貞峨の父]25回忌・貞峨13回忌追善集)入、  
[手向ばやけふみ吉野のかへり花](しぐれの碑;貞峨13回忌)
- D2888 **竹裡**(ちくり) ? - ? 近江閭魔堂村の俳人;1775上京;几董門、1772几董「其雪影」1句/73几董「明烏」7句入/76几董「続明烏」5句/樗良「誹諧月の夜」1句:入  
[老夫婦世を住よしの巨燧哉](其雪影;398/住吉の地を掛ける)
- D2889 **竹里**(ちくり) ? - ? 嘶本作者、焉馬催「咄の会」より1796「喜備だんご」入

- D2890 **竹里**(ちくり・篁) ? - ? 歌舞伎劇書、1803「絵本戯場年中鑑」「娘道成寺考」
- D2891 **竹里**(ちくり・苅部かりべ、井五[俳人]男)?-1826 越後水原の俳人：諸国行脚、成美・一瓢と親交、伊豆玉沢の一瓢を訪ね客死、「手くり船」/1809「名なし草昏ぞうし」編、[竹里(；号)の通称/別号]通称；五兵衛、別号；諧仙かいせん、法号；清光院
- D2892 **竹里**(ちくり・松田まつだ、名；俊/儁しゅん、五峰男) 1788-1852<sup>65</sup> 越後新発田藩医/医；父門家学、朴斎の弟、1805上京/医；；荻野元凱門/儒；松本愚山門、1812父致仕後；藩医を継承、藩政にも直言、市島東里の言志社に参加；経史を講義、詩文・川柳・俳諧・歌を嗜む、「風月囊」「養寿草」「瘧瘦論注」「傷寒論講義」著、[竹里(；号)の字/通称/別号]字；季彦すえひこ、通称；本庵、別号；櫻窓いそう
- 竹里(ちくり/たかさと・加藤) → 景範(かげのり・加藤、歌学) B 1 5 9 0
- 竹里(ちくり・高橋) → 重賢(しげかた・高橋、幕臣；奉行) C 2 1 0 2
- 竹里(ちくり・下野) → 遠明(とおあき・下野しもの、藩士/攘夷論) I 3 1 5 7
- 竹里(ちくり・頼) → 養堂(ようどう・頼らい、儒者/詩文) 4 7 0 7
- 竹籬(ちくり・木内) → 保旧(やすひさ・木内きうち、神職/国学) C 4 5 7 4
- 逐里(ちくり) → 風光(ふうこう・和知、俳人) 3 8 5 8
- 竹里館(ちくりかん) → 米布(べいふ・信高、商家/俳人) 2 7 8 0
- 竹里館(ちくりかん) → 千豈(せんがい・堀内ほりうち、名主役/俳人) L 2 4 9 0
- 竹裡館(ちくりかん) → 経平(つねひら・土肥/平、藩士/故実家) D 2 9 5 1
- 竹裡館(ちくりかん) → 蓬平(ほうへい・佐竹さたけ/野口、絵師) C 3 9 4 9
- 竹裡観(ちくりかん) → 淇水(きすい・津下/久松、俳人) K 1 6 9
- 竹裏館(ちくりかん) → 琦鳳(きほう・河村/竹内/中原、絵師) L 1 6 9 2
- D2893 **竹里散人**(ちくりさんじん・姓名不詳)?-? 大阪の漢学者、1796徂徠「訳文筌蹄」後編刊
- 竹裏散人(ちくりさんじん) → 迂斎(うさい・三浦みづら、商家/文筆) B 1 2 0 0
- 竹裡舎(ちくりしゃ) → 李雨(りう・竹裡舎、俳人) 4 9 3 3
- 竹裏亭(ちくりてい) → 朝風(あさかぜ・堤つみ/源、幕臣/国学者) 1 0 4 6
- 竹裏亭(ちくりてい) → 安昌(やすまさ・小島こじま、幕臣) C 4 5 9 7
- 竹立庵(ちくりゆうあん) → 梅年(ばいねん・原田/服部、俳人) B 3 6 9 3
- 竹立軒(ちくりゆうけん) → 一葉子(いちようし・竹立軒、竹内、俳人) C 1 1 6 2
- D2894 **竹両**(ちくりりょう；号) ? - ? 江後期筑前の俳人：蝶夢門、1786「諸九尼句集」編
- 竹良(ちくりりょう・大伴) → 竹良(たけよし/たけら・大伴おとも、廷臣/種継乱) 2 7 9 5
- M2891 **竹林**(ちくりん；法諱、俗姓：多田) 1760-1800<sup>40</sup> 讃岐三木郡井戸村白羽の生、高松の真言宗多聞寺で得度；修行/師僧哲に随従；志度自在院住/1784(天明4)自在院主、1年半で門弟観道に譲り西南50mの所に[三等室]を結庵；周囲に竹を植え布教/逸話多数、漢学・書画・俳諧・詩歌文・算術・生花・茶・石工などに通じ博学、間川の山中に32名勝を造る、「竹谷問答百卷」著、[とにかくに思いなければほうろくの尻は焼けても胸はこがさず]、没後33回忌に京の小野随心院の宮より上人号を受、[竹林の名/字/通称/号]幼名；栄六/名；独雄、字；智達、通称；竹林上人、号；三等/竹谷
- 竹林(ちくりん・初瀬) → 是教(せきよう・初瀬はつせ、国学者) O 2 4 4 1
- 竹林(ちくりん・松岡) → 貞義(さだよし・松岡まつおか/深見、医者) P 2 0 4 0
- 竹隣(ちくりん・森脇) → 軍蔵(ぐんぞう・森脇もりわき、神道家/歌) B 1 7 1 3
- 竹林医士(ちくりんいし) → 一方(いっぽう/かずまさ・篠野ささの、医/狂歌詩) H 1 1 9 2
- 竹林院(ちくりんいん) → 道潤(どうじゅん、天台僧/歌) F 3 1 1 2
- 竹林院(ちくりんいん) → 公重(きんしげ・西園寺さいおんじ、廷臣/歌) E 1 6 1 0
- 竹林院前内大臣(ちくりんいんさきのないだいじん) → 公重(きんしげ・藤原、歌) E 1 6 0 9
- 竹林隠士(ちくりんいんし) → 忠澄(ただずみ・伊木いぎ/土倉、藩家老/歌) V 2 6 4 0
- 竹林院入道前左大臣(ちくりんいんのにゅうどうさきのさだいじん) → 公衡(きんひら・西園寺、歌) E 1 6 6 1
- 竹林館(ちくりんかん) → 蕃延(しげのぶ・中田なかつ、藩士/歌人) Z 2 1 5 6
- 竹林居(ちくりんきよ) → 立意(りゅうい・多田ただ、商家/俳人) C 4 9 7 3
- D2895 **竹林軒**(ちくりんけん) ? - ? 江戸前期俳人：雑俳、撰津唐崎村で会所を営む、「奉納長谷寺五千句集」編

- 竹林軒(ちくりんけん) → 泰洲(たいしゅう;道号・弘恭、黄檗僧/詩) K 2 6 2 0  
 竹林斎(ちくりんさい) → 三之(さんし・木瀬きせ、国学) E 2 0 3 4  
 竹林寺道教坊上人(ちくりんじどうきょうしやうにん) → 顕意(けんい;法諱・道教;字、浄土僧) M 1 8 0 4  
 竹林舎(ちくりんしゃ) → 臼人(あつじん・遠藤、藩士/俳人) B 1 0 3 0  
 竹林舎(ちくりんしゃ) → 鵬之(おうし・竹林舎、俳人) B 1 4 3 1  
 竹林舎(ちくりんしゃ) → 知行(ともゆき・彦部ひこべ、機業/詩歌) W 3 1 1 8  
 竹林上人(ちくりんしやうにん) → 竹林(ちくりん;法諱、結庵/詩歌) M 2 8 9 1  
 竹林長者(ちくりんちやうじゃ) → 臼人(あつじん・遠藤、俳人) B 1 0 3 0  
 竹林亭(ちくりんてい) → 親盛(ちかもり・大西/秦、神職/国学) C 2 8 0 9  
 竹林堂(ちくりんどう) → 武国(たけくに・風間かざま、藩士/歌人) W 2 6 4 4  
 竹林坊(ちくりんぼう) → 光映(こうえい;法諱・竹林坊、天台僧) H 1 9 5 7  
 竹林坊(ちくりんぼう;天台僧) → 如成(じよせい・石堂/平/北村、弓術) M 2 2 6 3
- D2896 **竹嶺**(ちくれい・吉田よしだ) 1772- 1839 68 河内石川郡山田村の医者、儒;京の古義堂で修学、  
 医;後藤栗庵門、歌:小川萍流(布淑)門、帰郷;医業/春日郷校善諭堂教授、  
 「義士伝」「蘭窩和歌集」「雙峰詩文集」著、  
 [竹嶺(;号)の名/字/通称/別号]名;質/博房、字;子礼、通称;藤七郎、別号;竹義/蘭窩
- 竹令(ちくれい・松井) → 素輪(そりん・松井まつい、俳人) E 2 5 5 4  
 竹冷舎(ちくれいしゃ) → 野逸(やいつ・加藤かとう、幕臣/俳人) 4 5 0 0  
 竹盧(ちくろ・樋口) → 東里(とうり・樋口ひぐち、医/儒者) I 3 1 0 9  
 竹盧(ちくろ・中島) → 友文(ともぶみ・中島、藩士/国学) Q 3 1 5 2
- D2897 **竹老**(ちくろう・臼田うすだ、名;香かおる) ?-?延享1744-48頃没 美濃の儒者・伊藤仁斎門/古義学修得、  
 富山藩儒、致仕;1739宇治山田住;教育者、  
 門弟;榎倉武記・中西息長・内山近情・宇仁清堅・小林秀秋ら、  
 歌人、1743「臼田子六答書」44「和歌ね覚ねざり草」74「宇陀孝子物語」著、「竹老先生瓦璋集」著、  
 [竹老(;号)の字/別号]字;升寂/升叔、別号;葉山/陽山/翼々斎/香草
- D2898 **竹郎**(ちくろう・紫華坊) ? - ? 江前中期;享保1716-36頃俳人;珪琳門、  
 1736俳論「茶話稿」編(;珪琳の卯時庵に集う人々の俳論や茶飲話などを記録)
- 02807 **竹楼**(ちくろう・姓不詳) ? - ? 江前中期;江戸の儒者?/詩人、  
 1728(享保13)「諏訪浄光寺八景詩歌」入(隅田秋月すみのしうげつ/歌は釣月)、  
 [流水溶溶として夜色やしよく清し 隅田の勝景新晴しんせいを得たり、  
 王孫返らず秋天遠し 都鳥とてう相呼びて独り月明]、  
 (八景詩/新晴;雨後の清天/王孫;楚辞の招隠士;ここは伊勢物語東下りの業平)
- 竹楼(ちくろう・矢野) → 一貞(かずさだ・矢野/早川、藩士/地誌) M 1 5 2 3  
 竹浪庵(ちくろうあん・稲垣) → 休叟(きゅうそう・稲垣いながき、茶人) M 1 6 7 5  
 竹湾(ちくわん・田/富春山人) → 桐江(とうこう・田中、儒/詩人) D 3 1 7 2
- D2899 **智懐**(ちけい;法諱) ? - ? 東大寺華厳僧;良弁門、審祥を通じ新羅華厳を修得、  
 749-52華厳経と「行事抄」を講ず、「無量寿経指事私記」「無量寿経宗要指事」著
- E2800 **致敬**(ちけい法諱) ? - ? 江中期播州宍粟の真宗僧、  
 1730「中将姫行状記」編/60「浄土真宗讃徳偈」著
- N2825 **智慶**(ちけい・野井のい) 1724 - 1791 68 伊予八幡浜の歌人、八幡浜の醸造業[油屋]に嫁ぐ、  
 野井安定やすさだ(1757-99/南伊予国学先駆者)の母、  
 [枕だに一夜むすびのあやめ草みじかき夢のなごりとぞ見る](安定[歌稿]入)
- 致卿(ちけい・斎藤) → 誠軒(せいけん・斎藤さいとう、儒者/詩人) B 2 4 2 7  
 致卿(ちけい・岩井) → 重遠(しげとお・岩井/巖井/祝い、和算) R 2 1 6 4  
 知敬(ちけい・坂さか) → 仲礼(ちゅうれい・坂、藩士/儒) G 2 8 9 9  
 知卿(ちけい・小田) → 東壑(とうえい・小田おだ、医者) B 3 1 3 3  
 智敬(ちけい;法諱) → 智教(ちきやう;法諱、真宗仏光寺派僧) C 2 8 4 1  
 智敬(ちけい・松木) → 智彦(ともひこ・松木、神職/歌人) Q 3 1 3 3  
 智溪(ちけい;字) → 日導(にちどう;法諱・一妙院、日蓮僧) C 3 3 9 9  
 智溪(ちけい;法諱) → 阿九(あきゅう;号、僧/俳人) D 1 0 0 3

- 穉圭(ちけい・大江) → 玄圃(げんぼ・大江おおえ、漢学/詩/書家) D 1 8 0 2
- E2801 智慶院(ちけいん/ちぎょういん、清原宣賢女)?-? 細川幽斎の母/三淵晴員or足利義晴の妻  
地形堂堅丸(ちけい→じぎょうどうかたまる)→ 堅丸(かたまる・地形堂じぎょうどう、狂歌) N 1 5 0 9
- N2856 智馨尼(ちけい・松宮まつみや、旧姓;天野香子) 1773-1853<sup>81</sup> 江戸生/安藝広島 of 歌人、  
歌;広島藩士江田居中やすなか門、飛鳥井家入門、  
[智馨尼;法諱の名/号]名;香子、号;香樹院/嶺樹院  
智慧如一国師(ちけいによつこくし・仏元眞応)→ 如空(にょくう、浄土僧) F 3 3 8 8
- E2802 智月(ちげつ、山岡やまおか/河合かわい/川井、山岡伝兵衛女) 1633?-1718<sup>86?</sup> 近江大津の俳人;尚白門、  
大津荷問屋伝馬役河合(川井)佐右衛門の妻、俳人乙州おとくにの姉、1686夫没後尼;  
乙州を養嗣子、1689自宅に芭蕉を迎える;91幻住庵記を贈られる;芭蕉没後は追善に尽力、  
「三道論」/俳文「雀を放つ詞」著、「孤松ひとつまつ」6句入/「前後園集」入、あら野1句・猿蓑6句入、  
炭俵7句・続猿蓑4句入、 [麦藁の家してやらん雨蛙](猿蓑/前書;孫を愛して)、  
[智月(;号)の別号]別号;歌路、法号;露円知月尼
- E2803 遅月(ちげつ) ? - ? 大阪の僧、俳人、  
1788「-夜流行」成美と共著:両吟歌仙入  
遅月(ちげつ、遅月庵) → 空阿(くうあ:号・如日、真言僧/俳/歌) 1 7 3 2  
遅月(ちげつ・八幡) → 光保(みつやす・八幡やわた、神職/国学) K 4 1 8 4  
遅月庵(ちげつあん) → 燕説(えんせつ、俳人) B 1 3 1 8  
遅月庵(ちげつあん) → 重光(しげみつ・十文字じゅうもんじ/木下、神職/和漢学) O 2 1 8 6  
遅月軒(ちげつけん) → 尚広(ひさひろ・蓬萊/荒木田、神職/日記) B 3 7 8 7  
智月尼(ちげつに) → 智月(ちげつ、乙州姉/養母、俳人) E 2 8 0 2
- E2804 池月坊(ちげつぼう)) ? - ? 京の俳人、  
俳論;1765如達「華月一夜論」入(:仮託・反綾足論)
- E2805 耻軒(ちけん・貝原かいはら、義質よしかた[楽軒]男) 1664-1700<sup>37</sup> 貝原益軒[篤信]甥/益軒の養嗣子、  
儒学/史学;父楽軒・叔父益軒門、福岡藩儒、1682益軒に従い朝鮮使と唱和、  
藩命で益軒の「筑前国統風土記」編纂を支援;1688より領内巡遊、88「日本歳時記」「和爾雅」編、  
1696「中華事始」97「和漢事始」99「諺草ことわざぐさ」、「花園記」「益軒先生年譜」「益軒先生日曆」著、  
[耻軒(;号)の名/字/通称/別号]名;重春/好古よしひさ・よしふる、字;敏夫、通称;市之進、  
別号;厚斎  
知顕(ちけん・橋) → 知顕(ともあき・橋たちばな、廷臣) P 3 1 0 5  
知顕(ちけん→ともあき・田中)→ 朋如(ともゆき・田中、国学) Q 3 1 8 0  
知堅(ちけん・辻/細井) → 広沢(こうたく・細井ほそい、儒/書家) 1 9 1 4  
知賢(ちけん・茂木) → 知賢(ともかた・茂木もてぎ、藩士/歌人) P 3 1 3 1  
智賢(ちけん;字) → 日憲(にちけん;法諱・忍定院、日蓮僧) B 3 3 5 7  
智賢(ちけん;字) → 日存(にちぞん;法諱・南陽房、日蓮僧) C 3 3 7 3  
智見(ちけん;字) → 日鋭(にちえい;法諱、日蓮僧) 3 3 6 5  
智研(ちけん;字) → 日通(にっつう;法諱、日蓮僧) F 3 3 2 8  
智権(ちけん;初法諱) → 乗因(じょういん;法諱・義称、天台修験僧) G 2 2 8 7  
茅軒(ちけん・寺町) → 百庵(ひやくあん・寺町/越智、幕臣/茶/歌) E 3 7 4 3
- E2806 智源(ちげん) ? - ? 「法華験記」撰;扶養桑略記に引用、鎮源と同一?  
→ 鎮源(ちんげん、天台叡山僧、1042存) K 2 8 6 9
- L2808 智元(ちげん・加納かのう) ? - ? 摂津の僧?/狂歌作者、1666行風「古今夷曲集」6首入  
[ごく楽に食ふ程あれば他の物を食らぬこそ生仏いきまほけなれ](古今夷曲集;十釈教)  
(ごくは極めて/極楽を掛ける、食欲の戒め)
- E2808 知幻(ちげん;道号・元成げんしょう/げんじょう;法諱)?-? 江前期黄檗僧;1654長崎の鉄牛道機門/侍者、  
1680印可、1685-97頃宇治万福寺長松院住持、1700「鉄牛禅師語録」「鉄牛禅師自牧摘稿」編
- E2807 智現(知現ちげん;法諱、号;長生院)?-1835 越後三島郡出雲崎の真宗大谷派浄玄寺住職、  
高倉学寮に修学;1818寮司/19擬講/31嗣講、没後贈講師、「本願鈔筆記」「一枚起請文法話」、  
「改悔文法話」「改邪鈔記」「浄土論聞記」「決智鈔講義」「正信偈説教録」「般舟讚講記」外著多数  
知言(ちげん→ともとき・村井)→ 知衡(ともひら・村井、藩士/兵法) Q 3 1 3 8

- 知言(ちげん・犬甘) → 知言(ともしき・犬甘いぬかい、歌人) T 3 1 6 1  
 知言(ちげん・大江) → 知言(ともしこと・大江おおえ、神職/歌人) U 3 1 4 8  
 知元(ちげん・早田) → 簾山(しょうざん・早田はいだ、藩士/儒者) J 2 2 3 1  
 智彦(ちげん・松木) → 智彦(ともしこ・松木/度会、神職/神学) Q 3 1 3 3  
 知見院(ちげんいん) → 猷助(ゆうじよ; 法諱・知見院、天台修験僧) C 4 6 4 3  
 知見院(ちげんいん) → 日暁(にちぎょう; 法諱・弁成、日蓮僧) B 3 3 4 2  
 智見院(ちげんいん) → 日成(にちじょう; 法諱・広乗、日蓮僧) C 3 3 3 6  
 智見院(ちげんいん) → 日暹(にっせん; 法諱・隆恕、日蓮僧) E 3 3 7 4  
 知言齋(ちげんさい) → 堯民(ぎょうみん・荒川/湯浅、藩士/医者) O 1 6 5 7  
 智現子(ちげんし; 号) → 秀績(しゅうれい; 法諱、真宗大谷派学僧) Y 2 1 5 0  
 知幻室(ちげんしつ) → 慧敏(えいしん; 法諱、真宗僧) D 1 3 9 8
- M2885 知謙尼(ちげんに、森源十郎了阿女) ?-? 江後期; 備前岡山の生/浄土僧/知乘尼(1787-1847)の姉、  
 歌人; 小沢蘆庵(1723-1801)・香川景樹(1768-1843)門、京に住  
 妹 → 知乘尼(智乘尼ちじょうに、浄土僧/歌人) E 2 8 4 4
- M2888 智元尼(ちげんに、) ? - ? 江中期: 江戸の歌人/国学; 賀茂真淵(1697-1769)門、  
 深溝松平分家の旗本松平勘敬すけゆき(旗本小笠原常春2男)の妻、  
 肥前島原藩4代藩主松平忠刻ただとき(1716-49/34歳)の母  
 知虎(ちこ・後藤/土屋) → 知虎(ともしとら・土屋/後藤、藩士/詩) P 3 1 9 6
- E2809 智光(ちこう; 法諱、俗姓; [初姓] 鋤田連すきたのむらじ・[のち] 上村主すぐり) 709?-770-80? 河内安宿郡の僧、  
 9歳で出家、三論; 元興寺の智蔵門、同門頼光と三論宗元興寺流を伝える/のち浄土教に帰依、  
 凝然「浄土法門源流章」に浄土六祖の始とす、行基を非難: 靈異記、「往生論疏」「安養賦」著、  
 浄土変相図「智光曼荼羅」(元興寺極楽坊所蔵)、「正観論」「浄名玄論略述」「法華玄述記」外多
- E2810 知翺(ちこう; 法諱・一韓いつかん; 道号) ?-? 1508存 室町期臨濟五山禅僧; 東福寺孝仲の法嗣、  
 雲章市慶・翱之慧鳳・景徐周麟門、諸寺住寺後に鎌倉円覚寺住/鎌倉建長寺管理、詩人、  
 伊勢で経史を講義、1504「湯山(とうざん) 聯句鈔」著(景徐「湯山千句」の抄物)、  
 「蕉雨余滴」編、「古文眞宝抄」「山谷詩鈔」著、「山谷詩集注抄」著(1647刊)
- E2811 智興(ちこう; 法諱・法音; 字、俗姓; 雨森) 1661-1728 68 京銅駄坊の生/1674真言僧; 越前の快心門、  
 密教を修学、1676京智積院第一座/1712六波羅蜜寺住/武蔵円福寺住/18智積院14世、僧正、  
 「中性院印信口訣」「中性院法流口訣」「中性院法流秘記」1722「疏第三重第十決扱記」著
- E2812 智好(ちこう; 法諱、号; 青山散人) ?-? 江前期武蔵の僧、詩人、1730「風水稿」
- E2813 智好(ちこう; 法諱、法山; 字) 1711-80 70 武蔵石神井村の真言宗三宝寺の僧; 1721日盛門、  
 1728智積院で修学; 21年間; 道空曇寂門、1751帰郷; 三宝寺住持、  
 「月即是心記」「三意願方許可聞書」「伝法灌頂三意願方補忘鈔」/1775「灌頂私記」著
- E2814 雉岡(ちこう・黒沢くろさわ) 1713-1796 84 (1686-1769 84 説) 武州児玉の儒者; 林鳳岡門、田安家侍読、  
 老中松平定信の諮問に答申した/柴野栗山・久保盅齋ちゅうさいと交流、医業にも通ず、  
 「遊郷夜談」「程易衍旨」、「雉岡詩文稿」著、雪堂の父、  
 [雉岡(; 号)の名/字/通称]名; 万新、字; 新卿、通称; 右仲
- E2815 稚篁(ちこう・若竹わかたけ) ? - ? 1830-44頃没 下総佐倉の俳人/道彦と交流、1829「い南塚」編  
 [稚篁(; 号)の通称/別号]通称; 栄造、別号; 緑日園
- E2816 雉岡(ちこう・仁井田にいだ、名; 長群ながむら、南陽[好古よひさ]男) 1799-1859 61 和歌山藩儒; 父門(家学)、  
 藩校学習館の督学/藩主侍読、国学; 本居大平門、  
 幕命で父の「紀伊続風土記」編纂に参加(本居内遠・加納諸平らと)、  
 異国船渡来時に海防を藩主に建言; 海防掛を務める、1834「登大台山記」49「郡居雜記」著、  
 「溪郷遊園記」「有馬陵碑記」「熊野教育開発記」「熊野予備倉記」「日本通史」著、  
 [雉岡(; 号)の字/通称]字; 子羊、通称; 源一郎、法号; 威功院静峰
- 雉岡(ちこう) → 篤好(あつよし・五十嵐、測量/国学/歌) 1 0 2 5  
 智江(ちこう) → 利雄(としかつ・南部、藩主/俳人) M 3 1 2 6  
 智功(ちこう; 号) → 靈鳳(れいほう; 法諱、真宗大谷派僧) 5 1 6 7  
 智綱(ちこう・鈴木) → 智綱(ともつな・鈴木すげき、歌人) T 3 1 6 7  
 池香(ちこう・浅野) → 梅堂(ばいどう・浅野、幕臣/文筆) B 3 6 9 2

- 知孝(ちこう・志村) → 知孝(ともたか・志村、絵師/本草) P 3 1 7 0  
 知行(ちこう・大江) → 知行(ともゆき・大江おおえ、廷臣/歌人) Q 3 1 7 6  
 知行(ちこう・彦部) → 知行(ともゆき・彦部ひこべ、機業/詩歌) W 3 1 1 8  
 知行(ちこう・三浦) → 知行(ともゆき・三浦みうら、和算家) Q 3 1 8 4  
 知光(ちこう・藤原) → 知光(ともみつ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) Q 3 1 6 6  
 知弘(ちこう・徳久) → 知弘(ともひろ・徳久とくしき、藩士/和算家) Q 3 1 4 7  
 知恒(ちこう・藤田) → 知恒(ともつね・藤田ふじた/尾崎、国学) W 3 1 2 5  
 知康(ちこう)すべて → 知康(ともやす)  
 知衡(ちこう・村井) → 知衡(ともひら・村井、藩士/兵法) Q 3 1 3 8  
 知紘(ちこう・沢辺) → 北溟(ほくめい・沢辺さわべ、藩士/儒者) D 3 9 9 5  
 致孝(ちこう・藤枝/鈴木/鈴藤) → 致孝(むねたか・鈴藤すずふじ/鈴木/藤枝、幕臣/造船) B 4 2 5 1  
 致厚(ちこう・岩室) → 斗斎(とさい・岩室/喜右衛門、醸造/俳) S 3 1 7 1  
 致恒(ちこう・平) → 致経(致恒むねつね・平たいら、武将/歌) B 4 2 6 5  
 致高(ちこう・河崎) → 致高(むねたか・河崎かわさき、藩士/国学/歌) D 4 2 7 2  
 智光院(ちこういん) → 日遙(にちよう; 法諱、日蓮僧) D 3 3 5 0  
 智光院(ちこういん; 法号) → 輝綱(てるつな・松平、藩主/兵学/平曲) C 3 0 8 0  
 智航道人(ちこうどうじん) → 道斎(どうさい・三浦、医者/語学) E 3 1 4 1  
 元宜母(もとよしのは・三浦) → 智光尼(ちこうに・三浦みうら、歌人) L 4 4 4 8
- N2858 智光尼(ちこうに・三浦みうら、) 1694-176060 近江彦根藩家老三浦元炫の妻、  
 歌人、三浦元宜もとよ(元旭/彦根藩家老)の母、歌; [彦根歌人伝・鶴]入
- E2817 ちごき(稚児君?) ? - ? 平安前期: 三条左大臣家に出仕する少女か?  
 977三条左大臣[頼忠]殿前裁歌合参加、  
 [岩わけて流るる水の底にこそ千代むすぶべき影は見えけれ](頼忠前裁歌合; 90)
- E2818 知国(ちこく) ? - ? 俳人; 1633重頼「犬子集」入、  
 [夕だちはたゞ天国あまのながれ哉](犬子集; 898、立圃[誹諧発句帳]には親重作とある)、  
 (天国は刀工の粗; その刀は抜けば雨降るといふ/夕立に太刀を掛ける)、  
 野々口親重[立圃]の別号か? → 立圃(りゅうほ・野々口のみづら、人形細工師/俳人) 4 9 1 3
- E2819 智叡(ちこく; 法諱・法興ほうよ; 字) 1766-183469 出雲松江の代々修験者; 1786金峰山登山; 道心、  
 播磨相模寺慧岳門で出家/1789高野山で真言修学/灌頂; 深覚門、円頓戒; 出雲の藕華門、  
 1807出雲朝日寺住/28京慈眼院住/仁和寺南勝院住; 顕密の講筵を張る、詩人/書画、  
 1810「仏国曆象」校訂/23「藕華大和尚行業略」著、  
 [智叡の号] 海印/空谷/摩尼院/桃花
- E2820 智叡(ちこく; 法諱) ? - ? 江後期石見沼村の真宗本願寺派万行寺住職、  
 履善門/京の学林で修学/天文; 真言僧普賢門、「須彌山義」「曆象篇」著  
 智虚空蔵(ちこくぞう; 号) → 定深(じょうじん; 法諱、真言僧) T 2 2 5 9
- E2821 癡元(ちこく; 道号・大慧だいえ; 法諱、俗姓; 平/清盛の後胤?) 1229-131284 伊勢の天台; 叡山僧/密教、  
 臨濟宗東福寺僧円爾排斥を企画; 逆に感化され円爾門、伊勢に安養寺・大福寺を開山、  
 1308東福寺9世、「枯木集」「十牛図」「法華経真談」「法華経要鈔」/1282「法華経真談」著、  
 [癡元大慧の号] 平等房、諡号; 仏通禅師
- E2822 智叡(ちごん; 法諱・竹窓ちくそう; 道号) ?-1423? 近江の曹洞僧; 太源宗真門、  
 大和補叡寺の了堂真覚門; 了堂より印可を受/1393補叡寺2世、1409能登総持寺22世、  
 1413加賀の瑞川寺建立(了堂開山); 師没後2世、1411「普蔵院規式」著
- E2823 智叡(ちごん; 法諱) ? - ? 1728存 天台宗叡山三光院・竹林院住僧、1720戸津説法を勤仕、  
 1720「浄土院正遷座法会記」21「開祖大師九百年忌法会記」28「春宮御新殿御修法次第記」著  
 智叡(ちごん; 法諱) → 妙童(明幢みょうどう; 道号・智叡、曹洞僧) G 4 1 6 4  
 治斎(ちさい・白土) → 盛隆(もりたか・白土しらつち、藩士) F 4 4 5 8  
 恥斎(ちさい・安東) → 省庵(せいあん・安東、藩儒) 2 4 0 2  
 恥斎(ちさい・村田) → 箕山(きざん・村田むらた、儒/詩歌/俳) 1 6 1 4  
 茅斎(ちさい・大矢) → 白鶴(はくこう・大矢、俳人) F 3 6 2 0  
 遅斎(ちさい・興田) → 吉従(よさむ・興田おきた、儒/神道/国学) K 4 7 2 0

- 智西(ちさい・法深房) → 孝時(たかとき・藤原ふじわら、楽人/琵琶) D 2 6 1 6  
 智済(ちさい・中村) → 勸農衛(かのえ・中村/黒川、医者) P 1 5 1 6  
 致斎(ちさい・杉山) → 復堂(ふくどう・杉山、儒者/藩政参画) B 3 8 6 1  
 痴斎(ちさい・谷) → 文一(ぶんいち・谷/利光、絵師) E 3 8 7 9  
 痴斎(ちさい・木村) → 黙老(もくろう・木村、藩家老/芸能) B 4 4 1 4  
 知在(ちさい・人見) → 雪江(せつこう・人見、幕臣/儒者/詩) K 2 4 8 8
- M2850 知策(ちさく・小島こじま、旧姓;塩谷) ?-? 江後期;茶人、越前福井藩の茶道指導、  
 国学・歌人;福井藩士小笠原満堯みつたか門、  
 [知策(;)名]の通称]良甫/紹盛
- E2824 智察(ちさつ;法諱・以安いあん;道号、俗姓;吉田) 1514-8774 美濃加茂郡細目の臨濟僧;先照瑞初門、  
 1548法嗣;美濃大仙寺住持、妙心寺塔頭聖沢院5世/妙心寺住持、  
 「入寺法語」「雲居録」「以安和尚録」著  
 治察(ちさつ・田安) → 治察(はるあきら・田安、国学者) F 3 6 9 6
- M2800 千里(ちさと・安藤あんどう、) 1738-1771 34 紀伊田辺藩城代家老、国学、  
 [千里(;)名]の別号/通称]別名;忠光、通称;万吉/富五郎
- M2866 千郷(千里ちさと・芝原しばら、) 1783-1813 31 伊勢津の国学者/歌人;本居春庭・本居大平門、  
 養子;岡恒久、  
 [千郷(;)名]の別号/通称]別名;方久/千里、通称;養蔵/用蔵/七右衛門
- E2825 千郷(ちさと・田沢たざわ、通称;兼三郎) ?-? 江後期安藝広島藩士/江戸住;国学/歌に長ず、  
 記録、「八代和歌全集類題」著(;)12巻12冊11261首)
- B2896 千里(ちさと・田結莊たゆいのしょう、但馬天民てんみん2男) 1815-96 82 但馬鶴城城主田結莊左近将監の裔、  
 父の命で田結莊に改姓、但馬の儒者;大阪の大塩中斎平八郎門/1837師に連座;投獄/赦免、  
 篠崎小竹・齋藤鑾江・広瀬旭莊門、画;金子雪操門、蘭学;長崎の品川藤兵衛門、  
 砲術;1847熊本の池部如泉門、1848大阪で砲術を指南/広島・津・新宮諸藩でも指導、  
 北海道巡遊、のち幕末明治の実業家として活躍、  
 1833大塩中斎「洗心洞割記」入、「血涙痕」「皇朝名家詩選」「海防策」「古文孝経心解」著、  
 1854「西洋散兵神幾府」「桑土藹言前編」、「芥舟学画」「読墨痕」外著多数、  
 [千里(;)号]の名/字/通称/別号]名;邦光/秘ひつ、字;必香、通称;斎治、  
 別号;守約、法号;正順院
- N2841 千里(ちさと・藤本ふじもと、旧姓;原) 1829-99 71 信濃伊那郡の神道・国学;柴田花守・西川須賀雄門、  
 歌;海上胤平門、歌人、  
 [千里(;)名]の初名/通称]初名;義鉄、通称;三郎/聯助/文哉
- N2864 千郷(ちさと・武藤むとう、旧姓;嶋原) 1838-? 陸奥安達郡の国学者/歌人、  
 歌;壬生恵詮(安達郡二本松の満福寺住職)門、  
 [千郷(;)名]の通称/号]通称;与宗治、号;入星賑園にゅうせいしんえん  
 千里(ちさと・大江) → 千里(せり・ちさと・大江、千古ちふる兄、廷臣/詩歌) 2 4 3 8  
 千里(ちさと・苗村) → 千里(ちり・苗村、粕屋甚四郎、俳人) K 2 8 4 8  
 千里(ちさと・邨田/村田) → 眉山(2世びざん・邨田/村田、俳人) C 3 7 2 6  
 千里(ちさと・坪井屋/木村) → 巽斎(そんさい・木村、商家/博物学) E 2 5 8 3
- E2826 痴山(ちざん) ? - ? 1657存 江前期京の天台宗要法寺の位敬房住僧、  
 「天台大部四教義私」
- E2827 地山(ちざん・先憂斎) ? - ? 江前期仙台の兵法家;正伝流、「兵学雑記」
- E2828 智山(ちざん・中沢ながざわ、名;監) 1829-63 35 越後中頸城郡春日村の儒者;江戸で佐藤牧山門/塾頭、  
 田安家の文学/致仕;江戸市ヶ谷に以友堂開塾、東叡山竹林坊大僧都と親交;山内僧徒入門、  
 「智山詩文集」著、  
 [智山(;)号]の字/通称]字;文卿、通称;文右衛門
- E2829 穉山(ちざん・瘦夫そうふ) ? - ? 江後期俳人;1860「くまのがらす」稿(;)南水家の書を書写)  
 茅山(ちざん→ぼうざん・萱生) → 玄順(玄淳げんじゅん・萱生かよう、医/儒者) E 1 8 9 5  
 茅山(ちざん・牧園) → 茅山(ぼうざん・牧園まさぞの、藩儒) B 3 9 1 9  
 痴山(ちざん;字) → 日饒(にちよう;法諱・信行院、日蓮僧) D 3 3 0 5

- 耻山軒(ちざんけん) → 長雅(ながまさ・平間、歌学者) 3 2 1 8  
茅山山人(ちざんさんじん) → 杏庵(きょうあん・堀ほり、医者/儒者) 1 6 2 9  
雉山人(ちざんじん) → 敬明(もりあき・足羽あすは/馬來田/渥美、神職/国学者) F 4 4 0 4
- E2830 知嗣(ちし;道号・妙田みょうでん;法諱、道号;玉峰?)?-? 江後期豊後国東郡の曹洞宗木馬庵住僧、  
「弘化系譜伝」編、1823「泉福寺舍利靈現記」、45「無着妙融大和尚年譜」著
- 知至(ちし・中村/大津) → 知至(ともゆき・中村、国学/歌人) Q 3 1 8 8  
知至(ちし・高野) → 知至(ともゆき/ともよし・高野たかの、歌人) T 3 1 6 2  
知至(ちし・赤川) → 知至(ともゆき・赤川あかがわ、藩士/歌人) T 3 1 8 7  
知之(ちし・堀田) → 知之(ともゆき・堀田、歌/俳人) Q 3 1 8 1  
知之(ちし・林) → 知之(ともゆき・林はやし、歌人) X 3 1 1 4  
知之(ちし・滝山) → 知之(ともゆき・滝山、国学者) Q 3 1 8 2  
知之(ちし/ともゆき・白井/菅江) → 眞澄(ますみ・菅江すがえ、国学/地誌) J 4 0 2 3  
知子(ちし・池田/一条) → 知子(ともこ・池田いけだ、藩主室/歌人) U 3 1 1 6  
知氏(ちし・戸田) → 知氏(ともじ・戸田とだ、神職/歌人) V 3 1 8 0  
致之(ちし・三上) → 致之(むねゆき・三上みかみ、兵学者) C 4 2 7 7  
致時(ちじ・中原) → 致時(むねとき・中原、明経博士/歌) B 4 2 7 4  
致時(ちじ・藤原) → 致時(むねとき・藤原ふじら、廷臣/歌) B 4 2 7 5  
知次(ちじ・青山) → 知次(ともつぐ・青山、藩家老/書画) P 3 1 8 1  
知止院(ちしん;法号) → 村侯(むらとき・伊達だて、藩主/改革/歌) D 4 2 1 7
- L2837 千茂(ちしげ・吉住よしずみ) ? - ? 近江甲賀郡信楽代官多羅尾(氏純)家の家臣、  
国学;本居大平門、大平撰「八十浦の玉」下巻;氏純の供に吉野山の詠歌入、  
同家臣の加藤直良・藤尾為徳・久松穂積と同行、  
[山桜花咲きををるみ吉野の山はいつか忘れむ](八十浦;751)
- 致仕大納言(ちしだいながん) → 重光(しげみつ・源みなもと、権大納言/歌人) D 2 1 0 3  
遅日庵(ちじつあん) → 大路(たいろ・山口、俳人) L 2 6 3 4  
遅日庵(ちじつあん) → 春坡(しゅんぱ・下村、商家/俳人) K 2 1 3 8  
遅日庵(ちじつあん) → 杜哉(とさい・大貫おおぬき、俳人) L 3 1 7 8  
遅日庵(ちじつあん) → 不老(ふろう・吉岡よしおか、俳人) H 3 8 5 0  
遅日軒(ちじつけん) → 碩果翁(せつかおう・樋口、詩人) E 2 4 0 9  
遅日亭(ちじつてい) → 春坡(しゅんぱ・下村しもむら、商家/俳人) K 2 1 3 8  
遅日亭(ちじつてい) → 祇徳(ぎとく・仲、札差/俳人) B 1 6 6 0  
遅日坊(ちじつぼう) → 杜哉(とさい・大貫、俳人) L 3 1 7 8
- N2881 千稲(ちしね・米沢よねざわ、) 1823-1901 79 信濃埴科郡の農家、国学・歌;本居豊穎・橋道守門、  
維新後;戸長  
[千稲(;名)の初名/通称/号]初名;憲義、通称;滝兵衛/忠一郎、号;足穂廬屋
- N2848 千稲(ちしね・堀内ほりうち、広城ひろき長男) 1831-88 58 和歌山藩領伊勢飯野郡古井村の大庄屋、  
本宅は宮前村にある、国学・歌;本居内遠・長野義言(堀内家から養子縁組)門、  
佐々木弘綱と交流、江戸・横浜で商事取引、晩年は松坂に隠居、千園ちそのの兄、  
[千稲(;名)の初名/通称]初名;良弘、通称;律太郎/利太郎/理一郎
- E2831 知若(ちじやく;字・寺尾てらお/川崎、名;克灼) ?-? 江後期加賀の和算家;有义ありはる門、  
「立円五十問答術集」著
- 知寂(ちじやく;法名) → 資実(すけざね・日野/藤原、廷臣/詩歌) C 2 3 1 8  
智寂(ちじやく;初法諱) → 本寂(ほんじやく;法諱・慧等;字、真言僧) F 3 9 3 7  
智寂院(ちじやくいん) → 日省(にっしょう・朗弁/老弁、日蓮僧) E 3 3 2 4  
知守(ちしゅ・秋山) → 知守(とももり・秋山あきやま、神道家) T 3 1 9 7  
池守(ちしゅ/いけもり) → 鉄斎(てつさい、俳人) C 3 0 3 1
- E2832 智周(ちしゅう;法諱・徧詢;字、俗姓;戸田) 1659-1743 85 近江膳所の生/内大臣中院通茂猶子、  
天台僧;蘆浦観音寺朝舜門;得度/叡山瑞雲院5世、1689観音寺住/93江戸東叡山明王院5世、  
1696大僧都/99出羽羽黒山兼領/退院;1705権僧正/09薩摩仏日寺開山、「中陰之説」著、  
「約心観仏」「戒疏集註戒体俗解」「戒疏集註第二戒体俗解」「通相三観辨」「雑録」著、

1718「別教別修縁了之辨」23「台宗二百題」25「相輪様記そうりんとうき」36「円頓章合記句解俗詮」著、  
[智周の号] 十願王院

- M2846 **智秀**(ちしゅう; 法名・黒瀬くろせ、普仙[1771没]女)?-1788 母; 睦女(国学者/歌人)/備中倉敷の尼、  
国学者/歌人、黒瀬淳じゅんの祖母
- 知周(ちしゅう・岡見) → 知周(ともちか・岡見おかみ、藩士/紀行) I 3 1 9 1  
知周(ちしゅう・前田) → 知周(ともちか・前田、家老/文筆) P 3 1 7 9  
知周(ちしゅう・高橋) → 知周(ともちか・高橋、藩士/薙刀/歌) P 3 1 8 0  
知周(ちしゅう・栗田) → 知周(ともかね・栗田あわた、神職/歌人) P 3 1 3 6  
知周(ちしゅう・託蓮社) → 隆円(りゅうえん; 法諱、浄土僧/化政期伝記作者) D 4 9 0 1  
知周(ちしゅう・浦野) → 神村(しんそん・浦野/源/田中、藩士/儒者) P 2 2 3 3  
知周(ちしゅう・熊谷) → 知周(ともちか・熊谷くまがい、藩士/国学者) V 3 1 0 5  
知脩(知修ちしゅう・林) → 知修(知脩ともなが・林、文筆家) Q 3 1 0 8  
知修(ちしゅう・川島) → 知修(ともなが・川島かわしま、地役人/国学) U 3 1 8 4  
知秀(ちしゅう/ともひで・小西) → 什山(じゅうざん・小西こにし、俳人) H 2 1 4 9  
智秀(ちしゅう; 字) → 日覚(にちがく; 法諱・菩提心院、日蓮僧) B 3 3 0 1  
智周(ちしゅう) → 梢風(しょうふう、風麦の女、俳人) B 2 2 3 5
- E2833 **知十**(ちじゅう) ? - ? 江中期京の俳人; 淡々門、1728柳岡「万国燕」2句入  
[影追ふて我に狂ひし海の蝶](万国燕; 195/海は湖水)
- E2834 **知十**(ちじゅう・川瀬/河瀬かわせ、名; 尚次) 1702-7170 越中滑川の商家; 川瀬屋/1751-64頃町組合頭、  
俳人; 加賀の麦水門、詩/茶を嗜む、1763芭蕉70回忌追善「わせのみち」編(; 有磯塚記念集)、  
[知十(; 号)の通称/別号]通称; 又三郎/彦右衛門、別号; 富竹園/富竹舎/富竹楼/風竹舎、  
屋号: 川瀬屋
- 知充(ちじゅう・矢彦) → 知充(ともみつ・矢彦やひこ、国学/書/俳人) W 3 1 7 8  
智周尼(ちしゅうに) → 梢風(しょうふう、風麦女、俳人) B 2 2 3 5
- E2835 **知俊**(ちしゅん; 法諱) 1680 - 175576 讃岐高松の浄土僧、関東檀林に修業、  
1743檀林大善寺22世/京黒谷金戒光明寺41世、53「浄土論余輝鈔」、「浄土論余輝鈔玄談」著  
[知俊の法名]法名; 正蓮社/法誉/源国/空然
- E2836 **遅春**(ちしゅん・井上、名; 正利まさとし) 1775-182147 撰津池田の質商、俳諧: 月居門、国学を修学、  
升六・奇淵・井眉らと交流、1809「石蒜露」編/14「吳江奇覽」、可春・一扇妻らの父、  
[溜め池の月鳴きこぼす蛙かな]、  
[遅春(; 号)の通称/法号]通称; 布屋庄右衛門、法号; 一通源機信士
- 知春(ちしゅん・小田) → 知春(ともはる・小田おだ、幕臣/連歌) Q 3 1 2 7  
知春(ちしゅん・谷山) → 知春(ともはる・谷山たにやま、歌人) Q 3 1 3 1  
智俊(ちしゅん; 字) → 日久(にちきゅう; 法諱・信解院、日蓮僧) B 3 3 2 3  
智俊(ちしゅん; 僧名) → 種清(たねきよ・柳水亭・桜沢堂山、合巻作者) G 2 6 3 6
- E2837 **致淳**(ちじゅん) ? - ? 江後期撰津吹田の真宗本願寺派蓮光寺僧、  
1793刊「正像末和讃大意」著
- 知春館(ちしゅんかん) → 利保(としやす・前田、藩主、歌/本草) O 3 1 0 1  
智春館(ちしゅんかん) → 専定(せんじょう・池坊いけのぼう、僧/華道家) M 2 4 5 7  
遅春亭(ちしゅんてい) → 春坡(しゅんぱ・下村しもむら、商家/俳人) K 2 1 3 8  
知春尼(ちしゅんに) → さよ子(さよこ・武田、歌人) L 2 0 8 0
- E2838 **智準**(知準ちじゅん、通称; 可庵)?-? 江後期京の真宗大谷派榮正寺住職、  
1843「天台勸経疏講説」44「三経往生文類講義」48「国史仏法抄」、「諸神本懐集録」外著多数
- 遅春亭(ちしゅんてい) → 春坡(しゅんぱ・下村、俳人) K 2 1 3 8  
智順房(ちじゅんぼう) → 長誉(ちやうよ; 法諱、真言高野山僧) K 2 8 0 3
- E2839 **智照**(ちしゅう; 法諱) 1259 - ? 1312存 関東の華嚴僧; 東大寺戒壇院凝然門、  
東大寺華嚴を関東に伝える: 華嚴経を講義し発展に尽力、1283-85高野山・四天王寺に遊学、  
「心要洞記」「演義鈔外典鈔」著
- E2840 **智照**(ちしゅう; 道号、元珠げんしゅ; 法諱)?-? 江前期1700頃黄檗宗の尼僧、鉄文・鉄牛の法統、  
「鉄文禅師福巖寺録」編

- E2841 **智韶**(知韶ちしやう;法諱、号;竜王院)?-1748 天台僧;叡山華徳院住/1718江戸東叡山等覚院住、東叡山観成院・東漸院転住、1737東叡山執当;明王院住/天台権僧正、  
「詩文雑集」「東叡答問」「儒仏互顕論」「仏道問答」「開境観要門法話」「蔵海雑録」外著多数
- E2842 **智璋**(ちしやう;法諱・鳳雲ほううん;字)?-? 江戸後期讃岐の真宗大谷派僧、  
1800刊「真宗安心答問義」著  
智勝(ちしやう;号) → 大通(だいつう;道号・沢舟たくしゅう;法諱、曹洞僧) K 2 6 6 8  
智照(ちしやう;法諱) → 智教(ちきやう;法諱、真宗仏光寺派僧) C 2 8 4 1  
知章(ちしやう・春田/曾我) → 耐軒(たいけん・曾我/春田/伊藤、儒者/詩) B 2 6 3 1  
知章(治章ちしやう・林/永田) → 知章(ともあき・永田/林、藩士/郷土史) P 3 1 0 9  
知昌(ちしやう・山口) → 知昌(ともまさ・山口やまぐち/今大路、廷臣) W 3 1 8 4  
知昌(ちしやう・鈴木) → 恕信(じゆん・石井いし、棋士;囲碁) M 2 2 5 1  
知尚(ちしやう・小野田) → 雪貢(せつこう・小野田、町吏/俳人) K 2 4 8 9  
知彰(ちしやう・三野) → 謙谷(けんこく・三野みの、藩士/漢学者) E 1 8 1 0  
知彰(ちしやう・野田) → 知彰(ともあき・野田のだ、藩士/天文家) P 3 1 1 2  
知将(ちしやう・山室) → 松軒(しょうけん・山室やまむら、医者/歌人) I 2 2 4 8  
知商(ちしやう・今村) → 知商(ともあき・今村、和算家/農政) P 3 1 0 6  
釋笑(稚笑ちしやう・指峰堂) → 忠兵衛(ちゆうべい・西村/伊勢屋、書肆) G 2 8 8 4
- E2843 **智定**(ちじやう;法諱、鉄山てつざん;号)?-? 江前期黄檗僧、「黄檗木庵和尚全録」編、  
1695「黄檗木庵禅師語録」編
- N2842 **智乗**(ちじやう;法諱・冬野ふゆの、)1842-190160 大和葛上郡の浄土宗僧;正福寺住、  
国学;三陰みかげ顕遠けんおん(葛下郡神楽村真宗照光寺住僧)門  
知常(ちじやう) すべて → 知常(ともつね)  
智静(ちじやう;諡号) → 観修(かんしゅう;法諱、天台僧) D 1 5 9 0  
智静院(ちじやういん) → 日孝(にちこう;法諱・村貞そんてい、日蓮僧) B 3 3 8 4  
智静院(ちじやういん) → 日耕(にっこう;法諱・恭寿院、日蓮僧) D 3 3 8 8  
知丈斎(ちじやうさい) → 只青(しせい・為田ためだ/小林、書/俳人) Z 2 1 0 3  
智証大師(ちじやうだいし) → 円珍(えんちん、天台宗寺門派祖) B 1 3 2 5  
稚松亭(ちじやうてい) → 它山(たざん・堤/塘つみ、儒者/詩人) E 2 6 5 9
- E2844 **知乗尼**(智乗尼ちじやうに、俗名;森ひさ、森源十郎了阿女)1787-184761 備前岡山の浄土僧;  
1793(7歳)備中六条院村の甘露庵密乗門/95門田村の光明庵住;のち光明庵庵主、  
歌;小沢蘆庵・木下幸文門、1820西国33箇所巡拝/42京北山住/東山長楽寺住、蓮月と親交、  
1820「知乗尼日記」、「東行紀行」著、知謙尼の妹
- L2858 **智浄尼**(ちじやうに) ? - ? 江後期;歌人、森知乗尼と同一か?、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[はしたかの足につけたるむらさきの紐も夕暮になりにかるかな]、  
(大江戸倭歌;冬1248/鷹狩到暮、はしたか;鶴はたか;小型の鷹)、  
[待ち待ちて夜頃へにけり今宵もやむなしき床にひいと寝なまし]、  
(大江戸倭歌;恋1427/連夜待恋)  
智生房(ちじやうぼう;号) → 長恵(ちやうえ;法諱、真言僧/声明) H 2 8 3 4
- 2812 **智真**(ちしん;法諱、俗姓;河野[別府]、河野通広男)1239-8951 鎌倉中期時宗の開祖、  
伊予別府の豪族の生/天台学;1245継教寺縁教門/48出家;随縁名、肥前清水寺華台門;智真名、  
1263父死去で帰郷還俗/67再出家、74熊野で一頌を感得:一遍と改名、捨聖と自称す、  
勧進帳と念仏札を携行し全国を遊行/賦算・踊躍念仏を通して念仏をひろめた、  
「播州法語集」「播州問答集」「別願和讃」、「一遍上人語録」「高祖師法語」著、  
菟玖波集;発句1句入、  
[華の事は華に問へ 紫雲しじゆんの事は紫雲に問へ 一遍は知らず](一遍上人語録巻下)、  
(極楽の光景「紫雲天華」を問われての答え)、  
[智真の幼名/名/別法諱/号/通称/諡おくりな]幼名;松寿丸/俗名;別府七郎左衛門通尚、  
別法諱;随縁(天台僧)、号;一遍房、通称;遊行上人ゆぎやうしやうにん/一遍上人/一遍聖、  
諡号;円照大師

- E2845 **知新**(ちしん・田中たなか、名; 休意)?-? 江中期京の鍼灸医: 知新流、1782「鍼灸五蘊鈔」著
- E2846 **知新**(ちしん・翠中軒すいちゆうけん、姓; 近藤)?-? 江中期江戸巢鴨の与力/隠居、  
茶人: 表千家流伊丹宗朝門、1785「茶道八炉図式」著、  
[翠中軒知新(;号)の通称/別号]通称; 右膳、別号; 文親/知新庵/守知
- E2847 **致身**(ちしん・入江いりえ) 1752 - 1822 71 紀州湯浅の生/上京; 心学者; 上河洪水門、  
恭敬舎舎主/1806頃紀伊黒江に楽善舎を創設; 舎主、伊勢の海道宿駅や播州三草で講説、  
同郷の鎌田柳泓と親交、1813「尽孝記」著
- 致親(致信ちしん・平or源) → 致親(むねちか・平or源、廷臣/歌人) B 4 2 5 7  
 致信(ちしん・清原) → 致信(まさのぶ/むねのぶ・清原きよはら、廷臣) F 4 0 5 0  
 致真(ちしん・宮下) → 弁覚(3世べんかく・宮下みやした、医者/歌) B 2 7 1 5  
 致真(ちしん・片桐) → 致真(ゆきざね・片桐かたぎり、商家/歌人) G 4 6 7 3  
 知辰(ちしん・井関) → 知辰(ともしき・井関、和算家) P 3 1 9 0  
 知慎(ちしん・辻/細井) → 広沢(こうたく・細井ほそい、儒/書家) 1 9 1 4  
 知伸(ちしん・大橋) → 知伸(とものぶ・大橋、絵師/仏師/書家) Q 3 1 2 3  
 知新(ちしん; 字・平井) → 温故(おんこ・平井/熊野、藩士/地誌) D 1 4 4 2  
 知新(ちしん・石川) → 知新(ともしか・石川いしかわ、神職/歌人) U 3 1 1 8  
 知眞(ちしん; 道号) → 了然尼(りょうねんに; 道号・元聡; 法諱、黄檗僧/歌人) J 4 9 2 1  
 知信(ちしん) すべて → 知信(とものぶ)  
 知親(ちしん) すべて → 知親(ともしか)  
 智信(ちしん・井上) → 智信(とものぶ・井上いのうえ、国学/書) T 3 1 0 7  
 智深(ちしん; 法諱) → 寂円(じやくえん; 道号、智深; 法諱、曹洞僧) 2 1 0 3  
 耻心(ちしん; 初号) → 如風(じよふう、文英和尚、僧/俳人) C 2 2 9 3  
 池臣(ちしん・宮本) → 池臣(いけおみ・宮本みやもと/毛呂もろ、神職) F 1 1 3 8
- E2848 **知真庵**(ちしんあん; 号、義観ぎかん; 法諱)?-? 江後期京の真言宗清閑寺住職、心学; 手島堵庵門、  
子供の訓育; 1867刊「子もり歌」著
- E2849 **知辰**(ちしん・本島もとじま、字; 梅子、号; 月堂)?-? 江前期京の町人、  
1688-1734「月堂見聞集(岡野随筆)」 「月堂見聞集後編」著
- 治臣(ちしん・久保田) → 治臣(はるおみ・久保田くぼた、医者/尊攘) J 3 6 4 9  
 治親(ちしん・毛利) → 治親(はるちか・毛利もうり、藩主/歌) J 3 6 5 7  
 知新庵(ちしんあん) → 知新(ちしん・翠中軒/近藤、与力/茶人) E 2 8 4 6  
 知新庵(ちしんあん) → 賀世(よしつぐ・室谷むろたに、商家/国学者) E 4 7 6 9  
 知新斎(ちしんさい) → 常足(つねたり・上野、洋学者) C 2 9 4 6
- E2850 **池水**(ちすい・柿崎かきざき/小池、名; 景睦) 1792-1864 73 信濃水内郡笹平村の医者、  
漢学・書・算術を教授、「屋代記」著、  
[池水(;号)の通称/別号]通称; 多膳、別号; 望松楼
- 知水(智水ちすい; 字) → 良如(りょうじよ; 法諱・知水、浄土僧) J 4 9 1 4  
 知水(ちすい・宮本) → 愚翁(ぐおう・宮本みやもと、藩士/心学者) C 1 7 3 2  
 智瑞(ちずい; 字) → 瑞光(ずいこう; 法諱・智瑞、真言僧) E 2 3 5 0  
 智瑞(ちずい; 字) → 増隆(ぞうりゅう; 法諱・智瑞、真言僧/神道) J 2 5 1 6  
 治水暗室(ちすいあんしつ) → 由章(よしあき・下村しもむら、藩士/詩歌) B 4 7 8 8  
 地水軒(ちすいけん) → 秀穎(ひでかひ・河村かわむら、藩士/国学者) C 3 7 8 9  
 雉随車(ちずいしゃ) → 文鳴(ぶんめい・戸田とだ、去音門/俳人) G 3 8 5 0  
 知崇(ちすう・西川) → 雄山(ゆうざん・西川いしかわ、儒者/教育) B 4 6 9 2  
 千束(ちづか・浜田) → 千束(ちづか・浜田はまだ、大庄屋/国学) N 2 8 3 1  
 千澄(ちすみ・青木) → 千枝(ちえだ・青木、国学者) 2 8 4 5  
 千鶴(ちずる・中山) → 千鶴(ちずる・中山なかやま、歌人/書家)
- N2869 **チセ**(ちせ・森脇もりわき、旧姓; 二宮、号; 孤影) 1811-1902 長寿 92 周防岩国の国学者/歌人
- 千勢(ちせ・堀/本庄) → 千世子(ちせこ・堀/本庄、千勢ちせ、歌人) L 2 8 4 1
- E2851 **知清**(ちせい・鈴木すずき、順清男)?- 1835 棋士: 7世仙角・8世仙知門、6段、  
1824「対手百談」編、父順清は尾張徳川家に出仕した棋士

- 知正(ちせい・直原) → 知正(ともまさ・直原なおほら/菅原、国学) V 3 1 8 8  
 知清(ちせい・寺井) → 知清(ともきよ・寺井てらい、武家/連歌) P 3 1 3 8  
 知成(ちせい・阿部) → 知成(ともなり・阿部あべ、藩士/国学) T 3 1 8 9  
 知盛(ちせい・平) → 知盛(とももり・平、清盛男/武将) Q 3 1 7 1  
 智成(ちせい;法名) → 成頼(しばより/なりより・藤原/葉室、平家作者?) D 2 1 3 9  
 智清(ちせい・実相院勸妙坊) → 正(ただし・齋藤さいとう、修験/神職) X 2 6 3 3  
 治政(ちせい・池田) → 治政(はるまさ・池田いけだ、藩主/日記) G 3 6 8 6  
 茅生庵(ちせいあん) → 魚彦(なひこ・楫取かとり、国学/歌) 3 2 2 4  
 智静院(ちせいいん/ちじょういん) → 日孝(にちこう;法諱・村貞そんてい、日蓮僧) B 3 3 8 4  
 智静院(ちせいいん/ちじょういん) → 日耕(にっこう;法諱・恭寿院、日蓮僧) D 3 3 8 8  
 智生房(ちせいぼう) → 長恵(ちやうえ・智生房、真言僧) H 2 8 3 4
- E2852 知石(ちせき・鈴鹿すずか) 1681 - 1740 60 京吉田神社社家の生/俳人;鞭石門/執筆を務める、師より家秘口決を伝受、享保1716-36年間京俳壇で活躍/雑俳興行で有名;会所春花堂と親交、垂加神道修学、1719「野馬台集」編/22「尚齒会所本」/25「初見草」/34「糸柳」編、37「豊の蟬」、「かゞみ草」、「かくや姫」伝授車、「鯨の息」、「豊の畑」、「花のやま」、「万句合俳諧」編、外著多数、1729隆志「俳諧草結」入/序、追善「知石追善集」丈石編、[知石(;号)の別号] 寸松堂/蘆花翁、荃石せんせきの父
- L2841 千世子(ちせこ・堀ほり/本庄ほんじょう、千勢ちせ、堀直皓女) 1803-? 母;黒田直亨女、内蔵頭堀直格なおただ(信濃須坂藩主)の姉、美濃高富藩主本庄道貫みちつらの室、歌人;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(夫道貫と共に入集)、[夕立のあらひて過ぎし松が枝えに濡れてかかれる月の涼しさ](大江戸倭歌;夏529)
- M2884 ちせ子(ちせこ・千磐ちかや、) 1849-1915 67 筑後久留米藩士の家、歌人  
 稚節(ちせつ・小島) → 大梅(だいばい・小島/児島、詩/俳人) C 2 6 0 9
- C2815 智泉(ちせん;法諱、本姓;菅原) 789-825 37 母;阿刀氏、空海の甥、讃岐の真言僧;797空海門、空海に「密教の事は智泉に任ず」と言われるほど修学/聡明、824-5頃山城榎尾に西明寺創建
- E2853 知仙(ちせん・長谷川はせがわ、名;富房) ?-1728 (40余歳) 豊前築城郡城井村棋士/囲碁;本因坊道知門、6段;小倉藩主小笠原忠雄の抱、1727幕府碁所安井仙角(4世)の跡目;翌年没、「碁立絹節」著
- E2854 智川(ちせん;法諱、号;惣持房) 1698-? 1757 存 天台叡山僧;総[惣]持坊住、法印/大僧都、記録、「勸学会記」、「梶井御門跡御違例御祈記」、1747「立后御節会御祈記」著、1750「大猶院百回忌記」外著多数
- E2855 智運(ちせん;法諱、字;慈等じとう/号;遊心斎、俗姓;井村) 1702-68 67 播磨真宗本願寺派眞浄寺住職、学林の能化若霖門/師と共に二英哲と称される/1741師没後に代講を務める、1755義教が能化となり本山学林と対立;真宗本尊義に関する[明和の論争]中に没、「教行信証樹心録」、「正像末和讃正説」、「選択集温故録」、「或問篇」、1729「高僧和讃正説」、1733「阿弥陀経展持鈔」50「愚禿鈔樹心録」62「入出二門偈流情記」64「浄土真宗本尊義」著
- E2856 稚川(ちせん、岡本おかもと/修姓;岡、名;充) ?-1792 紀州和歌山藩士/儒詩;川合春川門、1789「玉藻詩集」90「玉藻集」、「耕余録」、「学辨国字」、「尊孟余辨」、「稚川独語」、「孟議」外著多数、[稚川(;号)の字/通称/別号]字;石介/至剛、通称;八輔、別号;玉藻
- E2857 治泉(ちせん・横山よこやま) 1755- 1837 83 信濃上田の俳人;天姥[虎杖]門/虎杖庵執筆、のち諸国行脚、宗匠として独立、「かざりまつ」、「ゑほうがき」、「塩田耕」著、1815「田毎の月」、16「はつたより」編、[治泉(;号)の通称/別号]通称;治左衛門、別号;更竜庵/虎雄坊/馬勃坊
- 智仙(ちせん;字) → 法願(ほうがん;法諱・智仙、真言律僧) 3 9 3 6  
 智仙(ちせん) → 金洞(きんどう・井田いた、日蓮僧/詩人) R 1 6 5 2  
 智宣(ちせん/とものお・井上/井) → 鷗笑(おうしょう・井上、庄屋/俳人) C 1 4 5 3  
 恥川(ちせん・佐久間) → 義明(よしあき・佐久間さくま/平清水、大庄屋/国学) M 4 7 9 5  
 稚川(ちせん・武田) → 載周(としちか・武田けだ、郷土史家) J 3 1 2 9  
 痴泉(ちせん・佐々木) → 政二(まさじ・佐々木ささき、藩士/俳人) C 4 0 6 4
- N2835 痴漸(ちぜん・春海はるみ、) 1830-1910 71 大坂の茶人/国学者、古美術品・茶器鑑識に精通、春海商店主人(古物商);常に[生涯貧宝]印を持参し名器購入に貧を厭わずとす、

- [痴漸(；名)の通称/号]通称；藤次郎、号；綽々子しゃくしゃくし/祐叟/喝山/聞濤軒/一樹庵  
 知善(ちぜん；法諱・万拙)→ 万拙(ばんせつ；道号・知善、臨濟僧/一時黄檗) I 3 6 2 9  
 智禅院(ちぜんいん) → 是真(ぜじん；法諱・遵教、日蓮僧/歌) K 2 4 6 1  
 痴儂居士(痴仙居士ちせんこじ)→ 十洲(じっしゅう・小栗おぐり/平、儒者/詩) E 2 1 9 6
- C2844 智泉聖通尼(ちせんしょうつじに、四辻宮尊雅王の女)?? 足利義詮室良子の母/義満祖母、通玄寺開、  
 四辻善成・無極志玄の姉  
 知宗(ちそう・平) → 知宗(ともね・平たいら、廷臣/歌人) Q 3 1 6 8  
 耻叟(ちそう・内藤) → 碧海(へきかい・内藤、漢学者/史学) 2 7 8 8  
 茅窓(ちそう/ぼうそう・茅原)→ 虚斎(きょさい・茅原ちはら、医者/和漢学) P 1 6 5 0  
 癡叟(ちそう) → 東陽(とうよう・津阪/菅原/山田、儒者) H 3 1 8 2
- E2858 智蔵(ちそう；釈、俗姓：禾田あわた)??(73歳) 大和時代近江朝の入唐僧(初唐高宗の時)、  
 学業優秀の故に同僚の妬みを恐れ狂喜を装う/帰朝し持統天皇の面前で優秀さを発揮、  
 僧正の位を授与された；懐風藻に伝と五言律詩2首入
- E2859 智蔵(ちそう；法諱) ? - ? 1717存 天台僧・叡山瑞雲院智周門、1711東塔白毫院4世、  
 「止観大意記」著
- E2860 智蔵(ちそう；法諱・玄風げんふう；号)1743-181270 安藝広島寺町の真宗本願寺派徳応寺12世；慧雲門、  
 和語に精通、三業帰命説を打破、歌/書を嗜む、1790「安楽集庚戌録」著、  
 「愚秃鈔録」「教行信証科文」「真宗安心四言得失辨」著、法号；深楽院柔順  
 知蔵(ちそう；法諱) → 随天(ずいてん；法諱、浄土宗学僧) E 2 3 8 7  
 知蔵(ちそう/ともそう・三輪)→ 経年(つねとし・三輪みわ、製造業/歌人) G 2 9 5 0  
 智蔵(ちそう；字) → 日運(にちうん；法諱、日蓮僧) 3 3 4 9  
 智蔵(ちそう) → 臆慶(いきょう、真宗大谷派僧) F 1 1 2 4  
 地藏房(ちそうぼう→じそうぼう)→ 仁濟(にんせい；法諱、真言僧) G 3 3 5 6
- E2861 知足(ちそく・下里しもさと、名；吉親、久宗[千代倉家初世]男)1640-170465 尾張鳴海の醸酒業、  
 千代倉家2世、祖父胤政の代に伊勢桑名から鳴海に転住/父久宗は鳴海本町下里家の分家、  
 俳諧：貞門・1674談林西鶴門・1685芭蕉門、芭蕉の上方往復に自邸滞在を請い指導を受ける、  
 多能多才の風流人、鳴海を俳諧の宿とし多くの文人と交流、1679「尾陽鳴海俳諧喚続集」編、  
 1697「多日万句羅」、「十一百韻」「知足斎日々記」「俳諧名簿」、「千鳥掛」著(息蝶羽刊)、  
 鳴海六俳仙の1、詩/舞/鼓/笛/茶/花/香/鞠なども嗜む、  
 [知足の通称/別号]通称；金右衛門/三五郎/勘兵衛、別号；蝸廬亭、寂照湛然(；剃髮後)、  
 息；蝶羽ちようう[風和]・亀世きせ[鉄叟]  
 孫；常和[和菊]・蝶羅ちようら・亀洞[学海]らすべて俳人  
 参照 → 鳴海の千代倉家(なるみのちよくらけ)
- E2862 知足(ちそく；法諱) ? - ? 1743存 天台僧、備前仏心律寺住、  
 1743「朝晩両課重聞記」「天台四教儀集註童学鈔」著
- E2863 知足(ちそく；字、寂妙じゃくみょう；法諱)?? 江中期京の日蓮僧、1750「靈山奇賞」、「身延図経」著  
 知足(ちそく) → 宗規(そうき・月堂；道号、臨濟僧) 2 5 9 4  
 知足(ちそく；号) → 宥峰(ゆうほう；道号・宗恕；法諱、臨濟僧) D 4 6 7 7  
 知足(ちそく；号) → 戒如(かいにょ；法諱・知足、律宗僧) J 1 5 0 3  
 知足(ちそく；号) → 尊賢(そんけん；法諱、真言僧正/歌人) F 2 5 3 1  
 知足(ちそく・増穂) → 残口(ざんこう・増穂/十寸穂まほ、神道家) F 2 0 7 9  
 知足(ちそく・脇坂) → 義堂(ぎどう・脇坂わきさか、心学者) L 1 6 6 6  
 知足(ちそく・古林) → 見桃(けんとう・古林ふるばやし、医者) B 1 8 6 8  
 知足(ちそく・中村) → 敲石(こうせき・中村なかむら、里正/俳人) K 1 9 0 7  
 知足(ちそく・松田) → 春台(しゅんたい・松田、医者/箏曲) F 2 2 7 4  
 知足(ちそく・土岐/星野)→ 六石(りっこく・星野ほし/土岐、藩医) B 4 9 7 9  
 知足(ちそく・松平) → 四山(しざん・松平まつだいら、藩主/俳人) D 2 1 7 9  
 知足(ちそく・高橋) → 知足(ともたり・高橋たかはし、藩士/和算家) P 3 1 7 2  
 知足(ちそく・小林/平田)→ 眠翁(みんおう・平田/小林、医者/本草家) G 4 1 7 7  
 知足(ちそく・小沢) → 潜鱗(せんりん・小沢おざわ、儒者) N 2 4 3 6

- 知足(ちそく・小島) → 成斎(せいさい・小島こじま、藩士/書家) B 2 4 6 0  
 知足(ちそく・鈴木) → 重嶺(しげね・鈴木すずき/穂積、知足斎、幕臣) C 2 1 6 5  
 知足(ちそく・前田) → 知足(ともたり・前田まえだ/菅原、藩士) 3 1 7 4  
 知足(ちそく・大田垣) → 知足(ともたり・大田垣おたがき、歌人) U 3 1 5 5  
 知足(ちそく・岩沢) → 幸年(ゆきとし・岩沢いわさわ、藩士/歌人) G 4 6 5 8  
 知足(ちそく・玉井) → 行篤(ゆきあつ・玉井たまゐ、藩士/国学) G 4 6 9 9
- E2865 知足庵(ちそくあん、姓名不詳)?- ? 江戸後期、上総大鷲村で教授、「下民学」著
- 知足庵(ちそくあん) → 加興(かこう・知足庵、俳人) F 1 5 0 4  
 知足庵(ちそくあん) → 道一(どういつ;法諱・漢三かんさん、曹洞僧) B 3 1 0 2  
 知足庵(ちそくあん) → 白義(はくぎ・瀬上せがみ、俳人) C 3 6 9 2  
 知足庵(ちそくあん) → 清謙(きよかた・大岡/織田、幕臣) O 1 6 7 1  
 知足庵(ちそくあん) → 祐修(すけのぶ・桐山きりやま/野村、国学者) I 2 3 4 3  
 遅庵(ちそくあん) → 梅室(ばいしつ・桜井、俳人) 3 6 0 4  
 知足庵僧正(ちそくあんのそうじょう) → 尊賢(そんけん;法諱、真言僧正) F 2 5 3 1  
 知足院(ちそくいん) → 日進(にっしん;法諱、岩本隠士、日蓮僧) E 3 3 5 0  
 知足院(ちそくいん;号) → 無幻(むげん;法諱、修験僧/書家) 4 2 4 9  
 知足院(ちそくいん;号) → 実祐(じつゆう;法諱、社僧/国学者) O 3 1 7 8  
 知足院殿(ちそくいんどの) → 忠実(たださね・藤原、撰関/故実/歌) 2 6 2 5  
 知足院入道善関白太政大臣(ちそくいんのにゅうどうさきのかんぱくだいじょうだいじん)  
 → 忠実(たださね・藤原、故実家) 2 6 2 5
- 知足館(ちそくかん) → 松旭(しょうぎよく、友鳴、読本作者) G 2 2 1 1
- E2866 知足軒(ちそくけん) ?- ? 江前期撰津の真宗仏光寺派僧、1687刊「善信聖人報抄」著
- 知足軒(ちそくけん) → 梵芳(ぼんぼう・玉腕/玉桂、臨濟僧) F 3 9 5 7  
 知足軒(ちそくけん) → 友山(ゆうざん・大道寺/平、兵法家) B 4 6 8 8
- E2867 知足斎(ちそくさい・武藤むとう) 1763-1836 74 羽後秋田の儒者;1795江戸で山本北山・皆川淇園門、  
 和学にも精通、1797秋田久保田藩校明德館国学教授、人見蕉雨斎と交流、「男鹿紀行」著、  
 [知足斎(;号)の名/字/通称/別号]名;盛達もりしげ、字;芳卿/直夫、通称;礼治、  
 別号;夕佳楼せきかろう
- 知足斎(ちそくさい・樋口) → 碩果翁(せつかおう・樋口、藩士/詩人) E 2 4 0 9  
 知足斎(ちそくさい・永田) → 徳本(とくほん・永田/長田、医者) L 3 1 4 5  
 知足斎(ちそくさい・鈴木) → 重嶺(しげね・鈴木/穂積/小幡、幕臣/歌) C 2 1 6 5  
 知足斎(ちそくさい) → 義和(よしまさ・佐竹、藩主/藩政改革) H 4 7 0 9  
 知足斎(ちそくさい) → 亀洞(きどう・下郷/千代倉、学海、醸酒業/俳人) B 1 6 5 7  
 知足斎(ちそくさい) → 伝芳(でんぼう・下郷/千代倉、亀洞の養嗣/俳人) E 3 0 3 1  
 知足山人(ちそくさんじん) → 直虎(なおとら・堀ほり、藩主/桜研究) B 3 2 9 0  
 知足坊(ちそくぼう・川原) → 一瓢(いっぴょう・日桓、俳人) B 1 1 6 3  
 知足緑菴(ちそくりよくあん) → 寿阿弥(じゅあみ・長島、長唄/浄瑠璃作者) G 2 1 6 5
- N2849 千園(ちの・堀内ほりうち、広城ひろき4男) 1841-1908 68 和歌山藩領伊勢飯高郡宮前村の生、  
 国学・歌;本居内遠・佐々木弘綱門、古井村大庄屋の千稻ちしの弟、  
 [千園(;名)の初名/通称]初名;敬広、通称;利右衛門(父の称)
- M2834 知退(ちたい・東ひがし、旧姓;相田信也) 1641-1713 73 京の生/歌人;望月長孝門/儒;松永正易門、  
 さらに伊藤仁斎、1692(元禄5)森儼塾げんじゅくの推薦で水戸藩の徳川光圀の賓客;  
 「万葉集」の校合に従事;江戸住、加藤敬和の師
- 知退(ちたい・河村/北条) → 悔堂(かいどう・北条ほうじょう、儒者) H 1 5 1 8  
 知泰(ちたい・並川) → 忠成(ただなり・並川なみかわ/中川、国学者) Y 2 6 7 4  
 致大(ちだい・帆足) → 杏雨(きょうう・帆足ほあし、絵師) N 1 6 2 2
- E2868 智沢(ちたく;道号・浄深じょうしん;法諱)?-1760 美濃の黄檗僧;覚照元宗門;1719嗣法、  
 美濃武儀郡小屋名の臨川寺/方県郡雛倉村の宝厳寺/三河碧海郡牛田村の泉蔵寺を歴住寺、  
 上州甘楽郡の不動寺住持、1721「覚照和尚語録並行由」編
- E2869 雉啄(ちたく・遠藤えんどう) 1761- 1844 84 安房天津の俳人;鳴立庵葛三門、1817鳴立庵継承、

1803「寢覚の雉子」09「鳴の井」19「葛三句集」編/21「まつかせ集」「三つ栗」編/29「磯清水」編、  
1832「花昌亭百亀追善句集」33「はなくやう」編、  
「たかすなこ」「はなの」「鯉鱗行」「八十賀集」著

[旅人と見えるか花の尻からげ]

[雉啄(；号)の別号] 鳴立庵6世/秋暮亭/しらら房、法号；証阿雉啄居士

D2877 千丈(ちたけ・山本やまと) ? - ? 江中期大阪の狂歌作者；  
1767(明和4)「狂歌鶴の真似」著(柏原屋佐兵衛板)

M2849 千丈(ちたけ・古山こやま) 1805 - 1860<sup>56</sup> 阿波名東郡の徳島藩士、国学/歌；小出清音門、  
佐藤友信の師、

[千丈(；名)の別名/通称/号]別名；道建、通称；俊太郎、号；楡園にれぞの・ゆえん

千丈(ちたけ・瀧廼本たきのもと) → 瀧廼本千丈(たきのもとちたけ、狂歌) N 2 6 8 9

E2870 智達(ちたつ；法諱・義諦ぎたい；字) 1771-1822<sup>52</sup> 越中飯坂の真宗本願寺派弘誓寺の生、宗学；柔遠門、  
三業惑乱討論鎮静後に本山御用僧/地方鎮静のため本山命で撰津島上郡上殿慈明寺住職；  
寺内に寮舎を設；子弟教育、「北峰問難書」「論註八番問答」著、  
1820「肅命録」21「文類聚鈔聴記」著、

[智達の号] 北峰/仏山/速成寺、諡号；速成院

智達(ちたつ；字) → 竹林(ちくりん；法諱、結庵/詩歌) M 2 8 9 1

E2871 智脱(ちだつ；法諱、隠溪いんけい；道号) ?-? 江戸初期臨濟僧、妙心寺蟠桃院4世、  
山崎闇齋の知己、1668「儒仏合論」著

E2872 知脱(ちだつ；法諱、俗姓；小久保) ?-1780 武州比企郡川島平沼の真言僧；1759伝法院流受法、  
1767-70伝法会堅義の役(法住・快道・慈光らと)、「焼八千枚作法」、「法宗源筌蹄」著

智脱(ちだつ；法諱) → 澄月(ちようげつ；号・智脱、浄土僧/歌人) 2 8 2 1

2813 千楯(ちたて・城戸きど/本姓；大江、蛭子屋市右衛門男) 1778-1845<sup>68</sup> 京の書肆、国学/歌；1797宣長門、  
家業の傍ら鐸鈴舎ぬでのや[鐸舎]創設；国学の教授、宣長没後；荒木田久老門/1823以文会参加、  
1817「万那備能広道」23「民家敬神録」24「和歌布留の山ふみ」36「鐸舎歌会式」著、  
37「詠歌したためぶり」42「雅言通載抄」著、「紙魚室しみのや雑記」編/「紙魚室自撰長歌集」著、  
「なるの日なみ」「まてかたの考」/「百樹の摘葉」編/「大井川花名之歌」「城戸千楯書簡」著、  
歌；本居大平「八十浦の玉」中巻；長歌3首反歌3首入、

[大井川へだてて見れば嵐山尾上の花ぞここだ咲きたる]、

(八十浦；539/長歌「嵐山の花見」の反歌)、

[千楯(；名)の別名/通称/号]別名；経正/範次/範治、通称；万次郎/市右衛門、  
号；鐸舎ぬでのや/曙廼舎あけぼののや/紙魚室[蠹舎]しみのや、屋号；蛭子屋(恵比須屋)

E2898 千胤(ちたね・田中たなか/旧姓；川上、通称；孫次郎) 1?-1827 飛騨高山の国学者・歌人、  
国学・歌；田中大秀(1777-1847)門

M2817 千胤(ちたね・遠藤えんどう/本姓；平) 1839-92<sup>54</sup> 京の歌人；渡忠秋・竹内享寿門、  
1888(明治21)全流派総合歌会邦光社創立；常任理事、「一窓集草稿」著、

[千胤(；名)の別名/通称/号]別名；全脩、通称；弥作、号；紫園

千種(ちたね・遅蒔) → 遅蒔千種(おそまきのちたね、狂歌) B 1 4 8 3

N2876 千足(ちたり・横井よこい、横井千秋[1738-1801]の養子) ?-1820 尾張名古屋の国学者；本居宣長門、  
[千足(；名)の初名/通称]初名；時恭、通称；熊吉/十郎左衛門、十郎左衛門の父

N2827 千足(ちたり・野田のだ、通称；善右衛門) ?-1844 伊予八幡浜の組頭、歌人；二宮正禎門、  
誠民のぶたみ(1821-54)の父、八幡浜の里正野田万蔵・養子野田広足と一族、

M2808 千足(ちたり・糸永いとなが、若狭守、忠昌の長男) ?-1891 豊前宇佐神宮の神職、茂昌(1846-1920)の兄

M2881 千足(ちたり・館松たてまつ、) 1834-1908<sup>75</sup> 信濃伊那郡南条村の神職、国学；平田鍊胤門、歌人、  
[千足(；名)の初名/通称/号]初名；信胤、通称；司馬之助/縫殿之助ぬいのすけ、号；環

M2855 千足(ちたる・匂坂こうざか、) 1770-1839<sup>70</sup> 遠江磐田郡の国学者；栗田土満門、  
幡鎌はたかま幸雄(報国隊)を養育；歌の師、

[千足(；名)の通称] 求馬/浅右衛門

道足(ちたり/ちたる・大伴) → 道足(みちたり・大伴宿禰、廷臣) 4 1 0 7

E2864 智短(ちたん) ? - ? 撰津大善寺僧、狂歌；1666行風「古今夷曲集」入、

[わけあればくるゝ物とは知りなかならほうらめしをもらふ身の果て]、

(夷曲集;哀傷762/非人;乞食/わけ;残飯、恨めしと飯を掛る、

本歌;明けぬれば暮るるものとは知りなかならほうらめしき朝ぼらけかな/藤原道信)

- E2873 **智端**(ちたん) ? - ? 真言僧、1701-2長谷寺英岳の講筵参加、「大日経疏録」著  
知紘(ちたん・沢辺) → 北溟(ほくめい・沢辺さわべ、藩士/儒者) D 3 9 9 5
- E2874 **癡々**(ち・力石ちからいし、名;忠一)1641-9353 伊賀の篆書家/1678徳川光圀に出仕/右筆;彰考館入、  
彰考館印を考案、1685「鎌倉志」補訂、「鎌倉志補遺帳」編/「篆字類纂」「四声考」「図像略伝」著、  
[癡々(;号)の字/通称/別号]字;叔貴、通称;勘介、別号;癡々斎  
致知(ちち・坂野) → 致知(むねとも・坂野、歌人) B 4 2 8 9  
致知(ちち・矢部) → 致知(むねとも・矢部、藩士) B 4 2 9 0  
致知(ちち・大村) → 致知(むねとも・大村、藩士/日記) B 4 2 9 1  
致知(ちち・片桐) → 致知(ゆきとも・片桐かたぎり、商家/歌人) G 4 6 7 4  
致知(ちち・岸) → 致知(むねとも・岸さし/有馬、藩士/国学) D 4 2 7 5  
知致(ちち・芳賀) → 知致(ともゆき・芳賀はが、和算家) Q 3 1 8 5  
知竹(ちちく・並河) → 誠所(せいしょ・並河なみかわ/なびかわ、儒者) I 2 4 7 4  
千々鶴丸(ちちつるまる・北郷) → 久加(ひさます・北郷きたごう、家老/歌人) J 3 7 2 6
- E2875 **銀杏満門**(ちちのみのみつかど/いちじょうの、姓;久保/名;九郎太郎、字;百順)?-? 幕臣、朱楽漢江・南畝と親交、  
江戸牛込二十騎町の狂歌作者;山手連/朱楽連、1785南畝「後万載集」18首/狂歌鶯蛙集入、  
[子日ねのひの雪 老が身も頭かしの雪を振たてて孫やこまつに引かれてぞ出る](後万載;33)  
ちちの舎(秩の舎ちちのや) → 栄武(よしたけ・中島なかじま、大庄屋/歌人) O 4 7 1 8  
千々廼舎(ちちのや) → 有功(ありこと・千草、廷臣/歌人) B 1 0 6 8  
千々彦(ちちひこ・田部/伊高) → 重躬(しげみ・伊高いだけ/田部、神職/歌人) N 2 1 3 1  
秩父上人(ちちぶしょうにん) → 性心(性真しょうしん;法諱、浄土僧鎮西流藤田派祖) J 2 2 9 4
- L2805 **秩父根努頼雄**(ちちぶねるお)?-? 上州の狂歌作者;1785「徳和歌後万載集」入(;385)  
[人なかでしはい顔すな気をはるな金銭とうは留め湯にしなさい](後万載集;385)、  
(伊香保に行く人を送る歌/はるなに榛名山を掛ける、留め湯は帳場に預けること)
- E2876 **知治麿**(智治丸ちちまる・卜部うらべ、諸魚男)779-81638 神職;従四上・神祇大副/式部少輔・少納言、  
丹波介、825「卜部記」著、  
[知治麿(;名)の神号] 献昭霊神  
致忠(ちちゅう→ときただ・大田原/阿久津) → 竜湖(りゅうこ・阿久津、儒者) D 4 9 6 9  
知忠(ちちゅう・森) → 知忠(ともただ・森もり/斎藤、国学/歌) W 3 1 7 1  
智忠親王(ちちゅうしんのう) → 智忠親王(としただしんのう、歌人) M 3 1 7 5  
知長(ちちょう) すべて → 知長(ともなが)  
知長(ちちょう・東坊城) → 恒長(つねなが・東坊城ひがしほうじょう、詩歌) C 2 9 8 4  
知澄(ちちょう・内山) → 知澄(ともずみ・内山うちやま、国学/歌人) U 3 1 3 5  
知直(ちちよく・藤塚) → 知直(ともなお・藤塚ふじつか、神道家) Q 3 1 0 0  
智珍(ちちん・古屋) → 作左衛門(さくざえもん・古屋、儒/蘭学/幕臣) E 2 0 5 3  
致陳(ちちん・よしのぶ・岩田) → 田鶴丸(たづまる・蘆辺あしべ/岩田、狂歌) 2 6 3 9  
致陳(ちちん・深野) → 致陳(むねのぶ・深野ふかの/三浦、国学者) E 4 2 2 0  
秩(ちつ・巖村) → 南里(なんり・巖村いわむら、儒者) J 3 2 6 2
- E2877 **智通**(ちつう;法諱、光居こうきよ;字、号;光居菩薩、俗姓;葛西)1314-140390 石見or尾張の浄土僧、  
六角義;西山派永覚or智円門、1355美濃市橋荘立政寺開、1382後円融天皇病氣平癒の祈祷、  
亀甲山立政寺の勅額と宸翰六字名号を受/1391後小松天皇より黄衣を受/91常紫衣の勅許、  
1398「寺規十箇条」制定/1401光居菩薩の号を受、「照明記」「円戒授法」「往生礼讃口筆抄」著、  
「浄土往生論註解鈔」「証空疏口筆」「論註口筆鈔」著、智鏡・達智らの師  
知通(ちつう・藤田) → 知通(ともみち・藤田ふじた、歌人) T 3 1 5 8
- N2831 **千束**(ちつか・浜田はまだ、)1792-184453 土佐幡多郡清水村の大庄屋、  
国学・歌;今村楽たぬし門、冤罪で追放された師楽を助け清水で生計を援助;没後墓碑を建立、  
[千束(;名)の別名/通称]別名;千秋/春布、通称;八木右衛門  
秩岳(ちつがく・大野) → 玄鶴(げんかく・大野おの、医者/地誌) I 1 8 2 7

- E2878 **千継**(ちつぐ・讃岐さぬき/初姓;凡おうし、姓かばね;直あたひ/公きみ) ?-? 808存 讃岐寒河の出身の明法家、勘解由次官、従五下大判事兼造宮大進/越前大掾、791賜姓;讃岐公さぬきのきみ、805備前権介/808刑部少輔、803「延暦交替式」著
- E2879 **秩山**(ちつざん・樋口ひぐち、名;文之/字;白賁はくひ) ?-?1830-40頃没 江戸後期江戸四谷の儒者、鷹見爽鳩門、儒を講説、1801刊「論語辯書」補填、逸齋(書家)の父  
 秩山(ちつざん・渋川) → 時英(ときひで・渋川、柔術家) J 3 1 9 0  
 千槌(ちづち・山内) → 広通(ひろみち・山内やまのうち/藤原、家老) H 3 7 2 6  
 蟄竜子(ちつりゅうし) → 陳亮(のぶしげ・武藤、国学/歌人) B 3 5 7 0
- N2877 **千鶴**(ちづる・吉田よしだ、通称;順平/号;偃武) 1768-1816 49 近江彦根の絵師;京に遊学、画・俳諧;蝶夢門、筑前遠賀郡芦屋に20余年滞在;花鳥・人物・虫魚画、1792「芭蕉翁絵詞伝」縮画(正栄原画)、国学/茶道、門燈龍の創始者、芦屋文化の推進者、門弟多数(宗像芦屋・二村洞山・中西耕石・守田洞山・波多野春鎮・倉野煌園など)、1816(文化13)没、芦屋金台寺に碑あり
- N2818 **千鶴**(ちづる/ちづ・中山なかやま、) 1776-1837 62 佐渡佐和田町河原田の歌人/書家、河原田の豪商中山七兵衛家(新居屋)の生/祖父の跡を継嗣;中山廬兵衛家の当主/名主、1798(23歳)上京し書;無幻門/歌;小沢廬庵門、1805(30歳)家督を弟敬之に譲渡;自適生活、書家;相川の永宮寺松堂・堀口松庵と共に[佐渡の三松]、「河原田諏訪神社の幟」が有名、歌人;新穂の本間季喜・赤泊の佐藤枝彦と共に[三歌匠]と称される;没後歌集刊、妻の恵子も書家・歌人、廬庵の家集[六帖詠草]に師と千鶴の贈答歌入、[風をいやみそむきに乗りて行く駒の跡さへ見えぬ雪の高濱](千鶴)[わたつみのかぎりもなみの末かけて聞くやまくらの山ほととぎす](妻恵子)[千鶴(;名)の字/通称/号]字;長年、通称;泰蔵、号;松齋/哲斎/致遠
- E2880 **致亭**(ちてい・山内やまうち、名;任、牛込古左衛門男) ?-? 山内又十郎の養嗣子;江戸末期伊勢桑名藩士、14歳頃同藩小野損庵の江戸詰に随従;詩文・経史を修学/1844頃より経義を専門とする、儒詩;秋山勝鳴門、拔擢され横目付、「致亭遺稿」、[致亭(;号)の通称]庸助/又十郎(;養父の称を踏襲)  
 知貞(ちてい・土屋) → 知貞(ともさだ・土屋つちや、幕臣/記録) P 3 1 4 6  
 知貞(ちてい・山口) → 知貞(ともさだ・山口やまぐち、藩士/和算家) P 3 1 4 9  
 知貞(ちてい・今田) → 知貞(ともさだ・今田いまだ、藩士/歌人) U 3 1 2 8  
 知貞(ちてい・本荘) → 知貞(ともさだ・本荘ほんじょう/本庄、医者/国学) W 3 1 3 6  
 智定(ちてい/ちじょう;字) → 宝巖(ほうごん;法諱・智定;字、真言律僧) 3 9 7 8  
 致貞(ちてい・有沢) → 致貞(むねさだ・有沢、藩士/軍学/算法) B 4 2 3 3  
 痴亭(ちてい・橋村) → 正令(まさのり・橋村はむら/度会、神職/和漢学/書画) R 4 0 7 2
- M2845 **智貞尼**(ちていに・雲井くもい、藩士雲井正扶[1762-1842]女) 1791-1871 81 伊勢津の国学者/歌人;父門、[智貞尼(;法名)の名/号]名;たけ子、号;松雪庵  
 ☆但馬竹野町下塚の長法庵主智貞尼(1846-55[弘化3-安政2]に堂再建・開眼供養)と同一?
- E2881 **知哲**(ちてつ;法諱、大垣藩主戸田氏鉄男) 1602-69 58 美濃大垣の浄土僧;山城称名寺で出家  
 1615江戸芝増上寺の源誉存応門、下総檀林大巖寺・小石川伝通院住、1662増上寺25世、69麻布一本松に退隠、歌人、「倚月雑集」著  
 [知哲の法名]法名;乗蓮社/頓誉/心阿/正心  
 知哲(ちてつ・横山) → 知哲(ちかあき・横山よこやま、幕臣旗本) 2 8 5 6  
 知哲(ちてつ・河西/塩野) → 適斎(てきさい・塩野/河西、幕臣/剣術) B 3 0 9 0  
 知哲(ちてつ・赤川) → 知哲(ともさと・赤川あかがわ/岩松、藩士/歌) T 3 1 9 1  
 智徹(ちてつ・見叟;道号) → 見叟(けんそう・智徹、臨濟僧) K 1 8 6 9
- E2882 **池天**(ちてん・桜山さくらやま) ? - 1778 尾張名古屋車道の俳人;沢露川・榎本馬洲門、「明和九壬辰歳旦」著、  
 [池天(;号)の通称/別号]通称;四郎太/四郎太郎しつらう、別号;泰岳/晴鏡廓せいきょうかく/一亀園
- M2889 **智天**(ちてん;法諱) 1788 - 1878 長寿 91 遠江磐田郡の時宗 西光寺住職、

国学・歌;石川依平門

- E2883 **知電**(ちでん;法諱、号;円澄) ?- ? 享保1716-36頃真宗僧、摂津光明寺住職、  
1731「御伝絵報恩鈔」著
- E2884 **智伝**(ちでん;法諱) 1680 - 1745<sup>66</sup> 伊勢安濃郡藤水の真宗高田派金剛寺住職、  
1692(13歳)得度/宗乗・余乗;津の本徳寺洪音門、1721学寮で子弟教育;香衣を許される、  
「御書疑関」「尊像志」、1728「教行信証詒謀録」著  
智伝(ちでん、智伝院) → 日志(にちし;法諱・智伝院、日蓮僧) C 3 3 0 1  
知度(ちど・上下) → 知度(ともり・上下、狂歌) S 3 1 8 3
- E2885 **智灯**(ちとう;法諱) ? - ? 江前期;真言宗高野僧、  
1684刊「弘法大師弟子伝」「大師遊方記」著
- E2886 **池当**(ちとう) ? - ? 江前期の俳人、1690不角「二葉之松」入  
[伊勢国いせのくに不断桜ふだんざくらのむら気ぎなし](二葉之松;33/不断桜は白子観音四季咲桜)
- E2887 **池東**(ちとう・辻つ) ? - ? 江中期若狭小浜竹原の俳人;千載堂早川丈石系?  
「なめくちり」編、  
[池東(;号)の通称/別号]通称;源左衛門、別号;梅寺/梅守斎  
知冬(ちとう・高畑/安藤) → 陽洲(ようしゅう・安藤/高畑、藩儒) B 4 7 1 0
- E2888 **知道**(ちどう;法諱、俗名;源基定、源俊定男/源基具の養子) ?-?1286存 鎌倉期廷臣;右中將/從四上、  
1269出家;真言密教僧、嗟峨or東山住、密教に疑問;禪・念仏に傾斜、  
「夢知識物語」「仏法夢物語」「阿字不生抄」「光明真言式」、1284「病中用心抄」86「好夢十因」著、  
[我が身を有ありと思ふ故にこそ万づ過とがは発ゆる習ひなれ](自我の戒め;仏法夢物語)
- E2889 **知童**(ちどう) ? - ? 1691賀子「蓮実はずのみ」三吟歌仙入;17句
- E2890 **智洞**(ちどう;法諱・恵恩院えおんいん;号) ?- ? 1704存 尾張の僧;東春日井郡難五村の密蔵院35世、  
名古屋東照宮別当職を兼務、  
1699「東照宮三所宮略記付三所宮辨」、「尾州篠木荘密蔵院縁起」著
- E2891 **智堂**(ちどう;法諱、法名;耀蓮社/嶺誉/在阿、俗姓;梅田) 1726-1800<sup>75</sup> 伊勢丹生の浄土僧;  
1742(17歳)伊勢射和の延命寺還誉門;出家/41芝増上寺で修業;42智瑛門/75学頭、  
深川靈巖寺・小石川伝通院檀林歴住、1793増上寺53世/大僧正;99麻布一本松に退隱、  
1786「吉水清濁辨」著/89「臨終指南鈔」注、
- E2892 **痴堂**(ちどう・荒木あき、名;文篤、別号;猶水ゆうすい) ?-1766 江中期江戸の書家;門弟指導、歌を嗜む、  
「雑司谷護国寺遊記」「東海寺参詣記」著、津村涼庵の師
- E2893 **智洞**(ちどう;法諱・信誓;字) 1728-79<sup>52</sup> 加賀大熊の真宗本願寺派養法寺住職/唱導、  
能登羽咋郡菅原の生/宗乗;僧樸門、各地布教;能登菅原明専寺住職/養法寺再興、  
俗謡を利用の唱導勸化本執筆、1750「浄土勸化言々海」52「説法巍々編」56「聖人勸化芙蓉編」、  
1754「説法無尽蔵」/78「打起睡眠録」/「勸向西方編」81「勸導要語」、「説法微塵章」外著多数、  
[智洞の号/通称]号;如達/鏡花坊、通称;菅原智洞すがわらのちどう/能登智洞のちどう  
鏡花坊如達と同一人か → 如達(にょたつ・鏡花坊、儒/本草/俳論) G 3 3 0 6
- E2894 **智洞**(ちどう;法諱・桃花房;号、勝満寺浄謙男) 1736-1805<sup>獄中死 70</sup> 京の真宗本願寺派僧;僧樸門、  
のち功存門/京一条の浄教寺住職、1797能化職、三業安心欲生帰命の説;三業惑乱の諍論;  
1804幕命で大瀛(おおい)・諦忍(たいにん)らと寺社奉行所で対論、判決前に伝馬町の獄中で没、  
諸大寺の典籍の書写・学林の蔵書目録作成に貢献、「安心書記」「桃華録」「高僧和讃講林」、  
「高僧和讃天明録」「桃花講主演説記」、1796「愚禿鈔講林」98「閲察法話記」「閲察対話」外著多、  
[智洞の諡号] 応現院、正運・大魯・智蔵らの師
- E2895 **智幢**(ちどう;法諱) 1780 - 1833<sup>54</sup> 備後尾張今坂の真宗高田派万徳寺の生、  
寺を弟純道に譲渡、伊勢専修寺智慧光院の真淳門、漢詩文精通、屢々宗主の顧問を務める、  
1832講師、「言南無者講義」著、  
[智幢の幼名/字/諡号]幼名;諦道(たいどう)、字;光頭、諡号;本定院(ほんじょういん)
- E2896 **痴堂**(ちどう・松川まつかわ、名;健、大庄屋松川三之助の弟) 1796-1849<sup>54</sup> 越後蒲原郡井栗村の出身、  
昌平黌修学;帰郷後子弟教育/越後三日市藩儒;藩校文武所教官、詩賦/一弦琴を嗜む、  
「痴堂遺稿」、  
[痴堂(;号)の字/通称/別号]字;率履、通称;倉八、別号;蕉鹿

- E2897 **知道**(ちどう;法諱、善海男)?-1864 美濃海津郡三郷の真宗大谷派覚明寺住職;父継承、高倉学寮に修学/1832寮司/44擬講/59嗣講、「草庵問答」「行信義林」「入出二門偈隨聞誌」、1834「解深密經聞記」60「正信偈聞書」62「入出二門偈聞書」著、[知道の別法諱/号]別法諱;智導/智幢、号;松庵、諡号;恵行えぎょう院
- E2899 **知道**(ちどう;法諱) ? - ? 江戸後期僧、武蔵南畑の長徳寺住職、歌、「高野山紀行」著
- F2800 **恥堂**(ちどう・大野おの、名;紳、臆斎男)1807-8478 越後北蒲原郡聖籠村の庄屋/三郷の社講之任、儒者;家学父門・丹羽思亭門、家塾絆己楼経営;門弟多数、尊攘を主唱、維新後太政官書記官、「神風実記」「恥堂文稿」、「国体論」著、[恥堂(;)号]の字/通称/別号]字;垂卿、通称;敬吉、別号;脩斎、
- F2801 **恥堂**(ちどう・天野あまの、名;章/長章)1819-7961 佐渡の儒者、詩人、「恥堂遺稿」、[恥堂(;)号]の字/通称/別号]字;説之/斯文、通称;孫太郎、別号;旗文/雪鳴/雪翁
- 智堂(ちどう;法諱・光紹)→ 光紹(こうしゅう;道号・智堂、曹洞僧) J 1 9 7 5  
 智幢(智導ちどう;法諱)→ 知道(ちどう;法諱、真宗大谷派僧) E 2 8 9 7  
 智幢(ちどう;字)→ 法住(ほうじゅう;法諱・智幢、真言僧) B 3 9 6 1  
 智幢(ちどう;字)→ 法樹(ほうじゅ;法諱・智幢;字、真言僧) B 3 9 3 2  
 智道(ちどう・岩崎)→ 綱雄(つなお・岩崎、里正/国学者) B 2 9 0 4  
 致堂(ちどう・横山)→ 政孝(まさたか・横山よこやま、藩士/詩人) D 4 0 2 4  
 致道(ちどう・沢田)→ 良敬(りょうけい・沢田さわだ、医者) H 4 9 2 3  
 致道(ちどう・南部)→ 利剛(としひさ・南部なんぶ、藩主/国学/歌) T 3 1 7 7  
 知道(ちどう・田口)→ 霞村(かそん・田口たぐち、書家) C 1 5 5 1  
 知道(ちどう・大高)→ 宗肅(そうしゅく・大高おおたか、医者) H 2 5 8 5  
 知道(ちどう・松本)→ 龍沢(りゅうたく・松本まつもと、書家) F 4 9 1 4  
 知道(ちどう・窪田)→ 善之(よしゆき・窪田くぼた、藩士/暦算家) H 4 7 9 6  
 知道(ちどう・拝郷)→ 東海(とうかい;法諱・拝郷はいごう、真宗僧) W 3 1 0 8  
 痴堂(癡堂ちどう・関根)→ 延年(のぶとし・関根せきね、藩士/詩人) I 3 5 8 3  
 遅道(ちどう・丹羽)→ 桃溪(とうけい・丹羽にわ/修姓;丹、絵師) D 3 1 1 4  
 恥堂(ちどう;号)→ 願海(がんかい;法諱、天台僧/千日回峰) Q 1 5 0 7  
 恥堂(ちどう・行友)→ 清恕(きよひろ・行友ゆきとも、神職/国学) V 1 6 6 0  
 知等庵(ちどうあん)→ 澄禪(ちようぜん;法諱・悔焉、真言/悉曇学) J 2 8 3 1  
 痴道人(ちどうじん)→ 忠漸(ちゅうぜん・村井/邨井/村、儒医/和算) G 2 8 5 3
- F2802 **智得**(ちとく;法諱/初法諱;良道)1261-132060 加賀堅田の時宗僧;1281一遍門;智得と改名、1304真教の譲りを受け時宗3代遊行上人、諸国遊行16年/真教没後帰山;相模無量光寺3世、「弘願讚」「知心修要記」「三心料簡義」「称揚讚」「念仏往生綱要」著、安国・一鎮・託阿の師、[智得の通称/号]通称;中聖/中上人、号;量阿/他阿弥陀仏
- F2803 **知徳**(ちとく・福井ふくい) ? - ? 江前期京の俳人、1666以降重徳「続独吟集」百韻入、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、[山風の急げばまわる時雨哉](手鑑/急がば廻れのもじり)
- 智徳(ちとく/ともり・井上)→ 桐斎(とうさい・井上、里正/儒者/詩歌) E 3 1 2 9  
 知得(ちとく・中野)→ 仙知(せんち・安井やすい、囲碁棋士) M 2 4 9 3  
 知篤(ちとく・辻)→ 知篤(ともあつ・辻つじ、幕臣/歌/紀行) P 3 1 1 6  
 智徳院(ちとくいん;法号)→ 昭良(あきよし・一条、関白/歌/連歌) E 1 0 0 6  
 地徳院(ちとくいん;法号)→ 玄以(げんい・前田、武将/歌/連歌) F 1 8 1 6
- 2814 **千年**(ちとせ・ちね・車持くるまもち朝臣)?-? 奈良期宮廷歌人、723吉野/725難波従駕、山辺赤人と同時代の人、万葉集;913(吉野;長歌)14-16(反歌)/31(住吉;長歌)32(反歌)、950-953(難波宮従駕/笠金村歌集の歌;左注異伝に千年作之)
- F2804 **千年**(ちとせ・菅原すがわら) ? - ? 江中期神職;播磨揖保東郡の林田社大宮司、1797「播磨揖保東郡林田社古伝拾遺録」著
- M2812 **千年**(ちとせ・今村いまむら、)1797-184549 備前御津郡の今村神社祠官、国学/歌;平賀元義・藤井高尚・木下幸文・平松安材門、

[千年(;名)の号] 竜鱗亭/松陰/松園/松園しょうがん

- F2805 **千年**(ちとせ・加藤かとう/初姓;磐瀬いわせ、加藤直蔭の養嗣)?-1863 加藤千蔭の孫、江戸の生/幕臣、国学者、「古文書」編、「事言類考」「万葉集略解顔末」「家祖先譜」「大父君行実」著、  
[千年(;名)の通称] 又左衛門
- M2809 **千年**(ちとせ・糸永いとなが、益永護輔女)1839-89<sup>51</sup> 豊前宇佐神宮祠官糸永茂昌(1846-1920)の妻、  
国学/歌人  
千年(ちとせ→吉年、舎人)→ 吉年(きね・舎人、女官;万葉歌人) B 1 6 6 4  
千年(ちとせ・黒田) → 玄鶴(げんかく・黒田くろだ、医者/詩文) I 1 8 2 6  
千年(ちとせ・岩間/松井)→ 竹山(ちくざん・松井/亘理、医者/詩) D 2 8 0 8  
千歳(ちとせ・下郷/千代倉)→ 亀洞(きどう・下郷、学海、醸酒業/俳人) B 1 6 5 7
- F2806 **千歳一**(ちとせいち・小関おせき、通称;小関検校)?-? 江戸の音曲家;安政(1854-60)年間に検校、  
1857「雨夜の名残」編、1843杉山検校百五十回忌追善の平曲会に参加  
千歳園藤彦(ちとせえんふじひこ) → 藤彦(ふじひこ・千歳園、俳人) C 3 8 6 1
- G2871 **千歳組**(ちとせぐみ;組連) ? - ? 江戸本所四ツ目の雑俳の組連、  
取次;1740「収月評万句合」入、  
取次例;[壺人ひとり鼻かむと手の開く瓦上かはらあげ](前句;せはしい事々/流れ作業が止る)
- L2813 **千年組**(ちとせぐみ;組連) ? - ? 江戸幸橋(麴町外堀)の雑俳の組連、  
取次;1758「菊丈評万句合」入、  
取次例;[女見て誉めぬが直ちに女の気](前句;おし合ひにけり々々)  
(美女をみても無言で突き合って軽蔑のしぐさ/素直には認めない)  
千年太夫(ちとせだゆう・清元)→ 芳勝(よしかつ・歌川うたがわ、絵師) C 4 7 8 9  
千歳舎(ちとせのや) → 尊澄(たかずみ・千家せんけ、神職/国学者) C 2 6 9 2
- F2807 **千虎**(ちとら・川崎かわさき、六之丞男)1836-1902<sup>67</sup> 尾張名古屋藩士/絵師;沼田月斎門・  
上京;土佐光文門;大和絵を修学、有職故実を修学/大石真虎の画風に私淑、  
国学/歌;植松茂岳門/有職故実;京阪の古社寺所蔵の宝物調査、維新後東京;博物館御用掛、  
歴史画家となる、東京美術学校教授などの要職を歴任、日本美術院創立に参加、  
「雑記」「大石真虎伝」著、  
[千虎(;号)の通称/別号]通称;源六/鞆太郎、別号;鞆之舎ともや/茶六、法号;至誠院
- C2894 **千鳥**(ちどり;組連) ? - ? 江中期下総稲毛の雑俳の組連/取次;1746「雲鼓評万句合」入、  
取次例;[後ろ疵きず自剃じりの度に探り当て](万句合/後ろ傷は戦場での卑怯者の烙印)  
(食詰めの坊主は自分で頭を剃る/そのたびに傷に当たり戦場での苦痛が蘇る)  
千鳥(ちどり) → 千鳥(せんちょう、俳人) N 2 4 6 2  
千鳥庵(ちどりあん) → 以之(い・丹波たんば、医者/俳人) 1 1 8 6  
千鳥庵(ちどりあん) → 重恭(しげたか・川崎、国学者) R 2 1 2 3  
千鳥庵(ちどりあん) → 浮風(ふふう・有井、諸九尼の夫、俳人) D 3 8 6 8  
千鳥庵後婦(ちどりあんごふ)→ 諸九尼(しよきゅうに・もろくに、有井、俳人) C 2 2 2 9
- P2865 **千鳥組**(ちどりぐみ;組連) ? - ? 江中期安房磯村(鴨川)の雑俳の組連、  
取次;1740「収月評万句合」入、  
取次例;[取持とりもつたかはりに一度靡けとな](前句;訳わ[道理]のわるさよ々々)
- F2808 **千鳥友呼**(ちどりのともよび、勝田権左衛門)?-? 江戸浅草材木町名主、狂歌・1787「才蔵集」3首入;  
[火にくべてみたらば同じ烟なり誓ひし紙の嘘もまことも]  
青雲亭友呼の父?→紫文斎(初世しぶんさい・宇治、勝田権左衛門/名主/一中節/狂歌) F 2 1 6 0  
痴鈍者(ちどんしゃ;号) → 万回(ばんかい;道号・一線、曹洞僧) H 3 6 3 2
- F2809 **千濤**(千浪ちなみ・石川いしかわ、通称;文吾)?-1866 三河岡崎の歌人、「千濤百首」著
- F2810 **千浪**(ちなみ・加藤かとう、美方男/本姓;藤原)1810-77<sup>68</sup> 岩代白河の生/11-2歳江戸の呉服商に奉公、  
国学;岸本由豆流門/朝田弓槻門、歌/書を嗜む、江戸日本橋薬研堀住;門弟多数、  
1844「十番歌合」、1861-62「荻園歌集」、「荻のわかば」「詠史百首」著「事言類考引用書目」編、  
「事言類考索引」編、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、  
[年々に月日ははやくおぼゆれど花は夫にもならはざりけり](大江戸倭歌;231待花)、

- [不破の関荒れにしのうちも旅人の涙ゆるさぬさをしかの声](同;秋779/関路鹿)、  
[千浪(;名)の通称/号]通称;弥三郎/弥助、号;菰園、法号:詠聖院、中島歌子の師
- F2811 **千生**(ちなり・谷たに、通称;周蔵、幸八男)1832-8857 徳島藩江戸三田藩邸の生/語学・歌;湯浅春緒門、  
徳島藩士;語学研究、維新後大麻比古神社権禰宜、「言語構造式」「詞の組立」著  
池南(ちなん・宮原) → 筋庵(せつあん・宮原/渡橋、儒者/詩) E 2 4 0 3  
智仁親王(ちにしんのう) → 智仁親王(としひとしんのう、歌人) N 3 1 5 5
- 2815 **智努**(ちぬ・文室/文屋ふんや、姓かばね;真人まひと、長皇子男/天武天皇孫)693-77078 廷臣;752賜姓、  
757参議、760中納言/762御史大夫/64従二位、  
752亡妻茨田郡主まんだのぐんしゅ追福の仏足石造(薬師寺蔵);仏足石歌、  
万葉四期歌人;4275;金石文、「三界章」「仏法伝通日本記」著、  
[智努の別名] 珍努/智奴/珍努、智奴麻呂ちぬまろ/智奴王ちぬのおおきみ/浄三きよみ
- F2812 **血沼壮士**(ちぬおとこ) ? - ? 万葉の妻争い伝説(芦屋菟原処女あしやのうないおとめ伝説)の人物、  
和泉国の若者で菟原壮士うないおとこと争う、高橋虫麻呂の歌;万葉集1809-11・4211
- F2813 **智努王女**(ちぬのおおきみ) ? - ? 系統不詳/723(養老七)従四位/724従三位、  
万葉4477題(円方女王まどかたのおおきみによる追悼歌)  
智奴王(ちぬのおおきみ) → 智努(ちぬ・文室ふんや真人、浄三) 2 8 1 5  
茅渟翁(ちぬのおう) → 奇淵(きえん・菅沼すがぬま/菅、俳人) 1 6 8 3  
茅停平魚(ちぬへいぎよ) → 平魚(へいぎよ・茅停ちぬ、読本作者) 2 7 2 2  
智奴麿(ちぬまろ) → 智努(ちぬ・文室真人、浄三きよみ) 2 8 1 5
- F2814 **千子**(ちぬ・向井むかい/清水、名;千代子/通称;千代ちよ、医者向井元升女)?-1688(28-9歳) 蕉門俳人、  
清水藤右衛門の妻、兄去来の伊勢詣に同行;1686「伊勢紀行」、89あら野91猿蓑入、  
1690其角「いつを昔」97「続虚栗」入、去来・魯町・牡年の妹、  
[大内のかざり拝まん星まつり]、  
辞世[もえやすくまた消えやすき蛍かな](貞享五1688/8月15夜没;いつを昔入)
- M2840 **千根**(ちぬ・木村きむら、信競のぶかつ[1809-77]5男)?-? 伊予松山の富商の生、歌人;小出繁つばら門、  
国学;佐々木弘綱(1828-91)門、松山藩士、  
[千根(;名)の通称] 七郎  
千年(ちぬ・車持) → 千年(ちとせ・車持、万葉/宮廷歌人) 2 8 1 4  
知能(ちのう;字) → 日綱(にちこう;法諱・詮量院、日蓮僧) B 3 3 8 9  
知能(ちのう・藤塚) → 知能(ともよし・藤塚ふじつか/源、神職) Q 3 1 9 4  
知能(ちのう・夏目) → 知能(ともよし・夏目なつめ、藩士/歌人) V 3 1 9 8  
知能軒(ちのうけん) → 重周(しげちか・木村きむら、藩士/蘭学者) R 2 1 4 4
- F2815 **千宣**(ちのぶ・小槻おづき) ? - ? 鎌倉後期廷臣;連歌作者、(1633刊重頼「犬子えのこ集」1句入)  
千宣の誤記? → 千宣(ちのぶ・小槻、廷臣/菟玖波集入) F 4 6 1 9  
茅の屋(ちのや) → 春蔭(はるかげ・菅原すがむら、神職/歌人) K 3 6 3 0
- F2816 **千規**(ちのり・徳永とくなが、通称;達助、是則男)1804-7067 土佐高知の国学者:鹿持雅澄・北川善淵門、  
儒;岡本寧浦・田内菜園門、子弟教育;田内菜園の代行、郡方に招聘;香美郡赤岡で教授、  
土佐藩校致道館教授、「白大夫奥築記」、1844「天満社宮居考」、「飛島大明神いしふみ」著  
知白(ちはく・飛田) → 春山(しゅんざん・飛田とびた、藩士/儒者) F 2 2 1 8  
知白(ちはく・平/陶山) → 鬼卵(きらん・栗杖亭りつじょうてい、戯作者) D 1 6 7 1  
知白(ちはく・沢井) → 是々堂(ぜぜどう・沢井さわい、俳人) I 2 4 5 2  
智璞(ちはく・田でん/鳥田) → 智庵(ちあん・鳥田からすだ/田、藩医/本草) 2 8 3 5  
知白斎(ちはくさい) → 敬起(けいき・石田いしだ、蹴鞠/歌) F 1 8 4 0  
千葉山庵(ちばさんあん) → 良信(よしのぶ・石川いしかわ、医者/詩人) F 4 7 7 2  
千葉介(ちばのすけ・東) → 氏胤(うじたね・東とう、武将、歌) 1 2 3 5  
千葉介(ちばのすけ・朝山) → 重直(しげなお・朝山あさやま/勝部、国学) N 2 1 1 8
- N2806 **智波也**(ちはや・梅とが、通称;式膳/号;静逸斎)1835-9662 出雲美保関の官司、  
国学・歌;森為泰ためひろ門/神道;横山岩根・生口寛平門
- F2817 **千春**(ちはる・望月もちづき/初姓;大原)?-? 1710存 江戸生?/京高倉二条上ル町の俳人;初め貞門、  
次に談林/のち蕉風、重頼・季吟と交流、1679「仮舞台かりぶたい」編、1682「武蔵曲むさしぶり」編、

1685風瀑「一楼賦」入/90言水「新撰都曲みやこぶり」4句入/1702轍士「花見車」入、  
妻;綾戸、千之の従弟、

[伏見江ふしみえや沢瀉くは掘るらん驚ひとり](新撰都曲;上33)、  
[千春(;号)の通称/別号]通称;善九郎/彦四郎、別号;蘇鉄林

F2818 千春(ちほる・今泉いまいづみ、名;康清/尚文/益興、尚綱男/本姓;藤原)1775-1836<sup>62</sup> 佐賀の歌人:  
重松道雄・山領やまりょう利昌(梅山)門、香川景柄がもと・景樹門、筑紫琴を嗜む、千秋の父、  
1833「松響閣筆話」著、

[千春(;通称)の別通称/号]別通称;六太夫、号;琴仙/磐谷/松響閣/熙春堂、

F2819 千春(ちほる・高島/高嶋たかしま)1777or80-1859<sup>80-83?</sup> 大阪の大和絵師、初め京住、  
文政1818-30頃江戸本所住、有職故実に通精/古画を多く臨写、  
1817「太秦牛祭画卷」21「新曲撰狂歌集」22「求古図譜文書具類」28「誹諧歌三友会」画、  
「古今画話」「文化図帖」「古画女粧図考」著、1840「旧古図式」「錦譜」「求古図譜織文之部」著、  
1854「歌仙部類抄女房部」著、貞丈「軍用記」図、

[千春(;名)の字/通称/号]字;寿王、通称;寿一郎、号;融斎/鼎湖/水竹/得天斎、法号;光邦院  
息子;千秋/千載、甥;春松

L2938 千治(ちほる・岸きし、通称;藤蔵) ? - ? 越後古志郡長岡の国学者;本居大平[1756-1833]門、  
大平撰「八十浦の玉」下巻入、

[春ごとに神もめづらし神路山かみよながらの花のいろ香を](八十浦;758)

F2820 千春(ちほる・吉村よむら)1810- 1858<sup>49歳</sup> 福岡藩士/国学;青柳種信門、1857藩の皇学所の師、  
「桜園集」「樞実日記」「神馬藻考」/1833「京都登の日記」「立売雑記」著/47「ひの川水」編外多、  
[千春(;名)の幼名/通称/号]幼名;寅吉/虎之助、通称;晋兵衛/幸作/茂右衛門、

号;桜園/花舎はなのや、千秋ちあき・春樹の父

M2806 千春(ちほる・磯村いそむら)1817- 1893<sup>77</sup> 尾張名古屋藩士;1854(安政元)家督継嗣/馬廻組、  
寄合組を歴任、国学;植松茂岳門、維新後;1871海西郡の富岡神社祠官、74辞職、歌人/能書、  
尾張愛知郡浅田に隠宅;養蚕・製茶業に尽力、子弟に国学・歌を指導、

[千春(;名)の通称]鉄弥/弥藤太

N2859 千春(ちほる・三芳野みよし、旧姓;西沢)1820-90<sup>71</sup> 信濃水内郡の天台僧;江戸浅草の浅草寺別当、  
僧名;亮貫(亮寛)、1857(安政2)越後長岡の安禅寺住職、1868戊辰戦中に寺の一部焼失、  
新政府は神社に権現等の仏号を禁止;亮貫は蔵王権現は吉野金峰神社の末社と申請、  
奔走陳情の末1871蔵王権現は金峯神社の社号を得る;還俗し同神社祠官となる、  
亮貫は三芳野千春に改名/安禅寺は廃寺;1882神官を致仕;剃髪し比叡山入;千春せんしゅ名、  
1883蔵王に帰り信徒と安禅寺復興運動を起す;尽力により1885天台宗安禅寺再興、  
結果貴重な諸物・古文書の散逸を防止、安禅寺中興の祖と称される、

L2874 千春(ちほる・安達あだち/旧姓;橘)1824-62<sup>39</sup> 大阪の女流歌人、松生正名の姉、  
安達家に嫁ぐ;育児・家事の傍ら独学で経史修学、和漢の書を涉獵/琵琶を嗜む  
[大城にも代ふべきものか世にあはで只に涙の玉となりゆく](宝玉を詠む)

F2821 千春(ちほる・三浦みうら)1828 - 1903<sup>76</sup> 尾張名古屋藩士;1848家督;普請奉行手付吟味役、  
大代官手代、支配勘定組頭/上有知代官手代/北地総管所調役、  
1868農政功績で徒士格に拔擢される、維新後;愛知県・岐阜県の官吏、  
国学;植松茂岳門/歌人;八田知紀門、1848「琴責旭鳧鶴鈔」著、

[千春(;名)の幼名/通称/号]幼名;春太郎、通称;権左衛門/一平/格左衛門、

号;萩園/萩廼舎はぎのや/従容軒しょうようけん/従容館/椎園/芽子園

N2807 千春(ちほる・徳永とくなが、号;昌龍まさたつ、徳富義信4男)1835-1907<sup>73</sup> 肥後葦北郡水俣惣庄屋代官の家、  
兄は一敬(蘇峰・蘆花の父)、母の実家葦北郡津奈木の徳永昌孝(伯父)の養嗣子;熊本藩士、  
和漢学者、甥徳富蘆花の理解者、妻;中村ジツ(実子)/息子;規矩(母信子)・正(母実子)

千春(ちほる・児玉) → 順蔵(じゅんぞう・児玉こだま、医者/蘭学) L 2 1 3 0

千春(ちほる・松尾) → 道安(みちやす・今井いまい、医者/歌人) I 4 1 1 2

千春(ちほる・行弘) → 正常(まさつね・行弘ゆきひろ/中原、国学者) T 4 0 6 6

致美(ちび・山本) → 致美(むねよし・山本やまもと、医者) C 4 2 9 1

致美(ちび・伊舟木) → 致美(むねよし・伊舟木いばらき、藩士/国学) D 4 2 6 4

- 2816 **千引**(ちびき・大石おおい、名;貞見、隣男)1770-1834<sup>65</sup> 父は下野烏山藩士/江戸本所の生;  
歌;横瀬貞臣門/歌;冷泉家に入門、のち国学/歌・加藤千蔭門;万葉調、江戸亀戸で湯屋経営、  
1794「落窪物語注釈」1810「大鏡短観抄」1820「日中行事略解」「野乃舎のや随筆」30「言元梯」、  
「栄華物語抄」「野乃舎集」「水鏡短観抄」「古凶類集」著、歴史物語を深く研究;独自の語釈、  
蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊);妻千世子(千代女)と共に入、  
[咲きぬとは見れど及ばぬ老の足あはれとおもへ遠山の花](大江戸倭歌;春276/遠山花)  
[千引(;号)の字/通称/別号] 字;道和、  
通称;伝兵衛/源左衛門/源太兵衛/左兵衛/源太兵衛門、  
号;星廬/草々舎/野々舎ののや、  
妻の千世子 → 千世子(ちよこ・大石おおい、星乃舎/歌人) L 2 8 4 4  
千引(知毘伎/道引ちびき・梅村)→真守(まもり・梅村うめむら/坂本/金子/小林/平、勤王家) O 4 0 0 1  
知非斎(ちひさい) → 与清(ともきよ・小山田おやまだ/高田、国学者) 3 1 6 0  
知彼斎(ちひさい) → 駿公(しゅんこう・久米/初山、藩士) M 2 1 8 0  
知非子(ちひし) → 東門(とうもん・桜井さくらい、藩儒/詩人) H 3 1 4 7  
知非堂(ちひどう) → 育斎(いくさい・富田とみだ、藩士/儒医) E 1 1 2 1
- M2880 **千尋**(ちひろ・高松たかまつ/旧姓;高塚、)1761-1819<sup>59</sup> 肥後山鹿郡の国学者;本居宣長門、  
山鹿郡の南島天満宮(菅原神社)社司  
[千尋(;名)の通称]政治郎/兵庫助/大炊助おおいのすけ/伊織介
- M2860 **千尋**(ちひろ・佐成さなり/本姓;藤原、)1792-1819<sup>早世28</sup> 近江彦根藩士、  
国学者/歌人、歌;[彦根歌人伝・鶴]入、  
[千尋(;名)の別号/通称]別号;泰武/成麿、通称;九郎/六之進
- N2814 **千尋**(ちひろ・中川なががわ、)1798-1867<sup>70</sup> 陸奥二本松藩士;御用人、国学者、  
[千尋(;名)の別号/通称/号]初名;勝宜、通称;助右衛門、号;百操
- F2822 **千広**(ちひろ・伊達だて、別号;宗広、宇佐美祐長男)1802-77<sup>76</sup> 叔父伊達盛明養嗣子/紀州和歌山藩士、  
1813家督/16小姓;藩主徳川治宝に近侍/家老山中俊之部と結び藩政参画;大番頭格、  
勘定吟味役を兼務/1852失脚;田辺に蟄居/62脱藩/上京;養子宗興と公武合体運動に関与、  
国学;本居大平門、柿園派歌人、「伊達千広詠草」「枯野集」「随縁集」「夕日岡月次集」、  
「随々草」「粉雪辨」「浜荻日記」「宗広記」三の山路「幣帛袋」「揚名説」「余身帰」外著多数  
歌;大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌[江戸]入、  
[千広(;名)の通称/号]通称;藤二郎、号;自得じとく、陸奥宗光の父、
- F2823 **千尋**(ちひろ・石黒いづる、初名;克己)1804-72<sup>69</sup> 加賀藩士/国学・歌;田中躬之・鈴木重胤・橋守部門、  
1852藩校明倫堂国学講釈御用/53米露軍艦来航時に外国との通商を主張、維新後皇学講師、  
1854「近世諸蕃来舶集」65「養蚕摘要」、「養蚕規範」「来舶神旨」「和銃西砲得失問答」著、  
[千尋(;名)の通称/号]通称;万五郎/左門/嘉左衛門、九十九、号;竹之舎
- F2824 **千広**(ちひろ・玉樹斎ぎよくじゅさい、通称;源千広、姓;村上)1804-87<sup>84</sup> 江後期江戸の華道家、  
江戸眞福寺橋畔の白魚稻荷別当、華道;初世寛松斎一典門;遠州流插花、  
のち川原辺流を興す、1836「こかねの花」著、1851「插花本草」編、  
「河原流表裏百ヶ条」「河原流裏百ヶ条」著
- F2827 **千弘**(ちひろ・伊藤いとう、通称;輔一郎すけいちろう)?-? 江戸後期山城の国学者・本居大平(1756-1833)門  
「蜻蛉島国名伝記」著、歌;本居大平「八十浦の玉」下巻;長歌「嵐山」・短歌入;  
[紅くれないの色なつかしきわが園の毛桃の花を見にこわがせこ](八十浦;718/桃)
- F2825 **千寛**(ちひろ・茅舎かや、通称;権田こんだ万次郎)?-? 江後期天保1830-44頃下総関宿藩士、  
江戸常磐橋江戸藩邸住、狂歌;檜垣連判者、「狂歌清渚集」編、「春秋歌合」編  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入/1860鋤柄助之「現存百人一首」入(権田千寛名)、  
[行く年ををしむ心はかはらねどしづけさのみは世に似ざりけり](大江戸倭歌;冬1363)、  
[かはりゆく人の心のあき風はおとづれぬにぞおどろかれぬる](現存百人一首;62)  
[茅舎千寛の別号] 万栄子/蓬萊居亀世/文廻門
- N2823 **千尋**(ちひろ・長和ながわ、旧姓;高橋)1814-1880<sup>67</sup> 周防岩国の国学者/歌人、  
[千尋(;名)の通称/号]通称;祐蔵/興一/市郎兵衛、号;雀丸
- M2829 **千尋**(ちひろ・岡部おかべ/本姓;粕こま、)1814-1886<sup>73</sup> 越前福井藩士;1849家督嗣;城代/家老、

国学者/歌人;橘曙覧門、1863(文久3)藩命で薩摩藩に赴き公武合体推進を協議、  
維新時藩論一致に尽力、

[千尋(;)名)の初名/通称]初名;興起、通称;信次郎/長平/造酒之助みきのすけ/左膳/豊後

- M2873 千広(ちひろ・田中たなか、)1816- 187560 信濃飯田藩士;御祐筆、歌人;岩沢幸年門、  
国学/歌道;服部菅雄・植松茂岳しげおか門、  
[千広(;)名)の通称]慎蔵/辰蔵/新蔵
- F2826 千尋(ちひろ・進藤しんどう、為栄男/本姓;藤原)1817-7862 京の坊官;粟田青蓮院宮の侍法師、  
1825諸大夫/従四下、国学/歌、「詠草」「粟田神社境内古井乃記」「進藤千尋陵墓雜稿」著、  
[千尋(;)号)の名/通称/別号]名;為周ためちか、通称;宮内、別号;瓊音ぬなと、法号;白蓮院
- L2851 千尋(ちひろ・福島ふくしま、)? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
1860鋤柄助之「現存百人一首」入、  
[今もその名をとどむれどかき絶えていく世になりぬ文字の関守](大江戸倭歌;雑1695)、  
[むすぶまもあらし激しく音立てて名のみ夢野の草枕かな](同;雑1837/旅宿風)、  
[雲はらふ嵐は松にやすらひて虫の音高くすめる月かな](現存百人一首;84)
- M2838 千尋(ちひろ・木内きうち、通称;竹蔵/号;竹園)1825-190884 阿波名東郡の理髮業、  
国学/歌;理髮業小倉眞坂門/小出直城門、阿波徳島住/歌:[阿波歌人伝]入
- M2857 千尋(ちひろ・佐々木ささき、号;久波紫)?-? 越前福井藩士、歌人;橘曙覧(1812-68)門、  
維新後;東京住;内務省記官
- N2861 千尋(ちひろ・水内みずうち、通称;竹蔵/号;竹園)1825-190884 阿波徳島の国学者
- M2864 千尋(ちひろ・齋藤さいとう、通称;桂三)1827-190175 上野勢多郡の寺小屋師匠、  
国学・漢学;藍沢無満門/歌人;尾高高雅門
- N2873 千尋(ちひろ・遊座ゆさ、号;松葉舎)1830-189465 陸奥盛岡の神職;禰宜/国学者、  
維新後;盛岡第6区祠官
- M2828 千広(ちひろ・岡おか、通称;縫殿ぬい)1843-190462 筑後久留米の国学者
- N2811 千尋(ちひろ・中井なかい、)1849- 191769 石見益田の国学者/歌人;福羽美静びせい・佐伯利麿門、  
[千尋(;)名)の通称/号]通称;孝治、号;梅花園/愛石
- |               |   |                      |           |
|---------------|---|----------------------|-----------|
| 千仞(ちひろ・岡)     | → | 鹿門(ろくもん・岡おか、藩儒者/紀行)  | B 5 2 1 5 |
| 千尋(ちひろ・大井)    | → | 山陽(さんよう・芝の屋、狂歌)      | G 2 0 0 9 |
| 千尋(ちひろ・弓削/和田) | → | 巖足(伊豆足いずたり・和田、藩士/歌人) | 1 1 2 3   |
| 千比呂(ちひろ・高野)   | → | 陸沈亭(りくちんてい・高野、医者/藩士) | 4 9 8 0   |
| 千尋舎(ちひろのや)    | → | 正文(まさぶみ・田中/平、官人/歌人)  | H 4 0 2 6 |
- F2828 知風(ちふう・林はやし、通称;清四郎)?-? 江後期大阪の俳人、梅通と交友、  
1855「あしのつの」編/56「友ちとり」/56「耳箒」57「日より虹」58「那古屋美やけ」編
- |            |   |                       |           |
|------------|---|-----------------------|-----------|
| 知風(ちふう・中西) | → | 且斎(たんさい・中西なかにし、医者、俳人) | I 2 6 7 1 |
| 茅風(ちふう・初名) | → | 百里(ひゃくり・高野、俳人)        | E 3 7 8 3 |
| 茅風庵(ちふうあん) | → | 雁宕(がんとう・砂岡、俳人)        | 1 5 5 3   |
| 致福(ちふく・江村) | → | 老泉(ろうせん・江村えむら、藩士)     | 5 2 3 4   |
- L2859 千英(ちひさ・井田いだ) ? - ? 江後期;江戸浅草の歌人、橘守部門?、  
1834(天保5)橘守部「神楽譜入綾いりあや」上巻首の序文を執筆、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[藻塩火の煙のほかの一筋は雪につけたるあまの通ひ路](大江戸倭歌;1270/塩屋雪)
- F2829 千英(ちひさ・佐藤さとう、通称;信夫)1832-190978 豊前宇佐の神官、国学:物集高世門、  
「辞格便覧」著
- |              |   |                       |           |
|--------------|---|-----------------------|-----------|
| 知不知斎(ちふちさい)  | → | 草雲(そううん・田崎たさき、藩士/絵師)  | 2 5 5 9   |
| 知不足斎(ちふそくさい) | → | 東白(とうはく・竹内たけうち、蘭医/兵学) | G 3 1 9 2 |
- N2820 千船(ちふね・永井ながい、) ? - 1843 江後期;伊予松山藩士/語学・歌;本間游清門、  
[千船(;)名)の別名/通称/号]初名;矯、通称;善六、号;みつの屋
- |            |   |                       |           |
|------------|---|-----------------------|-----------|
| 千船(ちふね・渡辺) | → | 隼雄(はやお・渡辺わたなべ、神職/国学者) | K 3 6 9 9 |
|------------|---|-----------------------|-----------|
- F2830 千文(ちふみ・大舎人部おおとねりべ)?-? 755防人/常陸那賀郡上丁、万葉2首廿4369-70  
[筑波嶺つくばねのさ百合ゆるの花の夜床ゆとこにもかなしけ妹そ昼もかなしけ](万葉;廿4369)

- 千文(ちふみ・大蔵:狂名)→ 浚明(まつあけ・山岡、幕臣/国学) J 4 0 6 6  
 千文(ちふみ・保坂) → 正義(まさよし・保坂ほさか、藩家老/国学) S 4 0 4 0
- F2831 千古(ちふる・大江おおえ、字;江九/江丸、音人おとんど男)?-924 廷臣/漢学;大学寮修学/901対策及第、902式部少丞/刑部大輔/式部少輔/従四下伊予権守、醍醐天皇侍読;白氏文集を講ず、詩人、906日本紀竟宴和歌参加/916内裏重陽宴に詩入/921醍醐御時内裏菊合参加、七十賀詩入、詩;「雑言奉和」「類聚句題抄」入、歌;後撰455/678・新古今1865、千里せりの弟、維時らの父、[思ひやる心にたぐふ身なりせば一日ひとひに千度ちび君は見てまし](後撰;恋678)
- M2841 千古(ちふる・来住きずみ、通称;七右衛門)1759-1838<sup>80</sup> 伊予松山藩士、国学・歌;海野遊翁門、松山藩校明教館教授
- F2832 千古(千固ちふる・一柳ひとつなぎ/本姓;越智)1760-1832<sup>73</sup> 伊予小松藩主一柳家支族、播州三草藩士?、江戸八丁堀の国学者/歌;清原雄風・加藤千蔭門、千蔭三傑の1、長歌/書に長ず、「一柳越智千古家集」「一柳千古詠草」「章堂翁家集」著、千蔭「うけらが花」跋、歌論;広足「檀園随筆」入、清水浜臣・小山田与清と交流、本間素当・中島広足・井上文雄の師、蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[しらゆふに夕波かかる河社やしろ神の心や涼しからまし](大江戸倭歌;夏684/夏祓)、[千古(;名)の字/号]字;万、号;予山/章堂、
- 千古(ちふる・高島) → 春松(しゅんしょう・高島たかしま、絵師) L 2 1 0 5
- F2833 千古母(ちふるのは・小野おの)?- ? 小野道風の妻かor女か?、平安前期歌人・古今368、[たらちねの親のまもりとあひ添ふる心ばかりは関などゝめそ](古今集;八離別368)(詞書;小野千古が陸奥介みちのくのすけにまかりける時母のよめる/関に塞せきを掛ける)
- 知文(ちぶん・細井) → 九阜(きゅうこう・細井ほそい、書家/篆刻) C 1 6 0 0  
 知文(ちぶん・福居) → 芳麿(よしまる・福居ふくい/藤原/膝/藤、幕臣/蝦夷探検) H 4 7 2 3  
 致平親王(ちへいしんのう) → 致平親王(むねひらしんのう、天台僧/歌人) C 4 2 3 6  
 池萍堂(ちへいどう) → 言道(ことみち・大隈、歌人) 1 9 3 8  
 智弁(ちべん;諡号) → 余慶(よけい・よぎょう;法諱、天台座主/歌) B 4 7 7 6
- F2835 知方(ちほう/ともかた・大村おおむら)?- ? 筑前嘉麻郡大隈村牛隈の俳人;朱拙門、1702蕉門発句集「はつたより」編(;朱拙の序)
- 知芳(知方ちほう・佐々木)→ 中沢(仲沢ちゅうたく・佐々木、蘭医者) G 2 8 6 2  
 知邦(ちほう・田中) → 知邦(ともくに・田中たなか、国学者) V 3 1 5 3  
 致方(ちほう・源) → 致方(むねかた・源みなもと、廷臣/連歌) B 4 2 1 9  
 智法(ちほう;法諱) → 乗海(じょうかい;法諱、南北期天台僧) H 2 2 6 7  
 智逢(ちほう;法諱) → 弦外(げんがい;道号・智逢、臨濟僧) I 1 8 1 5
- F2836 遅望(ちほう・辻つじ、笹屋三郎右衛門、別号;一余軒)?-? 近江膳所俳人;芭蕉門、1694刊「枯尾花」入、内藤丈草に「賀遅望閑居」あり、「ひさご」の泥土でいと同一?  
 → 泥土(でいど、膳所俳人) B 3 0 5 2
- 知房(ちほう・源/藤原) → 知房(ともふさ・藤原ふじむら、廷臣/歌人) Q 3 1 4 8
- F2837 千壽(ちほぎ・燕栗園えんりつえん/さぐりえん2世、姓;山田/旧姓;久米くめ)1804-58<sup>55</sup> 武州児玉郡の国学者、江戸両国の書肆文会堂の養子;出版事業、狂歌師:鹿都部真顔門、初代燕栗園さぐりえん千穎ちかい門、燕栗園2代目を継嗣、「一寸案文」著/戯作「教訓御代の恩」、千種庵ちぐさあん3世・4世の師、[千寿(;名)の初名/通称/別号]初名;玉雄、通称;玄助、別号;石樹/文会堂
- F2838 知木(ちぼく・鈴江すずえ、別号;寄松堂)1697-1740<sup>44</sup> 京の俳人;知石門、普求・翠柳の師、「俳諧橋立乃松」著
- 遅木(ちぼく・花楼庵) → 遜庵(そんあん・鷹取たかとり、医者/挿花) B 2 5 4 5  
 稚木(ちぼく・楫取) → 稚木(わかき・楫取かとり/伊能、歌人) 5 3 7 6
- N2845 千矛(ちほこ・堀田ほった、通称;市之進)1764-1826<sup>63</sup> 尾張海東郡津島神社社家(堀田右馬太夫家)、国学者;本居春庭門
- 千矛(ちほこ・常盤井) → 巖戈(いかしほこ・常盤井ときわい、神主/国学) F 1 1 1 7  
 千穂五郎(ちほごろう・森脇)→ 惟久(これひさ・森脇/吉川、神道/歌人) R 1 9 2 3  
 千穂廼屋(ちほのや) → 長秋(ながあき・鳥屋とや、国学者/歌) K 3 2 2 3

- 智本(ちほん;字) → 海応(かいおう;法諱・智本、真言僧) I 1 5 4 3  
 智梵(ちぼん;初法諱) → 太竜(たいりゅう;道号・禅驪;法諱、臨濟僧) L 2 6 1 8  
 千卷舎(ちまきのや) → 忠順(ただまさ・村上、医者/国学/歌) F 2 6 8 6
- F2839 千間子(ちまこ・前田まねだ、紀伊藩主徳川宗将女) 1745-1802 58 母;今出川公詮女富宮、  
 1761金沢藩主前田重教(げむち)の妻、歌人、「寿光院歌集」著、  
 [千間子の幼名/法号]幼名;千間姫(ちまひめ)/勝姫/套姫、法号;寿光院
- F2840 千益(ちます・疋田/匹田ひきた、求女男) 1793-1869 77 京の東寺末大通寺境内住/歌:1834香川景樹門、  
 医;小森縫之助門/画;松村景文門/洋学・茶にも通ず、種痘を奨励、法橋、  
 「匹田千益詠草留」著、  
 [千益(;名)の字/通称/法号]字;以専、通称;右近/左近/民部/河内、法号;誠敬
- L2836 千俣(ちまた・伊能いぬ) ? - ? 下総佐原の国学者/江戸中橋上榎町新道に住、  
 本居大平門、大平撰「八十浦の玉」下巻入、  
 [大船のかとりの海のはなりそにかすみたなびく春たつらしも](八十浦;680)
- 千万太郎(ちまたろう・出淵) → 幸安(ゆきやす・出淵でぶち/いづぶち、藩士) H 4 6 0 2
- F2841 千町(ちまち・野田のだ、名;武辰たけとき) ?-1838 尾張名古屋藩士/国学:植松有信・本居太平門、歌人、  
 「野田千町家集」著、  
 [千町(;号)の通称] 甚三郎/兵太夫
- F2842 千町(ちまち・宝田たからだ、姓;中川、名;泰重/恭里) ?-? 江後期1814-48頃豊前小倉藩士/江戸下谷住、  
 筆耕・曲亭馬琴らの版下書き、合巻作者、1833正蔵「笑富林」・馬琴「八犬伝」など浄書、  
 合巻:36「復讐梅の接」38「前太平記」41「恵方の富士初夢草紙」45「稲葉山鼓ヶ滝」外著多数、  
 [宝田千町(;号)の通称/別号]通称;金兵衛、別号:賜堂/谷(たに)金川(きんせん)
- M2868 千町(ちまち・柴田しばた、) 1808- 1873 66 三河額田郡の伊賀八幡宮神主、柴田家9代、  
 国学者/歌人、顕光の父、「豊川奉納百首」編入、歌;「類題三河歌集」入、  
 [千町(;雅名)の別名/通称/別号]別名;久明/正直、通称;左京/刑部、  
 別号;松蔭廼舎/萊山/鶯山(;退隠後の号)
- L2842 千町(ちまち・田内たのうち、親輔男) 1817-89 73 歳 伊勢桑名藩士、国学/歌;北村季文・富樫広蔭門、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、  
 [手にむすぶ野辺の清水もうづもれて花なき草ぞおのがままなる]、  
 (大江戸倭歌;夏564/現存百人一首;77)、  
 [田内千町(;号)の名/通称]名;親熙(ちかひろ)、通称;蔵太/作右衛門
- M2848 千町(ちまち・桑原くわばら、通称;弥十) ?-1878 飛騨大野郡の国学/歌;上木(うぎ)清成(1797-1862)門、  
 詩歌;富田節斎(礼彦/1811-77)門  
 千馬之助(ちまのすけ・中山) → 道彦(みちひこ・中山なかやま、藩家老) J 4 1 9 4  
 千馬之助(ちまのすけ・中山) → 行篤(ゆきあつ・中山/柴田、道彦男/藩執政) H 4 6 0 7  
 千間姫(ちまひめ・前田) → 千間子(ちまこ・前田、藩主の室/歌人) F 2 8 3 9
- F2843 智明(ちみょう・ちみん;法諱・蒙山もうざん;道号、諡号;泰定広濟禅師) 1277-1366 90 摂津玉造の臨濟僧、  
 施薬院で出家/1292(16歳);南禅寺の規庵祖円門;法嗣/一山一寧・明極楚俊に出仕、  
 尊氏招請で博多聖福寺住持/京建仁寺29世/南禅寺19世/1362天竜寺13世、五山碩学の随一、  
 南禅寺上乘院を開き退隠、「雲泉集」「規庵和尚行状」「五燈会元抄」著
- F2844 智明(ちみょう;法諱、初め;観智、字;運清、号;戒光堂) 1738-1813 76 武州小島の真言律僧;眼智門、  
 江戸靈雲寺法明・光海門、最法寺2世/1802靈雲寺8世、諸経軌の開講/諸聖教の伝授、  
 1776「悉曇字記懸通鈔」、「悉曇教授篇」「質断雑記」/1813「安流聖教伝授記」など著多数
- F2845 智明(ちみょう;法諱) ? - 1810 豊後古城の真宗大谷派浄証寺住職、1805擬講、  
 「浄土和讃駕説」「三論玄義丁卯記」著  
 智明(ちみん・蒙山) → 智明(ちみょう・ちみん・蒙山、臨濟僧) F 2 8 4 3  
 地名越山(ちみんえつざん;別称) → 円旨(えんし;法諱・別源、曹洞僧) 1 3 9 7  
 痴眠斎(ちみんさい・牧) → 詩牛(しぎゅう・牧、漢学/詩人) Q 2 1 1 3
- F2846 千屯(ちむら・城戸きど/本姓;大江、千楯(ちたて)男) ?-? 江後期京の国学者:本居大平門、  
 1836私撰集「和歌八島の浪」編、  
 [千屯(;名)の通称] 市右衛門(;代々)

- M2874 **千村**(ちむら・田中たなか、)1802- 1873 72 伊勢桑名藩士/国学;藩士黒沢翁満おきなまる門、藩主国替により武蔵忍藩士、  
[千村(;)名)の初名/通称/号]初名;昌言、通称;富五郎、号;算翁/方円堂/玉廼屋
- F2847 **千室**(ちむろ・大伴宿禰) ? - ? 奈良期天平勝宝749-757頃の廷臣/万葉四期歌人、万葉;693(;)相聞歌)/4298(;)754年正月4日家持邸での氏族拝賀宴歌参加)、  
[かくのみし恋ひや渡らむ秋津野にたなびく雲の過ぐとはなしに](万葉集;四693)  
智明(ちめい)僧はすべて→ 智明(ちみょう)  
智明(ちめい/ともあき・荻野/斎藤)→ 彦磨(ひこまる・斎藤/藤原、藩士/国学) 3 7 0 3  
知明(ちめい/ともあき・藤原)→ 茂明(もちあき・藤原、文章博士/詩人) B 4 4 2 9  
知明(ちめい・富岡) → 知明(ともあき・富岡とみおか、藩士/伝記) P 3 1 0 8  
知明(ちめい/ともあき・築山)→ 桐雨(とうう・築山、俳人/蓑虫庵再興) B 3 1 1 7  
知明(ちめい・藤塚) → 知明(ともあき・藤塚ふじつか、神道学) P 3 1 1 0  
茅溟(ちめい・高志/高) → 泉溟(せんめい・高志たかし/修姓;高、儒者) G 2 4 6 5  
穉明(ちめい・稲垣) → 白崑(はくがん・稲垣いながき、藩士/儒者) C 3 6 8 8
- F2848 **千幹**(ちもと・正木まさき、初名;長秀)1777-1823 47 江戸の鯉節商/国学:清原雄風・加藤千蔭門、万葉研究、1815「万葉集檜乃落葉」、「万葉集冠履」「万葉集名所類纂」「万葉集林始」、「万葉集列々つら椿」「万葉集借字対照」「十三代集言葉本立」、「雄風家集」編・跋、外著多数、  
[千幹(;)名)の通称/号]通称;正木屋庄助/正輔、号;蔓庵/桜屋さくらのや/桜室
- L2872 **千本**(ちもと・) ? - ? 江後期;歌人、正木千幹と同一?、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[あす降らん雨をしれとや有明の月もうちきる笠縫かさぬひの里](大江戸倭歌;雑1696)
- N2828 **千萩**(ちもと・野田のだ、岩神/波多/秦、)1809-85 77 土佐高岡郡の国学者・歌;鹿持雅澄門、  
[千萩(;)名)の初名/通称]初名;正前、通称;楠蔵/久米/亘  
千本の屋(ちもとのや) → 義巻(よしまる・吉野よしの、名主/歌/国学) Q 4 7 0 9  
千盛(ちもり・三枝) → 千盛(せんせい・平、連歌) G 2 4 1 7  
知門(ちもん;名) → 伽陵(かりょう;字、禅僧/国学者) U 1 5 0 9  
智門院(ちもんいん) → 日求(にちぐ;法諱、日蓮僧) B 3 3 4 6  
智門院(ちもんいん) → 日忍(にちにん;法諱・勸持院、日蓮僧) D 3 3 0 8
- F2849 **智門尼**(ちもんに、法諱;智門、加藤忠俊の妹)1761-1816 56 近江犬上郡清水村の僧;1776仏門、歌人;竜草廬(公美)門、「月の渡舟」著、歌;[彦根歌人伝・寿]入
- M2847 **千箭**(ちや・黒田くろだ、)1841 - 1872 32 伊予松山藩士/国学;大国隆正門、維新後;東京へ、学校御用掛、木村信兢の猶子、歌人、  
[千箭(;)名)の別名/通称]別名;直香/千箭入、通称;潤三郎  
千箭(ちや・柴田) → 顕光(あきみつ・柴田しばた、神職/歌人) H 1 0 7 2  
茶隠(ちやいん・栗田屋) → 茶隠(さいん・栗田屋、俳人) N 2 0 0 1
- F2850 **茶臼伍面**(ちやうすごめん・横取散人よどりさんじん) ?-? 江戸洒落本作者:1782「根津見子楼茂ねずみごろも」茶雨亭(ちやうてい) → 直正(なおまさ・鍋島なべしま、藩主/詩歌) C 3 2 4 7
- F2851 **茶烟**(ちやえん・時々庵) ? - ? 1818存 尾張の美濃派俳人、朔花仙の3回忌追善集編;1818「花のみとせ」編
- F2852 **茶釜散人**(ちやがまさんじん) ? - ? 1770洒落本「蕩子釜枉解とうしせんおうかい」著;編者の葉鐘子・序の陶鉄房も同一人か?  
南畝の戯名か? → 南畝(なんぼ・太田) 3 2 3 3  
茶菊(ちやぎく) → 茶菊(さぎく・陶後園、俳人) B 2 0 3 3
- F2853 **茶瓜**(ちやきん) ? - ? 大阪雑俳、1751春耕「あふ夜」入  
著(ちやく・長岡/米田) → 是著(これあき・米田こめだ、藩士/儒/詩) O 1 9 0 5  
茶九蓮寺(ちやくれんじ) → 雲鈴(うんれい・摩詰庵、俳人) B 1 2 2 5  
茶溪(ちやけい) すべて → 茶溪(さけい)  
茶谷(ちやく→さこく・藤川)→ 茶谷(さこく・藤川、歌舞伎役・作者) F 2 0 1 7
- 2840 **茶山**(ちやざん/さざん・菅かん:修姓、菅波、菅波扶好[樗平]男)1748-1827 80歳 備後の人、

川北村神辺の農業・酒造業、学問；父母および伯父高橋慎庵の薫陶/儒者；1766上京、朱子学・詩文；那波魯堂門/医；和田東郭門、家業を弟汝榎に譲渡、郷里神辺に塾舎；子弟教育、のち郷校廉塾となる、1823福山藩大目付格、西山拙斎/春水/葛子琴と交遊、晋宝(恥庵)の兄、「黄葉夕陽村舎詩」、「遊芸日記」「菅茶山翁筆のすさび」、「福山志料」編、「茶山文集」「六郡巡」、「茶山和歌集」「三原梅見の記」「常遊記」「詩論入門」「詩論入門」、「茶山遺稿」外著多数、[茶山(；号)の名/字/通称]名；晋帥ときり/しんせい、字；礼卿、通称；喜太郎/百助/太中、書齋号；黄葉夕陽村舎、諡号；文恭先生、法号；寛裕院、息子なく後継者は弟汝榎の孫惟繩(自牧齋)

- L2814 **茶山**(ちやざん・奥村おくむら、名；慎猷) ? - ? 江後期相模の儒者・山本北山(1752-1912)門、江戸住、「孝経私説」「論語師説」「小家珍説」著、[茶山(；号)の字] 子彦/修夫
- F2854 **茶山**(ちやざん・松岡まつおか、名；佳清、直良男) 1794-1861 68 周防岩国藩士/家督を弟に譲り諸国行脚、俳人；梅室門、越後見附の自放(嶺佐紀村肝煎山谷与左衛門)に寄寓；目附俳壇を指導、「常盤集」「養虫集」「雪車道」「越後獺子」「鄙さへずり」「小栗山」「梅草紙」編、「六合菴日記」著、[茶山(；号)の幼名/通称/別号]幼名；百蔵、通称；喜兵衛、別号；松叟/万里/六合庵[菴]
- 茶山(ちやざん・森山) → 多吉郎((たきちろう・森山もりやま、通詞) N 2 6 8 7  
 茶山亭(ちやざんてい) → 友行(ともゆき・佐野さの、藩士/歌人) V 3 1 3 1  
 茶州(ちやしゅう) → 茶州(さしゅう、俳人) H 2 0 5 0  
 茶酒隣(ちやしゅりん) → 寥和(れいは・初世りょうわ・大場、俳人) J 4 9 6 6
- F2856 **茶醉軒**(ちやしうけん、別号；長峰野翁ちようほうやおう) ?-? 伊勢古市の文筆家、1802「枕返物語」、下村尾山と同一説あり → 尾山(びざん・下村、長兵衛、郷土史家) E 3 7 4 2
- F2857 **茶静**(ちやせい) ? - ? 江後期俳人；1825「美佐古みさこ」42「俳諧職業尽」編、1846自選集「種茄子」著
- 茶井(ちやせい) → 茶井(さい、俳人) H 2 0 5 5
- F2858 **茶村**(ちやそん・宮本みやもと、名；元球/玄球、高重男) 1793-1862 70 常陸行方郡潮来村の儒；山本北山門、折衷学(兄篁村と共に修学)/帰郷；諸国遊歴の兄に代り家業；負債返済し再興/村年寄、教育に専念/漢籍出版；「双硯堂」名/開塾；「恥不若」名/水戸藩延方郷校に招聘/潮来村庄屋、凶作に備え義倉設立/1843郷士、「救荒書」「常陸誌料」「鹿島長暦」「常陸国郡郷考」「封建考」、「鞏黄齋詩録」「茶村詩集」「茶村詩鈔」「関城逸史」「鹿島志料集成」「常陸逸事」外著多数、[茶村の字/通称/別号]字；仲笏、通称；尚一郎、別号；水雲/双硯堂/三香社/鞏黄齋きようおうさい
- F2855 **茶竹子**(ちやちくし、姓名不詳) ?- ? 室町後期禅僧/茶道；村田珠光[1423-1502]門、「喫茶雑話」著(1620刊)；[始めより上手のまねをなせば 一生手まへ(茶の立て方)素直ならず 万よろ芸も同じ]
- 茶々(ちやちや・浅井長政女) → 淀君(よどぎみ・秀吉側室) I 4 7 1 8
- F2859 **茶町**(ちやちよう・蛙面坊あめんぼう、姓；鈴木/通称；作助) ?-? 江中期尾張藩士/郷土史家、1779「蓬州旧勝録」著
- 茶堂(ちやどう；初号) → 杉月(さげつ、料亭主人/俳人) M 2 0 1 0  
 茶湯外史(ちやとうがいし) → 貞義(さだよし・松岡まつおか/深見、医者) P 2 0 4 0  
 茶呑齋(ちやどんさい) → 万歳楼袖彦(まんざいろうそでひこ、靈験談作家) K 4 0 5 5  
 茶にし金魚(ちやしにきんぎょ) → 金魚(きんぎょ・田螺たにし、医者/洒落本) D 1 6 9 1  
 茶之仙(ちやのせん) → 座朝(ざちよう、俳人) K 2 0 4 7  
 茶波(ちやは・大田) → 秀延(ひでのぶ・大田、歌人) 3 7 3 9  
 茶梅(ちやばい・興野) → 成信(なるのぶ・興野おきの、藩士/歌人) L 3 2 5 1  
 茶榎菴(ちやばいあん) → 成信(なるのぶ・興野おきの、藩士/歌人) L 3 2 5 1  
 茶梅庵(ちやばいあん) → 飄齋(ひょうさい・平塚、幕臣/狂詩文) F 3 7 2 4  
 茶葉堂(ちやばどう) → 百花(ひゃっか・松本、俳人) E 3 7 9 2  
 茶瓢軒調泉(ちやひょうけんちようせん) → 調柳(ちようりゅう・種田、俳人) K 2 8 0 9  
 茶仏老人(ちやぶつろうじん) → 緑陰(りよくいん・山本やまもと、儒者/詩人) J 4 9 7 2  
 茶枕寝太郎(ちやまくらねたろう) → 正蔭(おおかげ・中臣、歌人/狂歌) C 1 4 7 5  
 茶磨坊(ちやまぼう) → 魯九(ろきゅう・堀部ほりべ、俳人) 5 2 6 3

- 茶屋宗七(ちややそうしち) → 筵史(えんし・多賀庵4世、俳人) E 1 3 8 0  
 茶陽(ちやう・元田) → 東野(とうや・元田、儒/藩政改革) H 3 1 5 3
- F2860 茶雷(ちやらい/さらい・山県やまがた、白羽男)?-1772 大阪の俳人;父門、雑俳点者としても活動、  
 1747父白羽の菅神奉納矢数俳諧の成就の賀句を詠、1751春耕「あふ夜」(折句集)入、  
 1752「宝暦二年歳旦」編/55「俳諧十六日」編/55「俳諧志都織」編、  
 [茶雷(;号)の別号] 東居斎/十南斎2世/東南居、茶裡の父
- F2861 茶雷(ちやらい・鹿嶋、鶏舌楼、通称;丁字屋曾平)?-?1818-30没 名古屋長者町の俳人/茶・琵琶、  
 「寿伊多離郡左」著、1757律中「耳勝手」入
- F2862 茶雷(ちやらい・板東ばんどう、名;孝則、別号;六外庵)1794-1862 69 徳島藩士/中小姓、  
 俳人;門人数百人、「くれのつゆ」著
- F2863 茶裡(ちやり/さり・鹿嶋、十南斎3世、山県茶雷男)1735-1807 大阪俳人;父門、1777「俳諧奈類仏」編、  
 1779「除元吟」80「俳諧うらはの錦」「俳諧九千日」87「苔かしは」96「うたつむも」編、  
 追善集「誹諧善通寺」
- 茶六(ちやろく・川崎) → 千虎(ちとら・川崎かわさき、絵師/故実家) F 2 8 0 7
- F2864 知有(ちゆう;法諱) ? - ? 室町期京の臨濟宗東福寺住僧、  
 1392「普門蔵書明德目録」編
- F2865 智幽(ちゆう;法諱・玄門げんもん;字、俗姓;茨木)1666-1752 87 伊勢安濃津の天台僧;  
 1679伊勢一乗寺入門、1680尾張観心院珍舞門;出家/天台学;1682叡山西塔喜見院で修学、  
 1685慈山妙立から菩薩戒、1706安楽律院3世;大小兼学の安楽律盛行、  
 1716眞蚊に両部灌頂を授与;安楽律院灌頂の始、慈山・光謙と安楽律院三大和尚、  
 「安楽院灌頂草創記録」「玄門和尚釈籤講録」「胎灌頂」「釈籤随聞記」「般若心経聞記」、  
 「般若心経講録」「密教有相無相」「法華私記録起法談聞記」、「玄門遺言」外多数
- F2866 智祐(ちゆう;法諱) ? - ? 江戸中期天台僧、江戸寛永寺勸学校に住、  
 1747「撰号弁」著
- H2812 智雄(ちゆう・山;修姓) ? - ? 江戸中期詩人、  
 1746東溟編集「名月篇;延享三年版」編
- F2867 智雄(ちゆう;法諱) 1792 - 1872 81 越中高岡の真宗本願寺派常念寺住職、  
 宗乘;義雷門、1868勸学職、「浄土和讃聴記」「六要鈔化土卷聞書」
- 知有(ちゆう;法諱) → 大応(だいおう;道号・知有、曹洞僧) J 2 6 3 1  
 知有(ちゆう;初法諱) → 季讓(きじょう;法諱・在先、臨濟僧/詩文) B 1 6 2 4  
 知由(ちゆう・神谷) → 藍水(らんすい・神谷かみや、幕臣/和算家) C 4 8 7 5  
 知雄(ちゆう・藤原) → 知雄(ちかお・藤原ふじわら、歌人) N 2 8 8 5  
 知雄(ちゆう・辛島) → 塩井(えんせい・辛島からしま、儒者) C 1 3 1 8  
 知雄(ちゆう・山崎) → 知雄(ともお・山崎やまさき、国学者) P 3 1 2 2  
 知雄(ちゆう・早川) → 丈石(じょうせき・早川はやかわ、俳人) T 2 2 8 6  
 知雄(ちゆう・中山) → 武徳(たけのり・中山なかやま、通詞) O 2 6 6 3  
 知雄(ちゆう・滝野) → 知雄(ともお・滝野たきの/物部、国学) T 3 1 3 1  
 知雄(ちゆう・関) → 知雄(ともお・関せき、歌人) T 3 1 4 6  
 知雄(ちゆう・石黒) → 知雄(ともお・石黒いしくろ、国学者) U 3 1 2 0  
 知雄(ちゆう・多田) → 英知(ひでとも・多田ただ、醸造業/国学) K 3 7 0 7  
 知雄(ちゆう・藤塚) → 知雄(ともお・藤塚ふじつか、神職/国学) W 3 1 2 6  
 知雄(ちゆう・長坂) → 知雄(ともお・長坂ながさか、国学者) U 3 1 8 0  
 知雄(ちゆう・中村) → 知雄(ともお・中村なかむら、歌人) T 3 1 5 9  
 治雄(ちゆう・富沢) → 黄良(こうりょう・富沢とみさわ、産科医) L 1 9 5 9  
 致雄(ちゆう・源) → 致雄(むねお・源みなもと、武人/歌人) B 4 2 0 8  
 智勇(ちゆう;字、智勇院) → 日進(にっしん;法諱・智勇院、日蓮僧) E 3 3 5 9  
 智友(ちゆう;字) → 宥性(ゆうしょう;法諱・智友、真言僧) C 4 6 5 8  
 智祐(ちゆう;法名) → 恵州(えしゅう;法諱・脇坂、真宗大谷派僧) T 1 3 9 3  
 池雄(ちゆう) → 池雄(いけお、俳人) I 1 1 9 3  
 稚由(ちゆう・三宅) → 西浦(せいほ・三宅みやげ、絵師) O 2 4 5 1

- F2868 仲(ちゅう・酒井さかい、名;忠輔、藩主酒井忠温男)?-1830 上州伊勢崎の和漢学者、酒井抱一の弟、  
弓馬術修得/書画/狂歌、放浪癖あり、一九「膝栗毛」は仲の戯作説あり、「酒井仲遺筆漫録」、  
[仲(通称)の号]号;古調/俳歌堂/万葉亭/卍葉まじょう、法号浄源院宗一忠輔大居士
- F2869 紐(ちゅう・岩田いわた、采女男)1817-1857 41 加賀藩士/1839藩校明倫堂句読師/45訓導、  
能登郡奉行/小松奉行兼作事奉行/会所奉行、詩人、「三州統志」著、  
[紐(名)の字/通称]字;伯綱、通称;弥助
- F2870 忠(ちゅう・本間ほんま、本間藤吉男?)?-1867? 佐渡相川の儒者:江戸日尾荊山門/藤堂和泉守に出仕、  
帰郷し四書の復古の読法を教授、町同心、1835「訓点復古」校、  
[忠(名)の字/通称/号]字;君恕、通称;藤兵衛/藤平とうへい/東平、号;鉦山
- L2861 忠(ちゅう・竹内たけうち) ? - ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[かならずと行末かけて契れどもおぼつかなしや人の心は](大江戸倭歌;恋1442/契恋)
- F2871 忠(ちゅう・新山にいやま、初名;政辰)1824-96 73 長州萩藩士、儒:藩校明倫館で修学、  
江戸で安積良斎門、検使/大島郡代官、維新後開塾、「球湖先生詩鈔」著、遺著:「乾島略考」、  
[忠(名)の字/通称/号]字;士順、通称;忠右衛門、号;球湖/楽山
- 忠(ちゅう・源) → 恵(忠ほどこす・源、弼たすく男、古今歌人) E 3 9 7 4
- 忠(ちゅう・林) → 羅山(らざん・林はやし、幕府儒官祖;幕政) 4 8 0 2
- 忠(ちゅう・小宅) → 采菊(さいきく・小宅おやけ、藩士/儒者) G 2 0 6 2
- 忠(ちゅう・高取) → 謙牧(けんぼく・高取、鍼術・内科医) M 1 8 3 7
- 忠(ちゅう・宮崎) → 古崖(こがい・宮崎みやざき/修姓;宮、儒者) F 1 9 4 8
- 忠(ちゅう・大道寺) → 忠(ただし・大道寺だいでうじ、庄屋/歌人) P 2 6 5 4
- 忠(ちゅう・梶) → 荘嶽(そうがく・梶かじ、儒者) G 2 5 6 2
- 忠(ちゅう・浅野) → 忠(ただす・浅野あさの、藩家老) P 2 6 6 4
- 忠(ちゅう・山本/中沢) → 東臯(とうこう・中沢/山本、儒者) D 3 1 9 5
- 中(ちゅう・新貝) → 直蔭(なおかげ・新貝しんかい、庄屋/神職) N 3 2 3 9
- 仲(ちゅう・平元) → 梅隣(ばいりん・平元ひらもと、歌/俳人) C 3 6 2 6
- 仲(ちゅう・小笠原) → 冠山(かんざん・小笠原おがさわら、藩士/儒) H 1 5 6 4
- 仲(ちゅう・戸口/井上) → 四明(しめい・井上/戸口、藩士/儒者) F 2 1 8 3
- 仲(ちゅう・金森) → 得水(とくすい・金森かなもり、国学者/茶人) L 3 1 0 8
- 仲(ちゅう・朝比奈/田井) → 元陳((もとのぶ・田井/朝比奈、藩士) D 4 4 7 4
- 仲(ちゅう・今井/大国) → 隆正(たかまさ・大国/山本/野之口/今井、国学/歌) 2 6 1 7
- 仲(ちゅう・寺山) → 昭武(あきたけ・寺山てらやま、書簡/歌) G 1 0 5 9
- 沖(ちゅう・鶴田) → 元逸(げんいつ・鶴田つるた、医者) H 1 8 7 4
- 衷(ちゅう・西坂) → 成庵(せいあん・西坂にしざか、藩儒/詩文) 2 4 5 6
- 丑(ちゅう・長沢) → 東海(とうかい・長沢ながさわ、儒者) B 3 1 8 7
- 忠阿(ちゅうあ;法名・信蓮社) → 知鑑(智鑑ちかん;法諱、浄土僧) C 2 8 3 1
- 忠阿(ちゅうあ・雄蓮社) → 詮察(せんさつ;法諱、浄土僧) M 2 4 3 5
- 忠阿(ちゅうあ・号) → 円智(えんち;法諱・中阿、浄土僧) F 1 3 1 8
- 沖阿(ちゅうあ・聖蓮社) → 靈妙(れいみょう;法諱、浄土僧) 5 1 6 8
- 忠愛(ちゅうあい・青地) → 忠愛(ただよし・青地、藩士/日記) R 2 6 2 9
- 忠愛(ちゅうあい・泉) → 忠愛(ただちか・泉ずみ/野尻、歌人) V 2 6 6 2
- 忠愛(ちゅうあい・中山) → 忠愛(ただなる・中山なかやま/藤原、廷臣) Y 2 6 6 7
- F2873 忠庵(ちゅうあん・沢野さわの/Christovão Ferreira)1580-1650? 71? ホルトガル・イエズス会士、医者、  
1633棄教/ころび伴天連、「頭儀録」「天地論」著
- L2833 仲安(ちゅうあん・平野ひらの) ? - ? 江前期大阪の俳人、1676西鶴「誹諧師手鑑」入、  
[女子ようごの島か出いでくるこもこもおなご竹](手鑑/女護島/子も子もと交々を掛る)
- F2874 仲安(ちゅうあん・大津賀おおつが)?- ? 江中期の法印・京の長生院住、東山道に遊ぶ、  
1787「食品国歌」「合食禁歌」著
- F2875 中庵(ちゅうあん・広瀬ひろせ、名;次和/和、保益男)1732-1809 78歳 甲斐の医者;父門/香川南洋門、

儒;五味釜川門、「中庵集」「医事秉燭談」「痘科鍵拔萃」著、  
[中庵(;)号)の字] 字;周平、恭平・亦五の父、元恭の祖父

- F2876 **仲庵**(ちゅうあん・半井なからい、名;保、粕谷伝左衛門男)1812-7160 半井南江の養嗣子、福井藩医、  
京で医術修得/大阪の中川壺山門/1839奥医師/40家督、西洋医学研究;笠原白翁と親交、  
1857福井医学館教授;福井の洋医術興隆に寄与、「穆斯篤抄訳未定稿」訳、  
[仲庵(;)通称)の字/別通称/号]字;伯和、別通称;元沖、号;南陽/晩香、法号;南叟晩香居士
- 忠安(ちゅうあん・吉川) → 忠安(ただやす・吉川きつかわ/よしかわ、藩士/砲術家) R 2 6 1 0  
忠庵(ちゅうあん・難波) → 義材(よしき・難波なんば、医者/詩歌人) D 4 7 0 6  
沖庵(ちゅうあん・杉本) → 信清(のぶきよ・杉本、藩士/儒者) B 3 5 3 2  
仲安(ちゅうあん・古賀) → 朝陽(ちようよう・古賀、儒者/詩文/医者) K 2 8 0 6  
仲庵(忠庵ちゅうあん・眞名部/真辺/真鍋;医名) → 懶斎(らんさい・藤井、医/儒者) 4 8 0 8  
蛛庵(ちゅうあん・本間) → 遊清(ゆうせい・本間、医・国学・歌) 4 6 0 5  
中頤(ちゅうい・趙ちよう/深見/高良) → 陶斎(とうさい・趙ちよう、書家) E 3 1 2 0  
忠以(ちゅうい・酒井) → 忠以(ただかね・酒井、藩主/歌・俳人) F 2 6 0 8  
忠以(ちゅうい・多) → 忠以(ただもち・多おの、楽人) Q 2 6 9 8  
忠矣(ちゅうい・上田) → 及淵(しきぶち・上田/平井、藩医/国学) Q 2 1 1 0  
忠居(ちゅうい・山口) → 安斎(あんさい・山口、医者) G 1 0 0 6  
忠懿(ちゅうい・今川) → 忠懿(ただよし・今川いまがわ、絵師) R 2 6 3 4  
重位(ちゅうい・東郷) → 重位(ちゅうい・東郷/瀬戸口、藩士/兵法) H 2 8 1 8  
忠一(ちゅういち・力石) → 癡々(ち・力石ちからい、藩士/篆書家) E 2 8 7 4  
忠一(ちゅういち・中村) → 至斎(しさい・8代中村宗哲、千家塗師) Q 2 1 4 5  
忠一(ちゅういち・水野) → 忠一(ただかず・道一・水野みずの/源、幕臣) U 2 6 9 4  
忠一(ちゅういち・日詰) → 忠一(ただかず・日詰ひづめ、藩士/歌人) Z 2 1 1 7  
中一(ちゅういち;初法諱) → 禅爾(ぜんに;法諱、華嚴・律宗僧) N 2 4 0 3  
中一道人(ちゅういちどうじん) → 万春(ばんしゅん・田中、暦算家) H 3 6 9 7  
忠一郎(ちゅういちろう・米沢) → 千稻(ちね・米沢よねざわ、戸長/国学/歌) N 2 8 8 1  
忠市郎(ちゅういちろう・小野) → 鶴山(かくざん・小野、儒者) H 1 5 2 7
- N2898 **仲胤**(ちゅういん;法諱、藤原季仲[1046-1119]男)?-? 母;賀茂神主成助女、天台僧/少僧都、  
懐季・実明・仲光・仲願(天台権律師)・延覚(興福寺少僧都)の兄・覚善の兄、  
☆1165清輔[続詞花集]入の仲胤(興福寺住僧?)と同一?  
[仲胤濟円はかたちにくさげなるを かたみにをにとつけてなんいどみ笑ひけるに、  
濟円公請にまみらずとて綱所の下部つきて房をこぼちたくなりと聞きて、  
まことにや君がつかやをやぶるなるよにはまされるここめ(魔)有りけり(戯咲997)、  
返し(濟円法師)、  
やぶられてたちしのぶべきかたもなし君をぞたのむかくれみのかな](戯咲998)
- 忠尹(ちゅういん→ただまさ・藤原) → 忠君(ただきみ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) E 2 6 9 9  
忠尹(ちゅういん・中山) → 忠尹(ただまさ・中山なかやま、廷臣/日記) Q 2 6 8 3  
中印(ちゅういん;出家号) → 長方(ながかた・藤原、歌人) 3 2 0 6  
忠因(ちゅういん→ただなお・酒井) → 抱一(ほういつ・酒井さかい、絵師/俳人) 3 9 1 3  
忠因(ちゅういん・平賀) → 忠因(ただより・平賀ひらが、神道家) R 2 6 4 1  
忠胤(ちゅういん・石丸) → 忠胤(ただたね・石丸いしまる/藤原、神職/歌) V 2 6 6 1  
忠胤(ちゅういん・本多) → 忠胤(ただたね・本多ほんだ、国学者) Z 2 6 4 6  
中院(ちゅういん) すべて → 中院(なかのいん)  
中隠子(ちゅういんし) → 采菊(さいきく・小宅おやけ、藩士/儒者) G 2 0 6 2  
中院太政大臣(ちゅういん→なかのいんたいじょうだいじん) → 通雄(みちお・久我こが) B 4 1 2 4
- F2877 **忠雲**(ちゅううん;法諱、源/中院なかのいん光忠男)?-? 1365存 南朝;天台大僧正、梶井などの門跡を管領、  
1365(正平20)四天王寺金堂造立供養の導師、歌人;新葉集3首;613・1225・1314、  
[我が世まで消えぬけぶりの名残とも見るぞ昔の跡はうれしき](新葉;釈教613、  
詞書;正平廿年五月 四天王寺金堂造立してやがて供養導師をつとめ侍りけるに、  
昔この寺にて天台座主明雲拜堂しける時 遺身舍利を礼して

常ならぬためしは夜半の煙にて消えぬなごりをみるぞうれしき、  
と読み侍りけることを思ひ出でてよめる)

- 忠運(ちゆううん・石井) → 忠運(ただゆき・石井い、藩士/日記) N 2 6 2 2  
沖雲堂(ちゆううんどう) → 遊鶴(ゆうかく・池田いけだ、戯作者) B 4 6 0 1  
F2878 忠英(ちゆうえい) ? - ? 室町期歌人;1457武家歌合参加(正徹・心敬らと);3首入  
[鳴ぞたつ山田のかりほ軒端まで霧ふる秋やなれもさびしき](武家歌合;八番左8)  
F2879 忠栄(ちゆうえい・荒木あらし、忠侯男)1761-1853<sup>93</sup> 尾張藩士/大坪流馬術;大泉英澄門、馬術の才秀逸、  
1780長圀炉浦番頭格、馬術の門弟千余人、「大坪流馬術伝授事法」「鏡薙掟拾記」「騎説」著、  
[忠栄(;名)の字/通称/号]字;申、通称;五助、号;馬陵/乘禪  
中衛(ちゆうえい・本居) → 豊穎(とよかひ・本居もとお、藩士/国学者) R 3 1 0 8  
中英(ちゆうえい・服部) → 中英(なかひで・服部はっとり/宍戸、歌人) O 3 2 3 7  
仲瑛(ちゆうえい・際暎さいてい) → 大成(だいじよう;道号・照漢、渡来黄檗僧) K 2 6 3 5  
仲英(ちゆうえい・中西/服部) → 白賁(はくひ・服部/中西、儒者) D 3 6 8 2  
仲英(中栄ちゆうえい・葛岡) → 菊園(きくえん・葛岡くずおか、医者/歌人) K 1 6 0 3  
仲穎(ちゆうえい・添川) → 廉斎(れんさい・添川そえかわ、染色/儒者) B 5 1 0 8  
忠英(ちゆうえい・山本) → 忠英(ただひで・山本、藩士/地誌編纂) Q 2 6 5 9  
忠英(ちゆうえい・松本) → 忠英(ただひで・松本、藩士/和算家) Q 2 6 6 0  
忠英(ちゆうえい・木谷) → 忠英(ただひで・木谷、藩士/和算家) Q 2 6 6 1  
忠英(ちゆうえい・松村) → 忠英(ただひで・松村、和算家) Q 2 6 6 2  
忠英(ちゆうえい・西川) → 如見(怒見じよけん・西川/源、暦算家) C 2 2 4 0  
忠英(ちゆうえい・井上) → 玄会(はるかぜ・井上いのうえ、国学者) J 3 6 6 2  
忠英(ちゆうえい・中川) → 忠英(ただてる・中川、幕臣/奉行/文筆) F 2 6 3 4  
忠英(ちゆうえい・筒井) → 忠英(ただてる・筒井、幕臣/書院番) P 2 6 9 4  
忠栄(ちゆうえい・松平) → 忠栄(ただなか・松平/桜井、藩主/詩) Q 2 6 2 7  
忠栄(ちゆうえい・大久保) → 忠栄(ただよし・大久保おおくぼ、幕臣/詩人) R 2 6 2 5  
忠栄(ちゆうえい・九条) → 忠栄(ただひで・九条くじょう/藤原、関白) Q 2 6 5 8  
忠栄(ちゆうえい・松平) → 忠周(ただちか・松平まつだいら、藩主/歌人) Z 2 6 6 0  
忠栄(ちゆうえい・岡) → 熊臣(くまおみ・岡おか、神職/国学) 1 7 2 4  
忠栄(ちゆうえい・元木) → 忠栄(ただなが・元木もとき、儒/国学/神道) Z 2 6 9 5  
忠栄(ちゆうえい・朝江) → 種寛(しゆかん・朝江/浅江、俳人) K 2 1 5 7  
忠栄(ちゆうえい・戸塚) → 忠栄(ただひで・戸塚とつか、幕臣/奉行/歌) U 2 6 4 4  
忠栄(ちゆうえい・黒沢) → 忠栄(ただひで・黒沢くろさわ、国学/神道) W 2 6 9 3  
忠栄(ちゆうえい・山口) → 忠栄(ただよし・山口やなぐち/大中臣、神職/国学) 2 7 1 0  
忠栄(ちゆうえい・岡田) → 忠栄(ただひで・岡田おかだ、国学/歌人) W 2 6 2 9  
忠盈(ちゆうえい・高橋) → 忠盈(ただみつ・高橋たかはし、神道) Q 2 6 9 3  
忠永(ちゆうえい・本多) → 忠永(ただなが・本多、藩主/兵学/俳人) Q 2 6 3 3  
中衛高明閣下(ちゆうえいこうめいこうか) → 房前(ふささき・藤原) 3 8 0 6  
中易(仲易ちゆうえき;法諱) → 周鼎(しゅうてい;道号・中易、曹洞僧) Y 2 1 0 5  
中益(ちゆうえき・金) → 却壘窩(きやくいか;号、修姓;金、本草家) M 1 6 1 2  
仲益(ちゆうえき・堀江) → 顕斎(けんさい・堀江、名主/地誌) I 1 8 9 9  
忠益(ちゆうえき・大木/坪井) → 芳州(ほうしゅう・坪井つばい/大木、医者) B 3 9 5 6  
忠易(ちゆうえき・松平) → 忠周(ただちか・松平まつだいら、藩主/歌人) Z 2 6 6 0  
仲右衛門(ちゆうえもん・中村屋) → 鹿鳴(ろくめい・中村屋、旅宿業/俳) B 5 2 1 0  
仲右衛門(ちゆうえもん・田中) → 延裕(のぶひろ・田中たなか、藩士/国学) I 3 5 8 6  
忠衛門(ちゆうえもん・久方) → 蘭溪(らんけい・久方ひさかた、藩士/記録) B 4 8 8 3  
虫右衛門(ちゆうえもん・檜崎) → 正員(まさかず・檜崎ならさき、儒;闇齋学) B 4 0 7 4  
虫右衛門(ちゆうえもん・清水) → 賀部仲塗(かべのなかぬり・商家、狂歌) P 1 5 3 1  
忠右衛門(ちゆうえもん・渡辺) → 守綱(もりつな・渡辺/源、武将/領主) F 4 4 7 6  
忠右衛門(ちゆうえもん・大岡) → 忠相(ただすけ・大岡おおか、幕臣/日記) F 2 6 1 9  
忠右衛門(ちゆうえもん・榊原) → 忠郷(たださと・榊原さかきばら/藤原、幕臣/礼法/歌) 2 7 5 4

忠右衛門(ちゆうえもん・武藤)→ 致和(むねかず・武藤/藤原、商家/国学) B 4 2 1 8  
 忠右衛門(ちゆうえもん・田井)→ 元陳((もとのぶ・田井/朝比奈、藩士) D 4 4 7 4  
 忠右衛門(ちゆうえもん・田中)→ 本孝(もとたか・田中たなか、商家/歌人) C 4 4 8 6  
 忠右衛門(ちゆうえもん・河内屋/小倉)→ 正信(まさのぶ・小倉おぐら、商家/国学/神道) F 4 0 6 5  
 忠右衛門(ちゆうえもん・河野)→ 恕齋(じょさい・河野こうの、藩儒者/詩人) C 2 2 5 0  
 忠右衛門(ちゆうえもん・小川)→ 恒充(恒光つねみつ・小川、藩士/記録) D 2 9 9 2  
 忠右衛門(ちゆうえもん・大野)→ 北海(ほっかい・大野おおの、儒者/兵学) E 3 9 5 0  
 忠右衛門(ちゆうえもん・平野屋;商家)→ 桐雨(とうう・築山、俳人) B 3 1 1 7  
 忠右衛門(ちゆうえもん・平野屋)→ 築山(らくざん・築山つきやま、絵師) B 4 8 1 5  
 忠右衛門(ちゆうえもん・野間屋)→ 水容(すいよう・野間屋、俳人) F 2 3 0 9  
 忠右衛門(ちゆうえもん・黒岩)→ 鷺白(ろはく・黒岩くろいわ、宿経営/俳人) C 5 2 3 4  
 忠右衛門(ちゆうえもん・河村)→ 内郷(うちさと・河村かわむら、郷士/国学) D 1 2 0 7  
 忠右衛門(ちゆうえもん・陰山)→ 豊洲(ほうしゅう・陰山かげやま、儒者/詩人) B 3 9 4 5  
 忠右衛門(ちゆうえもん・中島)→ 竜橋(りゅうきょう・中島なかじま、藩士/儒者) D 4 9 3 6  
 忠右衛門(ちゆうえもん・池本)→ 鴨眠(おうみん・池本いけもと、商家/歌人) C 1 4 7 0  
 忠右衛門(ちゆうえもん・堀田)→ 六林(ろくりん・堀田、恒山、詩/俳人) B 5 2 1 8  
 忠右衛門(ちゆうえもん・奥田)→ 梅葉(ばいよう・奥田おくだ、藩士/俳人) C 3 6 1 4  
 忠右衛門(ちゆうえもん・内山)→ 知澄(ともずみ・内山うちやま、国学/歌人) U 3 1 3 5  
 忠右衛門(ちゆうえもん・土屋)→ 牧亭駒人(ぼくていこまんど、狂歌/歌人) D 3 9 7 4  
 忠右衛門(ちゆうえもん・新山)→ 忠(ちゅう・新山にいやま、藩士/儒者/詩人) F 2 8 7 1  
 忠右衛門(ちゆうえもん・田中)→ 風香(ふうこう・田中たなか、藩士/俳人) 3 8 5 9  
 忠右衛門(ちゆうえもん・織戸)→ 為貞(ためさだ・織戸おりど、国学者) W 2 6 3 7  
 忠右衛門(ちゆうえもん・宮脇)→ 政成(まさなり・宮脇みやわき、郡代/詩歌) T 4 0 0 4

F2880 中円(ちゆうえん;法諱・月潭げつたん;道号)?-? 臨濟僧;義堂周信門/五山文学・詩、  
1376周信「空華集」共著

中淵(中因ちゆうえん;法諱)→ 万宗(まんしゅう;道号・中淵、臨濟僧) K 4 0 6 4  
 冲遠(ちゆうえん・林) → 宣義(のぶよし・林/寺嶋、歌人) D 3 5 9 3  
 仲遠(仲援ちゆうえん・日比野)→ 秋江(しゅうこう・日比野ひびの、医/儒者) H 2 1 3 4  
 仲淵(ちゆうえん・山宮) → 雪楼(せつろう・山宮やまみや/さんぐう、儒者) E 2 4 7 1  
 仲淵(ちゆうえん・西尾) → 公龍(きみたち・西尾にしお、医者/歌人) K 1 6 4 6  
 忠宴(ちゆうえん・梅津) → 忠宴(ただよし・梅津、家老/兵学) R 2 6 2 6  
 忠瑗(ちゆうえん・中川) → 忠瑗(ただみつ・中川なかがわ、国学/歌人) Y 2 6 5 1  
 忠央(ちゆうおう・山崎) → 忠央(ただなか・山崎、儒者) Q 2 6 2 6  
 忠央(ちゆうおう・水野) → 忠央(ただなか/ただちか・水野、城主/学問) Q 2 6 2 8  
 冲翁(ちゆうおう・本多) → 壺山(こざん・本多、忠如、藩主/詩人) G 1 9 6 0  
 稠央(ちゆうおう・岡田) → 稠央(しげひさ・岡田おかだ、藩士/紀行) S 2 1 3 5  
 忠翁靈社(ちゆうおうれいしゃ;神号)→ 玄宰(はるなか・田中、藩家老/歌) G 3 6 6 2  
 忠屋(ちゆうおく・岩崎) → 忠屋(ただいえ・岩崎いわさき、国学者) V 2 6 7 4  
 忠温(ちゆうおん・酒井) → 直道(なおみち・酒井さかい、藩士/書簡) C 3 2 6 4  
 忠恩(仲温ちゆうおん・杉本)→ 樗園(ちよえん・杉本/宮村、幕府侍医) K 2 8 1 7  
 忠音(ちゆうおん・太秦/多)→ 忠音(ただおと・多おの/太秦、楽人) P 2 6 2 8  
 仲音(ちゆうおん;字) → 頼勢(らいせい;法諱・仲音、真言僧) 4 8 7 1

F2881 中伽(ちゆうか) ? - ? 江前期俳人、1690不角「二葉之松」2句入  
[翠簾みすくぐる猫にわが目を貸したくて](二葉之松;248/源氏若菜上;柏木 女三宮を見る)  
(前句;心うきたつぎまんざの声/颯々々ざまんざは遊宴のはやし言葉)

中和(ちゆうか) → 中和(ちゆうわ/ちゆうか、俳人) H 2 8 0 1  
 忠可(ちゆうか・建部) → 忠可(ただよし・建部たけべ/源、歌人) U 2 1 5 0  
 忠家(ちゆうか) すべて → 忠家(ただいえ)  
 忠荷(ちゆうか→ただなり・村田)→ 春郷(はるさと・村田むらた/平、商家/歌人) G 3 6 3 7

- 忠嘉(ちゅうか・小笠原) → 忠嘉(ただひろ・小笠原おがさわら、藩主/歌) U 2 6 2 1  
 仲華(ちゅうか・城戸) → 広文(ひろぶみ・城戸きど、書家) H 3 7 0 9  
 仲嘉(ちゅうか・井田) → 敬之(たかゆき・井田いだ、書家/篆刻) E 2 6 6 8  
 F2882 中雅(ちゅうが/なかまさ) ? - ? 戦国期関東の武家; 国人衆、  
 連歌、1470太田道真(道灌の父)催「河越千句」入  
 忠雅(ちゅうが・藤原) → 忠雅(ただまさ・藤原、太政大臣/歌) Q 2 6 7 8  
 忠雅(ちゅうが・河村) → 忠雅(ただまさ・河村、歌人) 2 7 6 0  
 忠雅(ちゅうが・松平) → 忠雅(ただまさ・松平まつだいら、藩主/詩人) Q 2 6 8 0  
 忠雅(ちゅうが) → 雪忠雅(ゆきちゅうが: 号、姓; 星、歌人) E 4 6 8 8  
 忠賀(ちゅうが・多) → 忠賀(ただます・多おおい、楽人) Q 2 6 8 7  
 F2883 忠快(ちゅうかい; 法諱、平棟仲男) ?-? 平安後期叡山僧/法師、宇治平等院の座主、  
 歌人、金葉集I590(III580)、朝範の弟/姉妹に周防内侍すおうのないし、伯父; 教成・従兄弟基綱も歌人、  
 [宇治川の底の水屑みくづとなりながらなを雲かゝる山ぞこひしき](金葉; 九590/山は叡山)  
 F2884 忠快(ちゅうかい; 法諱、中納言平教盛男/清盛の甥) 1159-1227 69 天台僧; 覚快法親王に入室、  
 慈円・玄理門/1181阿闍梨・権律師、1183平家西走に同行/85壇/浦で捕虜; 伊豆配流、  
 1189召還、契中に台密穴太流を受/山城愛宕郡小川に小川殿と宝菩提寺を営む、  
 1203権小僧都/法眼/権大僧都/法印、楞嚴院検校(横川長吏)法印権大僧都、源実朝が帰依、  
 小川流祖(台密十三流の1)、「密談抄」「船中抄」「忠快律師物語」「随行私記」1222「葉衣法」、  
 歌: 玉葉2342・2571、建礼門院の従弟、  
 [うき身をばこととはずともかかゝる世のかなしきことはしるやしらずや](玉; 雑2342、  
 詞書; 兄弟一度におくれて歎き侍るを平行盛おそくとぶらひ侍りければ云々、  
 行盛の返歌; かなしさをよその歎きと思はねば人をとふべき心地だにせず/玉; 2343)  
 [忠快の号/通称]号; 眞乗房/大教房、通称; 中納言律師/小川法印  
 忠誨(ちゅうかい・戸田/安島) → 信立(のぶたつ・安島あじま、家老) B 3 5 8 7  
 忠誨(ちゅうかい・石塚) → 三昧(さんまい・石塚いづか、書家) E 2 0 7 2  
 忠誨(ちゅうかい・野村) → 西巒(せいらん・野村/丹治比、藩儒/香道) D 2 4 0 8  
 中槐(ちゅうかい・大中臣) → 輔親(すけちか・すけむつ・大中臣み、神職/歌) 2 3 0 8  
 仲介(ちゅうかい・後藤) → 椿庵(ちんあん・後藤ごとう、医者) K 2 8 5 6  
 仲介(ちゅうかい・大井) → 漁隠(ぎょいん・大井おおい/平、藩士/文筆) N 1 6 1 0  
 中外(ちゅうがい・畠山) → 光政(みつまさ・畠山はたけやま、藩医) K 4 1 0 7  
 F2885 仲覚(ちゅうかく; 法諱、平仲兼or時仲男) ?-? 天台叡山の僧/法印、歌; 玉葉集2017、  
 [けさのまの霧より奥やしぐれつる晴れ行くあとの山ぞ色こき](玉葉; 十四2017)  
 L2807 忠覚(ちゅうかく; 法諱、大炊御門おおいみかど冬忠男?) ?-? 法印/早歌; 1319月江「玉林苑; 山王威徳」作詞  
 忠格(ちゅうかく・水野) → 忠格(ただのり・水野みずの/松平、藩家老/歌) Z 2 6 7 6  
 中嶽(ちゅうがく・松本) → 董斎(とうさい・松本、書家/俳) E 3 1 3 1  
 中嶽(ちゅうがく・坂部) → 広胖(こうはん・坂部/戸田/山田、和算家) K 1 9 9 7  
 中嶽(ちゅうがく・八木) → 美樹(よしき・八木やぎ、美穂男/国学者) D 4 7 1 0  
 忠学(ちゅうがく・酒井) → 忠学(ただのり・酒井さかい、藩主/歌) U 2 6 9 3  
 中岳画史(ちゅうがくがし) → 芙蓉(ふよう・高こう/大島、篆刻家) E 3 8 4 7  
 中岳斎(ちゅうがくさい・佐脇) → 嵩雪(すうせつ・佐脇さわき、絵師) F 2 3 3 0  
 註我書屋(ちゅうがしよおく) → 悔斎(かいさい・竹村たけむら、藩士/儒者) E 1 5 3 8  
 仲活(ちゅうかつ・田代/丸山) → 活堂(かつどう・丸山/山、藩士/和学) H 1 5 8 2  
 仲鷗(ちゅうかつ・小山) → 翔(しょう・小山こやま、国学者) U 2 2 8 3  
 N2894 忠寛(ちゅうかん; 法諱) ? - ? 平安鎌倉期; 南都の僧/法師、  
 歌人: 1237刊[檜葉集]入、  
 [中院僧正なかのいんのそじょう(玄縁1113-1180)歌合し侍りけるに、  
 とがむべき人はなけれど梅が香にいたくはふれじあさのさ衣](檜葉; 雑763)  
 F2886 中鑑(ちゅうかん) ? - ? 南北室町期; 歌人; 1407内裏九十番歌合左方参(; 3首入)、  
 [さざなみや釣するあまの袖までも雪にぞかへる志賀の浦風](内裏九十番; 54番107)

F2887 **中観**(ちゅうかん;法諱、号;欣浄院ごんじょういん) ?-? 越後蒲原郡出雲崎の真宗大谷派浄巖寺住職、  
1859高倉学寮の寮司/61擬講/70嗣講、「改邪鈔講義」「金鉉こんひ論講義」「仏心印記講義」

中観(ちゅうかん;号) → 真空(しんくう;法諱、三論真言律僧) N 2 2 9 3  
 中観(ちゅうかん;号) → 澄禅(じやうぜん;法諱、真言/三論僧) J 2 8 3 0  
 仲観(ちゅうかん・矢野) → 夜潮(やしお・矢野やの、絵師) 4 5 6 4  
 仲観(ちゅうかん・馬/馬淵) → 嵐山(らんざん・馬淵まぶち/馬、儒医) C 4 8 3 3  
 仲簡(ちゅうかん・藤本) → 居敬(やすたか・藤本ふじもと、国学者) G 4 5 5 3  
 仲幹(ちゅうかん・高木) → 芳洲(芳州ほうしゅう・高木、家老/儒者) B 3 9 4 2  
 仲鑑(ちゅうかん・山本) → 桃谷(とうこく・山本やまもと、絵師) S 3 1 8 9  
 仲桓(ちゅうかん・間庭) → 蘭薫亭薫(らんくんていかおる、間庭、藩士/狂歌) B 4 8 7 8  
 仲緩(ちゅうかん・中川) → 義光(よしみつ・中川なかがわ、儒者/歌人) O 4 7 1 6  
 忠貫(ちゅうかん・樋口/磯辺) → 鯉斎(こんさい・磯辺いそべ、儒者/易/茶) P 1 9 2 0  
 忠貫(ちゅうかん・滝川) → 忠貫(ただつら・滝川たきがわ、藩士/記録) P 2 6 9 0  
 忠貫(ちゅうかん・本多) → 忠貫(ただつら・本多/戸沢、藩主/詩) P 2 6 9 1  
 忠貫(ちゅうかん・安達) → 清風(せいふう・安達あだち、藩士/砲術家) E 2 4 4 3  
 忠桓(ちゅうかん) → 良恕法親王(りやうじよほつしんのう、天台座主/歌人) 4 9 1 9  
 忠寛(ちゅうかん・岡田) → 忠寛(ただひろ・岡田おかだ、代官/国学者) W 2 6 3 0  
 忠寛(ちゅうかん・小原おはら) → 鉄心(てっしん・小原、儒詩/兵学) C 3 0 4 8  
 忠寛(ちゅうかん・本多) → 忠寛(ただひろ・本多ほんだ、俳人) Q 2 6 6 9  
 忠寛(ちゅうかん→ただたか・大久保) → 忠恒(ただつね・大久保おおくぼ、幕臣) P 2 6 8 6  
 忠寛(ちゅうかん・酒井) → 忠寛(ただひろ・酒井、藩主) Q 2 6 7 3  
 忠寛(ちゅうかん・小原) → 鉄心(てっしん・小原おはら、藩士/儒/詩人) C 3 0 4 8  
 忠寛(ちゅうかん・堀内) → 素堂(そどう・堀内ほりのうち、藩医/蘭医/儒) K 2 5 2 0  
 忠寛(ちゅうかん・石尾) → 忠寛(ただひろ・石尾いしお/荒木、藩士/歌) V 2 6 5 9  
 忠寛(ちゅうかん・大久保) → 忠寛(ただひろ・大久保おおくぼ、一翁/幕臣) U 2 6 3 9  
 忠寛(ちゅうかん・戸田) → 忠寛(ただとお・戸田とだ、藩主/京所司代) Y 2 6 3 5  
 忠幹(ちゅうかん・橘) → 忠幹(忠基ただもと・橘たちばな、廷臣/歌人) I 2 6 5 1  
 忠幹(ちゅうかん・水野) → 忠幹(ただもと・水野みずの、藩主/歌人) Q 2 6 9 9  
 忠幹(ちゅうかん・水野) → 忠幹(ただもと・水野みずの、家老/藩主/歌) U 2 6 4 1  
 忠幹(ちゅうかん・村上) → 忠幹(ただもと・村上むらかみ、藩医/歌人) Z 2 6 8 9  
 偷閑(ちゅうかん) → 偷閑(ゆかん、俳人) E 4 6 1 8

F2888 **中岩**(ちゅうがん;道号・中本ちゅうほん:法諱) ?-? 鎌倉期臨濟僧;夢窓疎石門/天竜寺首座、  
「天竜寺乗弘」編、「夢窓国師会下乗弘法語」編

中巖(ちゅうがん:道号・円月) → 円月(えんげつ;法諱・中巖、臨濟僧/五山文学) 1 3 9 4  
 偷閑斎(ちゅうかんさい→とうかんさい) → 似水(じすい・藤掛ふじかけ、華道家) T 2 1 9 5  
 偷閑斎(ちゅうかんさい→とうかんさい) → 万季(ばんり・潮田/桑野、俳人) I 3 6 6 2  
 仲簡子(ちゅうかんし) → 永敬(えいけい・狩野、絵師) C 1 3 6 5  
 偷間子(ちゅうかんし) → 寸知(すんち・山庄さんしやう、絵師) C 2 3 6 3  
 中閑舎(ちゅうかんしゃ) → 卷耳(かんじ・森もり、俳人) D 1 5 8 6  
 忠季(ちゅうき・源) → 忠季(ただすえ・源、廷臣/歌人) F 2 6 1 4  
 忠季(ちゅうき・正親町) → 忠季(ただすえ・正親町おおぎまち、廷臣/歌) F 2 6 1 5  
 忠季(ちゅうき・戸田) → 忠季(ただすえ・戸田とだ/藤原、歌人) U 2 6 7 4  
 忠喜(ちゅうき・竹林) → 忠喜(ただよし・竹林たけばやし、和算家) R 2 6 3 7  
 忠喜(ちゅうき・岩沢) → 幸年(ゆきとし・岩沢いわさわ、藩士/歌人) G 4 6 5 8  
 忠輝(ちゅうき・松平) → 忠輝(ただてる・松平まつだいら、藩主/歌人) P 2 6 9 2  
 忠暉(ちゅうき・多) → 忠暉(ただてる・多おおの、楽人;笛) P 2 6 9 5  
 忠貴(ちゅうき・岡田) → 忠貴(ただたか・岡田おかだ、和算家) F 2 6 1 0  
 忠規(ちゅうき・横井) → 豊山(ほうざん・横井よこい、儒者/教育者) B 3 9 1 5  
 忠寄(ちゅうき・大久保) → 忠寄(ただより・大久保、幕臣/蔵書家) G 2 6 1 3  
 忠基(ちゅうき) すべて → 忠基(ただもと)

忠器(ちゆうき・酒井) → 忠器(ただかた・酒井さかい、藩主/歌人) U 2 6 9 8  
 忠熙(ちゆうき・近衛) → 忠熙(ただひろ・近衛、関白/歌人) F 2 6 7 4  
 仲季(ちゆうき・滝) → 北山(ほくざん・滝たき、儒者) D 3 9 2 1  
 仲熙(ちゆうき・大江) → 荊山(けいざん・大江おおえ、儒者) F 1 8 7 5  
 仲起(ちゆうき・勝山) → 琢眼(たくげん・勝山かつやま、絵師) N 2 6 9 6  
 仲記(ちゆうき・城戸) → 広文(ひろぶみ・城戸きど、書家) H 3 7 0 9  
 仲亀(ちゆうき・本庄) → 適所(てきよ・本庄/本荘ほんじょう、儒者) B 3 0 9 9  
 仲騏(ちゆうき・大江) → 維寧(これやす・大江おおえ、儒者) O 1 9 9 4

F2889 忠義(ちゆうぎ:法諱、号;長泉房/泉行)1371-1443<sup>73</sup> 讃岐岸上の真言/高野山僧;勝義阿闍梨門、  
 明王院住/大僧都、詩歌;一休宗純と和歌応答の逸話、「草木成仏」「即身成仏義鈔」著

F2890 忠義(ちゆうぎ・惣慶そけい、唐名;伊世高いせいこう、親雲上忠恒の長男)1686-1749<sup>64</sup> 伊氏惣慶家7世、  
 母;真牛、16歳;小赤頭/30歳;系図座筆者/1729八重山流罪;赦免、  
 1738金武間切惣慶の地頭;父を継嗣、1745宮古島に配流、  
 琉歌作者、和学・歌に通ず、「琉歌全集」14首入、和歌;「沖繩集」入、  
 [見れば恋しきや平安座女童の蹴上げゆる潮のきよらさ](琉歌全集)  
 [はかなくも同じつゆなる身をもちて草葉の上をよそに見るかな][寄露無常/沖繩集]

忠義(ちゆうぎ・山内) → 忠義(ただよし・山内やまのうち、藩主/日記) R 2 6 2 3  
 忠義(ちゆうぎ・中山) → 三柳(さんりゅう・中山なかやま、医者/俳人) E 2 0 8 1  
 忠義(ちゆうぎ・新松) → 忠義(ただよし・新松にいまつ、神道/国学) G 2 6 0 7  
 忠義(ちゆうぎ・鈴木) → 忠義(ただよし・鈴木、藩士/和算家) R 2 6 3 8  
 忠義(ちゆうぎ・石川/森) → 忠義(ただよし・森もり、儒者) R 2 6 3 2  
 忠義(ちゆうぎ・島津) → 忠義(ただよし・島津しまつ、藩主/日記) R 2 6 3 9  
 忠義(ちゆうぎ・酒井) → 忠義(ただあき・酒井、藩主/日記) P 2 6 1 2  
 忠義(ちゆうぎ・早野) → 巴人(はじん・早野はやの、俳人) 3 6 1 8  
 忠義(ちゆうぎ・森) → 忠義(ただよし・森もり、藩士/記録) R 2 6 3 2  
 忠義(ちゆうぎ・榊原) → 忠義(ただよし・榊原さかきばら、旗本;奉行) U 2 6 3 0  
 忠宜(ちゆうぎ・永田) → 忠宜(ただよし・永田、藩士/音律研究) R 2 6 3 1  
 忠誼(ちゆうぎ・飯室) → 忠誼(ただのぶ・飯室いむろ/源、陶工/歌) U 2 6 4 0  
 忠義公(ちゆうぎこう) → 兼通(かねみち・藤原、関白/歌人) 1 5 7 6  
 忠吉(ちゆうきち・竹田) → 斯綏(これやす・竹田たけだ、幕臣) O 1 9 9 5  
 忠吉(ちゆうきち・斎藤) → 尚善(しょうぜん・斎藤さいとう、和算家) K 2 2 4 5  
 忠吉(ちゆうきち・石川) → 安積(やすづみ・石川いしかわ、藩士/国学) E 4 5 8 7  
 忠吉(ちゆうきち・伊奈/大江戸倭歌集入) → 忠告(ただのり・伊那いな、遠江守/幕臣) U 2 6 4 5  
 忠吉(ちゆうきち・岩沢) → 直真(なおさね・岩沢いわさわ、藩士/歌人) L 3 2 2 3  
 忠吉(ちゆうきち・山城屋) → 臣吉(おみよし・宮川みやがわ、書肆/国学) E 1 4 1 7  
 疇吉(ちゆうきち・渡辺) → 清(きよし・渡辺わたなべ/周溪、絵師/故実) V 1 6 6 5  
 中久(ちゆうきゅう・金築) → 中久(なかひさ・金築かねつき、神職) F 3 2 4 3  
 忠久(ちゆうきゅう)すべて → 忠久(ただひさ)

忠休(ちゆうきゅう→ただやす・大久保) → 狭南(きょうなん・大久保、儒者) O 1 6 3 9

忠休(ちゆうきゅう→ただやす・大久保) → 忠保(忠休ただやす・大久保おおくぼ、幕臣/歌) U 2 6 5 6

忠旧(ちゆうきゅう・小川) → 忠旧(ただひさ・小川おがわ、神職/国学) V 2 6 9 6

籌久(ちゆうきゅう・浅野/松本) → 籌久(かずひさ・松本、藩士/和算家) M 1 5 4 2

丑丘居士(ちゆうきゅうこじ) → 無満(むまん・藍沢あいざわ、国学/俳人/教育) D 4 2 0 1

F2891 中渠(ちゆうきよ・御菌みその、常倫男/本姓;源)1706-64<sup>59</sup> 母;浅井策庵[周璞]女、  
 医者/鍼法;父門/医学:浅井東軒門、1728鍼師/従六下主計権助、霊元天皇を診察、  
 幕府出入許可;医官に準ず/1762従四下主計助、詩文・書画・歌・琴・笛を嗜む、常斌つねあきの父、  
 「鍼法秘訣」著、

[中渠(;号)の名/字/別号]名;常或(つねもち/常成/常尹、字;文卿/廷瞻ていせん、別号;仲渠/意斎  
 中虚(ちゆうきよ・森) → 共之(ともゆき・森、医者/漢学) Q 3 1 7 9

忠挙(ちゆうきよ・鳥居) → 忠挙(ただひら・鳥居とりい、藩主/歌) U 2 6 1 9  
 忠挙(ちゆうきよ・酒井) → 忠挙(ただたか・酒井さかい、藩主/和学者) X 2 6 3 6  
 忠恭(ちゆうきよ・酒井) → 忠恭(ただすみ・酒井、藩主/日記) P 2 6 6 8  
 中享(ちゆうきよ・野崎) → 義也(よしなり・野崎のさき、名主/国学/歌) O 4 7 4 2  
 忠教(ちゆうきよ・藤原) → 忠教(ただのり・藤原ふじわら、廷臣/歌人) F 2 6 5 9  
 忠教(ちゆうきよ・九条) → 忠教(ただのり・九条くじょう、廷臣/歌人) F 2 6 6 0  
 忠教(ちゆうきよ・大久保) → 忠教(ただたか・大久保彦左衛門、幕臣) F 2 6 2 2  
 忠京(ちゆうきよ・本多) → 忠喬(ただひろ・本多ほんだ、藩主) Q 2 6 7 1  
 忠喬(ちゆうきよ・梅津) → 忠喬(ただたか・梅津うめづ、藩家老) V 2 6 8 6  
 忠郷(ちゆうきよ/たださと・松岡) → 内平(うちひら・松岡、国学者/歌) D 1 2 1 0  
 忠郷(ちゆうきよ) すべて → 忠郷(たださと)  
 仲恭(ちゆうきよ・長坂/犬甘) → 知寛(ともひろ・犬甘いぬかい/長坂、家老) Q 3 1 4 5  
 仲恭(ちゆうきよ・木下/円山) → 応震(おうしん・円山まるやま/源、絵師) C 1 4 5 5  
 仲恭(ちゆうきよ・吉田) → 宗左衛門(そうざえもん・吉田、眼科医/詩) H 2 5 4 2  
 仲恭(ちゆうきよ・杉本) → 良承(よしつぐ・杉本すぎもと、藩士/国学) N 4 7 4 7  
 仲恭(ちゆうきよ・西村) → 温(あつし・西村にしむら/日下部、蘭方医) I 1 0 2 1  
 仲強(ちゆうきよ・中島) → 操存齋(そうそんさい・中島/加峰、藩儒) C 2 5 4 1  
 仲業(ちゆうぎよ・源) → 仲業(なかなり・源、廷臣/歌人) F 3 2 0 3  
 忠堯(ちゆうぎよ・島津) → 斉宣(なりのぶ・島津しまづ、藩主/詩歌) H 3 2 9 4  
 忠堯(ちゆうぎよ・藤) → 忠堯(ただあき・藤とう、藤原?、文筆家) P 2 6 0 9  
 忠暁(ちゆうぎよ・水野) → 忠敬(ただのり・水野みずの、幕臣/本草) Q 2 6 4 5  
 忠恭靈神(ちゆうきよれいしん) → 容敬(かたたか・松平まつだいら、藩主/文筆) M 1 5 9 9  
 中居齋(ちゆうきよさい) → 雪村(せつそん:道号・周継、絵師/禅僧) E 2 4 5 3  
 中忻(ちゆうきん) → 中忻(ちゆうこん、法師、歌) G 2 8 0 3  
 仲均(ちゆうきん・木下/円山) → 応挙(おうきよ・円山まるやま/藤原・源、絵師) 1 4 4 6  
 忠金(ちゆうきん・田代) → 忠金(ただかね・田代たしろ、藩士/記録) P 2 6 4 1  
 忠近(ちゆうきん・小田切) → 春江(しゅんこう・小田切おだぎり、藩士/絵師) J 2 1 6 3  
 忠垠(ちゆうぎん・酒井) → 忠垠(ただきし・酒井さかい、幕臣/和学者) X 2 6 3 5  
 昼錦居士(ちゆうきんこじ) → 常縁(じょうえん・つねより・東とう、武将/歌人) S 2 2 0 1  
 忠矩(ちゆうく → ただのり・酒井/本多) → 康伴(やすとも・本多/藤原/酒井、藩主) C 4 5 3 3  
 忠矩(ちゆうく → ただのり・松平) → 茂政(もちまさ・池田/徳川/松平、藩主) B 4 4 6 9  
 中宮(ちゆうぐう、後醍醐妃、続千入) → 後京極院(ごきょうごくいん) C 1 9 3 3  
 中宮(ちゆうぐう・村上妃、天曆贈皇太后宮) → 安子(あんし) C 1 0 1 1  
 中宮(ちゆうぐう・長慶院;新葉集) → 公重女(きんしげのむすめ・西園寺、南朝歌人) R 1 6 1 3  
 中宮上総(ちゆうぐうのかげさ) → 上総(かげさ、堀河院中宮篤子内親王家) C 1 5 2 2  
 中宮権大納言(ちゆうぐうのごんたいなごん) → 近衛(このえ・今出河院、歌人) D 1 9 4 9  
 中宮少将(ちゆうぐうのしょうしょう) → 少将(しょうしょう・藻壁門院、歌人) T 2 2 2 3  
 中宮宣旨(ちゆうぐうのせんじ、後撰入) → 宣旨(せんじ・中宮、平安前期温子女房) F 2 4 6 9  
 中宮宣旨(ちゆうぐうのせんじ) → 為道女①(ためみちのむすめ、二条関白女房、後醍醐妃) H 2 6 4 7 ①  
 中宮宣旨(ちゆうぐうのせんじ) → 宣旨(せんじ・後京極院、鎌倉後期女房歌人) F 2 4 7 5  
 中将内供奉(ちゆうぐうのないぐぼう) → 尊賀(そんが;法諱、天台僧) F 2 5 2 2

F2893 **中宮内侍**(ちゆうぐうのないし、号;山井中務、藤原有家女)?-? 母;藤原雅致女、平安中期の女房/女官、  
 小一条院女御寛子の女房/関白藤原頼通家女房/冷泉天皇皇后章子内親王立后時の掌侍、  
 歌人;高階成棟(成順男)・高階成経・加賀左衛門らと交流、  
 高階成経(業遠男/従五下判官代)との間に泰仲(正四下伊予守)を産む、晩年尼となる、  
 歌;統詞花集入/後拾遺4首:386/558/958/1025  
 [高階成棟 小一条院の御供に難波に参るとていかに恋しからんずらんと、  
 いひおこせて侍りければ、  
 しばしこそ思ひもいでめつの国のながらへゆかばいま忘れなむ](後拾遺;雑958)、

[あひしれりけるをとこの身まかりにけるを いかにも思ふらんなど人のとひ侍れば、  
 目の前にかはるはうきになぐさめつさらぬ別ぞかなしかりける](続詞花;哀傷434)、  
 [中宮内侍尼になりぬとききて遣しける(加賀左衛門の歌/法華経[衣の裏の珠]の喩、  
 いかでかく花の袂をたちかへてうらなるたまを忘れざりけん(後拾遺;1024)、  
 かへし(中宮内侍の歌)、

かけてだに衣のうらにたまありとしらですぎけんかたぞくやしき](後拾遺;1025)

中宮内侍 (ちゆうぐうのないし、後撰入) → 宣旨(せんじ・中宮、女房) F 2 4 6 9

中宮内侍 (ちゆうぐうのないし、拾遺入) → 馬内侍(うまのないし、歌人) 1 2 8 8

忠君(ちゆうくん・藤原) → 忠君(ただきみ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) E 2 6 9 9

F2894 忠慶(ちゆうけい:法諱) ? - ? 1406存 天台比叡山僧;尊玄門、尊勝院住、僧正、  
 1401祇園社別当、06清涼殿での光厳院33回忌御懺法の導師(良雄大僧正と)、  
 1386「後光厳院御十三年宸筆御講記」1405「応永十二年清涼伝宸筆御八講記」著

F2895 忠恵(ちゆうけい・杉本すざもと、初名;元政、元喬男) 1613-89 77 伊豆の医者/南蛮外科;沢野忠庵門、  
 1670幕府洋方医;78東福門院和子(将軍秀忠女)の治療のため上京/1683致仕、  
 1665「杉本忠恵自筆案紙帳」著、「直指方」校訂

中畑(ちゆうけい・岩淵/蘆野) → 東山(とうざん・蘆野あしの、儒者/詩文) E 3 1 5 3

冲卿(ちゆうけい・畑中) → 荷澤(かたく・畑中はたなか/はたけなか、藩儒/詩歌) C 1 5 3 2

仲敬(ちゆうけい・志村) → 東嶼(とうしよ・志村むら、儒者/詩文) F 3 1 2 0

仲敬(ちゆうけい・水/水足) → 屏山(へいざん・水足みずたり/水、藩儒) 2 7 3 8

仲敬(ちゆうけい・山田) → 仲敬(なかつか・山田やまだ/西巻、商家/儒/歌) P 3 2 1 8

仲敬(ちゆうけい・紀) → 鹿衝(ろくがん・紀き/石、篆刻家) 5 2 7 9

仲卿(ちゆうけい・佐藤) → 松溪(しょうけい・佐藤さとう/青山、儒者/絵師) I 2 2 2 3

仲卿(ちゆうけい・脇屋) → 恕亭(じよてい・脇屋わきや、儒者) M 2 2 7 1

忠敬(ちゆうけい・本多) → 忠升(ただたか・本多ほんだ、藩主/儒/詩歌) F 2 6 2 3

忠敬(ちゆうけい・本多) → 忠敬(ただたか・本多、藩主/文筆) P 2 6 7 5

忠敬(ちゆうけい・水野) → 忠敬(ただたか・水野みずの、幕臣/本草) Q 2 6 4 5

忠敬(ちゆうけい・原) → 伍軒(ごけん・原はら、藩士/儒者/幕臣) G 1 9 5 1

忠敬(ちゆうけい・沖) → 忠敬(ただたか・沖、藩士/儒者) P 2 6 7 1

忠敬(ちゆうけい・多) → 忠敬(ただたか・多おの、楽人) P 2 6 7 2

忠敬(ちゆうけい・浅野) → 忠敬(ただたか・浅野あさの/藤堂、藩家老) V 2 6 1 9

忠敬(ちゆうけい・伊能) → 忠敬(ただたか・伊能、酒造業/測量図) F 2 6 2 5

忠経(ちゆうけい・花山院) → 忠経(ただたか・花山院/藤原、右大臣/歌) F 2 6 3 3

忠経(ちゆうけい・水野) → 忠精(ただきよ・水野、藩主/老中/歌人) F 2 6 0 3

忠経(ちゆうけい・梅津) → 忠経(ただたか・梅津うめづ、藩家老/歌人) V 2 6 8 7

忠継(ちゆうけい・藤原) → 忠継(ただたか・藤原ふじわら、参議/歌) 2 7 8 1

忠啓(ちゆうけい・水野) → 忠啓(ただたか・水野みずの、藩主/対馬守/歌) U 2 6 1 8

忠景(ちゆうけい・惟宗/源) → 忠景(ただたか・惟宗これむね/島津、歌人) E 2 6 8 9

忠慶(ちゆうけい・宍戸) → 忠慶(ただたか・宍戸ししど、藩士/歌人) X 2 6 4 5

忠卿(ちゆうけい・斎藤) → 弥九郎(やくろう・斎藤、武芸/兵法家) 4 5 5 2

忠卿(ちゆうけい・田中) → 世文(つぐふみ・田中たなか、医者) F 2 9 9 2

忠潔(ちゆうけい・ただきよ梅津) → 忠致(ただたか・梅津うめづ、藩家老/軍学) Q 2 6 9 7

昼月(ちゆうげつ・小森/小林) → 炎洲(えんしゅう・雨森あめのもり、藩士/儒者) E 1 3 9 0

昼月老人(ちゆうげつろうじん) → 果園(かえん・佐久間、藩士/歌人) B 1 5 1 3

F2896 仲顕(ちゆうけん:法諱、源邦長男) ?-? 1357存 僧;法印、歌人、1313宝治二年歌合を書写、  
 建長三年影供歌合/貞応本古今集・古今秘注抄など書写、新千載1951・新拾遺1659  
 [厭いとへただ難波の蘆のかりの世に心とむべき一節もなし](新千載;雑1951)

F2897 冲見(ちゆうけん) ? - ? 江前中期撰津伊丹の俳人、  
 1705「酒壺五歌仙」独吟入、1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、  
 [舞々の世や捨てがたき古扇](伊丹発句合;夏)

中軒(ちゆうけん・大塩) → 中斎(ちゆうさい・大塩平八郎、儒者/義挙) G 2 8 7

中虔(ちゆうけん;法諱) → 虎林(こりん;道号・中虔、臨濟僧/詩人) O 1 9 0 2  
 中顛(ちゆうけん・井伊) → 中顛(なかあき・井伊い/中野/藤原、藩士/歌) L 3 2 0 2  
 仲顛(ちゆうけん・尾形) → 洞簾(どうしょう・尾形、儒者) F 3 1 4 8  
 仲猷(ちゆうけん・奥田) → 容安斎(ようあんさい・奥田おくだ、医者/詩文) 4 7 6 1  
 仲謙(ちゆうけん・大蔵) → 謙斎(けんさい・大蔵おおくら、儒者) I 1 8 9 2  
 忠見(ちゆうけん・壬生) → 忠見(忠実/忠視ただみ・壬生みぶ、廷臣/歌人) 2 6 3 2  
 忠見(ちゆうけん・半井) → 悟庵(梧庵ごあん・半井なからい/平野、医/歌学) 1 9 0 0  
 忠兼(ちゆうけん・藤原) → 忠兼(ただかね・藤原、廷臣/歌人) E 2 6 9 6  
 忠兼(ちゆうけん・藤原) → 忠兼(ただかね・藤原・楊梅、廷臣/歌人) E 2 6 9 8  
 忠兼(ちゆうけん・橘) → 忠兼(ただかね/ただかぬ・橘たちばな、廷臣/辞書) E 2 6 9 7  
 忠兼(ちゆうけん・多) → 忠兼(ただかね・多おの、楽人) P 2 6 4 0  
 忠兼(ちゆうけん→ただかね-ぬ・藤原) → 公蔭(きんかげ・正親町おうぎまち、歌人) D 1 6 8 5  
 忠顛(ちゆうけん・安倍) → 忠顛(ただあき・安倍あべ、廷臣/歌人) E 2 6 7 5  
 忠顛(ちゆうけん・早川) → 忠顛(ただあき・早川はやかわ/源、藩士/国学) Z 2 6 0 1  
 忠顛(ちゆうけん・垣本) → 忠顛(ただあき・垣本かきもと、藩士/国学) W 2 6 4 3  
 忠顛(ちゆうけん・本多) → 忠顛(ただあき・本多ほんだ/源、藩士/歌) W 2 6 6 7  
 忠賢(ちゆうけん・伊奈) → 忠賢(ただかた・伊奈いな、幕臣、文筆家) P 2 6 3 1  
 忠賢(ちゆうけん・神) → 忠賢(ただかた・神みわ?/じん?/藤原、歌) U 2 6 5 7  
 忠憲(ちゆうけん・本多) → 忠憲(ただのり・本多、国学/故実/俳人) F 2 6 6 3

F2898 **忠源**(ちゆうげん;法諱、中山[藤原]忠定男)?-1319 天台宗叡山石泉院僧/1293西塔院主/大僧正、  
 歌人;1315京極為兼「詠法華経和歌」参加、  
 勅撰11首;新後撰(630/690/1329)玉葉(2首)以下

[ならひこし妙なる法りの花ゆゑに君にとはるる身とぞ成りぬる](新後撰;釈教630、  
 詞書;天台の法門御尋ねにあづかる事代々になりぬる事を思ひて読み侍りける)

F2899 **中玄**(ちゆうげん・村田むらた、名;精一、義道男)1817-6953 越後新発田の医者;江戸の多紀元堅門、  
 儒;松崎慊堂こうどう門、江戸尾張町で開業医、新発田藩侍医、  
 「愛日楼類纂」「傷寒雑病論訓解」著、  
 [中玄(;通称)の字/号]字;誠卿、号;愛日楼

中巖(ちゆうげん→ちゆうがん) → 円月(えんげつ・中巖、臨濟僧) 1 3 9 4  
 中彦(ちゆうげん・太田) → 中彦(なかひこ・太田おた/丸山、藩医/歌人) L 3 2 4 5  
 忠彦(ちゆうげん) すべて → 忠彦(ただひこ)  
 忠元(ちゆうげん・新納) → 忠元(ただもと・新納にいり、武将/歌・連歌) F 2 6 9 3  
 忠言(ちゆうげん・山科) → 忠言(ただとき・山科やましな、廷臣/記録) Q 2 6 0 0  
 忠言(ちゆうげん・玉井) → 行篤(ゆきあつ・玉井たまい、藩士/国学) G 4 6 9 9  
 忠玄(ちゆうげん・宮地) → 巖雄(いづお・宮地みやぢ/手島、神職/故実) K 1 1 7 1  
 忠原(ちゆうげん・永田/永) → 觀鷺(かんが・永田ながた、儒者/書家) D 1 5 5 0  
 忠憲先生(ちゆうけんせんせい;諡号) → 宗安(そうあん・山科やましな、侍医/墨竹) 2 5 4 6  
 中原中良(ちゆうげんちゅうりょう) → 中良(ちゅうりょう・森島/桂川、蘭学/戯作) 2 8 1 9  
 仲建竜章(ちゆうけんりゅうせい) → 瑞巖(ずいがん;道号・竜惺;法諱、臨濟僧) E 2 3 2 8  
 忠彦靈社(ちゆうげんれいしゃ) → 氏興(うじおき・友松/佐藤、儒/神道) 1 2 2 3  
 仲古(ちゆうこ/なかひさ?・今田) → 信好(のぶよし・今田いまだ、藩士/歌人) H 3 5 4 3  
 仲虎(ちゆうこ・井口) → 蘭雪(らんせつ・井口いぐち、儒者) C 4 8 8 1  
 仲虎(ちゆうこ・首藤) → 水晶(すいしょう・首藤すどう/藤・膝、儒者) 2 3 6 5  
 忠虎(ちゆうこ・石井) → 忠虎(ただとら・石井、兵法家) E 2 6 4 5  
 忠虎(ちゆうこ/ただとら・諏訪) → 蘭幽(せんゆう・諏訪すわ忠虎、藩主/俳人) G 2 4 6 8  
 忠虎(ちゆうこ・大久保) → 忠虎(ただとら・大久保おおくぼ/藤原、藩主/歌) W 2 6 0 8  
 忠固(ちゆうこ・大岡) → 忠固(ただかた・大岡/加納、藩主/歌人) P 2 6 3 3

N2844 **忠吾**(ちゆうご・穂積ほづみ、号;梧遠)1844-191269 母;うた(原甚兵衛女)、伊豆田方郡の商家、  
 国学者・歌;竹村茂正門、妻;けい(神尾金兵衛女)、銀行経営、  
 六亮(1867生/銀行家)・原四郎(1885生)の父

忠吾(ちゆうご・大武) → 葆光(ほこう・大武おおたけ、儒者) E 3 9 1 4  
 仲吾(ちゆうご・片岡) → 正占(まさうら・片岡かたおか/平田、国学/神道) O 4 0 8 5  
 仲吾(ちゆうご・広田) → 敬明(たかあき・広田ひろた、和学者;歌・俳) Z 2 6 2 6  
 鈕吾(ちゆうご・岡谷) → 繁実(しげざね・岡谷おかや、藩士/勤王家) S 2 1 7 5  
 忠皎(ちゆうこう・本阿弥) → 光一(こういち・本阿弥ほんあみ、鑑定家) H 1 9 3 2  
 忠興(ちゆうこう)すべて → 忠興(ただおき)  
 忠広(忠弘ちゆうこう・島津) → 忠広(ただひろ・島津しまづ、家老/国学者) X 2 6 5 4  
 忠侯(ちゆうこう・松平) → 忠侯(ただこれ・松平、藩主/歌) P 2 6 4 5  
 忠厚(ちゆうこう・阿万) → 鉄崖(てつがい・阿万あまん、儒者) C 3 0 2 1  
 忠厚(ちゆうこう・鵜田) → 魯斎(ろさい・鵜田ときた、藩儒/経史) B 5 2 5 4  
 忠行(ちゆうこう・石井) → 忠行(ただつら・石井いし、藩士/記録) C 2 6 3 5  
 忠行(ちゆうこう)すべて → 忠行(ただゆき) or 忠行(ただつら)  
 忠光(ちゆうこう・水野) → 忠光(ただあきら・水野みずの、藩主/和学) Z 2 6 7 4  
 忠光(ちゆうこう・日野/柳原) → 忠光(ただみつ・柳原/日野、廷臣/歌人) F 2 6 8 8  
 忠光(ちゆうこう・中山) → 忠光(ただみつ・中山、国学:勤王派) F 2 6 8 9  
 忠香(ちゆうこう・岡村) → 菊叟(きくそう・岡村、家老/砲術/歌人) K 1 6 1 7  
 忠香(ちゆうこう・一条) → 忠香(ただか・一条、廷臣/左大臣) J 2 6 8 9  
 忠香(ちゆうこう・岡村) → 忠香(ただか・岡村おかむら、藩家老/歌人) W 2 6 3 2  
 忠弘(ちゆうこう・松平) → 忠弘(ただひろ・松平まつだいら、藩主) Q 2 6 6 7  
 忠恒(ちゆうこう)すべて → 忠恒(ただつね)  
 忠高(ちゆうこう・九条) → 忠高(ただたか・九条くじょう/藤原、廷臣/日記) F 2 6 2 1  
 忠高(ちゆうこう・青山) → 忠高(ただたか・青山、藩主/藩校創設) P 2 6 7 4  
 忠幸(ちゆうこう・大江) → 忠幸(ただゆき・大江おおえ、廷臣/歌) F 2 6 9 8  
 忠幸(ちゆうこう→ただゆき・藤原) → 慈寛(じかん;法諱、法師/歌人) B 2 1 4 2  
 忠幸(ちゆうこう・大岡) → 忠幸(ただゆき・大岡おおおか/藤原、幕臣/歌) U 2 6 5 2  
 忠公(忠厚ちゆうこう・浅野) → 忠(ただす・浅野あさの、藩家老) P 2 6 6 4  
 忠綱(ちゆうこう・進藤) → 忠綱(ただつな・進藤、家司/連歌) P 2 6 8 5  
 忠綱(ちゆうこう・檜林) → 忠綱(ただつな・檜林ならばやし、医者/和学) Y 2 6 7 7  
 忠衡(ちゆうこう・和泉/藤原) → 忠衡(ただひら・和泉/藤原、武将) Q 2 6 6 5  
 忠洪(ちゆうこう・森) → 忠洪(ただひろ・森もり、藩主/俳人) Q 2 6 6 8  
 忠洪(ちゆうこう・島津) → 重豪(しげひで・島津/松平、藩主/諸学) C 2 1 9 0  
 忠洪(ちゆうこう・大久保) → 楚南(そなん・大久保、藩家老/俳人) K 2 5 2 7  
 鑄公(ちゆうこう・藤本) → 鉄石(てつせき・藤本、兵法/尊王) C 3 0 5 1  
 鑄公(ちゆうこう・片山/藤本) → 鉄石(てつせき・藤本、勤王/天誅組) C 3 0 5 1  
 中行(ちゆうこう・江幡) → 春庵(しゅんあん・江幡えぼた/田口、藩士/儒/医) 2 1 9 7  
 中行(ちゆうこう・板倉) → 勝尚(かつなお・板倉いたくら、藩主/詩文) N 1 5 6 2  
 中行(ちゆうこう・長久保) → 暘谷(ようこく・長久保ながくぼ/長、儒者) 4 7 8 3  
 仲厚(ちゆうこう・難波) → 玄生(はるなり・難波なんば、医/歌人) G 3 6 6 4  
 仲興(中興ちゆうこう・三木) → 屈斎(くつさい・三木みき、藩士/詩/戯作) C 1 7 4 7  
 仲行(ちゆうこう・志村) → 蒙庵(もうあん・志村、儒者/藩主侍講) 4 4 4 1  
 仲行(ちゆうこう・足代) → 立溪(りっけい・足代あじろ/度会、儒者/講説) B 4 9 6 7  
 仲光(ちゆうこう・森) → 春溪(しゅんけい;号・森もり、絵師) I 2 1 8 8  
 仲好(ちゆうこう・春日) → 潜庵(せんあん・春日かすが/源、儒者/勤王) E 2 4 8 0  
 中皇命(ちゆうこうめい→なかのすめらみこと) → 間人皇女(はしひとのひめみこ) 3 6 1 4  
 G2800 沖谷(ちゆうこく) ? - ? 雑俳点者、1767丸窓「豆鉄炮」入  
 中谷(ちゆうこく・八木) → 美庸(よしつね・八木やぎ、大庄屋/歌人) P 4 7 6 9  
 中谷(ちゆうこく・八木) → 美穂(よしほ・八木、美庸男/国学者/和漢学) 4 7 2 7  
 中谷(ちゆうこく・沢野) → 喬緒(たかお・沢野さわの、詩人) L 2 6 6 0  
 中谷(ちゆうこく・高橋) → 竜蔵(りゅうぞう・高橋たかはし、儒者/詩人) F 4 9 0 6  
 中谷(ちゆうこく・木下) → 俊夫(敏夫としお・木下/丸尾/榛葉、歌人) M 3 1 0 9

- 中谷(ちゆうこく・倉科) → 希言(まれこと・倉科くらしな、歌人) P 4 0 4 6  
 中谷(ちゆうこく・難波) → 周政(かねまさ・難波なんば、陪臣/歌人) V 1 5 2 9  
 忠告(ちゆうこく・蜂須賀) → 至鎮(よしげ・蜂須賀/源、藩主/連歌) D 4 7 5 8  
 忠告(ちゆうこく・森島/永田) → 敏昌(としまさ・永田/森島、和算家) N 3 1 7 2  
 忠告(ちゆうこく・秦) → 忠告(ただり・秦/加藤、藤原屋/書肆) Q 2 6 4 1  
 忠告(ちゆうこく・山本/加賀美) → 忠告(ただり/ただつぐ・山本、神職) Q 2 6 4 2  
 忠告(ちゆうこく・伊那) → 忠告(ただり・伊那いな、幕臣/奉行) U 2 6 4 5  
 忠告(ちゆうこく・鈴木) → 忠告(ただつぐ・鈴木すずき/鈴木樹、国学) X 2 6 7 2  
 忠克(ちゆうこく・南部) → 静斎(せいさい・南部なんぶ、郷士/儒者) I 2 4 3 2  
 忠毅(ちゆうこく・平栗) → 義古(よしふる・平栗ひらぐり、陪臣/国学) O 4 7 7 9  
 忠毅(ちゆうこく・団井) → 忠毅(ただよし・団井まるい、藩士/国学) Z 2 6 6 6  
 忠鶴(ちゆうこく・飯原/尾見) → 緑塙(りよくお・尾見おみ/飯原、儒者) J 4 9 7 4  
 忠国(ちゆうこく)すべて → 忠国(ただくに)  
 中谷覃庵(ちゆうこくたんあん) → 周政(かねまさ・難波なんば、陪臣/歌人) V 1 5 2 9
- G2801 忠五郎(ちゆうごろう・晴山はれやま) ?- ? 江後期陸奥八戸藩領九戸郡大野村の鉄山業者、  
 文筆家、1783/84「天明三癸卯ノ歳大凶作天明四辰ノ歳飢飢喝聞書」著
- G2802 忠五郎(ちゆうごろう:通称・小泉こいずみ) ?-? 江後期浅草田町の書肆・1791-1823「吉原細見」編版、  
 1770鈴木春信「吉原美人合」(明和七年版)の版元
- 忠五郎(ちゆうごろう・林) → 重澄(しげずみ・林はやし、幕臣/歌人) C 2 1 2 7  
 忠五郎(ちゆうごろう・本屋) → 赤城山人(あかぎさんじん、戯作者/狂歌) D 1 0 2 7  
 忠五郎(ちゆうごろう・河本) → 公輔(きんすけ・河本かわもと、国学者) C 1 6 5 5  
 忠五郎(ちゆうごろう・美濃屋/武藤) → 致和(むねかず・武藤/藤原、商家/国学) B 4 2 1 8  
 忠五郎(ちゆうごろう・美濃屋/武藤) → 平道(ひらみち・武藤、致和男、国学) F 3 7 4 1  
 忠五郎(ちゆうごろう・二瓶) → 直中(なおなか・二瓶にへい、国学/歌/教育) O 3 2 1 9  
 忠五郎(ちゆうごろう・二瓶) → 直香(なおか・二瓶、直中男/国学/歌) O 3 2 2 0  
 忠五郎(ちゆうごろう・成田) → 道欽(みちうや・成田なりた、藩士/歌人) K 4 1 0 0  
 忠五郎(ちゆうごろう・鍵屋) → 尚樹(なおき・河辺かわべ、商家/歌人) L 3 2 7 8  
 鑄五郎(ちゆうごろう・尾崎) → 靖(やすし・尾崎おさき、藩士/国学/尊攘) F 4 5 4 8
- G2803 中忻(ちゆうこん・ちゆうきん:法諱) ?- ? 南北期?;僧/法師、  
 歌人:1364成立「新後拾遺集」1387、  
 [身のために歎かぬのみぞ世の中はよそになしてもなほうかりけり](新後拾;雑1387)
- 忠根(ちゆうこん・松平) → 忠根(ただね・松平まつだいら、幕臣/和学) Z 2 6 6 1
- G2804 忠巖(ちゆうごん:法諱) ?- ? 江前期武蔵児玉郡賀美村の曹洞宗陽雲寺住職、  
 1653「崇栄山陽雲略註」著
- 忠佐(ちゆうさ/ただすけ・山本) → 謙斎(けんさい・山本やまもと、藩士/儒者) J 1 8 0 1
- G2805 虚斎(ちゆうさい・久保くぼ、名;泰亨、藩士大倫男) 1730-856 高松の儒者:後藤芝山門/昌平黌入学、  
 1779一橋家の儒員/詩文に通ず、柴野栗山の学友、「虚園ちゆうえん詩稿」「客館唱和」著、  
 1771「詩文稿抄」、「昌平学校积奠儀注」「虚斎先生詩文稿」「虚斎先生上書」著、  
 [虚斎(;号)の字/通称/諡号]字;仲通、通称;二郎右衛門、諡号;正敬
- G2806 中斎(ちゆうさい・高井たかい、名;直) 1774-185481 上州佐波郡境町伊与久の儒者:浦野神村・似鳩門、  
 私塾を開;子弟教育、郷学五惇堂を創立、「高用趣意書帖」著、  
 [中斎(;号)の字/通称/別号]字;仲卓、通称;黙右衛門、別号;毅斎
- G2807 中斎(ちゆうさい・大塩おおしお、名;正高/後素、敬高男) 1793-1837自刃45 代々大阪天満の町奉行所与力、  
 幼時に両親没/1806頃与力見習/与力;定町廻・盗賊役等/1830致仕、儒:鈴木恕平門/  
 のち陽明学に傾倒、家塾洗心洞で講説、天保飢饉に私財を出し窮民救済;1837義挙;失敗、  
 市中潜伏後養子格之助と自刃、1832「古本大学刮目」/33「洗心洞割記せんしんどうさつき」著、  
 1833「儒門空虚聚語」35「孝経彙註」、「孝経講義」「洗心洞詩文集」「洗心洞孔孟学揭示」著、  
 「聖賢遺訓」編、  
 [英傑は大事に当りて固もとより禍福生死かふくしょうじを忘る](1833洗心洞割記)

[大塩中斎の幼名/字/通称/別号]幼名;文之助、字;子起、通称;平八郎、  
別号;連斎/中軒/洗心洞[家塾名]

中斎の門弟;宇津木静区・湯川民太郎・松本乾知・松浦誠之・但馬守約・林良斎など

G2808 中斎(ちゆうさい・山本やまと、名;公簡/字;子文、左仲男)1794-1840<sup>47</sup> 信州善光寺東町の医者;父門、  
儒;古賀精里・葛西因是門/晩年に禅学・泰西学を修得、1831「春秋詠法」、「周易図説」著

G2809 抽斎(ちゆうさい・渋江しづえ、名;全善かねよし、道陸男)1805-58<sup>54</sup> 母;太田忠次郎の妹の縫、弘前藩医者、  
江戸神田の生;代々弘前藩江戸定府医師/父門、1822家督;表医師、儒;市野迷庵・狩谷榎斎門、  
医学;伊沢蘭軒・池田京水門、1844幕府医学校躋寿館の講師/49公儀御目見、  
1854躋寿館医書彫刻手伝;「医心方」校刻に参画、考証学;古書蒐集/校勘に専念、コレに罹患没、  
1857「経籍訪古志」(森沢園・小島成斎・伊沢柏軒らと共著/85上海で刊行)、1831「護痘要法」編、  
1845「靈枢講義」、「江戸鑑図目録」編/「留真譜」「渋江全善日記」「籀斎ちゆうさい随筆」外多数、  
恒善・優善・成善の父、

[抽斎(;号)の幼名/字/別号]幼名;恒吉、字;道純/子良、

別号;3世劇神仙、観柳書屋/柳原書屋/三亦さんえき堂/目耕肘書斎/今未是翁/不求甚解翁

中斎(ちゆうさい・烏谷) → 美教(よしゆり・烏谷からすや、神職/歌人) M 4 7 3 1

冲斎(ちゆうさい・伊東) → 玄朴(げんぼく・伊東、蘭医) M 1 8 3 9

籀斎(ちゆうさい・細井) → 九阜(きゅうこう・細井ほせい、書家/篆刻) C 1 6 0 0

仲載(ちゆうさい・河田/大橋) → 陶庵(とうあん・大橋おおはし/河田、儒者) 3 1 8 9

忠濟(ちゆうさい・吉成/岡島) → 竜湖(りゅうこ・岡島おかじま/谷田部/吉成、儒者) D 4 9 6 8

仲材(ちゆうざい/なかき・武野) → 紹鷗(しょうおう・武野/武田、商家/茶人) F 2 2 5 8

忠左衛門(ちゆうざえもん・河村) → 秀辰(ひでとき・河村/俵、藩士/国学) D 3 7 3 0

忠左衛門(ちゆうざえもん・海北) → 友雪(ゆうせつ・海北かいほう、絵師) D 4 6 0 7

忠左衛門(ちゆうざえもん・吉田) → 兼亮(かねすけ・吉田よしだ/藤原、浪士;討入) W 1 5 1 4

忠左衛門(ちゆうざえもん・牛込) → 重忝(しげゆり・牛込うしごめ、幕臣/文筆家) S 2 1 0 3

忠左衛門(ちゆうざえもん・檜崎) → 正員(まさかず・檜崎ならさき、儒;闇斎学) B 4 0 7 4

忠左衛門(ちゆうざえもん・夏秋) → 富雅(とみまさ・夏秋かしゅう、儒者) O 3 1 9 6

忠左衛門(ちゆうざえもん・武藤) → 致和(むねかず・武藤/藤原、商家/国学) B 4 2 1 8

忠左衛門(ちゆうざえもん・武藤) → 正道(まさみち・武藤、致和男/国学) H 4 0 4 3

忠左衛門(ちゆうざえもん・久貝) → 正郷(まささと・久貝くがい/藤原、幕臣/文筆) C 4 0 5 8

忠左衛門(ちゆうざえもん・辻) → 知篤(ともあつ・辻つじ、幕臣/詩文) P 3 1 1 6

忠左衛門(ちゆうざえもん・村山) → 正知(まさとも・村山むらやま、剣術家) E 4 0 6 7

忠左衛門(ちゆうざえもん・村山) → 正亮(まさすけ・村山むらやま、剣術家) C 4 0 9 3

忠左衛門(ちゆうざえもん・河口) → 信任(のぶただ・河口かわぐち、蘭医) B 3 5 8 4

忠左衛門(ちゆうざえもん・福王) → 信近(のぶちか・福王ふくおう、幕臣/記録) B 3 5 9 8

忠左衛門(ちゆうざえもん・大浦) → 筋翁(せつおう・大浦/宮川、藩老) K 2 4 7 2

忠左衛門(ちゆうざえもん・笹塚) → 有義(ありよし・笹塚ささづか、和算家) F 1 0 9 2

忠左衛門(ちゆうざえもん・松平) → 勝定(かつさだ・松平、幕臣/記録) N 1 5 3 1

忠左衛門(ちゆうざえもん・重松) → 篤太夫(とくだゆう・重松/張、藩士/記録) L 3 1 1 7

忠左衛門(ちゆうざえもん・田代) → 簡菴(かんか・田代たしろ、家老/儒者) Q 1 5 0 2

忠左衛門(ちゆうざえもん・木綿屋/丘崎) → 俊平(としひら・丘崎/丘岬/岡崎おかざき、国学者) N 3 1 5 7

忠左衛門(ちゆうざえもん・大沢/印牧かねまさ) → 君山(くんざん・大沢、儒者) D 1 7 6 4

忠左衛門(ちゆうざえもん・曲淵/渡辺) → 之道(これみち・渡辺、藩士/儒者) O 1 9 8 8

忠左衛門(ちゆうざえもん・小野) → 高尚(たかひさ・小野おの、幕臣/国学者) D 2 6 5 6

忠左衛門(ちゆうざえもん・石河) → 勝延(かつのぶ・石河いしこ、勝栄男/幕臣) T 1 5 6 5

忠左衛門(ちゆうざえもん・林) → 良本(よしもと・林はやし、藩家老/歌人) H 4 7 7 0

忠左衛門(ちゆうざえもん・井上) → 長盈(ながみつ・井上いのうえ/名越、神職) L 3 2 0 6

忠左衛門(ちゆうざえもん・上田) → 一徳(かずゆり・上田うだ、藩士/国学) T 1 5 7 5

忠左衛門(ちゆうざえもん・碓田) → 道行(みちゆき・碓田うすだ、歌人) I 4 1 1 9

忠左衛門(ちゆうざえもん・衛藤) → 実厚(さねあつ・衛藤えとう、国学) O 2 0 0 1

- 忠左衛門(ちゆうざえもん・岡/俵屋)→武敏(たけとし・岡おか、商家/国学) W 2 6 2 5  
 忠左衛門(ちゆうざえもん・首藤)→三蔭(みつかげ・首藤すどう、藩士/歌人) J 4 1 3 1  
 忠左衛門(ちゆうざえもん・田中)→延裕(のぶひろ・田中たなか、藩士/国学) I 3 5 8 6  
 忠左衛門(ちゆうざえもん・本多)→俊民(としたみ・本多ほんた、藩士/神職/歌) V 3 1 3 5  
 仲左衛門(ちゆうざえもん・山口)→治易(はるやす・山口、藩士/儒者) H 3 6 0 3  
 仲左衛門(ちゆうざえもん・伊地知)→貞馨(貞香さだか・伊地知いちち、藩士/国事) H 2 0 8 7
- M2807 仲三郎(ちゆうざぶろう・板橋いたばし) 1845-? 下野芳賀郡町田村の羽黒神社祠官、国学  
 仲三郎(ちゆうざぶろう・大野木)→克敏(かつとし・大野木おおのぎ、藩士/勤王) T 1 5 9 5  
 忠三郎(ちゆうざぶろう・曾我)→古祐(ひさすけ・曾我そが、幕臣/故実) B 3 7 1 6  
 忠三郎(ちゆうざぶろう・布屋)→蘆国(あしくに・浅山、絵師) C 1 0 2 8  
 忠三郎(ちゆうざぶろう・熊谷)→元実(もとざね・熊谷くまがい/宍戸、藩士/歌) J 4 4 9 2  
 忠三郎(ちゆうざぶろう・伊勢村)→次良(じりょう/つぐよし・伊勢村いせむら、俳人) E 2 2 9 1  
 忠三郎(ちゆうざぶろう・葛巻/大野木)→克明(かつあきら・大野木おおのぎ、藩士/記録) N 1 5 2 3  
 忠三郎(ちゆうざぶろう・内山)→知澄(ともずみ・内山うちやま、国学/歌人) U 3 1 3 5  
 忠三郎(ちゆうざぶろう・黒沢)→勝算(しょうさん・黒沢くろさわ、藩士) S 2 2 4 8  
 忠三郎(ちゆうざぶろう・岩瀬)→忠震(ただなり・岩瀬/設楽、幕臣/詩画) Q 2 6 3 7  
 忠三郎(ちゆうざぶろう・押上)→直泰(なおやす・押上おしあげ、国学者) L 3 2 5 4  
 忠三郎(ちゆうざぶろう・林)→保綱(やすつな・林はやし、酒造業/歌人) G 4 5 4 5  
 忠三郎(ちゆうざぶろう・村井)→武昭(たけあき・村井むらい/秦、国学者) Z 2 6 8 7  
 忠三郎(ちゆうざぶろう・多田)→広身(ひろみ・柿沼かきぬま/紀、神職/国学) J 3 7 0 0
- G2810 仲算(忠算・中算ちゅうさん/ちゅうざん:法諱) 935-976 42 法相僧/幼少時;興福寺空晴門、  
 興福寺喜多院松室で修業/963清涼殿の南都北嶺宗論で延暦寺良源を論破;  
 法相宗が六宗の長官と決まる、973西大寺別当、953「因明四種相違私記」、「賢聖義問答」、  
 975「法相宗賢聖義略問答」、「大般若経略頌」、「法華経釈文」外著多数、歌:拾遺274;  
 [声高くみかさの山ぞよばふなるあめのしたこそたのしかるらし](拾遺集;274)  
 [仲算(;法諱)の通称] 松室先徳/貞松房先徳  
 中珊(ちゅうさん:法諱) → 月溪(げつけい:道号・中珊、臨濟僧) G 1 8 9 7  
 仲珊(中珊ちゅうさん:法諱)→ 瑚海(こかい:道号・仲珊、曹洞僧) L 1 9 8 0  
 仲賛(ちゅうさん・牛島) → 盛庸(もりつね・牛島うじま、和算家) F 4 4 8 0
- G2811 中山(ちゅうざん;道号・法穎ほうえい;法諱) 1317-90 74 鎌倉期臨濟僧;太平門/入元、1382建長寺54世、  
 1385天竜寺21世、南禅寺47世、「仏光禅師塔銘」編
- G2812 中山(ちゅうざん・児島こじま、名;信) 1779-1848 70 備中倉敷の儒者、歌;堀家広政門、易学にも通ず、  
 仁科白谷と詩友、「卦名考」「真相精通」著、  
 [中山(;号)の字/通称]字;好古、通称;太郎左衛門  
 中山(ちゅうざん・藤原) → 基房(もとふさ・藤原、摂政・関白/歌人) E 4 4 2 0  
 忠山(ちゅうざん・松平) → 忠晴(ただはる・松平まつだいら、藩主) Q 2 6 5 0  
 忠山(ちゅうざん・伊達) → 宗村(むねむら・伊達だて、藩主/歌人) C 4 2 5 7  
 仲山(ちゅうざん・草場) → 允文(いんぶん・草場/柳田、藩士/書家) G 1 1 0 7  
 忠山翁(ちゅうざんおう・前田)→ 孝連(たかつら・前田まただ、監物家/藩主) M 2 6 3 3  
 中山居(ちゅうざんきよ) → 潮堂(ちようどう・中山なかやま、俳人) J 2 8 5 6  
 中山長(ちゅうざんちやう) → 高般(たかかず・藤堂とうどう、詩人) L 2 6 7 1
- G2813 籌山堂(ちゅうざんどう) ? - ? 江戸中期名古屋和算家、1793「万宝大通考」  
 G2814 仲之(ちゅうし) ? - ? 江前期俳人;梅盛門、  
 1663木玉千句参加(;倫員「木玉こたま集」所収)
- G2841 中四(ちゅうし) ? - ? 俳人;1696不角「矢の根鍛冶後集」入、  
 [若後家の位牌に孕む科とが負ふせ](矢の根後集/前句;さても相違な物の云ひやう)  
 (妊娠を位牌の夫の幽霊の責任にする)  
 仲子(ちゅうし) → 仲子(なかこ)  
 仲子(ちゅうし・従三位、新後拾歌人)→ 崇賢門院(すけんもんいん、後円融天皇母) 2 3 9 8  
 仲子(ちゅうし・富永) → 謙斎(けんさい・富永仲基、思想家) E 1 8 8 3

- 仲之(ちゆうし・須田) → 仲之(なかゆき・須田すだ/河野、藩医/歌) N 3 2 4 6  
 仲枝(ちゆうし→なかせ・宮地) → 水溪(すいけい・宮地みやじ、藩士/儒・国学) 2 3 4 3  
 仲錫(ちゆうし・岡井) → 嶽州(げんしゅう・岡井おかい、藩士/儒者) C 1 8 0 5  
 中司(ちゆうし・今井/大国) → 隆正(たかまさ・大国/山本/野之口/今井、国学/歌) 2 6 1 7  
 忠子(ちゆうし・辻) → 談天門院(だんてんもんいん、後醍醐天皇母) I 2 6 5 4  
 忠之(ちゆうし→ただゆき・村田) → 唯雪(ただゆき・大津おつ/村田、藩士/歌) W 2 6 1 7  
 忠至(ちゆうし・源) → 忠至(ただのり/ただゆき・源みなもと、歌人) 2 7 5 7  
 忠至(ちゆうし・戸田) → 忠至(ただゆき・戸田/木村/間瀬、藩主) R 2 6 1 8  
 忠至(ちゆうし・梅津) → 忠至(ただのり・梅津うめづ、藩士/国学者) F 2 6 6 1  
 忠資(ちゆうし・藤原) → 忠資(ただすけ・藤原、楊梅、廷臣/歌人) F 2 6 1 7  
 忠嗣(ちゆうし・松殿) → 忠嗣(ただつぐ・松殿まつどの/藤原、廷臣/歌) F 2 6 2 8  
 忠之(ちゆうし) すべて → 忠之(ただゆき)  
 仲施(ちゆうし・大島) → 半隠(はんいん・大島、藩士/儒者) H 3 6 2 1  
 忠司(ちゆうし・武藤) → あつ丸(あつまる、小金、商人/狂歌/戯作) 1 0 2 3  
 G2815 丑二(ちゆうじ、鶴屋つるや小右衛門) 1739-8244 江中期;江戸の端・局女郎屋鶴屋主人、  
 俳人;1772几董「其雪影」入、  
 [小角力こずまぶが物荷ひ売 る師走哉](其雪影;巻尾387/下位の力士は年越の金を稼ぐ)  
 G2816 中二(ちゆうじ) ? - ? 俳人;1776樗良「誹諧 月の夜」入  
 [名月の出しほや至極めづらしき](月の夜;59/出しほは出始め)  
 L2873 忠武(ちゆうじ・ただつぐ?・内藤ないとう)?-? 江後期;幕臣?/中務少輔なかつかさのしょう、歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [いとどしく涙ぞ落つる月影のさえ行く秋の昔思へば](大江戸倭歌;雑1891)  
 仲治(仲二ちゆうじ) → 仲二(仲治なかじ・吉田、浄瑠璃作/人形遣) D 3 2 7 8  
 仲治(ちゆうじ・宮本/敷田) → 年治(としはる・敷田/吉松/宮本、神職/国学) N 3 1 4 3  
 仲次(ちゆうじ・片岡) → 正占(まさうら・片岡かたおか/平田、国学/神道) O 4 0 8 5  
 忠治(ちゆうじ・山田、仲胤ちゆうち) → 正修(まさなが・山田、医者/儒者) F 4 0 2 9  
 忠治(ちゆうじ・泉) → 忠治(ただはる・泉いずみ、歌人) 2 7 6 7  
 忠治(ちゆうじ・加藤) → 忠治(ただはる・加藤かとう、書肆/国学者) W 2 6 4 2  
 忠治(ちゆうじ・増田) → 徳枝(のりしげ・増田ますだ、藩士/和漢学) J 3 5 9 8  
 忠時(ちゆうじ) すべて → 忠時(ただとき)  
 忠次(ちゆうじ・ただつぐ・服部) → 一忠(かずただ・服部はつとり、小平太、武将) M 1 5 2 5  
 忠次(ちゆうじ・真幸) → 正心(せいしん・真幸まさき、書家) I 2 4 9 0  
 忠次(ちゆうじ・尼崎) → 忠次(ただつぐ・尼崎、俳人) U 2 6 0 2  
 忠次(ちゆうじ・松平/大須賀) → 忠次(ただつぐ・榊原、藩主/歌人) F 2 6 3 0  
 忠次(ちゆうじ・村上) → 影面(かげおも/かげおも・村上、藩士/国学者) B 1 5 9 7  
 忠次(ちゆうじ・石川) → 香山(こうざん・石川いしかわ、儒者/詩人) G 1 9 3 5  
 燾次(ちゆうじ・河田/大橋) → 陶庵(とうあん・大橋おおはし/河田、儒者) 3 1 8 9  
 忠治右衛門(忠次衛門ちゆうじえもん・久方) → 定静(さだきよ・久方、藩士/剣術家) I 2 0 1 3  
 忠七(ちゆうしち・中村) → 以貞(いいてい;字・中村なかむら、文筆家) H 1 1 9 7  
 忠七(ちゆうしち・小林) → 村水(そんすい・小林、研師/俳人) F 2 5 1 3  
 忠七(ちゆうしち・田中) → 信謹(さねもり・田中/若林、儒者/医) L 2 0 4 4  
 忠七(ちゆうしち・後藤) → 祐壮(すけまさ・後藤ごとう、藩校国学教授) I 2 3 5 2  
 忠七郎(ちゆうしちろう・朝倉/長坂) → 雲染斎(うんらんくさい・長坂、幕臣/狂歌/戯作) B 1 2 2 3  
 忠質(ちゆうしつ・近藤) → 忠質(ただかた/たださだ・近藤、文筆家) E 2 6 9 2  
 忠質(ちゆうしつ・松平) → 忠質(ただかた・松平まつだいら、幕臣/歌人) P 2 6 3 4  
 仲質(ちゆうしつ・国井) → 応文(おうぶん・国井くに、絵師) B 1 4 7 6  
 G2817 仲実(ちゆうじつ・加藤かとう、名;秀克、俊文男)?-? 江後期;寛政1789-1801頃の医者、  
 「鼎湖百聯」「内景真図」「金匱要略攷」「傷寒論攷」「傷寒六経志」「刪補膝子十四経」著、  
 [仲実(;字)の号] 青雲/述軒、

忠実(ちゆうじつ)上記以外すべて → 忠実(ただかね)

忠実(ちゆうじつ/ただかね・今村) → 活堂(かつどう・今村いまむら、詩人) N 1 5 5 7

忠実(ちゆうじつ/ただかね・加藤) → 謙斎(けんさい・加藤かとう、医者/詩文) B 1 8 8 2

忠次平(ちゆうじへい・小宅) → 采菊(さいきく・小宅おやけ、藩士/儒者) G 2 0 6 2

虫二房(ちゆうじぼう) → 紅塵(こうじん・伊藤、秋田商家/俳人) J 1 9 9 2

虫二房(ちゆうじぼう) → 五明(ごめい、吉川、秋田商家/俳人) D 1 9 9 3

虫二房(4世ちゆうじぼう) → 渭南(いなん・片岡かたおか、秋田俳人) B 1 1 0 5

虫二房(5世ちゆうじぼう) → 御風(ぎよふう・秋山、秋田藩士/俳人) H 1 6 5 5

虫二房(6世ちゆうじぼう) → 素山(そざん・会田、秋田藩士/俳人) J 2 5 7 8

中車(ちゆうしゃ・初世助高屋) → 宗十郎(そうじゅうろう・初世沢村、歌舞伎役者) 2 5 1 0

中車(ちゆうしゃ;俳名) → 高助(2世たかすけ・助高屋、歌舞伎役者) C 2 6 9 1

仲車(ちゆうしゃ・石井) → 鶴山(かくざん・石井いし、儒者) H 1 5 2 8

忠守(ちゆうしゅ・丹波) → 忠守(ただもり・丹波たんば、廷臣/医/歌人) F 2 6 9 4

忠守(ちゆうしゅ・角田) → 忠守(ただもり・角田つのだ、神職/暦学) R 2 6 0 4

忠寿(ちゆうじゅ・多) → 忠壽(ただのぶ・多おのお、楽人/日記) Q 2 6 4 0

忠受(ちゆうじゅ・西尾) → 忠受(たださか・西尾/酒井、藩主/絵画) U 2 6 3 1

忠樹(ちゆうじゅ・菊池) → 忠樹(ただき・菊池きくち/藤原、神職/国学) W 2 6 7 9

仲寿(ちゆうじゅ・三野) → 藻海(そうかい・三野みの、漢学者/詩文) 2 5 8 3

G2819 中洲(ちゆうしゅう・野田のだ、名;好古) 1691-1750<sup>60</sup> 和歌山藩士/儒者:多田場谷門、紀伊湊中洲に住、詩文を嗜む、「華陽詩話」「華陽文集」「中洲小草」著、「中洲先生遺稿」、  
[中洲(;号)の字/通称/別号]字;尚甫、通称;勘右衛門、別号;華陽/文恭

G2820 中洲(中州ちゆうしゅう・真勢/真瀬ませ、名;達富/達夫/達斎) 1754-1817<sup>64</sup> 尾張の易占家・卜筮家、易学;京の新井白蛾門、大阪淀屋橋で卜筮業開業;復古易を主唱、松井羅洲の師、「筮則」、「中洲易叢」「復古堂雑著」「周易象徴講義」「周易象義」「米相場高下論」「我言草」外著多数、  
[中洲(;号)の字/通称/別号]字;発貴/発賁、通称;彦右衛門、別号;復古堂

G2821 中洲(ちゆうしゅう・清水しみず、名;原) 1790-1867<sup>78</sup> 仙台藩士;大坂藩邸留守居役、儒詩;中井履修門、詩文が得意/篠崎小竹と親交、「清水中洲詩稿」著  
[中洲(;号)の字/通称/法号]字;士進、通称;弥三郎、法号;文厚

G2822 中洲(ちゆうしゅう・守屋もりや、名;成広) 1808-84<sup>77</sup> 仙台藩士;出入司、儒・詩文/書、「時事百律」著、  
[中洲(;号)の字/通称/別号]字;子勤、通称;四郎右衛門、別号;松園

G2823 中洲(ちゆうしゅう・三島みしま、名;毅、正昱まさあき男) 1830-1919<sup>90</sup> 備中窪屋郡中島村の里正の家に生、1845山田方谷門/52斎藤拙堂門/56備中松山藩に出仕/57昌平黻の佐藤一斎・安積良斎門、1859藩校有終館会頭;藩政参与/維新後司法省出仕、1851「周官図」54「探辺日録」著、1863「袖中日録」、「瓊浦筆談」「観風録」著、  
[中洲(;号)の字/通称/別号]字;遠叔、通称;広次郎/貞一郎、別号;桐南とうなん/絵莊かいそう

G2824 中洲(ちゆうしゅう・中島なかじま、名;杼/字;雉鳩しよきゅう) ?-? 江戸期武蔵大宮の神職、「武蔵国氷川神社祝詞」著

中洲(ちゆうしゅう・田辺) → 楽斎(らくさい・田辺/野中、藩儒) B 4 8 1 3

中洲(ちゆうしゅう・華岡) → 鹿城(ろくじょう・華岡はなおか、医者/清洲の弟) 5 2 9 4

中秋(ちゆうしゅう・谷口/韓) → 藍田(らんでん・谷口たにぐち、儒者/国事) D 4 8 0 7

中秋(ちゆうしゅう・上田) → 陸舟(りくしゅう・上田うえだ、藩士/儒者) 4 9 7 5

中秀(ちゆうしゅう・芝崎) → 直子(なおこ・芝崎しばさき/荷田、国学/歌) N 3 2 3 2

忠秀(ちゆうしゅう・惟宗/島津) → 忠秀(ただひで・惟宗これむね/島津、歌人) F 2 6 7 0

忠秋(ちゆうしゅう)すべて → 忠秋(ただあき)

忠周(ちゆうしゅう・松平) → 忠周(ただちか・松平まつだいら、藩主/歌人) Z 2 6 6 0

忠周(ちゆうしゅう・梅津) → 忠周(ただかね・梅津うめづ/藤原、国学者) P 2 6 4 2

忠周(ちゆうしゅう・内藤) → 忠周(ただちか・内藤ないとう/藤原、幕臣/歌) U 2 6 5 3

忠充(ちゆうじゅう・多) → 忠充(ただみつ・多おのお、楽人) Q 2 6 9 2

忠充(ちゆうじゅう/ただみつ・菊池) → 桐江(とうこう・菊池きくち、儒者) D 3 1 7 7

忠重(ちゆうじゅう)すべて → 忠重(ただしげ)

- 中洲漁叟(ちゅうしゅうぎょそう)→ かね延(兼延かねのぶ・おほ屋/大家、随筆家) C 1 5 9 5  
 忠肅(ちゅうしゅう・野田) → 忠肅(ただまさ/-のり・野田、国学者) F 2 6 6 1  
 忠肅(ちゅうしゅう・鳥居) → 忠肅(ただかた・鳥居とりい、藩主世嗣/歌) U 2 6 2 0  
 仲笏(ちゅうしゅう・宮本) → 茶村(ちやそん・宮本、儒者/庄屋/詩人) F 2 8 5 8  
 G2825 壬申道人(ちゅうしゅうとうじん)? - ? 1790「通俗忠義水滸伝」拾遺訳、岡島冠山の関係者  
 忠俊(ちゅうしゅん)すべて → 忠俊(ただとし)  
 忠春(ちゅうしゅん)すべて → 忠春(ただはる)  
 仲峻(ちゅうしゅん・石川) → 清賞(せいしょう・石川/鯉淵、藩士/儒者) I 2 4 8 2  
 G2826 忠淳(ちゅうじゅん;法諱) ? - ? 1496存 武蔵仙波仏蔵房の住天台僧、「四種三昧義案立」著、  
 「止観略大綱文集」編/「仏土義」著、1496「八教撰不」著、教訓「慈元抄」著(1510刊)  
 忠順(ちゅうじゅん・村上) → 忠順(ただまさ・村上、医者/国学・歌) F 2 6 8 6  
 忠順(ちゅうじゅん・伊奈) → 忠順(ただのぶ・伊奈いな、代官/河川工事/救民) K 2 6 4 7  
 忠順(ちゅうじゅん・高沢) → 忠順(ただより・高沢たかざわ、藩士/記録) R 2 6 4 2  
 忠順(ちゅうじゅん・奥村) → 忠順(ただのぶ・奥村おくむら、藩士/歌人) W 2 6 3 5  
 忠順(ちゅうじゅん・永田) → 忠順(ただより・永田ながた、儒者) R 2 6 4 4  
 忠順(ちゅうじゅん・高戸) → 忠順(ただのぶ・高戸たかど、庄屋/国学) Y 2 6 0 1  
 忠順(ちゅうじゅん・小栗おぐり) → 忠順(ただまさ・小栗上野介、幕臣/軍政) Q 2 6 8 5  
 忠順(ちゅうじゅん・金子) → 霜山(そうざん・金子、藩儒/藩政改革) B 2 5 6 2  
 忠順(ちゅうじゅん・中野) → 忠順(ただのぶ・中野なかの、藩士/書家) Y 2 6 6 2  
 忠順(ちゅうじゅん・吉松) → 龍菴(りゅうあん・吉松よしまつ、藩士/国学) M 4 9 5 3  
 忠純(ちゅうじゅん・鬼頭) → 忠純(ただすみ・鬼頭きとう、儒者) P 2 6 6 9  
 忠醇(ちゅうじゅん・大谷木) → 醇堂(じゅんどう・大谷木おおやぎ、儒者/随筆) K 2 1 3 4  
 仲順(ちゅうじゅん・中谷) → 梧庵(ごあん・中谷、栗本3世/俳人) H 1 9 0 6  
 G2827 中所(ちゅうじよ・村上むらかみ、名;勤/字;子慎)?-? 江後期播磨の儒者;岩垣竜溪門、赤穂藩儒、  
 1789「国字示蒙録」92「五倫談」、「中所詩文稿」、「中庸鬼神考」、「孟子温故録」著、天谷の父  
 冲所(ちゅうじよ・坂上) → 忠介(ちゅうすけ・坂上さかのうえ、儒者) G 2 8 4 8  
 中書(ちゅうじよ・岡) → 起雲(きうん;字・岡おか、儒者) J 1 6 6 3  
 中書(ちゅうじよ・神田/奥山) → 金陵(きんりよう・奥山おくやま、医者/詩文) S 1 6 1 5  
 中書(ちゅうじよ・津軽) → 儼淵(げんえん・津軽つがる、藩士/儒者) E 1 8 8 2  
 中書(ちゅうじよ・中村) → 中侖(ちゅうろん・中村、藩士/医/儒者) G 2 8 5 6  
 中書(ちゅうじよ・村田) → 光庸(みつもち・村田むらた、医者/国学者) K 4 1 7 6  
 中書(ちゅうじよ・三雲) → 仙嘯(せんしょう・三雲みくも、篆刻家) F 2 4 9 5  
 中書(ちゅうじよ・滝) → 松隠(しょういん・滝たき/赤松、儒・医者) G 2 2 8 1  
 G2828 仲舒(ちゅうじよ・中里なかざと、通称;新十郎)?-? 江後期幕臣/儒者;昌平黌に出仕、  
 間宮士信ことこのぶ・戸田氏徳うじのり・村井量令かずのりらと昌平黌蔵資料を分類整理;解題して編纂;  
 1823「編修地誌備用典籍解題」・28「記録解題」・「番外雑書解題」共編、1831「武成編」、  
 「幸太夫磯吉吹流レ候一件」「伊豆七島志髓」「近代玉葉一覽」著、「雪華集」編  
 G2829 中如(ちゅうじよ・諸葛もろくず、名;武)1804-4037 江後期江戸の儒者/詩/書、琴台の孫、  
 1833琴台「涵月楼詩存」編纂、「蔵春園小稿」著、  
 「題諸葛興卿中如庵遺稿」(親交のあった塩田随斎編)、  
 [中如(;号)の字/通称]字;興卿、通称;尚一郎  
 仲舒(ちゅうじよ、田沢) → 仲舒(なかのぶ・田沢、医者/歌人) F 3 2 1 3  
 中恕(ちゅうじよ;法諱・如心) → 如心(じょしん;道号・中恕、臨濟僧) M 2 2 4 8  
 忠如(ちゅうじよ/ただゆき・本多) → 壺山(こざん・本多、藩主/詩人) G 1 9 6 0  
 忠舒(ちゅうじよ・大久保) → 忠舒(ただのぶ・大久保、幕臣、趣味家) F 2 6 5 6  
 忠恕(ちゅうじよ・松平) → 忠恕(ただひろ・松平まつだいら、藩主) Q 2 6 7 0  
 忠恕(ちゅうじよ・戸田) → 忠恕(ただゆき・戸田、藩主) R 2 6 2 0  
 忠恕(ちゅうじよ・渡部) → 敬斎(けいさい・渡部、神職/俳人) F 1 8 6 7  
 忠恕(ちゅうじよ・岩田) → 夫山(ふざん・岩田いわた、書家) C 3 8 3 2  
 忠恕(ちゅうじよ・巖田) → 洲尾(しゅうび・巖田いわた、儒者/詩文) Y 2 1 2 5

- 忠恕(ちゆうじよ・鈴・鱸/鈴木)→ 椿亭(ちんてい・鈴木、幕臣/儒者/狂歌) K 2 8 9 1  
 忠恕(ちゆうじよ・大滝) → 新蔵(しんぞう・大滝おおたき、藩士/奉行) P 2 2 2 3  
 忠恕(ちゆうじよ・山中) → 幸忠(ゆきただ・山中やまなか、歌人) E 4 6 7 7  
 忠恕(ちゆうじよ・土田) → 忠恕(ただひろ・土田つちた、歌人) Y 2 6 3 0  
 忠恕(ちゆうじよ・橋野) → 輝珍(てるよし・橋野はしの、商家/国学) F 3 0 1 9  
 忠恕(ちゆうじよ・大久保) → 忠恕(たださと・大久保おおくぼ、旗本幕臣) U 2 6 8 6  
 忠恕(ちゆうじよ・本多) → 忠胤(ただたね・本多ほんだ、国学者) Z 2 6 4 6  
 忠恕(ちゆうじよ・益井) → 忠恕(なおすけ・益井ますい、藩校国学教授) O 3 2 7 8
- G2831 忠性(ちゆうじよう;法諱、号;石泉院、中御門[藤原]宗冬男)1289-135668 天台宗叡山僧;忠源門、  
 権大僧都/権僧正;後二条天皇御前僧、1317伏見上皇葬儀に参仕、二条派歌人、  
 1350(観応元)為世十三回忌和歌出詠、  
 勅撰5首;続千載(2073)風雅(1886)新千載(914/2097)新拾遺(1834)、  
 [世をうしと思ひたつともわが山のほかにはいかがすみぞめの袖](風雅;雑1886)
- G2832 中昇(ちゆうじよう;法諱・東江とうこう;道号)?-? 臨濟僧:東沼周暲[しゅうげん1391-1462]門、  
 1490周暲「流水集」編
- G2833 忠承(ちゆうじよう;法諱、九条政忠男)?-? 1563存 天台大僧正、山城毘沙門堂門跡、  
 1506後土御門院七回忌懺法参加(;法印)/1547梶井門跡応胤法親王に灌頂を授、  
 後奈良院七回忌懺法の導師、「御修法目録」/1545「御経供養表白」著
- 仲象(ちゆうじよう・川合) → 仲象(なかのり・川合、狂文作者) F 3 2 2 1  
 十郎右衛門(じゅうろうえもん・松平) 忠勝(ただかつ・松平、藩主後見/国老) P 2 6 3 8  
 忠勝(ちゆうじよう) すべて→ 忠勝(ただかつ)  
 忠昭(ちゆうじよう・葛上) → 忠昭(ただあき・葛上くずがみ/つたかみ、藩家老/地誌) P 2 6 0 8  
 忠照(ちゆうじよう・森) → 忠照(ただてる・森もり、歌) U 2 6 9 6  
 忠韶(ちゆうじよう・水野) → 忠韶(ただてる・水野、藩主/記録) P 2 6 9 3  
 忠韶(ちゆうじよう・塙) → 忠韶(ただつぐ・塙はなわ、国学者) F 2 6 3 1  
 忠升(ちゆうじよう・本多) → 忠升(忠敬ただたか・本多、藩主/儒詩) F 2 6 2 3  
 忠昌(ちゆうじよう・酒井) → 忠昌(ただはる・酒井さかい、浪人?/文筆家) Q 2 6 5 2  
 忠昌(ちゆうじよう) 上記以外→ 忠昌(ただまさ)  
 忠晶(ちゆうじよう・河上) → 忠晶(ただあき・河上/川上、藩士/儒) P 2 6 1 1  
 忠将(ちゆうじよう・島津) → 忠将(ただまさ・島津しまづ、武将/日記) Q 2 6 7 9  
 忠将(ちゆうじよう・赤坂/渡辺)→ 定斎(じょうさい・渡辺/赤坂、藩士儒者) J 2 2 1 0  
 忠章(ちゆうじよう・日置) → 忠章(ただあき・日置へき、藩老/領主/歌) Z 2 6 3 9  
 忠尚(ちゆうじよう・大久保)→ 忠尚(ただひさ・大久保、国学者) F 2 6 6 9  
 忠尚(ちゆうじよう・日置) → 忠尚(ただひさ・ただなお・日置へき/池田、藩老/画) Z 2 6 4 0  
 忠敏(ちゆうじよう・戸田) → 忠敏(ただたか・戸田、歌人) F 2 6 2 4  
 忠象(ちゆうじよう・九条) → 道房(みちふさ・九条/藤原、摂政/記録) C 4 1 4 2  
 注象(ちゆうじよう) → 注蔵(ちゅうぞう・沢井、歌伎作者) G 2 8 5 7  
 仲象(ちゆうじよう・川合) → 仲象(なかのり・川合、狂文作者) F 3 2 2 1  
 仲昭(ちゆうじよう) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7  
 仲章(ちゆうじよう・高階) → 仲章(なかあき・高階たかしな、廷臣/記録) D 3 2 0 6  
 仲章(ちゆうじよう/なかあき・本城)→ 素堂(そどう・本城、藩士/勤王派/処刑) K 2 5 2 6  
 仲章(ちゆうじよう・山本) → 道斎(どうさい・山本、医者/儒) E 3 1 4 5  
 仲昌(ちゆうじよう) → 仲昌(なかまさ、連歌) J 3 2 8 7  
 仲昌(ちゆうじよう/なかまさ・渡辺/内田)→ 陶丘(とうきゅう・内田うちだ、絵師) C 3 1 6 7  
 仲昌(ちゆうじよう・安部) → 仲昌(なかまさ・安部あべ、神職/歌人) K 3 2 7 1
- G2835 中将(ちゆうじよう、左大臣頼忠家女房)?-? 平安前期歌;977三条左大臣[頼忠]家前栽歌合参加、  
 [花の色は月影にだにさやけきをかがりびそへるほどをこそ見め](頼忠家前栽歌合;83)
- G2836 中将(ちゆうじよう・選子内親王家、斎院中将、源為理女/母;大江雅致女)?-? 平安期;女房歌人、  
 選子内親王(964-1035)家女房、中務なかつかさの姉、惟規[のぶり、?-1011]と恋、歌人、  
 勅撰3首;後拾遺851/千載969/玉葉262(;妹中務との贈答歌)、

[中務里にいではべりけるが けふ参るとのみ申すほどに、  
おまへの桜ちりはてぬべくなりにはればいひつかはしける、  
いかにせん見にもや来ると山桜またるる花も散りはてぬべき] (玉葉集; 二春262)  
返し(同家中務)、  
待ちつけてちりはてぬとも山桜しばしは庭をはらはざらなん] (同263)

参考 妹 → 中務(なかつかさ・選子内親王家) 3 2 1 0  
恋人 → 惟規(のぶり・藤原) C 3 5 6 7

G2837 中将(ちゅうじょう・上東門院じょうとうもんいんの、長樂寺中将、藤原道雅女)?-? 母:藤原宣孝女(少将尼)?、  
上東門院彰子[988-1074]の女房、歌人; 現存歌は殆ど長樂寺住の歌/三十六歌仙の1、  
勅撰; 後拾遺集5首; 66/92/344/1040/1110、  
[おもひやれかすみこめたる山里の花まつほどの春のつれづれ] (後拾遺; 66/長樂寺にて)  
道雅三位女と同一? → 道雅女(みちまさのむすめ・藤原、1051六条齋院歌合参) C 4 1 5 8

G2838 中将(ちゅうじょう・式子内親王[1149-1201]家)?-? 平安末期女房、歌人、  
平清経の恋人(建礼門院右京大夫集入)、前齋院女別当(藤原俊成女)と同一説あり、  
千載1237/風雅1461、  
[思ひとく心ひとつになりぬれば氷も水も隔てざりけり] (千載集; 十九积教1237)

G2839 中将(ちゅうじょう・土御門前齋院)?-? 平安末期:土御門齋院禎子内親王家女房、  
歌人; 千載集937(続詞花集に同じ歌入)、  
[としふれどうき身はさらにかはらじをつらさもおなじつらさなるらむ] (千載; 恋937、  
絶えて久しいが思い出し今はあだなることはないだろうと言うので詠む)、  
式子内親王家女房と同一か? → 中將(ちゅうじょう・式子内親王家) G 2 8 3 8

G2840 中将(ちゅうじょう・新陽明門院、高階宗成女)?-? 鎌倉期龜山天皇女御[1262-96]の女房、  
1300父宗成撰「遺塵和歌集」18首入、  
妹姉 → 兵衛佐(ひょうえのすけ・新陽明門院) F 3 7 1 0  
→ 成朝姉(なりとものおね、歌人) H 3 2 8 0

G2842 中将(ちゅうじょう・陽徳門院)?-? 後深草皇女陽徳門院嬬子内親王[1352没]家女房、  
歌人、新拾遺1363  
[我が袖に涙の滝ぞおちまさる人の憂き瀬を水上にして] (新拾遺集; 十五恋1363)  
中将(ちゅうじょう・永福門院、1303仙洞歌合参加)

→ 鐙子(しょうし、永福門院の隱名) 2 1 8 3  
中将(ちゅうじょう; 称) → 兼了(けんりょう; 法諱・実悟、真宗僧) M 1 8 9 7  
中丈(ちゅうじょう・朝日) → 一貫斎(いっかんさい・朝日あさひ、藩士/儒) G 1 1 8 5  
中城(ちゅうじょう・西島) → 城山(じょうざん・西島/牧野/牧、漢学者) J 2 2 3 7  
中常(ちゅうじょう・臼井) → 接伝(しょうでん、臼井うすい/平、神職) L 2 2 1 0  
仲襄(ちゅうじょう・春日) → 潜庵(せんあん・春日かすが/源、儒者/勤王) E 2 4 8 0  
忠常(ちゅうじょう)すべて → 忠常(ただつね)  
忠上(ちゅうじょう・水野) → 忠上(ただかみ・水野みずの、歌人) Z 2 6 7 5  
忠浄(ちゅうじょう・村上) → 忠浄(ただきよ・村上むらかみ、医者/歌) E 2 6 4 4  
仲繩(ちゅうじょう・高山) → 正之(まさゆき・高山彦九郎/勤王/紀行) I 4 0 2 7  
中正院(ちゅうしょういん) → 日護(にちご; 法諱・順性、日蓮僧) B 3 3 7 3  
中正院(ちゅうしょういん) → 日深(にちじん; 法諱・弁海、日蓮僧) C 3 3 5 3  
中正院(ちゅうしょういん) → 日存(にちぞん; 法諱、日蓮僧) C 3 3 7 4  
中正院(ちゅうしょういん) → 日友(にちゆう; 法諱・通心、日蓮僧) D 3 3 2 9  
中将学士(ちゅうじょうがくし; 号) → 房海(ぼうかい; 法諱、真言僧) 3 9 2 7  
中正子(ちゅうしょうし) → 円月(えんげつ; 法諱・中巖ちゅうがん、臨濟/五山文学) 1 3 9 4  
中常長(ちゅうじょうちやう) → 徳野(とくや・中川、揚屋角屋主人/俳人) L 3 1 5 0

G2843 中将尼(ちゅうじょうにに/-のあま、源清時女、高階明順あきより/-のぶの妻/成順の母)?-? 平安中後期歌人:  
匡衡集・赤染衛門・道綱母集入、後拾遺集1129/玄々集87、  
[そのかみの人は残らじ管崎の松ばかりこそわれを知るらめ] (後拾遺; 十九1129)  
(子供の頃父に同行した筑前に年経て子の成順[筑前守]を訪ねたときの歌)

- 中将君(ちゅうじょうのみ) → 忠家母(ただいえのは・藤原、懿子、女房/歌人) E 2 6 8 4
- G2844 中将更衣(ちゅうじょうのこうい、藤原修子/醍醐天皇妃、藤原伊衡女) ?-? 源為明の母、平安前期歌人：  
960天徳4年内裏歌合参加、延喜御集入(；醍醐天皇との贈答歌)、後撰集640、  
[けふ過ぎて死なましものを夢にてもいづこを墓と君がとはまし](後撰集；十恋640)  
(退出していた時に帝の文が来たときの答歌)
- G2845 中将内侍(ちゅうじょうのないし、小野好古の妻) ?-? 平安前期女房歌人、後撰集956、  
[憎からぬ人の着せけん濡衣ぬれぬは思ひにあへず今乾きなん](後撰；956/好古への返歌)  
(浮気に嫉妬する妻に、好古「目も見えず涙の雨のしぐるれば身の濡衣は干るよしもがな」  
中宮内侍と同一? → 中宮内侍(ちゅうぐうのないし) → 宣旨(せんじ・中宮) F 2 4 6 9
- 中将掌侍(ちゅうじょうのないし) → 房子(ふさこ・高野たかの、女官/日記) C 3 8 0 4
- 中将御息所(ちゅうじょうのみやすどころ) → 周子(しゅうし/ちかこ・源、醍醐天皇更衣/歌) H 2 1 5 1
- D2882 中将の乳母(ちゅうじょうのめのと) ?- ? 平安中期；藤原詮子(東三条院)家の女房、  
1000嬬子内親王(ひしなひしのう(一条天皇皇女/母；中宮定子)の乳母、1008内親王9歳で没、  
陽明門院禎子内親王(1013-94)の乳母(栄花物語入)、歌人、玄々集入、  
[立ち上る雲となりにし君ゆゑに月ぞうき世の影とのみ見る]  
(栄花物語：たまのかざり；禎子の母妍子(けんし)の葬送の哀傷歌)
- 中条兵庫頭入道(ちゅうじょうひょうごのかみにゅうどう) → 盛徳(もりなり・藤原、廷臣/歌学) G 4 4 2 2
- 中将房(ちゅうじょうぼう) → 月照(げつしょう；字、法相僧/尊攘活動) B 1 8 0 6
- 中書王(ちゅうしやおう)：中務卿に任ぜられた親王/古典では次の親王たちが該当する  
→ 兼明親王(かねあきらみのう、醍醐帝皇子914-987) 1 5 2 8  
→ 具平親王(ともひらみのう、村上帝皇子964-1009) Q 3 1 3 9  
→ 宗尊親王(むねたかしのう、後嵯峨帝皇子1242-74) 4 2 0 5
- 忠職(ちゅうしよく・多) → 忠職(ただもと・多おの、楽人) R 2 6 0 0
- 忠四郎(ちゅうしろう・柴田) → 虚白(きよはく・柴田しばた、俳人) Q 1 6 1 6
- 忠四郎(ちゅうしろう・岡島) → 石梁(せきりょう・岡島/岳/河野、藩儒/詩) D 2 4 9 7
- 忠四郎(ちゅうしろう・杉本) → 剛斎(こうさい・杉本/杉、藩士/医/教育) I 1 9 8 5
- 忠四郎(ちゅうしろう・今大路) → 方基(まさもと・今大路/奈須/橋、医者) H 4 0 9 1
- G2846 忠次郎(ちゅうじろう・吉雄よしお、名；永宜/宜、左七郎男) 1787-1833 47 肥前長崎の阿蘭陀通詞、  
1809小通詞末席在任中に英語・露語兼学を拝命、1823天文台詰通詞；江戸出府、  
1824英国船の常陸大津来航時に応接通弁/26シーボルト江戸参府に通訳；長崎帰郷、  
シーボルトの翻訳を援助；高橋景保と連絡/1830シーボルト事件に連座；羽前米沢藩お預；同地客死、  
「駱駝考」著、「諳厄利亞人性情志」訳、  
[忠次郎(；通称)の字/号]字；永民、号；吳洲/吳州、法号；還到院
- 忠次郎(ちゅうじろう・森/清原) → 雄風(おかせ・清原・森、医者/歌) 1 4 3 2
- 忠次郎(ちゅうじろう・西川) → 正休(せいきゅう・西川、天文暦学/幕臣) B 2 4 0 0
- 忠次郎(ちゅうじろう・森川) → 安範(やすのり・森川/上月/源、国学・神道家) C 4 5 6 4
- 忠次郎(ちゅうじろう・石野) → 広明(ひろあきら・石野いしの/中原、幕臣/歌) I 3 7 2 5
- 忠次郎(ちゅうじろう・和田) → 白鯉館卯雲(2世はくりかんぼううん、幕臣/狂歌) E 3 6 0 6
- 忠次郎(ちゅうじろう・達磨屋/二三屋) → 活東子(かつとうし・岩本/萩原、書肆/伝記) C 1 5 4 8
- 忠次郎(ちゅうじろう・美濃屋/武藤) → 正道(まさみち・武藤、商家/国学) H 4 0 4 3
- 忠次郎(ちゅうじろう・岡本) → 花亭(かてい・岡本おかもと、幕臣/詩人) C 1 5 5 7
- 忠次郎(中時楼ちゅうじろう・岡本) → 眞古(まふる・岡本、郷土史家) K 4 0 1 0
- 忠次郎(ちゅうじろう・平田) → 白雄(しろお・加舎かや、名；吉春、俳人) 2 2 1 4
- 忠次郎(ちゅうじろう・今村) → 竹堂(ちくどう・今村、儒者/家塾教育) D 2 8 5 9
- 忠次郎(ちゅうじろう・山村) → 良喬(たかてる・山村やまむら、藩代官/俳人) M 2 6 3 4
- 忠次郎(ちゅうじろう・志筑) → 忠雄(ただお・志筑しづき/中野、蘭学者) E 2 6 8 5
- 忠次郎(ちゅうじろう・鬼頭) → 忠純(ただすみ・鬼頭きとう、儒者) P 2 6 6 9
- 忠次郎(ちゅうじろう・久松) → 定愷(さだたか・久松/菅原、幕臣/日記) I 2 0 3 4
- 忠次郎(ちゅうじろう・小谷) → 古蔭(ふるかげ/ひさかげ・小谷こたに/おたに、歌人) E 3 8 6 5
- 忠次郎(ちゅうじろう・橋本) → 素孝(そこう・橋本はしもと、俳人) J 2 5 7 0

忠次郎(ちゅうじろう・植木/杉)→ 孫七郎(まごしちろう・杉/植木、藩士/日記) 4 0 7 2  
 忠次郎(ちゅうじろう・高橋)→ 三朝(さんちよう・高橋たかはし、俳人) M 2 0 6 2  
 忠次郎(ちゅうじろう・奥宮)→ 燧斎(そうさい・奥宮、儒者/国学/歌) B 2 5 5 8  
 忠二郎(ちゅうじろう・岸) → 信之(のぶゆき・岸さし、儒者) 3 5 6 6  
 忠二郎(ちゅうじろう・松井)→ 宗瑞(3世そうざい・松井まつい、俳人) I 2 5 1 3  
 忠治郎(ちゅうじろう・田辺)→ 元智(もとさと・田辺たなべ/源、藩士/歌) K 4 4 3 3  
 仲二郎(ちゅうじろう・中村)→ 惕斎(てきさい・中村/仲邨なかむら、儒者) B 3 0 8 8  
 仲次郎(ちゅうじろう・星野)→ 清重(きよしげ・星野ほしの/新倉、神職/国学) V 1 6 1 4

2817 中津(ちゅうしん;法諱・絶海ぜつかい;道号、初道号;要関、俗姓;津野) 1336-1405 70 土佐津野の禅僧;  
 上京し天竜寺入、臨濟:夢窓疎石・春屋妙葩・義堂周信門、1366-77入明;季潭全空門、  
 1378帰国;80甲斐恵林寺開山/92相国寺6世/義満の庇護;98天下僧録/幕府の外交参画、  
 義堂周信と五山文学の双璧、詩に秀でる、「絶海録」「文格秘要集」著、  
 1403「蕉堅藁しょうけんこう」「絶海和尚語録」、「絶海国師偈頌」著

[絶海中津の号]蕉堅子/蕉堅道人、諡号;仏智広照国師/浄印戩聖じょういんよくせい国師

冲信(ちゅうしん・羽川) → 珍重(ちんちよう・羽川はねかわ、絵師) K 2 8 8 9  
 中心(ちゅうしん・内藤) → 中心(なかご・内藤、国学/歌人) D 3 2 6 3  
 中信(ちゅうしん・狩野) → 董川(とうせん・狩野かのう、奥絵師) T 3 1 4 1  
 中森(ちゅうしん・八木) → 美樹(よしき・八木やぎ、美穂男/国学者) D 4 7 1 0  
 忠岑(ちゅうしん・壬生) → 忠岑(忠峯ただみね・壬生みぶ、廷臣/歌人) 2 6 3 4  
 忠臣(ちゅうしん・島田/嶋田)→ 忠臣(ただおみ・島田/嶋田、廷臣/詩人) 2 6 2 4  
 忠臣(ちゅうしん・菅野) → 忠臣(ただおむ・菅野すがの、廷臣/歌人) P 2 6 2 9  
 忠親(ちゅうしん・中山) → 忠親(ただちか・中山/堀河/藤原、廷臣/故実) 2 6 2 6  
 忠親(ちゅうしん・上野) → 忠親(ただちか・上野、藩士/郷土史家) F 2 6 2 7  
 忠親(ちゅうしん・藤沢) → 忠親(ただちか・藤沢ふじさわ、和算家) P 2 6 8 3  
 忠親(ちゅうしん・関) → 忠親(ただちか・関せき、藩執政/国学) X 2 6 7 8  
 忠真(ちゅうしん・酒井) → 忠真(たださね・酒井さかい、藩主/歌人) 2 7 5 2  
 忠真(ちゅうしん・大久保) → 忠真(たださね・大久保おおくぼ、藩主/詩歌) F 2 6 0 9  
 忠辰(ちゅうしん・細川) → 忠利(ただとし・細川ほそかわ、藩主/連歌) Q 2 6 0 4  
 忠辰(ちゅうしん・内藤) → 忠辰(ただとき・内藤、和算家) Q 2 6 0 1  
 忠辰(ちゅうしん・牧野) → 忠辰(ただとき・牧野まさの、藩主/国学) Z 2 6 4 9  
 忠進(ちゅうしん・酒井) → 忠進(ただゆき・酒井さかい、藩主/家訓) R 2 6 1 5  
 忠震(ちゅうしん・岩瀬) → 忠震(ただなり・岩瀬/設楽、幕臣/詩画) Q 2 6 3 7

G2847 忠尋(ちゅうじん;法諱、源忠季男) 1065-1138 74 天台叡山僧/顕教;覚尋・長豪門、密教;良祐門、  
 洛北曼殊院住/叡山西塔北谷東陽房住/1130天台座主46世/1137大僧正(兼法務)、  
 日本天台恵心流の碩学/今昔物語作者説の1、「覚心集」「漢光類聚」「相伝義集」「雑々集」、  
 「天台法門名決集」、1120「無縫目」21「天台宗秘決要集」/26「法華五部書」「深義綱目鈔」外著多、  
 歌;続詞花集入、

[心かけたりけるわらわのふみをかりて侍りける つかはすとて、

ふみわけてかかるばかりになりけり物思ふ人の宿のにはくさ](続詞花;恋539)

[忠尋の通称] 東陽房座主/大谷座主、皇覚・順耀・瑜伽・観照らの師

L2871 忠陣(ちゅうじん・田中たなか) ? - ? 江中後期;紀伊和歌山藩士、田中延裕と同族?、  
 歌;本居大平撰「八十浦の玉」下巻下1005-06;紀伊鷲森の松の長歌入、  
 [老松の末吹く風のかぜの音もあなすがすがし神の大前](八十浦の玉;反歌1006)

仲仁(ちゅうじん・森) → 忠義(ただよし・森もり、藩士/記録) R 2 6 3 2  
 忠蓋(ちゅうじん→ただえ・酒井) → 忠明(ただあきら・酒井さかい/源、藩主) U 2 6 0 5  
 忠仁公(ちゅうじんこう) → 良房(よしふさ・藤原) 4 7 2 5  
 長水(ちゅうすい・平瀬) → 光雄(みつお・平瀬、弓術家) D 4 1 1 3

G2848 忠介(衷助ちゅうすけ・坂上さかのうえ、名;恒、佐平男) 1818-90 73 長州萩の口羽家家臣/儒者;中村牛莊門、  
 主家の嗣子口羽徳祐と江戸に出て安積良斎・羽倉用九門、漢詩文を修得、1855帰郷、  
 1857藩校明倫堂教授、62江戸藩邸内有備館教授、維新後1877前原一誠の乱に連座;服獄、

出獄後京の堀川で開塾、1865「杷山遺稿」編、「詩集」著、

[忠介(；通称)の号] 作東/寓所/作楽山樵/冲所

- 忠助(ちゆうすけ/ただすけ・原田) → 復初(ふくしよ・原田はらだ、儒者) B 3 8 5 7  
忠助(ちゆうすけ・田代) → 簡齋(かんか・田代たしろ、家老/儒者) Q 1 5 0 2  
忠助(ちゆうすけ・中村) → 忠亭(ちゆうてい・中村、藩士/儒者) G 2 8 6 4  
忠助(ちゆうすけ・本間) → 素当(もとまさ・本間ほんま/樋口、藩士/歌) 4 4 2 2  
忠助(ちゆうすけ・佐藤/金沢屋) → 解記(げき・佐藤さとう、商家/和算家) G 1 8 8 6  
忠助(ちゆうすけ・井上) → 成熙(とむひろ・井上いのうえ/中村、農業/歌) U 3 1 0 6  
忠助(ちゆうすけ・片山) → 尚彦(ひさひこ・片山かたやま貫道、絵師/神職) J 3 7 0 5  
忠助(ちゆうすけ・須原屋) → 夢中楽輔(ゆめなかのらくすけ、狂歌作者) G 4 6 1 2  
忠助(ちゆうすけ/ただすけ・弘) → 通光(みちみつ・弘ひろ、和洋算家/教育) C 4 1 6 4  
忠介(ちゆうすけ・岡崎) → 槐陰(かいいん・岡崎おかざき、儒者) I 1 5 3 7  
忠介(仲助ちゆうすけ・曾谷) → 学川(がくせん・曾谷そだに、儒者/詩/篆刻) E 1 5 8 8  
仲介(ちゆうすけ・大井) → 漁隠(ぎょいん・大井おおい/平、藩士/文筆) N 1 6 1 0  
仲助(ちゆうすけ・森) → 樅堂(しょうどう・森もり、儒者) R 2 2 6 3  
仲助(ちゆうすけ・南部) → 麿男(みかお・南部なんぶ、勤王家) H 4 1 3 9

G2849 忠清(ちゆうせい) ? - ? 大阪の俳人；之道門、

1690之道「江鮭子あめご」6句入(七吟歌仙5句/発句1句)、

[秋風や横にふかれて渡し舟](あめ子；発句201)

L2863 忠制(ちゆうせい・永野ながの/本姓；源、名；たださだ？/ただすけ?) ?-? 江後期；歌人、藩士？

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[秋風の吹くにつけても身のうさを思ひ知らるる袖の夕露](大江戸倭歌；恋1523)

- 忠清(ちゆうせい) 多く → 忠清(ただきよ)  
忠精(ちゆうせい) すべて → 忠精(ただきよ)  
忠生(ちゆうせい・中村) → 春彦(はるひこ・中村なかむら、神職/歌人) I 3 6 8 0  
忠正(ちゆうせい・速水) → 忠正(ただまさ・速水はやみ/藤原、歌人) U 2 6 2 7  
忠正(ちゆうせい → ただまさ・大久保) → 忠寛(ただひろ・大久保おおくぼ、一翁/幕臣) U 2 6 3 9  
忠正(ちゆうせい・内藤) → 忠正(ただまさ・内藤ないとう、幕臣/和学) Y 2 6 4 7  
忠成(ちゆうせい) 多く → 忠成(ただなり) または 忠成(ただしげ) or 忠成(ただあきら)  
忠成(ちゆうせい・大江) → 忠成(ただなり/ただしげ・大江、廷臣/歌人) F 2 6 4 6  
忠成(ちゆうせい・祝部) → 忠成(ただなり/ただしげ・祝部ほうりべ/はふりべ、神職/歌人) 2 6 2 9  
忠成(ちゆうせい・栗田口) → 忠成(ただなり・栗田口あわたぐち、廷臣/歌) F 2 6 4 8  
忠成(ちゆうせい・水野) → 忠成(ただあきら・水野みずの、老中/日記) F 2 6 4 4  
忠成(ちゆうせい・山根) → 忠成(ただしげ・山根やまね、藩士/俳人) P 2 6 5 9  
忠成(ちゆうせい・春名) → 忠成(ただなり・春名はるな、読本作者) F 2 6 4 9  
忠成(ちゆうせい・水無瀬) → 実徳(さねのり・園池/藤原/水無瀬、廷臣) L 2 0 2 4  
忠成(ちゆうせい・村田) → 春野(はるの・村田むらた、国学者) G 3 6 6 8  
忠成(ちゆうせい・岡部) → 尹里(いんり・岡部おかべ、俳人) E 1 1 7 1  
忠成(ちゆうせい・渡辺) → 国頭(くにあきら・杉浦すぎうら、神職/国学) 1 7 1 7  
忠成(ちゆうせい・中垣) → 謙斎(けんさい・中垣なかがき、藩士/儒者) I 1 8 9 7  
忠成(ちゆうせい・神子田) → 虎光(ここう・神子田みこだ、砲術/俳人) M 1 9 4 2  
忠成(ちゆうせい・並川) → 忠成(ただなり・並川なみかわ/中川、国学者) Y 2 6 7 4  
忠成(ちゆうせい・原) → 伍軒(ごけん・原はら、藩士/儒者/幕臣) G 1 9 5 1  
忠成(ちゆうせい・春名) → 忠成(ただなり・春名はるな、読本作者) F 2 6 4 9  
忠成(ちゆうせい・本庄) → 忠成(ただなり・本庄ほんじょう/源、国学/歌) Z 2 6 4 3  
忠成(ちゆうせい・南部) → 麿男(みかお・南部なんぶ、勤王家) H 4 1 3 9  
忠盛(ちゆうせい・内藤) → 忠盛(ただもり・内藤ないとう/藤原、幕臣/歌) Y 2 6 4 9  
忠晴(ちゆうせい・松平) → 忠晴(ただはる・松平まつだいら、藩主) Q 2 6 5 0  
忠晴(ちゆうせい・堀尾) → 忠晴(ただはる・堀尾/高階、藩主/記録) F 2 6 6 4  
忠晴(ちゆうせい・諏訪) → 忠晴(ただはる・諏訪すわ、藩主/詩人) F 2 6 6 5

- 忠征(ちゆうせい・尾崎) → 忠征(ただゆき・尾崎、藩士/国事奔走) R 2 6 1 9  
 忠世(ちゆうせい・内藤) → 忠世(ただよ・内藤ないとう、藩家老/俳人) R 2 6 2 2  
 忠世(ちゆうせい・杉田) → 忠世(ただつぐ・杉田すぎた、藩士/国学/歌) X 2 6 7 0  
 忠政(ちゆうせい・大久保/土岐) → 忠政(ただまさ・大久保/土岐、幕臣) T 2 6 7 3  
 忠誠(忠成ちゆうせい・永田) → 西河(せいか・永田ながた、儒者・書家) H 2 4 5 3  
 忠誠(ちゆうせい・諏訪) → 忠誠(ただまさ・諏訪すわ、藩主/神職/歌) U 2 6 9 1  
 中正(ちゆうせい・長崎) → 浩斎(こうさい・長崎、医/蘭学/詩) I 1 9 9 4  
 中世(ちゆうせい・伊部) → 中世(なかよ・伊部いべ、藩士/国学) L 3 2 1 0  
 中清(ちゆうせい・雛田) → 中清(なかきよ・雛田ひなだ、神職/国学/歌) L 3 2 1 6  
 中聖(ちゆうせい・なかのひじり) → 智得(ちとく; 法諱、時宗3代遊行上人) F 2 8 0 2  
 仲成(ちゆうせい・上森) → 坦斎(たんさい・上森うわもり、医者/儒者) T 2 6 4 9  
 仲静(ちゆうせい・柳田) → 正斎(しょうさい・柳田やなぎだ、書家) J 2 2 0 6  
 忠誠院(ちゆうせいいん) → 良雄(よしお/よしたか・大石し、家老/討入) C 4 7 3 6  
 忠正公(ちゆうせいこう) → 敬親(たかちか・毛利もうり/大江、藩主/維新推進) D 2 6 0 0  
 中正斎(ちゆうせいさい・谷) → 安殷(やすしげ・谷たに、商家/歌人) G 4 5 2 5  
 中正子(ちゆうせいし/ちゆうしゅうし) → 円月(えんげつ・中巖ちゅうがん、臨濟/五山文学) 1 3 9 4  
 中聖人晦所(ちゆうせいじんかいしょ) → 確斎(かくさい・武内、絵本作者) E 1 5 6 8  
 忠靖先生(ちゆうせいせんせい) → 景山(けいざん・堀ほり/修姓; 屈、儒者/医) 1 8 5 7  
 中正叟(ちゆうせいそう) → 円月(えんげつ・中巖、臨濟/五山文学) 1 3 9 4  
 忠誠磨(ちゆうせいまる・曲直瀬) → 是盛(よしもり・曲直瀬まなせ/和氣/六人部、医/勤王) H 4 7 7 1
- G2850 仲昔(ちゆうせき) ? - ? 京の俳人、1649立圃「花月千句」入  
 仲錫(ちゆうせき・山本) → 錫夫(せきぶ; 字・山本、医者/本草家) K 2 4 4 4  
 柱碩(ちゆうせき・佐藤) → 馬耳(ばに・佐藤さとう、本陣役人/俳人) E 3 6 3 6  
 忠説(ちゆうせつ・日下部) → 忠説(ただとき・日下部くさかべ、武士/連歌) F 2 6 3 6  
 忠節(ちゆうせつ・多) → 忠節(ただとき・多おの、雅楽/歌人) 2 7 7 7  
 忠節(ちゆうせつ・竹村) → 梅隠(ばいん・竹村たけむら、詩歌/紀行) 3 6 5 5  
 忠宣(ちゆうせん・西村) → 貞堯(さだたか・西村にしむら、歌人) I 2 0 3 6  
 仲千(ちゆうせん・秋山) → 広富(ひろとみ・秋山あきやま、農業/藩士/歌) L 3 7 9 6  
 仲宣(中宣ちゆうせん) → 橋庵(きつあん・田宮、洒落本/随筆) I 1 6 6 4  
 仲選(ちゆうせん・木下/円山) → 応拳(おうきよ・円山まるやま/藤原・源、絵師) 1 4 4 6  
 仲遷(ちゆうせん・矢倉) → 安々(やすさだ・矢倉やぐら、商家/歌人) G 4 5 9 2
- G2851 中善(ちゆうぜん) ? - ? 伊勢山田の俳人; 1633重頼「犬子集」1句入  
 [波のあや織るや柳の糸ぞろへ](犬子集; 一258)
- G2852 仲善(ちゆうぜん・高橋たかはし、甚助男) 1799-1854<sup>56</sup> 羽前山形の和算家; 父門/江戸の辻正賢門、  
 1824最上流斎藤尚仲の塾に入学/尚仲の後継として子弟教育、1845上山藩算術師範役、  
 「天生法用術」編、「算法天生法」「天生法輪違術」「得諸角甲斜算顆術」著、  
 [仲善(; 名)の通称/法号]通称; 甚五郎/甚三郎/吉右衛門、法号; 积精道
- G2853 忠漸(ちゆうぜん・村井/邨井むらい、修姓; 村、名; 漸) 1708-97<sup>90</sup> 肥後熊本の儒者; 西依成斎門、  
 京で儒医、和算; 中根彦循門、書画を嗜む、1763「逢原新率鉤股法」/68「脱竄術」「脱子術」、  
 1770「開商点兵算法」、「点竄術分合術」「開方翦管」「三器徴」「算法演段図解録」外著多数、  
 [忠漸(; 字)の旧名/号]旧名; 原田秀固、号; 平柯/痴道人/邱壑外史きゅうがくがいし
- G2854 忠漸(ちゆうぜん・竹林たけやし) ?-? 江後期大阪の和算家: 福田金塘門、  
 1843「算題雑解前集」編  
 忠善(ちゆうぜん/ただよし・大久保) → 漣々(初世れんれん・大久保、俳人) B 5 1 3 5  
 忠善(ちゆうぜん・青木) → 忠善(ただよし・青木あおき/藤原、歌人) U 2 6 7 5  
 忠善(ちゆうぜん・西尾) → 忠善(ただよし・西尾にしお/牧野、藩主) Y 2 6 0 5  
 忠宣公(ちゆうせんこう; 諡) → 直正(なおまさ・鍋島なべしま、藩主/詩歌) C 3 2 4 7  
 仲素(ちゆうそ・柚木) → 綿山(めんざん・柚木ゆのき、眼科医/儒者) 4 3 4 7  
 仲素(ちゆうそ・柚木) → 太淳(たいじゆん・柚木ゆのき、綿山男/医者) K 2 6 2 9
- G2855 中叟(ちゆうそう; 道号・良鑑; 法諱) 1354-1437<sup>84</sup> 南北室町期; 臨濟僧; 南海宝洲門; 法嗣、

東福寺96世/南禅寺124世、「南海和尚伝」著

- G2856 **中俣**(ちゅうそう・中村なかむら、菴こう/元恒、伯先[淡斎]男)1778-1851<sup>74</sup> 信濃高遠の儒者;父門、坂本天山・木沢天童門/上京;経史;猪飼敬所門、古医方;中西鷹山・吉田専意門、高遠藩儒兼藩医/開塾;藩教育の中心、1849事に連座;伊那郡黒河内に配流、古文書蒐集、1829「信濃奇談」30「月夜はなし」33「箕輪記」40「古方標的」、「甲陽故事談」「傷寒論句解」著、「傷寒名数解通義」、「信源記」「信源記続」「真田内伝」「木曾志略」「伊奈史略」「伊奈古道記」、「室町通紀」「遊駿志」「中俣詩集」「文園得意」「桃窓隨筆」著、「落原拾葉」「落原拾葉目録」編、[中俣(;号)の字/通称/別号]字;子成/大明、通称;紋弥/中書、別号;九一亭/落原翁ろげんおう/不用舎、元鑑・黒水父
- 冲巢(ちゅうそう・牝ひん) → 米仲(べいちゅう・岡田、俳人) 2 7 7 1  
忠総(ちゅうそう・大久保/石川) → 忠総(ただふさ・石川/大久保、藩主/記録) B 2 6 8 4  
忠相(ちゅうそう・大岡) → 忠相(ただすけ・大岡おおおか、幕臣/日記) F 2 6 1 9  
忠宗(ちゅうそう) すべて → 忠宗(ただむね)
- G2857 **注蔵**(注象ちゅうそう・沢井さわい)?-? 江中期江戸の歌舞伎作者、藤本斗文立作の2枚目、1757中村座の立作者;すぐに2枚目に降格/74狂言方の作者、1757「女武者帰陣屋嶋」、1758「寿相生羽衣」「木毎花相生鉢木」「時津風入船曾我」「錦木栄小町」外著多数
- G2858 **忠蔵**(ちゅうぞう・柳川やながわ)?- 1810 江戸の歌舞伎作者:初世増山金八門、1792江戸河原崎座作者/初世福森久助の世話で修業/1798三枚目/1804引退/菓子店経営、1799「大三浦達寿」1800「庚申若櫓鼓」番付/1803初世治助「幡随長兵衛精進俎板」番付、[柳川忠蔵(;号)の通称/別号]通称;左司馬、別号;卜賀、法号;刹誉浄安卜賀信士
- L2870 **忠蔵**(ちゅうぞう・中西なかにし/長崎)1796?-? 1857存 江後期;武家;加賀金沢藩家老奥村家の家臣、初め長崎市助を名告る/文政(1818-30)中頃江戸昌平黌に修学;切手同心の中西家を継嗣、1836(天保7)頃木活字による出版を始め20数種を刊行/のち整版出版も行う版元、「拙修齋叢書」(頼山陽・中井竹山・尾藤二洲らの著作集)編・刊行(拙修は忠蔵の号)、1857(安政4)松平斉貴なりたけ「鐘岱愛鷹之記」画賛(藤邦基名)、58蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[君が代は四方に恵のあづさ弓いづれの国かなびかざるべき](大江戸倭歌;雑2017)、[忠蔵(;通称)の名/字/号]名;邦基くにもと、初通称;市助、字;伯基、号;拙修
- G2859 **中蔵**(ちゅうぞう・小石こいし、名;紹、元瑞男)1817-94<sup>78</sup> 京の蘭方医:父門、儒;頼山陽・坪井信道門、1841家督/49種痘所有信堂開設、「医旨」「寿徴発微」「生齒論」「行齋日記」「晚山楼隨筆」、[中蔵(;通称)の字/号]字;君厥、号;缸齋こうさい/蘭屋/蓬岐行齋/晚山楼
- G2860 **忠三**(ちゅうぞう・奈河ながわ)?-? 江後期1861-68頃大阪の歌舞伎作者、1863「阿妻土産恋錦絵」67「噂聞恋定紋」著
- 中蔵(ちゅうぞう・岩瀬) → 尚庵(しょうあん・岩瀬いわせ、藩士/儒者) F 2 2 0 0  
中蔵(ちゅうぞう・小野) → 済(せい・小野おの、国学・歌人/陶芸) O 2 4 0 2  
冲蔵(ちゅうぞう・原) → 狂斎(きょうさい・原はら、儒/折衷学) C 1 6 4 9  
忠三(ちゅうぞう・尾中) → 善秀(よしひで・尾中おなか、村長/国学) L 4 7 9 1  
忠増(ちゅうぞう・新納) → 忠増(ただます・新納にいり、武将/日記) Q 2 6 8 6  
忠造(ちゅうぞう・藤井) → 信平(のぶひら・藤井ふじい、神職/国学/歌) J 3 5 8 8  
忠蔵(ちゅうぞう・片山) → 北海(ほっかい・片山かたやま、儒者/詩人) 3 9 7 1  
忠蔵(ちゅうぞう・太田) → 教品(たかしな・太田、藩士/兵学/古学) M 2 6 0 9  
忠蔵(ちゅうぞう・宮村) → 貞幹(ていかん・宮村みやむら、儒者/教育) 3 0 4 6  
忠蔵(ちゅうぞう・中井) → 鰲庵(しゅうあん・中井なかい、心学者) 2 1 4 0  
忠蔵(ちゅうぞう・鳥居) → 瀬兵衛(せべえ・鳥居、藩士) L 2 4 4 3  
忠蔵(ちゅうぞう・伊藤) → 東所(とうしよ・伊藤、儒者) F 3 1 1 8  
忠蔵(ちゅうぞう・永原) → 南山(なんざん・永原ながはら、儒者) J 3 2 0 4  
忠蔵(ちゅうぞう・香川) → 南浜(なんびん・香川かがわ、儒者) J 3 2 3 7  
忠蔵(ちゅうぞう・大島) → 贅川(しせん・大島、儒者/藩儒) U 2 1 1 5  
忠蔵(ちゅうぞう・駒井) → 白水(はくすい・駒井こまい、儒者;南浜門) D 3 6 4 3  
忠蔵(ちゅうぞう・曾谷) → 学川(がくせん・曾谷そだに、儒者/詩/篆刻) E 1 5 8 8  
忠蔵(ちゅうぞう・林) → 立斎(りつさい・林はやし、儒者) B 4 9 8 4

忠蔵(ちゆうぞう・杉坂) → 百明(ひやくめい・杉坂すぎさか、俳人) 3 7 1 3  
 忠蔵(ちゆうぞう・関) → 克明(かつあき・関せき、書家/儒者) N 1 5 2 0  
 忠蔵(ちゆうぞう・関) → 雪江(せつこう・関せき、克明の孫/儒者/書家) E 2 4 2 3  
 忠蔵(ちゆうぞう・堀内) → 素堂(そどう・堀内ほりのうち、藩医/蘭医/儒) K 2 5 2 0  
 忠蔵(ちゆうぞう・高階) → 場谷(ようこく・高階/高/渡辺、詩人) 4 7 8 2  
 忠蔵(ちゆうぞう・川合) → 元(げん・川合かわい、儒者) H 1 8 5 3  
 忠蔵(ちゆうぞう・吉田/塚原) → 鰲岐(ごうき・吉田/吉、儒者/歌) I 1 9 2 3  
 忠蔵(ちゆうぞう・中村) → 黒水(くすい・中村なかむら、藩士/儒者) G 1 9 4 9  
 忠蔵(中蔵ちゆうぞう・伊良子) → 大洲(たいしゅう・伊良子いらこ/伊良、儒者) K 2 6 1 8  
 忠蔵(ちゆうぞう・野口) → 正忠(まさただ・野口のぐち、商家/歌人) R 4 0 4 7  
 忠蔵(ちゆうぞう・岡部) → 以忠(以礼ゆきただ・岡部、藩士/執政) E 4 6 7 6  
 忠蔵(ちゆうぞう・村上) → 正雄(まさお・村上むらかみ、藩士/国学者) T 4 0 0 8  
 忠蔵(ちゆうぞう・根岸) → 宣教(のぶり・根岸ねぎし、国学/歌人) J 3 5 5 3  
 忠蔵(ちゆうぞう・肥田) → 政信(まさのぶ・肥田ひだ、藩士/国学) S 4 0 0 5  
 仲則(ちゆうそく・市川) → 松筠(しょういん・市川、幕臣/兵学者) G 2 2 8 4  
 忠則(ちゆうそく・小林) → 忠則(ただのり・小林こばやし、国学/歌人) X 2 6 0 1  
 綱足(ちゆうそく・勝部) → 眞楯(またて・勝部かつべ/佐々木、国学者/神職) O 4 0 9 1  
 忠続(ちゆうぞく・喜入) → 忠続(ただつぐ・喜入きいれ、武将/家老/歌) W 2 6 7 1

L2829 忠村(ちゆうそん・吉田よしだ) ? - ? 江前期上方の俳人、  
 1673西鶴「生玉万句」第四郭公発句入、  
 [をしみ鳴くやしはん棒の津ほとゝぎす](生玉;発句/しは[わ]ん棒;吝齋漢;けちん坊、  
 棒に薩摩の坊の津を掛る)

忠太(ちゆうた・椿) → 椿山(ちんざん・椿つばき、幕臣/兵学/絵師) K 2 8 7 4  
 忠太(ちゆうた・小島) → 省斎(せいさい・小島こじま、儒者/藩政) B 2 4 6 1  
 忠太(ちゆうた・鈴木) → 至易(よやす・鈴木すぎき、藩士/和漢学) H 4 7 8 3  
 忠太(ちゆうた・三浦) → 義従(よつぐ・三浦みうら、藩士/歌人) P 4 7 3 0  
 仲太(ちゆうた・本庄) → 適所(てきしょ・本庄/本荘ほんじょう、儒者) B 3 0 9 9  
 稠朶(ちゆうだ・岡部) → 盛賢(もりかた・岡部おかべ、和算家) F 4 4 3 1

2818 中諦(ちゆうたい;法諱・観中かんちゅう;道号、諡号;性真円智禅師、俗姓;日奉) 1342-1406<sup>65</sup> 阿波臨濟僧、  
 1350(9歳)天竜寺夢窓疎石門/鎌倉の諸師に参禅/1373入元;黄巾乱で帰国/阿波補陀寺住持、  
 京等持寺住寺/1400相国寺9世、密教・俱舎・唯識にも精通、「碧巖抄」、「観中和尚語録」著

忠泰(ちゆうたい・高城/大島) → 忠泰(ただやす・大島/島津/高城、武将/日記) R 2 6 0 5  
 忠泰(ちゆうたい・大久保) → 忠泰(ただやす・大久保おおくぼ、幕臣/国学) W 2 6 1 0  
 忠泰(ちゆうたい・佐藤) → 忠泰(ただやす・佐藤さとう、藩校総裁/国学) X 2 6 2 5  
 忠岱(ちゆうたい・伊藤) → 鹿里(ろくり・伊藤いとう、儒者/巷説) B 5 2 1 7

G2861 中台(ちゆうだい・細井ほそい/初姓;宇野、名;徳昌/徳勝)?-? 細井平洲の養子、江後期江戸の儒者:  
 平洲門/家継承、江戸市ヶ谷外山に住、1835平洲「嚶鳴館遺稿」編纂、  
 [中台(;号)の字/通称/別号]字;世克、通称;藤助/清三郎/主税ちから、別号;中堂

中台(ちゆうだい・橋本) → 稻彦(いなひこ・橋本、国学者) D 1 1 9 2  
 中台(ちゆうだい/中台翁) → 保寿(ほうじゅ・河原/小河原、商家/書) B 3 9 2 9

G2862 中沢(仲沢ちゆうたく・佐々木ささき、弥左衛門男) 1790-1846<sup>57</sup> 陸中西磐井郡上黒沢村生、  
 父は村の肝煎、医者/漢方;建部由水門/蘭方;1815江戸大槻玄沢門、蘭学;馬場貞由門、  
 漢学;佐藤一斎・安積良斎門、1822仙台藩医学館助教;蘭学・外科担当/女囚を解剖/25致仕、  
 以後診療と訳術に専念/詩文書画を嗜む、1822「天行病医療則」、「解体存真図腋」著、  
 「林子平伝」「八刺精要」「蘭岨先生試験方大略」「迎春館遺稿」「蘭岨先生遺稿」著、  
 [中沢(;通称)の幼名/名/字/号]幼名;養三/養三郎、名;知芳/知方、字;仲蘭/国春、  
 号;蘭岨らんぐ

仲卓(ちゆうたく・高井) → 中斎(ちゅうさい・高井たかい、儒者/教育) G 2 8 0 6

G2863 仲達(ちゆうたつ・馬場はば、名;克昌) 1785-1868<sup>84</sup> 幕臣;1812家督/39筑前守/57西丸御留守居/62隠居、

本草学; 設楽貞丈門/画; 増島雪齋門、1837 関東・伊豆・八丈島巡察、自邸に舶来植物栽培、  
 富山藩主前田利保主唱の博物同好会〔楮鞭しゃべん会〕の同人、1844「舶上花譜」著、  
 1853「群英類聚図譜」、「群英譜」など著、歌人; 1858 蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [いく春も朽ちぬ名をこそしのぼるれあだに散り行く花を見るみも]、  
 (大江戸倭歌; 雑1904)、

[仲達( ; 字)の通称/号]通称; 大助/大佐/筑前守、号; 資生/資生圃、法号; 竜雲院

中達(ちゆうたつ; 法諱)	→	九巖(きゅうがん; 道号・中達、臨濟僧)	M 1 6 4 2
仲達(ちゆうたつ・神野)	→	呉山(ござん・神野、俳人)	M 1 9 6 5
仲達(ちゆうたつ・富野)	→	義胤(よしたね・富野とみの/香川、医者)	E 4 7 3 6
仲太夫(ちゆうだゆう・真山)	→	雲外(うんがい・真山まやま、和漢学者)	E 1 2 8 8
忠太夫(ちゆうだゆう・曾根)	→	貫山(はいざん・曾根、藩士/俳人)	B 3 6 2 9
忠太夫(ちゆうだゆう・大内)	→	熊耳(ゆうじ・大内おうち/余、儒者)	C 4 6 1 9
忠太夫(ちゆうだゆう・戸田)	→	忠敏(ただたか・戸田、藩政改革/歌人)	F 2 6 2 4
忠太夫(ちゆうだゆう・白石)	→	千別(ちわき・白石/小野、幕臣/歌人)	K 2 8 5 3
忠太夫(ちゆうだゆう・久保寺)	→	正福(まさとみ・久保寺、幕臣/和算家)	E 4 0 5 8
忠太夫(ちゆうだゆう・寺門)	→	義周(よしちか・寺門てらかど、藩士/和算家)	E 4 7 6 0
忠太夫(ちゆうだゆう・首藤)	→	三蔭(みかげ・首藤すどう、藩士/歌人)	J 4 1 3 1
忠太夫(ちゆうだゆう・小林)	→	延孝(のぶたか・小林こばやし/度会/出口、神職/国学)	I 3 5 4 1
忠太夫(ちゆうだゆう・浜)	→	保臣(やすおみ・真木まき、神職/勤王家)	B 4 5 0 9
忠太郎(ちゆうたろう・浜; 変名)	→	保臣(やすおみ・真木まき、神職/討幕)	B 4 5 0
忠太郎(ちゆうたろう・柳田/森寺)	→	美郷(よしさと・森寺もりでら/柳田、歌人)	D 4 7 4 6
忠太郎(ちゆうたろう・小山)	→	進(すすむ・小山こやま/山本、神職/国学)	I 2 3 4 9
沖澹(ちゆうたん・中林)	→	竹洞(ちくどう・中林、絵師/儒詩/歌)	D 2 8 6 0
忠知(ちゆうち・榎倉/二見)	→	忠知(ただとも・二見ふたみ、神職/連歌)	M 2 6 0 6
忠知(ちゆうち・小笠原)	→	忠知(ただとも・小笠原おがさわら、城主)	Q 2 6 1 2
忠知(ちゆうち・生原)	→	忠知(ただとも・生原いくはら、俳人)	F 2 6 5 2
忠知(ちゆうち・神野)	→	忠知(ただとも・神野かんの、俳人)	F 2 6 4 2
忠知(ちゆうち・榊原)	→	忠知(ただとも・榊原さかきばら、幕臣/国学)	X 2 6 3 8
忠知(ちゆうち・豊田)	→	忠知(ただとも・豊田、藩士/茶人)	Q 2 6 1 9
忠知(ちゆうち/ただとも・布能)	→	文谷(ぶんこく・布能ふの、酒造業/俳人)	F 3 8 2 4
忠知(ちゆうち・横山)	→	忠知(ただちか・横山よこやま、幕臣/船奉行)	P 2 6 8 1
忠知(ちゆうち・前田)	→	忠知(ただとも・前田まえた、文筆家)	Q 2 6 1 5
忠知(ちゆうち・青山)	→	忠朝(ただとも・青山あおやま、藩主)	V 2 6 0 8
忠致(ちゆうち・梅津)	→	忠致(ただむね・梅津うめづ、藩家老/軍学者)	Q 2 6 9 7
仲胤(ちゆうち・山田、忠治)	→	正修(まさなが・山田、医者/儒者)	F 4 0 2 9
忠儔(ちゆうちゆう・小原/穂井田)	→	忠友(忠儔ただとも・穂井田/大江/小原、歌人/考証)	2 6 2 7
忠籌(ちゆうちゆう・本多)	→	忠籌(ただかず・本多ほんだ、藩主/改革)	P 2 6 3 0
仲猪(ちゆうちよ・堀)	→	陳斯(のぶのり・堀ほり、和算家)	C 3 5 7 8
仲聴(ちゆうちゆう・長利)	→	仲聴(なかあきら・長利おさり、神職/歌人)	L 3 2 5 3
仲暢(ちゆうちゆう・馬淵)	→	仲暢(なかのぶ・馬淵まぶち、藩士/年譜編集)	F 3 2 1 2
忠長(ちゆうちゆう)すべて	→	忠長(ただなが)	
忠朝(ちゆうちゆう・青山)	→	忠朝(ただとも・青山あおやま、藩主)	V 2 6 0 8
忠朝(ちゆうちゆう・藤原)	→	忠朝(ただとも・藤原ふじわら/岡田、商業/歌)	W 2 6 2 8
忠澄(ちゆうちゆう・加々爪)	→	忠澄(ただずみ・加々爪かがつめ、幕臣)	P 2 6 6 7
忠澄(ちゆうちゆう・伊木)	→	忠澄(ただずみ・伊木いぎ/土倉、藩家老/歌)	V 2 6 4 0
釣潮子(ちゆうちゆうし)	→	如見(怒見じよけん・西川/源、暦算家)	C 2 2 4 0
忠直(ちゆうちよく)すべて	→	忠直(ただなお)	
仲直(ちゆうちよく・山本)	→	亡羊(ぼうよう・山本やまもと、医者/本草家)	C 3 9 6 5
仲直(ちゆうちよく・小野)	→	樸翁(れきおう・小野おの、農業/歌人)	5 1 0 8
仲直(ちゆうちよく・住友)	→	友善(ともよし・住友すみとも、金融業/歌)	Q 3 1 9 9

- 忠陳(ちゆうちん・田中) → 忠陳(ただのぶ・田中、藩士/国学者) Q 2 6 3 9  
 忠陳(ちゆうちん/ただのぶ・細野) → 要斎(ようさい・細野/藤原、藩士/儒/地誌) 4 7 9 8  
 忠珍(ちゆうちん・加倉井) → 松山(しょうざん・加倉井かくらい、医/儒者) S 2 2 5 2  
 忠珍(ちゆうちん・山路) → 忠珍(ただたか・山路やまち、国学/歌人) U 2 6 6 1  
 忠通(ちゆうつう・藤原) → 忠通(ただみち・藤原、撰関/歌人/書) 2 6 3 3  
 忠通(ちゆうつう・内藤) → 忠通(ただみち・内藤ないとう、幕臣/和学者) Y 2 6 4 8  
 忠通(ちゆうつう・水野) → 忠通(ただゆき・水野、幕臣/歌人) F 2 6 9 9  
 仲通(ちゆうつう・岡島) → 石梁(せきりょう・岡島/岳/河野、藩儒/詩) D 2 4 9 7
- G2864 忠亨(ちゆうてい・中村なかむら、名;持実/正尊) 1723-95 73 熊本藩士/儒:大塚退野門、  
 1780「人倫大意」、1782/86「肥後孝子伝」/87「孝経賤ヶ枝折」、「何余漫筆抄」「サトシ草」著、  
 [忠亨(;号)の通称/別号]通称;忠助、別号;感斎、法号;即成院  
 中諦(ちゆうてい;法諱) → 中諦(ちゆうたい;法諱・観中、臨濟僧) 2 8 1 8  
 忠鼎(ちゆうてい・水野) → 忠鼎((ただかね・水野みずの/源/浅野、藩主/歌) U 2 6 0 8  
 池有亭(ちゆうてい) → 眞邦(まくに・佐倉さくら/水野、神職/歌) P 4 0 8 0  
 忠迪(ちゆうてき・堀内) → 適斎(てきさい・堀内ほりのうち、医者) B 3 0 9 5  
 忠貞(ちゆうてい)すべて → 忠貞(たださだ)  
 忠定(ちゆうてい・中山/藤原) → 忠定(たださだ・中山なかやま、廷臣/歌人) F 2 6 0 6  
 忠定(ちゆうてい・花山院/藤原) → 忠定(たださだ・花山院、廷臣/記録/歌) P 2 6 4 7  
 忠定(ちゆうてい・たださだ・多) → 忠行(ただゆき・多おの、楽人) R 2 6 1 4  
 仲鼎(ちゆうてい・北条/永根) → 伍石(ごせき・永根ながね/北条、書/篆刻) M 1 9 8 7
- G2865 仲徹(ちゆうてつ・中徹ちゆうてつ;字・菅かん、名;亨、菅由益男) ?-? 江前期1673-88頃京の儒者;父門、病弱、  
 1679「本朝蒙求」編  
 中徹(ちゆうてつ・生島) → 中徹(なかとお・生島いくしま/岩崎、歌人) L 3 2 1 1  
 忠徹(ちゆうてつ・原田) → 忠徹(ただとお・原田はらだ、旗本家臣/歌) Z 2 6 1 2  
 仲天(ちゆうてん・武田) → 琴亭(きんてい・武田たけだ、儒者/卜筮) R 1 6 4 7  
 仲天(ちゆうてん・九里) → 正長(まさなが・九里くのり、藩士/歌の研究) F 4 0 1 9  
 冲夫(ちゆうてん・児島) → 宗説(そうせつ・児島こじま、藩の医者) I 2 5 2 2  
 冲天(ちゆうてん・谷) → 麩山(びざん・谷たに、儒者/詩人) 3 7 0 6  
 中殿(ちゆうてん) → 超清(ちようしやう、紀、社僧/歌人) I 2 8 9 0  
 忠田(ちゆうてん・玉井) → 養純(ようじゆん・玉井たまゐ、医者/儒者) B 4 7 2 1  
 忠都(ちゆうと・本多) → 忠寛(ただひろ・本多ほんだ、藩主) Q 2 6 7 2  
 忠統(ちゆうとう) → ただむね・本多 → 猗蘭(いらん・本多忠統、藩主/詩歌) B 1 1 9 3  
 忠冬(ちゆうとう・松平) → 忠冬(ただふゆ・松平、幕臣/記録編纂) F 2 6 8 0  
 忠讜(ちゆうとう・酒井) → 忠讜(ただなお・酒井さかい、藩主/歌) U 2 6 1 7
- G2866 中道(ちゆうどう;法諱・別法諱;了融、俗姓;清水) 1812-73 62 越前吉田郡下森田の真宗光臨寺の生、  
 宗学;興隆門/華厳;僧朗門/性相;宝雲門、本学の学林で修学、1841下総寶満寺住職/62司教、  
 1868遣喚院の賜号/70勸学、「唾笑語」「華厳五教章筆記」1859「蘇漫多八轉声炉話」、  
 [中道の号] 昨非庵、賜号;遣喚院
- G2867 冲堂(ちゆうどう・片山かたやま、恬斎てんさい男) 1816-88 73 讃岐高松藩士/儒;父門/昌平黌出/古賀茶溪門、  
 高松藩儒;政庁講道館助教、維新後拔擢され参政試輔、高松に私塾盖簪社設立;子弟教育、  
 「喘余録」「中元竹枝」「平賀源内伝」著、「日涉園叢書」編、  
 詩文に長ず;「六石亭詩文抄」「詠石小詩集」著、  
 [冲堂(;号)の名/字/通称/別号]名;達、字;元章、通称;直造なおぞう、  
 別号;六石りくせき/六石陳人  
 父 → 恬斎(てんさい・片山信成、養和堂/儒者) D 3 0 4 7  
 忠同(ちゆうどう・太秦/多) → 忠同(ただとも・多おの/太秦、楽人) Q 2 6 1 7  
 中道(ちゆうどう・千葉) → 葛野(かどの・千葉/大蔵屋、国学/歌) 1 5 7 1  
 中堂(ちゆうどう・細井) → 中台(ちゆうだい・細井/宇野、儒者) G 2 8 6 1  
 中導(ちゆうどう・金子) → 霜山(そうざん・金子、藩儒/藩政改革) B 2 5 6 2

- 仲導(ちゅうどう・伊藤) → 蘭齋(らんさい・伊藤いとう、藩儒者/詩人) C 4 8 1 6  
 忠道(ちゅうどう)すべて → 忠道(ただみち)  
 中道院(ちゅうどういん) → 日春(にっしゅん;法諱・秀感、日蓮僧) E 3 3 1 3  
 中道院(ちゅうどういん) → 日栖(にっせい;法諱、中道院、日蓮僧) E 3 3 6 1  
 中堂謙山(ちゅうどうけんざん;号) → 謙山(けんざん・中堂、儒者) J 1 8 2 3  
 中道房(ちゅうどうぼう;号) → 聖守(しょうしゅ;法諱、真言僧) S 2 2 8 5  
 忠篤(ちゅうとく)すべて → 忠篤(ただあつ)  
 忠徳(ちゅうとく・本多) → 忠徳(ただのり・本多ほんだ、藩主/藩校設) Q 2 6 4 7  
 忠徳(ちゅうとく・島津) → 忠義(ただよし・島津しまづ、藩主/日記) R 2 6 3 9  
 忠徳(ちゅうとく・桃/桃井) → 西河(せいか・桃井/桃/脇坂、藩儒/詩) 2 4 7 9  
 忠徳(ちゅうとく・酒井) → 忠徳(ただのり/ただあり・酒井、藩主/歌/俳) F 2 6 6 2  
 忠徳(ちゅうとく・松平) → 忠周(ただちか・松平まつだいら、藩主/歌人) Z 2 6 6 0  
 忠徳(ちゅうとく・水野) → 忠徳(ただのり・水野みずの、幕臣/外交) Q 2 6 4 6  
 忠督(ちゅうとく・大久保) → 忠督(ただまさ・大久保おおくぼ、藩士/国学) W 2 6 0 9  
 仲徳(ちゅうとく・林) → 文筋(ぶんせつ・林はやし、医者) F 3 8 9 7  
 仲徳(ちゅうとく・横山) → 潤(じゅん・横山よこやま、本草家) 2 1 8 4  
 仲徳(ちゅうとく・多賀谷) → 酔雪(すいせつ・多賀谷たがや、幕臣/絵師) E 2 3 7 7  
 忠敦(ちゅうとん・松しょう;修姓) → 松忠敦(しょうちゅうとん、儒者) U 2 2 2 0
- G2868 中曇(ちゅうどん;法諱・一瑞いちずい;道号)?-? 室町前期臨濟僧:鎌倉円覚寺58世曇芳周応門/法嗣、  
 鎌倉円覚寺108世、「貞和集抄」「東山外集抄」著
- G2869 中納言(ちゅうなごん、美濃守藤原基貞女、源頼綱妻、仲政の母)?-? 平安期小一条院女房/源麗子女房、  
 ☆小一条院敦明親王女の中納言女王と同一か?  
 → 中納言女王(ちゅうなごんのじょう、源式部、歌人) G 2 8 7 7
- G2870 中納言(ちゅうなごん、藤原基貞女、中納言君)?-? 平安期藤原師実もろさね[1042-1101]の妻(妾)、歌人、  
 経実・能実よしざねの母、1094[師実]高陽院七番歌合・96中宮権大夫[息子能実]歌合に参加、  
 栄花物語布引に入、藤原公実の妻(実隆/実行の母)と姉妹、  
 [いはしろの結べる松に降る雪は春もとけずやあらんとすらむ](高陽院七番;左方43)
- G2872 中納言(ちゅうなごん・妙光寺みょうこうじ内大臣家)?-? 南朝の花山院家賢(妙光寺内大臣)家の女房、  
 家賢男の長賢と恋、歌人、新葉4首;743/909/922/1056、  
 [歎きわびぬる夜の夢に見えつるはかへす衣の関守やなき](新葉集;十二恋743)  
 中納言(ちゅうなごん・承香殿) → 承香殿中納言(じょうきやうでんのちゅうなごん、歌人) G 2 2 0 9  
 中納言(ちゅうなごん・建春門院) → 俊成女(としなりのおすめ、健御前、1157-?1219存) 3 1 4 8  
 中納言(ちゅうなごん・尚侍家・後嵯峨院) → 親子(しんし、鎌倉期典侍) E 2 2 3 5  
 中納言(ちゅうなごん・待賢門院) → 待賢門院中納言(たいけんもんいんの、1142出家) B 2 6 3 3  
 中納言大伴卿(ちゅうなごんおおともきやう) → 旅人(たびと・大伴、廷臣/歌人) 2 6 4 8  
 中納言阿闍梨(ちゅうなごんのあじやり) → 日伝(にちでん;法諱、日蓮僧) C 3 3 9 0  
 中納言君(ちゅうなごんのみ) ;3名(うち勅撰歌人は中納言女王)  
 → 中納言女王(ちゅうなごんのじょう、小一条院女) G 2 8 7 7  
 → 中納言(ちゅうなごん、藤原基貞女、仲政母) G 2 8 6 9  
 → 中納言(ちゅうなごん、藤原基貞女、経実・能実母) G 2 8 7 0  
 中納言女王(ちゅうなごんのみ) → 中納言女王(ちゅうなごんのみ、小一条院女) G 2 8 7 7  
 中納言新阿闍梨(ちゅうなごんの新あじやり) → 存覚(ぞんかく;号・光玄、真宗僧) E 2 5 7 1
- G2873 中納言典侍(ちゅうなごんのみこと・二条院にじょういん)?-? 平安末期二条天皇に出仕の女房/院没後御所に住、  
 歌人、藤原惟方と贈答:玉葉2404、  
 [かきくらす涙ばかりを友としてかくれし月をこひぬよぞなき](玉葉;2404;惟方へ返歌)
- G2874 中納言典侍(ちゅうなごんのみこと・伏見院ふしみいん、日野俊光女)?-? 伏見天皇出仕の女房/花山院家雅の妻、  
 冬雅の母、京極派歌人、1297八月十五夜歌合参/玉葉2首;1507/1762、日野名子の伯母、  
 名子めい「竹むきが記」に入、花山院師賢の室・後伏見院中納言典侍の姉妹、  
 兄弟に資名・資朝・資明・賢俊ら、  
 [君ゆゑにしづまん後の世をぞ思ふかくて命のたえもはてなば](玉葉集;恋1507)

- G2875 **中納言典侍** (ちゅうなごんのすけ・後伏見院ごふしみいん、民部卿典侍、日野俊光女)?-? 鎌倉末期女房、後伏見天皇に出仕、歌人、玉葉1864(新院中納言典侍の名)・風雅4首;533/773/1265 花山院師賢の室・伏見院中納言典侍と姉妹、兄弟に資名・資朝・資明・賢俊ら [霧わけて秋はこしちの天つ雁かへる雲井もまたかすむなり](玉葉;春歌1864;新院名)
- 中納言典侍 (ちゅうなごんのすけ・後嵯峨院) → 親子(しんし・藤原、光俊女/歌人) E 2 2 3 5
- 中納言典侍 (ちゅうなごんのすけ・院) → 中納言典侍 (ちゅうなごんのすけ・伏見院) G 2 8 7 4
- 中納言典侍 (ちゅうなごんのすけ・新院) → 中納言典侍 (ちゅうなごんのすけ・後伏見院) G 2 8 7 5
- 中納言典侍 (ちゅうなごんのすけ、日野資名女) → 竹向(たけむき、西園寺実俊母、日記) 2 6 2 2
- 中納言僧正 (ちゅうなごんのそうじょう) → 実瑜(じつゆ;法諱、真言僧/歌人) F 2 1 1 8
- 中納言大僧都 (ちゅうなごんのだいそうず) → 澄俊(ちようしゅん;法諱、天台僧/歌人) I 2 8 8 2
- 中納言局 (ちゅうなごんのつぼね) → 冷泉(れいぜい・花園院はなぞのいんの、典侍/歌) 5 1 4 5
- 中納言得業 (ちゅうなごんのとくぎょう) → 宗顕(そうけん;法諱、華嚴学僧) H 2 5 0 3
- G2876 **中納言内侍** (ちゅうなごんのないし)?-? 平安期上東門院彰子に出仕の女房?、歌人、1032上東門院菊合参加(伊勢大輔・小弁・弁乳母・五節らと)、 [みるままに色のまさるは菊の花千代まで咲けと霜ぞ置くらし](上東門院菊合;五番左9)
- G2877 **中納言女王** (ちゅうなごんのによおう、小一条院敦明親王女/母;源光清女の源式部)?-? 平安中期歌人、中納言藤原通任の猶子;中納言と称す、歌;1094前関白師実家歌合参加、1104俊忠歌合参加、寂超「後葉ごよう集」・続詞花集入、勅撰4首;後拾遺(298)金葉(118/286)千載(48)、 [人知れずものや思ふ秋萩のねたるがほにて露ぞこぼるゝ](後拾遺;298、萩の垂れる様を擬人化/寝たそぶりで涙を流す恋の歎き)、 [山桜匂ふあたりの春霞風をばよそにたちへだてなん](続詞花;春42)、 ☆藤原基貞女の中納言[源頼綱の妻/源仲正の母]と同一説あり
- 中納言(ちゅうなごん、藤原基貞女) G 2 8 6 9
- 中納言法印 (ちゅうなごんのほういん) → 快元(かいげん;法諱、真言僧) I 1 5 5 9
- 中納言法印 (ちゅうなごんのほういん) → 房玄(ぼうげん;法諱、真言僧) F 3 9 1 1
- 中納言法印 (ちゅうなごんのほういん) → 乗雅(じようが;法諱、真言僧/歌人) F 2 2 7 6
- 中納言法印 (ちゅうなごんのほういん) → 頼印(らいいん;法諱、真言僧正/歌人) 4 8 1 5
- 中納言法印 (ちゅうなごんのほういん) → 静明(じようみょう;法諱、天台僧/臨濟禅法) L 2 2 6 7
- 中納言法印 (ちゅうなごんのほういん) → 覚為(かくい;法諱、天台僧/歌人) B 1 5 3 4
- 中納言法印 (ちゅうなごんのほういん) → 明禅(みょうぜん;法諱、天台僧/浄土教) G 4 1 5 2
- 中納言律師 (ちゅうなごんのりっし) → 堯盛(ぎょうせい・ぎょうしゅう、歌人) C 1 6 7 3
- 中納言律師 (ちゅうなごんのりっし) → 堯真(ぎょうしん;法諱、真言僧/連歌) O 1 6 1 1
- 中納言律師 (ちゅうなごんのりっし) → 忠快(ちゅうかい;法諱、平教盛男/天台僧) F 2 8 8 4
- G2878 **中南** (ちゅうなん・平賀ひらが/土生はぶ、名;叔明/晋民、木原九郎左衛門男) 1722-9271 土生八兵衛の養子、安芸忠海の儒者;独学で経書を読む;豊田郡本郷に開塾、養父没後養子に家督を譲渡、生家の本姓平賀を名告る、徂徠学;1762肥前の大潮元皓門、長崎で唐音を修得、1768上京;青蓮院法親王宮に文学・大舎人として出仕、大阪で開塾、1775「経伝折衷」著、1776「逸史」79「学問捷徑」81「唐詩選夷考」85「大学発蒙」、「日新堂集」詩経原志、「論語集義」「孟子発蒙」「備後賀島記」「蕉窓自筆」「蕉窓寓筆」「平賀中南先生詩文稿」外著多、 [中南(;号)の字/通称/別号]字;子亮/士亮/房父、通称;惣右衛門/図書ずよ、別号;果亭、諡号;好古先生
- M2890 **智祐尼** (ちゆうに) 1752 - 181766 近江犬上郡の歌人、彦根藩主井伊直中の嫡男直清の乳人、歌;[彦根歌人伝・鶴]入
- 忠式(ちゅうじ・内藤) → 忠式(ちゅうじ・内藤ないとう、歌人) L 2 8 7 3
- 忠任(ちゅうにん・高木) → 忠任(ただたね・高木、幕臣/薬草園) P 2 6 7 8
- 忠任(ちゅうにん・水野) → 忠任(ただとう・水野みずの、藩主) P 2 6 9 6
- 仲任(ちゅうにん・恩田) → 蕙楼(けいろう・恩田おんだ、藩士/儒者) 1 8 9 7
- 忠仁公(ちゅうにんこう) → 良房(よしふさ・藤原ふじわら、摂政/歌人) 4 7 2 5
- 仲寧(ちゅうねい・原) → 伍軒(ごけん・原はら、藩士/儒者/幕臣) G 1 9 5 1

仲寧(ちゆうねい・植木) → 無窮(むきゆう・植木うえき、詩人) 4 2 4 0  
 仲能(ちゆうのう・荒木田) → 仲能(なかよし・荒木田あらかだ、神職/歌人) P 3 2 6 2  
 仲能(ちゆうのう・藤原) → 仲能(なかよし・藤原/田村/亀谷、幕臣/歌) G 3 2 3 3  
 忠能(ちゆうのう・浅井) → 忠能(ただのり・浅井/橋、幕臣/歌人) G 2 6 0 6  
 忠能(ちゆうのう・星野) → 忠能(ただよし・星野ほしの/藤原、歌人) G 2 6 0 3  
 忠能(ちゆうのう→ただよし・江里川) → 瀧廼本千丈(たきのももちたけ、幕臣/狂歌) N 2 6 8 9

G2879 忠之丞(ちゆうのじよう・北田きただ、名;貞雄、政右衛門男)?-? 陸奥八戸藩士:1746家督/物書見習、  
 目付所用書/右筆/1779勘定頭、農政;安藤昌益門、86隠居/89剃髪;友山と号す、  
 「天明凶歳録」「成卯凶年録」著、

[忠之丞(;通称)の別通称/号]別通称;久米次郎/貞右衛門/市右衛門、号;友山、  
 忠之進(ちゆうのしん・市川) → 梅客(ばいかく・市川/福原、幕臣/儒者) 3 6 8 5  
 忠之進(ちゆうのしん・安部) → 勝貞(かつさだ・安部あべ/山県、藩士) T 1 5 3 2  
 忠之進(ちゆうのしん・阿部) → 隆貞(たかさだ・阿部あべ、神職) V 2 6 0 2  
 忠之進(ちゆうのしん・林) → 保綱(やすつな・林はやし、酒造業/歌人) G 4 5 4 5  
 儔之進(ちゆうのしん・大道寺) → 繁禎(しげさだ/しげよし・大道寺だいどうじ、藩家老/歌) Z 2 1 2 6  
 仲漢(ちゆうばく・山崎) → 蘭洲(らんしゅう・山崎やまさき、藩医) C 4 8 5 8  
 囑柏堂(ちゆうはくどう) → 呂丸(ろまるがん、函司/近藤、俳人) 5 2 6 1

G2880 忠八(ちゆうはち;通称・姓;元吉もとよし)?-? 江後期高知藩足輕小頭、  
 1842(天保13)名野川郷農民一揆で松山藩領への逃散者追捕役、「名野川郷民逃散之記」著

忠八(ちゆうはち・楠瀬) → 大枝(おおえ・楠瀬くすのせ、藩士/国学/画) C 1 4 7 4  
 忠八(ちゆうはち・茂木) → 隆春(たかはる・茂木もぎ、藩士/記録) M 2 6 9 2  
 忠八(ちゆうはち・細川) → 長世(ながよ・細川ほそかわ、藩士/歌人) O 3 2 6 5  
 忠八(ちゆうはち・釜屋/鈴木) → 頂行(ちようぎよう・鈴木、神道家;富士講) H 2 8 8 8  
 忠八郎(ちゆうはちろう・三上) → 竜山(りゅうざん・三上みかみ、藩儒) E 4 9 1 8  
 忠八郎(ちゆうはちろう・成島) → 錦江(きんこう・成島なるしま、幕臣/儒/歌) 1 6 6 1  
 忠八郎(ちゆうはちろう・成島) → 和鼎(かずかね・成島・秦、幕臣/儒/歌) C 1 5 1 7  
 忠八郎(ちゆうはちろう・末田) → 稻麿(いなまる・末田すえだ、国学者) B 1 1 7 0  
 忠八郎(ちゆうはちろう・宮部) → 義正(よしまさ・宮部みやべ、藩士/歌人) H 4 7 0 4  
 仲槃(ちゆうはん・長村) → 靖斎(せいさい・長村ながむら、藩士/儒者) I 2 4 2 0  
 虫臂齋(ちゆうひさい) → 忠憲(ただのり・本多、国学/故実/歌/俳) F 2 6 6 3  
 忠美(ちゆうび・村上/源) → 忠美(ただよし・村上むらかみ/源/清水、医者/国学) U 2 6 1 2  
 仲美(ちゆうび・森重) → 都由(すべよし・森重もりしげ、砲術家) D 2 3 8 6  
 忠美(ちゆうび・板原) → 忠美(ただよし・板原いたはら、詩人) G 2 6 0 9  
 忠美(ちゆうび・貴志) → 朝暎(ちようとん、貴志きし、幕臣/文筆家) J 2 8 5 8  
 忠美(ちゆうび・林/宍戸) → 眞激(まさもと・宍戸ししど/林、藩士/国事) H 4 0 9 6  
 仲微(ちゆうび・内藤) → 貞顕(さだあき・内藤ないとう、藩士/国学) G 2 0 2 0  
 仲豹(ちゆうひょう・金子) → 鶴村(かくそん・金子かねこ、漢学/藩儒) H 1 5 3 3  
 仲品(ちゆうひん・岡村) → 仲品(ちゆうばん・岡村、俳人) G 2 8 8 7  
 仲賓(ちゆうひん・河口) → 静斎(せいさい・河口/河、儒者/詩人) B 2 4 5 6  
 忠彬(ちゆうひん・多) → 忠彬(ただよし・多おの、楽人) R 2 6 3 3  
 忠彬(ちゆうひん・後藤) → 松窩(しょうか・後藤ごとう、儒者/詩人) H 2 2 5 0  
 忠敏(ちゆうびん)すべて → 忠敏(ただとし)

G2881 中孚(ちゆうふ・加藤かとう、名;文内)1672-1722<sup>51</sup> 筑後久留米藩士、文武両道の修得;一家を興す、  
 江戸藩邸に出仕/詩作、俳諧:野坡門、「星山草鶏口」著、1719「天上守てんじょうまもり」編、  
 詩;「米藩詩文選」入、

[中孚(;字)の号] 木子もくし/南岡/章峯壺、慶雲亭  
 仲孚(ちゆうふ・釧) → 雲泉(うんせん・釧くしろ、絵師) D 1 2 8 7  
 仲府(ちゆうふ;島田) → 泰夫(やすお・島田/横山、医者) B 4 5 0 4  
 忠孚(ちゆうふ・幡野) → 忠孚(たださね・幡野はたの、藩士/国学者) P 2 6 5 2  
 忠富(ちゆうふ・白川) → 忠富王(ただとみおう、神祇伯/連歌) F 2 6 4 0

- 忠富(ちゆうふ・中根) → 忠富(ただとみ・中根なかね、藩士/家老/歌) Y 2 6 5 8  
 忠夫(ちゆうふ・大野) → 一貫(いっかん・大野、藩士/兵術/故実) G 1 1 8 0  
 忠武(ちゆうぶ・青木) → 海嶠(かいきょう・青木あおき、儒者/詩) I 1 5 5 5  
 忠武(ちゆうぶ・松平) → 霍山(かくざん・松平まつだいら、藩士/儒詩) E 1 5 8 7  
 仲武(ちゆうぶ・中村) → 七友斎(しちゆうさい、中村、儒者/藩士) E 2 1 6 3  
 忠風(ちゆうふう・高木) → 忠風(ただかぜ・高木たかぎ、藩士/歌) X 2 6 9 9  
 忠富王(ちゆうふおう、白川) → 忠富王(ただとみおう、神祇伯/連歌) F 2 6 4 0  
 忠福(ちゆうふく・水野) → 忠福(ただよし・水野、幕臣) R 2 6 2 7  
 忠福(ちゆうふく・松平) → 忠福(ただよし・松平まつだいら、藩主) R 2 6 3 0  
 仲福(ちゆうふく・安蔵) → 仲福(なかとみ・安蔵、里正) E 3 2 9 1  
 中孚道人(ちゆうふどうじん) → 寿桂(じゅけい; 法諱・月舟、臨濟僧/五山文学) I 2 1 6 3
- G2882 仲文(ちゆうぶん・江良えら、名; 元昌) 1745-89<sup>45</sup> 肥後の儒者: 家学父門/私塾を開く、  
 犬追物を復活させる(兄英林や斎藤司芝山と); 犬追物師範となる、  
 「学庸正解」「毛詩六義」「立政略説」「審度量衡」著  
 [仲文(;字)の通称/法号]通称; 又十郎、法号; 温良院
- 仲文(ちゆうぶん・桜田) → 虎門(こもん・桜田さくらだ、藩士/儒者) F 1 9 9 0  
 仲文(ちゆうぶん/なかふみ・堤) → 有筋(ゆうせつ・堤つみ/石川、儒者) D 4 6 1 1  
 忠文(ちゆうぶん・藤原) → 忠文(ただふみ・藤原、将門追討大將軍) 2 7 9 3  
 仲平(ちゆうへい・安井) → 息軒(そっけん・安井やすい、儒者) 2 5 2 5  
 仲平(ちゆうへい・一条) → 正直(まさなお/まなお・一条、藩士/天文) F 4 0 0 5  
 忠平(ちゆうへい・藤原) → 忠平(ただひら・藤原、撰関/格式/歌人) F 2 6 7 1  
 忠平(ちゆうへい・岡部) → 拙斎(せつさい・岡部、藩儒/詩人) E 2 4 2 8  
 忠平(ちゆうへい・梅津) → 忠平(ただひら・梅津うめづ/藤原、国学者) Q 2 6 6 6  
 忠平(ちゆうへい・山路) → 重信(しげのぶ・山路やまぢ、国学/歌人) V 2 1 4 2  
 忠平(ちゆうへい・星川) → 正甫(まさとし・星川/鴨沢、藩士/地誌家) E 4 0 4 9
- G2883 忠兵衛(ちゆうべえ・伊藤いとう、名; 正実) 1658-1724<sup>67</sup> 代々高田藩榊原家の家老職、播磨姫路の生、  
 越後高田藩士、日置流弓術; 平井貞弘門、「弓の伝書」著
- G2884 忠兵衛(ちゆうべえ・伊勢屋、姓; 西村/名; 常栄つねひで) ?-? 名古屋本町三丁目の書肆地本問屋指峰堂、  
 俳諧を嗜む、1773「宮郭八景論」/82「尾陽戯場事始」著(漢文序東海懶叟も忠兵衛の変名)、  
 1782信景「塩尻」編、83「比言藪黄鳥」編、  
 [伊勢屋忠兵衛(;通称)の号]指峰堂しほうどう/指峰亭/釋笑ちしょう/稚笑/西邑海辺さいゆうかいへん
- G2885 忠兵衛(ちゆうべえ・橋屋たかはなや、姓; 新美) ?-? 江後期大阪太左衛門橋筋北入南笠屋町の書肆、  
 1779「法花歌題語」著
- G2886 忠兵衛(ちゆうべえ・塩屋/鹿嶋、献可堂) ?-? 江後期大阪書肆/俳人; 豊蒲門、  
 1770「俳諧小つち」91「伊勢道中両面鑑」/1801「蕪村遺稿」編/16「発句二万のさと」編  
 珍古楼主人と同一? → 珍古楼主人(ちんころうしゅじん、鹿島、書肆) K 2 8 7 1
- 忠兵衛(ちゆうべえ・梅沢) → 広通(ひろみち・梅沢うめざわ、武芸者) H 3 7 2 5  
 忠兵衛(ちゆうべえ・河浪) → 自安(じあん・河浪/菅原、医者/儒者) B 2 1 0 6  
 忠兵衛(ちゆうべえ・合田/三宅) → 鞏革斎(きょうかくさい・三宅みやけ、儒者) G 1 6 6 3  
 忠兵衛(ちゆうべえ・撰待) → 盛武(もりたけ・撰待せつたい、藩士/故実家) F 4 4 6 0  
 忠兵衛(ちゆうべえ・土屋) → 知貞(ともしだ・土屋、幕臣/記録) P 3 1 4 6  
 忠兵衛(ちゆうべえ・百川) → 治兵衛(じへい・百川ももかわ、和算家) V 2 1 5 8  
 忠兵衛(ちゆうべえ・岩本) → 子英(しえい・岩本いわもと、俳人) B 2 1 1 5  
 忠兵衛(ちゆうべえ・宮崎) → 露牛(ろぎゅう・宮崎みやざき、商家/俳人) 5 2 6 7  
 忠兵衛(ちゆうべえ・小森) → 信友(のぶとも・小森、文筆家) C 3 5 4 1  
 忠兵衛(ちゆうべえ・植松) → 有信(ありのぶ・植松うえまつ、版木師/国学) 1 0 3 2  
 忠兵衛(ちゆうべえ・駒井) → 乗邨(のりむら・駒井、藩士/国学/随筆) F 3 5 9 5  
 忠兵衛(ちゆうべえ・渡辺) → 一溪(いっけい・渡辺、幕臣/歌人) H 1 1 0 0  
 忠兵衛(ちゆうべえ・高瀬) → 学山(がくざん・高瀬たかせ、儒者) E 1 5 6 9  
 忠兵衛(ちゆうべえ・河内屋) → 亀友(きゆう・可仲庵、俳人) M 1 6 2 0

忠兵衛(ちゆうべえ・臼井) → 伊信(これのぶ・臼井うすい、大庄屋/医/歌) Q 1 9 3 7  
 忠兵衛(ちゆうべえ・石田) → 長則(ながのり・石田いしだ、国学) L 3 2 1 4  
 忠兵衛(ちゆうべえ・小野寺/山口) → 泰款(たいかん・山口、藩士/記録) J 2 6 5 2  
 忠兵衛(ちゆうべえ・中西) → 子正(つぐまさ/たねまさ・中西なかにし、剣法家) 2 9 8 6  
 忠兵衛(ちゆうべえ・奈越江) → 光当(みつまさ・奈越江だごえ/源、藩士/歌) J 4 1 9 0  
 忠兵衛(ちゆうべえ・長田) → 美年(よしとし・長田ながた、藩士/歌人) N 4 7 8 4  
 忠兵衛(ちゆうべえ・川島) → 重言(しげこと・川島かわしま、酒造業、国学) O 2 1 1 3  
 忠兵衛(ちゆうべえ・藤森) → 正興(まさおき・藤森ふじもり、酒造業/歌人) S 4 0 3 3  
 忠兵衛(ちゆうべえ・菊池) → 武胤(たけたね・菊池きくち、庄屋/歌人) W 2 6 7 5  
 忠兵衛(ちゆうべえ・後藤) → 祐壮(すけまさ・後藤ごとう、藩校国学教授) I 2 3 5 2  
 忠兵衛(ちゆうべえ・仁科) → 信清(のぶきよ・仁科にしな/佐藤、藩士/歌) J 3 5 4 7  
 忠兵衛(ちゆうべえ・高坂) → 正信(まさのぶ・高坂こうさか、国学者) P 4 0 7 1  
 仲兵衛(ちゆうべえ・山県) → 行載(ゆきのり・山県やまがた、藩士/国学者) H 4 6 4 2  
 忠保(ちゆうほ) すべて → 忠保(ただやす)  
 忠輔(ちゆうほ) すべて → 忠輔(ただすけ)  
 忠甫(ちゆうほ・山井) → 崑崙(こんろん・山井やまのい/大神、儒者) G 1 9 9 1  
 忠甫(ちゆうほ・岡島) → 安斎(あんさい・岡島、儒者) D 1 0 1 1  
 仲甫(ちゆうほ・川村) → 榴窠(りゅうか・川村かわむら、藩儒者/教授) D 4 9 1 1  
 仲謨(ちゆうぼ・広瀬) → 蒙斎(もうさい・広瀬、儒者/藩政参与) 4 4 5 3  
 忠模(ちゆうぼ・大久保) → 忠模(ただひろ・大久保おおくぼ、旗本/歌) U 2 6 8 7  
 仲方(ちゆうほう;道号) → 円伊(えんい;法諱・仲方、臨濟僧) 1 3 8 7  
 仲鳳((ちゆうほう・大竹/岳) → 武陽(ぶよう・大竹/岳、漢学/講説) E 3 8 5 1  
 忠宝(ちゆうほう・桜井/松平) → 忠宝(ただとみ・松平、藩主/俳人) Q 2 6 1 1  
 忠宝(ちゆうほう・塙) → 忠宝(ただとみ・塙/温古堂、幕臣/国学) F 2 6 3 9  
 忠邦(ちゆうほう・佐竹) → 忠邦(ただくに・佐竹さたけ、藩士/歌人) X 2 6 2 1  
 忠邦(ちゆうほう・水野) → 忠邦(ただくに・水野、天保改革/詩歌) F 2 6 0 5  
 忠芳(ちゆうほう・大久保) → 忠泰(ただやす・大久保おおくぼ、幕臣/国学) W 2 6 1 0  
 忠豊(ちゆうほう・多) → 忠豊(ただもり・多おおい、楽人/歌) R 2 6 0 2  
 仲奉(ちゆうほう・田島) → 仲奉(なかも・田島、神職/連歌) E 3 2 9 4  
 忠房(ちゆうぼう)すべて → 忠房(ただふさ)  
 中本(ちゆうほん・中岩;道号) → 中岩(ちゅうがん・中本、臨濟僧) F 2 8 8 8

G2887 仲品(ちゆうほん・岡村おかむら) ? - ? 安藝宮島の俳人;1689似船「苗代水」入、1691江水「元禄百人一句」目録入/92団水「くやみ草」入、幸佐「入船」/「あるが中」入、

沖満(ちゆうまん・菊池) → 沖満(おきみつ・菊池きくち、神職/国学) D 1 4 9 2

忠民(ちゆうみん・本多) → 忠民(ただもと・本多ほんだ、藩主/老中) R 2 6 0 1

忠民(ちゆうみん → ただたみ・大久保) → 忠恒(ただつね・大久保おおくぼ、幕臣) P 2 6 8 6

忠民(ちゆうみん・小柳津) → 忠民(ただたみ・小柳津おやなう/朝倉、養蚕研究) W 2 6 0 3

G2888 忠命(忠明ちゅうめい/ちゅうみょう;法諱)986-105469 天台宗園城寺僧、1023内供/41法橋、顕密に精通、藤原範永・家経と交友、八雲御抄に逸話、歌人;三井歌仙(寺門高僧記)と称される、続詞花集入集、勅撰3首;後拾遺(196/544)金葉176、増珍(1036-1109)の兄?(;袋草紙説)、[聞きつるや初音なるらんほととぎす老は寝覚めぞうれしかりける](後拾遺;夏196)[ものへまうでける女房三人ありけるが 三隅にたちてもいふを見ていひやる、うちみれば鼎かなへのあしにたるかなばけむねずみになりやしなまし(続詞花;戯咲968)、女房の返し、

打ちみれば鍋にもにたるかがみかなつくまの数に入れやしなまし(同;戯咲969、

近江筑摩つくま神社祭で御輿に随う女性が関係を結んだ男の数の鍋をかぶった)

忠明(ちゅうめい) すべて → 忠明(ただあき or ただあきら)

仲明(ちゅうめい・姫井) → 桃源(とうげん・姫井ひめい、儒者) D 3 1 4 7

仲明(ちゅうめい・藍沢) → 北溟(ほくめい・藍沢あいざわ、儒者) D 3 9 9 4

仲明(ちゅうめい・多紀) → 元徳(もとのり・多紀たき/丹波、幕臣/奥医) D 4 4 8 3

- 儔明(ちゆうめい・神合) → 儔明(としあき・神合じんごう、藩士/歌人) V 3 1 4 1  
 忠模(ちゆうも・大久保) → 忠模(ただひろ・大久保おおくぼ、旗本/歌) U 2 6 8 7  
 忠茂(ちゆうも・島田) → 忠茂(ただしげ・島田しまだ、藩士/国学者) X 2 6 5 3  
 蛛網草堂(ちゆうもうそうどう) → 天然(てんぜん・野呂のろ、医者) D 3 0 9 8  
 沖黙(ちゆうもく;字) → 義海(ぎかい;法諱・沖黙、浄土僧) J 1 6 7 9  
 仲黙(ちゆうもく・鳥海) → 松亭(しょうてい・鳥海とりのうみ、医/老荘学) U 2 2 3 9  
 仲黙(ちゆうもく・久保木) → 竹窓(ちくそう・久保木くぼぎ、名主/儒者) D 2 8 3 4  
 L2834 忠也(ちゆうや) ? - ? 江前期京の俳人、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
 [紅葉する山は一色いっしきにしきかな](手鑑/錦に二色を掛る)  
 忠也(ちゆうや・伊藤) → 忠也(ただなり・伊藤いとう、剣術家) U 2 6 8 9  
 中野(ちゆうや・木村) → 馬得(ばとく・木村きむら、藩士/歌人) K 3 6 0 5  
 昼夜庵(ちゆうやあん) → 長盛(ちようせい、真言僧/俳人) J 2 8 1 6  
 G2889 忠由(ちゆうゆう・谷たに、名;宗也/通称;伊賀屋) ?-? 江前期大阪の商家/俳人、  
 1673西鶴「哥仙大坂俳諧師」入/74宗旦「遠山鳥」十吟百韻入/76西鶴「俳諧師手鑑」入、  
 [复古焼ほうぐやきや名もすみぞめの桜鯛](哥仙;十番左/手鑑、  
 复古焼;魚肉を復古で包焼きしたもの/焼けた桜鯛に墨染め桜を言い掛る)  
 忠有(ちゆうゆう・藤原) → 忠有(ただあり・藤原ふじわら、歌人) E 2 6 8 1  
 忠勇(ちゆうゆう・多おおの) → 忠勇(ただたけ・多おおの、楽人) P 2 6 7 7  
 忠勇(ちゆうゆう・坂) → 士仏(しぶつ・坂さか、医僧/歌人) F 2 1 5 9  
 忠佑(ちゆうゆう・金) → 蘭斎(らんさい・金こん、医/漢学;老荘) C 4 8 1 3  
 忠雄(ちゆうゆう・多) → 忠雄(ただはる・多おおの、楽人) Q 2 6 4 9  
 忠雄(ちゆうゆう・大久保) → 忠教(ただたか・大久保おおくぼ、武将/幕臣) F 2 6 2 2  
 忠雄(ちゆうゆう・小笠原) → 忠雄(ただお/ただかつ/ただたか・小笠原、藩主/故実) P 2 6 2 1  
 忠雄(ちゆうゆう・青山) → 忠雄(ただお・青山、藩主/歌/書/馬術) P 2 6 2 2  
 忠雄(ちゆうゆう・臼井) → 忠雄(ただお・臼井、藩士/伊呂波歌) P 2 6 2 3  
 忠雄(ちゆうゆう・大伴) → 忠雄(ただお・大伴、神職/連歌) P 2 6 2 4  
 忠雄(ちゆうゆう・志筑) → 忠雄(ただお・志筑、通詞、蘭学) E 2 6 8 5  
 忠雄(ちゆうゆう・本多) → 忠雄(ただお・本多/藤原、心学者) P 2 6 2 5  
 忠雄(ちゆうゆう・ただお・大高源吾、忠臣蔵義士) → 子葉(しよ、俳人) K 2 1 7 4  
 忠雄(ちゆうゆう・ただお・長谷川) → 恒忠(つねただ・長谷川、兵学者) C 2 9 4 2  
 忠雄(ちゆうゆう・市川) → 忠雄(ただお・市川いちかわ、国学者) V 2 6 6 6  
 忠雄(ちゆうゆう・岩崎) → 忠雄(ただお・岩崎いわさき、神職/和漢学) V 2 6 7 5  
 忠雄(ちゆうゆう・川村) → 忠雄(ただお・川村かわむら/村田、神職) M 2 6 6 3  
 忠友(ちゆうゆう・重村) → 忠友(ただとも・重村しげむら、俳人) U 2 6 0 1  
 忠友(ちゆうゆう・水野) → 忠友(ただとも・水野みずの、藩主/老中) Q 2 6 1 4  
 忠友(ちゆうゆう・戸田) → 忠友(ただとも・戸田とだ、藩主/国学) Y 2 6 3 6  
 忠友(ちゆうゆう・小原/穂井田) → 忠友(忠儔ただとも・穂井田/大江/小原、歌人/考証) 2 6 2 7  
 忠裕(ちゆうゆう・青山) → 忠裕(ただやす・青山あおやま、藩主/老中) R 2 6 0 7  
 忠猷(ちゆうゆう・藤川) → 三溪(さんけい・藤川ふじかわ、藩士/尊攘) M 2 0 0 8  
 虫雄(ちゆうゆう・吉本) → 虫雄(虫夫むしお・吉本、国学者/教育) 4 2 5 8  
 仲雄(ちゆうゆう・千村) → 仲雄(なかお・千村、国学) D 3 2 2 7  
 仲雄(ちゆうゆう・神野) → 呉山(ござん・神野、俳人) M 1 9 6 5  
 仲裕(ちゆうゆう・久野) → 克寛(かつひろ・久野くの、古銭研究者) N 1 5 8 2  
 仲裕(ちゆうゆう・川名) → 孟綽(たけひろ・川名かわな、儒者/詩人) O 2 6 7 0  
 仲祐(ちゆうゆう・佐々木) → 素堂(3世そどう・佐々木ささき、俳人) K 2 5 1 7  
 中有道人(ちゆうゆうどうじん) → 梁南(りょうなん;道号・禅棟;法諱、臨濟僧/詩) J 4 9 1 3  
 忠与(ちゆうよ・青山) → 忠与(ただとも・青山、藩主/歌人) F 2 6 4 1  
 G2890 中葉(ちゆうよう・紀き) ? - ? 浄瑠璃作者・紀上太郎門、  
 1802貫四2世「敵討操姿鏡」共著  
 中庸(ちゆうよう・服部/箕田) → 中庸(なかつね・服部、医/国学) E 3 2 4 8

- 中庸(中要ちゅうよう・鏡味)→ 敬義(甲鵬たかよし・鏡味がみ、神楽座楽人) N 2 6 7 4  
中庸(ちゅうよう・乾) → 健輔(けんすけ・乾いぬい、医者/詩歌) N 1 8 6 1  
仲容(ちゅうよう・梁田/拜村)→ 葦洲(いしゅう・梁田やなだ、藩士/儒者) E 1 1 2 7  
仲養(ちゅうよう・内藤) → 碧海(へきかい・内藤ないとう、漢学者/史学) 2 7 8 8  
忠養(ちゅうよう・林/村上)→ 義内(ぎない・林/村上、医者/滑稽本) B 1 6 9 2  
忠養(ちゅうよう・岡田) → 忠養(ただやす・岡田、幕臣/下田奉行) R 2 6 0 8  
忠養(ちゅうよう・永田) → 海一(うみかず・永田ながた、国学/神職) E 1 2 8 1  
忠養(ちゅうよう・水野) → 忠養(ただやす・水野みずの、藩士/国学) Z 2 6 7 7  
忠陽(ちゅうよう・樺山) → 忠陽(ただあき・樺山かばやま、藩士/歌人) W 2 6 5 7  
忠瑤(ちゅうよう・塙) → 忠宝(ただとみ・塙はなわ、幕臣/国学者) F 2 6 3 9  
忠曄(ちゅうよう・近藤) → 清石(きよし・近藤こんどう、藩士/国学) P 1 6 6 0  
忠耀(ちゅうよう・林/鳥居)→ 耀蔵(ようぞう・鳥居とりい/林、幕臣) B 4 7 4 2
- G2891 冲翼(ちゅうよく・砂岡いさおか、雁宕男)?-? 江中下期下総結城の俳人;父門、  
蓼太「雪おろし」の反駁のため父雁宕の「蓼すり古義」を刪定;叔父周午や弟進歩と共編;  
冲翼は板行前に没(;1771刊)  
忠頼(ちゅうらい・豊川) → 正英(せいえい・豊川とよかわ、琉球廷臣、和文) O 2 4 3 3  
忠頼(ちゅうらい)訓はすべて→ 忠頼(ただより)  
中瀬(ちゅうらい・加藤) → 德基(のりもと・加藤かとう/清水、藩儒) H 3 5 8 6
- G2892 紐蘭(ちゅうらん・今井いまい、名;惟典、惟俊男)1800-4748 水戸藩士;1829出仕/勘定奉行/寺社奉行、  
排仏を断行し寺院と軋轢;1844幕命で免職/謹慎、  
「今井惟典筆記」「景山公遺事」「二月日記」「桃の三千代」著、  
[紐蘭(;号)の字/通称]字;由生、通称;万吉/金衛門きんえもん  
仲蘭(ちゅうらん・佐々木) → 中沢(仲沢ちゅうたく・佐々木、蘭医者) G 2 8 6 2
- G2893 中里(ちゅうり・奥井おくい、名;非熊)1784-184663 淡路洲本の儒者;独学/周易に精通、徳島藩儒、  
詩、「声律考」著、  
[中里(;号)の字/通称]字;子祥、通称;承助/称助  
忠利(ちゅうり) すべて → 忠利(ただとし)
- G2894 中立(仲立ちちゅうりつ;道号・一鸚いちがく;法諱)?-? 室町期臨濟僧;東海竺源門;法嗣、鉄庵道生門、  
1410?南禅寺67世、「臥竜吟」著
- G2895 中立(ちゅうりつ・齋藤さいとう、)1743-180462 江戸後期三河吉田船町の船問屋、  
和算家;渡辺半蔵門のち真木明雅門、易学;新井白蛾はくが門、国学;鈴木梁満やなまろ門、  
婿養子;元章もとあき(齋藤家を継嗣)、門人多数、  
「鉤股玄三条」著、遺稿類は養子元章が整理校訂  
[中立(;字)の名/別字/通称/号]名;信芳、別字;子和、通称;九郎左衛門、  
号;一握いちあく/一握堂/芳川
- 中立(ちゅうりつ・八隅) → 景山(けいざん・八隅やすみ、医者) F 1 8 7 9  
中立(ちゅうりつ・山本) → 竹雲(ちくうん・山本やまもと、篆刻家/茶人) C 2 8 6 0  
中立(ちゅうりつ・岡野) → 中立(なかたつ・岡野おかの、歌人) L 3 2 4 6  
中立(ちゅうりつ・小富士) → 慈意(じい・小富士こふじ、僧都/歌人) O 2 1 4 2  
仲栗(ちゅうりつ・池永) → 楓村(ふうそん・池永いけなが、儒者/詩人) 3 8 9 2  
仲竜(ちゅうりゅう・戸口/井上)→ 四明(しめい・井上/戸口、藩儒) F 2 1 8 3  
仲竜(ちゅうりゅう・茂呂) → 金朝(かねとも・茂呂もろ、絵師/歌) O 1 5 7 4  
仲竜(ちゅうりゅう・平野) → 深淵(しんえん・平野ひらの、藩士/儒者) N 2 2 4 6  
仲竜(ちゅうりゅう・松尾) → 駿淵(しゅんえん・松尾まつお、藩士/歴算家) M 2 1 4 9  
忠竜(ちゅうりゅう・渡橋/宮原)→ 筋庵(せつあん・宮原/渡橋、儒者/詩) E 2 4 0 3  
忠竜(ちゅうりゅう・堀内) → 素堂(そどう・堀内ほりのうち、藩医/蘭医/儒) K 2 5 2 0  
忠隆(ちゅうりゅう・藤原) → 忠隆(ただたか・藤原、廷臣/歌人) F 2 6 2 0
- G2896 仲慮(忠慮ちゅうりよ・深堀ふかぼり/深屋、)1714-9481 上州安中藩士/士分を捨て農業に従事、  
織物業/歌人;澄月門、「西野撮土」著、  
[仲慮(;号)の名/別号]名;章、別号;桑園、法号;盛陽院

- 仲慮(ちゅうりよ・西尾) → 定静(さだやす・西尾/源、藩士/歌人) 2084  
 忠間(ちゅうりよ・新松) → 忠義(ただよし・新松にいま/源、神道/国学) G 2 6 0 7
- 2819 中良(ちゅうりよ・なかよし・森島もりしま/桂川、桂川甫三国訓くにのり男/本姓;森島) 1754/56?-1810?/1809存、  
 父は幕府蘭方医、母;幕府奥医大八木高豊温女、桂川甫周の弟、江戸築地の人、蘭学;兄門、  
 兄の医業を援助、蘭語習熟;1792-97磐城白河藩出仕(通詞石井庄助と)、洋学;平賀源内門、  
 1772-1801頃滑稽本・黄表紙・洒落本・読本を著作/浄瑠璃・狂歌を嗜む、七珍万宝の師、  
 1779「驪山比翼塚」80「金のなる木」81「おはん長右衛門」84「万象亭戯作濫觴」87「田舎芝居」、  
 1789「万国新話」94「親親道成寺」97「月下清談」1802「玉之枝」、「桂林漫録」「風来六部集」外多、  
 狂歌;狂歌才蔵集・万載狂歌集・徳和歌後万載集などに入、  
 [酒一斗飲みにし人もものかはと噛みこなしたる餅は太白](後万載集/李白一斗詩百篇)、  
 [中良(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;友吉、字;虞臣、通称;万蔵/次郎/甫榮/甫斎、  
 号; 桂林、{戲号狂歌号};竹杖為軽たけつゑのすがる/初世森羅万象/2世福内鬼外/源平藤橘/  
 2世風来山人/下界隠士/天竺老人/万象亭まんどうてい/森羅子/築地善交/月池老人/中原中良
- G2898 中陵(ちゅうりよ・佐藤さとう/修姓;膝、名;成裕) 1762-1848 江戸の本草家;関八州を採薬、  
 薩摩会津等諸藩に招かれ産物を調査/1799水戸藩に招聘;植物方/江戸奥方番/御番組列、  
 弘道館本草教授、1792「蔓性秘録」94「採薬録」95「怪石志」/96「温故斎五瑞編」「驚草録」、  
 1796「救荒本草訳説」1827「和名鈔塞問」43「七十二侯新撰」、「流虬りゅうきゆう百花譜」、  
 「蔓志まんし」「中陵漫録」「温故斎蔓志」「本草和名」「温故斎菌譜」「温故斎附子辨」、  
 「楚辞草木略」外著多数、  
 [中陵(;号)の字/通称/別号]字;子綽、通称;平三郎、別号;莠莪堂/青莪堂、温故[古]斎
- L2865 忠良(ちゅうりよ/ただよし?・牧島まきしま) ?-? 江後期;歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [ひととはぬわが山里の柴の戸をよただたくは嵐なりけり](大江戸倭歌;雑1726)
- 忠良(ちゅうりよ・藤原) → 忠良(ただよし・藤原/近衛、廷臣/歌人) G 2 6 0 2  
 忠良(ちゅうりよ・島津) → 忠良(ただよし・島津、武将/いろは歌) G 2 6 0 5  
 忠良(ちゅうりよ・島津) → 義久(よしひさ・島津しまづ/惟宗、武将/連歌) G 4 7 2 7  
 忠良(ちゅうりよ・深瀬) → 忠良(ただよし・深瀬ふかせ、藩士/文筆家) R 2 6 2 4  
 忠良(ちゅうりよ・一条) → 忠良(ただよし・一条いちじょう、関白/歌人) G 2 6 0 8  
 忠良(ちゅうりよ・源) → 忠良(ただよし・源みなもと、神道家) R 2 6 2 8  
 忠良(ちゅうりよ・永田) → 忠良(ただよし・永田ながた、藩士/俳人) X 2 6 4 2  
 忠良(ちゅうりよ・堀田/屋代) → 忠良(ただかた・屋代/堀田、幕臣/文筆) P 2 6 3 2  
 忠良(ちゅうりよ・大久保) → 忠良(ただなが・大久保おおくぼ、幕臣/記録) Q 2 6 3 2  
 忠良(ちゅうりよ・小林) → 忠良(ただよし・小林こばやし、農業/和算家) R 2 6 3 5  
 忠良(忠梁ちゅうりよ・本多) → 猗蘭(いらん・本多、藩主/詩歌人) B 1 1 9 3  
 忠良(ちゅうりよ・黒田) → 綾山(りょうざん・黒田くろだ、絵師) E 4 9 2 2  
 忠良(ちゅうりよ・水野) → 忠精(ただきよ・水野、藩主/老中/歌人) F 2 6 0 3  
 忠良(ちゅうりよ・三浦) → 半左衛門(はんざえもん・三浦、藩士/歌人) K 3 6 8 3  
 忠良(ちゅうりよ・木村) → 忠良(ただよし・木村きむら、神職/歌人) W 2 6 6 9  
 忠亮(ちゅうりよ・杉山) → 復堂(ふくどう・杉山、儒者/藩政参画) B 3 8 6 1  
 忠亮(ちゅうりよ・堀内) → 素堂(そどう・堀内ほりのうち、藩医/蘭医/儒) K 2 5 2 0  
 忠亮(ちゅうりよ・中村) → 義濟(よしなり・佐久間さくま/赤川/中村、藩士/尊皇) M 4 7 9 7  
 仲量(ちゅうりよ・ト部) → 仲量(なかかず・ト部うらべ神職/歌人) P 3 2 4 8  
 忠僚(ちゅうりよ・中島) → 六太夫(ろくだゆう・中島なかじま、藩士/文筆家) 5 2 9 9  
 忠梁(ちゅうりよ・江見) → 忠梁(ただむね・江見えみ、藩士/勤王派) V 2 6 9 1  
 仲良(ちゅうりよ;字・松岡) → 雄淵(おぶち・松岡、神道家) B 1 4 9 1  
 仲亮(ちゅうりよ・黒神) → 直民(なおたみ・黒神くろかみ、神職/国学) B 3 2 6 4  
 仲亮(ちゅうりよ・大橋) → 白鶴(はっかく・大橋/富川とみかわ、儒者) F 3 6 0 8  
 仲亮(ちゅうりよ・河内) → 公明(きみあき・河内かわうち、医者/国学/詩歌) M 1 6 0 0  
 仲亮(ちゅうりよ・平山) → 亮斎(りょうさい・平山ひらやま、藩士/文筆) H 4 9 6 2

- 仲緑(ちゅうりよく・石島) → 筑波(つくば・石島/石/尾見、儒者/詩) 2 9 7 9  
 忠隣(ちゅうりん・大久保) → 忠隣(忠鄰<sup>ただちか</sup>・大久保、藩主/幕政) P 2 6 8 0  
 忠鄰(ちゅうりん・本多) → 忠鄰(ただちか・本多<sup>ほんだ</sup>、藩主) P 2 6 8 2  
 忠林(ちゅうりん・諏訪) → 忠林(ただとき・諏訪<sup>すわ</sup>、藩主/詩文) P 2 6 9 9  
 中林(ちゅうりん・八木) → 美穂(よしほ・八木、国学/歌学者) 4 7 2 7  
 仲林(ちゅうりん・林) → 春勝(はるかつ・林、鶯峰、羅山男/儒者) 3 6 3 0  
 仲隣(ちゅうりん・坪井) → 虹山(こうざん・坪井<sup>つばい</sup>、儒者/詩) J 1 9 2 8  
 忠林(ちゅうりん・諏訪) → 忠林(ただとき・諏訪、鵝湖、藩主/詩人) P 2 6 9 9  
 忠林(ちゅうりん/ただとき?/ただふさ?・飯田) → 有倫(ありとも・飯田<sup>いいた</sup>、儒医) F 1 0 5 2  
 中林舎(ちゅうりんしゃ) → 春潮(しゅんちよう・勝川、絵師) K 2 1 2 5
- G2899 仲礼(ちゅうれい・坂さか、名;知敬) 1745-7834 周防徳山藩士/儒;萩明倫館で修学、「西山遺稿」、  
 [仲礼(;号)の字/別号]字;和卿、別号;西山<sup>せいざん</sup>
- 仲礼(ちゅうれい・秋山) → 惟恭(こいひら・秋山<sup>あきやま</sup>、神職/詩歌) P 1 9 4 2  
 忠礼(ちゅうれい・西田) → 忠礼(ただひろ・西田<sup>にしだ</sup>、歌人) F 2 6 7 3
- H2800 中蓮(ちゅうれん;法諱・西庵<sup>さいあん</sup>;道号、号;玉井) ?-1465 臨濟僧;月潭中円門、鎌倉報恩寺住寺、  
 鎌倉円覚寺132世、「山林文岌集」著
- 中連(ちゅうれん・新興) → 蒙所(もうしょ・新興<sup>におう</sup>/興/堀、書家) 4 4 5 5  
 忠連(ちゅうれん・国友) → 忠連(ただつら・国友<sup>くにとも</sup>、藩士/国学者) P 2 6 8 9  
 忠廉(ちゅうれん・本多) → 忠寛(ただひろ・本多<sup>ほんだ</sup>、藩主) Q 2 6 7 2  
 仲廉(ちゅうれん・高田) → 松亭(しょうてい・高田<sup>たかた</sup>、藩士/儒者) K 2 2 9 8  
 仲廉(ちゅうれん・松村) → 昌直(まさなお・松村、藩士/刀剣研究) F 4 0 0 4  
 中蓮社現誉身阿(ちゅうれんしゃげんよしんあ) → 満空(まんくう;法諱・在心;字、浄土僧) K 4 0 4 5  
 仲路(ちゅうろ・野口) → 東溟(とうめい・野口、儒者/開塾/尊攘) H 3 1 3 7  
 仲郎(ちゅうろう・中臣連<sup>なかとみのむらじ</sup>) → 鎌足(かまたり・藤原朝臣、廷臣/改新政治) 1 5 3 9  
 仲郎(ちゅうろう・大伴) → 田主(たぬし・大伴<sup>おおとも</sup>宿禰、万葉歌人) G 2 6 3 3  
 忠禄(ちゅうろく・酒井) → 忠義(ただあき・酒井<sup>さかい</sup>、藩主/日記) P 2 6 1 2
- H2801 中和(ちゅうわ/ちゅうか) ? - ? 江中期江戸俳人;沾山門、沾徳座沾山側点者、  
 1759「沾山追善集」編、54竹翁「誹諧童の的」点句入
- H2802 中和(ちゅうわ・西村/西邨<sup>にしむら</sup>) ?-1830? 京の仏光寺烏丸西の大和絵師/のち錦小路高倉西住、  
 秋里籬島の読本・名所図会・年代記などに挿画、法橋/詩も嗜む、1794「源平盛衰記図絵」、  
 1801「保元平治鬪図会」02「絵本年代記」04「木曾路名所図会」21「楠正行戦功記」外画多数、  
 [中和(;名)の字/号]字;士達、号;梅[煤]溪
- 中和(ちゅうわ・下郷/清水) → 雷首(らいしゅ・清水/下郷/平、儒者/詩) 4 8 5 4  
 中和(ちゅうわ・秋田/津田) → 鳳堂(ほうどう・秋田/津田、和算家) C 3 9 4 1  
 仲和(ちゅうわ・佐藤) → 竜谷(りゅうこく・佐藤<sup>さとう</sup>/辛島、儒者) D 4 9 9 3  
 忠和(ちゅうわ・松平) → 忠和(ただとも・松平、藩主/天文暦学) Q 2 6 1 6  
 忠和(ちゅうわ・湯浅/荒川) → 堯民(ぎょうみん・荒川、藩士/医者) O 1 6 5 7  
 忠和(ちゅうわ・関根) → 忠和(ただかず・関根<sup>せきね</sup>/平、歌人) U 2 6 6 4  
 忠和(ちゅうわ・南部) → 利剛(としひさ・南部<sup>なんぶ</sup>、藩主/国学/歌) T 3 1 7 7
- H2803 千之(ちゆき・黒木くろき、三井良之男) 1769-182052 大阪の三井流眼科医;父門/1784父没、  
 のち兄善之[棗州]門、父の実家黒木家を継嗣、  
 1801「済明図鑑」(精密眼科図譜)、「眼科秘伝」著、  
 [千之(;名)の字/通称/号]字;道立どうりゅう、通称;千二郎、号;可亭
- 千之(ちゆき・鳥居) → 円秋(えんしゅう・鳥居<sup>とりい</sup>、藩士/天文学) E 1 3 8 9  
 木(ちゆき;初号) → 市楓(しふう・松原<sup>まつばら</sup>、俳人) V 2 1 5 1  
 杵(ちゆき・村井/邨井) → 琴山(きんざん・村井/邨井、医者/詩文) J 1 6 0 1
- H2804 千世(ちよ、千代一) ? - ? 伊勢山田の俳人;1633重頼「犬子<sup>えのこ</sup>集」入  
 [水に枝たるゝや釣りの糸柳](犬子集;一256)
- M2827 千代(ちよ・太田<sup>おおた</sup>) 1764 - 183875 備中浅口郡玉島の歌人;木下幸文門、  
 「木下幸文判四十六番歌合」2首入

- N2850 **千代**(ちよ・堀家ほりけ、)1796 - 1863<sup>68</sup> 備中賀陽郡の吉備津神社社家堀家常定(1771-1852)の妻、  
国学・歌人;夫門、常房(1830-67)の母
- N2853 **千代**(ちよ・松下まつた、旧姓;亀割)1799-1872<sup>74</sup> 信濃飯田の商家;1813(15歳)原治兵衛を婿とす、  
醬油製造業;吉本屋を経営、不二道;小谷三志さん(禄行ろくぎょう)門、松下に改姓、  
信者となり不二道の布教・教化に尽力、  
[千代(;名)の道号]慈行三千/女高山
- 千世(ちよ・大石) → 千世子(ちよ子ちよこ・大石おおい、歌人) L 2 8 4 4  
千代(ちよ) → 千世君(ちよきみ、平安期歌人) H 2 8 5 0  
千代(ちよ;通称) → 千子(ちね・向井むかい千代子、俳人) F 2 8 1 4  
千代(ちよ・加賀/福増屋) → 千代尼(ちよに、俳人) 2 8 3 0  
千代(ちよ・丹羽) → 千代女(ちよじよ・丹羽にわ) L 2 8 6 4  
千代(ちよ・段塚) → 千代女(ちよじよ・段塚だんづか、歌人) M 2 8 8 3  
知与(ちよ・坂井) → 善庵(ぜんあん・坂井、藩士/弓術/救荒) L 2 4 5 9  
樗(ちよ・木村) → 八甲(はっこう・木村きむら、藩士/医/儒) F 3 6 2 1  
樗(ちよ・岡島) → 竜湖(りゅうこ・岡島おかじま/谷田部/吉成、儒者) D 4 9 6 8  
瀧(ちよ・牧園) → 茅山(ぼうざん・牧園まきぞの、藩儒) B 3 9 1 9  
瀧蛙(ちよあ;匿名、華洛) → 如水(じょすい、鷺水亭、俳人) 2 2 1 1  
樗庵(ちよあん) → 麦水(ばくすい、堀、俳人) 3 6 0 9  
樗庵(ちよあん) → 樗軒(ちよけん・中尾なかお、商家/鑑定) K 2 8 3 6  
千代一(ちよいち) → 千世(ちよ、俳人) H 2 8 0 4
- G2818 **澄**(ちよう・源、嵯峨天皇[786-842]皇子)?-? 母;田中の君、平安前期の漢学者/無位、融の兄、  
詩;「河原院賦」著(;本朝文粹の源順の詩文題に入)
- H2806 **寵**(ちよう・うつく・ろう・源、大和守源みなもとの精せい)の女)?-? 平安期女房歌人、古今3首:376・640・742、  
源浮うかぶの姉妹/二条にじょうの従姉妹、  
[しののめの別れををしみ我ぞまづ鳥よりさきになきはじめつる](古今;恋640)
- H2807 **徴**(ちよう・しるい・坂さか、字;士軒/通称;文中)1696-1784<sup>89</sup> 阿波の国学者/京住、講席を張り教育、  
1782「かげろうの日記解環」著、  
[徴(;名)の号] 荻軒、水母、秋斎
- M2836 **蝶**(ちよう・亀山かめやま、号;光林、旧姓;河地)1767-1851<sup>85</sup> 美濃大垣の生/美濃武儀郡の亀山家の妻、  
国学;富樫広蔭門、亀山寿明ひさあきの母
- H2808 **暢**(ちよう・村山むらやま、通称;弥一[弥市])?-? 江後期江戸芝田待ちの国学者;清水浜臣門、  
1814国学者勝間田茂野しげのを箱根に訪問/15武州比企郡都支山の慈光寺訪問、  
「西行紀程」編、1815「津き山日記」著
- 兆(ちよう・松田) → 元兆(もとよし・松田/上部、国学者) E 4 4 7 7  
窈(ちよう・伊達) → 灌子(ひろこ・伊達だて、藩士室/歌) K 3 7 0 9  
鳥(ちよう・丈部) → 鳥(とり・丈部はせつかべ、防人/万葉歌人) 3 1 6 6  
超(ちよう・山田/石井) → 隆庵(りゅうあん・石井/山田、藩医/詩) C 4 9 6 7  
激(ちよう・中江) → 松窠(しょうか・中江なかえ/杜、絵師/琴) H 2 2 4 9  
徴(ちよう・高久) → 霧崖(あいがい・高久たかく、絵師) D 1 0 1 7  
徴(ちよう・舟橋) → 晴潭(せいたん・舟橋ふなはし、儒者/詩人) B 2 4 7 2  
徴(ちよう・石原) → 陳水(ちんすい、石原いしはら、儒者) K 2 8 8 4  
徴(ちよう・畑) → 柳泰(りゅうたい・畑/上林、儒/医者/詩) F 4 9 1 1  
徴(ちよう・村瀬) → 秋水(しゅうすい・村瀬むらせ、絵師) X 2 1 7 3  
徴(ちよう・河野) → 小石(しょうせき・河野かわの、藩儒) T 2 2 8 5  
懲(ちよう・高麗/林) → 葛廬(かつろ・林はやし、幕府儒官) O 1 5 0 4  
鬯(ちよう・川井) → 立斎(りゅうさい・川井/河井、医者/歌) E 4 9 0 1  
暢(ちよう/のぶ・伴) → 香竹(こうちく・伴ばん、国学) B 1 9 6 9  
暢(ちよう・渡辺/長嶺) → 内蔵太(くらた・渡辺わたなべ、藩士) B 1 7 0 9  
暢(ちよう・伴) → 香竹(こうちく・伴ばん、国学者;歌/書) B 1 9 6 9

- 暢(ちやう・宮杜) → 藍齋(らんさい・宮杜みやもり、医者/詩人) C 4 8 2 5  
 昶(ちやう・小林) → 迎祥(げいしょう・小林こばやし、俳人/書家) G 1 8 1 2  
 昶(ちやう/ひさし?・渡辺) → 蘅園(こうえん・渡辺わたなべ、医者/詩文) H 1 9 6 7  
 昶(ちやう・柏木) → 如亭(じよてい・柏木/柏、幕府棟梁/詩) C 2 2 8 3  
 昶(ちやう・高安) → 蘆屋(ろおく・高安/高、商家/儒・書家) 5 2 4 8  
 昶(ちやう→さよし・田中/加藤) → 雀庵(じゃくあん・加藤/田中/加田、俳/隨筆) G 2 1 0 5  
 澄(ちやう・青木) → 東庵(とうあん・青木/本姓;余、儒者/詩) 3 1 7 6  
 澄(ちやう・東海林) → 式麿(しきまろ・喜多川、東海林澄、絵師) Q 2 1 1 1  
 長(ちやう;一字名) → 豊長(とよなが・高辻/菅原、廷臣/日記) R 3 1 3 8  
 長(ちやう・津田) → 龜山(きざん・五車亭、幕臣/狂歌) K 1 6 6 0  
 長(ちやう・堀) → 麦水(ばくすい・堀ほり、医/俳人) 3 6 0 9  
 長(ちやう・寺尾) → 元長(げんちやう・寺尾てらお、医者/本草) L 1 8 4 1  
 長(ちやう・日根野) → 対山(たいざん・日根野ひねの/中原、絵師) K 2 6 1 0  
 張(ちやう・橋本) → 子琴(しきん・葛かつ/橋本/葛城、医/詩人) B 2 1 6 9  
 張(ちやう・臼杵) → 横波(おうは・臼杵うすき、儒者) C 1 4 1 6  
 菫(ちやう・佐藤) → 応渠(おうきよ・佐藤、儒/医者) C 1 4 0 8  
 蝶(ちやう・小林/東) → 佩芳(はいほう・東ひがし/小林、詩歌人) C 3 6 0 6  
 調(ちやう→みつき・佐野/松岡) → 御調(みつき・松岡/佐野、神職/国学) D 4 1 2 7  
 雕(ちやう・八木) → 雕(あきら・八木やぎ、藩士/官僚/詩歌) I 1 0 5 7  
 肇(ちやう/はじめ・片山/相馬) → 九方(きゅうほう・相馬/片山、儒者/詩) I 1 6 7 7  
 肇(ちやう・楠部) → 肇(はじめ・楠部くすべ、郷土史) E 3 6 3 9  
 肇(ちやう・金) → 肇(はじめ・金こん、藩士/文筆家) E 3 6 4 0  
 肇(ちやう・寺井) → 肇(はじめ・寺井てらい、藩士/故実/画) E 3 6 4 1  
 肇(ちやう/はじめ・高橋) → 富兄(とみえ・高橋、国学者) O 3 1 8 0  
 肇(ちやう/はじめ・福田/丹羽) → 正雄(まさお・丹羽、農家/廷臣/勤王) B 4 0 4 2  
 肇(ちやう→ただし・大槻) → 俊斎(しゅんさい・大槻おおつき、蘭方医) K 2 1 7 1  
 肇(ちやう/はじめ・平松) → 周玄(ちかはる・平松ひらまつ、神職/歌人) N 2 8 3 7  
 寵(姚ちやう・鍋島) → 姚子(ちやうこ・鍋島なべしま、藩主室/歌/画) L 2 8 4 5  
 智耀(ちやう;字) → 日運(にちうん;法諱、日蓮僧) 3 3 5 1  
 致要(ちやう;初法諱) → 日政(にっせい;法諱、廉三、日蓮僧) E 3 3 7 1  
 H2809 重阿(ちやうあ、上人) ? - ? 歌人、新後拾1502・新続古823  
 [心をぞなほみがくべき墨染めの衣のうらの玉はみずとも](新後拾遺1502)  
 H2810 蝶阿(ちやうあ) ? - ? 俳人、1770祖英追善「誹諧菊農露さくのかゆ」素山と共編・跋  
 長阿(ちやうあ) → 宗長(そうちやう・紫屋軒、連歌) 2 5 1 6  
 朝阿(ちやうあ;号) → 観智(かんち;法諱・朝阿、浄土宗西山派僧) R 1 5 3 3  
 暢阿(ちやうあ;法諱) → 宣正(せんしょう・吉水よしみず、僧/歌人) Q 2 4 5 8  
 長愛(ちやうあい・井尻) → 好古(よひこ・井尻いじり/源/松島、国学) L 4 7 4 0  
 長愛子(ちやうあいし) → 可玖(かきゅう・西村、俳人) B 1 5 2 8  
 2820 長諳(ちやうあん・楠くすのき、名;正虎、大饗成隆男) 1520-9677 備前の武家故実家、河内守/式部卿法印、  
 書:飯尾常房門、足利義輝に出仕/織田信長・豊臣秀吉の右筆、歌;三条西実隆門、劍術軍略、  
 後年出家/僧;京六条大輪坊・東寺住、1587「九州陣道の記」著、  
 [長諳(;号)の通称/法号]通称;甚四郎/長左衛門、法号;遠長院日受  
 H2811 長安(ちやうあん・山科やましな/本姓;源、名;元信) 1642-8847 京の医者;独自の難聴矯正技術を開発、  
 唾科の名医と称される;法眼の位、幕府より京を追放された、1681金沢藩に出仕、  
 遯庵「日本古今人物史」序、「大和孝経」「幼科保寿口訣」著、  
 [長安(;通称)の字/号]字;申孚、号;求仁斎/菊溪子  
 H2813 張庵(ちやうあん・細合ほそあい、名;幸/孝、斗南長男) 1763-80天逝18 京の儒者;家学/父門/詩文に長ず、  
 「有菜集」編、「迂園迂語」「小郡詩囊」「絶筆詩艸附註」「敗簞いろいろ残篇」「張庵印譜」著、  
 [張庵(;号)の字/通称/別号]字;元達、通称;三弥/荘六  
 H2814 長安(ちやうあん・湊みなと、名;義胤/重胤) ?-1838 陸前石巻の医者;江戸の吉田成徳[長淑]門、

蘭医:長崎のシボルト門/師の江戸参府や本草採集に随従、1825江戸本石町で蘭方医開業、  
 のち丹波篠山藩の侍医/1833幕府天文方出仕;「厚生新編」訳述参加、「内科要方」編、  
 「リカルトレーツセ」「丹精堂掌中医方」「丹精堂隨筆」「難治症治法」著、「内科備要」訳、  
 [長安(;通称)の号] 丹精[晴/靖]堂

長安(ちょうあん・大久保) → 長安(ながやす・大久保おおくぼ/大蔵、武将/奉行/幕政) O 3 2 9 7  
 長安(ちょうあん・伊沢) → 信階(のぶしな・伊沢いざわ、蘭軒父/医者) B 3 5 6 2  
 長安(ちょうあん・井沢) → 榛軒(しんけん・井沢いざわ、蘭軒男/医者) O 2 2 1 5  
 長安(長庵ちょうあん・橋) → 尚賢(しょうけん・橋たばな、藩士/医者) I 2 2 5 0  
 長庵(ちょうあん・村田) → 以和(もちかず・村田むらた、長庵、歌人) M 4 4 1 8  
 長晏(ちょうあん) → 幸阿弥(七世こうあみ、安桃期蒔絵師) 1 9 6 7  
 聴安(ちょうあん・鷹取) → 養巴(ようは・鷹取たかとり、医者) B 4 7 5 2  
 蔦庵(ちょうあん・福田) → 文哉(ぶんさい・福田/源、医者/画/歌人) F 3 8 2 8  
 渚庵(ちょうあん/せつあん・土井) → 聳牙(ごうが・土井どい、藩儒) E 1 9 9 0  
 暢庵(ちょうあん・加藤) → 信成(のぶなり・加藤、儒/医/歌人) C 3 5 6 0  
 蝶庵(ちょうあん) → 昌海(しょうかい;法諱、僧;法橋/歌人) F 2 2 8 0  
 蝶庵(ちょうあん・早川) → 忠顕(ただあき・早川はやかわ/源、藩士/国学) Z 2 6 0 1  
 蝸庵(ちょうあん) → 暮来(ぼらい・岡崎おかざき、俳人) E 3 9 7 9  
 長闇子(ちょうあんし) → 利世(としよ・久保、神職/茶人) O 3 1 1 5  
 長闇堂(ちょうあんどう) → 利世(としよ・久保、神職/茶人) O 3 1 1 5

- H2815 **長意**(ちょうい;法諱、通称;露地和尚、俗姓:紀) **836-906**<sup>71</sup> 和泉大鳥の天台僧;顕密;円仁門、  
 灌頂;安慧門、899九世天台座主、内供奉十禅師/903法橋、奏上法印大和尚位を追贈、  
 「真言菩提心義問」「離作業灌頂記」「山灌頂号灌記」著
- H2816 **暢意**(ちょうい;法諱・照空;字) **1371-1438**<sup>68</sup> 西山派深草流浄土僧;頓乗門、円福寺6世、  
 「曼陀羅変相抄」「深草抄」著
- H2817 **朝意**(ちょうい;法諱・順良房;号、通称;木食上人) **1518-99**<sup>82</sup> 大和添上郡の真言僧/高野山眞善院僧、  
 安祥寺流;宥智門、声明;長恵「魚山薑芥ぎょざんたいかい集」など南山進流声明に独自の研究、  
 1592小野中院の伝法灌頂を勢誉に伝授、「声明秘事」「実語鈔」「知本命星」「理趣経鈔」著、  
 「日本紀秘密卷書」著、1553「安祥寺相承諸流大事口訣」受/77「弘源印信」95「諸秘讚」著
- H2818 **重位**(ちょうい/ちゅうい・しげたか/しげかた・東郷とうごう、瀬戸口重為3男) **1561-1643**<sup>83</sup> 安桃・江前期薩摩藩士、  
 武将/劍豪;示現流兵法の祖、兄重治と東郷氏嫡家東郷重虎の許可で東郷姓に復す、  
 1578日向耳川の合戦に初陣/87秀吉に敗北/88島津家久に随従し上京、  
 自顕流兵法;天寧寺僧善吉門、待捨流と合わせ示現流を考案、劍術師範/薩摩国泊の地頭、  
 儒仏・茶・歌・書に通ず、1594「東郷重位聞書」著、長門守・肥前守、  
 [重位(;名)の通称/法号]通称;弥十郎/藤兵衛、法号;能学俊芸庵主
- H2819 **澄意**(ちょうい;法諱・仙蔵坊;号、澄清男) **1637-1725**<sup>89</sup> 社僧;加賀白山本宮の長吏;父継承、法印、  
 1666七社惣長吏の綸旨を戴く/加賀藩より永世長吏職料草高百石/1717辞職、  
 歌人・季吟門、「白山問答」著、「白山諸雑事記」編、「白山長吏綸旨頂戴記」「綸旨頂戴記」著、  
 [澄意の初法諱] 仙蔵坊大進
- H2820 **澄意**(ちょうい;法諱) ? - ? 江前期元禄1688-1704頃武州南埼玉郡親和村の真言僧、  
 金剛院住僧、1698「武州埼玉郡末田邑中島金竜山妙音寺金剛院由来記」
- H2821 **長以**(ちょうい) ? - ? 丹波亀山の俳人;1691江水「元禄百人一句」入
- H2822 **調唯**(ちょうい・壺中軒、鈴木、壺嘗軒調唯男) **1715-87**<sup>73</sup> 代々甲府八日町の旅宿大津屋主人、  
 俳人;父(岸本調和門)の壺嘗軒を継承/中西大梅門、1781「やとり木」「続やとり木」編  
 [壺中軒調唯(;号)の通称/屋号/法号]通称;伝右衛門/屋号;大津屋/法号;蓮調日唯
- N2843 **朝意**(ちょうい・保栄茂ほえも、親雲上/姓;向) **1837-1911**<sup>75</sup> 琉球那覇の波上宮なみのうえぐりの宮司、  
 琉歌作者;小那覇朝親編[古今琉歌集]入、  
 [春もいなゝたい果報事も目の前心うちやかゆる年やことし]
- H2823 **澄彥**(ちょうい;法諱・天章てんしょう;道号[初め;希周]) **1379-?** **1430**存 加賀の臨濟僧;1391相国寺入、  
 1395空谷明応門/詩文;絶海門、文筆専念、「白鷗社記」「栖碧稿摘藁」「梅城録」「菅神伝」著、  
 1503「常光国師(空谷明応みょうおう)行実」、「無極(志玄)和尚伝」著、

[天章澄叟の号] 霖庵[梅庵]/呆庵/栖碧散人

長一(ちょういち・村尾/鶴殿)→士寧(しんねい・鶴殿うどの/村尾、幕臣/儒者) F 2 1 3 9

H2805 澄一(ちょういつ;法諱・慈濟軒じさいけん;号)?-? 奈良興福寺住僧/医者、「慈濟軒方」

鳥一居(ちょういつきよ) → 一人(てきじん・鳥一居、俳人) C 3 0 0 1

長意法印(ちょういほういん) → 日華(にっけ・寂日房、日蓮僧) D 3 3 8 5

N2891 長因(ちょういん;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、

歌人;1237刊[檜葉集]2首入、法眼春賢らと吉野歌合に参加、

[吉野の歌合に 旅暁月、

くれば又やどりあふべき袖ぞかしなごりをとめよしののめの月](檜葉;羈旅641)

L2811 澄胤(ちょういん;法諱・古市ふるいち、胤仙男/本姓;清原)1452-1508自害57 大和法相宗興福寺衆徒、  
1465(14歳)興福寺発心院で出家/大乘院門跡の六方衆/1475退寺;兄に代わり家督、  
1478官符衆徒の棟梁/89権律師、武将;大和古市城主/筒井氏を制圧し大和を支配、  
1508河内の畠山尚順に敗北;自害、茶人;村田珠光門/連歌;兼載を招く;心敬僧都庭訓を受、  
曲舞・尺八を愛す/茶道具を蒐集、連歌;新菟玖波集3句入、  
[澄胤の通称] 倫観坊/播磨公

H2824 長因(ちょういん・有賀あるが、名;長川/号;景義斎、長伯男)1712-7867 京の歌学者;父門/大阪に移住、  
1777景範「蔵山集」入、長収(別名;長因)の父、

H2825 長隠(ちょういん・山田やまだ) ? - ? 江中期俳人;3世一漁(須田長隠)門、  
1741「歳旦」編、「除元帖」著、

[長隠(;号)の別号] 曲秀/造化坊/花実庵/花実坊/亀硯坊

兆隠(ちょういん;初法諱) → 心越(しんえつ;道号・興儔こうちゅう;法諱、曹洞僧) D 2 2 5 3

朝尹(ちょういん・藤原) → 朝尹(あさただ・あさまさ、藤原、歌人) B 1 0 0 2

長因(ちょういん;初名;父と同名・有賀、長因男)→長収(ちょうしゅう・有賀あるが、歌学) I 2 8 7 3

長因(ちょういん・河村) → 春恒(はるつね・河村かわむら、医者) G 3 6 5 3

長員(ちょういん・進藤/中川)→自休(じきゅう・中川/藤原/進藤、廷臣/歌人) B 2 1 6 0

長隠(ちょういん・須田) → 一漁(3世いちりゅう・鶴海つるみ、俳人) B 1 1 2 9

長隠(ちょういん・金須) → 直定(なおさだ・金須さす、神道家/国学) L 3 2 8 3

長胤(ちょういん・藤とう) → 東涯(とうがい、伊藤、儒者/考証) 3 1 0 6

長胤(ちょういん・魚住) → 長胤(ながたね・魚住うおずみ/源、藩士/国学/歌) L 3 2 3 0

長胤(ちょういん・常世) → 長胤(ながたね・常世とこよ/常住、国学/神道) N 3 2 9 8

長陰(ちょういん・羽栗/吉雄)→南臯(なんこう・吉雄よしお、蘭学/医者) I 3 2 9 6

長蔭(ちょういん・伊藤) → 長蔭(ながかげ・伊藤いとう/貴志よし、薬商) L 3 2 0 9

釣隠(ちょういん・大枝) → 流芳(りゅうほう・大枝/大江/巖、香道家・煎茶) F 4 9 6 3

釣隠(ちょういん・小津) → 長澄(ながすみ・小津おづ/筒井、国学者) L 3 2 4 0

樸隠子(ちょういんし) → 頼央(よりなか・藤田ふじた、暦算家) J 4 7 2 9

H2826 蝶羽(ちょうう・下郷/下里しもさと、名;季雄/吉屋、下里知足男)1677-174165 尾張鳴海の農業、  
醸酒業千代倉家3世、俳人;父・素堂門・芭蕉門;蝶羽の称号を受、宝永1704-11頃下郷に改姓、  
芭蕉の笈を桐葉より譲受、1711「鳴海歳旦」編/「歌仙秘抄」編、12父遺稿「千鳥掛」編、  
下郷家蔵書目録「苺苔園ばいせん蔵書記」編纂着手、追善1周忌「雪の友」(弟亀世編)、  
追善7周忌「保曾根山」13周忌「伊良古の雪」23回忌「冬のうちわ」、息蝶羅ちょうらも俳人、  
[蝶羽の通称/別号] 通称;次郎八/金三郎/勘右衛門、別号;風和/習々軒/素山/蓬島隣  
参照 → 鳴海の千代倉家(なるみのちよくらげ)

L2824 長吁(ちょうう) ? - ? 江前中期俳人;蕉門系、

1685風瀑「一楼賦」入、[佛より乞食に近し夏花げな売り](一楼賦/夏安居中の供花)

H2827 聴雨(ちょうう・村上むらかみ、名;恒夫、別号;亦愚居士えきごじ)1794-186673 京の儒者、  
「四書晰文」「二経要領」著、1847「墓碑考」補

聴雨(ちょうう;号、聴雨叟)→清播(せいば;法諱・心田;道号、臨濟僧) C 2 4 8 5

聴雨(ちょうう・平井) → 聴雪(ちょうせつ・平井/服部/平、儒/詩) J 2 8 2 5

聴雨(ちょうう・山路) → 主任(ぬしづみ・山路、幕臣/天文暦算) 3 4 0 7

聴雨(ちょうう・生田) → 精(くわし・生田いくた、藩士/国学) D 1 7 5 7

- 聴雨(ちやう・神原) → 友子(ともゆき・神原かんばんら、醸造家/歌人) U 3 1 9 0  
 聴雨(ちやう・中村) → 孟政(たけまさ・中村なかむら、酒造業/歌人) Y 2 6 6 3  
 聴雨(ちやう・小山) → 川蔭(かわかげ・小山おやま、藩士/画/歌人) S 1 5 8 4  
 聴雨(ちやう・八谷) → 直人(なおと・八谷やたがい、藩士/俳人) K 3 2 4 3  
 聴雨(ちやう・杉) → 孫七郎(まごしちろう・杉/植木、藩士/日記) 4 0 7 2  
 聴雨(ちやう・林) → 保綱(やすつな・林はやし、酒造業/歌人) G 4 5 4 5  
 聴雨(ちやう・中村) → 至斎(しさい・8代中村宗哲、千家塗師) Q 2 1 4 5  
 長羽(ちやう・高野/林) → 十江(じこう・林/高野、篆刻家) E 2 1 8 6  
 聴雨庵(ちやうあん) → 茂樹(しげき・川島/革島/林、幕臣/歌人) C 2 1 1 2  
 H2828 聴雨軒主人(ちやうけんしゅじん、石津いしづ、通称;平助)?-? 読本作者、1811「昔語松虫墳」著(:御杖序)  
     亮澄と同一? → 亮澄(すげみ・石津、国学者) C 2 3 2 6  
 聴雨山房(ちやうさんぼう) → 良祺(たかひ・山村、藩代官/儒/教育) M 2 6 7 8  
 聴雨室(ちやうしつ・桑そう/桑山) → 玉洲(ぎよくしゅう・桑山、絵師) D 1 6 0 2  
 聴雨亭(ちやうてい) → 淙庵(そうあん・津村/円、商家/随筆/歌) 2 5 4 7  
 H2829 超雲(ちやううん) ? - ? 江戸俳諧宗匠、1752刊「江戸十余歌仙」独吟歌仙入  
     超雲(ちやううん;号) → 弁旭(べんきょく;法諱・北条、浄土宗大僧正) B 2 7 5 5  
     頂雲軒(ちやううんけん) → 三千風(みちかぜ・三井、俳人) 4 1 0 3  
     鳥雲舎(ちやううんしゃ) → 文推(ぶんすい・鳥雲舎、俳人) F 3 8 8 5  
 H2830 朝恵(ちやうえ;法諱、興福寺寺主義朝ぎちやう男)?-? 平安末期:興福寺法相僧;1174興福寺都維那、  
     1187解官、歌人;1171(嘉応3)南都松下歌合参加/1186(文治2)春日神社若宮歌合参加、  
     玄玉集・檜葉集(14首)・万代集入集、勅撰2首;千載739/新古今504、  
     [村雲や雁の羽かぜにはれぬらむ声きく空にすめる月影](新古今;五秋504)、  
     [春日社若宮歌合 海辺月、  
     播磨がたしほひにあさるしろたづのこゑもさやかにすめる月かな](檜葉;神祇507)  
 H2831 長恵(ちやうえ;法諱、聖覚せいかく男)?-?1265前没 鎌倉期東大寺華嚴僧;聖覚門/藤原長兼の猶子、  
     法印/権大僧都、歌;勅撰2首;続後撰1184/続古今814、  
     [そむかぬをそむく世とてぞなぐさむるあるにもあらで年経ぬる身は](続後撰;十七1184)  
 H2832 朝恵(ちやうえ;法諱) ? - ? 南北期天台宗延暦寺僧、1366「秘印并口伝」  
 H2833 澄慧(ちやうえ;法諱、財河[大江]親重男)1432-151685 真言醍醐寺僧;行樹院権僧正、  
     松橋流;慈心印俊慶門/賢深門;法嗣、源雅の師、1501「四度加行日記」著、  
     「四度加行用心」「十金胎護抄」「准胝法」著  
 H2834 長恵(ちやうえ;法諱・智生房;号)1458-152467 武蔵の真言宗高野山明王院僧;忠義法印門  
     醍醐寺清浄光院住/鎌倉二階堂別当/高野山往生院谷住、南山進流声明の研究整備に尽力、  
     1496「声明集乙」/「魚山藁芥ぎざんたいかい集」、「法華十二論義」「曼荼羅供」「両壇邊堂作法」、  
     [長恵の通称] 清浄光院/二階堂  
 H2835 澄栄(ちやうえい;法諱、字;春雄、俗姓;佐々木)1586-165065 出雲仁田郡の真言僧;岩屋寺で出家、  
     高野山無量寿院僧/灌頂;同院覚雄門、声明、1637後水尾上皇に十住心論講義;法印大和尚位、  
     「性霊集私鈔」「十住心論大綱記」「住心教葉」「愛染一時観」「三車四車」「試験鈔」外著多数、  
 H2836 調栄(ちやうえい) ? - ? 江前期俳人、1680梅朝「江戸大坂通し馬」入  
 N2805 朝衛(ちやうえい・東風平ちちんだ、唐名;向傑、久志按司朝右男)1701-6666 母;毛氏真牛、琉球廷臣;  
     親方ちちんだ、豊見城御殿門中の向氏当銘殿内2代目(門中の3世)、1752三司官;蔡温の後継、  
     政治家、田里たさと親雲上べーちん朝直(組踊作者)の兄、琉歌の名人;沖繩36歌仙の1、  
     [名にききししのぶ高雄のもみち葉をいま手にとりて君ぞ見せたる]、  
     (宜湾朝保[沖繩集]入)  
 H2838 長衛(ちやうえい・白栄堂) ? - ? 実録、1787「太閤真蹟記」著  
 N2875 朝英(ちやうえい・読谷山ゆんたんだ、唐名;尚大烈、朝憲男)1767-181650 琉球王族;国相、  
     読谷山御殿うどうん2世、読谷山間切の按司地頭家(大名)、寺社・大与・宗門改奉行/のち王子、  
     尚灑王しょうこうおう(1787-1839)の即位謝恩のための正使、琉歌人  
 H2839 長英(ちやうえい・高野たかの、名;讓、後藤実慶男)1804-50自尽47 伯父高野玄斎の養子、  
     陸中水沢の医者、幼時に父没;伯父により養育、蘭医;1820江戸で杉田伯元門・吉田長淑門、

1825長崎でシボルト門、1830江戸麹町の町医開業;生理学を研究/33尚齒会を結成、  
渡辺崋山・小関三英らと交流、1838「戊戌夢物語」で幕政批判、39蛮社獄で刑、  
1844脱獄;諸国遍歴/49変名で江戸で町医開業、1850幕吏に襲われ自尽、  
「医原枢要」「和蘭史略」「外科学辞書」「医原枢要」「西洋雑話」「黴瘡或問」「牛痘接法」著、  
「眼目究理編」「瑞臯堂方集」外著・訳書多数、「咸宜園百家詩」入、  
[長英(通称)の字/別通称/号]字;卿齋、別通称;悦三郎、

号;瑞臯/瑞華/暁夢楼/驚夢山人/幻夢山人/無名士/大観堂/大竜堂、

[変名] 高柳柳之助/沢さわ三伯、法号;拡充軒俊翁長英庵主

H2837 **彫栄**(ちやうえい・万代堂、通称;高橋屋栄助)?-? 江後期陸前仙台の俳人、

1858「陸奥百句集」編、「しんせき集」編

長英(ちやうえい/ながひで?・伊藤)→ 梅宇(ばいゆ・伊藤いと、儒者/詩/俳) 3 6 0 1  
 長英(ちやうえい・相良) → ト山(ぼくざん・相良さがら、儒者/詩人) D 3 9 2 3  
 長英(ちやうえい・山本) → 若麟(じゃくりん・山本/河村、絵師) G 2 1 4 1  
 長盈(ちやうえい・吉瀬) → 源兵衛(げんべえ・吉瀬よしせ、和算家) M 1 8 2 1  
 長盈(ちやうえい・島岡) → 山鳥(さんちやう・岡おか、戯作者) E 2 0 5 7  
 長盈(ちやうえい・井上) → 長盈(ながみつ・井上いのうえ/名越、神職) L 3 2 0 6  
 長鋭(ちやうえい・鶴殿) → 鳩翁(きゅうおう・鶴殿うどの/熊倉、幕臣/歌) S 1 6 8 9  
 肇叡(ちやうえい;初法諱) → 靈巖(れいがん;法諱、浄土僧) 5 1 1 7  
 長詠館(ちやうえいかん) → 朝興(ともおき・神白こうじろ、神職/歌人) V 3 1 2 0  
 長栄軒(ちやうえいけん) → 春信(はるのぶ・鈴木、絵師) G 3 6 6 9  
 長益(ちやうえき・河村) → 秀世(ひでよ/ひでつぐ・河村、藩士/歌人) E 3 7 0 8  
 長益(ちやうえき・本保) → 長益(ながます・本保ほんぼ、藩士/詩人) F 3 2 8 1  
 長易(ちやうえき・渡辺) → 長易(ながやす・渡辺わたなべ、神道/歌人) P 3 2 3 7  
 長悦(ちやうえつ) → 宗悦(そうえつ、猪苗代半醒齋、連歌) 2 5 6 5

H2841 **長右衛門**(ちやうえもん・伊藤、名;道清)?-? 江前期俳人;1673西鶴「生玉万句」の執筆しゅひつもの1、

1675西鶴「独吟一日千句」の執筆、

連歌;1697良恵「柴屋寺奉納発句」参(宗静発案)

長右衛門(ちやうえもん・内海)→ 宗恵(そうけい・内海うつみ、商家/俳・歌人) B 2 5 1 8  
 長右衛門(ちやうえもん・鈴木)→ 重長(しげなが・鈴木すずき、歌人) a 2 1 6 6  
 長右衛門(ちやうえもん・虎屋)→ 源太夫(げんだゆう・虎屋、浄瑠璃太夫) E 1 8 3 5  
 長右衛門(ちやうえもん・備中屋)→ 長十郎(ちやうじやうろう・沢村、歌舞伎役者) I 2 8 7 6  
 長右衛門(ちやうえもん・松本)→ 非群(ひぐん・松本、氷固、商人/俳人) 3 7 5 0  
 長右衛門(ちやうえもん・尾張屋)→ 淇水(きすい・津下/久松、俳人) K 1 6 9  
 長右衛門(ちやうえもん・谷)→ 安殷(やすしげ・谷たに、商家/歌人) G 4 5 2 5  
 長右衛門(ちやうえもん・甲賀屋)→ 辰行(たつゆき・奥倉、商家/絵師) R 2 6 6 8  
 長右衛門(ちやうえもん・岡部)→ 政信(まさのぶ・岡部おかべ、神職/真淵父) O 4 0 5 8  
 長右衛門(ちやうえもん・白井)→ 梅可(ばいか・白井しらい、俳人) 3 6 7 5  
 長右衛門(ちやうえもん・西井)→ 桂叟(けいそう・西井にい、国学者) G 1 8 2 9  
 長右衛門(ちやうえもん・関岡)→ 野洲良(あやら・関岡せきおか/榛原/梅原、能楽装束/歌学) D 4 5 6 3  
 長右衛門(ちやうえもん・黒沢)→ 道形(みちかた・黒沢/二階堂、郷土史家) B 4 1 3 4  
 長右衛門(ちやうえもん・鴻池)→ 籃果亭拾栗(らんかていじゅうりつ、商家/狂歌) B 4 8 6 9  
 長右衛門(ちやうえもん・丹羽)→ 木公(もっこう・丹羽にわ、俳人) B 4 4 8 8  
 長右衛門(ちやうえもん・地主)→ 文二(ぶんじ・地主ぢぬし、俳人) F 3 8 5 5  
 長右衛門(ちやうえもん・今村屋)→ 村雄(むらお・今村いまむら、国学/寺子屋) D 4 2 6 7  
 長右衛門(ちやうえもん・油屋)→ 篤利(あつとし・山崎やまさき/平/山口、商家/国学) I 1 0 6 7  
 長右衛門(ちやうえもん・吉田)→ 利充(としみつ・吉田よしだ、農業/歌人) K 3 1 9 9  
 長右衛門(ちやうえもん・吉田)→ 利和(としかず・吉田、利充の孫/歌人) M 3 1 1 4  
 長右衛門(ちやうえもん・初川)→ 春躬(はるみ・初川はつかわ、商家/和学) K 3 6 6 1  
 長右衛門(ちやうえもん・初川)→ 春近(はるちか・初川、春躬男/商家/和学) K 3 6 6 2  
 長右衛門(ちやうえもん・蒲) → 正村(まさむら・蒲がま/長谷川、神職/国学) O 4 0 9 8

- 長右衛門(ちょうえもん・辻) → 春信(はるのぶ・辻つじ、里長/国学者) K 3 6 4 6  
 長右衛門(ちょうえもん・蒲) → 八十村(やそむら・蒲がま、正茂男/商/国学/歌) F 4 5 7 7  
 長右衛門(ちょうえもん・二木) → 恭豊(たかとよ・二木ふたき/にき、酒造業/歌) Z 2 6 3 7  
 長右衛門(ちょうえもん・二木) → 秀幹(ひでもと・二木、恭豊男/商家/歌) K 3 7 9 0  
 長右衛門(ちょうえもん・二木) → 秀枝(ひでえ・二木、秀幹男/商家/歌) K 3 7 8 9  
 長右衛門(ちょうえもん・津村) → 信正(のぶまさ・津村つむら/藤原/長野、藩士/歌) J 3 5 1 3  
 長右衛門(ちょうえもん・守田) → 旁通(まさみち・守田もりた、国学/歌人) T 4 0 2 2  
 長右衛門(ちょうえもん・市岡) → 殷政(しげまさ・市岡いちおか/源/北原、本陣/勤王) N 2 1 3 9  
 長右衛門(ちょうえもん・清水) → 晴国(はるくに・清水しみず、藩士/歌人) K 3 6 2 6  
 長右衛門(ちょうえもん・中山) → 高包(たかかね・中山なかやま、歌人/代官臣) Y 2 6 6 6
- H2842 長円(ちょうえん;法諱) ? - ? 平安後期法相僧、興福寺知事法師、  
 1070「興福寺田畠資財帖」共編(尋慶と)
- H2843 長宴(ちょうえん;法諱、小野重経男) 1016-1081<sup>66</sup> 平安後期天台宗叡山大原勝林寺住の学僧、  
 顕密;慶命・寛円門、事相の奥秘;皇慶門;正嫡/1065権律師/67元慶寺別当/76権少僧都、  
 流派を大原流と称す、1039「観音集」42「今官応身」46「胎灌問受集」48「愛染王口伝大原」、  
 「観音抄」「灌頂秘要記」「用心草」「胎金灌頂私記」「胎蔵界大灌頂秘要私記」外著多数、  
 歌;1062無動寺和尚賢聖院歌合参加;左方(比叡山延暦寺塔頭無動寺で検校広算主催)、  
 [ゆきかよふ跡見えぬまでふかみどり色さびにけり庭の苔ちは](賢聖院歌合;六番左11)  
 [長宴の通称] 大原僧都/勝林上綱
- H2844 重円(ちょうえん;法諱、源忠重男) 1162-1249<sup>88</sup> 天台宗園城寺僧;真円門;両部の大法を受、  
 伝法大阿闍梨、三大部秘法;良慶門、探題/別当/1239長吏/僧正;修多羅院住、  
 「金玉集」「結縁灌頂記」「四度前説抄記」「寛喜年中真言所習之義」著
- H2845 澄円(ちょうえん;法諱) 1218 - ? 1284<sup>存</sup> 河内錦部郡城別所の天台僧;高野山西院若集院住、  
 東密の書をまとめる、1280「普賢延命雑集」84「童子経法雑集」、「雑集」著
- H2846 長円(ちょうえん;法諱) ? - ? 鎌倉期法師、歌人;宇都宮歌壇?、新和歌集入、  
 1320成立「続千載集」463(読人しらず?);  
 [なれてみる同じ光の月のみやむそぢの秋の友となるらむ](続千載463)
- H2847 朝円(ちょうえん;法諱、尊勝院、世尊寺経朝男)?-? 鎌倉末期天台僧;叡山法印大僧都、日野別当、  
 歌人;新千載集862;  
 [水の面にうつるも同じ影ながらひとつ空にぞ月はすみける](新千載862)
- 2846 澄円(ちょうえん;法諱、源みなもと義貞男) 1290-1371<sup>82</sup> 和泉堺浜僧;東大寺で出家/のち天台・禅を修学、  
 京で浄土僧;九本寺義を修学、白旗義;鎌倉光明寺寂恵・定恵門、1325入元;廬山東林寺修学、  
 1329帰国;堺に旭蓮社大阿弥陀経寺を開創/禅宗を非難し浄土宗義の確立に尽力、  
 「夢中松風論」(:夢窓疎石批判)、「浄土十勝節箋論」「往生礼讃鈔」「往生礼讃類聚鈔」外著多、  
 [澄円の別法諱/号]別法諱;浄円/智円/智演、号;旭蓮社/昇蓮社
- H2851 重円(ちょうえん;法諱) ? - ? 1424<sup>存</sup> 天台宗叡山無動寺円頓房の住僧;法印、  
 1408「義科案立三身義」1423「一生破無明椿堂」著
- 長遠(ちょうえん;法諱) → 韶陽(しょうよう;道号、臨濟僧) L 2 2 8 1  
 長遠(ちょうえん、1385「石山百韻」参) → 長遠(ながとお・東坊城ひがしぼうじょう、廷臣/歌人) E 3 2 6 7  
 長遠(ちょうえん・小笠原) → 長遠(ながとお・小笠原おがさわら/源、幕臣) K 3 2 3 4  
 長延(ちょうえん/ながのぶ・松岡) → 能一(よしかず・松岡まつおか、和算家) C 4 7 4 9  
 長延(ちょうえん・清岡) → 長延(ながのぶ・清岡きよおか、廷臣/文章博士) L 3 2 9 0  
 長延(ちょうえん・中川) → 長延(ながのぶ・中川なかがわ/藤原、廷臣/歌) F 3 2 1 9  
 澄円(ちょうえん;法諱・木橋) → 木橋(もつきょう;道号・澄円、曹洞僧) B 4 4 8 4  
 澄円(ちょうえん;僧名) → 東里(とうり・中根、儒者/教育) I 3 1 0 5  
 澄淵(ちょうえん;法諱) → 超精(ちょうせい・美園みその、真宗僧/国学) N 2 8 6 0  
 暢園(暢園ちょうえん・岡田) → 新川(しんせん・岡田、藩儒/詩人) 2 2 4 4  
 長遠院(ちょうえんいん→ちょうおんいん) → 日樹(にちじゅ;法諱、日蓮僧) C 3 3 0 9  
 長遠院(ちょうえんいん→ちょうおんいん) → 日遵(にちじゅん;法諱、日蓮僧) C 3 3 2 4
- L2855 釣翁(ちょうおう・建部たけべ) ? - ? 江後期;歌人、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [染めてこそそれと知らるれ深みどり松の木の間の峰のもみぢ葉]、  
 (大江戸倭歌;秋986/松間紅葉)

長翁(ちようおう・氷室)	→	長翁(ながとし・氷室、神職/歌人)	E 3 2 8 7
長翁(ちようおう・入江)	→	昌喜(昌熹まさよし・入江、国学者/歌)	I 4 0 5 3
長翁(ちようおう・森野)	→	稍隆(すえたか・森野もりの、農業/国学/歌)	J 2 3 3 1
長央(ちようおう・村井)	→	長央(ながなか・村井、歌人)	F 3 2 0 2
潮翁(ちようおう・玉木)	→	正英(まさひで・玉木/大村/橘、神道)	G 4 0 6 6
潮翁(ちようおう・岡田)	→	磐斎(ばんさい・岡田、正英門/神道家)	H 3 6 6 8
潮翁(ちようおう・賀茂)	→	清茂(きよしげ・岡本/賀茂/中大路、神職/故実)	H 1 6 4 1
釣翁(ちようおう・酒巻)	→	立兆(りつちよう・酒巻さかまき、絵師)	C 4 9 1 2
聴鶯(ちようおう・久志本)	→	常庸(つねのぶ・久志本/度会、神職/歌)	D 2 9 0 5
暢往(ちようおう・古川)	→	凶書(ずしよ・古川ふるかわ、藩家老/財政)	F 2 3 2 3
跳翁(ちようおう・多賀谷)	→	源兵衛(げんべえ・宮部みやべ、藩士/俳人)	M 1 8 1 9
聴鷗軒(ちようおうけん)	→	三千雄(みちお・松田、酒造業/俳/詩)	B 4 1 2 7
嘲鷗子(ちようおうし)	→	如白(にょじ・石井、俳人)	F 3 3 9 2
聴鶯舎(ちようおうしゃ)	→	米山(べいざん・加藤、藩士/儒者/教育)	2 7 4 4
朝桜楼(ちようおうろう:画号)	→	国芳(くによし・歌川、絵師)	B 1 7 0 1

H2852 **潮音**(ちようおん;道号・道海;法諱、俗姓;楠田)1628-9568 肥前小城の僧;慈雲寺泰雲・医王寺瑞巖門、1678上京;遊歴し内典外典を修学、黄檗僧:隠元・木庵門;1671木庵の嗣法、江戸大慈庵住持、20余箇寺開山/嗣法門人63人・授戒者10余万人、歴史/神道研究、美濃臨川寺没、1682偽書「先代旧事本紀大成経」出版連座、「詠歌本紀」「不動経要解」「指月夜話」「臘扇集」、「南牧樵夫百吟集」「潮音禅師語録」1687「扶桑護仏神論」94「扶桑三道権輿録」外著多数、[潮音道海の号] 南牧樵夫

H2853 **潮音**(ちようおん;法諱・禅海;字、俗姓;加藤、長島八郎右衛門男)?-1767 佐渡玉川村の農業、北椿村の曹洞宗常慶寺で出家薙髮/1716頃常慶寺住持、吉井剛安寺15世、和漢学/史学/寺社縁起研究、「佐渡古実物語」「撮要年代記」著

朝温(ちようおん・駒井)	→	朝温(ともあつ・駒井こまい、幕臣/歌)	T 3 1 7 2
朝音(ちようおん・湯沢)	→	朝音(あさね・湯沢ゆさわ/島村、神職/国学)	I 1 0 7 6
潮音(ちようおん;字)	→	日是(にちぜ;法諱・勇猛院、日蓮僧)	C 3 3 5 7
潮音(ちようおん;字)	→	慧海(えかい;法諱・潮音、真宗僧)	D 1 3 5 2
潮音(ちようおん;号)	→	宗賢(しゅうけん;法諱、真宗本願寺派僧)	X 2 1 1 0
潮音(ちようおん;字)	→	元智(えんち;法諱・潮音、真言僧)	L 1 8 0 8
潮音(ちようおん・幡野)	→	忠孚(たださね・幡野はたの、藩士/国学者)	P 2 6 5 2
長温(ちようおん/ながあつ?・竹中)	→	瀨山(はざん・田阪たさか/竹中、儒者)	E 3 6 3 1
長遠院(ちようおんいん)	→	日樹(にちじゅ;法諱、日蓮僧)	C 3 3 0 9
長遠院(ちようおんいん)	→	日遵(にちじゆん;法諱・了遠、日蓮僧)	C 3 3 2 4
暢音院(ちようおんいん)	→	賞賢(しょうけん;法諱、真宗本願寺派僧)	I 2 2 4 5
長恩堂(ちようおんどう)	→	応賀(おうが・万亭、合巻)	B 1 4 6 2
長遠阿闍梨(ちようおんのあじり)	→	日詳(にっしょう・守眞院、日蓮僧)	E 3 3 2 6

H2854 **調柯**(ちようか;号・江原えばら、壺仙堂、風和[1652-1712]男)?-? 江中期江戸俳人;父門、珪林と交流、調和系俳諧を出羽に普及、1736竹郎「茶話稿」入、1737刊「御撰集」編、和牛の兄

H2855 **潮花**(ちようか・伊東いとう)1810- 188071 講釈士・伊東派:燕晋門、易・茶に通ず

長家(ちようか・藤原)	→	長家(ながいえ・藤原、権大納言/歌人)	D 3 2 2 0
茗華(ちようか・山厓)	→	洪(こう;名・山厓やまざし、医者)	H 1 9 1 3
朝華(ちようか・正墻)	→	適処(てきしよ・正墻しょうがき、藩儒/詩)	B 3 0 9 8

H2856 **蝶我**(ちようが・藤原) ? - ? 江中期京の俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」57句入  
 [韓信もここを潜ぐりし踊りかな](万国燕;18)

H2857 **長河**(ちようが) ? - ? 加賀小松の俳人;樗良「俳諧月の夜」1句入  
 [照る月をいとはで雲の秋の風](月の夜;164)

- 長雅(ちやうが・藤原) → 長雅(ながまさ・藤原、花山院鷹司、歌) F 3 2 6 9  
 長雅(ちやうが・平間) → 長雅(ながまさ・平間、歌学者) 3 2 1 8  
 長河(ちやうが・ながかわ?・榊原) → 桂蔵(けいぞう・榊原さかきばら、歌人) N 1 8 4 6  
 長牙(ちやうが) → 風状(ふうじやう・正木、俳人) 3 8 8 2  
 鳥我(ちやうが・平蕪庵) → 敲氷(こうひやう・平橋庵、上矢、俳人) B 1 9 8 7  
 調菓軒(ちやうかあん) → 貞富(ていふ・榎並、菓子商/狂歌) B 3 0 6 0
- N2895 齋海(ちやうかい;法諱、) ? - ? 鎌倉期;南都の僧/法師、歌;1237刊[檜葉集]入、  
 [はつかりのたよりにつくる玉づさを雲みのよその人やみつらむ](檜葉;雑814)
- H2859 長海(ちやうかい;法諱、通称;対馬法眼)?-? 江初期真言宗:醍醐寺三宝院の寺僧、法眼、  
 連歌、1616元和二年正月昌琢と何船百韻/16玄仲と何路百韻/23元和九年昌琢と山何百韻、
- H2860 聴海(ちやうかい;法諱) ? - ? 僧;法印、連歌;菟玖波集;雑入
- H2861 超海(ちやうかい;法諱、別法諱;通性つうしやう)?-? 江中期和泉大島郡平井村の真言宗安樂寺僧、  
 1738「金輪寺中興律主禅竜義融和尚行実記」33「瑞応塵露集」64「続瑞応伝」外著多数
- 重懐(ちやうかい) → 重懐(じゅうかい/ちやうかい、僧/歌謡) G 2 1 9 8  
 鳥海(ちやうかい・小田野) → 直武(なおたけ・小田野おだの、絵師) B 3 2 5 2  
 長快(ちやうかい・鶴殿) → 長快(ながよし・鶴殿うどの、幕臣/文筆) G 3 2 4 4  
 長愷(ちやうがい・引頭いんとう/滝) → 鶴台(かくだい・滝たき、藩士/儒/国史) B 1 5 6 7  
 長涯(ちやうがい・間) → 重富(しげとみ・間はさま/羽間、商家/天文暦算) R 2 1 7 1  
 聴海庵(ちやうかいあん) → 高克(たかかつ・藤堂とうどう、藩家老/教育) Y 2 6 3 9
- H2862 長覚(ちやうかく;法諱、左京大夫藤原頼輔男)?-? 平安後期法師;真言宗仁和寺の阿闍梨、  
 歌人/勅撰4首;千載(250/324)続後撰(495)続拾遺(241)、  
 [心をば千草の色にそむれども袖にうつるは萩が花ずり](千載集;四秋250)
- N2897 澄覚(ちやうかく;法諱、源師光男)?-? 平安鎌倉期;延暦寺・法勝寺の天台僧、  
 具親ともちか・泰光・尋恵・宮内卿(・後鳥羽院女房歌人)の兄弟、権僧正、  
 歌人;1253-4成立[雲葉集]入、母も新統古今歌人(1325/澄覚母)、  
 [吹く風のいつも身にしむおとは山松には秋やときはなるらん](雲葉;秋636)
- 父 → 師光(もろみつ・源、歌人) H 4 4 9 7  
 兄弟 → 具親(ともちか・源、歌人) P 3 1 7 5  
 → 泰光(やすみつ・源、歌人) D 4 5 1 1  
 → 尋恵(じんえ、天台僧/歌人) V 2 2 8 2  
 → 宮内卿(くわいきやう・後鳥羽院、歌人) 1 7 0 5
- H2863 長覚(ちやうかく;法諱・本智房;号、安達四郎左衛門時重男)1346-1416? 出羽真言僧;湯殿山で出家、  
 高野山で修学/諸国修行/1403高野山東禅院住/08無量寿院門主;寿門学派(不二門派)形成、  
 宝性院宥快の宝門学派(而二派)と屹立、賢重門四天王(頼円・長覚・宥快・源法)、  
 「悉曇字記鈔」「大疎指南鈔」「大疎二末聞書」「六大仏形事等」「釈論十二私記」著
- H2864 長鶴(ちやうかく) ? - ? 俳人、1741「千々の秋」常仙と共編・跋
- H2865 長鶴(2世ちやうかく) ? - ? 江中期江戸俳人;雑俳/沾洲座点者、  
 1754竹翁「誹諧童の的」評点句入
- H2866 鳥角(ちやうかく・中井なかい) ? - ? 江戸中期俳人、1767「葉隠井」編
- 澄覚(ちやうかく;法名) → 為村(ためむら・冷泉、廷臣/歌人) 2 6 7 9  
 澄覚(ちやうかく;法諱) → 澄覚法親王(ちやうかくほつしんのう、天台座主/歌人) H 2 8 6 8  
 長鶴(ちやうかく;初号・志村) → 常仙(じやうせん・志村むら、俳人) T 2 2 9 3  
 調鶴(ちやうかく・井上) → 文雄(ふみお/もんゆう・井上、医者/歌人) 3 8 2 6
- H2867 鳥岳(ちやうかく・熊井くまい) ? - 1868 江戸後期;京四条高倉東の俳人、  
 1862「かさやとり」編  
 [鳥岳(;号)の別号] 大草園/長息庵
- 長岳(ちやうかく・松岡) → 内平(うちひら・松岡、国学者/歌) D 1 2 1 0  
 釣客子(ちやうかくし) → 嘉長(よしなが・宮内/清原/永井、神職/和漢学) F 4 7 3 1
- H2868 澄覚法親王(ちやうかくほつしんのう、雅成親王男)1219-89? 後鳥羽院の孫/母;藤原親経(or忠綱?)女、  
 1239出家、尊快親王門、梶井宮門跡、1265天台座主84代/71天台座主再任87代、大僧正、

歌人;家集「澄覚法親王集」、「布引滝百首和歌」、人家集・和漢兼作集・閑月集入集、  
勅撰26首;続後撰(1211)続古(5首309/321以下)続拾遺(7首)新後撰(3首)玉葉(2首)以下、  
[澄覚法親王の法諱/通称/法号]法諱;澄覚、通称;円融房、法号;菩提院

- H2869 **澄覚母**(ちようかくのはは) ? - ? 源師光の妻、平安鎌倉期歌人、新続古今1325、  
子の澄覚[1151-59頃]は延暦寺・法勝寺の天台僧、  
[はかなくて覚めにし夢の別まで思へばつらし有明の月](新続古;恋1325)  
調菓軒(ちようかけん) → 貞富(ていふ・花実庵、俳・狂歌) B 3 0 6 0  
彫窟主人(ちようかしゅじん) → 馬琴(ばきん・曲亭きょくてい、読本作者) 3 6 0 7  
朝葛(ちようかつ・狛) → 朝葛(ともかず・狛こま、楽人) P 3 1 3 4  
張葛居辰(ちようかつきよしん、金栗、東海陳人) → 居辰(きよしん・張葛、戯作) H 1 6 4 3  
超花亭(ちようかてい) → 筱斎(えきさい・狩谷かりや、国学/漢学者) 1 3 0 7
- H2870 **朝霞亭波音**(ちようかていなみおと、本名;江波屋なみや清五郎)?-? 江戸桜田善右衛門町の商家/狂歌作者、  
2世森羅亭(七珍万宝)社中、1844刊「俳諧歌花相舐」編、  
[朝霞亭波音(;号)の別号] 波音/朝霞亭/大江波音  
張華堂(ちようかどう) → 玄瑞(げんずい・近藤こんどう、医者) K 1 8 3 3
- H2871 **調歌堂真枝**(ちようかどうさねき、姓;木村きむら、通称;宮之助)?-? 羽前天童藩士、狂歌、「花ちるさと」編  
朝霞楼(ちようかりう) → 芳幾(よしき・落合/歌川、絵師) C 4 7 1 8  
朝霞楼(ちようかりう) → 芳春(よしはる・歌川うたがわ/生田、絵師) G 4 7 1 5
- H2872 **長感**(ちようかん;法諱、応沾;字)?-1624 浄土宗西山派西谷流僧/紀伊梶取の総持寺19世、  
1615京二条城で徳川家康と対面;条目・朱印を受、「曼陀羅大略抄」「曼陀羅長感記」著
- H2873 **長鑑**(ちようかん・小笠原おがさわら、通称;二郎太郎)1695-? 1777存 長門萩藩士、1774「防長古器考」編
- M2862 **長寛**(ちようかん・佐野さの、長浜屋治兵衛2男)1784-185673(一説1791-186373) 京新町三条の漆工、  
高麗から渡来の漆工張寛5代末葉を自称、1814各地を曆遊;漆芸技法を修得/江戸で研鑽;  
黒漆塗に長ず、1825(文政8)帰京弊衣蓬髪を恥じず常に斬新な意匠の創意、国学者、  
[長寛(;名)の通称/号]通称;治兵衛(父の称)/長浜屋治助、号;覚々斎、屋号;長浜屋  
朝観(長寛ちようかん) → 志賀寺上人(しがでらしょうにん、修行僧) M 2 1 1 3  
朝完(ちようかん・安井) → 滄洲(そうしゅう・安井、藩儒/息軒の父) B 2 5 8 4  
長閑(ちようかん・木俣) → 守易(もりやす・木俣きまた/橋、藩老/楽焼) J 4 4 7 9  
長閑(ちようかん・菊池) → 武章(たけふみ・菊池きくち、儒者/国学) W 2 6 7 6  
長寛(ちようかん/ながひろ・黒田) → 綱政(つなまさ・黒田/松平、藩主/連歌) B 2 9 2 9  
長寛(ちようかん→ながひろ・原田) → 永寛(ながひろ・原田はらだ、神職/医者/詩歌) O 3 2 4 6  
長鑑(ちようかん・森) → 長鑑(ながあき・森もり、歌人) K 3 2 5 3  
澄観(ちようかん;法名) → 基衡(もとひら・園その/藤原、廷臣/歌) E 4 4 0 5  
澄観(ちようかん;法諱) → 証観(しょうかん;法諱、天台僧/歌人) F 2 2 9 2  
澄鑿(ちようかん;法名) → 俊成(としなり/しゅんぜい・藤原、廷臣/歌人) 3 1 4 7
- H2874 **調丸**(ちようがん) ? - ? 俳人、1691不角「二葉之松」2句入
- H2875 **釣竿子**(ちようかんし) ? - ? 俳人、1675「宮城野」(絵俳書)編  
釣巖叟(ちようがんそう) → 梅溪(ばいけい・李り、漢学者) B 3 6 0 0  
長閑堂(ちようかんどう) → 貞因(ていいん・榎並/永田/鯛屋、俳人/狂歌) 3 0 0 1  
長閑堂(ちようかんどう) → 好直(よしなお・立石たていし、藩士/歌人) N 4 7 8 6  
懲勸房(ちようかんぼう) → 唯心(ゆいしん;法諱、真言僧) 4 6 4 0
- H2876 **澄基**(ちようき;法諱、法印静澄男or静澄兄の帥法印源基男)?-? 鎌倉南北期;聖護院坊官出身/法眼、  
歌人;藤葉集入集/1350為世十三回忌和歌出詠、勅撰2首;新千載1332/新後拾遺889、  
[言の葉になほこそまよへ偽と思ひもはてぬ心よわさは](新千;恋1332)  
[思ふよりやがて色にぞ出でぬべきまだせきなれぬ袖の涙は](藤葉;恋394)
- H2877 **朝騎**(ちようき・北谷ちやたん、摂政の朝愛男)1722-? 琉球廷臣/右筆豊川親方正英を薩摩に派遣;  
1761[中山要案]を完成、琉歌作者、「琉歌全集」5首入、  
[ときはなる松の変ること無さめ/いつも春くれば色どまさる]
- H2878 **朝寄**(ちようき・屋嘉比やかび)1716-177560 琉歌集三線楽譜「屋嘉比朝寄工工四くんくんい」編
- H2879 **朝暉**(ちようき・通称;中村屋祐三郎)?-? 江後期安藝竹原の商家/俳人、

芭蕉碑建立;1826記念集「桜麻さくらあさ集」著、  
[かたはみの花も咲なり朝曇](1836洒入「きさらぎ集」)

- H2880 **長基**(ちようき・有賀あるが、号;義貫斎/法号;慈光院)1777-1833<sup>57</sup> 大阪の歌学者;有賀長取門、  
長取の養嗣子;歌道有賀家6代目を継嗣、「からのやまとの歌」編、長隣ちようりんの父
- L2897 **朝薫**(ちようき・浦添うらそえ、唐名;尚元魯)?-1853 琉球の政治家/尚真王の第3子尚韶威の子孫、  
1835-52頃国相(摂政)を務める;王子の位を賜う、  
1842年慶賀正使とし江戸で將軍家慶と会見、使者として江戸・薩摩を往来、  
歌人;石川大樹(雅希)園・香川景樹門、沖縄三十六歌仙の1、漢詩集「東遊草」著、  
[今朝ははや鶉の床も寒からむ霜おく野辺の深草の里](春嶽[古今百人一首]入;98)
- H2881 **蝶嬉**(ちようき・東雅園とうがえん)?- ? 江後期江戸茶番:愛染連、  
1852愛染連中口上茶番集「茶番頓智論」翠柳亭梅鶯と共催  
長喜(ちようき・栄松斎) → 栄松斎(えいしょうさい・長喜ちようき、絵師) B 1 3 4 9  
長喜(ちようき;字) → 日恵(にちえ;法諱、日蓮僧) 3 3 5 4  
長紀(ちようき・池田) → 長紀(ながのり・池田いけだ/伊木、家老/歌) L 3 2 1 2  
長熙(ちようき・ながひろ・高橋) → 東陽(とうよう・高橋、儒者/詩) H 3 1 7 6  
長軌(ちようき・黒田) → 長軌(ながのり・黒田、藩主/連歌) F 3 2 2 8  
長軌(ちようき・毛利) → 梅園(ばいえん・毛利/野里、本草学/画) 3 6 6 6  
朝輝(ちようき・宮後/檜垣) → 貞董(さだのぶ・檜垣/度会/松本、神職) J 2 0 2 0
- H2882 **調義**(ちようぎ) ?- ? 江前期俳人;1690不卜「続の原」1句入  
[昼泉あさほのまとふ草履さうりもあはれ也](続の原;38)  
長祇(ちようぎ・滋岡) → 長祇(ながまさ・滋岡しげおか、神職/連歌) F 3 2 7 2  
長宜(ちようぎ・内池) → 長宜(ながよし・内池うちいけ、商人/歌人) G 3 2 4 3  
長宜(ちようぎ・高橋) → 竜斎(りゅうさい・高橋たかはし、見聞記蒐集) E 4 9 0 8  
長義(ちようぎ・小林) → 長義(ながよし・小林こばやし、国学者) M 3 2 1 2  
長儀(ちようぎ・小笠原) → 長儀(ながのり・小笠原おがさわら、旗本/歌) K 3 2 2 4  
朝義(ちようぎ・小山) → 猷風(ゆうふう・小山おやま、春山男) D 4 6 6 6  
聴亀庵(ちようきあん) → 紫暁(しぎよう・宮、俳人) B 2 1 6 3  
長喜庵(ちようきあん) → 義亮(ぎりよう;法諱、絵師/天台僧) U 1 6 1 1
- H2883 **長吉**(ちようきち・福岡ふくおか、通称;加左利屋吉兵衛)?-? 江前期俳人;松永貞徳門、  
1633重頼「犬子えのこ集」(発句34句/付句3句)入/67重以「誹諧百人一句」入、  
[けふの春笠きて立つか天下あめがした](犬子集;一17/天には雨を掛ける・雨天の立春)  
長吉(ちようきち・倉橋/本多) → 政重(まさしげ・本多/倉橋/直江、藩国老) C 4 0 6 9  
長吉(ちようきち・伊丹/岡部) → 勝重(かつしげ・岡部、幕臣/奉行) N 1 5 3 8  
長吉(ちようきち・梶) → 重正(しげまさ・梶かじ、幕臣/国学者) O 2 1 0 0  
長吉(ちようきち・長井) → 裁之(たつゆき・長井/永井、藩士/国学) G 2 6 2 8  
長吉(ちようきち・池田) → 非吹(ひすい・池田、藩士/俳人) C 3 7 3 7  
長吉(ちようきち・佐藤) → 誠(まこと・佐藤さとう、藩士/歌/金石学) 4 0 8 1  
朝吉(ちようきち・土屋) → 朝吉(ともよし・土屋つちや/平、陪臣/歌人) V 3 1 7 8  
長吉丸(ちようきちまる・結城/松平) → 忠直(ただなお・松平、藩主/連歌) Q 2 6 2 1  
長吉郎(ちようきちろう・千) → 宗室(初世そうしつ・千せん、茶人;裏千家) B 2 5 7 3  
長吉郎(ちようきちろう・古川) → 氏英(うじひで・古川ふるかわ/源、幕臣/歌) E 1 2 3 1  
朝吉郎(ちようきちろう・松浦) → 詮(あきら・松浦まつら、藩主/書/茶人) I 1 0 4 4  
長橋(ちようきつ・長井) → 裁之(たつゆき・長井/永井、藩士/国学) G 2 6 2 8
- H2884 **長久**(ちようきゆう・大野おの、細流軒)?-1702 能登七尾の俳人:貞門・のち晩山門、  
1655友仙「紅梅千句」筆、1700「櫻炭」編、「続虚栗集」
- H2885 **朝救**(ちようきゆう・本部もとぶ)1741-1814<sup>74</sup> 琉歌作者:「琉歌全集」12首入、  
[寝覚め驚きに誰が袖よと思ば/庭に咲く梅のしほらし句]  
長久(ちようきゆう・山田) → 長久(ながひさ・山田やまだ、和学者) P 3 2 1 9  
長穹(ちようきゆう・村井) → 長穹(ながたか・村井、藩士/記録) E 3 2 0 4  
長救(ちようきゆう/ながやす・幸阿弥) → 幸阿弥(12世こうあみ、蒔絵師) P 1 9 6 0

- 長救(ちようきゆう→ながすけ・大久保)→ 忠恒(ただつね・大久保おおくぼ、幕臣) P 2 6 8 6  
 朝久(ちようきゆう・相田) → 朝久(ともひさ・相田あいだ、書家) Q 3 1 3 6  
 長久斎(ちようきゆうさい) → 廬朝(ろちよう・水野/源/水、幕臣/絵師/俳人) C 5 2 1 3  
 長久散人(ちようきゆうさんじん)→ 廬朝(ろちよう・水野/源/水、幕臣/絵師/俳人) C 5 2 1 3  
 長久叟(ちようきゆうそう) → 廬朝(ろちよう・水野/源/水、幕臣/絵師/俳人) C 5 2 1 3  
 趙居(ちようきよ) → 蕪村(ぶそん・与謝・谷口、俳人/絵師) 3 8 1 1  
 H2887 澄経(ちようきよう;法諱) ? - ? 南北期僧/僧正、歌人、「一万首作者」入、  
 1364成立「新拾遺集」882  
 [立ちのぼる野辺の煙やなき人の行きてかへらぬかぎりなるらん](新拾遺;十882)  
 N2868 朝教(ちようきよう・本部もとぶ/向国珍、)1741-181474 琉球廷臣;向氏本部御殿五世/按司位、  
 1773浄岸院の進香使として薩摩へ赴く、  
 琉歌歌人;36歌仙の1/摂政読谷山王子朝憲・三司官与那原親方良矩らと歌会、  
 歌;[古今琉歌集]入(10余首)、  
 [思きやげも知らぬ 年の寄て渡たる 仲島の小橋 命さらめ](古今琉歌集)  
 M2822 朝教(ちようきよう・大里おおさと/尚・眞境名、尚灑王2男)1815-7561 琉球王族御殿うどうん/尚泰王の摂政、  
 1858薩摩のフランス軍艦購入問題に王府人事への介入;契約破棄の事後処理に奔走、  
 1859牧志・恩河事件で守旧派の糾明総奉行伊江朝忠を支持、  
 「野村工工四」編纂の序文執筆、  
 [朝教(;名)の別名/通称]別名;惇、通称;里之子/王子  
 長慶(ちようきよう) → 長慶(ちようけい、天台僧、1160頃) H 2 8 9 3  
 長慶(ちようきよう) → 長慶(ちようけい、天台僧、1360没) H 2 8 9 4  
 長慶(ちようきよう) → 長慶(ちようけい、天台僧、1411存) H 2 8 9 5  
 長強(ちようきよう) → 長駿(ちようけん;法諱、真言僧/歌/連歌) H 2 8 8 6  
 長喬(ちようきよう・古林) → 見桃(けんとう・古林ふるばやし、医者) B 1 8 6 8  
 長喬(ちようきよう・小西) → 長喬(ながたか・小西にし/井沢、歌人) M 3 2 0 8  
 長喬(ちようきよう・小林) → 長喬(ながたか・小林こばやし、国学/歌) M 3 2 1 1  
 長恭(ちようきよう・松田) → 拙斎(せつさい・松田まつだ、儒者) K 2 4 9 3  
 長恭(ちようきよう・井川) → 東海(とうかい・井川いかわ/松田、儒者) B 3 1 9 2  
 長教(ちようきよう・鴛河) → 長教(ながのり・鴛河おしこ/鴛氷、医者/歌) L 3 2 5 5  
 長教(ちようきよう・村山) → 長教(ながのり・村山むらやま、藩士/国学/歌) P 3 2 0 4  
 長郷(ちようきよう・梶川) → 東岡(とうこう・梶川かじかわ、医者) D 3 1 8 1  
 長郷(ちようきよう・堀内) → 三稜(みくり・堀内ほりうち、国学者) 4 1 8 1  
 長郷(ちようきよう・中条) → 長郷(ながさと・中条ちゆうじよう、歌人) K 3 2 4 8  
 長颯(ちようきよう) → 梅山(ばいざん・川北/川喜田かわきた、儒者) B 3 6 3 3  
 調興(ちようきよう・柳川) → 調興(しげおき・柳川/素庵、外交/歌) Q 2 1 7 0  
 朝喬(ちようきよう・津軽) → 朝喬(ともたか・津軽つがる、藩士/俳人) P 3 1 6 4  
 朝喬(ちようきよう・宮後) → 朝喬(ともたか・宮後みやじり/度会、神職/歌) P 3 1 6 6  
 朝匡(ちようきよう・荻野) → 朝匡(ともまさ・荻野おぎの/鈴木、藩士/歌) U 3 1 6 1  
 潮橋(ちようきよう) → 立義(たつよし・竹村たけむら、地誌/俳人) R 2 6 7 0  
 H2888 頂行(ちようぎよう・鈴木すずき)1779-182547歳 下総水海道の荒物商、神道家;小谷三志門、  
 師の富士講の思想を常総の地に広める、小山田与清と交流、  
 1817「国鎮記」校訂/「不二孝御伝書」25「不二孝社中」、「勸善録」著、  
 [頂行(;通称)の別通称] 忠八/三達、屋号;釜屋  
 長堯(ちようぎよう・河辺) → 長堯(ながたか・河辺、神職/歌人) E 3 2 0 5  
 鳥橋斎(ちようきようさい) → 永理(永鯉えいり・武川・礪川亭、絵師) C 1 3 0 7  
 長峽山人(ちようきようさんじん)→ 千秋(ああき・田所/三輪、藩士/国学) 2 8 0 0  
 徴鬚(ちようきよく・吉岡) → 鶴巢(じやくそう・吉岡/葛西、医者/俳人) W 2 1 0 5  
 朝旭(ちようぎよく・斎藤) → 瑞雪(ずいせつ・斎藤さいとう、大庄屋/文筆) E 2 3 7 8  
 甌玉斎(ちようぎよくさい) → 荒陽(こうよう・渡辺、儒者、国学者) G 1 9 5 3  
 釣虚散人(ちようきよさんじん)→ 春流(しゅんりゅう・清水、俳人) K 2 1 6 1

- 沖虚道卓(ちゆうききょうたく)→如珠(にょしゆ;法諱・竜堂りょうどう;道号、黄檗僧) F 3 3 9 6
- L2825 朝菌(ちようきん) ? - ? 江前期俳人、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、  
[日の永さは猫居る影をしるし哉](丁卯集;春はかなり/木貞と四季を詠む)
- H2859 釣吟(ちようぎん) ? - ? 江前期俳人;1691不角「若みどり」92「千代見草」入、  
[気の軽き嫁は我が子の一性望ひととで](若みどり/商家にとり気軽な嫁は大切な資産)
- H2889 鳥吟(ちようぎん) ? - ? 江後期江戸の俳人、  
1853「俳家古今墨蹟集」55「俳家古今墨蹟後集」編、55「落款譜」編、「近世五百題発句集」、  
[鳥吟(;)の通称/別号]通称;本屋幸七、別号;笠庵/文樵子
- 暢襟楼(ちようきんろう) → 直弘(なおひろ・藤村、書画・俳諧) C 3 2 3 0
- 長矩(ちようく・平瀬) → 長矩(ながのり・平瀬ひらせ、歌人) P 3 2 4 7
- 長矩(ちようく・上平) → 長矩(ながのり・上平うえひら、神職/歌) L 3 2 2 8
- 朝矩(ちようく・勝部) → 朝矩(ともり・勝部かつべ、大庄屋/歌人) U 3 1 7 7
- 徴矩(ちようく・中野) → 君規(きみのり・中野、藩士/詩文) M 1 6 0 6
- N2892 澄空(ちようくう;法諱、摂政藤原師家男)?-? 鎌倉期;京の真言僧;求仏房ぐぶつぼう門/法師、  
千本釈迦堂(大報恩寺);長老義空(求法/如琳[如輪]によりん上人)門、のち大報恩寺長老、  
文永(1264-75)頃千本釈迦堂念仏を始める(徒然草228段入/如輪]上人)、  
僧坊に因み義空同様に如琳[如輪]上人と称される、歌人;1237刊素俊撰[檜葉集]入、  
[人々法華経廿八品の心よみ侍りける序品、  
いとふべきいろともいえずいろいろの花のちりかふ鷺の山風]、  
(檜葉;釈教549/鷺の山;釈迦の法華経説法の靈鷲山りょうじゆせん)  
☆基嗣(大納言)・澄快・勝尊・承澄・慈弁・覚修・道源・勸誉・房性の兄弟
- H2890 澄空(ちようくう;法諱) 1319 - ? 1356存 南北期;天台僧/論議に長ず、  
1356京の廬山寺で講師理照に問者を務める、1350「止観述聞」
- H2891 超空(ちようくう;法諱、上人) - ? 南北期;浄土宗西山派僧、歌人、  
1384成立「新後拾遺集」入625  
[春ごとにうらみもはてぬ心とや惜しむによらで花の散るらん](新後拾遺;七雑春625)
- M2895 超空(ちようくう;法諱、号;慈泉院)?-1784 信濃伊那郡の白山寺住職、歌人;澄月(1714-98)門
- 朝空(ちようくう;号) → 大周(だいしゅう;法諱・朝空、浄土宗西山派深草流僧) K 2 6 2 3
- 澄空(ちようくう) → 証空(しょうくう、上人) M 2 1 0 9
- 澄空(ちようくう;法名) → 貞敦親王(さだあつしんのう、詩歌/連歌) B 2 0 6 9
- 澄空(ちようくう;号) → 実枝(さねき・三条西/藤原、内大臣/歌) 2 0 3 3
- 超空(ちようくう) → 円環(えんかん・了齋りょうわ、真宗大谷派) E 1 3 5 4
- 長九郎(ちようくろう・柳沢) → 安連(やすつら・柳沢やなぎさわ、幕臣/和学) G 4 5 9 3
- 長九郎(ちようくろう・片桐) → 致真(ゆきざね・片桐かたぎり、商家/歌人) G 4 6 7 3
- H2892 朝薫(ちようくん・玉城たまぐすく、唐名;向しゅう受祐じゆゆう、朝致男) 1684-1734? 琉球首里儀保の生、  
母;章氏野国親方正恒女の真鍋;朝薫出生後離別/4歳で父と死別;祖父玉城朝恩に養育、  
1692祖父死別;家督嗣/琉球廷臣;玉城間切の総地頭職、1696御書院;小赤頭、  
1703元服/04薩摩に赴く;薩摩藩主島津吉貴の前で謡曲[東北/軒端の梅]仕舞を舞う、  
官僚・領主として有能;王府より褒書、1718御冠船踊の踊奉行;19冊封使歓待で組踊上演;  
「二童敵討」(護佐丸敵討)・「執心鐘入」制作ほか「銘苺子」「女物狂」「孝行の巻」作;  
以上を[朝薫五番]と称す(のち田里たさと朝直[三番]に継がれる)、「琉歌全集」39首入
- 長訓(ちようくん・浅野) → 長訓(ながみち・浅野あさの、藩主) K 3 2 8 0
- 長群(ちようぐん・仁井田) → 雉岡(ちこう・仁井田にだ、儒者/海防) E 2 8 1 6
- H2893 長慶(ちようけい・ちようきやう;法諱、覚慶、藤原教長[観蓮]男)?-? 平安末期天台宗園城寺僧/内供/法眼、  
歌人;1166-80頃「三井寺山家歌合」(観蓮[教長]判)参加、  
[わきかねつ折たがへたる時だにも霜か雪か見えし月影](山家歌合;冬月二番右)
- H2894 長慶(ちようけい・ちようきやう;法諱)?-1360 天台宗叡山僧;密教を修学、山城施無畏寺住、  
「椿堂宗要」著
- H2895 長慶(ちようけい・ちようきやう;法諱)?- ? 1411存 天台宗叡山僧;山城施無畏寺長慶門、  
1411「十如是義精義草」著

- H2896 **長継**(ちょうけい;法諱) ? - ? 京の俳人;1633重頼「犬子集」入、  
[神酒みきとてや霰あられの酒をかんせうじやう](犬子集;六1380)、  
(霰酒は奈良特産のみりん/かんせうじやうは[酒の爛]と[菅丞相道真]を掛ける)
- H2897 **長珪**(長圭ちょうけい・瀬尾せお、名;琺) 1733-81 49 江戸の医者:芳益東洞門、  
腹診を重視(診極と称す)、「医事報問」、「医道筆談」、「診極函説」著、「丹円方函」校、  
[長珪(;字)の別字/号]別字;長圭、号;自得軒、法号;自得軒張翁日道居士
- H2898 **蔦蹊**(ちょうけい・稲葉いなば、名;隆礼たかのり) ?-? 幕末期上総勝浦の儒者;春田九臯門、  
のち江戸両国久松町住、「塵外集」著  
[蔦蹊(;号)の字/通称]字;法士、通称;啓輔
- H2899 **釣経**(ちょうけい・内海うつみ、名;孜、遜庵男) 1803-79 77 上州高崎藩儒、藩校文武館教授、  
「高崎俊士伝」「釣経文集」、1843「両神壁之内解」著、  
[釣経(;号)の字/法号]字;子文、法号;徳翁院
- 茗溪(ちょうけい;号) → 章杲(しょうこう;法諱・梅陽;道号、臨濟僧/詩) I 2 2 7 3
- 長慶(ちょうけい;初法諱) → 貞慶(じょうけい;法諱、真言僧) I 2 2 2 5
- 長慶(ちょうけい・三好) → 長慶(ながよし・三好、戦国大名、連歌) G 3 2 3 5
- 長継(長慶ちょうけい・浅野) → 幸長(よしなが・浅野あさの、藩主/連歌) F 4 7 2 6
- 長卿(ちょうけい・堀口) → 藍園(らんえん・堀口貞歙、儒者) B 4 8 6 1
- 長卿(ちょうけい・山崎) → 蘭斎(らんさい・山崎やまざき、儒者) C 4 8 1 9
- 長卿(ちょうけい・内田) → 南山(なんざん・内田うちだ、医者/儒/詩) J 3 2 0 5
- 長卿(ちょうけい・堀口) → 藍園(らんえん・堀口ほりぐち、商家/漢学者) B 4 8 6 1
- 長卿(ちょうけい・岡田) → 元善(もとよし・岡田おかだ/源、家老/国学) J 4 4 5 9
- 長卿(ちょうけい・蘆沢) → 長卿(ながのり・蘆沢あしざわ/玉井、藩士) K 3 2 8 3
- 長敬(ちょうけい・佐久間) → 長敬(おさひろ・佐久間さくま、幕臣/与力) D 1 4 0 6
- 長経(ちょうけい・中川) → 長経(ながつね・中川なががわ、廷臣/歌人) O 3 2 0 4
- 澄景(ちょうけい・大江) → 澄景(すみかげ・大江おおえ、廷臣/詩人) D 2 3 4 3
- 澄景(ちょうけい・赤塚) → 澄景(すみかげ・赤塚あかつか、神職/歌人) L 2 3 2 1
- 澄経(ちょうけい) → 澄経(ちょうきょう、南北期僧/歌人) H 2 8 8 7
- 丁慶(ちょうけい・富村) → 多吉(たきち・富村とみむら、歌舞伎作者) N 2 6 8 5
- 朝経(ちょうけい・赤沢) → 宗益(そうえき・赤沢あかさわ、武将/易占) G 2 5 2 3
- 鳥溪(ちょうけい;号) → 大廉(だいにん;法諱、真宗本願寺派僧) L 2 6 3 3
- 徴卿(ちょうけい・宮川) → 献臣(たておみ・宮川みやがわ、藩士/歌人) R 2 6 7 1
- 寵卿(ちょうけい・伊東) → 祐相(すけとも・伊東いとう、藩主/詩歌) G 2 3 6 8
- N2890 **長芸**(ちょうげい;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、  
1237刊[檜葉集]2首入、  
[うきよにはこりにしものを谷のとなおたきぎとる道求むらむ](檜葉;雑938)
- I2800 **斎藝**(ちょうげい;法諱、通称;中院なかのいん) ?-? 戦国期1550頃天台僧;定源門、権僧正、  
「雑盟ざっかん抄」著、什慶「天台宗名目私類聚」を添削
- 長慶院中宮(ちょうけいいんのちゅうぐう) → 公重女(きんじげのむすめ・西園寺、新葉集歌人) R 1 6 1 3
- 長敬斎(ちょうけいさい・西川) → 雄山(ゆうざん・西川にしかわ、儒者/教育) B 4 6 9 2
- 釣溪斎(ちょうけいさい・武田) → 元光(もとみつ・武田、武将/伝統保護) E 4 4 3 8
- I2802 **長慶天皇**(ちょうけいてんのう、名;寛成、後村上天皇皇子) 1343-94 52 南朝第3代天皇、母;嘉喜門院勝子、  
1348父と吉野賀名生に移住/各地転戦/1358撰津住吉の行宮で踐祚/吉野金剛寺・栄山寺住、  
1381新葉集勅撰の論旨/83?後龜山天皇に譲位/嵯峨没、  
二条派歌人;1365[正平廿年三百六十首](住吉行宮)参加/75南朝五百番歌合催、  
1376「南朝内裏(長慶天皇)千首」/81「仙源抄」、「源氏物語抄」著、  
新葉集52首(3/38/45/60以下)  
[長慶天皇の通称/法諱/号/追号]通称;崎殿/大覚寺法皇/陸奥親王、法諱;金剛理、  
号;覚理、追号;長慶院/慶寿院、後龜山天皇の兄、海門承朝・尊聖の父  
[風わたる池の氷もとけそめてうち出づる波に春やたつらん](新葉集;一春3)
- I2803 **澄月**(ちょうげつ;法諱・法師) ?- ? 鎌倉末期二条派の地下歌人、1303?「歌枕名寄」著

- I2804 澄月(ちょうげつ) ? - ? 南北期僧、地下連歌;雲居寺花下、1356成立「菟玖波」1句2045  
[みねならで雲ある花の梢かな](菟玖波集;廿発句2045、雲居寺の花の連歌の発句)
- I2805 釣月(ちょうげつ;号/法師)1653?-1729?? 出雲松江の歌人:若くして出家;諸国行脚、  
1697京の中院通茂門、京に10年滞在後江戸に下り堂上派武家歌壇の指導者、奔放不羈、  
1716師の許可無しに「新題林和歌集」刊行;破門、諸国遍歴/晩年は故郷の法眼寺住;  
堂上和歌の普及、家集「閑居藻」(散佚)、  
1717「みちのく紀行」、「温泉再遊」「鴨山参詣記」、文集「独楽窩記」著、  
歌;1728(享保13)「諏訪浄光寺八景詩歌」入(隅田秋月/詩は竹楼)、広通「霞関集」入、  
[野辺はまだもゆるともなき春なるに草の庵のなどけぶるらん]、  
(霞関;雑1078/家の焼けた春の詠)、  
[こととはむ名にあふ月の都鳥すみだ河原にすむや幾秋](八景歌;隅田秋月)、  
[釣月の別号] 白翁/明珠庵/然住斎ねんじゅうさい
- C2864 昶月(ちょうげつ) ? - ? 江前期広島貞門系俳人/1674安静「如意宝珠」入、  
1679宗臣「詞林金玉集」入
- 2821 澄月(ちょうげつ;号・智脱;法諱、俗姓;西山)1714-9885 備中玉島の僧/出家;乙島円乗院慈相法印門、  
1726比叡山で天台学修学/のち浄土宗に転向;信覚上人門、二条派歌人:武者小路実岳門、  
1773洛東岡崎の垂雲軒に隠棲、木下幸文・西山拙斎・石井宗澄・桃沢夢宅らの師、  
「澄月法師千首」「澄月上人歌集」「澄月翁詠歌集」「和歌為隣抄」「垂雲集」「垂雲和歌集」、  
「垂雲軒随筆」「吐月庵随筆」「東山澄月上人詠草」「奉納千首和歌」、「似雲和歌集類題」編、  
[澄月の別号/法名]別号;融阿/垂雲軒/醉雲軒/醉夢軒、法名;白蓮社雪誉
- I2806 潮月(ちょうげつ・間瀬ませ) ? - ? 武蔵神奈川の俳人;氷壺門、1844「かな川集」編、  
[潮月(;号)の通称/別号]通称;源右衛門、別号;梧棲ごせい・梧棲ごろう
- |              |                          |           |
|--------------|--------------------------|-----------|
| 澄月(ちょうげつ)    | → 信亨(のぶちか・松平、藩主/歌・俳)     | C 3 5 2 1 |
| 釣月(ちょうげつ・桂川) | → 国訓(くにとき/くにのり・桂川/3世、蘭医) | B 1 7 5 7 |
| 釣月(ちょうげつ・大野) | → 泰珠(やすし・大野おおの、藩老/歌人)    | F 4 5 1 7 |
| 釣月(ちょうげつ・本多) | → 敬義(たかし・本多/菅沼、家老/国学)    | Z 2 6 4 4 |
| 長月(ちょうげつ・東)  | → 寅(いん・東とう、絵師)           | J 1 1 1 6 |
| 長月庵(ちょうげつあん) | → 若翁(じゃくおう・堀、俳人)         | G 2 1 0 9 |
| 長月庵(ちょうげつあん) | → 忠永(ただなが・本多、藩主/兵学/俳人)   | Q 2 6 3 3 |
| 長月庵(ちょうげつあん) | → 長成(ちやうせい・菅、俳人)         | J 2 8 1 5 |
| 釣月軒(ちょうげつけん) | → 芭蕉(ばしょう・松尾、俳人)         | 3 6 1 7   |
| 朝月舎(ちょうげつしゃ) | → 程十(ていじゅう・朝月舎、俳人)       | B 3 0 1 1 |
| 釣月舎(ちょうげつしゃ) | → 孝(たかし・小山おやま、国学/歌・俳人)   | W 2 6 0 4 |
| 釣月亭(ちょうげつてい) | → 正雄(まさお・小野おの/篠屋、商家/歌人)  | O 4 0 1 5 |
| 釣月亭(ちょうげつてい) | → 宜周(よしちか・森もり甚左衛門、商家/歌)  | P 4 7 6 3 |
| 釣月堂(ちょうげつどう) | → 一漁(いちいりょう・鶴海つるみ、俳人)    | E 1 1 5 9 |
| 聴月楼(ちょうげつろう) | → 慶賀(けいが・川原/田口、洋画家)      | 1 8 3 7   |
- 2822 澄憲(ちやうけん;法諱、藤原通憲[信西]男)1126-120378 母;高階重仲女、天台叡山東塔竹林院住僧、  
唱導の祖、檀那流;珍仁・珍兼門/一心三観;明雲門、1159平治乱に父に縁座;下野配流/赦免、  
1174祈雨の功績;権大僧都・法印、京竹林院安居院住;門流を安居院流;息聖覚(せいかく)が継承、  
「澄憲作文集」「表白集」「言泉集」「白月集」「延暦寺縁起」「六道惣釈」「白毫讚」「曼供私抄」著、  
歌人、月詣・万代集入集、勅撰3首;千載589/続拾1332/風雅2012、  
[つねに見し君がみゆきをけふ問へば帰らぬ旅と聞くぞかなしき](千載;哀傷589、  
二条院[1165永万元没;22歳]の葬儀の夜の詠/平家物語では高倉天皇葬送歌とする)  
[澄憲の号/通称]号;蓮行房、通称;安居院あぐい法印、聖覚・海恵・求仏(もとぶつ)・八条院高倉の父、  
☆高松院妹子内親王との密通説(玉葉建久2/4/24条/海恵・八条院高倉の母は内親王?)
- H2886 長驗(ちやうけん;法諱、別法諱;長強?、通称;安察使大僧都)?-1359 真言宗醍醐寺三宝院僧、賢俊門、  
1346賢俊の伴僧として伊勢参宮(賢俊僧正日記入)、47賢俊より伝法灌頂、55権少僧都、  
1357権大僧都、歌人;続現葉集入、新千載902、連歌:菟玖波3句入、  
[いかにして法のみふねのつなでなはしづまぬ方に心ひかまし](新千載902)

- 12807 澄賢(ちようけん) ? - ? 連歌;1564景恵「石山千句」入
- 12808 朝軒(ちようけん) ? - ? 江戸の俳人;1692賀子「蓮の実」入  
[昼見ては何事もなき虫哉](蓮の実;214)
- N2874 朝憲(ちようけん・読谷山ゆんたんど、名;朝恒、唐名;尚和、尚敬王2男)1745-181167 琉球王族;  
大与奉行/のち国相、読谷山御殿うどうん初世、読谷山間切の按司地頭家(大名)、  
将軍家治即位を慶賀する使者として江戸渡航、琉歌人、朝英(尚大烈)の父
- N2880 朝顕(ちようけん・義村よしむら、唐名;尚天保)1805-183632 琉球王朝王族;王子位、  
初世朝宜(尚温王の摂政)を継嗣;義村家2世/按司、歌人;沖縄三十六歌仙の1
- 12809 朝賢(ちようけん・喜舎場きしゃば、号;東汀/唐名;向しよ延翼、朝苗3男)1840-191677 首里の儀保村生、  
最高学府国学に修学/詩文;津波古親方政正(東国興)門、1868琉球尚泰王の側仕/官僚;  
1866清よりの冊封使の通訳、1872正使伊江王子朝直の維新慶賀使に随行し東京渡航、  
琉球処分の交渉の筆談を執筆、1879王国消滅し失職;農業/久米島の農地開墾事業活動、  
1914「琉球見聞録」(琉球処分の過程記録)著、「東汀詩集」「東汀随筆」著
- 長兼(ちようけん・藤原) → 長兼(ながかね・藤原/葉室/三条、詩人) D 3 2 4 8
- 長兼(ちようけん・本間) → 長兼(ながかね・本間ほんま/源、幕臣/歌) K 3 2 1 0
- 長顕(ちようけん・黒沢) → 長顕(ながあき・黒沢、藩士/儒者) D 3 2 0 8
- 長堅(ちようけん・伊藤) → 蘭岬(らんぎう・伊藤いとう、藩儒) B 4 8 7 7
- 長堅(ちようけん・村井) → 長堅(ながかた・村井、藩士/記録) D 3 2 4 4
- 長堅(ちようけん・山田) → 長堅(ながかた・山田やまだ、藩士/歌人) P 3 2 7 2
- 長堅(ちようけん・小笠原) → 祇尹(ぎいん・小笠原おがさわら、幕臣/俳人) 1 6 7 8
- 長賢(ちようけん・花山院) → 長賢(ながかた・花山院かざんいん/藤原、南朝廷臣/歌) D 3 2 4 1
- 長賢(ちようけん・庭田) → 長賢(ながかた・庭田にわた、権大納言/歌/連歌) D 3 2 4 2
- 長賢(ちようけん・駕河) → 長教(ながのり・駕河おしこ/駕氷、医者/歌) L 3 2 5 5
- 長賢(ちようけん・伏原) → 宣武(のぶたけ・伏原ふせはら/清原、廷臣/漢学) J 3 5 9 0
- 長賢(ちようけん・神保) → 長賢(ながかた・神保じんぼう、幕臣/国学) N 3 2 4 4
- 長賢(ちようけん→ながかた・連むらじ/藤原) → 巴扇堂(2世はせんどう、筆匠/狂歌師) E 3 6 7 5
- 長賢(ちようけん・篠崎) → 長賢(ながかた・篠崎しのざき、法眼/歌) K 3 2 3 2
- 長健(ちようけん・佐藤) → 長健(ながたけ・佐藤さとう、藩士/故実家) E 3 2 0 8
- 鳥兼(ちようけん・平明亭) → 平明亭鳥兼(へいめいていとりかね、狂歌) 2 7 8 1
- 鳥兼(ちようけん・萩の屋) → 鳥兼(とりかね・2世萩の屋、狂歌) R 3 1 8 3
- 12810 朝元(ちようげん・秦、留学僧弁正男)?-? 唐で生まる、医、714主計頭、719忌寸姓、730漢語教授、  
732入唐判官、帰国後736図書頭、万葉卷十七3926左注
- 12811 重源(ちようげん;法諱、俗名;重定、紀季重男)1121-120686 京の浄土僧;初め武士/醍醐寺で出家、  
大峰・熊野・御嶽・葛城等諸山に修行/源空門、入宋/帰国、高野聖として勸進集団を組織、  
1181前年焼失の東大寺大仏再建の大勸進を実施;多くの勸進聖ひりを従え諸国行脚をする、  
1186伊勢詣、東大寺で没、1202?「南無阿弥陀仏作善集」著、慶俊「俊乗坊参宮記」がある、  
[重源の号] 俊乗坊しゆんじよぼう/南無阿弥陀仏
- 12812 澄元(澄ちちようげん・太田おた/修姓;岩、岩[巖]永元浩男/太田;母方姓)1721-9575 江戸本草家;  
父門、多紀家の医学館で本草を講義、伊沢蘭軒の師、「採薬筆記」「本草臆断」、「植物辨」編、  
「本草綱目講義」「本草綱目示蒙」「本草蒙求」「紫黄堂随筆」「救荒本草臆断」外著多数、  
[澄元(;名)の字/号]字;子通、号;大洲/太州/崇広堂
- 12813 長玄(ちようげん・本間ほんま) ? - 1790 三河吉田本町の医者、1790「三河堤」、  
[長玄(;名)の字/号]字;子温、号;及竹、法号;慈空
- 12814 澄玄(ちようげん;法諱、別法諱;普天、号;香雲院)1787-185165 越前大野の真宗大谷派僧;深励門、  
近江大津の唯泉寺住職、高倉学寮修学/1818寮司/28擬講/40嗣講、「正信偈法話」著、  
1824「成唯識論随聞記」28「俱舍論講義」43「易行品記」42「浄土論註講義」著、  
1847「本願鈔講義」外著多数
- 長玄(ちようげん・幸阿弥) → 幸阿弥長玄(こうあみちちようげん、安桃期蒔絵師) P 1 9 5 8
- 長駿(ちようげん) → 長強(ちようきやう、権大僧都) H 2 8 8 6
- 長愿(ちようげん・横山/小野) → 湖山(こざん・小野/横山、詩人) C 1 9 6 9

- 長元(ちょうげん→ながもと・土岐)→ 敦山(あつのみ・土岐とき、幕府医者) E 1 0 7 2  
 長言(ちょうげん・年梅) → 昌之(まさゆき・年梅ねんばい、接骨医/国学) R 4 0 4 6  
 澄元(ちょうげん・細川) → 澄元(すみもと・細川/源、戦国武将) D 2 3 9 8  
 釣玄(ちょうげん・馬場/清水)→ 道閑(3世どうかん・清水、藩士/茶人) C 3 1 3 9  
 朝彦(ちょうげん/ともひこ・松木)→ 茂彦(しばひこ・松木/度会、神職/記録) S 2 1 3 3  
 暢元(暢玄ちょうげん・松本)→ 古堂(こどう・松本まつもと、儒者/勤王) D 1 9 4 3  
 長源院(ちょうげんいん) → 安信(やすのぶ・狩野家八世/藤原、絵師) C 4 5 5 4  
 潮見下(ちょうげんか) → 桂五(桂吾けいご・金森、藩士/俳/狂歌) 1 8 5 0  
 茗元華園(ちょうげんかえん) → 洪(こう・山厓やまざし、医者) H 1 9 1 3  
 釣玄斎俊翁(ちょうげんさいしゅんおう)→ 了仲(りょうちゅう・古筆こひつ、鑑定家) I 4 9 9 0
- I2815 調古(ちょうこ) ? - ? 江前期俳人・調和門、1679調和「富士石」65句入  
 I2816 釣壺(ちょうこ・吉弘、名;如安/恕安、) ?-1730 豊後日田郡小竹の医者・俳人;西国門のち蕉門、  
 1701「西の詞集」撰、  
 [釣壺(;号)の別号] 荷銘庵/長路人、法号;太寧恕安居士  
 I2817 朝呼(ちょうこ;号、桐井庵) ? - ? 江中期美濃俳人;雑俳点者、  
 太国堂より会所板一枚刷、1737「葵可津良あいかつら」撰  
 F2834 調古(ちょうこ;法諱、通称;加壽大夫) ?-? 江中期大阪の琵琶法師、山梨稻川「思旧漫録」記事入、  
 九州に行脚;肥前平戸住/のち駿河に住;臨濟僧遂翁禅師門;剃髮、  
 音曲家;阮(琵琶)を鼓す;巨阮巨撥を製作し演奏  
 I2818 澄固(ちょうこ;法諱、号;有雪軒、澄令の養子) 1779-1845 67 加賀能美郡小松梅林院の生、社僧;  
 養父を継承;1818加賀白山本宮の長吏、321七社惣長吏の論旨を得た、1814「板尾紀行」  
 M2851 長子(ちょうこ・小西こし、旧姓;牛谷) 1804-83 80 摂津伊丹の国学・歌人;中村良頭門、  
 [長子(;名)の号] 承巴/有芳  
 L2845 姚子(ちょうこ・鍋島なべしま、通称;寵ちよう、鍋島斉直女) 1812-29 夭逝 18歳 佐賀藩主鍋島直正の異母姉、  
 歌人、1827肥前武雄領主鍋島茂義と結婚、夫の絵画趣味にひかれ画も描く;菊・牡丹画、  
 1829参後の肥立悪く母子共に没  
 M2865 てう子(ちょうこ・寒川さむかわ、旧姓;吉田) 1829-90 62 武蔵の寒川輝久の妻、歌人/狂歌、飯島家入門、  
 [てう子(;名)の号] こゝろ内子ないし  
 長湖(ちょうこ・水野) → 政和(まさかず・水野、鋳物師/和算家) B 4 0 7 7  
 長虎(ちょうこ・乗松) → 長虎(ながとら・乗松のりまつ/源、藩士/歌) O 3 2 3 2  
 釣虚(ちょうこ・清水、釣虚子)→ 春流(しゅんりゅう・清水、儒者/詩/俳人) K 2 1 6 1  
 潮故(ちょうこ;字) → 日覚(にちがく;法諱・妙智院、日蓮僧) B 3 3 0 3  
 朝湖(ちょうこ) → 一蝶(初世いちちょう・英はなぶさ、絵師) C 1 1 0 8  
 澄湖(ちょうこ・野呂) → 介石(かいせき・野呂のろ、藩士/絵師) B 1 5 0 9
- I2819 朝伍(ちょうご・熊代のしろ/熊氏、名;朝五) 1762-1806 45 備前岡山小橋町の商家/俳人:松後門、  
 和漢学に通ず、1799-1836「朝日河」編、1800「夢三年」補訂、  
 [朝伍(;号)の別号] 任地斎/睡猫子/這人しゃじん、屋号;姫路屋  
 I2820 朝幸(ちょうこう;法諱、俗姓;諏訪) 1286-1361 76 天台僧:1303英朝門;出家/静泉門、  
 近江園城寺蔵乗坊に住、1335御説経講師、神職円忠の弟、「宗要聞書」「宗要抄」  
 I2821 長綱(ちょうこう) ? - ? 連歌、1385良基「石山百韻」入  
 I2822 長光(ちょうこう;沙弥) ? - ? 室町期僧、歌;1473雅康歌会、  
 1475甘露寺親長催「公武歌合」参加、  
 [潮ならぬ浦の満ち干と見えぬるや霧間きりに薄き秋の夜の月](公武歌合;八番左)  
 I2823 重高(ちょうこう) ? - ? 京の俳人、1677似船「かくれみの」入  
 I2824 長虹(ちょうこう・竹葉軒、竹天和尚) ?-? 江戸の生/名古屋の俳人;芭蕉門、解脱寺内に竹葉軒結庵、  
 1688竹葉軒で芭蕉が歌仙を巻く(1772「秋の日」所収)、  
 1689「あら野」21句入/98「続猿」入、99荷兮「青葛葉」入  
 I2825 長孝(ちょうこう・杉村すぎむら) ? - ? 俳人;1690不角「二葉之松」4句入、  
 [月華つきはなに目は肥え耳は郭公ほととぎす](二葉之松;36/隠遁生活の妙)  
 I2826 朝恒(ちょうこう・小禄おろく) ? - ? 琉歌作者、「琉歌全集」60首入、

[義理も踏み違ぬ情愛しなげも尽ち/浮世渡ゆすど人のかなめ]

- 12827 **朝恒**(ちようこう・恩河親方おんがうえかた)?-? 琉球詩人、「向汝霖しょうじょりん詩集」
- 12828 **長庚**(ちようこう・館たち、号;再影館主人)?-? 江後期遠州掛川の郷土史家、1803「遠江古蹟図会」著
- 12829 **肇功**(ちようこう・蔡さい) ? - ? 琉球詩人、1844「南閩なんびん遊草」「寒窓紀事」
- 朝光(ちようこう・庵原) → 朝光(ともみつ・庵原/いおはら/いはら、家老/歌) U 3 1 1 5
- 朝衡(ちようこう) → 仲麻呂(なかもろ・阿部/安倍、詩歌) 3 2 1 9
- 朝衡(ちようこう・安井) → 息軒(そっけん・安井、儒者) 2 5 2 5
- 朝亨(ちようこう・鳥居) → 研山(けんざん・鳥居とりい、藩士/詩人) J 1 8 2 6
- 朝弘(ちようこう・川北) → 丹靈(たんれい・川北かわきた、国学者) T 2 6 6 4
- 朝弘(ちようこう・塚田/小山) → 春山(しゅんざん・小山おやま/塚田、漢学者) J 2 1 7 8
- 朝弘(ちようこう・川北) → 丹靈(たんれい・川北かわきた、国学) T 2 6 6 4
- 朝綱(ちようこう・佐々木) → 松雨(しょうう・佐々木ささき、町役/俳人) F 2 2 2 8
- 朝興(ちようこう・神白) → 朝興(ともおき・神白こうじろ、神職/歌人) V 3 1 2 0
- 調興(ちようこう・柳川) → 調興(しげおき・柳川、藩士/歌) Q 2 1 7 0
- 長興(ちようこう) → 鵬斎(ほうさい・亀田、儒者/詩) 3 9 5 4
- 長光(ちようこう・荒木田) → 長光(ながみつ・荒木田あらかだ、神職/歌) P 3 2 5 9
- 長衡(ちようこう・伊藤) → 介亭(かいてい・伊藤いとう、儒者/書家) B 1 5 1 1
- 長孝(ちようこう・乾いぬい) → 長孝(ながたか・乾、家老/博識) E 3 2 0 6
- 長孝(長好ちようこう・望月) → 長孝(長好ながよし・望月/広沢、歌人) 3 2 2 2
- 長庚(ちようこう) → 蕪村(ぶそん・谷口/与謝、俳人) 3 8 1 1
- 長庚(ちようこう・石王) → 文丸(ふみまる・石王いしおう/矢田部、神職/歌) H 3 8 9 8
- 長康(ちようこう・山形) → 魯隱(ろいん・山形やまがた、俳人) 5 2 1 8
- 長江(ちようこう・古梅園) → 元泰(もとやす・松井、製墨業/俳人) E 4 4 4 7
- 長江(ちようこう) → 日言(にちごん;法諱・取要院、日蓮僧) B 3 3 9 8
- 長江(ちようこう・建) → 綾足(あやたり・建部たけべ、俳/歌/戯作) 1 0 2 8
- 長行(ちようこう・七里) → 長行(ながゆき・七里しちり/源、藩士/国学) K 3 2 1 5
- 長好(ちようこう・小笠原) → 長好(ながよし・小笠原おがさわら、歌人) L 3 2 3 7
- 長厚(ちようこう・山口) → 志道(しどう・山口、国学者/神代学) V 2 1 2
- 長厚(ちようこう・小笠原) → 長厚(ながあつ・小笠原おがさわら、領主/歌) L 3 2 3 5
- 長綱(ちようこう・北条) → 幻庵(げんあん・北条、早雲男/文人) H 1 8 6 2
- 長弘(ちようこう・矢野/楠本) → 麓山(ごうざん・楠本くすもと、藩士/儒者) J 1 9 3 7
- 長弘(ちようこう・摩島) → 松南(しょうなん・摩島まじま/源、儒者/詩) B 2 2 0 4
- 長弘(ちようこう・小西) → 長弘(ながひろ・小西にし/大原、歌人) M 3 2 0 9
- 長恒(ちようこう・甲把) → 瑞益(すいえき・甲把がっぱ、医者/郷土史) E 2 3 1 2
- 長恒(ちようこう・磯部) → 長恒(ながつね・磯部いそべ、町年寄/歌人) L 3 2 1 7
- 長広(ちようこう・西岡) → 長広(ながひろ・西岡にしおか、国学者) O 3 2 2 1
- 長興(ちようこう・金森) → 得水(とくすい・金森かなもり、歌/茶/水術) L 3 1 0 8
- 長興(ちようこう・佐々) → 長興(ながおき・佐々ささき、幕臣/国学) M 3 2 1 7
- 長鬘(貞香ちようこう・羽室) → 貞風(さだかぜ・羽室/藤原、藩士/歌人) H 2 0 9 5
- 鳥江(ちようこう;号) → 妙安(みょうあん;法諱・惟高;道号、臨濟僧/詩) G 4 1 0 6
- 超弘(ちようこう;法諱) → 眞詮(しんせん;法諱、真宗大谷派僧) P 2 2 1 2
- 頂行(ちようこう・鈴木) → 頂行(ちようぎよう・鈴木、神道家;富士講) H 2 8 8 8
- 潮香(ちようこう・三井) → 高敏(たかとし・三井みつゐ、商家/国学) D 2 6 2 1
- 澄江(ちようこう・藤原) → 操南(そうなん・藤原、大庄屋/詩歌) I 2 5 6 2
- 澁公(ちようこう・杜/中江) → 松窠(しょうか・中江なかえ/杜、絵師/琴) H 2 2 4 9
- 12830 **澄豪**(ちようごう;法諱、号;恵光房) 1049-1133 85 天台僧;叡山の清朝門・隆範門、檀那流天台教学、自ら恵光房流を開く/1113天台講師/29権律師、「紅葉惣録」「宗要紅葉」著、「紅葉赤山影響秘奥密記」「紅葉山王七社影響巻」著、長耀ちようよう・智海らの師
- 12831 **澄豪**(ちようごう;法諱、号;法円、藤原顕成or明時男) 1259-1350 92歳 京の天台僧;叡山の承澄門、台密穴太流を修学、1307大阿闍梨、京西山宝菩提院・近江金剛輪院住;著作に専念、

「三五要決」「白日集」「伝授記」「瑜祇経抄」「理界印義」、1325「加持聞書」38「総持抄」著、  
[澄豪の通称] 伝法和尚/西山上人

朝豪(ちょうごう・土岐) → 朝豪(とまたけ・土岐、幕臣) P 3 1 6 8

長庚庵(ちょうこうあん) → 啓(ひらく・鳥山とりやま/田所、藩士/教育) K 3 7 0 4

長江軒(ちょうこうけん) → 光琳(こうりん・尾形おがた、絵師) C 1 9 0 8

釣耕軒(ちょうこうけん) → 魯山(ろざん・並河なみかわ/なびかわ/並、藩儒) B 5 2 5 7

鳥巷斎(ちょうこうさい) → 廬朝(ろちよう・水野/源/水、幕臣/絵師/俳人) C 5 2 1 3

鳥高斎栄昌(ちょうこうさいえいしょう) → 栄昌(えいしょう、絵師) C 1 3 0 3

I2832 調幸子(ちょうこうし) ? - ? 江前期俳人;調和門、1679調和「富士石」百句入(:最多)

釣鼈道人(ちょうごうどうじん) → 月艇(げつてい・森井もりい、医者/詩人) H 1 8 2 7

長国(ちょうこく)すべて → 長国(ながくに)

長克(ちょうこく・藤田) → 鶴雄(つるお・円尾まるお/藤田、国学/商家) G 2 9 4 2

長谷径(ちょうこくけい) → 超波(ちょうは・清水、俳人) J 2 8 6 6

釣虚散人(ちょうこさんじん) → 春流(しゅんりゅう・清水、儒者/俳/歌/詩) K 2 1 6 1

蔦娛子(ちょうごし) → 吾声(ごせい・岡本、俳人) M 1 9 8 5

徴古堂(ちょうこどう) → 石田(せきでん・村上むらかみ、篆刻家) K 2 4 4 3

I2833 長五郎(ちょうごろう・佐渡島さどしま、佐渡島伝八男) 1700-5758 歌舞伎役者;舞踊の名手、三都で活躍、  
1720二挺鼓の所作で評判/大坂で座元/晩年剃髪し京に住、  
1755歌舞伎劇書「佐渡島日記」著、

[佐渡島長五郎(;号)も別号] 蓮智坊

長五郎(ちょうごろう・本多) → 政重(まさしげ・本多/倉橋/直江、藩国老) C 4 0 6 9

長五郎(ちょうごろう・柴田) → 勝世(かつよ・柴田しばた、藩士/国学/歌) N 1 5 9 6

長五郎(ちょうごろう・沢) → 尚智(ひさとも・沢さわ、和算家) B 3 7 5 9

長五郎(ちょうごろう・坂田) → 繁樹(しげき・坂田さかた/森、国学者) O 2 1 6 2

長五郎(ちょうごろう・地主) → 文二(ぶんじ・地主ぢぬし、俳人) F 3 8 5 5

I2834 長鯤(ちょうこん;法諱、字;吞舟/宗弼、号;北溟、俗名;松永友也) ?-? 江後期紀伊有田郡出身、  
9歳の時江戸で儒学;林家門/のち山城の越智家門、出家、真言僧;大和長谷寺など遊学、  
晩年は下総香取の根本寺住;儒仏を講義、「北溟集」、久保木竹窓の師

L2819 長嚴(ちょうごん) ? - ? 平安後期の僧/歌人、

1071-82頃「多武峯往生院千世君ちよきみ歌合」:左方入(判者;紀伊入道素意[藤原重経])

[山がくれややかすかにぞ聞ゆるなるなほ谷川の水の流れは]、  
(多武峯歌合;五番左9/水有幽音)

長沙(ちょうさ・石崎) → 文雅(ふみまさ・石崎いさぎ/一志、医/漢学) E 3 8 0 2

I2835 長濟(ちょうさい/ちょうせい;法諱、藤原家経男) 1024-77or8254or59 母;藤原公業女、

東大寺(or興福寺)の三論僧、1069維摩会講師/1080三会已講の労により権律師、

歌人、散木集に連歌、勅撰4首;後拾遺200/395/1023・金葉615、

[ひと声も聞きがたかりしほとゝぎすともになく身となりけるかな](後拾遺;夏200、  
詞書;おほやけの御かしこまりにて山寺に侍りけるにほとゝぎすを聞きてよめる)

没後に母の夢に、

[たらちめのなげきをつみて我れがかく思ひのしたになるぞかなしき]、

(金葉集;雑615/母君が歎き重ねその悲しみの中で薪の下で火葬される悲しさ)

I2836 長西(ちょうさい;法諱・覚明[房];字、藤原国明男) 1184-126683 讃岐西三谷の浄土僧;1202出家、  
1202法然[源空]門、師の四国配流に随侍/摩訶止観;俊苕(しゅんじょう)門/禅;道元門、  
西山義;証空門、諸行本願義を主唱/山城九品寺住;九品寺流の祖、「往生礼讃光明抄」、  
「観経疏光明抄」「法事讃光明抄」「念仏本願義」、澄空/理円/覚心らの師

M2844 朝斉(ちょうさい・国頭くにがみ/唐名;向乗乾、) 1686-174762 琉球廷臣;1718中国への進貢正使、

向氏(しょうじ)浦添殿内(うらそえのち);9世国頭親方、1725薩摩への頭慶賀使、

歌人;宜湾朝保編「沖繩集」入;沖繩三十六歌仙の1

I2837 暢斎(ちょうさい・蒔田ますきた/修姓;田/本姓;秦、名;器、畑井正興男) 1738-180164 代官蒔田宗孝の養子、

伊勢山田の書家;川崎正世・韓天寿・沢田東江門、篆刻:高芙蓉門、画;月僊門、詩文、  
1803「集古妙蹟」編、「南垠雜詠」著、「宝刀行帖」「小虎溪之碑」「暢齋器先生真蹟卷」書、  
[暢齋(;)の字/通称/別号]字;必器、通称;亀六きろく/喜八/喜兵衛、  
別号;彪山/金陵/箕山/鴻雁堂/小虎山房、修姓名;田器

12838 **長齋**(ちようさい・七五三しめ、) 1757-1824 68 大阪江戸堀の商家/大川町の船宿業、  
俳人;吉分大魯門、詩;篠崎三島門、国学;荒木田久老門、  
秋田俳壇と親交;1821出羽秋田に旅、俳諧師、1797「やまかげ集」著、  
1798「かきね」「あしのはなむけ」編/「かきつぼ草」著、日記「金蘭帖十二」、「日癡録」著、  
1813「万家人名録」(全国俳人名鑑)編/1821「万家人名録拾遺」編、  
[長齋(;)の名/字/通称/別号]名:公濟きんなり・翔/字;廷美、通称;庄助/作右衛門/作左衛門、  
別号;柿壺/柿耶丸/放雀園/放雀庵/醉郷祭酒、法号;修料院  
屋号;倉舗くらしき屋/倉敷屋/七五三しめ屋、

12848 **樸齋**(ちようさい・6代中村なかむら宗哲、5代宗哲豹齋の長男) 1792-1839 48歳 1811家督嗣;千家十職塗師、  
1815弟猓齋に家督譲渡、自らは御所御用達・通例の塗師職を営業;大名向け漆器を制作、  
代表作;「認得齋好」「祇園攘疫棗」「群亀棗」「宝船棗」著、  
[樸齋(;)の幼名/名/通称]幼名;昌之助、名;為一、通称;八兵衛/八郎兵衛(官人名)

12839 **趙齋**(ちようさい・関根せきね、)?- ?安政1854-60頃没 江戸後期江戸下谷の書家;書を教授・国学者、  
古今名蹟を蒐集・類纂刊行、行書・草書に長ず/歌を能くす、  
1840「水荃布利」-41「仮名類纂」、「音韻仮字格かなづかい」「江山翁書」著、歌「たち花の香」入、  
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[千曲川岩に砕けて散る波のしらけて落つる夏の夜の月](大江戸倭歌;雑1854)、  
[趙齋(;)の名/字/別号]為宝ためとみ、字;親卿、別号;江山こうざん/国字屋/揮月堂

長齋(ちようさい・小堀) → 常春(つねはる・小堀/村岡、藩士/遊泳/茶) D 2 9 2 6  
長齋(ちようさい・伊東) → 玄朴(げんぼく・伊東、蘭医) M 1 8 3 9  
長齋(ちようさい・長嶺) → 孖統(ますつぐ・長嶺ながみね、絵師/俳人) D 4 0 9 5  
長濟(ちようさい・長井) → 琳章(りんしょう・長井ながい、藩医/本草家) K 4 9 4 8  
長載(ちようさい・江見) → 長載(ながのり・江見えみ、神職/国学) L 3 2 3 4  
徴齋(ちようさい・羽生) → 信英(のぶひで・羽生はにゅう、藩士/歌人) J 3 5 6 4  
調齋(ちようさい・冢田) → 子常(しじょう・冢田つかだ、医者) T 2 1 7 9  
樸齋(ちようさい・秋山) → 御風(ぎよふう・秋山あきやま、藩士/俳人) H 1 6 5 5  
齋齋(ちようさい・長島) → 寿阿弥(じゅあみ・長島、長唄/浄瑠璃作者) G 2 1 6 5  
長在(ちようざい・村井) → 長在(ながあきら・村井むらい、藩士/記録) D 3 2 1 8  
長材(ちようざい/ながき・八木) → 庭雅(ていが・八木、如山、藩士/俳人) 3 0 4 4

12840 **長左衛門**(ちようざえもん・藤田ふじた) 1669-1716 48 江戸歌舞伎役者・作者、役者;藤田小平次門、  
実方役者/振付師(元祖)、1693「野楊弓」の実方、14「女龍虎二頭」作、  
[藤田長左衛門(;)通称]の号]号;晩花、法号;哲誉本哲靈残

12841 **長左衛門**(ちようざえもん;通称)?- ? 江戸中期河内北河内郡の庄屋、  
「元庄屋長左衛門日記」著

12842 **長左衛門**(ちようざえもん;通称・小西にし/紀井/本姓;紀、名;亮長すけなが)?-? 江戸の薬舗/本草家、  
1751「蹴鞠俗学抄」、「小西長左衛門人参考」「友千鳥」著

12843 **長左衛門**(ちようざえもん;通称)?- ? 磐城白川領熊倉村の農民、1839「百姓心得の種」著

長左衛門(ちようざえもん・楠) → 長諳(ちようあん・楠/大饗、武家故実/書家) 2 8 2 0  
長左衛門(ちようざえもん・大橋) → 重保(しげやす・大橋、書家/右筆/歌) S 2 1 9 5  
長左衛門(ちようざえもん・大橋) → 重政(しげまさ・大橋、重保男/書家) S 2 1 5 8  
長左衛門(ちようざえもん・江島) → 為信(たけのぶ・江島、仮名草子/兵法/俳人) S 2 6 6 3  
長左衛門(ちようざえもん・長江;変名) → 武庸(たけつね・堀部/中山、赤穂浪士) O 2 6 4 8  
長左衛門(ちようざえもん・加藤) → 広正(ひろまさ・加藤かとう、詩人) H 3 7 1 3  
長左衛門(ちようざえもん・大竹) → 勝敵(かつひろ/かつたか・大竹、幕臣/歌) S 1 5 7 9  
長左衛門(ちようざえもん・尾藤) → 長春(ちようしゅん、宮川/尾藤、絵師) I 2 8 8 5  
長左衛門(ちようざえもん・那珂) → 通博(みちひろ・那珂なか、儒/藩校助教) C 4 1 3 9

長左衛門(ちょうざえもん・永田)→ 直行(なおゆき・永田、庄屋/国学) C 3 2 8 9  
 長左衛門(ちょうざえもん・伏屋)→ 重賢(しげかた・伏屋ふせや、庄屋/俳・国学) C 2 1 0 4  
 長左衛門(ちょうざえもん・堀)→ 麦水(ぼくすい・堀ほり、医/俳人) 3 6 0 9  
 長左衛門(ちょうざえもん・中出)→ 宝嘉僧(ほうかそう、彫師/戯作者) 3 9 2 8  
 長左衛門(ちょうざえもん・桑名屋)→ 左梁(さばりやう・中村、俳人) L 2 0 6 7  
 長左衛門(ちょうざえもん・神野)→ 忠知(ただとも・神野かんの、俳人) F 2 6 4 2  
 長左衛門(ちょうざえもん・山田)→ 嘉猷(えみち・山田、国学/歌人) E 1 3 2 7  
 長左衛門(ちょうざえもん・塩田)→ 一胤(かずね・塩田しおだ、和算家) M 1 5 2 7  
 長左衛門(ちょうざえもん・宇野)→ 醴泉(れいせん・宇野うの、儒者/詩人) 5 1 4 7  
 長左衛門(ちょうざえもん・熊谷)→ 道伸(みちのぶ・熊谷、庄屋/儒者・教育) C 4 1 2 2  
 長左衛門(ちょうざえもん・多賀谷)→ 岩翁(いがんおう・多賀谷、商人/俳) D 1 5 4 7  
 長左衛門(ちょうざえもん・森脇)→ 久有(ひさあり・森脇もりわき、国学者/歌) M 3 7 0 9  
 長左衛門(ちょうざえもん・岡島)→ 冠山(かんざん・岡島おかじま、唐話唐音学) 1 5 5 1  
 長左衛門(ちょうざえもん・芳賀)→ 慶明(よしあき・芳賀はが、肝入/国学者) O 4 7 4 9  
 長左衛門(ちょうざえもん・加藤/篠崎)→ 小竹(しょうちく・篠崎/篠、儒者/詩人) 2 2 9 2  
 長左衛門(ちょうざえもん・舟木)→ 伝内(でんない・舟木、料理人) D 3 0 3 6  
 長左衛門(ちょうざえもん・吉田)→ 利恭(としか・吉田よしだ、農業/歌人) W 3 1 9 2  
 長左衛門(ちょうざえもん・梅沢)→ 能世(よしよ・梅沢うめざわ、製塩/和学者) L 4 7 7 6  
 長莎館(ちょうさかん) → 員矩(かずのり・沢田さわだ、地誌家) M 1 5 3 8  
 長作(ちやうさく・古沢) → 康伯(やすのり・古沢、藩士/槍術家) I 4 5 7 3  
 長作(ちやうさく・沢村) → 斗文(とぶん・藤本/沢村、歌舞伎役作者) 3 1 5 5  
 長作(ちやうさく・井面) → 守世(もりつぐ・井面いのも/荒木田、神職) J 4 4 1 6  
 長策(ちやうさく・菊池) → 慎治(しんじ・菊池きくち、庄屋/国学/歌) U 2 2 7 8  
 長三郎(ちやうざぶろう・片桐)→ 貞昌(さだまさ・片桐かたぎり、藩主/茶人) J 2 0 6 6  
 長三郎(ちやうざぶろう・牧) → 武次(たけつぐ・牧まさ、藩士/軍記) O 2 6 4 6  
 長三郎(ちやうざぶろう・神野)→ 忠知(ただとも・神野かんの、俳人) F 2 6 4 2  
 長三郎(ちやうざぶろう・服部)→ 応賀(おうが・万亭まんてい、戯作者) B 1 4 6 2  
 長三郎(ちやうざぶろう・天野)→ 長重(ながしげ・天野、幕臣/文筆家) D 3 2 8 1  
 長三郎(ちやうざぶろう・加藤)→ 定能(さだよし・加藤かとう/黒沢、幕臣/国学) O 2 0 2 3  
 長三郎(ちやうざぶろう・森野)→ 一鳥(いっちょう・浅田、浄瑠璃作者) B 1 1 6 0  
 長三郎(ちやうざぶろう・本多)→ 忠徳(ただのり・本多ほんだ、藩主/藩校設) Q 2 6 4 7  
 長三郎(ちやうざぶろう・土屋)→ 直連(なおつら・土屋つちや、藩士/歌人) N 3 2 8 9  
 長三郎(ちやうざぶろう・大久保)→ 忠栄(ただよし・大久保、幕臣/詩人) R 2 6 2 5  
 長三郎(ちやうざぶろう・石尾)→ 氏一(うじかず・石尾いしお/藤原、幕臣) D 1 2 5 4  
 長三郎(ちやうざぶろう・大河内)→ 輝和(てるやす・大河内/松平、藩主/歌) D 3 0 0 3  
 長三郎(ちやうざぶろう・尼子)→ 久恒(ひさつね・尼子、藩士/国事奔走) B 3 7 4 1

- I2844 **長算**(長讚ちやうざん; 法諱、号; 檀那院、藤原朝範[朝典]男) 992-1057 66 母; 藤原兼清女、天台僧;  
 懐寿僧都入室の弟子/天台; 覚運門/台密; 皇慶門、1041権律師/48慈徳寺別当/50権小僧都、  
 1054法興院別当/楞嚴三昧りょうごんざんまい院別当、1055権大僧都、歌; 後拾遺420、  
 [鷗こそ夜がれにけらし猪名野あなのなる昆陽こやの池水うは氷せり](後拾遺; 冬420、  
 詞書; 入道前大政大臣[藤原道長]の修行のもとにて冬夜の氷を詠み侍りける)
- I2845 **長珊**(ちやうざん・猪苗代いなわしろ、別号; 伴鷗斎、猪苗代広幢男) ?-?1575 存 兼純弟/宗悦の父、連歌研究、  
 1523兄と三条西実隆の源氏物語講釈を受講、兼純より古今伝授を受、仙台伊達植宗に出仕、  
 評定衆に列す、「雑袋」、「長珊聞書」; 1510「源氏物語註」/57「新古今和歌集抄出聞書」著
- I2846 **朝三**(ちやうざん; 号) ? - ? 大阪雑俳点者、1782虎風「場付鼻あぶら」入  
 朝三(ちやうざん・香山) → 如泉(によせん・斉藤、俳人) G 3 3 0 4  
 朝三(ちやうざん・小山) → 朝三(ともかず・小山こやま、儒者/藩士/歌) X 3 1 0 3
- I2847 **朝山**(ちやうざん; 法諱) ? - ? 江前期武州熊谷の曹洞宗泰蔵院住僧、  
 1690「泰蔵院縁起」著
- I2848 **朝山**(ちやうざん; 号) ? - ? 江前期俳人; 1690不角「二葉之松」入

[邪よしまの心の海に苦を游おぐ](二葉之松;287)

- 泰蔵院僧と同一? → 朝山(ちょうざん、曹洞僧) I 2 8 4 7
- 蝶山(ちょうざん・藤森) → 桂谷(けいこく・藤森ふじもり、絵師/教育) F 1 8 6 0
- 長山(ちょうざん;道号) → 尚嗣(ひさつぐ・近衛/藤原、関白/日記) B 3 7 3 6
- 超山(ちょうざん・宇津木) → 久徴(ひさもと・宇津木うつき/平、藩老/歌) I 3 7 5 8
- 塚山(ちょうざん・大塚) → 定伝(さだただ・大塚おつか、藩士/詩歌) O 2 0 1 4
- 長三洲(ちょうざんしゅう) → 三洲(ちょうざんしゅう・長、漢詩) F 2 0 8 6
- 蝶山人(ちょうざんじん) → 重樹(しげき・中沢なかざわ、教育/歌人) C 2 1 1 5
- 朝散大夫(ちょうざんたゆう) → 芳房(よしふさ・朝山あさやま/勝部、神職/歌) G 4 7 7 4
- 朝三亭(ちょうざんてい) → 幸文(たかふみ・木下、歌人) 2 6 1 5
- 朝三堂(ちょうざんどう) → 季水(きすい・祝原、俳人) B 1 6 2 9
- 2838 超子(ちょうし・藤原ふじわら、兼家女)?-982 冷泉天皇女御/三条天皇・為尊・教道親王の母、  
贈皇太后、歌;「冷泉院御集」入;冷泉院との贈答、栄花/大鏡入
- 12849 朝子(ちょうし/あさこ・藤原ふじわら、紀伊守藤原兼永女or高階重仲女)?-? 藤原通憲[信西]の妻、  
1227雅仁親王(後白河天皇)の乳母;親王踐祚後に典侍、1157八十島使/59従二位、  
平治乱時に藤原信頼方の追求を逃れた(平治物語入)、歌人;続詞花集・今撰集・玄玉集入、  
玉葉集2764、成範しげのりの母、  
[朝子(;名)の通称] 従二位朝子、紀[伊]二位、紀伊典侍、紀伊局、尼前
- 12850 長之(ちょうし) ? - ? 堺の俳人;1633重頼「犬子集」入
- 12851 長之(ちょうし;号・杉野すざの)?- ? 江前期加賀の談林俳人、  
1681「加賀染かがぞめ」(一平と共編)、89あら野入  
[いまきたといはぬばかりの燕かな](あら野;二605/新来ノ燕子忙シ)
- 12852 蝶志(ちょうし) ? - ? 江前期俳人;1690不角「二葉之松」入(前句付1句351)
- 12853 長子(ちょうし・岡本、松寿軒)?- ? 洒落本作者、1762「色道このてがしわ」著
- 長子(ちょうし・藤原、頭綱女) → 讃岐典侍(さぬきのすけ、日記/歌人) 2 0 3 0
- 長子(ちょうし・岩橋) → 長子(ながゆき・岩橋いわはし、国学/歌) N 4 0 8 4
- 長之(ちょうし・榎村) → 長之(ながゆき・榎村えのむら、町役/日記) G 3 2 2 6
- 長之(ちょうし/ながゆき・菅沼) → 周桂(しゅうけい・菅沼すがぬま、鍼医) W 2 1 9 9
- 長之(ちょうし・ながゆき・脇) → 蘭室(らんしつ・脇わき、儒者) 4 8 1 0
- 長氏(ちょうし・丹波) → 長氏(ながうじ・丹波たんば、典薬頭/歌人) P 3 2 5 0
- 長梓(ちょうし・亀田) → 綾瀬(りょうらい・亀田かめだ、儒者) 4 9 2 5
- 長賜(ちょうし・川村) → 長賜(ながやす・川村かわむら/源、国学者) L 3 2 7 1
- 澄士(ちょうし・入谷) → 澄士(すみお・入谷いりや、藩士/歌人) I 2 3 0 9
- 趙子(ちょうし・立花) → 北枝(ほくし・立花/土井、研刀業/俳人) 3 9 6 5
- 趙子(ちょうし・陽) → 盛胤(もりたね・大陽寺だいやうじ、藩士/文筆) F 4 4 6 6
- 聴子(ちょうし・鳥居) → さと子(さとこ・鳥居とりい、藩主室/歌) N 2 0 3 8
- 朝四(ちょうし) → 晩得(ばんとく・佐藤、藩士/俳人) I 3 6 4 4
- 朝旨(ちょうし・深津/土岐) → 朝旨(ともむね・土岐/深津、幕臣/文筆) Q 3 1 7 0
- 朝旨(ちょうし・土岐) → 頼旨(よりむね・土岐とき、幕臣/対外交渉) J 4 7 8 2
- 12854 長治(ちょうじ) ? - ? 室町期歌;1474道灌「武州江戸歌合」参加;3首  
[いかりうつ程もなくや夕立の跡よりかかる沖つふな人](江戸歌合;七番左)
- 12855 長治(ちょうじ・川邊かわべ、通称;弥右衛門/剃髪号;瑞運)?-? 和泉堺の俳人;貞徳門/のち重頼門、  
1660頭成あきなり「境海草」67桂葉「小相撲」76西鶴「誹諧師手鑑」82風黒「高名集」入、  
[秋涼し祈り過ぎたる初瀬山](高名集;暑さを和らげることを祈ると涼しくなりすぎた、  
千載;798源俊頼/憂かりける人を初瀬の山風よ烈しかれとは祈らぬものを)
- 12856 蝶二(ちょうじ;号・市原いちばら、名;寿祺、松崎庄五郎男/母;俳人多代女たよじよ)?-1855 桃丘とうきゅう兄、  
岩代須賀川の縮緬問屋、俳人、「鹿野山集」、1820「夕からず」編、  
[蝶二(;号)の別号] 狂歌園/狂花園、  
母 → 多代女(たよじよ・市) H 2 6 7 2  
朝慈(ちょうじ・橘) → 広相(ひろみ・橘たちばな/薄、廷臣/詩人) H 3 7 1 6

- 長治(ちょうじ・浅野) → 長治(ながはる・浅野あさの、藩主/記録) F 3 2 3 6  
 長治(ちょうじ・福岡) → 長治(ながはる・福岡あふくま、歌人) P 3 2 4 3  
 長治(ちょうじ・繁河) → 能進(のうしん・河竹、歌舞伎作者) 3 5 4 1  
 長治(ちょうじ・杉原) → 寿山(じゅざん・杉原すぎはら、銅山方) Y 2 1 8 5  
 長治(ちょうじ・神保) → 長治(ながはる・神保じんぼう、幕臣/奉行) N 3 2 4 5  
 長治(蝶二ちょうじ・鍵屋) → 長治(ながはる・鍵屋かぎや、国学者) L 3 2 5 8  
 長時(ちょうじ・小松原) → 長時(ながとき・小松原こまつばら、俳人) K 3 2 0 8  
 長爾(ちょうじ・山田) → 青門(せいもん・山田やまだ、藩士/儒者/詩) J 2 4 6 5  
 I2857 **長式子**(ちょうしきし) ? - ? 俳人、1656「馬鹿集」(令徳「崑山集」を批判)、「追加慇懃集」  
   松江重頼か? → 維舟(いしゅう・松江重頼、貞門俳人) 1 1 9 2  
 鳶之軒(ちょうしけん→つたのや) → 伴雄(ともお・長沢、藩士/故実/国学/歌) P 3 1 2 3  
 張弛軒(ちょうしけん・大塩) → 正路(まさみち・大塩おおしお、藩士/詩歌) O 4 0 3 1  
 調使首(ちょうししゅ) → 調使首(つきのおびと、万葉歌人) 2 9 0 4  
 長子太夫(ちょうしだゆう・竹本) → 弥太夫(5世やだゆう・竹本、浄瑠璃太夫) D 4 5 7 1  
 蝶七(ちょうしち・なごや) → なごや蝶七(なごやちょうしち、歌伎作者) G 3 2 6 1  
 長七(ちょうしち・黒沢) → 長尚(ながひさ・黒沢、藩士/地誌) F 3 2 4 5  
 長質(ちょうしつ・山崎) → 長質(ながかた・山崎やまさき、藩士/系譜) D 3 2 4 3  
 長室(ちょうしつ・小西) → 馬桜(ばおう・小西こにし、俳人) C 3 6 4 2  
 I2858 **長実**(ちょうじつ;法諱) ? - ? 平安末期天台僧;大原の長宴門/慶厳門、  
   法勝寺三昧僧、1106「三陸抄」著  
 I2859 **調実**(ちょうじつ・一ノ瀬いちのせ) 1652-1725 74 甲斐市川大門の幕府御用紙漉業/俳;1682調和門、  
   1683京の北村季吟門、1685「俳諧白根嶽しらねがたけ」編、  
   [調実(;号)の通称] 市十郎/重左衛門、[木枯の調実]と称される(木枯やの句による)  
 長実(ちょうじつ・藤原) → 長実(ながざね・藤原、大宰権帥/歌人) 3 2 0 8  
 懲室子(ちょうしつし) → 一斎(いっさい・谷たに、儒;南学) E 1 1 1 7  
 長実房(ちょうじつぼう;号) → 英俊(えいしゅん;法諱、法相僧) B 1 3 4 8  
 長芝亭(ちょうしてい) → 千鹿(せんろく・竹野たけの、俳人) H 2 4 0 7  
 釣詩亭(ちょうしてい) → 如山(じよざん・山崎やまさき、藩士/詩人) M 2 2 3 9  
 鳥趾堂(ちょうしどう) → 行業(ゆきなり・黒沢くろさわ、藩士/狂歌) G 4 6 8 0  
 I2860 **場子内親王**(場子ちょうしないしんのう・とうし、後二条天皇皇女)?-? 母;平信輔女、瓊子内親王と贈答、  
   邦良くになが親王1300-26・邦省くにも親王1302-75・寿成門院(じゅじょうもんいん1302-62)らの姉妹、  
   鎌倉南北期歌人・勅撰9首;新千載(166/1602/2062詞書)新拾(2首)新後拾(4首)新続古(78)  
   [吹きまよふ扇の風につてにこそいはでかひある色も見えけれ](新千載;春166)、  
   (瓊子内親王の桜の扇に書いた贈歌への返し;山吹の扇に書いて返す歌)  
   瓊子内親王の贈歌 → 瓊子内親王(けいしないしんのう、後醍醐天皇皇女) 1 8 6 7  
 I2861 **場子内親王家宰相**(ちょうしないしんのうけのさいしやう)?-? 鎌倉南北期期場子内親王家女房、歌人、  
   勅撰4首;新千載(1105)新拾遺(584)新後拾(2首)、  
   [夕煙空にたつ名のうきにだにかへぬ思ひはなほむせびつつ](新千載;恋1105)  
 銚子坊(ちょうしぼう) → 泰運(たいうん・神馬じんば、儒/医/俳人) J 2 6 1 1  
 調子房沓々(ちょうしぼうくつくつ) → 竜馬(りう馬りょうま・土橋亭どばしてい、落語/講談) J 4 9 4 6  
 長糸房針持(ちょうしぼうはりもち) → 面堂安久楽(めんだうあぐら、職人/狂歌師) 4 3 4 8  
 釣詩屋(ちょうしや) → 昆溪(こんけい・長谷川、藩士/詩人) P 1 9 1 7  
 蝶舎(ちょうしや→ちょうのや) → 夜白(やはく・長谷川はせがわ、商家/俳人) D 4 5 9 6  
 丁子屋(7世ちょうじや・小島) → 葛才(かつさい・小島こじま、俳人) F 1 5 4 2  
 丁子屋(8世ちょうじや・小島) → 葛人(かつじん・小島こじま、葛才弟/俳人) C 1 5 4 6  
 丁字屋(ちょうじや) → 九郎右衛門(くろうえもん・西村、書肆) C 1 7 1 2  
 鳥車園(ちょうしやえん) → 五始(ごし・中島なかじま、俳人) C 1 9 7 5  
 鳥車園(ちょうしやえん) → 羅江(らこう・中嶋なかじま/源、俳人) B 4 8 3 2  
 I2862 **長者園萩雄**(ちょうしやえんはぎお、姓;石井いひ) 1784-1873 90 幕臣、狂歌:南畝門、越前水原の代官、

1854江戸に帰国;根岸住/震災で本郷切通し移住、「六撰狂歌集」編(安政年間1854-60刊)、  
[長者園萩雄(;号)の通称/法号]通称;空之助/空之丞、法号;長者園萩雄居士

- I2863 **釣寂**(ちようじやく;号) ? - ? 江前期徳島の俳人、  
1684大阪で三千風を迎えた木村一水興行の俳席に一座、1692「宝鏡」  
釣寂(ちようじやく) → 兼秀(かねひで・広橋/勘解由小路、廷臣/連歌) O 1 5 8 8  
澄寂(ちようじやく;法名) → 俊光(としみつ・日野ひの/藤原、廷臣/歌人) N 3 1 8 1  
長者房(ちようじやぼう) → 浮流(ふりゅう・青山あおやま、念仏僧/俳人) E 3 8 6 0
- I2864 **澄守**(ちようしゆ;法諱) ? - ? 鎌倉末期の僧/権少僧都、歌人;二条派か?、  
続現葉集入、続千載1160、  
[訪とへかしの石田いはたの小野の柞はほ原しづくも露もほさぬ袂を]  
(続千載集;十二恋1160、万葉1730;山科の石田の小野の柞原見つつか君が山道越ゆらむ)  
暢守(ちようしゆ/ものぶもり?・松浦) → 桂川(けいせん・松浦、藩士/儒者) E 1 8 7 4  
長主(ちようしゆ・中田) → 長主(ながぬし・中田なかつ、商家/国学) O 3 2 0 7
- I2865 **寵寿**(ちようじゆ;法諱) ? - 886 平安期真言僧;山城法琳寺小栗栖常暁門;大元帥法修学、  
866法琳寺2世別当;21年間太元阿闍梨を勤務、878夷俘の乱に勅命で出羽で降伏法を修す、  
877「太元法奉状」著
- I2866 **長寿**(ちようじゆ) ? - ? 連歌、1558「花千句」参加;宗養・紹巴らと  
兆寿(ちようじゆ・多紀) → 元所(もとあき・多紀たき、幕府侍医/詩) C 4 4 0 0  
晁樹(朝樹ちようじゆ・西原) → 晁樹(あさき・西原、藩士/国学者) 1 0 4 7  
長寿(ちようじゆ・石井) → 長寿(ながひさ・石井いし、村役/歌人) L 3 2 1 3  
長樹(ちようじゆ・加納) → 諸平(もろひら・加納/夏目、国学者/歌) 4 4 3 5  
長孺(ちようじゆ・林) → 鶴梁(かくりょう・林、幕臣/儒者) E 1 5 8 0  
長孺(ちようじゆ・箕浦) → 靖山(せいざん・箕浦/佐々木、藩士/儒者) B 2 4 7 5  
長孺(ちようじゆ・川口) → 緑野(りよくや・川口かわぐち、医/藩儒) J 4 9 8 1  
長孺(ちようじゆ・岸田) → 月窓(げつそう・岸田さした、詩文) H 1 8 1 9  
長孺(ちようじゆ・都筑) → 十蔵(じゅうぞう・都筑つづき、藩士/詩人) X 2 1 9 1  
長孺(ちようじゆ/ながちか・下郷/清水) → 雷首(らいしゆ・清水/下郷/平、儒者/詩) 4 8 5 4  
微孺(ちようじゆ・太宰) → 定保(さだやす・太宰ださい/阿武、儒者) K 2 0 0 5  
長寿院(ちようじゆいん) → 日耕(にっこう;法諱・恭寿院、日蓮僧) D 3 3 8 8
- I2867 **朝秀**(ちようしゅう・羽地はねじ、向象賢しようじゅうけん) 1617-7559 琉球尚質王摂政、王命で正史「中山世鑑」編、  
羽地間切はねじまざり総地頭、「羽地仕置」著
- I2868 **超宗**(ちようしゅう;道号・如格によかく;法諱/初諱;宗碩) 1638-171780 江戸の生/相模小田原の僧;  
臨濟宗紹太寺の雲谷宗岫門;出家/駿河福寿院住持、黄檗僧;宇治万福寺木庵の侍者、  
1679鉄牛道機より印可/のち紹太寺2世/1715江戸瑞聖寺9世;同寺没、  
「超宗禅師開堂語録」「超宗禅師長興語録」「興山外集」「長興新艸」著、「流孝集」編、  
「新草遺録」著
- I2869 **朝秋**(ちようしゅう) ? - ? 江前期大阪の俳人;1691賀子「蓮の実」2句入、  
[日の照りて雪の焼たる巖いは哉](蓮の実;505)
- I2870 **釣箒**(ちようしゅう) ? - ? 俳人;1698「続猿蓑」1句入、  
[行く鴨や東風ちちにつれての磯惜しみ](続猿蓑;下/北帰行の前にこの磯に別れを惜む)
- I2871 **長洲**(ちようしゅう・岡おか、名;長祐、長興男)?-1766 讃岐高松藩儒;林鳳岡門/1740中寄合儒役、  
1747記録所総裁、子孫も藩の儒臣、詩文に長ず/書を嗜む、「来青軒詩稿」(1768刊)、  
[長洲(;号)の字/通称/別号]字;子申、通称;正吉/平蔵、別号;来青軒
- I2872 **長洲**(ちようしゅう・富田とみた、名;敏貞) 1718-9477 水戸藩士/1732彰考館入/64彰考館総裁/91致仕、  
儒学;増子滄洲門、「復古会詩集」著、  
[長洲(;号)の字/通称]字;復圭、通称;理助/理介
- I2873 **長収**(ちようしゅう・有賀あるが、初名;長因、長因男/長伯の孫) 1750-181869 京生/父に従い大阪に移住、  
歌学;加藤景範門、家学(歌学)を継承;大坂歌壇の中心として活躍、  
「桂雲集類題」編、家集「雲樹集」、「ひもかがみ」著、1796「撰玉類題和歌集」校訂(梅風編)、  
[長収(;名)の号] 居貞斎/生志斎

- I2874 **鳥習**(ちょうしゅう・桐谷きりたに、号; 徠雲とうん斎)?-? 江後期袁宏道流華道: 創始望月義想の孫弟子、  
武州八王子を中心に活動、1808「瓶史国字解」注(袁宏道「瓶史」解説)、  
1809「插花図会」編、「宏道流茶器図苑」著
- I2875 **長洲**(ちょうしゅう・城じょう、名; 晋、善右衛門男) 1804-66<sup>63</sup> 紀伊牟婁郡長島の儒者: 江戸で佐藤一斎門、  
詩; 大窪詩仏門、医学修得、伊予三津浜で開業医、詩文、「亦政えきせい堂詩文集」「亦政堂詩抄」、  
[長洲(; 号)の字/通称/別号]字; 康卿、通称; 隆平、別号; 亦政堂/精義塾主人/華膺かせい道人
- 長秀(ちょうしゅう・原) → 長秀(ながひで・原はら、歌人) P 3 2 4 5
- 長秀(ちょうしゅう/ながひで・井田) → 亀学(きがく・井田いだ、藩士/易学家) J 1 6 8 3
- 長秀(ちょうしゅう/ながひで・正木) → 千幹(ちもと・正木まさき、商家/国学者) F 2 8 4 8
- 長秀(ちょうしゅう/ながひで・井沢) → 蟠龍(ばんりゅう・井沢いざわ、藩士/神道家) I 3 6 6 6
- 長秀(ちょうしゅう) → 如雪(じよせつ、歌人) U 2 2 7 7
- 長脩(ちょうしゅう・佐藤) → 久馬(くま・佐藤さとう、暦算家) D 1 7 4 1
- 長秋(ちょうしゅう・帆足) → 長秋(ながあき・帆足ほあし、神道/歌学) D 3 2 1 0
- 長秋(ちょうしゅう・松濤軒) → 幸雄(ゆきお・斎藤さいとう、名主/地誌) E 4 6 3 4
- 長秋(ちょうしゅう・伊藤) → 長秋(ながあき・伊藤いとう、藩士/書家) D 3 2 0 9
- 長秋(ちょうしゅう・帆足) → 長秋(ながあき・帆足ほあし、神職/歌) D 3 2 1 0
- 長秋(ちょうしゅう・衣川) → 長秋(ながあき・衣川きぬがわ/源、国学者) D 3 2 1 1
- 長秋(ちょうしゅう・久保) → 長秋(ながあき・久保くぼ、藩医/国学者) D 3 2 1 3
- 長秋(ちょうしゅう・鳥屋) → 長秋(ながあき・鳥屋とや、国学者/歌) K 3 2 2 3
- 長秋(ちょうしゅう・菊池) → 長秋(ながあき・菊池きくち、農政/和漢学) L 3 2 8 6
- 長秋(ちょうしゅう・唐坊) → 長秋(ながあき・唐坊とうぼう、藩士/文学者) D 3 2 1 5
- 長秋(ちょうしゅう) → ながあき・横井 → 千秋(ちあき・横井、藩士/国学者/歌) 2 8 0 1
- 長秋(ちょうしゅう・中島) → 長秋(ながあき・中島なかじま、醸造業/国学) N 3 2 9 0
- 長秋(ちょうしゅう・井上) → 長秋(ながあき・井上いのうえ/藤原、神職/判事) L 3 2 0 4
- 長秋(ちょうしゅう・生田) → 珍満(うずまる・生田いくた/井上、藩士/歌) E 1 2 5 0
- 長秋(ちょうしゅう・小川) → 長秋(ながあき・小川えおがわ、商家/検事) L 3 2 3 9
- 長秋(ちょうしゅう・中尾) → 長秋(ながあき・中尾なかお、国学/歌人) O 3 2 0 2
- 長秋(ちょうしゅう・橋本) → 長秋(ながあき・橋本はしもと、商家/和漢学) O 3 2 3 5
- 長就(ちょうしゅう・内藤) → 長就(ながなり・内藤ないとう、幕臣/国学) O 3 2 0 1
- 長洲(ちょうしゅう・増山) → 正賢(まさかた・増山ましま、藩主/書画) B 4 0 9 0
- 朝脩(ちょうしゅう・小峯) → 朝脩(とものかみ・小峯/結城、武将/連歌) Q 3 1 1 5
- 朝秀(ちょうしゅう) → ともしひで・尾崎 → 総左衛門(惣-そうざえもん・尾崎おさき、藩士/勤王) H 2 5 4 2
- 潮洲(ちょうしゅう・神田) → 直文(なおぶみ・神田かんだ、国学者) L 3 2 7 9
- 超秀(ちょうしゅう; 字) → 日幸(にちこう; 法諱・本妙院、日蓮僧) B 3 3 9 0
- 鳥周(ちょうしゅう) → 日々坊(にちちぼう・尾崎太玄、俳人) D 3 3 0 0
- 眺宗(眺宗ちょうしゅう; 法諱) → 観禅(かんぜん; 道号・眺宗、曹洞僧) R 1 5 2 2
- 聴秋(ちょうしゅう・帆足) → 杏雨(きょうう・帆足ほあし、絵師) N 1 6 2 2
- 長柔(ちょうじゅう; 法諱) → 勝剛(しょうごう; 道号、臨濟僧) I 2 2 7 9
- 長住(ちょうじゅう; 法諱) → 旅庵(りょあん・新納にいろ、僧/武将) F 4 9 9 4
- 長住(ちょうじゅう) 訓はすべて → 長住(ながすみ)
- 長従(ちょうじゅう・塩見) → 長従(ながより・塩見しおみ、歌人) P 3 2 4 6
- 長従(ちょうじゅう/ながより・浅野/森) → 快温(はやあつ・森、藩主/詩文) F 3 6 7 1
- 長重(ちょうじゅう/ながしげ) → 幸阿弥(十世こうあみ、江戸前期蒔絵師) 1 9 6 8
- 長重(ちょうじゅう・横地) → 長重(ながしげ・横地よこち、神職/国学) P 3 2 2 6
- 鳥集軒(ちょうしゅうけん) → 忠良(ただよし・永田ながた、藩士/俳人) X 2 6 4 2
- I2876 **長十郎**(初世ちょうじゅうろう・沢村さわむら、備中屋長右衛門、俳号; 宗慶) 1676-1734<sup>59</sup> 上方歌舞伎役者、  
和事实事、俳諧/茶道を嗜む
- I2877 **長十郎**(2世ちょうじゅうろう・沢村さわむら、長之介、初世男)?-1739<sup>早世</sup> 上方歌舞伎役者・1735襲名
- I2878 **長十郎**(4世ちょうじゅうろう・沢村、井筒屋、岡田亀次郎/亀右衛門、俳名喜長)?-? 1757歌舞伎立役者、  
3世(初世宗十郎)門、俳諧

長十郎(3世ちょうじゅうろう・沢村)→ 宗十郎(初世そうじゅうろう・沢村、歌舞伎役者/俳) 2 5 1 0  
 長十郎(5世ちょうじゅうろう・沢村)→ 宗十郎(5世そうじゅうろう・沢村、歌舞伎役者) B 2 5 9 1  
 長十郎(ちょうじゅうろう・山本)→ 氷解(ひょうかい・遷喬亭、狂歌作者) F 3 7 1 6  
 長十郎(ちょうじゅうろう・水野)→ 忠任(ただとう・水野みずの、藩主) P 2 6 9 6  
 長十郎(ちょうじゅうろう・山口/中川)→ 春亭(初世しゅんてい・勝川、絵師) K 2 1 3 0  
 長十郎(ちょうじゅうろう・服部)→ 寛斎(かんさい・服部はつとり、幕臣/儒) H 1 5 5 8  
 長十郎(ちょうじゅうろう・小出)→ 兼政(かねまさ・小出こいで、暦算家) O 1 5 9 3  
 長十郎(ちょうじゅうろう・竹下)→ 草丸(くさまる・竹下、俳人) C 1 7 4 0  
 長十郎(ちょうじゅうろう・内藤)→ 忠明(ただあき・内藤ないとう、幕臣/紀行) P 2 6 1 0  
 長十郎(ちょうじゅうろう・鶴殿)→ 平七(へいしち・鶴殿うどの、藩士) 2 7 5 1  
 長十郎(ちょうじゅうろう・阿野)→ 清通(きよみち・阿野あの/越智、歌人) T 1 6 1 8  
 長十郎(ちょうじゅうろう・松平)→ 輝高(てるたか・松平まつだいら/大河内/源、藩主/老中/歌) E 3 0 8 6  
 長十郎(ちょうじゅうろう・中根)→ 正言(まさとき・中根なかね/平、幕臣/歌) M 4 0 6 3  
 長十郎(ちょうじゅうろう・土井)→ 敬文(あつふみ・土井どい、国学) I 1 0 0 0  
 長十郎(ちょうじゅうろう・田中)→ 荷徳(もちのり・田中たなか、藩士/国学) K 4 4 2 7  
 長十郎(ちょうじゅうろう・野田)→ 良阿(りょうあ・野田のだ、酒造・歌人) M 4 9 2 2  
 趙十郎(ちょうじゅうろう・高松)→ 信行(のぶゆき・高松たかまつ、剣術家/国学) I 3 5 9 7

F2896 **長淑**(長叔ちょうしゅく・ながよし/ながとも・吉田よしだ、馬場兵右衛門男) 1779-1824/46 母方叔父吉田長肅養子、初め漢方医土岐長元(幕府医官)門/のち蘭医;幕府医学館蘭方医桂川甫周(4世)門、和蘭書より内科学を研究、宇田川玄眞風雲堂で修学、江戸中橋上槇坊に医開業、1810師の代行として加賀藩主前田治脩診察;以後加賀藩の庇護を受、西洋内科医書を翻訳、蘭馨堂を開塾;子弟教育、高野長英・渡辺華山・小関三英・足立長雋・小川守中らの師、1824前藩主前田斉広診察のため加賀の道中に発病し金沢で客死、「駒谷漫録」「蘭方類聚」「内科解還」「蘭葉鏡原」著、「泰西熱病論」訳、「遠西名物考」編、[長淑(;通称)の名/字/別号]名;成徳しげのり、字;直心、別号;齋谷せつこく/蘭馨らんけい/豹谷、法号;天球院

長肅先生(ちょうしゅくせんせい)→ 尚斎(しょうさい・小倉おぐら、藩儒/詩文) S 2 2 3 0

長寿軒(ちょうじゅけん) → 照泰(てるやす・金子、地誌/絵師) D 3 0 0 2

I2879 **長寿丸**(ちょうじゅまる) ? - ? 連歌;1464?盛長「熊野千句」参

張朱鱗(ちょうしゆりん) → 梨春(梨春りしゆん・後藤/多田、蘭学/本草/談義本) B 4 9 2 3

I2880 **長舜**(ちょうしゆん;法諱・観恵かんえ;号、醍醐流源兼氏男)?-?1325頃没(60余歳)天台宗叡山の僧/法印、鎌倉期二条派歌人、新後撰・続千載撰集の和歌所の開闢・連署、続後拾遺集連署;撰中没、1315為世[花十首寄書]参加/井蛙抄に逸話、続現葉・松花・臨永・藤葉集(2首)入、贈答歌集「古今贈答集」撰(散佚)、勅撰39首;新後撰(187/529/873)玉葉(1896)続千(7首)続後拾(6首)風(2首)新千(10首)以下[時鳥いま一こゑをまちえてやなきつるかたを思ひさだめん](新後撰;夏187)、[前大僧正桓守すすめ侍りける日吉社三首歌合に山雪、宮古には風のみさえてふらぬ日も雪になり行くひらの山端](藤葉;冬355)

I2881 **澄舜**(ちょうしゆん;法諱、源兼定男)?-? 鎌倉期天台僧;権少僧都/法印、歌人、勅撰3首:続拾遺1228/新後撰1090/続千2017

I2882 **澄俊**(ちょうしゆん;法諱、証義、法印大僧都憲実男)?-? 1351存(70歳頃) 鎌倉南北期天台僧、安居院の中納言法印/大僧都、1317伏見院葬送参加、能説家;安居院唱道活動の嫡流、1323北条貞時13回忌の法華八講第三座の講師、1331笠置落城時豪誉により捕縛される、六波羅に連行;下野配流、赦免後も関東に唱道活動、歌人:1350為世十三回忌和歌に参加、勅撰3首;続千載(990)新千載(855/1918)、[散り残る法のはやしの梢にはこと葉の花の色ぞすくなき](続千載;釈教990、詞書;代々の跡におよばざる事を思ひて詠み侍りける)、[澄俊の通称] 中納言大僧都

I2883 **澄舜**(ちょうしゆん;法諱、眞如房)?-? 戦国安桃期1532-92頃肥前の天台宗寶光院僧、法印/大僧都/大和尚位、1538「両部曼荼羅私抄」、「南天形音義」、「慧心院六観音縁起」著

- I2884 **長舜**(ちょうしゆん;法諱) ? - ? 戦国期永禄1558-70頃天台宗月山寺住僧、  
「四種三昧義案立二界増減」著
- I2885 **長春**(ちょうしゆん、宮川みやがわ/本姓;尾藤びとう) 1682-1752 71 尾張宮川村の絵師;土佐派、師宣画風私淑、  
精緻な肉筆美人風俗画を描く;宮川派と称す、「長春浮世絵巻」「風俗図巻」「立美人図」、  
「遊女聞香図」「十二ヶ月風俗絵巻」「たのしみ草」画、  
1750-51狩野春賀に招聘され日光廟彩色修復に従事;報奨金で刃傷沙汰;江戸構えの処分、  
[宮川長春(;通称)の別通称] 長左衛門/喜平治
- I2886 **長雋**(ちょうしゆん、足立あだち、井上いのうえ正広男) 1776-1836 61 医/漢方:薩摩藩医足立梅庵門、  
師の姓を賜る、多紀庵長門/丹波篠山藩に出仕/蘭学;吉田長叔門/西洋医学書の翻訳、  
内科/産科に精通、産科に蘭方導入の初め、「産科礎」「女科集成」訳、1831「医方研幾」訳、  
「足立家方鑑」「産科輯要」「眼象礎」「胡椒説」「胡椒説」「聖京礎」「和蘭疝積論」「方劑篇」著、  
[長雋(;名)の別名/字/号]別名;世茂、字;松文、号;無涯、法号;教林院
- 長俊(ちょうしゆん/ながとし・熊坂) → 適山(てきざん・熊坂、藩士/絵師) B 3 0 9 4  
長俊(ちょうしゆん/ながとし・榊原) → 香山(こうざん・榊原さかきばら、故実家) J 1 9 2 5  
長春(ちょうしゆん/ながはる・植木) → 悦(えつ・植木うえき、藩士/兵学者) E 1 3 0 8  
長春(ちょうしゆん・藤野) → 長春(ながはる・藤野ふじの、書・篆刻家) F 3 2 3 9  
長春(ちょうしゆん・山越) → 長春(ながはる・山越やまごし、国学者/歌人) P 3 2 1 7  
長春(ちょうしゆん・芥川) → 寸艸(すんそう・芥川/小野寺、幕臣/歌) 2 3 2 1
- I2887 **朝笄**(ちようじゆん) ? - ? 江前期俳人;1690不角「二葉之松」4句入  
[初陣うひじんの夫つまを勇める義理笑ひ](二葉之松;435/出陣の夫を顔で笑って励ます若妻)
- M2892 **超順**(ちようじゆん;法諱、俗姓;三上) 1835-68 戦死 34 蝦夷松前藩福山法華寺の住職、歌;神山魚貫門、  
松前藩正義隊隊長、1868函館を占拠した榎本ら旧幕府軍により松前城陥落;館城に退却、  
館城攻めに超順は右手に大刀・左手にまな板を楯に単身旧幕府軍に立向い斬殺、  
館城跡に[三上超順力試しの石]あり、  
[超順の字/通称/号]字;以直、通称;欽治、号;仏外
- 長準(ちようじゆん・伊藤) → 竹里(ちくり・伊藤、儒者) D 2 8 8 7  
長順(ちようじゆん・小堀) → 常春(つねはる・小堀/村岡、藩士/遊泳/茶) D 2 9 2 6  
長順(ちようじゆん・黒田) → 斉清(なりきよ・黒田、藩主/本草学) H 3 2 2 7  
長順(ちようじゆん・江守) → 城陽(じょうよう・江守えり、藩儒) B 2 2 8 8  
長順(ちようじゆん・葉室) → 長順(ながとし・葉室、廷臣) E 3 2 9 0  
長順(ちようじゆん・今村) → 長順(ながより・今村、医者/俳人) G 3 2 5 8  
長順(ちようじゆん・西村/飯沼) → 慈斎(よくさい・飯沼いぬま/西村、医者/本草) B 4 7 7 2  
長淳(ちようじゆん・四方田) → 長淳(ながゆき・四方田よもだ、官吏/歌人) P 3 2 2 5  
朝純(ちようじゆん;字) → 純瑜(じゆんゆ;法諱・朝純;字、真言僧) K 2 1 5 2  
長春庵(ちようしゆんあん) → 桃秋(とうしゅう・広瀬、俳人、淡窓父) E 3 1 9 4  
長春院(ちようしゆんいん) → 兼山(けんざん・武田たけだ、医者) J 1 8 2 0  
長春園(ちようしゆんえん) → 卓堂(たくどう・船曳ふなびき、医者) H 2 6 7 0  
長春館(ちようしゆんかん) → 且斎(たんさい・中西なかにし、医者、俳人) I 2 6 7 1  
長春館柳外(ちようしゆんかりゅうがい) → 専正(せんしやう;法諱、池坊42世/華・歌) O 2 4 2 1  
長春舎(ちようしゆんしゃ) → 直好(なおよし・熊谷、歌人) 3 2 0 4  
長春舎(ちようしゆんしゃ) → 甄里((せんり・森本もりもと、藩士/儒者) N 2 4 2 7  
長春亭(ちようしゆんてい) → 直好(なおよし・熊谷、歌人) 3 2 0 4  
暢春楼(ちようしゆんろう) → 雲隣(うんりん・青山、絵師) E 1 2 1 2  
長嶼(ちようしよ・一色) → 重熙(しげひろ・一色いっしき、藩士/漢学者) S 2 1 4 8
- I2888 **齋助**(ちようじよ;法諱、右大臣三条実親男) 1217-90 74 真言宗仁和寺僧;眞乗院の房円僧正門、  
1233法眼/40大僧都/43道深より灌頂受/44法印/66東寺長者/70僧正/72東寺長者法務、  
護持僧/1280大僧正/81仁和寺別当、  
[齋助の通称] 右大臣大僧正、
- I2889 **兆如**(ちようじよ・中島なかじま) ? - ? 1808以降没 尾張知多郡太田村の庄屋、俳人;暁台・士朗門、  
1788「夜のはしら」入(可有名)、1790兆如と改名、1803「初時雨」編、

- [兆如(；号)の通称/別号]通称;木綿屋毛助/庄六、初号;可有/梅林  
釣女(ちょうじょ) → 釣女(つりよ、歌人) F 2 9 0 5
- L2818 **長昭**(ちょうしょう) ? - ? 平安後期の僧/歌人、  
1071-82頃「多武峯往生院千世君ちよきみ歌合」左方入(紀伊入道素意判)、  
[月のみぞ峰のつづきにすみわたる妻呼ぶ鹿の声ばかりして]、  
(千世君歌合;二番3/閑山秋月)
- I2890 **超清**(ちょうしゅう・せい;法諱、俗姓;紀、八幡宮別当幸清きょうしゅう男) 1192or98-1236 45or39 社僧、  
石清水八幡宮祠官、1208法眼/法印/八幡宮権別当、宝塔院主、歌;新勅撰1082、  
[超清の号]中殿、  
[いかばかりその夜の月の晴れにけむ君のみ山は雲も残らじ](新勅撰;十六1082)  
(高弁[明恵]上人[1173-1232]の座禅の時の月影の歌を見て)  
[思ひあまり書く言の葉の色に出でば空の時雨を涙とは見よ](明恵上人歌集;138、  
[明恵の返歌、  
色に出でて書く言の葉も変らねば袖の時雨も雨とこそ見れ]同;136)
- I2891 **超清**(ちょうしゅう・ちようせい;法諱、号;北田中、八幡宮別当陶清男) 1320-81 62 社僧;石清水八幡宮祠官、  
母;尚清女、石清水八幡宮修理別当/権別当/法眼、1345権少僧都/62別当/62檢校、  
連歌;菟玖波1句(1642)入、定清じようしゅうの弟、  
[有明を夜ふねのうらに松島や](菟玖波;羈旅1642/前句;惜しまば秋よしはしとどまれ)
- I2892 **長清**(ちようしゅう;法諱、俗姓;田中、八幡宮祠官東竹甲清男) ?-? 田中教清の嗣(教清女千代の婿)、  
社僧;石清水八幡宮祠官、1565法眼・社務職/78権大僧都・法印、連歌;紹巴長清等何人百韻
- I2893 **齋昭**(ちようしょう;法諱) ? - ? 安桃期慶長1596-1615頃天台宗恵日房の住僧、  
1598「悉曇初心抄」著
- I2894 **長昌**(ちようしょう) ? - ? 伊勢山田俳人;1633重頼「犬子集」入
- G2834 **調松**(ちようしょう) ? - ? 江前期俳人;1693不角「二息」入、  
[後家入ごけいは内蔵抱いて寝る見込み](二息/後家への婿入りの時の心得)
- I2895 **朝祥**(ちようしょう・宜野湾ぎのわん) ?-1817? 琉歌作者;「琉歌全集」31首入、  
[ままならぬ恋路深く踏み迷て/物よ思尽すかたも無らぬ]
- I2896 **長嘯**(ちようしょう・北山きたやま) ?- 1837 越後高田藩家老/訳あつて浪人し信濃野尻住、  
信州更科郡の内山五夕宅に寄食/俳人;暁台・白雄に私淑、一茶と交友、  
「寒雅集」「佐野日記」「俳諧異」「野尻の秋風」「吉原の譜」著、  
[長嘯(；号)の別号] 芙蓉坊/月窓寺/幻々舎/天念舎/関々庵/若蘭亭/北越蟄士
- I2897 **聴松**(ちようしょう・吉沢としざわ、名;清述、郷校教官吉沢鑑斎男) 1813-60 48 羽後横手の詩人;父門、  
「蝦夷地詩集」著、  
[聴松(；号)の字/通称]字;子友、通称;市蔵
- N2854 **聴松**(ちようしょう・松田まつた、名;直ただし) 1825-88 64 常陸龍ヶ崎の国学者/俳人、江戸住、  
1879(明治12)正風社を創立;[俳諧新報]を主宰、  
[直(；名)の字/通称/別号]字;伯養、通称;犬市/丈一郎、別号;亭々堂/小嵐/槐江
- 長章(ちようしょう・土佐) → 長章(ながあき・土佐/姉小路、絵師) D 3 2 0 7  
長章(ちようしょう・中根) → 長章(ながあき・中根、蔵書家) D 3 2 1 4  
長章(ちようしょう・稲垣) → 白嵐(はくがらん・稲垣いながき、藩士/儒者) C 3 6 8 8  
長昭(ちようしょう・河村/山本) → 若麟(じゃくりん・山本、絵師) G 2 1 4 1  
長韶(ちようしょう・黒田) → 長韶(ながつぐ・黒田、藩主/歌人) E 3 2 4 2  
長昇(ちようしょう・向井) → 長昇(ながのり・向井、藩士/俳人) F 3 2 3 1  
長松(ちようしょう・滋岡) → 長松(ながまつ・滋岡しげおか、連歌) F 3 2 8 2  
長松(ちようしょう・座光寺) → 林(りん・座光寺ざこうじ/一色、為壽妻/歌人) M 4 9 1 8  
長勝(ちようしょう・小笠原) → 長勝(ながかつ・小笠原おがさわ/源、藩主/連歌) D 3 2 4 5  
長嘯(ちようしょう・木下) → 長嘯子(ちようしょう・木下、武将/歌人) 2 8 2 3  
長嘯(ちようしょう・大竹) → 雲夢(うんむ・大竹おおたけ、儒者) E 1 2 0 7  
長嘯(ちようしょう・中野) → 源蔵(げんざう・中野、庄屋/真宗僧/儒者) K 1 8 8 2  
長尚(ちようしょう・立林) → 何用(かげい・立林たてばやし、絵師) F 1 5 7 7

- 朝昌(ちょうしょう・土岐) → 朝昌(とまさ・土岐とき、幕臣/奉行) T 3 1 8 1  
朝璋(ちょうしょう・草鹿) → 泰仲(たいちゅう・草鹿くさか、藩士/医/詩) K 2 6 6 2  
12898 朝常(ちょうじょう・源河) ? - ? 琉球詩人、「放斎ほうさい詩集」著  
M2853 朝常(ちょうじょう・護得久ごく、唐名;向文蔚ぶんうつ、朝置ちようち長男) 1850-1910 61 琉球の廷臣;  
護得久13世;諸見里按司、国学奉行、真和志平等学校所奉行/真和志平等総横目/御系図奉行、  
詩人;宜湾ぎわ朝保門、朝良の兄、  
[朝常(;名)の幼名/号]幼名:思鍋、号;蜃楼、護得久朝惟(衆議院議員)の父  
朝常(ちょうじょう・津田) → 朝常(ともつね・津田つだ、藩士/歌人) P 3 1 8 6  
長城(ちょうじょう・飯沼) → 長城(ながき・飯沼いぬま、国学者) K 3 2 2 2  
長城(ちょうじょう・三間) → 元長(もとなが・三間みま、藩士・国学)) L 4 4 5 1  
聴松庵(2世ちょうしょうあん) → 古竹(こちく・致一、俳人) F 1 9 5 8  
聴松庵(3世ちょうしょうあん) → 菟留(とりゅう・亞声房、藩士/俳人) R 3 1 8 8  
聴松庵(ちょうしょうあん) → 日謙(にちけん;法諱・慈讓院、日蓮僧) B 3 3 6 2  
聴松庵(ちょうしょうあん) → 円勢(えんせい;法諱、真宗僧/詩) F 1 3 1 0  
聴松庵(ちょうしょうあん) → 資礼(すけひろ・那須・藤原/佐竹、幕臣) C 2 3 6 4  
聴松庵(ちょうしょうあん) → 商斎(しょうさい・亀田/林、商家/詩歌) J 2 2 0 0  
聴松庵(ちょうしょうあん) → 徳経(のりつね・土肥どひ、国学/歌人) J 3 5 2 8  
長笑庵(ちょうしょうあん) → 奇山(きざん・長崎、藩士/詩歌/俳) K 1 6 6 4  
長松庵(ちょうしょうあん;号) → 師準(しじゅん;法諱・尚隆;字、臨濟僧/歌) D 2 1 9 7  
長松庵(ちょうしょうあん) → 隨古(ずいこ・湯浅ゆあさ、俳人) 2 3 5 2  
聴松庵松花(ちょうしょうあんしょうか) → 十右衛門(じゅうえもん・荒川、藩士/俳人) W 2 1 7 0  
聴松庵東井(ちょうしょうあんとうせい) → 直徳(なおのり・外山とやま、歌人) C 3 2 0 9  
聴松逸人(ちょうしょういつじん) → 逸人(いつじん・加藤かとう、商家/俳人) B 1 1 5 1  
長松院(ちょうしょういん) → 貞子(さだこ・伊達だて/久我、仙台藩主室) O 2 0 8 3  
長松園(ちょうしょうえん) → 円猷(えんゆう、真宗本願寺派僧/歌人) F 1 3 4 2  
聴松和尚(ちょうしょうおしょう;南禅寺聴松院開) → 靈彦(れいげん・希世、臨濟僧) 5 1 0 1  
長松下(ちょうしょうか・茨木) → 素因(そいん・茨木いばらき、藩士/俳人) F 2 5 8 3  
張昇角(ちょうしょうかく) → 百川(ひやくせん・榊原、絵師/俳人) E 3 7 6 4  
長松観(初世ちょうしょうかん) → 有隣(ゆうりん・大久保、藩家老/俳人) E 4 6 1 2  
長松観(2世ちょうしょうかん) → 楚南(そなん・大久保、有隣男/藩家老/俳人) K 2 5 2 7  
聴松館(ちょうしょうかんと) → 柳塘(りゅうとう・匹田/疋田ひきだ/藤原、家老) F 4 9 3 0  
12899 籠松軒(ちようしょうけん) ? - ? 江中期大阪島の内宗右衛門町の菓子商/年寄、  
歌舞伎作者:初世並木正三の交友/初め浜芝居/1778大坂中の芝居山下亀之丞座の作者、  
春木元輔・奈河三ぶ・奈河七五三助めすけらと合作;時代物が得意、博識/俳諧を嗜む、  
1778「時爾当代仙人鑑」/79「唐土日本往古図」「狭飛脚花街往来」「赤坂城皐花合戦」著、  
[籠松軒(;号)の通称/別号]通称;高砂屋平左衛門、別号;福田勢三ぶくだせいぞう  
長松軒(聴松軒ちようしょうけん) → 貞親(さだちか・伊勢/平、幕臣/故実家) C 2 0 0 1  
長松軒(ちようしょうけん) → 惟実(これざね・安藤あんどう、詩人) O 1 9 3 6  
長松軒(ちようしょうけん) → 宗因(そういん・西山、連歌・俳人) 2 5 0 3  
長嘯軒(ちようしょうけん) → 雪亭(せつてい・山本やまもと、棋士;碁) L 2 4 2 5  
長松彦(ちようしょうげん) → 了願(りょうがん;法諱・黒川、真宗僧/歌) M 4 9 3 8  
長松斎(ちようしょうさい) → 宗因(そういん・西山/西、俳人/連歌) 2 5 0 3  
長嘯斎(ちようしょうさい) → 茂信(しげのぶ・木村きむら、藩士/国学) O 2 1 1 8  
2823 長嘯子(ちようしょうし・木下きのした/豊臣、名;大蔵/勝俊かつとし、家定男) 1569-1649 81歳 武将、秀吉の甥、  
播磨竜野城主のち若狭小浜城主;従四下少将、関ヶ原直前伏見城を放棄した責任で領地没収、  
京の東山のち西山隠栖、歌;細川幽齋門/多くの文人と親交、二条派に反し自然を自由に詠む、  
1592「長嘯子九州の道の記」、「長嘯歌選」「長嘯独吟」「長嘯詠歌十首」「長嘯子文集」、  
「長嘯文章」「木下勝俊朝臣集」、「鳥歌合」「虫歌合」「さか衣」「うなひ松」「はまのまさこ」、  
「東山々家記」「西山山家記」「吾妻のみちの記」「和歌手綱」「和詞綱手」「魚の歌合」著、

1631「賀州行記」49歌文集「挙白集」外著多数、長流[林葉累塵集]105首入、  
 [野辺見れば尾花が末に打ちなびく夕日もうすしもずの一こゑ](挙白集;740秋歌)、  
 [長嘯子(;号)の別号]長嘯/挙白堂/松洞/東山/東翁/東山樵翁/東山夢翁/西山樵翁、  
 天哉/独笑、法号;天哉長嘯大成院、小早川秀秋・木下延俊の兄、

- 父 → 家定(いさだ・木下/豊臣、藩主/随筆) E 1 1 8 2  
 長松子(ちょうしょうし) → 直亮(なおすけ・大橋、医者・国学/紀行) B 3 2 3 6  
 長松子(ちょうしょうし) → 橘庵(きつあん・北山きたやま、医/儒者) F 1 6 8 8  
 長松寺(ちょうしょうじ;号) → 信満(のぶみつ・武田/源、武将/詩歌) D 3 5 4 6  
 朝松亭(ちょうしょうてい) → 玉善(ぎよくぜん;法諱・知覚、真言僧) P 1 6 2 2  
 聴松堂(ちょうしょうどう) → 直諒(なおあき・溝口、藩主/文筆) 3 2 5 9  
 長松堂箕形(ちょうしょうどうきけい) → 在色(ざいしき・野口/関、俳人) 2 0 8 0  
 長四郎(ちょうしろう・三井) → 高福(たかよし・三井、商家;財閥の礎) N 2 6 7 7  
 長四郎(ちょうしろう・佐野屋) → 淡雅(たんが・菊池/大橋、商家/儒者) T 2 6 2 1  
 長四郎(ちょうしろう・伊勢屋) → 心行(しんぎょう・北山;行名、富士講行者) N 2 2 8 9  
 長四郎(ちょうしろう・中川) → 天壽(てんじゅ・韓かん/青木/中川、書家) D 3 0 7 2  
 長四郎(ちょうしろう・安田) → 広治(ひろはる・安田/秦/藤本、神職/国学) G 3 7 9 5  
 長四郎(ちょうしろう・布川) → 正謙(まさかた・布川ぬのかわ、商家/国学/歌) R 4 0 4 6  
 長四郎(ちょうしろう・長田) → 順二郎(じゅんじろう・長田ながた、測量家) L 2 1 1 2  
 長四郎(ちょうしろう・照井) → 曾洛(そらく・照井てるい、職人/俳人) E 2 5 4 5  
 長四郎(ちょうしろう・竹垣) → 直道(なおみち・竹垣たけがき、幕臣/代官) C 3 2 6 2  
 長四郎(ちょうしろう・坂野屋) → 素真(そしん・山形/坂野屋、絵師) D 2 5 9 0  
 長四郎(ちょうしろう・菊田) → 和平(かずひら・菊田まくた/小笠原、農家/国学/神職) U 1 5 4 8  
 長四郎(ちょうしろう・曾我) → 常昌(つねまさ・曾我そが、里正/国学/歌) F 2 9 8 7  
 長二郎(ちょうじろう・横谷) → 宗珉(そうみん・横谷よこや、彫金師) C 2 5 9 7  
 長二郎(ちょうじろう・関島) → 良基(よしもと・関島せきじま、医者/教育) N 4 7 5 8  
 長治郎(ちょうじろう・桂) → 南野(なんや・桂かつら、藩士/儒者) 3 2 4 1  
 長治郎(ちょうじろう・釣瓶屋) → 關更(らんこう・高桑たかくわ、商家/俳人) 4 8 0 3  
 長次郎(ちょうじろう・本多) → 重世(しげよ・本多ほんだ、幕臣/歌人) D 2 1 3 3  
 長次郎(ちょうじろう・家原) → 上太郎(じょうたろう・紀、三井高業、狂歌) 2 1 9 4  
 長次郎(ちょうじろう・安積) → 直行(なおゆき・安積あさか、儒者) C 3 2 8 5  
 長次郎(ちょうじろう・野沢) → 凡兆(ぼんちょう・野沢のざわ、医/俳人) 3 9 7 3  
 長次郎(ちょうじろう・織田) → 柳条(りゅうじょう・織田おだ、柳居門俳人) E 4 9 6 9  
 長次郎(ちょうじろう・脇/水上) → 征房(まさふさ・水上/水/脇、藩士/歌人) H 4 0 1 6  
 長次郎(ちょうじろう・家原) → 上太郎(じょうたろう・紀、三井、浄瑠璃作/狂歌) 2 2 8 7  
 長次郎(ちょうじろう・越前屋) → 春水(初世しゅんすい・為永、人情本作者) 2 1 6 1  
 長次郎(ちょうじろう・由比) → 勝生(かつなり・由比ゆい、藩士/文筆) N 1 5 6 7  
 長次郎(ちょうじろう・斎藤) → 宜義(のぶよし・斎藤、和算家) D 3 5 9 8  
 長次郎(ちょうじろう・林) → 十江(じっこう・林/高野、篆刻家) E 2 1 8 6  
 長次郎(ちょうじろう・荷田) → 御風(のりかぜ・荷田/羽倉/柴崎、国学) E 3 5 3 6  
 長次郎(ちょうじろう・井本) → 為蝶(いちよう・井本いもと、俳人) G 1 1 5 6  
 長次郎(ちょうじろう・塙) → 一瓢(いっぴょう・塙はなわ、儒者) H 1 1 7 6  
 長次郎(ちょうじろう・山口) → 凹巷(おうこう・山口やまぐち、詩人) B 1 4 6 4  
 長次郎(ちょうじろう・歌川) → 芳鶴(初世よしつる・歌川うたがわ、絵師) E 4 7 7 8  
 長次郎(ちょうじろう・木曾) → 武元(たけもと・木曾きそ、郷土史家) O 2 6 8 4  
 長次郎(ちょうじろう・神保) → 長標(ながすえ・神保じんぼう/橘/石丸、幕臣) K 3 2 2 7  
 長次郎(ちょうじろう・柘植) → 蔭夏(かげなつ・柘植つげ、歌人) V 1 5 0 9  
 長次郎(ちょうじろう・佐藤) → 益友(ますとも・佐藤さとう、国学者) P 4 0 8 4  
 長次郎(ちょうじろう・日柳/加島屋) → 燕石(えんせき・日柳くさなぎ、詩人/勤王派) B 1 3 8 1  
 澄二郎(ちょうじろう・永井) → 義端(ぎたん・永井ながい、藩士/詩人) L 1 6 1 9

歌：月詣集入集、千載集601/1017、

[年を経て昔をしのぶ心のみうきにつけても深草の里](千載;九601、深草の里は父の墓所)

N2893 澄心(ちょうしん;法諱、) ? - ? 鎌倉期;僧/沙弥、歌;1237刊[檜葉集]入、  
[ある人柿本の歌合といふ事し侍りけるに 故郷の心、  
しのびきて昔のあとをながむればただひとむらの浅茅なりけり](檜葉;雑700)

J2801 超心(ちょうしん) ? - ? 連歌、1449筒井時述催「広柏ひろがしむ千句」第九発句、  
1452「宝徳千句」第六発句

M2896 蝶眞(ちょうしん;法諱、号;松嶺軒)1645-1727<sup>83</sup> 陸奥仙台の律師/法橋

兆新(ちょうしん・松田) → 元兆(もとよし・松田/上部、国学者) E 4 4 7 7

長辰(ちょうしん・相良) → 長泰(ながやす・相良さがら/稻留、武将/和学) N 3 2 2 4

長辰(ちょうしん・角野かどの/すみの) → 長辰(ながとき・角野、歌人) E 3 2 7 2

長進(ちょうしん・水越) → 八郎左衛門(はちろうざえもん・水越みずこし、藩士) F 3 6 0 4

長親(ちょうしん→ながちか・葉室) → 定頭(さだあき・葉室/藤原、廷臣/連歌) H 2 0 6 0

長親(ちょうしん・清岡) → 長親(ながちか・清岡きよおか/五条、廷臣/学者) E 3 2 2 8

長深(ちょうしん;字) → 良尊(りょうそん;法諱・長深、真言僧) I 4 9 7 3

長慎(ちょうしん・岡部) → 長慎(ながちか・岡部おかく、藩主/藩史/歌) K 3 2 3 3

朝辰(ちょうしん・成田) → 朝辰(ともとき・成田なるた/羽生、占卜家) P 3 1 9 2

朝信(ちょうしん・大島) → 朝信(ともひこ・大島おおしま、藩士/歌) U 3 1 5 0

潮信(ちょうしん・小村) → 宗訊(そうじん・小村こむら、連歌師) C 2 5 2 2

澄神(ちょうしん) → 豊彦(とよひこ・岡本、絵師) R 3 1 4 9

徴信(ちょうしん・馬場) → 徴信(もとのぶ・馬場ばば、神道家) K 4 4 9 3

肇臣(ちょうしん・阿野/随朝) → 若水(じゃくすい・随朝ずいちょう/阿野、和算/漢学) G 2 1 2 7

J2802 澄尋(澄深ちょうじん;法諱、藤原顕雅男)?-? 鎌倉中後期1250-88頃天台宗僧正/多武峯別当、  
聖光院住、「金剛界澄尋口決」、1287「受法次第」「胎藏界澄尋口決」著

澄心軒(ちょうしんけん) → 草也(そうや・安江、俳人) D 2 5 0 1

澄心軒(ちょうしんけん) → 亮斎(りょうさい・須賀すが、藩儒) H 4 9 6 0

潮信軒(ちょうしんけん) → 正則(まさのり・稲葉いなば、藩主/幕政) F 4 0 9 7

潮信斎(ちょうしんさい) → 宗訊(そうじん・小村友弘、連歌) C 2 5 2 2

澄神斎(ちょうしんさい) → 豊彦(とよひこ・岡本、絵師) R 3 1 4 9

朝寝斎白翁(ちょうしんさいはくおう) → 益江(ますえ・松井まつい、藩士/本草/歌) S 4 0 6 1

調神子(ちょうしんし) → 正禎(せいてい・古林ふるばやし、医者) C 2 4 6 8

澄神堂(ちょうしんどう) → 成従(しげつぐ・渡辺/渡部、藩士/書家) R 2 1 5 1

J2803 朝睡(ちょうすい;号・中津なかつ)?- ? 江前期磐城の戦記作者、1667「奥相茶話」著

J2804 長水(ちょうすい;号・大久保)?- 1698 肥後熊本の俳人、上京し言水・信徳門、  
のち路通・惟然と交流し蕉風、1693「白川集」編、96「桃舐ももねぶり集」編

J2805 鳥水(ちょうすい) ? - ? 京の俳人;1691江水「元禄百人一句」;名入

J2806 釣水(ちょうすい・一葉亭) ? - ? 大坂難波の俳人、1691江水「元禄百人一句」(名入)、  
1692遠舟「八重一重」96良弘「高天鶯」/97「ぬりがさ」入

J2807 激水(ちょうすい・長ちよう) ? - ? 江中期1716-36頃撰津の漢学者:桐江門/書、  
「鳥蹟名通」「名家文編」著

2824 鳥酔(ちょうすい・白井しらい、名;信興、代官白井信利[柳枝]男)1701-69<sup>69</sup> 上総埴生郡地引村支配代官、  
;1721家督/25罷免/隠居剃髮(25歳)、俳人・柳居門、1737江戸に;本所石原の三斛庵さんかくあん住、  
神田柳原の落霞窓住/日本橋銀町の松露庵住、諸国行脚/1767大磯の嶋立庵住/松露庵に没、  
芭蕉の資料紹介・蕉風拡大に尽力、1737撰集「夏山伏」/45「けふの時雨」47「いひきの図」編、  
1749「三景集」「松露庵集」/50「はり笠」53「三都賦」54「百蓮香」57「夏炉一路」58「冬扇一路」編、  
1759「壬生山家集」60「五七記」64「わが松原」67「俳諧松陰集」68「雲と鳥」「そのきさらき」編、  
家集「鳥酔先師懷玉抄」、「俳諧提要録」「松露庵隨筆」外著多数、  
追善集「卯月の鳥」「既に七とせ」「ここはいせ」など

[鷺に乗る工夫もできず夕涼み](鳥酔先師懷玉抄/楊州の鶴でなくてもせめて鷺でも)、  
[鳥酔(;号)の幼名/通称/別号]幼名;喜六、通称;喜右衛門、別号;西奴さいぬ/三斛さんかく庵2世、

落霞窓2世/松露庵/百名房/百名台/鳴立庵/露柱庵4世/露柱堂/金竜庵/牧羊人/辛巳老人、  
剃髮号;玄清、法号;興源院露柱堂鳥醉居士

- L2821 **鳥醉**(ちようすい・熊沢、初号;兀雨ごう) 1730-1808 79 武蔵八王子の医者、俳人;初世鳥醉門、  
鳥醉2世を継嗣、鳥明の支援で既に榎本星布が継承していた松原庵2世を継嗣、  
露柱庵2世・松露庵6世を継嗣、

[大晦日日の入山を望みけり](松露庵句碑入)

- J2808 **蝶醉**(ちようすい・平山ひらやま、名;寛勝、屋号;扇屋/平野屋) 1736-1811 76 福岡の呉服商/俳人:蝶夢門、  
家業を子に譲り五竹庵に隠棲、「芭蕉翁文集」刊行に出資、九州蝶夢門の最古参、  
1793「蕉翁百回忌」/1807「わすれすの山」編、

[蝶醉(;号)の通称/別号]通称;善助、隠居号;宗伯、別号;五竹庵、法号;寒樹軒

- J2809 **長翠**(ちようすい・常世田とよだ/とよだ) 1750-1813 64 下総匠瑳そさ郡木戸村の俳人:白雄門;師と不仲、  
1786信濃戸倉に仮寓;俳諧指導、89相模二木に冬の日庵を結ぶ;90湖十4世を継ぐ、  
白雄没後春秋庵2世;同門道彦と確執;1794葛三に譲り武蔵本庄の小蓑庵に住、  
1802羽前酒田に転住し胡床庵を結ぶ、秋田残露庵結庵/奥羽四天王(乙二・五明・素郷と)、  
1813酒田に没、画;伊勢山田の月僊門;円山派、

1793「脇起暴風百韻」/97「牛引き集」1810「ふりづむばみ」編、「長翠点懐紙」「長叟発句集」著、  
追善集:「あなうれし」「夜のはしら」「類題狭蓑集」、

[春の雪女の裾に降り消ゆる](光丘本長翠句集)、

[雁啼くや明星しづむ雪の原](光丘本長翠句集)、

[長翠(;号)の別号] 冬の日庵/春秋庵2世/小蓑庵/胡床庵/椿海/つくも坊/呉水/石潮、  
残露庵/虎鼠庵

- J2810 **聴水**(ちようすい;号、椎園かえん)?-? 江後期安藝吉田の俳人、広島の前風と親交、  
1823玄蛙「萍うきき日記三編」入/南亭「はつみどり」入、1827「文政十丁亥年歳旦」編、

[手のたはぬ山もせわなりけふの月](萍日記三編)

- J2811 **潮水**(ちようすい・島津しまづ、五木男) 1814-86 73 日向延岡の俳人:父五木庵五木門、妻;きぬ、  
1841九州四国行脚、1848父大阪で没;五木庵継承;宗匠/長堀鯉座橋北詰出口町に住、  
1856剃髮;記念集「夏華集」刊、1859「潮水行脚記念集」、「こしふくべ」「かり綴」著、  
「俳諧素玄問答」問、「潮水遺稿」、

[潮水(;号)の通称/別号]通称;勘助/島津屋徳三郎、別号;五木庵2世、法号;釈潮水居士

長水(ちようすい) → 柳居(りゅうきよ・佐久間、幕臣/俳人) D 4 9 3 3

長水(ちようすい・平瀬) → 光雄(みつお・平瀬ひらせ、弓術家) D 4 1 1 3

長水(ちようすい・小野) → 寿(ひさし・小野おの、庄屋/詩人) I 3 7 7 1

朝水(ちようすい・久津摩) → 季敏(すえとし・久津摩くづま、藩士/国学) I 2 3 4 4

眺水(ちようすい) → 逸斎(いっさい・高倉、藩士/考証) H 1 1 1 5

澄水居(ちようすいきよ) → 雪川(せつせん・松平、治郷の弟/俳人) E 2 4 4 8

鳥(趙)翠台(初世ちようすいだい) → 北枝(ほくし・立花、俳人) 3 9 6 5

鳥(趙)翠台(2世ちようすいだい) → 眉山(初世びざん・中山、俳人) C 3 7 2 5

鳥翠台(ちようすいだい) → 北丞(北茎ほっけい・小寺こでら、俳人) E 3 9 5 9

趙翠台(5世ちようすいだい) → 年風(としかぜ/ねんふう・梅田、絵師/俳人) M 3 1 1 5

趙翠台(ちようすいだい) → 江波(ごうは・梅田うめだ、年風男/絵師/俳人) K 1 9 9 3

長助(ちようすけ・藤田) → 憲貞(のりさだ・藤田/小松原、武道家) E 3 5 5 7

長助(ちようすけ・三河屋・羽倉/細井) → 算木有政(さんぎのありまさ、国学/狂歌) F 2 0 7 2

長頭丸(ちようずまる) → 貞徳(ていとく・松永、歌・俳人) 3 0 0 8

- J2812 **澄成**(澄清ちようせい;法諱、証成、藤原頼成男)?-? 平安後期真言宗醍醐寺の阿闍梨、大谷に住、  
愛染法に通ず/関白藤原忠実の帰依を受、歌;金葉集Ⅱ642/Ⅲ634(証成法師名)、  
[世とともに心のうちにすむ月をありと知るこそ晴るゝなりけれ](金葉;+642)

- J2813 **澄世**(ちようせい;法諱) ?-? 1321-24頃存 鎌倉後期僧;権律師(続千載)、  
律師(勅撰作者部類)/僧都(続現葉)、二条派?法体歌人、続現葉集入、続千載967

- L2830 **長正**(ちようせい) ?-? 江前期上方の俳人、  
1673西鶴「生玉万句」第一神の春第三句入、

[京の花肩で風切る盛りにて](神の春第三句、

脇句貞富;されば天下に名乗る賭の弓;宮中での競射を京の花に付る)

- J2814 **朝省**(ちようせい・宣果亭せんかてい;号)?-? 江後期播磨明石の狂歌作者:栗柯亭木端門、  
1798木端25回忌追善「狂歌栗葉集」共編(嘉栗[紀上太郎]らと)
- J2815 **長成**(ちようせい・菅) 1794 - 1831<sup>38</sup> 播磨の俳人:蒼虬・鳳朗門/江戸住、  
「俳諧花実発句集」編(1832刊)、「俳諧流行発句集」編(1834刊)、  
[長成(;号)の別号] 蕙畝けいほ/長月庵/兎耳庵/半化房はんげぼう3世/鷗村/青棠せいどう
- J2816 **長盛**(ちようせい;法諱) ? - 1855 武州真言僧/箕田の竜珠院住持/江戸湯島根生院住、  
1848音羽護持院住持、御流神道の書を編纂、俳人;逸淵門、  
「笈の小文抄更科紀行注解」著、「御流神道諸大事部集」編、「御流神名仏名習合様」著、  
「神道大師流大事」「神道天井大旦道場図」著、  
[長盛(;法諱)の号] 梧青/寂斎/昼夜庵
- N2860 **超精**(ちようせい・俗姓;美園みその、法諱;澄淵) 1841-74<sup>34</sup> 近江神崎郡福堂の真宗本願寺派覚成寺住職、  
超然ちようねんの孫、国学/歌人
- |                |   |                         |           |
|----------------|---|-------------------------|-----------|
| 長生(ちようせい・伊東)   | → | 遜斎(そんさい・伊東いとう、書家)       | F 2 5 4 2 |
| 長生(ちようせい・鈴鹿)   | → | 貞郷(さださと・鈴鹿すずか/中臣、神職/歌)  | O 2 0 7 1 |
| 長世(ちようせい・常世田)  | → | 長世(ながよ・常世田とこよだ、国学者)     | N 3 2 9 9 |
| 長世(ちようせい・村井)   | → | 長世(ながよ・村井むらい、藩士/日記)     | G 3 2 2 9 |
| 長世(ちようせい・占部)   | → | 長世(ながよ・占部うらべ/和泉、神職)     | L 3 2 3 3 |
| 長世(ちようせい・岩崎)   | → | 長世(ながよ・岩崎いわさき/藤原、国学/歌)  | G 3 2 3 1 |
| 長世(ちようせい・小笠原)  | → | 長世(ながつぐ・小笠原、幕臣/詩人)      | E 3 2 4 1 |
| 長世(ちようせい・細川)   | → | 長世(ながよ・細川ほそかわ、藩士/歌人)    | O 3 2 6 5 |
| 長世(ちようせい・久松)   | → | 長世(ながよ・久松ひさまつ/菅原、藩執政/歌) | O 3 2 4 9 |
| 長清(ちようせい、田中)   | → | 長清(ちようしやう、田中、社僧/連歌)     | I 2 8 9 2 |
| 長清(ちようせい)      | → | 幸阿弥(六世こうあみ、戦国安桃期期蒔絵師)   | 1 9 6 6   |
| 長清(ちようせい・黒田)   | → | 長清(ながきよ・黒田くろだ、藩主/詩歌)    | M 3 2 0 4 |
| 長盛(ちようせい・隆存房)  | → | 寂然(じやくねん;法諱・円白;字、真言僧)   | W 2 1 1 5 |
| 長済(ちようせい)      | → | 長済(ちようさい;法諱、三論僧/歌人)     | I 2 8 3 5 |
| 長制(ちようせい・鈴木)   | → | 宗観(そうかん・鈴木すずき、眼科医)      | G 2 5 7 2 |
| 長誠(ちようせい・東坊城)  | → | 綱忠(つなただ・東坊城ひがしぼうじやう、詩歌) | B 2 9 1 2 |
| 長晟(ちようせい・浅野)   | → | 長晟(ながあきら・浅野あさの、藩主)      | K 3 2 7 9 |
| 朝成(ちようせい・庵原)   | → | 朝成(ともなり・庵原/廬原いおはら、史学者)  | P 3 1 5 5 |
| 超清(ちようせい)      | → | 超清(ちようしやう、紀、社僧/歌人)      | I 2 8 9 0 |
| 超清(ちようせい)      | → | 超清(ちようしやう、北田中、社僧/連歌)    | I 2 8 9 1 |
| 澄清(ちようせい・橘)    | → | 澄清(すみきよ・橘たちばな、廷臣/延喜式編)  | D 2 3 8 9 |
| 蔦生(ちようせい・星野)   | → | 久樹(ひさき・星野ほしの/藤原、藩士/歌人)  | I 3 7 7 6 |
| 微聖(ちようせい・山本)   | → | 簡斎(かんさい・山本/館たち、医者/本草)   | Q 1 5 7 0 |
| 長生庵(ちようせいあん)   | → | 仙鶴(せんかく・堀内、茶人/俳人)       | F 2 4 0 3 |
| 長生院(ちようせいいん)   | → | 智現(知現ちげん;法諱、真宗大谷派僧)     | E 2 8 0 7 |
| 潮声窟(ちようせいくつ)   | → | 呉雪(ごせつ・鈴木すずき、俳人)        | M 1 9 9 1 |
| 長生窟(ちようせいくつ)   | → | 李峰(りほう・宮本/五味/浜中、俳人)     | C 4 9 5 2 |
| 長青軒(ちようせいけん)   | → | 通春(道春みちはる・山本やまもと、詩歌人)   | C 4 1 2 9 |
| 澄清寺(ちようせいじ;法号) | → | 持世(もちよ・大内/多々良、武将/歌/連歌)  | B 4 4 7 9 |
- J2817 **長生舎主人**(ちようせいしやしゅじん;号)?-? 江後期江戸の植木屋;本草家、  
1833「金生樹譜万年生譜」/36「松葉蘭譜」、「金生樹譜別録」著
- |                     |   |                        |           |
|---------------------|---|------------------------|-----------|
| 長生亭(ちようせいてい)        | → | 貞柳(ていりゅう・油煙斎/鯛屋/永田、狂歌) | 3 0 0 9   |
| 長生亭柳因(ちようせいていりゅういん) | → | 柳因(りゅういん、貞柳の婿養子、医者/狂歌) | C 4 9 7 5 |
- J2818 **長刹**(ちようせつ・山下) ? - ? 連歌;1470道真「河越千句」参加
- J2819 **聴雪**(ちようせつ) ? - ? 尾張の俳人;芭蕉門、

荷兮「春の日」3句入(；1682舟泉亭歌仙参加)/87芭蕉の行脚を迎える  
[馬かへておくれたりけり夏の月](春の日；夏/詞書；逢坂の夜は笠見ゆるほど明て)

- J2820 釣雪(ちようせつ) ? - ? 羽黒の蕉門俳人、1690其角「花摘」入
- J2821 釣雪(ちようせつ・大橋市左衛門)?-? 名古屋の蕉門俳人、禁酒句碑建；荷兮「曠野後集」入、  
「青葛葉」入、1689「あら野」21句入  
[いそがしきなかに聞きけり蜀魄ほととぎす](あら野；卷之二)、  
其角「花摘」俳人と同一? → 釣雪(ちようせつ) J 2 8 2 0
- J2822 釣雪(ちようせつ) ? - ? 江中期京の俳人：淡々門、1720柳岡「万国燕」4句入  
[書み朝日雪の富なり琴のうへ](万国燕：19/雪の富は孫康の窓の雪の功)
- J2823 聴雪(ちようせつ) 1688 - ? 1737存 俳人、仙覚と交流、1737五十賀句集「いそもの」編
- J2824 超雪(ちようせつ) ? - ? 江中期江戸俳人：其角座点者、  
1754竹翁「誹諧童の的」評点句入
- J2825 聴雪(ちようせつ・平井ひらい/服部はつとり、名；義綱、修姓；平、平井綱興男) 1735-9056 近江逢坂山の儒者、  
服部家の養嗣子、詩；小亀孝銑[建部箕山]門、葛子琴・頼春水らと交流、「滄池詩鈔」、  
[聴雪(；号)の字/通称/別号]字；紀宗、通称；斎次、別号：聴雨/滄池/幽暢園、法号；滄池軒  
聴雪(ちようせつ) → 実隆(さねたか・三条西、和学者) 2 0 4 0  
聴雪(ちようせつ；号) → 崇寛(すうかん；法諱・剛室、臨濟僧/詩) J 2 3 5 8  
聴雪(ちようせつ・新宮) → 凉民(りょうみん・新宮しんぐう/柚木、蘭医) J 4 9 5 1  
釣雪(ちようせつ；号) → 元養(げんよう；法諱・百拙；道号、黄檗僧/詩/画) E 1 8 5 7  
釣雪(ちようせつ・清地きよち) → 以立(いりゅう・清池、医/漢学) B 1 1 9 4  
釣雪(ちようせつ・堀) → 元厚(げんこう・堀ほり、医者) B 1 8 7 8  
釣雪(ちようせつ・木梨) → 昌敷(まさのぶ・木梨きなし、藩士/詩歌) P 4 0 1 3  
長説(ちようせつ・鶴殿) → 鳩翁(きゅうおう・鶴殿うどの/熊倉、幕臣/歌) S 1 6 8 9  
長説(ちようせつ・清岡) → 長説(ながつぐ・清岡きよおか/菅原、廷臣/大学頭) L 3 2 8 9  
超絶院(ちようぜつゐん) → 道晃(どうこう；法諱、真宗本願寺派僧) E 3 1 0 5  
釣雪翁(ちようせつおう) → 貞固(さだかた・藤田ふじた、藩士/武術/茶) P 2 0 8 7
- J2826 釣雪叟(ちようせつそう) ? - ? 江戸前期近江の漢学者、1680「太極図説鈔」著、  
[釣雪叟(；通称)の号] 雪叟/雪父/蘆斎
- J2827 釣雪老人(ちようせつろうじん・姓；斎藤さいとう、名；玄茂?)?-? 文明1469-87頃室町幕臣；奉行人/出家、  
故実「上杉問答」著、  
[釣雪老人(；号)の法諱/通称]法諱；浄玄、通称；越前入道
- L2820 長暹(ちようせん) ? - ? 平安後期の僧/歌人、  
1071-82頃「多武峯往生院千世君ちよきみ歌合」；左方入(判者；紀伊入道素意[藤原重経])  
[なにしてかつつみかくさむ忍ぶれどかばかり身よりあまるわが恋]、  
(多武峯歌合；六番左11/恋)
- L2831 長兪(ちようせん・今木いまぎ) ? - ? 江前期上方の俳人、  
1678西鶴「物種集」入、  
[須磨の関咳気かきにあらず痰にあらず](物種集、淡路島-須磨の関守/瘡・咳・痰の連想、  
前句；おこり尋ぬる淡路嶋山)
- J2829 長川(ちようせん・池野いけの、名；孝暢) 1774-181946 江戸の儒者、「周易広義補」補填  
長川(ちようせん・有賀) → 長因(ちよういん・有賀あるが、歌学者) H 2 8 2 4  
長宣(ちようせん・菅原) → 長宣(ながのぶ・菅原すがわら/高辻、廷臣/歌) F 3 2 1 5  
長詮(ちようせん・進藤) → 長詮(ながあき・進藤しんどう、諸大夫/歌人) N 3 2 3 8  
調泉(ちようせん・茶瓢軒) → 調柳(ちようりゅう・種田、俳人) K 2 8 0 9
- J2830 澄禅(澁禅ちようぜん；法諱、中観；号、俗姓；秦) 1227-130781 山城小栗栖真言僧；広隆寺桂宮院学僧、  
律宗具足戒；1251叡尊門/三輪；東大寺智舜門/密教；上醍醐の親快門、  
1258東大寺戒壇院円照の招請で行事抄および三論法華の疏を講ず、1264親快より灌頂受、  
1280木幡南院で三論を講/1251桂宮院の堂宇再建/同院住；戒律指導、1266「薄双紙口決」、  
1273「四度口決」80「三論玄義檢幽集」、「灌頂私記雜尋秘決」「金剛界口決」外著多数、  
[澄禅の通称] 八坂中観

- J2831 **澄禪**(ちようぜん;法諱・悔焉かいえん;字、俗姓;菱刈)1613-8068 肥後人吉藩国老家の生;幼時出家、  
 瑜伽宗修学/1632上京/真言僧;智積院運敵門、事相・教相・悉曇学を修学、梵書に通ず、  
 帰郷後人吉藩主相良氏の知遇/出奔し諸国行脚/1644頃智積院で悉曇学を講義、  
 高野山に知等庵を結ぶ/1666勅命で神護寺の伝弘法大師「十如是」を臨写、  
 1679快存に悉曇学を教授、郷里の地藏院隠棲/権僧正、「種子集」「悉曇」「悉曇連声集」、  
 「悉曇愚鈔」「三教指帰註刪補听書」「悉曇字記発陰」「梵字教範」「梵書法帖」外著多数、  
 [澄禪の号] 知等庵  
 齋然(ちようぜん) → 齋然(ちようねん、藤原、歌人) J 2 8 6 0  
 超然(ちようぜん) すべて → 超然(ちようねん)  
 長善(ちようぜん;字) → 日恵(にちえ;法諱、日蓮僧) 3 3 5 4  
 長善(ちようぜん・幸阿弥) → 幸阿弥(八世こうあみ、安桃期蒔絵師) P 1 9 5 9  
 長善(ちようぜん;字) → 祐宜(ゆうぎ;法諱、真言僧) B 4 6 1 3  
 長善(ちようぜん・三好) → 長善(ながよし・三好みよし、医者) O 3 2 9 9  
 朝善(ちようぜん・神白) → 朝善(ともよし・神白こうじろ、神職/国学) V 3 1 2 1  
 聴泉庵(ちようせんあん) → 高福(たかよし・三井、商家;財閥の礎) N 2 6 7 7  
 寵善齋主人(ちようぜんさいしゅじん) → 栗野(りつや・小野おの、商家/漢学/詩歌) C 4 9 1 6  
 朝鮮堂弘慶子(ちようせんどうこうけいし) → 焉馬(えんば・烏亭、落語/戯作) B 1 3 3 3  
 長泉房(ちようせんぼう;号) → 忠義(ちゅうぎ;法諱、真言僧) F 2 8 8 9
- J2832 **潮鼠**(ちようそ) ? - ? 江中期阿波徳島の俳人、  
 1757「飛南爾之起」80「俳諧眉の山」編/85「咲の眉」、  
 [潮鼠(;号)の別号] 加冠/笛古斎/潮鼠山人
- J2833 **長聡**(ちようそう;法諱) ? - ? 南北期天台叡山僧、宝幢院定明坊住、  
 1341「仏性義私抄」著
- J2834 **聴霜**(ちようそう;号) ? - ? 江前期美作津山の俳人:  
 1692常牧「冬ごもり」3吟(定政・梅兄と)入
- J2835 **朝叟**(ちようそう;号・石内) ? - ? 江中期1704-36頃江戸の俳人;嵐雪門、其角と親交、  
 1700其角「三上吟」入/1705熊野参詣;05「浪の手」「ゆげた」「その浜ゆふ」編、1704「家門集」
- J2836 **鳥窗**(ちようそう) ? - ? 浪花の俳人、1747新衛門「兎の目」点者
- J2837 **朝宗**(ちようそう;法諱) ? - ? 江後期羽前の曹洞宗瑞岩寺の僧、  
 瑞岩寺18世玄定恵嶽[1850没]門、「青松恵嶽和尚遺稿」編  
 釣叟(ちようそう・煙波) → 大湫(たいしゅう・南宮なんぐう;姓、儒者) B 2 6 5 3  
 釣叟(ちようそう・千村) → 鶯湖(がこ・千村ちむら、藩士/儒者) C 1 5 0 1  
 長宗(ちようそう・中条) → 長宗(ながむね・中条ちゅうじょう/藤原、武家/歌) P 3 2 5 3  
 朝宗(ちようそう・藤原) → 朝宗(ともむね・藤原、廷臣/歌人) Q 3 1 6 7  
 朝宗(ちようそう・笠間/塩谷) → 朝宗(ともむね・笠間/塩谷・塩屋/藤原、歌) Q 3 1 6 9  
 朝宗(ちようそう/ともむね・依田) → 学海(がつかい・依田よだ、儒/詩/日記) F 1 5 4 0  
 朝相(ちようそう・高洲/国司) → 親相(親輔ちかすけ・国司くにし、藩士/歌) B 2 8 0 6  
 朝滄(ちようそう) → 蕪村(ぶそん・与謝・谷口、俳人/絵師) 3 8 1 1  
 鳥巢(ちようそう;号) → 顕令(けんれい;道号・通憲;法諱、臨濟僧) N 1 8 1 1
- J2838 **朝増**(ちようそう、法師) ? - ? 平安後期天台叡山僧;阿闍梨、実方中將の孫?  
 1062無動寺和尚賢聖院歌合参加;右方(比叡山延暦寺塔頭無動寺で檢校広算主催)、  
 [苔の色のいつも変らぬ山ぢには秋来ることぞ知られざりける](賢聖院歌合;六番右12)
- J2839 **長蔵**(ちようそう・並木) ? - ? 江後期歌舞伎作者;初世並木五瓶門、  
 1802芝叟「拳禪廓大通」番付
- J2840 **調三**(ちようそう・勝見) ? - ? 江後期歌舞伎作者、  
 1852黙阿彌「児雷也豪傑譚」53「しらぬひ譚」番付  
 長蔵(ちようそう・村田) → 春郷(はるさと・村田むらた、商人/国学者) G 3 6 3 7  
 長蔵(ちようそう・木村) → 晴孝(はるとか・木村きむら、藩士/文筆家) G 3 6 4 9  
 長蔵(ちようそう・小瀬/田中) → 朋如(ともゆき・田中/田、藩士/国学者) Q 3 1 8 0  
 長蔵(ちようそう・鶴沢/鈴木) → 恭節(きようせつ・鈴木/鶴沢、藩士/儒) O 1 6 2 1

長蔵(ちょうぞう・真壁/上野)→広聡(ひろとし・栄名井さかない/上野/真壁、神職/和漢学) G 3 7 5 1  
 長蔵(ちょうぞう・滑川) → 通則(みちのり・滑川なめかわ、藩士/儒者) C 4 1 2 7  
 長蔵(ちょうぞう・中島) → 黄山(こうざん・中島なかじま、儒者/書) J 1 9 3 5  
 長蔵(ちょうぞう・蜂屋) → 可博(よしひろ・蜂屋はちや、藩の連歌師) O 4 7 5 4  
 長蔵(ちょうぞう・笠原) → 孟懿(たけよし・笠原かさばら、幕臣/歌人) O 2 6 9 0  
 長蔵(ちょうぞう・滝) → 清壑(せいがく・滝たき、絵師) H 2 4 8 0  
 長蔵(ちょうぞう・福智/福地/銭)→土成(つちなり・大根おおね、絵師/狂歌) 2 9 9 3  
 長蔵(ちょうぞう・土屋) → 直連(なおつら・土屋つちや、藩士/歌人) N 3 2 8 9  
 長蔵(ちょうぞう・植村) → 家貴(いえたか・植村うゑむら、藩主/歌) J 1 1 5 4  
 長蔵(ちょうぞう・柘植) → 仞厚(信厚のぶあつ・柘植つげ、藩士・国学) J 3 5 1 5  
 長蔵(ちょうぞう・佐久間) → 義隣(よしちか・佐久間さくま、農業/国学) M 4 7 9 6  
 長蔵(ちょうぞう・細見) → 禮巖(れいがん;法諱・与謝野よさの/細見、真宗僧) B 5 1 5 9  
 長蔵(ちょうぞう・竹田/武田)→晨正(ときまさ・竹田/武田たけだ、商家/歌) V 3 1 6 9  
 長三(ちょうぞう・城子) → 高鞆(たかとも・城子しろこ、商家/国学者) X 2 6 6 1  
 鳥巢庵(ちょうぞうあん) → 帰奇(きき・橋本はしもと、茶道/俳人) J 1 6 9 1  
 鳥巢下(ちょうぞうか) → 沾耳(せんじ・洗耳せんじ、俳人) F 2 4 7 6  
 朝宗亭(ちょうぞうてい) → 孟政(たけまさ・中村なかむら、酒造業/歌人) Y 2 6 6 3  
 鳥巢仁(ちょうぞうにん) → 雲裡(うんり・渡辺わたなべ、無名庵5世/俳人) B 1 2 6 3  
 長鼠斎(ちょうそさい・和知)→ 風光(ふうこう・和知、俳人) 3 8 5 8  
 長則(ちょうそく・奥村) → 寸庵(すんりゅう・奥村おくむら、俳人/武術) H 2 3 4 2  
 長則(ちょうそく・石田) → 長則(ながのり・石田いしだ、国学) L 3 2 1 4  
 長足(ちょうそく・渡辺) → 鶴重(つるしげ・渡辺、鍛冶業/文筆家) E 2 9 6 3  
 長足庵(ちょうそくあん) → 鶴重(つるしげ・渡辺、鍛冶業/文筆家) E 2 9 6 3  
 長息庵(ちょうそくあん) → 鳥岳(ちょうがく・熊井、俳人) H 2 8 6 7  
 潮鼠山人(ちょうそさんじん) → 潮鼠(ちょうそ、俳人) J 2 8 3 2

J2841 長尊(ちょうそん;法諱) ? - ? 鎌倉・南北期僧、法印、歌、続拾遺1462・新後拾769  
 02805 長巽(ちょうそん;法諱) ? - ? 室町戦国期社僧;法印/箱根神社別当、

歌人;[慕景集]に入、

[太田持資(道灌)小田原駅を務めておのおの帰り侍りけるにるに箱根の別当長巽法印が、  
 酒すすめて主まうけしはべりける時 駅の宿りに花のちりけるを見て、  
 思はずよ思ひの外に見る花の散れる余波をなどをしむらん、  
 長巽のかへし、  
 散る花のなごりをなどかをしむらん心のままに春にあふ身は](慕景集13)

J2842 長尊(ちょうそん;法諱) ? - ? 河内壺井の通法寺住僧、  
 俳人;1667秀政「貝殻集」入、狂歌;1666「古今夷曲集」入、  
 [三味線の音ねを思へとや風の手雲はちりてれてれる月影](夷曲集;秋200)

J2843 超尊(ちょうそん;法諱、別法諱;真昭、号;実巖院)?-? 江中期安永1772-81頃真宗大谷派僧、  
 堺真宗寺住職、1772「安永勸進」、「聖教目録」、「大谷一流諸家分脈系譜」、「大会支配行事式」著

N2803 朝尊(ちょうそん・豊見城とみぐすく/姓;尚、名;栄、朝春男) 1817-7660 琉球王族;豊見城御殿うどうん按司家、  
 8世を継嗣;豊見城王子、歌人

長孫(ちょうそん・下条) → 蘭溪(らんけい・西島にしじま/下条、儒者) B 4 8 8 7  
 長遜(ちょうそん・今村) → 長教(ながのり・今村、医者) F 3 2 3 4  
 長尊(ちょうそん・西尾/岩垣)→ 東園(とうえん・岩[巖]垣/源、儒者) B 3 1 4 9  
 長存(ちょうそん;字) → 元寿(げんじゅ;法諱・長存、真言僧) J 1 8 4 9

J2844 蒿雫(ちやうだ) ? - ? 俳人、1698「続猿蓑」6句入  
 [翁草二百十日も恙つがなし](続猿蓑;卷下)

長泰(ちやうたい・相良) → 長泰(ながやす・相良さがら/稻留、武将/和学) N 3 2 2 4  
 長泰(ちやうたい・平沢) → 了延(りょうえん・古筆こひつ/7世、平沢、鑑定家) G 4 9 5 6  
 長泰(ちやうたい・岩橋) → 長泰(ながやす・岩橋いわはし、庄官/歌人) L 3 2 2 4

長泰(ちょうたい・壺井) → 長泰(ながやす・壺井つばい、幕臣/国学) N 3 2 9 1  
 長沢(ちょうたく・冢田) → 旭嶺(ぎよくれい・冢田つかだ、医/儒者) P 1 6 4 4  
 長達(ちょうたつ・藤沢) → 南川(なんせん・藤沢ふじさわ、儒/医者) J 3 2 2 2  
 長達(ちょうたつ・泉) → 豊洲(ほうしゅう・泉いづみ、儒者) B 3 9 4 4  
 暢達(ちょうたつ・鷹野) → 暢達(のぶたつ・鷹野たかの、歌人) H 3 5 0 0  
 長大夫(ちょうだゆう・坂井/土肥) → 甫庵(ほあん・小瀬おぜ、医者/軍記) 3 9 5 0  
 長太夫(ちょうだゆう・磯辺) → 其朝(きちょう・磯辺/平井、俳人) L 1 6 3 4  
 長太夫(ちょうだゆう・貴田) → 元親(もとちか・貴田きだ、兵学者) D 4 4 0 2  
 長太夫(ちょうだゆう・貴田) → 親豊(ちかとよ・貴田きだ、藩士/兵法家) C 2 8 1 9  
 長太夫(ちょうだゆう・伊藤) → 不伝(ふでん・伊藤、居合術不伝流祖) D 3 8 5 1  
 長太夫(ちょうだゆう・中津) → 益孝(ますたか・中津なかつ/秦、国学者) R 4 0 1 4  
 長太夫(ちょうだゆう・藤田) → 長年(ながとし・藤田ふじた/横橋、神職/国学) O 3 2 6 0  
 長太郎(ちょうたろう・板坂) → 卜斎(ぼくさい・板坂いたさか、医者) 3 9 6 3  
 長太郎(ちょうたろう・雨宮) → 正峯(まさみね・雨宮あめのみや/源、幕臣/歌) L 4 0 5 8  
 長太郎(ちょうたろう・山柴) → 玉芝(ぎよくし・山柴やましば、農/医/戯作) P 1 6 0 2  
 長太郎(ちょうたろう・村田) → 恒光(つねみつ・村田むらた、藩士/和算家) D 2 9 9 4  
 長太郎(ちょうたろう・奥野) → 靖之(やすゆき・奥野おくの、宮家家臣/歌) F 4 5 6 1  
 長太郎(ちょうたろう・嶋原) → 行雄(ゆきお・嶋原しげはら、藩士/歌人) G 4 6 9 1  
 長太良(ちょうたろう・中条) → 備資(まさすけ・中条ちゅうじょう、藩史編纂) C 4 0 9 4  
 長太郎(ちょうたろう・平松) → 周家(ちかいえ・平松ひらまつ/大中臣/川端、神職) N 2 8 3 6  
 長太良(ちょうたろう・布川) → 正沖(正興まさおき・布川ぬのかわ、商家/歌) R 4 0 4 4  
 長太郎(ちょうたろう・武井) → 庸(よう・武井たけい、神職) N 4 7 8 2

J2845 朝置(ちょうち・護得久ごえく、唐名;向起竜) 1827-1908<sup>82</sup> 琉球首里の廷臣;大与奉行、  
 詩人;宜湾ざわ朝保門、宜湾朝保私家集「松風集」編纂、朝常・朝良の父、  
 [朝置(;名)の幼名/唐名/通称]幼名;真山戸金、通称;按司

起竜(きりゅう・向) → 朝置(ちょうち・護得久ごえく、廷臣/詩人) J 2 8 4 5  
 澄仲(ちょうちゅう・慈光寺) → 澄仲(すみなか・慈光寺、廷臣/神楽/日記) D 2 3 9 3  
 朝忠(ちょうちゅう・伊江) → 朝直(ちょうちよく・伊江いえ、琉球摂政) M 2 8 0 2

J2846 町仲介(ちょうちゅうかい、本名不詳)?-? 洒落本、1764-1772「瓢軽雑病論」

雕虫居(彫虫居ちょうちゅうきよ) → 誠(まこと・佐藤、藩士/歌/金石学) 4 0 8 1  
 蝶々(ちょうちゅう) → 蝶々子(ちょうちゅうし・園花堂、俳人) J 2 8 4 8  
 長澄(ちょうちゅう・稻津/梁川) → 星巖(せいがん・梁川やながわ、詩人) 2 4 0 5  
 長澄(ちょうちゅう・犬童) → 長澄(ながすみ・犬童いぬどう/印藤・院道、歌・俳人) L 3 2 2 5  
 長澄(ちょうちゅう・小津) → 長澄(ながすみ・小津おづ/筒井、国学者) L 3 2 4 0  
 蝶々庵(ちょうちゅうあん) → 百花(ひゃっか・松本、俳人) E 3 7 9 2  
 町々菴(ちょうちゅうあん) → 日人(わつじん・遠藤/木村、藩士/俳人) 5 3 5 1  
 聴潮庵主人(ちょうちゅうあんしゅじん) → 魚冠(ぎょかん、俳人) O 1 6 7 5  
 蝶々翁(ちょうちゅうおう) → 庸昌(つねまさ・香川、地誌/俳人) B 2 9 3 1  
 丁々窩(ちょうちゅうか→ていていか) → 忠永(ただなが・本多、藩主/歌/俳人) Q 2 6 3 3  
 丁々軒(ちょうちゅうけん・高野) → 幽山(ゆうざん・高野たかの、俳人) B 4 6 8 9

J2847 蝶々子(ちょうちゅうし・神田かんだ/平野ひらの、神田政次男) 1620?-? 1691存 和歌山の生/江戸鍛冶屋橋住、  
 俳人;貞徳/貞室門、のち談林風、1661頃信濃高遠に移転/1673頃江戸住、  
 1657「物忘草」61「思出草」66「誰袖」/76「俳諧当世男」77「浅間宮奉納」79「俳諧玉手箱」編、  
 「たちき」/「朋友集」/「松茸さう」/「江戸八百韻」/「いこしき」/「詞の友」編、  
 1660常辰「慕聚集」入/82風黒「高名集」入、妻の山人さんじん・息子二葉子も俳人、  
 [あらたふと大あぐらして江戸の春](俳諧三ツ物揃;延宝六1678歳旦)、  
 [蝶々子(;号)の名/通称/別号]名;政宣/貞頼、通称;左兵衛、  
 別号;貞宣/風吟庵/紅葉軒/花楽軒

J2848 蝶々子(ちょうちゅうし・園花堂)?-? 元禄-享保1688-1736頃江戸の雑俳:調和門、  
 小石川/本郷菊阪に住、

1702「もちみ笠」04「江戸すゞめ」23「田植笠」入、31「俳諧江戸紫」編、32「園の梅」「柳陰」判蝶々子(ちょうちょうし・中川)→ 狂言堂(きやうげんどう・近松、浄瑠璃/囃会/雑俳) N 1 6 6 7  
朝鳥舎(ちょうちょうしゃ) → 幾暁(きぎやう、雲蝶、僧/俳人) 1 6 9 2  
蝶々坊(ちょうちょうぼう) → 庸昌(つねまさ・香川、地誌/俳人) B 2 9 3 1

J2849 朝直(ちょうちよく・田里たさと、唐名;向俊、久志按司朝右男)1703-73 71 東風平こちんだ朝衛ちやうゑいの弟、琉球廷臣;田里親雲上べーちん3世を継嗣、舞踊;平敷屋朝敏門(朝薫と同門)、1756尚穆王の冊封の時;踊奉行として組踊三番(三組)を上演;以後の組踊に影響、組踊三番;「万歳敵討まんざいてきうち」「義臣物語」「大城崩おおくくずれ」、琉歌の名人;沖縄36歌仙の1

M2802 朝直(ちょうちよく・伊江いゑ/尚灑王4男/or5男)1818-96 79 伊江按司家の養子、1859志恩河事件で親薩摩派を弾圧/1871明治政府の要求で尚泰王名代として東京派遣、琉球王を藩王とする詔書に困惑;日清両属体制を明治政府が認めたものと解釈し受領、1872-75琉球王朝最後の摂政;1876隠居/長男朝永が家督嗣、1879琉球藩は廃止;沖縄県となる、  
[朝直(:名)の別名/通称]別名;朝忠/健、通称;伊江王子

朝直(ちょうちよく・北条) → 朝直(とまお・北条ほうじやう/平、幕臣/歌) X 3 1 2 4  
朝直(ちょうちよく・土岐) → 朝直(とまお・土岐とき、幕臣/弓術) P 3 1 9 8  
朝通(ちやうつう・小浦) → 朝通(ともみち・小浦こうら、藩士/歌人) Q 3 1 6 5

J2850 長禎(ちやうてい・吉田よしだ、名;禎)?-? 幕府医官/法眼:1817西丸奥医師/18本丸奥医師、「活民法」「平産方」「菓談」「増補医史」「要菓粗評」「傷寒論読本」著、  
[長禎(:字)の号] 菊潭きくたん

昶定(ちやうてい・清閑寺) → 昶定(あきさだ・清閑寺せいかんじ、廷臣/日記) D 1 0 3 7  
長貞(ちやうてい;字) → 日就(にちじゆ;法諱・本用院、日蓮僧) C 3 3 1 2  
長貞(ちやうてい・小槻) → 長貞(ながさだ・小槻おつき、廷臣/歌) J 3 2 9 8  
長定(ちやうてい・花山院) → 長定(ながさだ・花山院かざんいん/藤原、内大臣/歌) P 3 2 6 8  
朝定(ちやうてい・太田垣) → 朝定(ともさだ・太田垣/日下部、武将/連歌) P 3 1 4 5  
朝定(ちやうてい・藤原/宇治) → 蓮阿(れんあ;法諱、鎌倉幕臣/僧) 5 1 8 5  
朝定(ちやうてい・藤原) → 朝定(あささだ・藤原、廷臣/歌人) 1 0 9 7  
朝定(朝貞ちやうてい・上杉) → 朝定(朝貞ともさだ・上杉、武将/歌人) P 3 1 4 4  
朝貞(ちやうてい・名越) → 朝貞(あささだ・名越なごえ、武家歌人) 1 0 9 8  
釣亭(ちやうてい・梅暮里) → 楽峨(らくが・梅暮里うめぼり、人情本作者) B 4 8 0 7  
長亭五蘭(ちやうていごらん) → 五蘭(ごらん・一亭、戯作者) N 1 9 8 8

J2851 長典(ちやうてん;法諱) ?-? 江前期延宝1673-81頃伊予の真言僧、  
長谷寺金蓮院住僧、1669「釈摩訶衍論三師科指掌図」、「結縁灌頂雑記」「心経科鈔」著

長典(ちやうてん・所) → 具典(ともすけ・所ところ/源、藩士/歌人) V 3 1 8 6  
長伝(ちやうてん・相玉) → 相玉(しょうぎよく・長伝、室町期歌僧) G 2 2 1 2  
兆殿主(ちやうてんす;通称) → 明兆(みんちやう;法諱・吉山;道号、臨濟僧/絵師) G 4 1 7 0  
長都(ちやうと・河辺) → 長都(ながくに・河辺/大中臣、神職) D 3 2 5 9  
釣徒(ちやうと・山県) → 墨僊(墨僊ぼくせん・山県やまがた、儒/書家) D 3 9 6 3

J2852 彫棠(ちやうとう・青地あおち、周東/快庵)?-1713 伊予松山藩医/江戸住、俳人;其角門、1687其角「続虚栗ぞくみなしぐり」91「雑談ぞうだん集」93「萩の露」94「句兄弟」入、1697其角「末若葉」36句入

J2897 調当(ちやうとう) ?-? 俳人、1694不角「へらず口」入、  
[相惚あひぼれは硝子紙ひいどろがみの障子越し](へらず口/相惚は相思相愛の仲)、  
(相思の男女はガラス障子越しにいるようなもの/自由恋愛はすべて不義の時代)

長稻(ちやうとう・久米) → 長稻(ひさいな・久米くめ、神職) 3 7 8 5  
彫棠(ちやうとう・片山/菅) → 周東(しゅうとう・片山かたやま、藩士/俳人) Y 2 1 0 8

J2853 彫堂(ちやうとう) ?-? 俳人、1697其角「末若葉うらわかば」独吟入/-90「花摘」入  
J2854 暢道(ちやうとう;法諱、別法諱;順誓、俗姓;花山)1748-90 43 福井の教童寺の生;真宗本願寺派僧、越前大野の浄勝寺住職、大学林で講釈、「正像末浄土和讃講記」著、

[暢道の諡号] 宝性院ほうじょういん

- J2856 **潮堂**(ちょうどう・中山なかやま、名;嘉市)1817-9377 信州中野の俳人;小菘庵確嶺門/諸国行脚、維新後は長野県庁に勤務、1847「皁月晴」48「誹諧類題落穂集」50「氷室集」52「風くもり」編、1856「ひともと集」60「誹諧今人名家千二百題集」、「朝顔集」編、  
[潮堂(;号)の通称/別号]通称;与兵衛、別号;椿海/佳一/中山居
- J2857 **鳥道**(ちょうどう・広部ひろべ、名;良知)1822-8160 越前福井藩士/儒;高野真斎門/陽明学・禅学・兵学、藩主松平慶水に進講/1868攘夷論上書;幽閉/78私塾開;教育、1863「酔華吟」、「鳥道文草」著、  
[鳥道(;号)の別号] 淵黙/野水狂生、法号;縦横無礙鳥道居士
- 長道(ちょうどう・村井) → 長道(ながみち・村井むらい長恵ながえ、藩士/能研究) F 3 2 8 8  
鳥道下(ちょうどうか;号) → 舎朶(しゃだ・鳥道下、俳人) W 2 1 3 1  
朝濤閣(ちょうとうかく、浪岡啓子、雑俳) → 黒蔵子(くろぞうす、浄瑠璃作者) C 1 9 3 8  
眺島斎(ちょうとうさい・橘) → 泰樹(やすき・橘/山本、香の甥/里正/歌) G 4 5 2 4  
長等窓(ちょうとうそう) → 可風(かふう・北川きたがわ、俳人) P 1 5 2 4  
長頭丸(ちょうとうまる) → 貞徳(ていとく・松永、歌学/俳諧) 3 0 0 8  
長徳(ちょうとく/ながのり・金井) → 万戸(ばんこ・金井かない、俳人) H 3 6 5 7  
長徳(ちょうとく・高月) → 長徳(ながのり・高月たかつき、商家/歌人) N 3 2 7 4  
長徳院(ちょうとくいん;法号) → 猗蘭(いらん・本多忠統、藩主/詩歌) B 1 1 9 3  
長徳山野中沙彌(ちょうとくさんのなかさみ) → 恵中(えちゅう・草庵、仮名草子) 1 3 7 5
- J2858 **朝暎**(ちょうとん、貴志きし、名;忠美)?-1857 代々幕臣:1850目付/53駿府町奉行、駿府没、  
「傘笠考」「朝暎集続集」「朝暎見聞」「朝暎抄」「鴉真似草紙」、1838-9「貴志文庫集古図録」著、  
[朝暎(;号)の通称] 弥三郎/孫太夫
- 長敦(ちょうとん/ながあつ?・伊藤) → 梅宇(ばいゆう・伊藤いとう、儒者/詩/俳) 3 6 0 1  
長敦(ちょうとん・豊田) → 長敦(ながあつ・豊田とよだ/本姓;平、国学) K 3 2 4 2
- J2859 **潮呑**(ちょうどん;法諱・信入しんにゅう;字、俗姓熊野)1579-165072 武蔵埼玉の浄土僧、1613阿茶局の創建した深川建雲光院住職/26京金戒光明寺28世、浄土宗伝法確立に尽力、  
「三脈口伝書」著、  
[潮呑の法名] 法名;還蓮社往譽
- 調内(ちょうない・久米) → 素行(そこう・久米くめ、俳人) D 2 5 7 1  
長南(ちょうなん・富永) → 正翼(まささげ・富永とみなが、医者/詩文) C 4 0 7 6  
長南(ちょうなん・茅原) → 虚斎(きよさい・茅原ちはら、医者/和漢学) P 1 6 5 0  
澄任(ちょうにん;初法諱) → 最寛(さいかん;法諱、真言僧) G 2 0 6 0  
朝仁(ちょうにん/ともひと?) → 道覚親王(どうかくしんのう、天台僧/歌人) C 3 1 2 4  
長仁親王(ちょうにんしんのう) → 長仁親王(おさひとしんのう・八条宮、歌人) B 1 4 4 8  
長任房(ちょうにんぼう;号) → 理峯(りほう;法諱・春応房、真言僧/梵曲) C 4 9 5 1
- J2860 **奄然**(ちやうねん;法諱、藤原真連男)938-101679 京の三論・真言僧;東大寺で修学、三論;東南院觀理門/密教;石山寺元杲門/959受戒/983入宋;今文孝経を太宗に献上、986帰国後;法橋/989東大寺別当、宋よりの釈迦如来立像等安置の寺を建立計画;没後清涼寺が完成、「奄然在唐記」著、歌:新古集915、  
[旅衣たちゆく浪路遠ければいさしら雲のほどもしられず](新古集;十915)、  
[奄然の号] 法濟大師
- J2861 **超然**(ちやうねん) ? - ? 1690「鳳城ほうじょう聯句集」編;自家珍藏草稿翻刻
- J2862 **超然**(ちやうねん;法諱、純格じゅんかく;字)?-1717 京の浄土宗西山派深草流誓願寺住僧、1657「浄業要訣」80「善導和尚十徳鈔」88「善導大師類聚伝」95「専修余論集」著、1707「一枚起請積疑」「一枚起請新記」09「一類往生草」「浄土解惑章」、「浄土頭要集」外著多、
- J2863 **超然**(ちやうねん;法諱、俗姓;美園、大濤[慈潮]男)1792-186877 近江高宮の真宗本願寺派円照寺生、近江福堂の覚成寺超勝の養子;1808得度/09本山学林で修学/21雲幢・義諦対立の調停、覚成寺住職;養父の家督、歌:香川景柄門、尊王派;松陰・頼三樹三郎と親交、「虞淵文鈔」「里耳談」「蘆湯筆記」「一葦紀行」「鴨西吟草」「龍谷嘉話」「和智囊」外著多数、  
広如法王の命で弟慈空(宏遠)と共に[真宗法要典拠]を校補、

[超然(；法諱)の別法諱/字/号]別法諱:若英、字:不群、号:虞淵/高尚坊/深慨隱士  
諡号:高尚院

- J2864 **澄然**(ちやうねん) ? - ? 江後期享保1716-36頃の天台僧;宝乘院住、  
1720「新中和門院中陰雜記」、「山門中興伽藍坊舎記」著  
長年(ちやうねん)訓読すべて→長年(ながとし)  
超然(ちやうねん;法諱) → 湛堂(たんどう;道号・超然、曹洞僧) T 2 6 5 6  
釣年庵(ちやうねんあん) → 曲川(きよくせん・山内、商家/俳人) P 1 6 1 6  
超然窩(ちやうねんか) → 義勇(よしたけ・島しま、藩士/蝦夷開拓) E 4 7 2 0  
長年齋(ちやうねんさい) → 西山(せいざん・高橋たかはし、医者/歌人) O 2 4 2 5
- J2865 **長能**(ちやうのう・喜多きた、内堀道春男)1586-1653<sup>68</sup> 和泉堺生:幼時より金剛座能役者:七ツ大夫名、  
金剛弥一(勝吉しやうきち)の養子/1601元服;金剛三郎名、1610弥一没後金剛太夫を継嗣;  
1611弥一の嫡子頼勝に大夫を譲渡/豊臣方に参加;1619金剛七大夫を名乗り復帰、  
1620江戸城御成橋勸進興行頃から独立;北七大夫を名乗る/喜多流の創始者(；祖)となる、  
将軍家と黒田・浅野等多くの大名家の庇護を受け四座に一流として加わる;四座一流制、  
[長能(；名)の通称]七ツ大夫/金剛三郎/六平太/七大夫  
長能(ちやうのう・藤原) → 長能(ながとう・藤原、歌人) 3 2 2 1  
長能(ちやうのう・吉川) → 長能(ながよし・吉川よしかわ、藩士/記録) G 3 2 3 9  
長農(ちやうのう・三浦) → 桜所(おうしよ・三浦みうら、医者/詩) C 1 4 5 0  
長之進(ちやうのしん・藤原) → 重全(しげまさ・藤原、神職/書肆) S 2 1 6 4  
長之進(ちやうのしん・入江) → 済民(さいみん・入江いりえ、藩士/詩文) H 2 0 0 5  
長之進(ちやうのしん・岡内) → 幸盛(ゆきもり・岡内おかうち/平、医者/歌) G 4 6 7 0  
長之介(ちやうのすけ・沢村) → 長十郎(2世ちやうじゅうろう・沢村、歌舞伎役者) I 2 8 7 7  
長之助(ちやうのすけ・富沢) → 宗十郎(2世そうじゅうろう・沢村、歌舞伎役者) B 2 5 8 8  
長之助(ちやうのすけ・後藤) → 雪旦(せつたん・長谷川/後藤、絵師) E 2 4 5 4  
長之助(ちやうのすけ・草野/佐藤) → 固庵(こあん・佐藤さとう/草野、儒者) G 1 9 2 0  
長之助(ちやうのすけ・稲葉) → 正邦(まさくに・稲葉/丹羽、藩主/歌人) C 4 0 4 1  
長之助(ちやうのすけ・大久保) → 鷲山(しゅうざん・大久保、藩士/儒者) H 2 1 4 7  
超之助(ちやうのすけ・高松) → 信行(のぶゆき・高松たかまつ、剣術家/国学) I 3 5 9 7  
超之助(ちやうのすけ・小倉) → 実麿(さねあき・小倉おぐら/林、幕臣/歌) K 2 0 6 9  
昶之助(ちやうのすけ・松平) → 頼恕(よりひろ・松平、藩主/史書編纂) J 4 7 6 8  
徽之助(ちやうのすけ・福原) → 元圃(もとたけ・福原/佐世/毛利、家老/歌) C 4 4 8 8  
丁野南洋(ちやうのなんよう) → 南洋(なんよう、儒者) 3 2 4 6  
蝶之舎(ちやうのや) → 夜白(やはく・長谷川はせがわ、商家/俳人) D 4 5 9 6
- J2866 **超波**(ちやうは・清水しみず、通称;長兵衛)1702-40<sup>39</sup> 江戸堺町の味噌商/のち剃髪;長巴号、  
1723頃から俳諧活動;26超波に改号/俳諧:貞佐門、湖十と其角座の双壁、35師の追善集刊、  
1731「落葉合」33「紙[帑]蚕かみがい」「俳諧こたね昏」/34「享保八百韻」35「一碗光」編、  
1736「若壮わかざかり」編、追善;1756超波十七忌追善絵俳書「わかかな」(；大一・玉峨・桑也編)、  
[蜻蛉とんぼや飛び直しても元の枝](紙蚕/飛び直してもに寓意性を持つ)、  
[超波(；号)の別号]長巴(；初号)/超巴/独歩庵とつばあん(初世)/独庵/清濁庵/長谷径
- J2867 **彫波**(ちやうは;号・太中庵)? - ? 江中期江戸住?、俳人:關更と交流、  
1770「皐月の雨」編  
茗波(ちやうは;号) → 古岳(こがく;道号・宗亘そうごう;法諱、臨濟僧) L 1 9 8 8  
超巴(ちやうは、1722露月「俳度曲はいどぶり」入) → 超波(ちやうは・清水) J 2 8 6 6  
鳥梅園(ちやうばいえん) → 萬齡(かづなが・吉松よしまつ、藩士/国学) W 1 5 1 6  
長梅外(ちやうばいがい) → 梅外(ばいがい・長谷川、僧/詩人) 3 6 8 4
- 2825 **長伯**(ちやうはく・有賀あるが)1661-1737<sup>77</sup> 肥後の医家の生、  
京で歌学者;望月長孝・平間長雅ながまさ(風觀齋)門、京・大坂住、歌学啓蒙書著、  
地下歌人の代表格;上方中心に門弟多数、  
1688「歌枕秋の寢覚」/1693「浜の真砂」96「和歌八重垣」著、家集「秋葉愚草」「長伯集」、  
「以敬齋歌集」「以玄問答」「源氏物語掌故」、外歌学秘伝書等著多数、

門人に欲賀光清(1714「増補歌枕秋の寢覚」著)・井上永俊など、  
[長伯(；名)の号] 以敬斎/無曲軒/黄和/六諭/風觀斎(師の号)、長因の父/長収の祖父、  
長伯から長因→長収→長基→長隣と歌道家として続く

J2868 潮白(ちやうはく；号、別号；等珉[子]とうみん/とうびん、姓名不詳)?-? 江前期大阪俳人、来山門?、  
1704「多美濃草たみのぐさ上」編

J2869 長伯(ちやうはく・渋江しづえ、名；虬、太田元達[惟長]男)1760-1830<sup>71</sup> 1779渋江陳胤の養子、  
幕府奥詰医師、江戸小川町神保小路住/本草学者、医学館で講義/巢鴨薬園総官を兼務、  
1794オランダ貢使と会見、99幕命で蝦夷地に採集/1809甲斐に薬園を開、硝子器製作/牧羊、  
1799「蝦夷紀行」「蝦夷採薬記」「北遊草木帖」「蝦夷地歴遊日記」、1809「遊御嶽記」、  
「岩堂記」「煙草譜」「熊胆考」「西園魚譜」「西園蓮譜」「西園雜抄」「甲駿豆相採薬記」外著多数、  
[長伯(；字)の別字/号]別字；潜夫、号；西園/確亭/清閑[堂]主人

長博(ちやうはく・関) → 載甫(さいほ・関、儒者/教育) F 2 0 0 1

聴璞(ちやうはく・三村) → 石牀(石床せきしょう・三村、医/本草家) K 2 4 1 6

喞柏堂(ちやうはくどう→とうはくどう)→呂丸(露丸るがん・因司/近藤、染物業/俳人) 5 3 6 1

J2870 長八(ちやうはち・英はなぶさ) ? - ? 江後期歌舞伎作者、

1821四世南北「三賀荘曾我島台さんのしょうそがのしまだい」番付

長八(ちやうはち・今田) → 知貞(ともさだ・今田いまだ、藩士/歌人) U 3 1 2 8

長八郎(ちやうはちろう・松平)→ 忠冬(ただふゆ・松平、幕臣/記録編纂) F 2 6 8 0

長発(ちやうはつ・池田) → 長発(ながおき・池田いけだ、幕臣/文筆) D 3 2 3 4

J2871 朝範(ちやうはん；法諱、平たいら棟仲男/母；橘則隆女)1023-1078<sup>56</sup> 平庵期天台宗叡山僧；覺寿法印門、  
1076律師、平等院座主忠快・周防内侍の兄弟、歌人；後拾遺953/1039、  
[思はずにいるとは見えきあづさ弓還へらばかへれ人のためかは](後拾遺；十七1039)  
(法師になりながら迷っている弟に弱い道心なら還俗せよと叱責する歌)

M2832 朝範(ちやうはん・川平かびら、名；麟趾、本姓；向)1823-1873<sup>51</sup> 琉球首里の三司官、伊江島総地頭、  
通称；川平親方ウエーカ

J2874 長眉(ちやうび) ? - ? 伊賀上野の俳人、1691猿蓑1句入、

[腥なまぐさきはな最中のゆふべ哉](猿蓑；卷四/花見宴の酒肴の匂い)

朝弼(ちやうひつ・園田) → 不時宜(ふじぎ・園田、藩士/儒/教育) C 3 8 4 3

長標(ちやうひょう・神保) → 長標(ながすえ・神保じんぼう/橘/石丸、幕臣) K 3 2 2 7

J2872 釣浜(ちやうひん・舟生ふなう/ふにゅう、名；備成/満成/満生)?-? 江後期江戸儒者、1797笑話「笑門しょうもん」、  
1800「左伝杜解補砌」、「向島雪航」「孟荀独断」「論語余意」「柳橋春事記」、  
[釣浜の字/号]字；榮卿、号；浜釣散人

J2873 朝敏(ちやうびん・平敷屋へしきや、朝文男)1701-34<sup>処刑</sup>35 琉球廷臣；家督嗣/平敷屋脇地頭(親雲上)、  
母；真鍋、首里文学者；心海和尚門/1720里主/21知花親方安寿女の龜と結婚、  
平敷屋事件；実権者三司官蔡温を批判；1734変革計画が露見し捕縛；安謝港付近で磔刑、  
琉歌組踊；「手水の縁」の作者(1918やっと上演許可)、  
和文物語「貧家の記」「若草物語」「苔の下」著、「朝敏集」著、  
「琉歌全集」26首入；沖縄三十六歌仙の1、  
[四海波立てて硯水なちも/思事あまた書きもならぬ]

J2875 趙鳧(ちやうふ・岡崎おかざき) ? - ? 江中期俳人、暁台[1732-92]門

N2809 朝敷(ちやうふ・今帰仁なきじん、唐名；尚弼、尚育王3男)1847-1915<sup>69</sup> 琉球首里の生；母；真南風按司、  
1869今帰仁間切の按司地頭/今帰仁御殿祖、妻；オト(伊舎堂親方盛喜女)/6男6女の父、  
1875病気の兄の代理；琉球処分官松田道之への応対など、  
[朝敷(；名)の幼名/通称]幼名；思樽金、通称；具志川王子(；初称)/今帰仁王子

長父(ちやうふ；号・森本) → 億麿(億丸おくまろ；号・森本、俳人) 1 4 7 8

長夫(ちやうふ・河津) → 長夫(ながお・河津わかづ、儒者/歌人) L 3 2 7 5

長富(ちやうふ・市橋) → 長富(ながとみ・市橋いちばし、藩主/歌) K 3 2 4 0

調布(初世ちやうふ；俳名・松島)→ 治助(2世じすけ・桜田、歌伎作者) 2 1 2 4

調布(2世ちやうふ；俳名・松島)→ 治助(3世じすけ・桜田/3世松島半二、歌伎作者) I 2 1 1 5

調布(釣夫3世ちやうふ・松島)→ 松作(しょうさく・寺島、2世治助門、歌伎作者) M 2 1 9 4

- 調布(ちょうふ・五街遊) → 半二(2世はんじ・松島、歌伎作/合巻) 3 6 4 4  
調布(ちょうふ・4世松島) → 半二(5世はんじ・松島、3世治助門、歌伎作) 3 6 4 5  
暢夫(ちょうふ・高杉) → 晋作(しんさく・高杉たかすぎ、藩士/勤王家) E 2 2 3 1  
てうふ(ちょうふ・松島) → 治助(2世じすけ・桜田、歌舞伎作者) 2 1 2 4  
てうふ(2世ちょうふ・松島) → 治助(3世じすけ・桜田、歌舞伎作者) I 2 1 1 5  
長武(ちょうぶ・相良) → 頼喬(よりたか・相良さがら、藩主/歌人) Q 4 7 1 9  
長諷(ちょうふう・稲垣) → 方之(まさゆき・稲垣いながき、歌人) N 4 0 7 1  
聴風軒草浪(ちょうふうけんくさなみ) → 草浪(くさなみ・聴風軒、狂歌) C 1 7 3 9  
J2876 蝶風子(ちょうふうし) ? - ? 江前期江戸の雑俳人;蝶々子門、  
1730吟蟬「俳諧塵塚」入  
J2877 兆風子(ちょうふうし・辻堂) ? - ? 江前期大垣の浮世草子作者、1704刊「玉すたれ」著  
朝風舎(ちょうふうしゃ) → 季連(すえつら・福崎ふくさき、藩士/歌人) J 2 3 1 1  
長風楼(ちょうふうろう) → 果堂(かどう・南合なんごう、藩士/儒者) H 1 5 5 1  
長福(ちょうふく・相良) → 長福(ながとみ・相良さがら、藩主/歌) K 3 2 4 1  
長福寺(ちょうふくじ;号) → 信武(のぶたけ・武田、武将/歌人) B 3 5 7 6  
長福村叟(ちょうふくそんそう) → 盛良(もりよし・楊井やない、藩士/儒者) G 4 4 8 9  
長布梁(長布亮ちょうぶりょう) → 伴自(ばんじ・長井ながい、俳;雑俳点者) 3 6 4 6  
J2878 長文(ちょうぶん・伊藤いとう、蘆汀男) 1804-28早世 25 儒者;父門/家学修得、備後福山藩校弘道館教授、  
「長文遺稿」、  
[長文(;名)の字/諡号] 字;建蔵、諡号;撫謙きけん先生、  
寵文(ちょうぶん・名護親方なごえかた) → 順則(じゅんそく・程い、琉球三司官/詩人) P 2 1 5 4  
朝聞(ちょうもん・小原) → 朝聞(ちょうもん・小原、俳人) J 2 8 9 5  
鳥文斎栄之(ちょうぶんさいえいし) → 栄之(えいし・細田時富、幕臣/絵師) 1 3 2 8  
J2879 朝平(ちょうへい・金丸、名;武平) ?-1844 江後期甲斐明徳村小笠原の俳人;蓬庵静菅門、  
1844「窓まどのうち」編、  
[朝平(;号)の通称/別号]通称;丸屋平蔵、別号;松廻戸まつと  
長平(ちょうへい・斎藤) → 宜義(のぶよし・斎藤、和算家) D 3 5 9 8  
長平(ちょうへい・加藤/篠崎) → 竹陰(ちくいん・篠崎しのざき/加藤、儒者) C 2 8 5 2  
長平(ちょうへい・鷺田) → 光時(3世みつとき・鷺田わだ、金工) E 4 1 0 0  
長平(ちょうへい・堀) → 宇仙(うせん・堀ほり、医者/国学/歌) E 1 2 3 8  
長平(ちょうへい・山下) → 守胤(もりたね・山下、商業/絵師/藩士) F 4 4 6 8  
長平(ちょうへい・岡部) → 千尋(ちひろ・岡部おかべ/狛こま、家老/歌) M 2 8 2 9  
長平(ちょうへい・藤田) → 長孟(ながたか・藤田ふじた、国学者) O 3 2 5 9  
長柄(ちょうへい・田村/照井) → 長柄(ながら・照井/田村、医者/国学) G 3 2 6 0  
潮坪(ちょうへい・安田/山県) → 璣(たまき・山県/宍戸、藩士/儒者) S 2 6 2 3  
J2880 長皿(ちょうべい) ? - ? 加賀の俳人;1690北枝「卯辰集」3句入(;5歳の時)  
[振舞ふるまひの中に聞けり郭公ほととぎす](卯辰集;164/振舞はもてなし・宴)  
J2881 長兵衛(ちょうべえ・山本、金屋) ?- ? 書肆・1622以後、観世謡本出版  
J2882 長兵衛(ちょうべえ・野村のむら、富士屋) ?-? 元禄期[1688-1704]大阪書肆、  
1700「俳諧田蓑笠」刊、閑酔子友自(「すがたなぞ」序筆)と同じか?  
閑酔子友自 → 閑酔(閑水かんすい、梅月堂/友自) D 1 5 9 8  
J2883 長兵衛(ちょうべえ・川口) ? - ? 江中期享保[1716-36]頃肥前島原藩士、  
1720新領地肥前国五箇庄を巡見;「肥前国五箇庄覚書」著  
長兵衛(ちょうべえ・林) → 道休(どうきゅう・林はやし、武家/記録) C 3 1 7 0  
長兵衛(ちょうべえ・桑山) → 元晴(もとあはる・桑山くわやま、武将/藩主) D 4 4 9 0  
長兵衛(ちょうべえ・藤堂) → 玄虎(げんこ・藤堂、藩士/俳人) B 1 8 7 1  
長兵衛(ちょうべえ・隼士) → 常辰(つねとき・隼士はやと、俳人) C 2 9 6 4  
長兵衛(ちょうべえ・平元) → 正芳(まさよし・平元ひらもと、藩祐筆/歌) S 4 0 1 5  
長兵衛(ちょうべえ・清水) → 超波(ちょうは・清水しみず、商家/俳人) J 2 8 6 6  
長兵衛(ちょうべえ・塩江) → 車庸(車要しゃよう・塩江/潮江、俳人) G 2 1 5 3

長兵衛(ちょうべえ・半井) → 和年(わねん・半井なからい、俳人) 5 3 5 5  
 長兵衛(ちょうべえ・大口屋) → 心祇(しんぎ・轍、札差/俳人; 四時観) D 2 2 7 7  
 長兵衛(ちょうべえ・銭屋) → 椿堂(ちんどう・徳田とくだ、両替商/俳人) K 2 8 9 4  
 長兵衛(ちょうべえ・端) → 定重(さだじげ・端はた、俳人) F 2 0 2 8  
 長兵衛(ちょうべえ・垂井) → 秋虎(しゅうこ・垂井たるい、藩士/歌人) X 2 1 1 6  
 長兵衛(ちょうべえ・山口) → 馬屋厩輔(うまやのまやすけ、藩士/狂歌) B 1 2 9 4  
 長兵衛(ちょうべえ・藤井) → 直好(なおよし・藤井、和算家) C 3 2 9 1  
 長兵衛(ちょうべえ・篠崎) → 三島(さんとう・篠崎/篠、商家/儒者) E 2 0 6 0  
 長兵衛(ちょうべえ・篠原) → 長友(ながとも・篠原しのはら、家老/歌人) P 3 2 3 8  
 長兵衛(ちょうべえ・雑賀屋) → 長穂(ながほ・安田/梅坊/佐伯、商/歌) F 3 2 6 6  
 長兵衛(ちょうべえ・奈良屋/葛城) → 輝教(てるのり・葛城、書肆) C 3 0 8 7  
 長兵衛(ちょうべえ・銭屋) → 静之(せいし・枝芳軒しほうけん、書肆) B 2 4 8 5  
 長兵衛(初世ちょうべえ・百竹) → 保直(やすなお・百竹ももたけ、商家/紀行) C 4 5 3 5  
 長兵衛(ちょうべえ・鈴木) → 長頼(ながより・鈴木、幕臣/大工) G 3 2 5 5  
 長兵衛(ちょうべえ・藤原) → 重邑(しげむら・藤原、神職/書肆) S 2 1 8 7  
 長兵衛(ちょうべえ・藤原) → 重全(しげまさ・藤原、重邑男/神職/書肆) S 2 1 6 4  
 長兵衛(ちょうべえ・藤原) → 重常(しげつね・加藤/藤原、書肆/出版) M 2 1 3 2  
 長兵衛(ちょうべえ・塩屋) → 春樹(はるき・山本、書肆/歌) G 3 6 2 8  
 長兵衛(ちょうべえ・市瀬) → 惟長(これなが・市瀬いちせ、和算家) O 1 9 6 1  
 長兵衛(ちょうべえ・笹屋) → 騏六(きろく・武田/竹田、酒造業/俳人) H 1 6 7 0  
 長兵衛(ちょうべえ・矢野) → 夜潮(やしお・矢野やの、絵師) 4 5 6 4  
 長兵衛(ちょうべえ・長田) → 順二郎(じゅんじろう・長田ながた、測量家) L 2 1 1 2  
 長兵衛(ちょうべえ・河内屋) → 石倉堂(せきそうどう・杉岡すぎおか、書肆) K 2 4 3 5  
 長兵衛(ちょうべえ・杉田) → 花丸(はなまる・春光園・優々館、戯作/狂歌) F 3 6 4 9  
 長兵衛(ちょうべえ・現金屋/古市) → 木朶(もくた・古市、旅宿業/俳人) 4 4 9 8  
 長兵衛(ちょうべえ・古市) → 木芽(もくが・古市、木朶の孫/俳人) 4 4 7 3  
 長兵衛(ちょうべえ・米屋よねや) → 梅好(ばいこう・2世鶴廼屋つるのや、狂歌作者) B 3 6 1 9  
 長兵衛(ちょうべえ・磯田) → 健斎(けんさい・磯田いそだ、儒者/書) I 1 8 9 3  
 長兵衛(ちょうべえ・浅井) → 正村(せいそん・浅井あさい、俳人) C 2 4 5 5  
 長兵衛(ちょうべえ・佐藤) → 益友(ますとも・佐藤さとう、国学者) P 4 0 8 4  
 長兵衛(ちょうべえ・竹田) → 載守(としもり/ときもり・竹田/武田たけだ、商家/歌) V 3 1 6 8  
 長兵衛(ちょうべえ・今村屋) → 村雄(むらお・今村いまむら、国学/寺子屋) D 4 2 6 7  
 長兵衛(ちょうべえ・中坊) → 広風(ひろかぜ・中坊なかのぼう、幕臣/奉行) I 3 7 4 7  
 長兵衛(ちょうべえ・下村) → 尾山(びざん・下村、長兵衛、郷土史家) E 3 7 4 2  
 長兵衛(ちょうべえ・鍵屋) → 長治(ながはる・鍵屋かぎや、国学者) L 3 2 5 8  
 長兵衛(ちょうべえ・布川) → 正沖(正興まさおき・布川ぬのかわ、商家/歌) R 4 0 4 4  
 長兵衛(ちょうべえ・芳屋) → 穂並(ほなみ・安田やすだ、商家/国学/歌) G 3 9 4 3  
 長兵衛(ちょうべえ・安田) → 穂末(ほすえ・安田、穂並弟/国学/歌) G 3 9 4 4  
 長兵衛(ちょうべえ・吉武) → 重固(しげかた・吉武よしたけ、藩士/国学) a 2 1 0 9  
 澄碧堂(ちょうへきどう) → 北岸(ほくがん・榎田/平、儒医/詩人/花) C 3 9 9 8

N2888 朝弁(ちょうべん; 法諱) ? - ? 平安鎌倉期; 南都の法師、歌; [檜葉集]3首入、  
 [古寺の紅葉の心を、

かねのおとにくれぬときけばもみぢばの入日を残すをはつせの山] (檜葉; 秋276)

J2884 長圃(ちやうほ) ? - ? 但馬城崎(出石)の俳人; 1776几董「続明鳥」1句入、  
 [火のたへて鼠のはしる焼野哉] (続明鳥; 中146/野焼の後の景)

J2885 朝保(ちやうほ・宜湾ざむ/向、) 1823-7654 琉球尚泰王家臣; 琉球王府三司官; 外国御用掛、  
 詩人、歌・八田知紀門、「沖繩集」「松風集」著、護得久ごえく朝置・朝常・朝良の父子の師、  
 [朝保( ; 名)の別名/通称/号] 別名; 有恒、通称; 親方、号; 松風齋/悠然亭/悟往亭

長輔(ちやうほ・入江) → 昌喜(昌熹まさよし・入江、国学者/歌) I 4 0 5 3

長保(ちやうほ・河内) → 長保(ながやす・河内かわうち、製造業; 歌人) L 3 2 7 3

- 肇甫(徴甫ちようほ・日比野)→ 秋江(しゅうこう・日比野ひびの、医/儒者) H 2 1 3 4
- J2886 蝶暮(ちようぼ/ちよぼ) ? - ? 大阪の女流歌人/俳人;秀吉に仕えた女臈、  
1684西鶴「俳諧女哥仙によかせん」入/1688西鶴「武家義理物語」の「おちよぼ」として入、  
[箆耳かごみも初音はもれじ春の鳥](女哥仙;2、  
箆耳;聞いたことが漏れて忘れ易いこと/鶯の初音は聞き漏らさない)
- 朝暮庵(ちようぼあん) → 山厚(さんこう・奥寺おくでら、藩士/俳人) M 2 0 1 7
- J2887 朝芳(ちようほう・金武きむ) ? - ? 琉歌作者;「琉歌全集」20首入
- 澄方(ちようほう・真山) → 澄方(すみかた・秋央亭/真山、狂歌作者) D 2 3 8 7
- 長方(ちようほう・藤井) → 道印(どういん・遠近おちこち、藤井、藩医/測量) B 3 1 1 0
- 長方(ちようほう/ながかた・稲田) → 鳳棲(ほうせい・稲田いなだ、藩士/俳人) C 3 9 0 0
- 長法(ちようほう/ながのり・幸阿弥) → 幸阿弥(九世こうあみ、蒔絵師) P 1 9 6 0
- 長峰(ちようほう・遠山) → 長嶺(長峰ながみね・遠山とおやま、幕臣/歌) K 3 2 5 8
- 長峰(ちようほう・氷室) → 長峰(ながみね・氷室ひむろ/紀、神職/歌人) O 3 2 4 8
- 長坊(ちようほう・歌川) → 芳鶴(初世よしつる・歌川うたがわ、絵師) E 4 7 7 8
- 長懋(ちようほう・浅野) → 長懋(ながとし・浅野あさの、史家) E 3 2 8 8
- 長房(ちようほう・藤原) → 長房(ながふさ・藤原、大蔵卿/大貳/歌) F 3 2 6 3
- 長房(ちようほう/ながふさ・幸阿弥) → 幸阿弥(11世こうあみ、蒔絵師) P 1 9 6 0
- 長峰隠士(ちようほういんし) → 椿堂(ちんどう・徳田とくだ、両替商/俳人) K 2 8 9 4
- 長峰野翁(ちようほうやおう) → 茶酔軒(ちやしうけん、文筆家) F 2 8 5 6
- 長畝園(ちようぼえん) → 政常(まさつね・中東なかひがし、国学者) R 4 0 1 6
- 朝暮園(ちようぼえん) → 傘狂(さんきやう・大野おおの、俳人) E 2 0 2 1
- N2804 朝睦(ちようぼく・豊見城とみぐすく/姓;向、名;順行、男) 1839-7840 琉球王朝豊見城御殿どうん按司家、  
豊見城按司9世を継嗣、歌人
- 趙北海(ちようほっかい) → 北海(ほっかい、俳人) E 3 9 5 2
- 長米(ちようまい・松本) → 良遠(よしとお・松本まつもと/浜野、藩儒/歌/狂歌) P 4 7 2 6
- 長松(ちようまつ・岡内) → 幸盛(ゆきもり・岡内おかうち/平、医者/歌) G 4 6 7 0
- 長松(ちようまつ・近藤) → 梅外(ばいがい・近藤こんどう、国学/歌人) K 3 6 2 1
- 長松(ちようまつ・原) → 方揚(まさあき・原はら、国学/歌人) R 4 0 9 3
- J2888 長丸(ちようまる/おさまる・榎並、貞富ていふ男)?-? 大阪菓子商/狂歌;1672行風「後撰夷曲集」入
- J2889 長丸(ちようまる・桂向けいこう亭/桂向山人)?-? 江後期大阪の絵師、1811聴雨軒「昔語虫松墳」画
- 長丸(ちようまる→ながまる・太田) → 見龍(けんりゅう/けんりょう・太田、医者) M 1 8 8 3
- 長丸(ちようまる・玉井) → 信海(しんかい;法諱、僧/国学/尊攘) V 2 2 0 3
- J2890 蝶麿(ちようまろ・桃林堂、桃の林紫石)?-? 江前中期浮世草子作者、17ct後半-18ct初頭活動、  
「好色赤烏帽子」「好色八景」著、  
桃隣(俳人)と同一説あり → 桃隣(初世とうりん・天野) 3 1 2 9
- 朝万(ちようまん・朝岡) → 正章(まさあき・朝岡あさおか、儒者/歌/俳) B 4 0 0 5
- 蔦蔓居(ちようまんきよ) → 正謙(まさかた・岩本いわもと、藩士/歌人) N 4 0 8 6
- M2894 暢妙(ちようみょう;法諱) 1707 - 178175 伊勢度会郡の浄土宗の宗安寺住職、美濃北野大泉寺住職、  
[暢妙の号] 紅葉社謙誉上人
- 長明(ちようみょう) → 長明(ちようめい;法諱、修験僧) J 2 8 9 2
- 2826 蝶夢(ちようむ・五升庵) 1732 - 179564 京の浄土僧;56-66阿弥陀寺11世、俳;宋屋門、蕉風復興、  
義仲寺粟津文庫創設、「蝶夢和尚文集」「蕉門俳諧語録」編、「芭蕉翁俳諧集」「草根発句集」編、  
「松島道の記」「遠江の記」「宰府紀行」「養老滝の記」「吉野の冬の記」、「俳諧童子教」著、  
「俳諧十論発蒙」「俳諧名所小鏡」「類題発句集」「新類題発句集」、「はちたたき」「しぐれ会」、  
「芭蕉翁発句集」「芭蕉翁俳諧集」「芭蕉翁文集」「芭蕉翁絵詞伝」「蕉門俳諧語録」「奉扇会」、  
「去来発句集」「丈草発句集」編、追善集「かなしぶみ」井口菊二編/13忌「ひとよふね」去荷編、  
[菜の花や行き当りたる桂川](草根発句集)、  
[朝寒や関の扉の開く音](草根発句集)、  
[蝶夢の号]俳号;泊庵、睡花堂(すいかどう・宋屋門期の俳号)、鳳声亭、庵号;五升庵、  
法号;禅蓮社詮誉幻阿量的西堂(彌陀仏)

丁夢庵(ちやうむあん) → 岩松(がんしょう、俳人) R 1 5 0 7  
 蝶夢庵(ちやうむあん) → 理貞(りてい・松秀斎しょうしゅうさい、華道家) C 4 9 1 9  
 蝶夢軒(ちやうむけん) → 平山(へいざん・多々良たたら/鳥山、俳人) 2 7 4 2  
 朝鷓子(ちやうむし) → 如自(にょじ・石井、俳人) F 3 3 9 2  
 蝶夢亭(ちやうむてい) → 青芝(せいし・蝶夢亭、俳人) I 2 4 5 3

J2891 **千代梅**(ちやうめ・白井しらい、改名;しげい、庄内藩士白井重敏3女) 1816-68 53 母;歌人白井玉井たまい、出羽庄内の歌人;池田玄斎門、能書家、白井重則(祖父の実弟の息子)の妻;しげいと改名、1838象潟紀行「胡蝶日記」著、  
 [千代梅(;名)の号] 藤廼舎

J2892 **長明**(ちやうめい・ちやうみょう;法諱) ?-?永保966-68頃没(一説康平1058-64頃没) 平安前期(or後期)、信濃戸隠山の修験僧、25歳で無言行/3年間法華経読誦、「火定燈銘」著

2827 **長明**(ちやうめい・ながあきら・鴨かも、長継男) 1153/5?-1216 62-64? 廷臣;1161従五下/後鳥羽院北面、1175(安元元)長継後継の禰宜鴨祐季と延暦寺との間で土地争い発生し祐季失脚;長明は鴨祐兼とその後任を争うが敗北、歌人;歌林苑俊恵門、琵琶;楽所預の中原有安門、歌林苑会衆/1175高松女院北面歌合参加/1200正治二年第二度百首入、01和歌所寄人、1202三体和歌会参加、1204河合社禰宜をめぐる事件;出家隠棲(法名;蓮胤)、1204洛北大原山住、1205元久詩歌合参加、1208頃日野外山に方丈の草庵を結ぶ、1211鎌倉で実朝と面談、1212「方丈記」、「無名抄」「発心集」「鴨長明集」、「伊勢記」(散佚)、「四季物語」「文字鑠もじくさり」「瑩玉集」著、御裳濯集入、勅撰36首;千載(936)新古(10首366/397以下)続古(139/1794)続拾(1277)新後撰(2首)以下、  
 [思ひあまりうち寝る宵のまぼろしも浪路を分けて行きかよひけり]、  
 (千載;恋936/海路を隔つる恋)、  
 [修行に出でて伊勢にまかりて侍りけるにある山寺にて秋頃よみ侍りける、  
 むぐらはふ宿だに秋はさびしきを幾重かとづる峰の白雪](御裳濯集;秋358/蓮胤)、  
 [長明(;名)の通称/法号]通称;南大夫/菊大夫、法号;蓮胤

J2893 **長明**(ちやうめい) ? - ? 連歌;1464?盛長「熊野千句」参加

J2894 **長明**(ちやうめい・幸若こうわか/桃井、長氏男) 1641-1707 67 舞曲大夫、医;橋本随節、「幸若系図之事」著

長明(ちやうめい・村井) → 長明(ながあきら・村井、随筆) D 3 2 1 6

長明(長命ちやうめい・篠崎) → 三伯(さんぱく・篠崎しのぎ、幕医/歌) N 2 0 5 0

朝明(ちやうめい・森本/大口) → 端山(たんざん・大口、商家/国学/歌) I 2 6 7 6

朝明(ちやうめい・庵原) → 朝明(ともあき・庵原いはら/:源、家老/歌) U 3 1 1 4

澄明(ちやうめい・大江) → 澄明(すみあきら・大江おおえ、廷臣/詩人) 2 3 1 7

長茂(ちやうも;法諱) → 沢水(たくすい:道号・長茂、臨濟僧) O 2 6 0 8

長茂(ちやうも/ながもち・山県) → 源右衛門(げんえもん・山県、藩士/記録) H 1 8 8 9

暢茂(ちやうも・玉虫) → 暢茂(のぶしげ・玉虫たまむし、兵法家) B 3 5 5 8

長孟(ちやうもう・藤田) → 長孟(ながたか・藤田ふじた、国学者) O 3 2 5 9

J2895 **朝聞**(ちやうもん・小原) ? - ? 越後新潟の俳人:1690言水「新撰都曲みやこぶり」1句入  
 [蕨むばらにもさはがぬ蔓つるのさゝげかな](新撰都曲;230)

J2896 **鳥門**(ちやうもん) ? - ? 俳人:1776几董「其雪影」1句入  
 [人ならば上戸なるらん夏の月](其雪影:巻首270/夏の月は赤ら顔)

**澄門四高足**(ちやうもんよんこうそく);歌人澄月門の高弟4人をいう

→ 宗澄(そうちやう・石井、上州歌人) C 2 5 5 5

→ 拙斎(せつさい・西山、備中歌人) E 2 4 3 0

→ 知之(ともゆき・堀田、尾張歌人) Q 3 1 8 1

→ 夢宅(むたく・桃沢、信濃歌人) 4 2 8 6

調也(ちやうや・福田) → 露言(ろげん・福田、俳人) B 5 2 3 8

調唯(ちやうゆい・壺中軒) → 調唯(ちやうい・壺中軒、俳人) H 2 8 2 2

J2898 **鳥友**(ちやうゆう;法諱) ? - ? 江前期延宝1673-81頃京西岩倉山の天台宗金蔵寺僧、「色葉歌疏記集」「三宝小縁集」「寸管分響書」「秘妙同異義」「心経略和讃」著、  
 [鳥友(;法諱)の別法諱/号/通称]別法諱;喜明、号;幽溪貪子、通称;密庵

- J2899 **長祐**(ちやうゆう・蓮光院) ? - ? 京の真如堂大僧都、江戸期歌人、「長祐詠草」著
- K2800 **澄融**(ちやうゆう;法諱、明倫;字)?- ?1862存 京大原の天台宗来迎院住僧、魚山声明しょうみょう研究、1846「長音供養甲様目安」「笛穴声明拔書」「琴譜頭要略拔書」著、「魚山叢書」編、「音曲秘伝集」著
- 朝雄(ちやうゆう・宮後) → 朝雄(ともたけ・宮後みやじり、禰宜) P 3 1 6 7
- 朝雄(ちやうゆう・野村) → 忍介(にんすけ/おしすけ・野村のむら/折田、藩士/軍人/詩歌) H 3 3 3 2
- 長友(ちやうゆう・篠原) → 長友(ながとも・篠原のほら、家老/歌人) P 3 2 3 8
- 長祐(ちやうゆう/ながすけ・岡) → 長洲(ちやうしゅう・岡おか、藩儒/詩文) I 2 8 7 1
- 長裕(ちやうゆう・野田) → 石陽(せきよう・野田、藩士/儒;徂徠学) D 2 4 9 3
- 長裕(ちやうゆう・森) → 長裕(ながひろ・森もり、歌人) K 3 2 6 0
- 長裕(ちやうゆう・小笠原) → 長裕(ながかた・小笠原おがさわら、歌/神職) L 3 2 3 6
- 長雄(ちやうゆう・中川) → 長雄(ながお・中川ながわ/藤原、廷臣/歌) O 3 2 0 3
- 張雄(ちやうゆう・北原) → 張雄(はるお・北原きたはら、藩士/歌人) K 3 6 0 8
- 澄友(ちやうゆう/すもとも?・中条) → 勝次郎(かつじろう・中条ちゅうじょう、藩士/武術) N 1 5 4 7
- 兆熊(ちやうゆう・伊東/伊藤) → 蘭洲(らんしゅう・伊東/伊藤/修姓東、漢学者/戯作) C 4 8 6 0
- 徴雄(ちやうゆう・中野) → 徴雄(もとお・中野なかの、藩士/歌人) K 4 4 7 9
- 釣友成(ちやうゆうせい) → 直胤(ただたね・横川よこかわ、和算家/史家) P 2 6 7 9
- K2801 **重誉**(朝誉ちやうよ;法諱、字;理教)?-? 1142存 平安後期の三論/真言/浄土僧、三論;東大寺覺樹門/真言密教;中の川流実範門、浄土教;大和光明山入山、1138「秘宗深密鈔」39「秘宗教相抄」「十住心論鈔」「西方集」「五相成身記」「悉曇字紀鈔」
- K2802 **朝誉**(ちやうよ;法諱) 1229-? 1318(90歳)存 鎌倉期天台宗長福寺僧、1318「胎蔵界灌頂手日記」著
- K2803 **長誉**(ちやうよ;法諱、別法諱;義徹、智順房;字)?-1423 能登の真言宗高野山僧;長覺門、1406大明神託宣を受、07高野山山王院で堅精義の大会を始行、師没後無量寿院に住、「二教論指示」「声字義問題」「付法伝纂解見聞」「金剛頂経開題指示」「法華経釈指示論義」著
- K2804 **徴余**(澄余ちやうよ・篠原のほら、名;元博[元埴げんぼ/もとひろ]) 1788-1855 68 大阪の儒者;陽明学を修学、家塾正(誼)書塾を開;書道教授、「芸祖基命録」、「藤樹先生全集」編、「湖学紀聞」「程蘇学辯」「朱陸年譜通攷」「柳泓先生行実」著、「徴余(;号)の字/通称」字;以礼、通称;坦蔵
- 長与(ちやうよ・田中) → 友水子(ゆうすいし・田中、俳人/文筆家) C 4 6 8 5
- 超譽(ちやうよ;号) → 珂碩(かせき;法諱・超譽、浄土僧) M 1 5 6 4
- 調誉(ちやうよ・託蓮社) → 隆円(りゅうえん;法諱、浄土僧/伝記) D 4 9 0 1
- 潮誉(ちやうよ・梵蓮社;法名) → 賢洲(けんしゅう;法諱、浄土僧) J 1 8 5 1
- 潮誉(ちやうよ;号) → 普門(ふもん;法諱・潮誉、真宗高田派僧) E 3 8 1 5
- K2805 **朝陽**(ちやうよう;法諱) ? - ? 江戸前期武蔵豊島郡谷中の観福寺僧、1698-99「初瀬詣道記」著
- K2806 **朝陽**(ちやうよう・古賀こが、名;能遷) 1773-1837 65 佐賀の儒者;藩校弘道館で修学/上京し医学修得、帰郷し佐賀藩士;侍医兼書学訓導、詩;「朝陽詩文集」/1837刊「朝陽詩集鈔」「少陵詩集」評、「河上詩巻」、「挨穴法」「復古傷寒論」著、「朝陽(;号)の字/通称」字;仲安、通称;健道
- M2815 **朝庸**(ちやうよう・上原うへはら/別姓;向、) 1829-71 43 琉球首里の廷臣;平等学校奉行/寺社奉行歴任、歌人、「朝庸(;名)の別名/通称」別名;伝声、通称;按司
- 朝陽(ちやうよう・岡田) → 新川(しんせん、岡田、儒者/詩人) 2 2 4 4
- 朝陽(ちやうよう・勝原/永富) → 独嘯庵(どくしょうあん、永富ながとみ、医者/詩) L 3 1 0 5
- 朝陽(ちやうよう・片桐) → 忠成(ただなり・片桐かたぎり、藩士/記録) Q 2 6 3 6
- 朝陽(ちやうよう・柳河/柳川) → 春三(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者) K 2 1 2 1
- 朝陽[山人](ちやうよう[さんじん]) → 孤山(こざん・藪やぶ、藩士/儒者/詩) C 1 9 6 8
- 長洋(ちやうよう・伊藤) → 慎蔵(しんぞう・伊藤いとう、蘭学者) P 2 2 2 5
- 長容(ちやうよう・青山/浅野) → 長容(ながかね・浅野あさの、藩主/歌) K 3 2 6 6

長容(ちょうよう・岩崎) → 長容(ながかた・岩崎いわさき、藩士/画) L 3 2 2 2  
 長陽(重陽ちょうよう・田近) → 長陽(ながはる・田近たちか、藩士/神職) N 3 2 6 0  
 長庸(ちょうよう・長谷川) → 延年(えんねん・長谷川、劍術/篆刻家) B 1 3 3 1  
 長養(ちょうよう・鶴殿) → 春風(しゅんぷう・鶴殿うどの、藩士/洋学者) L 2 1 8 2  
 長養(ちょうよう・滋岡) → 孝長(たかなが・滋岡しげおか、神職/歌人) X 2 6 4 4  
 肇陽(ちょうよう・費) → 晴湖(せいこ・費ひ、渡来商人/絵師) H 2 4 6 1  
 朝陽館(ちょうよう) → 五晴(ごせい・石原茂兵衛、書肆/俳人) D 1 9 0 6  
 朝陽堂(ちょうようどう) → 東齋(とうさい・前田、陰陽家) E 3 1 2 7  
 朝陽堂(ちょうようどう) → 盛卿(せいきょう・青木あおき、藩士/導引法) H 2 4 9 1  
 朝陽堂(ちょうようどう) → 九起(きゅうき・北村、俳人) B 1 6 9 6  
 重陽堂(ちょうようどう) → 見外(げんがい・小林、東雲庵、俳人) B 1 8 3 7  
 長与房(ちょうよぼう;字) → 実養(じつよう;法諱・長与房、真言僧) V 2 1 1 5

K2807 蝶羅(ちょうら・下郷しもと、玄雄、蝶羽14男)1723-7654 尾張鳴海の醸酒業千代倉家/東店の始祖、  
 千代倉5世常和の弟、若年より江戸住/のち帰郷、俳人:蓼太門、  
 1763父蝶羽23回忌・芭蕉70忌追善「冬のうちわ」(叔父亀世と共編)、  
 1769奥羽紀行「松のわらひ・合飲のいびき」編/73上洛紀行「続多日満久良」/74「なるみ瀉」編、  
 追善「蚊帳内」(学海編)、  
 [蝶羅(;号)の通称/別号]通称;四郎兵衛、別号;蓼蟲庵/臨川居/春麗園/鈴波  
 参照 → 鳴海の千代倉家(なるみのちよくらげ)

02806 長頼(ちょうらい・三好みよし) ? - ? 江中期;歌人、遁世、出不詳  
 1722頃内海頭糺[倭譚五十人一首追加]入、

[しづかなる軒に馴れ来てこれも又うき世をよその谷の鶯](追加;山家さんかの鶯)

K2808 朝来(ちょうらい・嵯峨さが、名;直方)1743-181977 肥後の儒者;高本紫溟門、詩人、子弟教育、  
 「朝来先生遺稿」、  
 [朝来(;号)の通称/別号]通称;左三郎/輔、別号;朝来山人

長頼(ちょうらい) → 長頼(ながより、江戸前期詩人) G 3 2 5 6

蔦羅井(ちょうらい) → 誼齋(ぎさい・小林こばやし、俳人) K 1 6 5 2

朝来山人(ちょうらいさんじん) → 朝来(ちょうらい・嵯峨さが、儒者/詩) K 2 8 0 8

鳥来丸(ちょうらいまる) → 敬元(たかもと・榎本えのもと、医者/歌人) V 2 6 9 4

鳥楽(ちょうらく) → 棊(たすけ・平山/土田、藩士/地誌) P 2 6 0 4

長楽庵(ちょうらくあん;号) → 順承(ゆきつぐ・津軽つがる、藩主/歌・俳人) G 4 6 7 1

長楽門院民部卿(ちょうらくいんのみんぶきょう) → 少将内侍(しょうしょうのななし・後醍醐院) T 2 2 4 8

長楽寺中将(ちょうらくじちゅうじょう) → 中将(ちゅうじょう・上東門院) G 2 8 3 7

鳥落人(ちょうらくじん) → 惓然(いぜん・広瀬、俳人) 1 1 2 8

長利(ちょうり/ながとし・佐久間) → 柳居(りゅうきよ・佐久間、幕臣/俳人) D 4 9 3 3

長吏宮(ちょうりのみや) → 雄仁親王(ゆうにんしんのう、嘉言よしこと、天台修験僧) D 4 6 5 3

2828 長流(長竜ちょうりゅう・下河辺しもこうべ;母方の姓/初姓;小崎)1625-8662 大和の生、  
 大和小泉藩に出仕/歌学:1647木下長嘯子門、藩を致仕;歌を業とす、1651大阪住、  
 連歌:西山宗因門、1661-68頃三条西家に出仕;同家蔵の万葉集を書写注釈;契沖が継承、  
 三条西家致仕後三都を往来;契沖と親交、地下歌人集を編纂し歌壇に貢献、  
 「万葉集管見」「万葉集鈔」「枕詞燭明抄」「万葉集長歌」「万葉集名寄」著、  
 1670「林葉累塵集」編、「和歌唱和集」「僻考集」「晩花和文集」「萍水和歌集」「続歌林良材集」、  
 「脱葉集」「歌仙抄」著、1681(延宝9/55歳)自撰歌集「晩花集」、外著多数、  
 [小山田をやまだに冬の夕日のさし柳やなぎ枯れてみじかき影ぞのこれる]、  
 (晩花集;冬歌292/寒樹)、

[長流(;号)の名/通称/法号]名;共平/具平ともい/近平、通称;彦六、法号;吟叟居士

K2809 調柳(ちょうりゅう・種田たねだ、別号;茶瓢軒調泉)?-? 江前期;江戸の俳人・調和門、  
 1678芭蕉判「十八番発句合」参(編?)、1683調和「詐諧題林一句」17句入、90不ト「続の原」3句入  
 1692不角「千代見草」入、[離れ馬きのふ麦野の暴風はやて哉](続の原;28)  
 [這へば立て立てば走れと親ごゝろ](千代見草/前句;障子に穴を明けるいたづら)

(子供のいたずらを叱りながら走らせる親心/この句は諺になる最初頃のもの)

参照 → 正任(まさとう・井上/河州公、はへばたての歌) L 4 0 2 1

M2833 朝隆(ちようりゅう・川平かびら、名;得庸、本姓;向) 1818-7053 琉球首里の朝臣、  
通称;川平親雲上ペーケー

朝隆(ちようりゅう・藤原) → 朝隆(あさたか・藤原/葉室、廷臣/記録) 1 0 9 9

朝竜(ちようりゅう・片桐) → 朝竜(ともたつ・片桐かたぎり、藩士/奉行) P 3 1 7 1

長流(ちようりゅう) → 逸人(いつじん・加藤かとう、商家/俳人) B 1 1 5 1

長竜(ちようりゅう・葛西) → 鵲巢(じゃくそう・吉岡/葛西、医者/俳人) W 2 1 0 5

長竜(ちようりゅう・魚住/大石) → 眞麿(まさまる・大石/魚住、藩士/史家) H 4 0 3 2

頂笠(ちようりゅう・辻) → 含章(もちあき・辻つじ、歌人) K 4 4 5 3

釣龍翁(ちようりゅうおう) → 巖足(いざたり・和田、藩士/歌人) 1 1 2 3

長流篙翁(ちようりゅうこうおう) → 蕉雨(しやうう/蕉雨斎・人見、藩士/詩文) G 2 2 9 3

K2810 聴流斎(ちようりゅうさい) ? - ? 京の雑俳宗匠;1741「都どり」編

K2811 長良(ちようりょう) ? - ? 平安期西大寺三綱の1(外は証瓊・勝伝)、  
780「西大寺資財流記帳しざいるきちよう」(西大寺資材帳)三綱の共著

M2854 朝良(ちようりょう・護得久ごえく、唐名;向文郁、朝置ちようち2男) 1859-9638 琉球首里の廷臣;  
朝常(1850-1910)の弟、詩人;宜湾ざわ朝保門、  
[朝良(;名)の通称] 按司

朝良(ちようりょう・吉村) → 朝良(ともよし・吉村よしむら、藩士) Q 3 1 9 2

朝綾(朝凌ちようりょう・橘) → 広相(ひろみ・橘たちばな/薄、廷臣/詩人) H 3 7 1 6

長亮(ちようりょう・山下) → 幸内(広内こうない・山下、兵学者) F 1 9 3 3

M2893 超倫(ちようりん;字・法諱;僧遵、号;虎溪/帛溪こけい) 1727-9266 安藝豊田郡小谷村庄屋渡辺家の生、  
仏学;和泉の僧樸門/詩文修学、播磨の真宗本願寺派真浄寺の智暹門、長崎遊学、帰郷;  
安藝豊田郡入野の順教寺住、京の宏山寺に入門/獅絃・片雲を慕い安藝竹原の照蓮寺住、  
詩・書・酒の三昧生活、頼春風・菅茶山と交流、のち石見浜田の金蔵寺住;以後帰郷?  
竹原宝泉寺に詩軸(七夕の書)・書碑[無門関]などあり

超倫の詩、

[登引接山大悲閣 引接山大悲閣いんせつざん・だいひかく(普明閣)に登る  
初地躋攀高閣前 初地 躋攀さいきよして高閣の前  
瑞烟深处礼金仙 瑞烟 深くす処 礼金仙れいきんせん  
優曇花発雙林密 優曇花うどんげ雙に発ひらき林 密  
甘露雲懸諸窟連 甘露の雲 諸窟に懸りて連なる  
威力加人空有想 威力 人を加え 空に想い有り  
毫光破闇照無辺 毫光 闇を破りて無辺を照らす  
接山元自稀塵事 接山の元はじめ自ら塵事を稀うすくし  
迷鳥時来近法筵 迷鳥 時に来たる法筵の近く]

L2899 長隣(ちようりん/ながちか・有賀あるが、長基ちようき男) 1818-190689 大坂の歌学者;父門、歌道有賀家7代目、  
阿波徳島藩士、東京住;家風を継承/門人多数、柿本人麻呂を尊敬、長雄ながおの父、  
[長隣(;名)の号] 情新斎/思継斎

K2813 朝鄰(ちようりん・川北かわきた、貢男) 1840-191980歳 江戸の数学者・和算;1864内田五観門、  
のち1870静岡藩学校で洋算修学、学校教官、数学協会を設立;「数学協会雑誌」発刊、  
1862「続神壁法算法附録解義」64「算法浅述」編/「算法助術解義」編、「数学起源」外著多数、  
[朝鄰(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;宗太郎、字;有頂、通称;弥太郎、号;立亭/立算堂、  
法号;雪相院

長隣(ちようりん・井上) → 長隣(ながちか・井上いのうえ、国学) L 3 2 0 5

超倫庵(ちようりんあん) → 常照(じょうしやう;法諱、真宗本願寺派僧) J 2 2 8 8

長令(ちようれい・近藤) → 長令(ながのり・近藤、藩士/軍学者) F 3 2 3 0

長齡(ちようれい・宇田川) → 長齡(ながよ・宇田川うだがわ、商家/歌人) L 3 2 2 6

長嶺(ちようれい・遠山) → 長嶺(長峰ながみね・遠山とおやま、幕臣/歌) K 3 2 5 8

超蓮社(ちようれんしゃ・倫誉在阿) → 念海(ねんかい;法諱、浄土僧) 3 4 6 1

長蓮社(ちょうれんしゃ・観音如空浄業)→ 祐崇(ゆうそう;法諱、浄土僧) D 4 6 3 1  
 肇蓮社源誉(ちょうれんしゃげんよ)→ 随流(ずいりゅう・ずいる;法諱・一法、浄土僧) F 2 3 1 4  
 怙蓮社好誉鶴阿(ちょうれんしゃこうよくあ)→ 宝洲(ほうしゅう;法諱、浄土僧) B 3 9 3 5  
 澄蓮社忍誉(ちょうれんしゃにんよ)→ 信培(信倍しんばい;法諱・湛慧、浄土僧) P 2 2 6 1  
 澄蓮社明誉(ちょうれんしゃめいよ)→ 古礪(こかん;法諱、浄土僧/絵師) L 1 9 9 5  
 朝露庵(ちょうるあん) → 宗古(そうこ・片桐かたぎり、幕臣/茶) H 2 5 2 3  
 蝶老(ちょうろう・谷) → 文晁(ぶんちやう・谷たに、絵師) G 3 8 2 4  
 鳥路観(ちょうろかん) → 海音(かいおん・紀、浄瑠璃作者、狂歌) 1 5 0 1  
 長禄(ちょうろく) → 吏全(りぜん、俳人) B 4 9 4 0  
 長録(ちょうろく・中島) → 宜門(よしかど・中島/幸田、藩士/歌人) C 4 7 9 6  
 長六郎(ちょうろくろう・黒沢)→ 定幸(さだゆき・黒沢/諏訪部、幕臣) K 2 0 1 0  
 朝露斎(ちょうるさい) → 紹宅(しょうたく・木山/源、城主/連歌作者) K 2 2 7 4  
 鳥路斎(ちょうるさい、鳥路叟)→ 文十(ぶんじゅう・高橋/宇陀野、俳人) F 3 8 7 2  
 朝露子(ちょうるし) → 先啓(せんけい;法諱、真宗大谷派僧) F 2 4 2 4  
 長路人(ちょうろじん) → 釣壺(ちやうこ・吉弘、荷銘庵、医/俳人) I 2 8 1 6

- K2814 **長和**(ちょうわ) ? - ? 江前期江戸の俳人;1691「猿蓑」入、  
 [歳の夜や曾祖父ひぢちを聞けば小手枕](猿蓑;二/大晦日の夜の家人の宴会で)
- 2829 **調和**(ちょうわ・岸本きしもと/木村きむら、名;友正)1638-1715 78歳 岩代の俳人;寛文1661-73頃江戸へ、  
 江戸呉服町住/のち芝に住、俳諧;貞門の萩野安静門/未得と交流、  
 1668頃宗匠として勢力拡大:1679「富士石」(第一撰集)編、  
 1678不卜「江戸広小路」入、1680「時鳥十二歌仙」「金剛砂」編、1682如扶「三ヶ津さんかのつ」入、  
 元禄期後は蕉門派に押され江戸の地盤喪失、1687頃より前句付点者に転向;  
 1697「夕紅ゆうぐれない」98「洗朱あらいしゅ」編/1700「風月の童」、1703「相鎚」編、  
 遺著「是迄草」(和葉編)、追善集「俳林不改楽」(敲柳編)「続俳林不改楽」、  
 後妻;妙鑑尼・養子;和英も俳人、風和・和葉の師、  
 [春の日や達磨大師も尻もだえ](富士石)、  
 [調和(;号)の通称/別号]通称;猪右衛門、別号;一瓢軒/壺瓢軒こひょうけん/土斎、法号;調和院
- 調和(2世ちょうわ) → 和推(わすい・堀尾ほりお、俳人) 5 3 2 9  
 長和(ちょうわ/ながかず・稲垣)→ 東山(とうざん・稲垣/佐久間、儒者) E 3 1 6 5  
 長和(ちょうわ・日根野) → 対山(たいざん・日根野ひねの/中原、絵師) K 2 6 1 0  
 貯雲斎(ちようんさい) → 宗汲(そうきゅう・速水はやみ、茶人) G 2 5 7 8  
 貯雲楼(ちようんろう) → 信平(しんぺい・横山/中尾、絵師/養蚕) P 2 2 7 7
- K2815 **樗影**(ちやうえい;号・針生はりお、別号;吸古庵)?-? 江戸末期仙台材木町の俳人、  
 1853「句仙」/53「俳諧三十六句仙」編  
 猪右衛門(ちやえもん→いえもん)→ 猪右衛門(いえもん・藤田、藩士/兵法) F 1 1 0 3
- K2816 **楮園**(ちやえん・菅野かんの、名;陳良のぶよし、陳命男)1769-1819 51 陸前仙台藩士;1776(8歳)追儼使  
 藩主の兄小姓、伊達重村の近習、書家;父門/井川鳴門門、  
 幕府右筆屋代氏と討論;有名となる、門弟多数、  
 「書法問答筆記」、「晋唐用筆録」編、「淑徳斎書話」、「菅野先生法帖」著、  
 [楮園(;号)の通称/別号]通称;勇吾/佑筈ゆうご、別号;志宣斎/宝唐窟
- K2817 **樗園**(ちやえん・杉本すぎもと、名;良、宮村永順受正男)1770-1836 67 杉本良猷の養嗣/幕府侍医:  
 1797西城侍医、法眼/1808本城侍医/15法印、代々外科だが一代本科の許可、懿の父、  
 「樗園詩稿」「樗園偶筆」「佩韋堂集」「医方選粹」「西征日記」「読傷寒論」「佩葦堂集」外著多数、  
 [樗園(;号)の字/通称/別号]字;子敬、通称;幸太郎/忠恩/仲温、別号;宗春院
- K2818 **樗園**(ちやえん・横田よた、名;要久としひさ/玖、平太夫久尚男)1806-88 83 代々近江大溝藩士、  
 儒詩文:江戸の佐藤一斎門/1826大溝藩謫居、48藩校修身堂対接/53軍事係/54修身堂教官、  
 頼支峯・三樹三郎・中村栗園・近藤正斎と交流、「八淵紀行」「東海紀行」「勢和遊吟せわゆうぎん」著、  
 「播撰遊草」著、  
 [樗園(;号)の字/通称/別号]字;公恭、通称;秋蔵、別号;笙嶽しやうとう/笙島[鳴]/竹嶼ちくしょ

- K2819 **樗園**(ちよえん・長山ながやま、名;貫)?-? 幕臣/江戸下谷住、海防論、西洋の砲術書等翻訳、  
1849「西洋小史」「清英戦記」、63刊「銃戦紀談」、「寧波詩抄」編、「清暎合戦記略」「海防私議」著、  
[樗園(;)の字/通称/別号]字;子一、通称;孝之助、別号;小陶しょうとう  
 筇園(ちよえん・牛尾) → 養庵(ようあん・牛尾うしお、医者/国学者) 4 7 5 9  
 樗園(ちよえん・若林) → 友之(ともゆき・若林、砲術家) Q 3 1 8 3  
 樗園(ちよえん・山田) → 清壽(きよひさ・山田やまだ、医者/国学者) V 1 6 5 5  
 樗翁(ちよおう・山本) → 基庸(もとつね・山本やまもと、藩士/書家) D 4 4 1 7  
 千代垣内(ちよかいと) → 清蔭(きよかげ・杉本/池田屋、商家/歌人) O 1 6 6 8  
 千世蔭山人(ちよかげさんじん) → 小塩(おしお・盛田もりた、戯作者) D 1 4 1 0
- K2820 **楮冠**(ちよかん) ? - ? 大阪俳人;1777江涯こうがい「仮日記」入、  
[桃の華魚うおの含みて引返す](仮日記;54/鯉が桃花を食べて竜門を登る伝説の逆)  
 千代樹(ちよき・桐林/衣川) → 広滋(ひろしげ・衣川/桐林、藩士/国学) G 3 7 0 0
- K2821 **千代菊**(ちよぎく) ? - ? 江戸吉原伊勢楼遊女、茶番:愛染連、1852「茶番頓智論」参  
 猪牙散人(ちよきさんじん) → 三馬(さんば・式亭しきてい、戯作者) 2 0 5 5
- H2850 **千世君**(ちよきみ:姓不詳) ? - ? 平安後期の人/多武峯に登り僧侶たちと歌合、  
1071-82頃「多武峯往生院千世君ちよきみ歌合」((判者;紀伊入道素意[藤原重経]))、  
[月影にみがける玉とみえつるは萩の上葉うばの露にぞありける]、  
(千世君歌合;三番左5/叢露為玉)  
 樗牛(ちよぎゅう・滝) → 牛郷(うしさと・滝たき/柳田、藩士・歌人) E 1 2 7 7
- K2822 **直**(ちよく:名・倉内くらうち) ? - ? 江後期柚木流眼科医:加門隆徳門、  
「柚木流眼科秘録」著  
 直(ちよく・高井) → 中斎(ちゅうさい・高井たかい、儒者/教育) G 2 8 0 6  
 直(ちよく・西水すがい・原田) → 東岳(とうがく・原田、藩士/儒者) C 3 1 1 7  
 直(ちよく・唐坊) → 長秋(ながあき・唐坊とうぼう、藩士/儒者) D 3 2 1 5  
 直(ちよく・清水) → 卯三郎(うさぶろう・清水、洋学者) C 1 2 2 5  
 直(ちよく・権藤) → 延陵(えんりょう・権藤ごんどう、医者) F 1 3 4 9  
 直(ちよく・井上) → 貫流(かんりゅう・井上いづえ、砲術家) G 1 5 6 9  
 直(ちよく・喜多村) → 槐園(かいえん・喜多村きたむら、幕府医官) I 1 5 4 1  
 直(ちよく・志村) → 東嶼(とうしよ・志村むら、儒者/詩文) F 3 1 2 0  
 直(ちよく・西村) → 古愚(こご・西村にしむら、商家/詩人) M 1 9 1 5  
 直(ちよく・成田) → 頼直(よりなお・成田なりた、藩士/藩史編) J 4 7 2 6  
 直(ちよく・石川/妻木) → 陸叟(りくそう・妻木/石川、藩医/本草) 4 9 7 8  
 直(ちよく・中井) → 藍江(らんこう・中井なかい、絵師) C 4 8 0 4  
 直(ちよく・不破/新井) → 輔徳(すけのり・新井/不破、藩士/儒者) G 2 3 9 5  
 直(ちよく・綾部/麻田) → 立達(りゅうたつ・麻田あさだ/綾部、天文暦学者) F 4 9 1 5  
 直(ちよく・渡辺) → 質(ただす・渡辺わたなべ、医者/漢学) P 2 6 6 2  
 直(ちよく・渡辺) → 平吉(へいきち・渡辺わたなべ、藩士) 2 7 1 8  
 直(ちよく・竹内) → 義方(よしかた・竹内/源、絵師/故実家) C 4 7 7 0  
 直(ちよく・塚村) → 直(ただし・塚村つかむら、里正/歌人) W 2 6 5 9  
 直(ちよく・川目) → 直(ただし・川目かわめ、漢学者) P 2 6 5 5  
 直(ちよく・権藤) → 松門(しょうもん・権藤ごんどう、藩医者) B 2 2 6 9  
 直(ちよく・山本) → 直(ただし・山本やまもと、国学者/歌人) 2 7 2 2  
 直(ちよく・佐藤) → 直翁(ちよおう・佐藤さとう、藩校教授/儒・歌) M 2 8 5 9  
 直(ちよく・元田) → 直(なおし・元田もただ、儒・国学・教育者) P 3 2 0 7  
 直(ちよく→ただし・松田) → 聴松(ちようしゅう・松田まつだ、俳人) N 2 8 5 4
- 02804 **直阿**(ちよくあ;法諱) ? - ? 南北期;時宗僧、歌人、  
1387(至徳4)浄阿五代奉納[隠岐高田明神百首和歌]出詠、  
[風ふけばおのがさまごま乱るなり忍ぶが原にまじる刈萱](高田明神歌;41/原刈萱)
- M2897 **直阿**(ちよくあ;法諱) ? - 1826 遠江磐田郡の時宗省光寺住職
- K2823 **直安**(ちよくあん・小野木おのぎ)?- ? 俳人;1664友次「阿波手集」167句入

- 直安(ちよくあん・熊谷) → 直安(なおやす・熊谷くまがい、国学/歌人) M 3 2 0 1  
直安(ちよくあん・戸田) → 直安(なおやす・戸田とだ/藤原、藩老/歌) N 3 2 9 4  
直彝(ちよくい・伊丹) → 直彝(なおつね・伊丹いたみ、藩主/文筆) B 3 2 7 2  
直為(ちよくい・堀) → 直為(なおゆき・堀ほり、藩主/武芸) C 3 2 8 6  
直為(ちよくい・関本) → 巨石(きよせき・関本せきもと、学者/俳人) P 1 6 7 3  
直為(ちよくい・柴田) → 元泰(げんたい・柴田しばた、幕府医官) K 1 8 8 9  
直惟(ちよくい・井伊) → 直惟(なおのぶ・井伊い、藤原、歌人) K 3 2 9 8  
直懿(ちよくい→なおたか・鍋島) → 斉直(なりなお・鍋島なべしま、藩主) K 3 2 3 8  
直一(ちよくいち・山内) → 流済(りゅうさい・山内やまうち、武芸者/日蓮僧) D 4 9 9 9  
直一(ちよくいち・熊谷) → 直一(なおかず・熊谷くまがい、国学/歌人) L 3 2 9 2  
直寅(ちよくいん・大道寺) → 玄蕃(げんぱ・大道寺だいでうじ、藩士/俳人) M 1 8 1 3  
直允(ちよくいん/なおみつ・山国/田丸) → 稲之衛門(いなのおもん・田丸、天狗党) I 1 1 0 6  
直員(ちよくいん・世継) → 直員(直負なおかず・世継よつぎ、商家/絵師) P 3 2 2 4  
直蔭(ちよくいん・加藤) → 直蔭(なおかげ・加藤かとう、国学者) L 3 2 5 7  
直胤(ちよくいん・横川) → 直胤(ただたね・横川よこかわ、和算家/史家) P 2 6 7 9  
直胤(ちよくいん・原田) → 直胤(なおたね・原田はらだ、国学者) O 3 2 4 5  
K2824 直雨(ちよくう・梅園うめぞの、名;敏行/通称;立介)?-1848 代々広島藩儒、天文暦数;内田五観門、  
自宅天文測量;門弟指導、「梅氏綴術則」著  
直永(ちよくえい・牧原) → 直永(なおなが・牧原まきはら、藩士/儒/兵学) O 3 2 7 6  
直英(ちよくえい・井伊) → 直幸(直英なおひで・井伊い、藩主/大老) K 3 2 9 3  
直益(ちよくえき・鍋木) → 直益(なおます・鍋木かぶらき、藩士/砲術/国学) L 3 2 6 2  
直円(ちよくえん・安島) → 直円(なおのぶ・安島あじま、藩士/和算家) C 3 2 0 1  
K2825 直翁(ちよくおう;道号、法諱;宗謙そうけん/禅蔦ぜんぱく) 1655-1705<sup>51</sup> 磐城三春城主秋田氏の一族?、  
秋田の臨濟僧;湊福寺別峰門/1682応供寺鐘山より印可/応供寺5世、家老梅津忠国の帰依、  
のち京の妙心寺に住、「応供寺四代歴代住職伝記」著  
M2859 直翁(ちよくおう・佐藤さとう、) 1820-1911長寿<sup>92</sup> 陸奥仙台藩士;藩校養賢堂教授、  
儒学・歌;保田光則・竹中玄脩門、国学・歌;斎藤永配ながとも、  
[直翁(;名)の別名/通称/号]別名;専愛/直、通称;順之介/直記、号;竹廼舎  
直翁(ちよくおう/じきおう;道号) → 智侃(ちかん;法諱・直翁;道号、臨濟僧) C 2 8 3 4  
直翁(ちよくおう→じきおう;道号) → 直翁(じきおう;道号・梅指;法諱、曹洞僧) P 2 1 9 9  
直翁(ちよくおう・橋本) → 敬簡(ゆきやす・橋本はしもと、幕臣/随筆) F 4 6 8 9  
直応(ちよくおう・吉見) → 定右衛門(さだえもん・吉見よしみ、幕臣) H 2 0 7 7  
直温(ちよくおん・今枝) → 直温(なおほる・今枝、藩士/儒) C 3 2 1 1  
直温(ちよくおん・山下) → 直温(なおほる・山下、藩士/儒) C 3 2 1 5  
直温(ちよくおん・山田) → 直温(なおほる・山田、儒者) C 3 2 1 6  
直温(ちよくおん・深見) → 直温(なおほる・深見ふかみ、商家/国学) O 3 2 5 6  
直温(ちよくおん・沢田) → 直温(なおほる・沢田、藩士/医/航海術) C 3 2 1 7  
直温(ちよくおん・村田) → 了阿(りょうあ・村田むらた、和漢学/書) G 4 9 0 1  
直温(ちよくおん・竹垣) → 直温(なおひろ・竹垣、幕臣/代官) C 3 2 2 9  
直温(ちよくおん・佐田) → 竹水(ちくすい・佐田、儒者/史学) D 2 8 2 6  
直温(ちよくおん・一色) → 直温(なおあつ・一色、幕臣) 3 2 6 6  
直温(ちよくおん・丸山) → 直温(なおあつ・丸山、医者) 3 2 6 7  
直温(ちよくおん・早川) → 直温(なおほる・早川はやかわ、州吏/歌人) O 3 2 4 1  
直温(ちよくおん・吉永) → 直雄(なおたけ・吉永よしなが、神職/歌人) B 3 2 5 3  
直温(ちよくおん・野村) → 篁園(こうえん・野村のむら、儒者/詩人) 1 9 7 8  
直温(ちよくおん・伊丹) → 直彝(なおつね・伊丹いたみ、藩主/文筆) B 3 2 7 2  
直温(ちよくおん・大道寺) → 玄蕃(げんぱ・大道寺だいでうじ、藩士/俳人) M 1 8 1 3  
直温(ちよくおん・大橋/富川) → 大塊(たいかい・富川/大橋、大庄屋/詩文) J 2 6 4 3  
直温(ちよくおん・柏村/波多野) → 眞臣(まさおみ・広沢/柏村/波多野、藩士/日記) E 2 0 8 6  
植家(ちよくか・近衛) → 植家(たねいえ・近衛、歌・連歌) 2 6 4 1

直可(ちよくか・柴田)	→	紫秋(ししゅう・柴田しばた、儒者/兵法家)	D 2 1 8 2
直遐(ちよくか・熊谷)	→	直遐(なおはる・熊谷くまがい、郷土史家)	C 3 2 1 3
直海(ちよくかい;法諱)	→	直海(じきかい;法諱、叡山天台僧)	Q 2 1 0 0
直格(ちよくかく・堀)	→	直格(なおただ・堀、藩主、文芸)	B 3 2 5 7
直幹(ちよくかん・橋)	→	直幹(なおもと/ただもと・橋、廷臣/詩歌)	C 3 2 7 0
直幹(ちよくかん・巨勢/中井)	→	卓軒(たくけん・巨勢こせ/中井/巨、儒者)	E 2 6 2 0
直咸(ちよくかん・富奥)	→	直咸(なおさね・富奥とみおく、神職/国学)	O 3 2 0 0
直貫(ちよくかん・行徳)	→	玉江(ぎよくこう・行徳ぎょうとく、絵師/篆刻)	O 1 6 9 2
直寛(ちよくかん)すべて	→	直寛(なおひろ)	
直記(ちよくき・武藤)	→	豊洲(ほうしゅう・武藤むとう、医者)	B 3 9 5 0
直記(ちよくき・長山)	→	菱涯(りょうがい・長山ながやま、文筆家)	G 4 9 8 4
直記(ちよくき・東条)	→	直記(なおのり・東条とうじょう、神職)	N 3 2 9 6
直記(ちよくき・松本)	→	直記(なおのり・松本まつもと、神職)	O 3 2 9 2
直記(ちよくき・矢部)	→	直記(なおのり・矢部やべ、藩士/国学/歌)	P 3 2 1 4
直記(ちよくき・渡辺)	→	直記(なおのり・渡辺わたなべ、藩士/歌人)	P 3 2 3 6
直基(ちよくき・平)	→	直基(なおもと・平たいら、武家/歌人)	C 3 2 7 1
直貴(ちよくき→なおたか)	→	斉貴(なりたけ/なりたか・松平、藩主/鷹狩)	H 3 2 5 1
直僖(ちよくき・後藤)	→	直満(なおみつ・後藤ごとう、商家/国学/歌)	M 3 2 1 4
直熙(ちよくき→なおひろ・鍋島)	→	治茂(はるしげ・鍋島、藩主/藩校創設)	G 3 6 4 1
直義(ちよくぎ・足利)	→	直義(ただよし・足利、武将/歌人)	G 2 6 0 4
直義(ちよくぎ)	→	直義(なおよし、神職/連歌)	J 3 2 9 0
直義(ちよくぎ/なおよし・近藤)	→	謙山(兼山けんざん・近藤こんどう、医者)	J 1 8 2 5
直義(ちよくぎ・堀)	→	直義(なおよし・堀ほり、歌人)	K 3 2 3 0
直久(ちよくきゅう/なおひさ・坂本)	→	浩然(こうねん・坂本、医/本草/絵師)	K 1 9 9 0
直求(ちよくきゅう・佐々木)	→	泉明(せんめい・佐々木、商家/俳人)	N 2 4 7 7
直求(ちよくきゅう・海賀)	→	宮門(みやと・海賀かいが、武術/勤王家)	G 4 1 0 0
直恭(ちよくきゅう・熊谷)	→	直恭(なおやす・熊谷、商家/救貧活動)	C 3 2 8 1
直恭(ちよくきゅう・毛馬内)	→	繁門(しげかど・森集亭しんしゅうてい、藩士/狂歌)	Q 2 1 8 5
直恭(ちよくきゅう・岩橋)	→	広持(ひろもち・岩橋いわはし/大江、神職/国学)	I 3 7 3 8
直喬(ちよくきゅう・鍋島)	→	直愈(なおます・鍋島なべしま、藩主/文筆)	C 3 2 5 0
直郷(ちよくきゅう・池田)	→	霧溪(むけい・池田/村岡、医者)	4 2 4 7
直郷(ちよくきゅう・三宅)	→	直郷(なおさと・三宅みやけ、大庄屋/国学)	O 3 2 9 6
直矩(ちよくく・神谷)	→	南澗(なんかん・神谷かみや、儒者)	I 3 2 8 0
直訓(ちよくくん・永田)	→	直訓(なおふみ・永田ながた/森、国学/歌)	O 3 2 1 4
直敬(ちよくけい・永井)	→	直敬(なおひろ・永井、藩主)	C 3 2 2 8
直敬(ちよくけい・一柳)	→	直敬(なおひろ・一柳いちやなぎ、幕臣/歌人)	K 3 2 5 5
直敬(ちよくけい・多胡)	→	直敬(なおたか・多胡たこ/田中、藩家老)	N 3 2 6 8
直啓(ちよくけい・野尻)	→	直啓(なおひろ・野尻のじり、藩士/国学者)	O 3 2 2 5
直景(ちよくけい・溝口)	→	直景(なおかげ・溝口みぞぐち/源、旗本/歌)	K 3 2 3 6
直継(ちよくけい)	→	直継(なおつぐ、連歌)	B 3 2 6 7
直馨(ちよくけい・堀尾)	→	直馨(なおか・堀尾ほりお/竹村、歌人)	O 3 2 6 8
直卿(ちよくけい・大高)	→	竹操(ちくそう・大高おおたか、藩家老/詩)	D 2 8 3 9
直卿(ちよくけい・牧野)	→	黙庵(もくあん・牧野/臼杵、儒者)	4 4 6 5
直卿(ちよくけい・河合)	→	専堯(もろたか・河合/仙石、藩士/教育)	H 4 4 3 4
直潔(ちよくけつ・西郷)	→	直潔(なおきよ・西郷さいごう、歌人)	K 3 2 6 3
直兼(ちよくけん;法諱)	→	直兼(じきけん;法諱・不動院、天台僧)	Q 2 1 0 2
直賢(ちよくけん・千々和)	→	直賢(なおかた・千々和ちぢわ、神職/国学)	N 3 2 8 4
直賢(ちよくけん・熊谷)	→	直賢(なおかた・熊谷くまがい、国学者)	L 3 2 9 4
直賢(ちよくけん・堀尾)	→	直賢(なおかた・堀尾ほりお/倉科、国学/歌)	M 3 2 1 6
直賢(ちよくけん・新庄)	→	直賢(なおかた・新庄しんじょう、幕臣/国学)	N 3 2 4 0

直憲(ちよくけん・井伊) → 直憲(なおのり・井伊い、藩主/歌人) K 3 2 9 9  
 直玄(ちよくげん・前田/今枝) → 直玄(なおはる・前田、藩士/書翰) C 3 2 1 0  
 直玄(ちよくげん・長野) → 野虹(やこう・長野ながの、庄屋/俳人) 4 5 5 6  
 直眩(ちよくげん・中村) → 直眩(なおあき・中村なかむら/山梨、医者/歌) O 3 2 1 0  
 直言(ちよくげん・落合) → 直言(なおのぶ・落合おちあい、国学/政変参画) L 3 2 5 6  
 直彦(ちよくげん・松木) → 直彦(なおひこ・松木まつき、神職) O 3 2 8 3  
 植元(ちよくげん・朽木) → 植元(たねもと・朽木くつき、藩主/国学) W 2 6 8 8

K2826 直瑚(ちよくこ・伊部いべ) ? - ? 江後期和算家:小泉則之門、  
 小林忠良の神明社「算題三条」をめぐる竹内武信と論争、1827「竹論伊評」著

直古(ちよくこ・柴崎) → 直古(なおひさ・柴崎、商家/国学/狂歌) C 3 2 2 0  
 直江(ちよくこう・伊藤) → 直江(なおえ・伊藤いとう、神職/教育) L 3 2 0 8  
 直恒(ちよくこう・新庄) → 直恒(なおつね・新庄しんじょう、幕臣/国学) N 3 2 4 3  
 直恒(ちよくこう・今枝) → 直恒(なおつね・今枝いまえだ/日置、藩家老) L 3 2 2 0  
 直孝(ちよくこう・新庄) → 直孝(なおたか・新庄しんじょう、旗本/歌人) K 3 2 5 7  
 直孝(ちよくこう・定村) → 直孝(なおたか・定村さだむら/渡辺、神職/歌) K 3 2 9 1  
 直孝(ちよくこう・北島) → 直孝(なおのり・北島きたじま、出雲国造) L 3 2 8 8  
 直孝(ちよくこう・林) → 直孝(なおたか・林はやし/伊丹、幕臣/国学) O 3 2 4 3  
 直候(ちよくこう・溝口) → 直候(なおよし・溝口、藩主/文筆) C 3 2 9 6  
 直候(ちよくこう・松平) → 直候(なおよし・松平、藩主/歌) D 3 2 0 0  
 直香(ちよくこう・橋本) → 直香(ただか/なおか・橋本、国学/歌人) E 2 6 8 7  
 直香(ちよくこう・二瓶) → 直香(なおか・二瓶にい、国学/歌) O 3 2 2 0  
 直洪(ちよくこう・多田) → 勘兵衛(かんべえ・多田、書肆) E 1 5 1 6  
 直好(ちよくこう・味池) → 修居(しゅうきよ・味池あじち、儒者) H 2 1 0 7  
 直好(ちよくこう・吉井) → 直好(なおよし・吉井よし、藩士/礼法家) P 3 2 2 8  
 直好(ちよくこう・磯谷) → 直好(なおよし・磯谷いそがや、官人/国学) L 3 2 1 8  
 直好(ちよくこう・鶴田) → 直好(なおよし・鶴田つるた/藤原、藩士/国学) N 3 2 9 2  
 直幸(ちよくこう・井伊) → 直幸(直英なおひで・井伊い、藩主/大老) K 3 2 9 3  
 直弘(ちよくこう)すべて → 直弘(なおひろ)  
 直鈎(ちよくこう;号) → 文秀(ぶんしゅう;法諱・華頂、黄檗僧) F 3 8 6 9  
 直衡(ちよくこう・三善) → 直衡(なおひら・三善、廷臣/歌人) J 3 2 9 4  
 直光(ちよくこう・間) → 直光(なおみつ・間はざま、藩士/和学) O 3 2 3 3  
 直光(ちよくこう/なおみつ・浅香) → 青洲(せいしゅう・浅香、幕臣/本草/歌) I 2 4 6 7  
 直光(ちよくこう/なおみつ・鈴木) → 眞光(まみつ・直光・鈴木すずき/源、幕臣/歌) L 4 0 6 6  
 直光(ちよくこう・清家) → 直光(なおみつ・清家せいけ、神職/歌人) N 3 2 5 5  
 直行(ちよくこう/なおゆき・足代) → 直行(なおゆき・足代あじろ、) K 3 2 0 6  
 直行(ちよくこう/なおゆき・須田/長谷川) → 素丸(そまる・長谷川、馬光、幕臣/俳人) 2 5 2 9  
 直恒(ちよくこう・金谷) → 直恒(なおつね・金谷かなや、絵師/歌人) K 3 2 5 2  
 直恒(ちよくこう・松平) → 直恒(なおつね・松平まつだいら、藩主/国学) O 3 2 8 9  
 直興(ちよくこう) → 直興(なおおき)  
 直興(ちよくこう→なおおき・松平) → 四山(しざん・松平まつだいら、藩主/俳人) D 2 1 7 9  
 直克(ちよくこく・松平) → 直克(なおかつ・松平まつだいら/有馬、藩主/国学) O 3 2 8 8  
 直磋(ちよくさ・玉置) → 直磋(なおあき・玉置たまおき、藩士/国学) N 3 2 8 0

K2827 直斎(ちよくさい・中村なかむら、名;政方、厚斎男) 1757-1839<sup>83</sup> 尾張藩士/儒者;父門、書物奉行、  
 1793「尾張領郡邑巡覧記」、「尾張国政便覧」「詩経筆記」編、「尾張藩江戸詰勘定方須知」著、  
 [直斎(;号)の通称/法号]通称;百吉/勘右衛門、法号;安祥院、習斎の甥、得斎の父

直斎(ちよくさい・藤堂) → 高聴(たかより・藤堂とうどう、藩主/救荒策) N 2 6 8 3  
 直三(ちよくさん/なおぞう・宮永) → 菽園(しゆくえん・宮永みやなが、儒者) Y 2 1 6 3  
 直山(ちよくざん・伊達) → 植宗(たねむね・伊達だて、武将/歌/連歌) 2 6 4 6  
 直山人(ちよくざんじん・唐沢) → 徳卿(のりあき・唐沢からさわ、国学/僧) H 3 5 9 7  
 勅子(ちよくし・毛利) → 勅子(ときこ・毛利もうり、家老室/歌人) W 3 1 6 9

直子(ちよくし・藤原)	→	直子(なおいこ・藤原、歌人)	3 2 7 0
直子(ちよくし)多くは	→	直子(なおこ)	
直子(ちよくし・大久保)	→	直子(ただこ・大久保/萩原、歌人)	W 2 6 1 1
直至(ちよくし・赤井)	→	東海(とうかい・赤井/芦田、藩士/儒者)	B 3 1 9 3
直之(ちよくし・平山)	→	直之(なおゆき・平山、俳人/狂歌)	C 3 2 8 2
直之(ちよくし/なおゆき・鳥飼/大塚)	→	毅斎(きさい・大塚、藩士/儒者)	I 1 6 5 4
直之(ちよくし・古久保)	→	直之(なおゆき・古久保ふるくぼ、国学者)	O 3 2 6 3
直之(ちよくし・高島)	→	直之(なおゆき・高島たかしま/金須、和漢学)	N 3 2 7 3
直指(ちよくし;道号)	→	直指(じきし;道号・玄端;法諱、曹洞僧)	Q 2 1 0 6
直旨(ちよくし・国枝)	→	直旨(なおむね・国枝くにえだ、武士/歌人)	P 3 2 7 0
直枝(ちよくし)すべて	→	直枝(なおえ)	
直治(ちよくじ/なおはる・松村)	→	景文(けいぶん・松村まつむら/呉、絵師)	1 8 8 9
直治(ちよくじ・熊谷)	→	直治(なおはる・熊谷くまがい、藩士/国学/歌)	L 3 2 9 8
直治(ちよくじ・堀尾)	→	直治(なおはる・堀尾ほりお、歌人)	O 3 2 6 9
直治(ちよくじ・福沢)	→	直治(なおはる・福沢ふくざわ、国学者/歌)	O 3 2 5 7
K2828 直識(ちよくしき・阿嘉あか)	? - ?	琉球の人、1778「阿嘉直識遺言書」著	
直識(ちよくしき)	→	直識(なおさと、連歌)	B 3 2 2 2
直種(ちよくしゆ・川江)	→	直種(なおたね・川江かわえ/定村、神職/歌)	L 3 2 6 9
直樹(ちよくじゆ)すべて	→	直樹(なおき)	
直秀(ちよくしゆう)すべて	→	直秀(なおひで)	
直秋(ちよくしゆう・中堀)	→	直秋(なおあき・中堀なかぼり、藩士/歌人)	O 3 2 0 9
直周(ちよくしゆう・福沢)	→	直周(なおちか・福沢ふくざわ、国学者)	O 3 2 5 8
直重(ちよくじゆう)	→	直重(ただしげ、幽山、俳人)	F 2 6 1 3
直重(ちよくじゆう・喜多島)	→	直重(なおしげ・喜多島きたじま、神職)	L 3 2 8 4
直衆庵(ちよくしゆうあん)	→	玄仲(げんちゆう・里村、連歌)	1 8 2 5
直淑(ちよくしゆく・石寺)	→	直淑(なおとし・石寺いしでら、経師/歌人)	L 3 2 1 5
直春(ちよくしゆん・市浦)	→	南竹(なんちく・市浦いちうら、藩士/儒者)	J 3 2 3 0
直春(ちよくしゆん・松平)	→	直春(なおはる・松平まつだいら、藩主/歌)	K 3 2 2 6
直俊(ちよくしゆん)すべて	→	直俊(なおとし)	
直淳(ちよくじゆん・山口)	→	西園(せいえん・山口やまぐち、儒者)	2 4 7 4
直純(ちよくじゆん・平井)	→	直純(なおずみ・平井ひらい、醸造/歌人)	O 3 2 5 2
直章(ちよくしゆう・大島)	→	直章(なおあき・磯野いその/大島おおしま、歌)	3 2 6 1
直昌(ちよくしゆう・早川)	→	直昌(なおまさ・早川はやかわ、剣客/州吏)	O 3 2 4 2
直紹(ちよくしゆう・世古)	→	直紹(なおつぐ・世古せこ、神職)	B 3 2 6 8
勅勝(ちよくしゆう・安原)	→	千方(ちかた・安原やすはら、和算家)	B 2 8 0 8
K2829 直条(ちよくじゆう・なおえだ)	? - ?	歌人、1739「厳島八景」入	
柏村直条と同一?	→	直条(なおえだ・柏村、神職/連歌/歌)	3 2 7 6
直条(ちよくじゆう・柏村)	→	直条(なおえだ・柏村、神職/連歌/歌)	3 2 7 6
直条(ちよくじゆう・鍋島)	→	直条(なおえだ・鍋島、藩主/歌)	3 2 7 7
直条(ちよくじゆう・木村)	→	直条(なおえだ・木村、藩士/詩)	3 2 7 8
直縄(ちよくじゆう・海妻)	→	直縄(なおつな・海妻かいづま、儒/国/故実)	B 3 2 6 9
直縄(ちよくじゆう・赤井)	→	東海(とうかい・赤井/芦田、藩士/儒者)	B 3 1 9 3
直丞(ちよくじゆう→なおすけ・都賀)	→	大陸(たいりく・都賀つが、医者/戯作)	C 2 6 3 0
直城(ちよくじゆう・小出)	→	直城(なおき・小出こいで/大江、国学者/歌)	M 3 2 0 6
直唱法師(ちよくしゆうほうし)	→	和及(わきゆう・三上みかみ/高村、俳人)	5 3 1 5
直職(ちよくしよく・田丸)	→	直職(なおもと・田丸、幕臣)	C 3 2 7 3
直心(ちよくしん・吉田)	→	長淑(ちようしゆく・吉田/馬場、蘭医)	F 2 8 9 6
直臣(ちようしん・黒神)	→	直臣(なおおみ・黒神くろかみ、神職/和漢学)	M 3 2 0 3
直信(ちようしん・狩野)	→	松栄(しょうえい・狩野かのう、絵師/永徳父)	F 2 2 4 1
直信(ちよくしん・佐々木)	→	志頭磨(志津磨しづま・佐々木、書家)	U 2 1 0 7

- 直信(ちよくしん・千々和) → 直信(なおのぶ・千々和ちぢわ、神職/国学) N 3 2 8 5  
直信(ちよくしん・三善/祝部) → 直信(ただのぶ・三善・祝部、廷臣/歌人) F 2 6 5 5  
直信(ちよくしん・市橋) → 宗源(そうげん・市橋・藤原、武家/領主/連歌) H 2 5 1 3  
直真(ちよくしん・岩沢) → 直真(なおさね・岩沢いわさわ、藩士/歌人) L 3 2 2 3  
直親(ちよくしん・新庄) → 直親(なおちか・新庄しんじょう、幕臣/国学) N 3 2 4 2  
直親(ちよくしん・内原) → 直親(なおちか・内原うちばら、歌人) K 3 2 5 9  
直水(ちよくすい・松川) → 半山(はんざん・松川、絵師) H 3 6 8 2  
直綏(ちよくすい・赤井) → 直綏(なおやす・赤井あかい、幕臣) K 3 2 7 7
- K2830 直成(ちよくせい;号・高岡たかおか)?-? 江前期大阪の俳人;  
1681賀子「山海集」/82春林「俳諧百人一句難波色紙」/91賀子「蓮の実」入、  
[酔よひのあるうちは濡れゆく春の雨](蓮実;150)
- K2831 直生(ちよくせい;号・別号;麻青庵)?-? 江中期越中富山の俳人、但馬出石・大阪で活動、  
1781頃帰郷、1775「生野ノ夜話」、77一鼠「十三興」入、「直生注釈25箇条」、  
1783「天明癸卯歳旦越富山」著
- L2868 直静(ちよくせい・なおきよ?・なおつぐ?・溝口みぞぐち、水野壱岐守忠見5男)?-1826 旗本/幕臣;  
1795(寛政7)家督継嗣;5千石、1805(文化2)大番頭/従五下/撰津守、  
1806病気のため致仕、26(文政9)没;家督某、  
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、  
[あさしとや人は見るらんちるをまつころもの箱の深き心を]、  
(大江戸倭歌;雑1990/源氏物語の末摘花)、  
[直静(;名)の別名/通称]別名;忠厚、通称;辰蔵/撰津守
- 直清(ちよくせい) → 直清(ただきよ、連歌作者) F 2 6 0 1  
直清(ちよくせい・室) → 鳩巢(きゅうそう・室むろ、儒者) 1 6 2 8  
直清(ちよくせい・山口) → 直清(なおきよ・山口やまぐち/伊達、旗本/国学) P 3 2 1 6  
直清(ちよくせい・綾川) → 直清(なおきよ・綾川あやかわ/山地、神職/藩士) K 3 2 8 4  
直清(ちよくせい・熊谷) → 直清(なおきよ・熊谷くまがい/平、神職/国学) L 3 2 9 5  
直成(ちよくせい・桜井) → 直成(なおなり・桜井さくらい、国学/歌) N 3 2 2 5  
直政(ちよくせい・南部) → 直政(なおまさ・南部なんぶ、藩主/詩人) P 3 2 7 1  
直政(ちよくせい・新庄) → 直政(なおまさ・新庄しんじょう、幕臣/国学) N 3 2 4 1  
直誠(ちよくせい・勅使河原) → 直誠(なおのぶ・勅使河原てしがわら/滝、藩士歌) N 3 2 9 3  
直盛(ちよくせい・本多) → 直盛(なおもり・本多ほんだ/笹瀬、幕臣) O 3 2 7 2  
直節(ちよくせつ・山口) → 鳴鶴(めいかく・山口やまぐち、儒者/詩人) 4 3 0 9  
直柅(ちよくせつ・伊丹) → 直柅(なおせつ・伊丹いたみ/藤原、歌人) K 3 2 4 6  
直詮(ちよくせん・桃井) → 直詮(なおあき・桃井もものい、幸若舞) 3 2 0 1  
直詮(ちよくせん・堀) → 直詮(なおあき・堀ほり、儒者) 3 2 5 7  
直宣(ちよくせん・大中臣/饗庭) → 尊宣(たかのぶ・饗庭/大中臣/源、武将/歌人) M 2 6 6 6  
直然(ちよくぜん/じきねん;法名) → 良信(りょうしん;法諱・直然、浄土僧) I 4 9 2 6  
植宗(ちよくそう・伊達) → 植宗(たねむね・伊達だて、武将/歌/連歌) 2 6 4 6  
直蔵(ちよくそう・梅園) → 直蔵(なおそう・梅園うめぞの/藤原/富依、国学) L 3 2 3 2  
直足(ちよくそく・西田) → 直足(なおたり・西田にしだ、藩士/国学) O 3 2 2 3  
直足(ちよくそく・波多野) → 直足(なおたり・波多野はたの、神職/歌人) O 3 2 2 8  
直泰(ちよくたい・押上) → 直泰(なおやす・押上おしあげ、国学者) L 3 2 5 4  
直大(ちよくだい・坂本) → 浩然(こうねん・坂本、医/本草/絵師) K 1 9 9 0  
直大(ちよくだい・鏑木) → 直大(なおひろ・鏑木かぶらき、藩士/国学) L 3 2 6 1  
直達(ちよくたつ・田中) → 直達(なおみち・田中たなか、国学/神職) N 3 2 6 4  
直仰(ちよくち・宮原) → 直仰(なおゆき・宮原、医者/詩人/地誌) C 3 2 8 7  
直知(ちよくち/なおとも・佐々城) → 朴安(くろくあん・佐々城ささき、医者/本草) C 3 9 8 5  
直致(ちよくち・井伊) → 直致(なおむね・井伊い、藤原、歌人) L 3 2 0 0  
直中(ちよくちゅう・井伊) → 直中(なおなか・井伊い、藩主/歌人) B 3 2 9 1

直中(ちよくちゆう・二瓶) → 直中(なおなか・二瓶にへい、国学/歌/教育) O 3 2 1 9  
直仲(ちよくちゆう) → 直仲(なおなか、検校/連歌) E 3 2 6 8  
直稠(ちよくちゆう・岩沢) → 直真(なおさね・岩沢いわさわ、藩士/歌人) L 3 2 2 3  
直澄(ちよくちゆう・井伊) → 直澄(なおすみ・井伊い、藩主/歌人) K 3 2 9 6  
直珍(ちよくちん→なおよし・神代) → 直与(なおとも・鍋島、藩主/洋学/歌) B 3 2 8 7  
直槌(ちよくつい・菅沼) → 直槌(なおつち・菅沼すがぬま、庄屋/歌人) N 3 2 5 0  
植通(ちよくつう・九条) → 植通(たねみち・九条/藤原、関白/古典) 2 6 4 5  
直通(ちよくつう・亀井) → 直通(なおみち・亀井かめい、藩士/国学者) L 3 2 6 5  
直定(ちよくてい)すべて → 直定(なおさだ)  
直伝(ちよくでん→じきでん;法諱) → 東谷(とうこく;道号・直伝、曹洞僧) E 3 1 1 1  
直登(ちよくと・堀) → 直登(なおなる・堀ほり、藩主/文筆) B 3 2 9 5  
直道(ちよくどう・佐田) → 竹水(ちくすい・佐田さだ、藩士/儒者) D 2 8 2 6  
直道(ちよくどう・なおみち・野口) → 年長(としなが・野口/藤原、国学者) N 3 1 2 1  
直道(ちよくどう・田中) → 直道(なおみち・田中たなか、歌人) K 3 2 5 6  
直道(ちよくどう・鈴木) → 直道(なおみち・鈴木すずき/藤原、神職/歌) L 3 2 4 3  
直道(ちよくどう・竹内) → 直道(なおみち・竹内たけうち、国学者) N 3 2 7 6  
直道(ちよくどう・佐田) → 直道(なおみち・佐田さだ、国学者) M 3 2 1 9  
直道(ちよくどう・矢野) → 直道(なおみち・矢野やの、国学者) P 3 2 1 2  
直堂(ちよくどう・梅園) → 惟朝(これとも・梅園/土師/菅原、神職/国学) F 1 9 9 8  
直徳(ちよくとく)すべて → 直徳(なおのり)  
直内(ちよくない・今村) → 竹堂(ちくどう・今村、儒者/家塾教育) D 2 8 5 9

K2832 直入(ちよくにゅう・田能村たのむら、名;癡、三宮伝右衛門男) 1814-1907 94歳 豊後竹田の絵師:

画;1822田能村竹田門/竹田の養子、南画、儒/詩;角田九華・広瀬旭莊門、  
のち大塩中斎の洗心洞塾入門、堺住、1868京で美術学校設立を提唱、私塾南宋画学校を開、  
1862「清湾茶会図録」編/1863「小楠公梓弓詠」画、「武田居士遺墨目録」著、  
[直入(;号)の幼名/字/別号]幼名;伝太、字;顧絶、  
別号;小虎/忘斎/幽谷斎/布袋庵/花下道人/竹翁居士/青椀/青湾/飲茶庵主人/笠翁、  
山樵/田癡/醉茗/芋仙/蝠翁/臥午山下人/百榎園

直入(ちよくにゅう・須賀) → 直入(なおいり・須賀/武部、医/国学者) D 3 2 0 5  
直入(ちよくにゅう・河津) → 直入(なおいり・河津がかわう、藩士/歌人) L 3 2 7 6  
直入庵(ちよくにゅうあん) → 普斎(ふさい・杉木すざき/荒木田、茶人) B 3 8 9 9  
直仁(ちよくにん;法諱) → 明達(みょうたつ;法諱、天台僧) G 4 1 5 6  
直仁親王(ちよくにしんのう) → 直仁親王(なおひとしんのう、花園天皇皇子) C 3 2 2 5  
直之進(ちよくのしん・小笠原) → 忠嘉(ただひろ・小笠原おがさわら、藩主/歌) U 2 6 2 1  
直敏(ちよくびん・工藤) → 直敏(なおとし・工藤どう、国学/神職) L 3 2 9 1  
直夫(ちよくぶ・木下) → 順庵(じゅんあん・木下/平、幕府儒官/教育) 2 1 5 4  
直夫(ちよくぶ・中沢) → 鴻洲(こうしゅう・中沢なかざわ、詩人/心学) J 1 9 5 1  
直夫(ちよくぶ・武藤) → 知足斎(ちそくさい・武藤むとう、儒/国学者) E 2 8 6 7  
直夫(ちよくぶ・室) → 直夫(すくお・室むろ、藩士/国学者) J 2 3 3 0  
直溥(ちよくぶ・溝口) → 直溥(なおひろ・溝口、藩主) C 3 2 3 1  
直武(ちよくぶ・川喜多) → 直武(なおたけ・川喜多かわきた、歌人) P 3 2 4 2  
直武(ちよくぶ・小田野) → 直武(なおたけ・小田野おだの、絵師) B 3 2 5 2  
直武(ちよくぶ・生駒) → 柳亭(りゅうてい・生駒いこま、藩士/儒者) F 4 9 2 5  
直文(ちよくぶん・神田) → 直文(なおぶみ・神田かんだ、国学者) L 3 2 7 9

L2832 直補(ちよくほ/なおすけ?・天満)?- ? 江前期大阪の俳人、1678西鶴「物種集」入、

[海老雑魚えびざこや目にはさやかに見えねども](物種集/前句;四ツ手にあげて落す穂風、  
四手網の海老雑魚/古今;敏行;秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞ・・・)

直保(ちよくほ・正宗) → 直保(なおやす・正宗まさむね、国学/狂歌) O 3 2 7 8  
直輔(ちよくほ・熊谷) → 直輔(なおすけ・熊谷くまがい、国学/藩校学監) L 3 2 9 7

K2833 直包(ちよくほう・幸若こうわか、通称;伊八郎/弥次郎、直啓の養子) 1776-1843 68歳 舞曲大夫、

越前丹生300石受領、1803「幸若弥次郎家由緒書」著

直方(ちよくほう) 参照	→	直方(なおかた)	
直方(ちよくほう・小野)	→	高尚(たかひさ・小野おの、幕臣/国学者)	D 2 6 5 6
直方(ちよくほう・嵯峨)	→	朝来(ちようらい・嵯峨さが、儒者/詩)	K 2 8 0 8
直方(ちよくほう・八木)	→	静修(しずさね・八木/鎭木/橘、国学者)	U 2 1 0 1
直方(ちよくほう・半井)	→	直方(なおかた・半井なからい、医者/歌人)	K 3 2 5 0
直方(ちよくほう・内原)	→	直方(なおかた・内原うちばら、歌人)	K 3 2 6 4
直方(ちよくほう・望月)	→	直方(なおかた・望月もちづき、医者/国学)	P 3 2 0 6
直方(ちよくほう・熊谷)	→	直方(なおかた・熊谷くまがい、藩士/国学)	L 3 2 9 3
直方(ちよくほう・寒川)	→	直方(なおかた・寒川さむかわ、神職/国学)	N 3 2 2 6
直方(ちよくほう・矢畑)	→	直方(なおかた・矢畑やはた、神職/国学)	P 3 2 1 3
直方(ちよくほう・四熊)	→	直方(なおかた・四熊しくま、医者/藩侍医)	N 3 2 2 7
直峯(ちよくほう・鈴木)	→	重規(しげのり・鈴木/穂積、幕臣/歌人)	S 2 1 0 4
直彭(ちよくほう・永井/小笠原)	→	常方(つねみち・小笠原/永井、幕臣)	B 2 9 9 4
直宝(ちよくほう/なおとみ・鍋島)	→	誠(まこと・鍋島なべしま/松平/龍造寺、国学)	Q 4 0 0 3
直房(ちよくほう)すべて	→	直房(なおふさ)	
植房(ちよくほう・万里小路)	→	植房(たねふさ・万里小路までのこうじ、廷臣/記録)	S 2 6 0 1
直方軒(ちよくほうけん)	→	敬斎(けいさい・小笠原、儒者/尊攘論)	E 1 8 7 0
直麿(ちよくま・渡辺)	→	直麿(なおまろ・渡辺わたなべ、国学/歌)	K 3 2 1 6
直満(ちよくまん・後藤)	→	直満(なおみつ・後藤ごとう、商家/国学/歌)	M 3 2 1 4
直民(ちよくみん・林)	→	鳳岡(ほうこう・林、幕府儒官/大学頭)	3 9 5 3
直民(ちよくみん・浅田)	→	宗伯(そうはく・浅田あさだ、儒医/幕医)	I 2 5 7 1
直務(ちよくむ・新井)	→	直務(なおつか・新井あらい、里正/国学者)	K 3 2 8 9
直明(ちよくめい・藤井)	→	直明(なおあき・藤井ふじい/前田、尊皇論)	O 3 2 5 9
直明(ちよくめい・松平)	→	直明(なおあき・松平まつだいら、藩主)	O 3 2 8 7
直茂(ちよくも・熊谷)	→	直茂(なおしげ・熊谷くまがい、国学者)	L 3 2 9 6
直約(ちよくやく・岡部)	→	直約(なおなり・岡部おかべ、藩士/歌人)	L 3 2 4 7
直愈(ちよくゆ・鍋島)	→	直愈(なおます・鍋島なべしま、藩主/文筆)	C 3 2 5 0
直雄(ちよくゆう・吉永)	→	直雄(なおたけ・吉永、歌人)	B 3 2 5 3
直雄(ちよくゆう→なおお・玉置)	→	讓斎(じょうさい・玉置たまき、藩士/兵学)	S 2 2 3 8
直雄(ちよくゆう・熊谷)	→	直房(なおふさ・熊谷くまがい、神職/国学)	M 3 2 0 0
直雄(ちよくゆう・堀)	→	直雄(なおかつ・堀ほり、藩士/歌人)	O 3 2 6 7
直猷(ちよくゆう・榎田)	→	直猷(なおみち・榎田かしだ、儒者)	C 3 2 5 6
直由(ちよくゆう/なおよし・鈴木)	→	入楚(にっそ・鈴木、神風館8世、俳人)	E 3 3 8 3
直与(ちよくよ・鍋島)	→	直与(なおとも・鍋島、藩主/洋学/歌)	B 3 2 8 7

H2849 **直養**(ちよくよう・二見ふたみ、名;八、常辰男/本姓;度会むたらい) 1667-1733<sup>67</sup> 江戸儒者/中江藤樹を信奉、田中全立門/伊勢山田祠官、1721「藤樹先師学術旨趣大略」著、遺著「芳翰集」門人島影文石編、[直養(;号)の字] 忠直、法号;到岳院

直容(ちよくよう・新庄)	→	直容(なおかた・新庄しんじょう、幕臣/歌)	K 3 2 4 4
直容(ちよくよう・井伊)	→	直容(なおなり・井伊い/藤原、国学)	K 3 2 9 7
直庸(ちよくよう・永瀬)	→	直庸(なおつね・永瀬ながせ、国学者)	B 3 2 7 5
直養(ちよくよう)	→	直養(なおかい・西田、家老/歌人)	3 2 8 1
直養(ちよくよう)	→	直養(なおかい・山口、幕臣/日記)	3 2 8 2
直養(ちよくよう)	→	直養(なおやす・人見、医者)	C 3 2 7 8
直養(ちよくよう)	→	直養(なおやす・溝口、藩主/儒者)	C 3 2 7 9
直養(ちよくよう)	→	直養(なおやす・前田、藩士/文筆)	C 3 2 8 0
直養(ちよくよう/なおやす・小田野)	→	清軒(せいけん・小田野おだの、儒者)	I 2 4 0 0
直養(ちよくよう/なおかい・なおやす?)	→	東堤(とうてい・落合、儒者)	G 3 1 5 8
直養(ちよくよう・杉原)	→	心斎(しんさい・杉原すぎはら、幕府儒官)	O 2 2 5 4
直養(ちよくよう・山内)	→	豊信(とよしげ・山内やまのうち、藩主/詩歌)	R 3 1 1 8

- 直養(ちよくう・高橋) → 東陽(とうよう・高橋たかはし、儒者/詩人) H 3 1 7 6  
直養(ちよくう・熊谷) → 直養(なおやす・熊谷くまがい、国学者/歌人) M 3 2 0 2  
直陽(ちよくう・一柳) → 直陽(なおはる・一柳ひとつやなぎ、藩士/故実) C 3 2 1 4  
直養斎(ちよくうさい) → 圭陰(桂陰けいいん・佐藤さとう、医/詩人) F 1 8 2 4  
直利(ちより・埜) → 直利(なおとし・埜はなわ/原田、幕府医者) O 3 2 3 9  
直里(ちより・森) → 直里(なおさと・森もり、酒造業/国学者) P 3 2 1 0  
直隆(ちよりゅう・浅野) → 高蔵(こうぞう・浅野、文筆家/歌謡・料理) F 1 9 2 7
- K2812 直良(ちよりゅう・幸若こうわか/桃井もい、幸若八郎九郎重信男)?-1727 越前の舞曲大夫、歌人、  
将軍家綱・綱吉・家宣に出仕、1677「幸若八郎九郎家系図」97「幸若八郎九郎家系図」著、  
[直良(；名)の幼名/通称/号]幼名；次郎九郎、通称；八郎九郎、隠居号；桃井内蔵允くらのすけ  
直良(ちよりゅう・河合/藤林) → 宗源(そうげん・藤林ふじばやし、家老/茶人) H 2 5 1 5  
直良(ちよりゅう・松山) → 定申(ていしん・松山、藩家老/兵法家) B 3 0 2 6  
直良(ちよりゅう・大脇) → 康晟(やすあき・大脇おおき、藩士) 4 5 8 3  
直良(ちよりゅう・加藤) → 直良(なおよし・加藤かとう、代官家臣/歌) K 3 2 1 9  
直亮(ちよりゅう) → 直亮(なおすけ・大橋、医者・国学/紀行) B 3 2 3 6  
直亮(ちよりゅう・落合) → 直亮(なおあき・落合、国学/神職) 3 2 6 2  
直亮(ちよりゅう・山口/林) → 直毅(なおき・山口、幕臣/奉行) B 3 2 0 7  
直亮(ちよりゅう・落合) → 直亮(なおあき・落合おちあい、関守/勤王/神職) 3 2 6 2  
直諒(ちよりゅう・溝口) → 直諒(なおあき・溝口、藩主/狂歌) 3 2 5 8  
直諒(ちよりゅう・溝口) → 直諒(なおあき・溝口、藩主/文筆) 3 2 5 9  
直諒(ちよりゅう・松平) → 直諒(なおあき・なおよし・松平、藩主/儒) J 3 2 9 9  
直諒(ちよりゅう・前田) → 直諒(なおあき・前田、藩士) 3 2 6 3  
直諒(ちよりゅう・九里) → 令正(よしまさ・九里くのり、藩士/文筆家) H 4 7 1 1
- K2834 直林(ちよりん・幸若こうわか/桃井もい、幸若安林男) 1640-9657 舞曲大夫、1678「幸若小八郎家系図」著、  
元祖幸若丸(直詮)より8代目、  
[直林(；名)の幼名/通称/法号]幼名；九八郎、通称；小八郎、法号；花窓院  
直連(ちよくれん・土屋) → 直連(なおつら・土屋つちや、藩士/歌人) N 3 2 8 9  
直廉(ちよくれん/なおやす・寺本) → 湖萍(こひよう・寺本てらもと、郷土史家) N 1 9 5 3  
直廉(ちよくれん/なおきよ・松平) → 茂昭(もちあき・松平、藩主/歌人) B 4 4 2 8  
直蓮社(ちよくれんしゃ/じきれんしゃ) → 祐察(ゆうさつ；法諱、浄土僧) B 4 6 8 3  
直廬(ちよくろ・岡) → 直廬(なおり・岡おか、神職/国学/歌人) O 3 2 0 8  
直和(ちよくわ/なおかず?・立入) → 経康(つねやす・立入たてり、廷臣/記録) E 2 9 0 5  
直和(ちよくわ・新関) → 与斎(よさい・新関にいぜき、茶人/狂歌) B 4 7 8 1  
樗月(ちよげつ) → 政賢(まさかた・桜井さくらい田、神職/歌俳) Q 4 0 0 2
- K2835 樗軒(ちよげん・目々沢めざわ、名；広喜) 1746-181267 陸前佐沼邑主亙理家の家老、  
漢学；畑中荷沢門、「樗軒文集」著、鉅鹿きよくの父  
[樗軒(；号)の字/通称/別号]字；子昭、通称；牧之進/良治/新右衛門、別号；東皐
- K2836 樗軒(ちよげん・中尾なかお、名；觚哉こさい、伊勢屋三右衛門男)?-1821 江戸本郷の質商；家を義弟に譲渡、  
古書の売買商/鑑定、俳諧を嗜む、探墓の趣味；江戸墳墓調査、1818「江都名家墓所一覽」編、  
「芸圃小伝」「近世逸人画史」「読老庵日札」著、「書画異称便覧」「法諱藪」編、  
[樗軒(；号)の通称/別号]通称；伊勢屋平次郎、  
別号；樗庵/無帛/老樗軒/森川漁夫/幽香亭角子、法号；积是水  
著賢(ちよげん・宮川) → 臣吉(おみよし・宮川みやがわ、書肆/国学) E 1 4 1 7  
著彦(ちよげん・松木) → 継彦(つぎひこ・松木/久志本/度会、神職) 2 9 5 3
- L2844 千世子(ちよ子ちよこ・千世・大石おおい)?-? 江後期文政1818-30頃の歌人、号；星廼舎ほのや、  
大石千引ちびき(1770-1834/国学者)の妻、蜂屋光世「大江戸倭歌集」入；夫と共に入集、  
[あすの夜と契りてだにも別れ路は苦しきものをけさの棚ばた]、  
(大江戸倭歌；夏725/七夕後朝)、  
夫 → 千引(ちびき・大石おおい、貞見、国学者) 2 8 1 6
- N2855 千代子(ちよこ・松平まつだいら、彦根藩主井伊直弼2女) 1845-192783 母；静江、彦根の生、

1858(安政5)讃岐高松藩主松平頼聡の正室、実父直弼大老職に就任;日米修好通商条約、1860(安政7)桜田門外の変で直弼殺害;1863(文久3)離縁;実家に帰る/72(明治5)復縁、頼寿(1874-1944)・胖・永井直翠・岳子たかこ(松平親信室)ら5男2女の母、  
[千代子(;名)の別名/院号]別名;弥千代(初名)/於千代(復縁時)、幼名;睦姫/千賀姫、  
院号;清徳院

千代子(ちよこ・向井) → 千子(ちね・向井むかい千代、俳人) F 2 8 1 4  
千代子(ちよこ・早川) → 千代女(ちよじよ・早川はやかわ/鈴木、商家/歌人) N 2 8 3 2  
千世子(ちよこ→ちせこ・堀) → 千世子(ちせこ・堀ほり/本庄、千勢ちせ、歌) L 2 8 4 1  
儲香亭(ちよこうてい) → 元慶(もとよし・原はら、藩士/儒/詩人) L 4 4 0 8

K2837 樗斎(ちよさい・武井たけい、名;驥き、字;千里) ?-? 江後期信州の儒者、1820「那須国造碑考」、  
1823「劉向新序纂註」、「那須碑追考」著

樗斎(ちよさい・山本) → 基庸(もとつね・山本やまもと、藩士/書家) D 4 4 1 7  
樗斎(ちよさい・只野) → 克巳(かつみ・只野ただの、国学者) V 1 5 0 0  
苧斎(ちよさい・市川) → 兼恭(かねたか/かねのり・市川、医者/洋学) O 1 5 5 9  
著斎(ちよさい・内藤) → 貞顕(さだあき・内藤ないとう、藩士/国学) G 2 0 2 0  
著作堂(ちよさくどう) → 馬琴(ばきん・滝沢、読本作者) 3 6 0 7  
千代三郎(ちよさぶろう・檜垣) → 常之(つねよし・つねひで・檜垣/度会、神職) E 2 9 2 3

K2838 樗山(ちよざん・佚斎いっさい、姓;丹羽にわ、名;忠明、丹羽定信男) 1659-1741<sup>83</sup> 三河深溝松平の一族、  
下総関宿藩士;久世広之・重之・暉之3代に出仕/1731致仕、子弟教育;談義本著述、  
1727「田舎荘子」28「田舎一休」29「従好談」「天狗芸術論」「六道士会録」35「英雄軍談」、  
「河伯井蛙文談」「雑篇田舎荘子」「地蔵清談漆刷毛」「心法雑記」「所感雑記」「遊会余話」著、  
[佚斎樗山(;号)の通称/別号]通称;十郎右衛門/権太郎/権八郎、別号;(剃髪後)可溪斎  
K2839 杼山(ちよざん;道号・瑞芳ずいほう;法諱) 1772-1829<sup>58</sup> 越後十日市曹洞僧・1783雲洞庵で出家/海雲門、  
1801東海北陸京畿九州天草を行脚、西光寺住持、のち武州新福寺住持、  
1800刊「金城余稿」編、21「漫遊詩偈」著

[杼山瑞芳の号] 無住道人/ノ子てきちよく道人、法号;震竜雷法大和尚

苧山(ちよざん・河口) → 静斎(せいさい・河口/河、儒者/詩人) B 2 4 5 6  
紵山(ちよざん・小谷) → 巢松(そうしょう・小谷おたに、藩儒/詩文) C 2 5 0 8  
樗山(ちよざん・小野/桜本) → 招月(しょうげつ・小野おの、農業/詩文) M 2 1 2 4  
樗山(ちよざん・三谷) → 句仏(くぶつ・三谷、俳人) D 1 7 3 9  
樗山(ちよざん・中目) → 道珣(どうじゆん・中目なかめ、眼科医) F 3 1 1 7  
猪三太(ちよざんた・麻野) → 林曹(りんそう・麻野あさの/笠原、儒者) K 4 9 6 3  
樗散堂(ちよさんどう) → 松斎(しょうさい・加藤かとう、藩儒/詩) S 2 2 3 5  
樗散房(ちよさんぼう・横井) → 立和(りゅうわ・横井よこい、藩士/俳人) F 4 9 9 1  
樗子(ちよし) → 野坡(やば・志太じだ/斎藤、俳人) 4 5 1 2  
瀧実(ちよじつ・牧園) → 茅山(ぼうざん・牧園まさの、藩儒) B 3 9 1 9  
樗舎(ちよしや・おうちのや・古賀) → 遊五(ゆうご・古賀こが、庄屋/俳人) B 4 6 5 6  
樗舎(ちよしや・おうちのや・関) →

K2840 千代女(ちよじよ・喜田川きたがわ) ?- ? 江後期女流絵師:喜多川歌麿門、歌麿の妻か?、  
天明寛政1781-1801頃黄表紙挿絵を描く;1784春町「金平子供遊」「年始御礼帳」画、  
1785真顔「元利安売鋸商内」/参和「莫切自根金生木」/杜芳「嘘皮初音鼓」、89「樽酒聞上手」画

M2883 千代女(ちよじよ・段塚だんづか) ?- ? 文政1818-30頃没 伯耆日野郡の鉄山取締役の家/歌人

L2864 千代女(ちよじよ・丹羽にわ) ?- ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[足引の山のとかげの下紅葉こがるるいろをとふ人もなし]、  
(大江戸倭歌;恋1584/寄紅葉恋、常陰とかげ:いつも日の当たらないところ)

N2832 千代女(ちよじよ・早川はやかわ、名;千代子、鈴木吉兵衛女) 1808-1894<sup>87</sup> 三河豊橋の生、  
三河額田郡八丁村の味噌溜醸造業の早川家15代休右衛門の妻、40余歳で夫と死別、  
家業を継嗣の傍ら国学・歌人;香川景嗣門/のち公庵公阿上人門/さらに佐々木弘綱門、  
養子休右衛門(16代)に家業を委ねて隠居/歌道に親しむ、1894(明治27)没、

1889家集「ちりひち集」(竹柏園大人撰/石橋蘿窓序)

[雨雲の絶まにみゆる虹の橋まつこゝろにもかゝりけるかな](ちりひち集/虹)

[山姫の花のたもとを今朝よりはみとりにかへす風わたる也](類題三河家集/新樹風)

千代女(ちよじよ・加賀)	→	千代尼(ちよに、俳人)	2 8 3 0
千代女(ちよじよ・大石)	→	千世子(ちよ子ちよこ・大石おおい、歌)	L 2 8 4 4
猪氏良堅(ちよしりょうけん)	→	良堅(りょうけん・猪?、狂詩文)	H 4 9 3 2
苧水庵(ちよすいあん)	→	潔常(きよつね・豊田とよた、国学者)	U 1 6 8 8
千代住(ちよぢみ・鶴汀園)	→	正雄(まさお・淵井ふちい、歌人/狂歌)	S 4 0 3 5
箸隻(ちよせき・御粥)	→	安本(やすもと・御粥おかゆ、和算家)	D 4 5 2 7
樗荘(ちよそう・湯浅)	→	明信(あきのぶ・湯浅ゆあさ、藩士/詩人)	D 1 0 7 3
千代蔵(ちよぞう・武嶋)	→	独醒菴(どくせいあん・武嶋、医者)	L 3 1 1 1
猪袋(ちよたい:号)	→	甚久(尋久じんきゅう:号、法師、狂歌作者)	2 2 2 0
千代太夫(ちよだゆう・豊竹/竹本)	→	筆太夫(3世ふでだゆう・竹本、浄瑠璃太夫)	D 3 8 4 5
千代太郎(ちよたろう・山田)	→	昌巖(しょうがん・山田、藩家老/記録)	H 2 2 8 4
千代太郎(ちよたろう・熊谷)	→	直一(なおかず・熊谷くまがい、国学/歌人)	L 3 2 9 2

K2841 虚誕堂変手古山人(ちよちやうどうへんてこさんじん、本名不詳)?-? 洒落本・1775「虚誕伝」著

直求(ちよつきゅう・佐々木) → 泉明(せんめい・佐々木、商家/俳人) N 2 4 7 7

直求(ちよつきゅう・海賀) → 宮門(みやと・海賀かいが、武術/勤王家) G 4 1 0 0

秩都紀南子(ちよとときなんし) → 東作(とうさく・平秩へずつ、狂歌/戯作) 3 1 1 3

千代鶴(ちよつる・戸沢) → 正令(まさのり・戸沢、藩主/歌人) G 4 0 2 4

千代鶴(ちよつる・戸沢) → 正実(まさざね・戸沢、正令男/藩主) R 4 0 0 2

K2842 樗亭(ちよてい・藤井ふじ、名;肃/元肃/世衡)1760-181051 大阪の開業医、詩文;片山北海・頼春水門、書;趙陶齋門/俳諧を嗜む、1810「樗亭先生小楠碑帖」著、元衡(裕齋)の兄、力堂(淳平)の父、[樗亭(;号)の字/通称]字;銓卿せんけい/子穆ぼく、通称;洪平/鴻平/東祇

K2843 樗堂(ちよどう・栗田くりた、名;政範、後藤昌信男)1749-181466 伊予松山の酒造業豊前屋の3男、同地酒造業廉屋栗田家の後夫(妻とら);7台目を継嗣/1802まで町方大年寄/俳人・暁台門、一茶・土朗と親交、四国俳壇の雄として活動、1795一茶が滞在、1803安藝御手洗に隠棲;後妻を迎え二畳庵を結庵、茶/画を嗜む、1783「菅の奥」編、1787「つましるし」(;京大和俳諧紀行)、1805「庚申庵記」著、1806「筆花集」「樗堂発句集」、12「萍窓ひょうそう集」(鹿門才馬編)、15「山蟻集」著(成美序)、[秋風に向けて飯焚く小舟かな](萍窓集)、[樗堂(;号)の通称/別号]通称;貞蔵/専助/専蔵/与三左衛門、

別号;九腕室/蘭芝/蘭之らんし/息隠/息陰/昆宜こんぎ庵/盪江かんこう老漁/二畳庵、

先妻:栗田とら も俳人 → 羅蝶(らちよう、俳人) B 4 8 4 5

K2844 樗堂(ちよどう・平井ひらい、名;清白、清侯男)?-1830 羽後秋田藩士;1821御厩頭取/詩人、文武に通ず、「家耕談」著、「日涉園遺稿」、清迪の父、

[樗堂(;号)字/通称/別号]字;君瑾/公操/士文、通称;兔毛/良蔵/主馬、別号;日涉園

樗堂(ちよどう・宮城) → 玄魚(げんぎよ・梅素亭、絵師/狂歌) B 1 8 5 4

樗堂(ちよどう・青山) → 恵次(のりつぐ・青山あおやま、藩家老) H 3 5 0 5

樗堂(ちよどう・江幡) → 通理(みちまさ・江幡えぼた、医者/国学) I 4 1 2 3

樗道(ちよどう) → 西馬(さいば・富処[所]、俳人) B 2 0 0 5

楮堂(ちよどう・村松) → 露融(ろゆう・村松むらまつ、製紙業/俳人) C 5 2 4 6

楮堂(ちよどう・渡辺) → 為主(ためぬし・渡辺わたなべ、商家/国学) 2 7 4 3

猪同(ちよどう、俳名) → 嘉右衛門(かえもん・中田、歌舞伎作者) B 1 5 1 2

長徳庵(ちよとくあん) → 万孚(まんぶ;法諱・益之えきし、曹洞僧) K 4 0 8 2

樗墩(ちよとん) → 東舟(とうしゅう・林、幕臣/儒者/詩) E 3 1 8 9

2830 千代尼(ちよに、名;千代、表具師福増屋六左衛門女)1703-7573 加賀松任の人、

12歳頃加賀本吉の北瀉屋に奉公、俳諧;北瀉屋主人半睡[大睡]門、

16・7歳頃より俳人の名声、1719(17歳)加賀行脚中の各務支考に入門、

1720(18歳)金沢の足軽福岡弥八の妻;22夫没;松任に実家に戻る;但し未婚説あり、

1727廬元坊を迎え「松任短歌行」半睡・若椎らと共著、1753剃髮；素園名、  
 1762「吉崎紀行」著/64「千代尼句集」(既白編)/71「はいかい松の声」著、追善集「長月集」、  
 [朝顔に釣瓶とられてもらひ水](千代尼句集)、  
 [夕顔や女子をなどの肌の見ゆる時](千代尼句集)、  
 [千代尼(；通称)の別通称/法名]別通称；千代女/加賀の千代、法名；素園

K2845 **千代有員**(ちよのありかず、通称；上州屋半四郎)？-？ 江戸市ヶ谷の商家/狂歌作者、狂歌才蔵集1首入、  
 [思ふ人かぞへてみつの鼎ならひとつ欠けても尻はすはらじ](才蔵集；重401)

千代ノ進(ちよのしん・小国)→ 重年(しげとし・小国/鈴木/清原、神職/国学) 2 1 1 4  
 千代之進(ちよのしん・小国)→ 重友(しげとも・小国おぐに/鈴木、神職/国学) N 2 1 6 5  
 千代春道(ちよのはるみち) → 徳瓶(とくべい・橋本、合巻作者) L 3 1 3 4  
 千代廼家(ちよのや) → 温道(よしみち・小野田おのだ/岩瀬/藤原、神職/歌) L 4 7 8 4  
 千代舎(ちよのや) → 泰樹(やすき・松本なまつもと、国学者/歌人) G 4 5 7 6  
 千代ノ舎(ちよのや) → 春見(はるみ・千家せんげ、神職/国学/歌) K 3 6 3 2  
 千代の舎(ちよのや) → 道恭(みちたか・山根やまね、庄屋/国学/歌) K 4 1 9 0  
 樗廼舎(ちよのや) → 通静(みちきよ・江幡えはた、儒国学/歌人) I 4 1 2 2  
 樗平(ちよへい・菅波) → 扶好(ふこう・菅波/菅、酒造業/俳人、茶山の父) B 3 8 8 6  
 猪平(ちよへい・堀) → 陳斯(のぶのり・堀ほり、和算家) C 3 5 7 8  
 蝶暮(ちよぼ) → 蝶暮(ちよぼ/ちよぼ、歌人/俳人) J 2 8 8 6  
 樗木社(ちよぼくしゃ) → 野坡(やば・志太しだ/斎藤、俳人) 4 5 1 2  
 千代松(ちよまつ・松平) → 宗室(8世そうしつ・千せん、茶人/裏千家11世) H 2 5 6 8  
 千代松(ちよまつ・奥村) → 得義(徳義のりよし・奥村、藩士/国学) G 3 5 3 2  
 千代松(ちよまつ・梅津) → 其雲(きてき・梅津、家老/俳人) B 1 6 5 5  
 千代松(ちよまつ・桜井) → 道考(みちたか・桜井さくらい、代官/歌人) I 4 1 8 2  
 千代松(ちよまつ・小松) → 栄信(えいしん・小松こまつ、僧職/国学) U 1 3 0 8  
 千代麿(ちよまる・石山) → 基文(もとふみ・石山いしやま/石野/姉小路、廷臣) J 4 4 2 8  
 千代麿(ちよまる・千家) → 尊昌(たかまさ・千家せんげ、国学/歌) X 2 6 8 2  
 著明(ちよめい・遠田) → 昌庵(しょうあん・遠田とおだ、蘭学者) G 2 2 6 4  
 樗邑(ちよゆう・山田) → 清壽(きよひさ・山田やまだ、医者/国学者) V 1 6 5 5

2831 **樗良**(ちよら・三浦みうら、名；元克)1729-8052 志摩鳥羽藩士の子息/父致仕後伊勢山田に移住、  
 俳人；紀伊長島の百雄門、1762伊勢山田に無為庵を結庵/66事に連座し指弾受け出奔、  
 関東を放浪；剃髮、1771信越を行脚し蕉門復古運動を指導、1774以降蕪村一派と親交、  
 1777京木屋町三条に結庵/81山田に帰郷、1759「白頭鴉しらがらす」61「ふたまた川」編、  
 1767「我庵わがいは」/71「石をあるじ」「姨捨の月」/75「春興俳諧発句」76「月の夜」編、  
 1777「花七日」編、「樗良発句句集」「樗良集」「樗良文集」「樗良伝書」「年の尾」外著多数、  
 [露の菊さはらば華もきえぬべし](樗良発句句集/樗良自画賛)、  
 [樗良(；号)の字/通称/別号]字；冬卿、通称；勘兵衛/法体後；玄仲、  
 別号；無為庵/二股庵/一呆廬

妻；かよ → かよ(かよ女、俳人) P 1 5 5 4

K2846 **猪来**(ちよらい・服部はつとり)？-？ 江後期伊賀上野片原町の俳人；蒼虬門、  
 1824「蓑虫庵小集」編、

[猪来(；号)の通称/別号]通称；猪田屋しだや又五郎、別号；蓑虫庵3世/雪柴亭せつさいい

楮里(ちよら・篠野) → 一方(いっぽう/かずまさ・篠野ささの、医/狂歌詩) H 1 1 9 2

K2870 **猪柳**(ちよりゅう)？-？ 江前期俳人；1695不角「昼礫ひるつぎて」入  
 [渡し守武士に銭出す法やある](昼礫/当時武士・遍路・飛脚は渡し賃は免除)  
 (武士に変装した町人が開き直っている)

猪良堅(りょうけん) → 良堅(りょうけん・猪ちよ/猪飼？、儒者) H 4 9 3 2

樗櫟散人(ちよれきさんじん) → 光昭(みつあき・馬島まじま、藩士/歌人) K 4 1 4 9

K2847 **猪鹿斎**(ちよろくさい；本名不詳)？-？ 詩・狂詩、1809「疎漏庵詩集」入・序

著六斎(ちよろくさい・梅田) → 江波(ごうは・梅田うめだ、絵師/俳人) K 1 9 9 3

知来(ちらい・春日) → 易重(やすしげ・春日かすが/藤原、神職/国学) F 4 5 7 6

- 知頼(ちらい・前田) → 知頼(ともより・前田まへだ、城代/記録) R 3 1 0 2  
 致頼(ちらい・平) → 致頼(むねより・平たいら、武将) D 4 2 4 3  
 地雷(ちらい;法諱・黙要) → 黙要(もくよう;道号・地雷、曹洞僧) B 4 4 1 1  
 知楽(ちらく・大橋) → 景久(かげひさ・大橋おほし、藩士/歌人) T 1 5 9 6  
 智楽院(ちらくいん) → 天海(てんかい;法諱、天台僧) D 3 0 2 2
- K2848 千里(ちり・苗村なえむら、通称;粕屋甚四郎/油屋喜右衛門) 1648-1716<sup>69</sup> 大和葛城郡竹内村の俳人、江戸の商家/俳;芭蕉門、1684芭蕉の野ざらし紀行同行、1686仙化「蛙合」/91去来凡兆「猿蓑」/1712知足「千鳥掛」入集、  
 [旅枕鹿のつき合ふ軒の下](猿蓑;三)  
 致理(ちり・小川) → 麦字(ぼうく・小川おがわ/寺沢友幸、俳人) C 3 6 5 9  
 知利(ちり・下村) → 助之進(すけのしん・下村しもむら、武芸者) G 2 3 8 0  
 知利(ちり・茂木) → 知利(ともとし・茂木もてぎ、藩士/国学/歌) W 3 1 6 6  
 塵塚散人(ちりつかさんじん・古今亭) → 音人(おとんど・鳴滝、狂歌) 1 4 9 8
- K2849 智竜(ちりゅう;法諱・雲外;道号)?-? 曹洞僧;雲山愚白(1619-1702)門、和泉成合寺2世、「雲山愚白語録」編
- B2898 池柳(ちりゅう) ? - ? 備後三原の俳人、1730三原の丈羽亭で里紅(廬元坊)を迎え交流、  
 [名月や鼻おとす女中客](藤の首途入)  
 知隆(ちりゅう・小塚) → 知隆(ともたか・小塚こづか、神職) P 3 1 6 5  
 致隆(ちりゅう・加藤) → 致隆(むねたか・加藤かとう、医者/国学者) D 4 2 7 0  
 池竜(ちりゅう・田島) → 養元(ようげん・田島たじま、医者) 4 7 7 8  
 癡竜(ちりゅう・富田) → 景周(かげちか・富田とだ、儒者) E 1 5 9 6  
 穉竜(ちりゅう・亀田) → 鵬斎(ほうさい・亀田かめだ、儒者/詩/教育) 3 9 5 4  
 池流亭(ちりゅうてい) → 松春(しょうしゅん・坂上、書肆/俳人) T 2 2 0 4  
 池流亭(ちりゅうてい) → 松洗(松泉しょうせん・児玉、松春門俳人) T 2 2 8 9  
 知量(ちりょう;字、智量院) → 日充(にちじゅう;法諱・智量院、日蓮僧) C 3 3 1 9  
 知量(ちりょう・伊藤) → 澹斎(たんさい・伊藤/伊東、医/儒者) I 2 6 1 4  
 知亮(ちりょう・茂木) → 知亮(ともすけ・茂木もてぎ、藩士/歌/俳人) P 3 1 6 0  
 知良(ちりょう・大橋/菊池) → 淡雅(たんが・菊池/大橋、商家/儒者) T 2 6 2 1  
 智蓼園(ちりょうえん) → 林可(りんか・智蓼園、俳人) K 4 9 0 4
- K2850 智礼(ちらい;法諱) ? - ? 江後期寛政1789-1801頃安藝山県郡坪野善福寺の生、可部の真宗本願寺派勝円寺の大瀛(だいえい)門;師継承し勝円寺住職、「御文章徴擲」「正業門」著  
 知礼(ちらい・渋谷) → 知礼(ともひろ・渋谷しぶや、和算家) Q 3 1 4 6  
 致令(ちらい・津田) → 致令(むねのり・津田、儒者) C 4 2 2 4  
 智玲(ちらい;法諱) → 大蘇(たいそ;道号・智玲、臨濟僧) K 2 6 5 2  
 知礼(ちらい・渋谷) → 知礼(ともひろ・渋谷しぶや、和算家) Q 3 1 4 6
- K2851 知蓮(智蓮ちれん;法諱、俗姓;新田) 1459-1513<sup>55</sup> 上州岩松の時宗僧;1473相模藤沢清浄寺如象門、1497越前敦賀西方寺で時宗21代遊行上人を相続、1512藤沢清浄光寺住;1513焼失のため本尊を駿河長善寺に移座/同寺に没、「真宗要法記」「一遍儀集」著、「時宗茶毘記」「神宣遊行念仏記」「別時作法問答」著、  
 [知蓮の号] 珠阿/他阿弥陀仏、  
 道灌歌合参加の珠阿と同一? → 珠阿(しゅあ、歌人) G 2 1 6 4  
 智朗(ちろう;字) → 日賢(にちけん;法諱・玄収院、日蓮僧) B 3 3 6 0  
 智朗(ちろう) → 金洞(きんどう・井田いた、日蓮僧/詩人) R 1 6 5 2  
 知和(ちわ・藤塚) → 凶書(きょうしょ・藤塚ふじつか/源、神職) D 2 3 7 8  
 知和(ちわ・本莊) → 知和(ともかず・本莊ほんじょう、医者/国学) W 3 1 3 7  
 致和(ちわ・武藤) → 致和(むねかず・よしかず・武藤、商家/国学) B 4 2 1 8
- J2855 千別(ちわけ・ちわき・中江なかえ、通称;久右衛門) 1767-1837<sup>71</sup> 近江高島郡青柳の農業/高島硯の行商、国学者;伴資芳・荒木田久老・本居春庭/大平・富樫広蔭門、「白禱廻若葉」/伝説集「川太郎伝」著、歌;大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌・短歌入、

[ありそ海の波のうきすのかたし貝かた時の間をわれや忘する] (八十浦; 859恋)、  
[千別の号] 白構舎はくとうしゃ/砂文、屋号; 硯屋すずりや

- N2862 **千別** (ちあき・宮崎みやざき、通称; 伊豆、旧姓; 草野) 1811-6555 筑後山門郡の生、国学; 西原晃樹あさき門、筑後三潞郡久間田村の田脇日吉ひよし神社祠官、1865 (慶応元) 重病を患った12代柳川藩主立花鑑賢の妻純姫を十種神宝を用いて祈祷; 起死回生の力で病全快/命を懸けて祈祷した千別は直後に没; その神業が称されている
- K2853 **千別** (ちあき・白石しろいし、十太夫男/本姓; 小野) 1817-8771 幕臣; 1838支配勘定見習/右筆奉行、外国奉行/神奈川奉行/新潟奉行; 下総守/1868御役御免、維新後外務省・宮内省等出仕、歌: 足代弘訓・花垣幸国・大国隆正門、「今様歌集」「詩籟子日記」、1853「詠歌一家言」外著多、  
[千別(;)名]の通称/号]通称; 勝太郎/忠太夫/下総守、号; 今様翁
- 千別 (ちあき・朝山) → 芳博 (慶博よしひろ・朝山あさやま/勝部かつべ、神職) L 4 7 2 0  
道別 (ちあき・大野) → 道別 (みちあき・大野おの、国学者) C 4 1 9 3  
千別舎 (ちあきのや/ちあきのや・秋山) → 惟恭 (これいよ・秋山あきやま、神職/詩歌) P 1 9 4 2  
致和堂 (ちわどう) → 重明 (しげあき・牛丸うしまる、藩士/詩人) Q 2 1 4 9  
趁 (ちん・源) → 安法 (あんぽう、歌人) C 1 0 1 6  
珍 (ちん・大橋) → 知伸 (ともぶ・大橋、絵師/篆刻/俳) Q 3 1 2 3  
珍 (ちん・宇佐美) → 良庵 (りょうあん・宇佐美うさみ、医者) G 4 9 1 1  
珍 (ちん・入江) → 珍 (うず・入江いりえ、国学者) E 1 2 5 4  
陳 (ちん・阿野/随朝) → 若水 (じゃくすい・随朝ずいちょう/阿野、和算/漢学) G 2 1 2 7  
陳 (ちん・林) → 雪篷 (せっぽう・林はやし、漢学者) L 2 4 3 8  
鎮 (ちん・渡辺) → 盧舟 (ろしゅう・渡辺わたなべ、地役人/俳人) B 5 2 7 0  
鎮 (ちん・鳥居) → 重栄 (しげよし・鳥居とりい/波多野、神職) Z 2 1 5 1  
鎮 (ちん・宮川) → 広激 (ひろげき・宮川みやがわ、神職/国学) L 3 7 4 0
- K2854 **珍阿** (ちんあ、珍阿彌; 号、通称; 洛北隠士) ?-? 江戸中期茶人、1771「茶道早合点」著
- K2855 **陳阿** (ちんあ; 法名/法師、塩谷郎道男) 1775-185379 江後期三河賀茂郡高橋庄長与寺村の浄土僧、和泉岸和田の光明寺15世、国学; 本居大平門、1842「当麻曼陀羅搜玄疏採摘聴書」著、大平撰「八十浦の玉」下巻入、  
[消え残りし雪もさながらけふよりは霞にまがふ紀路きぢの山々] (八十浦; 712)、  
[陳阿の名/字/別法名]名; 霊仰、字; 麟瑞、別法名; 戒蓮社巖誉陳阿
- K2856 **椿庵** (ちんあん・後藤ごとう、名; 省、良山男) 1697-173842 京の医者; 父門/父の一気留滞説を継承; 後藤流を確立、父良山が四診に按腹侯背法を加え椿庵が嗅診を加えた/灸法も用いる、「医事大要」「椿庵彙考」「治方漫録」著、「後藤先生医話」編、「椿庵先生遺稿」「後藤椿菴遺稿」、  
[椿庵(;)号]の字/通称]字; 身之、通称; 仲介
- 椿庵 (ちんあん・金子) → 歎和坊 (かさわぼう・金子、俳人) R 1 5 9 4  
椿庵 (ちんあん・高木) → 秀条 (ひでえだ・高木たかぎ、神道/歌人) L 3 7 7 3  
椿庵 (ちんあん・中島) → 重孝 (しげたか・中島なかじま、農家/国学/尊攘) Z 2 1 5 5
- K2857 **珍一** (ちんいち・清水しみず/大野木、通称; 浅七、清水浅七男) 1793-186169 伊勢山田上中之郷の薬種商、1809 (17歳) 失明; 伊勢度会で按摩業、国学: 足代弘訓・本居春庭・橋村正兌門、歌に通ず、「青つゝら」「藤岡集」「漆桶集」、1857「磯之藻屑」著
- 陳逸 (ちんいつ・眞山) → 迂堂 (うどう・眞山まやま、儒者/地理) D 1 2 2 0  
椿陰 (ちんいん・檜林) → 栄建 (えいけん・檜林ならばやし、医者; 種痘) C 1 3 7 0  
椿陰 (ちんいん・紀) → 俊和 (としかず・紀きの、神道/国学) U 3 1 9 4  
珍胤 (ちんいん・依田) → 珍胤 (よしたね・依田よだ、宿脇本陣/国学) P 4 7 9 5  
枕雲 (ちんうん; 号) → 昇道 (しょうどう; 法諱、枕雲、真宗僧/歌人) R 2 2 6 1  
枕雲 (ちんうん; 号/枕雲洞主人) → 神竜 (しんりゅう; 法諱、真宗大谷派学僧) Q 2 2 0 9
- K2858 **珍恵** (ちんえ; 法諱) ? - ? 連歌僧、1356成立「菟玖波集」雑1句入
- K2859 **鎮栄** (ちんえい; 法諱) ? - ? 室町期葛城山の修験道先達/千勝院住僧、「葛城修行灌頂点式」著

- 鎮栄(ちんえい・村瀬) → 鎮栄(つねはる・村瀬むらせ、陪臣/国学/歌) G 2 9 5 9  
 鎮衛(ちんえい・安生/根岸) → 鎮衛(やすもり・根岸/安生、幕臣/隨筆) D 4 5 3 2  
 鎮盈(ちんえい/ささお・山川/小沢) → さゝを(ささお・小沢/山川、藩士/俳人) H 2 0 4 5  
 陳盈(ちんえい・三浦) → 義方(よしかた・三浦みうら/田丸、医者) P 4 7 2 8  
 珍栄(ちんえい;法諱) → 玉蔭(ぎよくろ;号・珍栄、伊藤/僧/俳人) P 1 6 4 5
- 2832 椿園(ちんえん・伊丹いたみ、名;好寛/源曹、坂上蜂房[大鹿屋伊兵衛]男) 1751?-8131? 伊丹大鹿村の生、父は醸造家、津国屋勘三郎の養子;銘酒劍菱の醸造元/主として大阪で酒類回漕業、父の影響;奇書蒐集、画;月岡丹下門/前期読本作者:1778「翁草」79「両劍奇遇」「怪異談叢」、1780「唐錦」、「女水滸伝」(1783刊)著、  
 [伊丹椿園(:号)の別姓/通称/号]別姓;坂上/浦辺/山本/津国屋、  
 通称;津国屋善五郎/山本善五郎/浦辺源曹、号;雲盈
- K2860 椿園(ちんえん) ? - ? 俳人;1866山金堂「季寄持扇」補・序  
 椿園(ちんえん・氷室/紀) → 長翁(ながとし・氷室、歌人) E 3 2 8 7  
 椿園(ちんえん・巨勢) → 利和(としより・巨勢こせ、幕臣/歌人) O 3 1 2 2  
 椿園(ちんえん・佐藤) → 信淵(のぶひろ・佐藤、経世家/医者) D 3 5 1 2  
 椿園(ちんえん・野口) → 年長(としなが・野口/藤原、国学者) N 3 1 2 1  
 椿園(ちんえん・市兼) → 静風(せいふう・市兼いちかね/源、藩士/歌) J 2 4 3 3  
 椿園(ちんえん・永山) → 亥軒(がいけん・永山ながやま、藩士/儒者) I 1 5 6 2  
 椿園(ちんえん・浅野) → 讓(ゆずる・浅野あさの、医者/歌人) G 4 6 0 6  
 椿園(ちんえん・宮下) → 正宜(まさよし・宮下みやした、国学者/歌) T 4 0 0 1  
 枕淵(ちんえん・安東) → 貞敏(さだとし・安東あんどう、藩士/国学/詩) N 2 0 7 4  
 陳衍(ちんえん・荒木) → 李谿(りけい・荒木あらかき、字;儒者/詩) 4 9 8 8  
 枕鶯居片山(ちんおうきよへんざん) → 光胤(みつたね・志賀しが/中村、国学/神道) J 4 1 2 4  
 珍鮭(ちんか・栗原) → 如心(にょしん・栗原、藩士/心学者) G 3 3 0 0
- K2861 珍海(璽海ちんかい/ちんがい;法諱、俗名;良深、絵師藤原[春日]基光男) 1091-115262 母;藤原資経女、東大寺画僧、三論;東南院覚樹門/密教;醍醐三宝院定海門・勸修寺寛信・行海門、1142東大寺已講、華嚴・法相・因明に通じ晩年は浄土教を究明;永観を継承し京禅林寺住、密教図像/仏画多、1128「菩提心集」34「大乘正観略私記」40「一乗儀私記」、「三論名教鈔」著、  
 [珍海の号] 理法房/越前已講、母は歌人 → 珍海母(璽海母ちんかいはは) K 2 8 6 3
- K2862 珍海(ちんかい;法諱) 1502 - ? 1580存 戦国期天台僧;1524権少僧都/月山寺・逢善寺住僧、1524「曼荼羅供導師故実」/26「三身義要文応身辺」編/28「二経勝劣抄」著  
 椿海(ちんかい) → 長翠(ちようすい・常世田とよだ、俳人) J 2 8 0 9  
 椿海(ちんかい) → 潮堂(ちようどう・中山、嘉市、俳人) J 2 8 5 6  
 椿海(ちんかい) → 有筋(ゆうせつ・滝沢たきざわ/沢、俳人) D 4 6 1 3
- K2863 珍海母(璽海母ちんかいはは、藤原資経女、絵師藤原[春日]基光の妻) ?-? 1092存 平安期歌人、金葉集643(Ⅲ635)(;醍醐の桜会さくらえの詠);  
 [今日もなほ惜しみやせまし法りのため散らす花ぞと思ひなさずは](金葉;十643)
- K2864 珍覚(ちんかく;法諱、法印珍快男) ?-? 鎌倉初期;法相宗興福寺僧/法橋/権少僧都/権大僧都、珍賀(法橋)の孫/珍耀・珍喜・珍俊の甥/珍誉・珍観・珍兼・珍愉の従兄弟;すべて興福寺僧、歌、檜葉集2首入/現存和歌六帖入集、勅撰2首;続後撰561新後撰1078、  
 [あとたるる神やうゑけん住吉の松のみどりはかはる世もなし](続後撰;神祇561)、  
 [父の法印珍快没後に寂身法師の消息に返し、  
 なべてうき世のためしにもふじ衣我が身ひとつぞまづはかなしき](檜葉;哀傷587)
- K2865 珍角(ちんかく・立羽たちば/山崎、不角男) ?-? 俳人、不届ふけい・寿角の弟、辰角の兄  
 珍菓亭(ちんかてい) → 貞柳(ていりゅう・永田、鯛屋、狂歌) 3 0 0 9  
 椿花亭(ちんかてい) → 定雅(ていが・西村、俳、狂歌) 3 0 4 1  
 珍貨堂(ちんかどう) → 維堅(これかた・芳川よしかわ、古銭鑑定家) O 1 9 2 0
- G2897 陳侃(ちんかん) ? - ? 明国冊封使/1534琉球(尚清王8年)に渡来;「使琉球録」著  
 K2866 沈閑(ちんかん) ? - ? 雑俳点者;1725「和国丸むこまる」入

- 鎮監(ちんかん・小沢) → 列根(つらね・小沢こざわ、藩士/俳人) E 2 9 4 3  
 椿岩(ちんがん;号) → 集九(しゅうく;法諱・万里、臨濟僧/詩) H 2 1 1 6  
 陳基(ちんき・田代たしろ) → 陳基(陳基つらもと・田代、藩士/文筆家) E 2 9 5 0  
 鎮吉(ちんきち・久保) → 季茲(すえげ・久保くぼ/源、幕医/国典) B 2 3 1 9  
 珍奇堂(ちんきどう) → 妙音(みょうおん;法諱、天台宗安樂律僧) G 4 1 2 0  
 椿丘(ちんきゅう) → 大筈(たいこう/たいきょう・青野、俳人) B 2 6 3 7  
 珍牛(ちんぎゅう;法諱) → 瑞岡(ずいこう;道号・珍牛、曹洞僧) E 2 3 5 2  
 鎮匡(ちんきょう・臼杵) → 溪村(けいそん・臼杵うすき、儒者/藩士) E 1 8 7 5  
 陳暁(ちんぎょう・池上) → 陳暁(のぶあき・池上いかがみ、藩士/勤王) H 3 5 3 0  
 珍魚父(ちんぎよふ・津田) → 貞逸(ていいつ・津田/四極田、俳人) 1 9 5 9  
 K2867 枕空(ちんくう;法諱) ? - ? 南北朝浄土宗西山派僧、  
 1353円音寺で談義「梵網経直談」著  
 陳経(ちんけい・菅原) → 陳経(のぶつね・菅原、暦博士) C 3 5 1 3  
 陳敬(ちんけい・小笠原) → 敬斎(けいさい・小笠原、儒者/尊攘論) E 1 8 7 0  
 陳敬(ちんけい・池上) → 隼之助(じゅんのすけ・池上いけがみ、藩士) L 2 1 7 3  
 枕月(ちんげつ・雲井) → 竜雄(たつお・雲井、中島、儒者) G 2 6 1 7  
 N2896 珍見(ちんけん;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧;法橋、  
 歌人;1237刊[檜葉集]入、  
 [秋深きこけのたもとぞあはれなるそむかぬよにも月はみしかと](檜葉;雑870)  
 K2868 椿軒(ちんけん・内山うちやま/初姓永田、名;淳時なほとき/あつとき) 1723-8866 幕臣か?/儒者;林家に入門、  
 歌;坂静山門/明和江戸六歌仙の1、狂歌の祖:1770「明和十五番狂歌合」判者(萩原宗固と)、  
 天明狂歌流行契機、橘州・南畝・菅江・東作の師、家集「遺珠集」、「やぶさめの記」著、  
 若葉集/万載狂歌集入、  
 [待ち弱る心ならねば初声をしのびもはてじ山ほととぎす](遺珠集/声をこらえず鳴け)、  
 [大橋のある上にまたかけたかたなくや中洲にゆくほととぎす](若葉集)、  
 [椿軒の字/通称/別号]字;文卿、通称;伝蔵/伝三、別号;賀邸/勝賞楼/芙蓉楼/合歓亭<sub>てい</sub>  
 珍頭(ちんけん・河崎) → 文淵(ぶんえん・河崎かわさき、国学者/詩文) E 3 8 8 5  
 陳軒(ちんけん) → 鷺喬(ろきょう・山本やまもと、俳人) 5 2 6 9  
 K2869 鎮源(ちんげん) ? - ? 1042存 平安後期天台宗叡山僧;横川首楞嚴院の住僧、  
 源信の靈山院釈迦講参加、1040-44?「大日本国法華経験記」編、  
 「本朝法華験記」「楞嚴院源信僧都伝」著、  
 [到りがたくして去り易きはこれ人の道なり、入り易くして出がたきは三途の故郷なり]  
 (大日本国法華経験記;巻下、三途さんずは亡者の道;地獄・畜生・餓鬼道)  
 智源と同一説あり → 智源(ちげん、「法華験記」撰) E 2 8 0 6  
 鎮元(ちんげん・後藤/安武) → 嚴丸(いげまる・安武やすたけ、藩士/儒者) F 1 1 7 3  
 珍彦(ちんげん・藤) → 珍彦(うずひこ・藤とう/藤原/鍋島、神職) E 1 2 7 9  
 陳元賛(ちんげんいん) → 元賛(げんいん・陳、漢学) B 1 8 2 7  
 鎮虎(ちんこ・しずとら・立花) → 宗茂(むねしげ・立花/高橋、藩主/家訓) B 4 2 3 9  
 珍公(ちんこう;法諱) → 本宗(ほんしゅう;道号・祖陳;初法諱、臨濟僧) F 3 9 3 9  
 枕肱舎可楽(ちんこうしゃからく) → 貞倚(さだより・内海うつみ/高橋、名主) O 2 0 0 0  
 沈虎子(ちんこし) → 百庵(ひゃくあん・寺町/越智、幕臣/茶/歌) E 3 7 4 3  
 陳古郎(ちんこう、洒落本作者) → 豹(とら・秦良はたら・池永、国学者) E 3 6 8 0  
 K2871 珍古楼主人(ちんこうしゅじん、姓;鹿島、別号;素雪) ?-? 江後期大阪北久太郎町五丁目の書肆、  
 1789「甘藷百珍」「甘藷百珍続篇」編、  
 塩屋忠兵衛と同一? → 忠兵衛(ちゅうべえ・塩屋/鹿嶋、書肆/俳) G 2 8 8 6  
 椿斎(ちんさい) → 宗左(宗佐・4世そうさ・千せん、茶人) H 2 5 3 6  
 椿斎(ちんさい・植木) → 無窮(むきゅう・植木うえき、詩人) 4 2 4 0  
 珍材(珍-ちんざい・平) → 珍材(珍-よしき・平、平安期歌人) D 4 7 0 1  
 沈三郎(ちんざぶろう/しんざぶろう・山本) → 錫夫(せきぶ・山本、医者/本草家) K 2 4 4 4  
 K2872 鎮山(ちんざん・檜林ならばやし、名;時敏) 1648-171164 長崎の阿蘭陀通詞/医者、1656稽古通詞、

1666小通詞/86大通詞、1673英船リターン号・85葡船サンパウロ号の応接通詞、  
外科医;オランダ館商館医門/檜林流外科を創設、1698オランダ人に加担し勤方不屈き;閉門、  
町医で活動、「和蘭油集解」「金瘡跌撲療治之書」1706「外科宗伝」、「檜林先生外科口授」著、  
[鎮山(;号)の通称/別号]通称;彦四郎/新右衛門/新五[吾]郎、

別号;春育/榮休/得生軒、法号;成功院

- K2873 **枕山**(ちんざん・勝木かつき) 1704- 1784 81 長崎の国学者/書家、俳人:助叟門、  
町年寄高島四郎兵衛家出仕/致仕後は市井で書法礼式等を教授、1747「此如月草」編、  
1759「商家摘要」69「謎げんじ」、「長崎雑誌」「俊寛記」「倉田水樋」、遺稿「俳諧落穂集」著、  
[枕山(;号)の通称/別号]通称;一郎太夫/市兵衛、別号;夢清舎
- K2874 **椿山**(ちんざん・椿つばき、名;弼、嘉右衛門男) 1801-54 54 幕臣;槍組同心(;父の職を継承)、絵師、  
画;金子金陵・谷文晁門/文人画:渡辺崋山門/蛮社の獄で崋山救援活動、兵学武術の奥義、  
歌/俳諧/煎茶を嗜む、「高久靄厓像」「武家百面相」「椿山粉本」画、「椿椿山山海日録」、  
「椿氏琢華堂図録」「草魁園茶会記」「臨古画筆意図」、1838「煎茶小集」51「甲斐叢記」画、  
[椿山(;号)の字/通称/別号]字;篤甫、通称;忠太、別号;琢華堂/青松軒/碧梧山房、  
法号;清相院
- K2875 **椿山**(ちんざん・金沢かなざわ、名;孝平/通称;弥五兵衛) 1813-82 70 福島 of 薬種業、「福島城相伝」
- K2876 **枕山**(ちんざん・大沼おおぬま、名;厚あつし、竹溪男) 1818-91 74 江戸下谷の生/1827(10歳)父と死別;  
尾張の叔父鷲津松陰により養育・儒:養父門、1835江戸で詩;菊池五山門、玉池吟社に参加、  
下谷吟社を開、1838「房山集」/48「詠物詩」編/53「熙々堂叢詩」、59-67「沈山詩鈔」、  
「下谷吟社詩」「王夢楼絶句」「沈山随筆」「水竹居集」「詠詩絶句」、1871「江戸名勝詞」外著多、  
[枕山(;号)の字/通称/別号]字;子寿、通称;捨吉、別号;台嶺/熙々堂/水竹居、法号;昇仙院
- K2877 **椿山**(ちんざん・佐藤さとう、別号;懸泉堂)?-? 江後期紀伊下里の医者、歌:熊代繁里門、  
「懸泉堂歌集」著、佐藤春夫(小説家)の曾祖父
- 椿山(ちんざん・加藤) → 霞石(かせき・加藤かとう、医者/儒詩人) M 1 5 6 7  
椿山(ちんざん・大坪) → 方暉(まさてる・大坪おつば、藩士/国学者) O 4 0 3 5  
鎮山人(ちんざんじん) → 鉄石(てつせき・藤本、勤王/天誅組) C 3 0 5 1  
椿山荘主(ちんざんそうしゅ) → 有朋(ありとも・山県) F 1 0 5 3
- K2878 **珍之**(ちんし・辻つじ、二兵衛)?- ? 俳人、1658元知「拾玉集」73句入
- K2879 **椿子**(ちんし) ?- ? 大阪俳人;来山系、「はるさめ」編、91賀子「蓮の実」4句入  
[鳴く虫の髭の長さもあはれなり](蓮実;342)
- 椿子(ちんし) → 柳居(りゅうきよ・佐久間、俳人/1695生) D 4 9 3 3  
珍史(ちんし/うずみ?・生田) → 珍満(うずまる・生田いくた/井上、藩士/歌) E 1 2 5 0  
陳子(ちんし/のぶこ・橋本) → 能子(のぶこ・橋本はしもと/東儀、歌人) J 3 5 6 0  
陳子(ちんし・氷室) → 陳子(のぶこ・氷室ひむろ、神職の妻/歌人) J 3 5 7 7  
陳之(ちんし・甲斐/河鍋) → 曉斎(ぎょうさい・河鍋かわなべ、絵師) N 1 6 8 5  
陳之(ちんし・菅原) → 曲溪(きょくけい・菅原、書肆/詩歌文) O 1 6 8 7  
陳之(ちんし/のぶゆき?・小津) → 長澄(ながすみ・小津おつ/筒井、国学者) L 3 2 4 0  
陳斯(ちんし・堀) → 陳斯(のぶのり・堀ほり、和算家) C 3 5 7 8  
陳次(ちんじ・有馬) → 陳次(のぶつぐ・有馬ありま、藩国老/国学) H 3 5 1 4
- K2880 **珍舎**(ちんしゃ) ?- ? 京俳人、1709「追和気絵おひけ」編、1733巴人「一夜松」入
- 椿寿(ちんじゅ・村井) → 琴山(きんざん・村井/郵井、医者/詩文) J 1 6 0 1  
琴樹(ちんじゅ・山内) → 琴樹(しげき・山内やまうち、神職/国学) Z 2 1 9 3  
椿寿庵(ちんじゅあん) → 八衛(はちえ・蝮木になぎ、里正/国学) K 3 6 5 3
- K2852 **鎮秀**(ちんしゅう) ?- ? 連歌、1493「清水本式連歌百韻」宗祇らと
- K2881 **琛州**(ちんしゅう;道号・道祐どうゆう;法諱)?-? 江前期元禄1688-1704頃黄檗僧:高泉性激門/法嗣、  
1707「大円広慧国師紀年録」著
- 珍秀(珍秀ちんしゅう・三善) → 珍秀(珍秀たかひで・三善、歌人) D 2 6 5 9  
椿寿園(ちんじゅえん) → 蓬平(ほうへい・佐竹さたけ/野口、絵師) C 3 9 4 9
- K2882 **珍遵**(ちんじゆん) ?- ? 江戸期歌人:

1780?「浄土門古歌抄」浄慶と共撰:1779序

- 陳春房(ちんしゅんぼう;号) → 榮寿(えいゆう;法諱・陳春房、真言僧) D 1 3 3 9  
沈舒(ちんじょ、俳名) → 半右衛門(はんえもん・津打、歌舞伎作者) H 3 6 2 7  
L2861 鎮女(ちんじょ、しづじょ?) ? - ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[かならずといひし誠に頼まれて待つ夜むなしき鳥の音ぞうき](大江戸倭歌;恋1430)
- K2883 珍松(ちんしょう) ? - ? 近江八幡の俳人;1777江涯「假日記」2句入  
椿杖斎(ちんじょうさい) → 重厚(じゅうこう・井上・菅原、僧/俳人) H 2 1 3 7  
椿杖斎(ちんじょうさい) → 閑斎(かんさい・大江?、僧/俳人) G 1 5 2 8  
椿杖斎(ちんじょうさい) → 礪山(れいざん・寺田てらだ、観月/俳人) 5 1 3 1  
珍書堂(ちんしやうどう) → 遊林(ゆうりん・詠嘉、俳人) E 4 6 0 6  
鎮信(ちんしん・松浦) → 鎮信(しげのぶ・松浦まつら、藩主/茶人) C 2 1 7 1  
珍辰(ちんしん・村瀬) → 彦兵衛(ひこべえ・村瀬/源、名;神道家) 3 7 7 1  
陳人(ちんじん・鴻濛) → 鴻濛陳人(こうもうちんじん、儒者) L 1 9 3 3  
陳人(ちんじん・飯台はんたい) → 馬琴(ばきん・曲亭・滝沢、読本・合巻) 3 6 0 7  
陳人(ちんじん・泉石) → 大潮(だいちやう、儒僧、詩人) B 2 6 8 8
- K2884 陳水(ちんすい、石原いしはら、名;徴/字;君亮) ?-? 江戸の儒者;西島柳谷門、1804「閉戸奇言」著  
珍成(ちんせい;字) → 雪巖(せつがん;号・実順、僧/詩人) E 2 4 1 1  
鎮誠(ちんせい・しずあき・千原) → 夕田(せきでん・千原ちはら、商家/詩/画/書家) D 2 4 7 6  
鎮西山人(ちんせいさんじん) → 忠直(ただなお・横井よこい、漢学/史学) 2 7 2 7  
鎮西上人(ちんせいしようにん) → 弁長(べんちやう;法諱、浄土僧;鎮西流祖) B 2 7 3 6  
鎮西八郎(ちんせいはちろう) → 為朝(たむとも・源、武将/弓術) S 2 6 5 8  
珍碩(珍夕/珍碩・ちんせき) → 洒堂(しゃどう・高宮/浜田、医者/俳人) G 2 1 5 0
- N2887 珍暹(ちんせん;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧・法師、  
1237刊素俊撰[檜葉集]4首入、  
[春の夜のふかきあはれをたれかしの軒端の梅にかをる月影](檜葉;781/月前梅花)  
陳善院(ちんぜんいん) → 僧樸(そうぼく;法諱・抱質、真宗僧) I 2 5 9 2  
陳錢塘(ちんせんとう) → 錢塘(せんとう・陳、漢学) N 2 4 0 0
- K2885 鎮増(ちんぞう;法諱) 1375 - ? 1455存 室町期京の清元応寺住持、のち播州書写山定願寺住、  
「閑亭注」「円頓戒要義」、1448「慈伝和尚伝」52「円頓戒体色心事秘伝抄」55「錫杖聞書抄」著  
陳蔵(ちんぞう・鈴木) → 文台(ぶんたい・鈴木すずき、漢学者/教育) G 3 8 1 2  
椿孫(ちんそん・平塚/平) → 飄斎(ひょうさい・平塚/平、幕臣/俳人) F 3 7 2 4
- K2886 椿胎(ちんたい) 江後期俳人;1832「葛里かつり句集」蟹守かにもりと共編
- K2887 椿岱(ちんたい・宮田みやた、完明男) 1807-9488歳 上州沼田在秋塚の名主/領主菅沼家の用人、  
俳諧;父完明門・逸淵門/漢学・禪;川場村吉祥寺関寧門、用人時代は江戸住、  
帰郷後は子弟教育/門前に[諸国風流人宿泊所]の看板;文人を接待、1850「枯萩集」著、  
[椿岱(;号)の通称/別号]通称;儀左衛門/儀左、別号;赫々亭かくかくてい、
- K2888 鎮大安(ちんたいあん;法名) ? - ? 江中期天台宗靈空派僧;1751-64頃江戸谷中に住、  
1760「伝教大師建立大戒正統記」著  
椿台老人(ちんだいろうじん) → 成庵(せいあん・西坂にしざか、藩儒/詩文) 2 4 5 6
- K2889 珍重(ちんちやう・羽川はねがわ/太田/大田、名;三同、真中直知男) 1679-175476 武州埼玉郡川口村絵師、  
江戸で初世鳥居清信門、下総葛飾郡川津間の藤浪家を往来、役者評判記・赤本挿絵を描く、  
1717「富士権現筑波の由来」21「三国志」画、23「はいかい一字たいじぐち」、「御行列」画、  
「是は御ぞんじのばけ物にて御座候」画/「新なぞづくし」画/「化け物合戦」画、  
[羽川珍重(:号)の通称/別号]通称;弁五郎、別号;冲信/元信/絵情斎[堂]/鶴鱗堂  
珍重(ちんちやう・流俗亭、俳名) → 夢羅久(むらく・初世朝寝坊、落語) D 4 2 1 2  
鎮張(ちんちやう・白杵) → 横波(おうは・白杵うすき、儒者) C 1 4 1 6  
珍重庵(ちんちやうあん) → 雪斎(せつさい・大塚、俳人) E 2 4 3 4  
珍重庵(2世ちんちやうあん) → 雪斎(2世せつさい・大塚、初世男/俳人) N 2 4 5 3  
珍蝶亭夢楽(ちんちやうていむらく) → 夢羅久(むらく・初世朝寝坊、落語) D 4 2 1 2

- 珍著堂(ちんちやう) → 遊林(ゆうりん・詠嘉、俳人) E 4 6 0 6  
 砧々園一翁(ちんちんえんいちおう)→家義(いえよし・慶徳けいとく/秦、歌人) K 1 1 2 4
- K2890 珍々釜鳴(ちんちんのかまなり、葉山文左衛門)?-? 小石川諏訪町小十人組/狂歌・小石川連、才蔵集2首;  
 [のろのろと牛天神にきてみればはなを通して匂ふ梅が香]
- K2891 椿亭(ちんてい・鈴木ずき/修姓;鈴・鱸、名;文・忠恕)1765-182965 幕臣;徒目付/儒者:太田南畝門、  
 江戸牛込加賀屋敷内住、1811朝鮮通信使来聘時に古賀精里と対馬に赴任、狂歌;四方連、  
 1811「対馬国記」編、「椿亭叢書」、「笠淵奇聞」編/「閑中一適」「日記摘要」「挙知録」著、  
 「歴史摘錦」著、1785「狂歌後万載」3首/87「才蔵集」5首入、  
 [夏衣うす井峠にきてみればさむさながらも身は軽井沢](徳和歌後万載集;五401)、  
 [椿亭(;号)の字/通称/別号]字;猶人、通称;伝右衛門/文左衛門/分左衛門、  
 別号;幽谷/二歩只取にぶのたどり(;狂歌号)
- K2892 椿庭(ちんてい・山田やまだ、名;業広/恵迪、由之男)1808-8174 上州高崎の医者:多紀元堅・伊沢蘭軒門、  
 儒;朝川善庵門、痘科秘訣;池田京水門、1837江戸春木町で開業医、57医学館講師、  
 1862御目見得医師/1868高崎に帰郷;藩主の一等侍医/政務参謀兼任、のち江戸で開業、  
 詩人、「椿庭文稿」「椿庭随筆」「椿庭雑攷」「医苑」「医学径要」「医学守珠」「購典録」外著多数、  
 [椿庭(;号)の字/通称]字;子勤、通称;昌栄
- 椿庭(ちんてい;道号) → 海寿(かいじゆ;法諱・椿庭、臨濟僧) B 1 5 0 4  
 椿亭(ちんてい) → 定雅(ていが・西村、俳、狂歌、洒落本) 3 0 4 1
- 02156 鎮定(しずさだ・佐藤さとう、)1704-178279 陸奥仙台の国学者
- 鎮定(ちんてい・佐藤) → 鎮定(しずさだ・佐藤さとう、国学者) O 2 1 5 6  
 椿底舎(ちんていしゃ) → 野紅(やこう・長野、庄屋/俳人) 4 5 5 6  
 沈斗(ちんと・水上) → 雄風(おかせ・水上みなみ、修験/国学/歌) E 1 4 1 5
- K2893 椿唐(ちんとう;号) ? - ? 江中期名古屋の絵本作者、1844「絵本吉野草」
- K2894 椿堂(ちんどう・徳田とくだ、名;時生)1758-182568 代々伊勢古市の両替商、俳人;士朗門、  
 1794-97士朗発句集「枇杷園句集」共編(卓池らと)、「蝦上臈」「宝登々木数ほととぎす」編、  
 1819「笏拍子」20「続新百員」22「穂たはら」編/25「椿堂句集」、「瀑禅定」著、  
 [椿堂(;号)の字/通称/別号]字;士行/子行、通称;銭屋長兵衛、別号;東竹庵/長峰隠士
- 椿堂(ちんどう・北川) → 善淵(よしふか・北川きたがわ、藩士/歌人) G 4 7 7 9  
 椿堂(ちんどう・春木) → 煥光(あきみつ・春木はるき、神職/本草家) D 1 0 9 8
- K2895 椿年(ちんねん・大西おおにし)1792-185160 江戸浅草御蔵の役人/絵師;渡辺南岳門、  
 谷文晁画風を追慕、円山四条派、狂歌、1829「あづまの手ぶり」「椿年画譜」/34「楚南画譜」、  
 1834「続々吉原詩」35「吾妻げんじ絵合」49「大西椿年画帖」、「茶番頓智論」「狂歌三才拾遺」、  
 [椿年(;名)の字/通称/号]字;大壽、通称;行之助、号;楚南/運霞堂/霞翁、法号;楚南堂
- 椿年(ちんねん・上田) → 公鼎(こうてい・上田うえだ、眼科医/国学) K 1 9 7 1  
 陳波(ちんは・劉) → 琴溪(きんけい・劉、儒者/詩) D 1 6 9 4  
 陳奮翰(ちんぶんかん、狂文)→ 南畝(なんぼ・大田、狂歌) 3 2 3 3  
 陳奮翰(ちんぶんかん・東奥)→ 台洲(たいしゅう・熊坂くまさか、儒者/教育) 2 6 0 5  
 珍文館(ちんぶんかん) → 玉晁(ぎよくちやう・小寺こでら、随筆家) H 1 6 3 1
- K2896 陳芬館読兼(ちんぶんかんよみかね、姓;千葉)?-? 江戸四谷大番町狂歌作者;宿屋飯盛[雅望]五側社中、  
 絵師;狂歌集の挿絵を描く、画;1800「狂歌毎月集」/25「狂歌七変化」27「狂歌波津加蛭子」著、  
 [陳芬館読兼(;号)の別号] 一向舎/陳芬館/読兼
- K2897 珍平(ちんぺい・豊岡とよおか;号)?- ? 江中期上方浄瑠璃・歌舞伎作者;  
 為長太郎兵衛の下で合作;大坂豊竹座で活動、  
 1742「鎌倉大系図」44「遊君衣紋鑑」46「富館鸚鵡辞」61「曾我根元記」外著多数
- 珍平(ちんぺい・安井) → 政章(まさあき・安井、藩士/槍術) B 4 0 0 4  
 鎮平(ちんぺい・小出) → 粲(つばら・小出/松田、藩士/歌人) E 2 9 3 1  
 鎮平(ちんぺい・宮下) → 正岑(まさみね・宮下/源/宮/堀越、名主/歌人) H 4 0 7 4  
 鎮平(ちんぺい・鈴木) → 広重(ひろしげ・歌川うたがわ/安藤、絵師) G 3 7 0 4  
 鎮平(ちんぺい・井上) → 智信(とものお・井上いのうえ、国学/書) T 3 1 0 7  
 枕木(ちんぼく・川喜田) → 政豊(まさとよ・川喜田かわきた、商家/国学) P 4 0 0 0

- 椿木庵(ちんぼくあん) → 三千風(みちかぜ・大淀、俳人) 4 1 0 3  
 椿木亭(ちんぼくてい) → 助叟(じょそう・片山、三千風門俳人) C 2 2 7 6  
 千万里(ちんまり・小造) → 小造千万里(こづくりのちんまり、狂歌) F 1 9 7 9  
 珍満(ちんまん・生田) → 珍満(うずまる・生田いた/井上、藩士/歌) E 1 2 5 0  
 珍満(ちんまん・依岡) → 珍満(うずまる・依岡よりおか/安岡、勤王党) E 1 2 9 6  
 K2898 珍祐(ちんゆう;法諱) ? - ?1462存 室町期社僧;1430珍誉法印より受法灌頂、  
 1430鶴岡八幡15代供僧/法印・大僧都、59-62「香蔵院珍祐記録」著  
 K2899 鎮宥(ちんゆう;法諱) ? - ? 戦国期上州の天台宗昌楽寺住僧、  
 1536「六即義案立私元品能治」著  
 L2800 鎮祐(ちんゆう;法諱) ? - ? 江中期天台宗叡山正観院僧;大僧正、  
 1777「雑探題雑記」著  
 鎮雄(ちんゆう・野津) → 鎮雄(しづお・野津のぶ、藩士/軍人) Z 2 1 6 5  
 L2801 珍誉(ちんよ;法諱、桓武平氏、興福寺珍耀男or祖父珍賀の男) ?-? 鎌倉幕臣/興福寺法相僧/法印、  
 1222-46吾妻鏡に頻出、歌;家集「法印珍誉集」、「東撰和歌六帖」入、珍耀の弟  
 沈舒(ちんしゅ;俳名) → 半右衛門(はんえもん・津打つうつ、歌舞伎役/作者) H 3 6 2 7  
 L2802 枕楽(ちんらく;号・久保田) ? - ? 江中期享保1715-36頃浪花の雑俳宗匠;才麿の門流、  
 1718波天「万石船」入/-25「奉納生玉宮壺万句集」評/1716-36「富士の高根」入、「二千句集」著  
 沈竜(ちんりゅう・大野) → 景山(けいざん・大野、俳人) 1 8 5 8  
 枕流庵(ちんりゅうあん) → 和月(わげつ・牧野まきの、藩士/俳人) 5 3 1 9  
 沈流亭(ちんりゅうてい) → 時寛(ときひろ・河地かわち、国学者) U 3 1 8 6  
 沈流亭(ちんりゅうてい) → 恵典(よしのり・須藤すどう/松村、商家/国学) N 4 7 3 8  
 陳良(ちんりょう・菅野) → 楮園(ちよえん・菅野かんの、藩士/書家) K 2 8 1 6  
 陳亮(ちんりょう・武藤) → 陳亮(のぶすけ・武藤、国学/歌人) B 3 5 7 0  
 枕流舎(ちんりょうしゃ) → 履信(りしん・酒井さかい、名主) B 4 9 2 7  
 L2803 椿齡(ちんれい・小日方こひかた、別号;四景庵) ?-? 江後期信州小川村の俳人;松林静一門?、  
 1851刊「伊奈五百題」編  
 陳令(ちんれい・野上) → 陳令(のぶはる・野上、藩士/儒者) C 3 5 8 5  
 鎮蓮社(ちんれんしゃ;感誉/願故) → 存貞(ぞんてい;法諱、浄土僧/伝法改革) F 2 5 6 6  
 椿老(ちんろう/椿老人) → 逸淵(いつえん・児玉/久米、俳人) B 1 1 3 4  
 陳老(ちんろう・小川) → 清臣(きよおみ・小川おがわ、真澄男/歌人) T 1 6 6 9  
 陳楼主人(ちんろうしゅじん) → 沢瀉((たくしゃ・東ひがし、藩士/儒/尊王) E 2 6 2 2  
 沈浪仙(ちんろうせん) → 浪仙(ろうせん・沈、詩人) 5 2 3 6  
 珍話(ちんわ・三井) → 親和(しんな・三井みつひ、書家/篆刻) P 2 2 5 0